

第9期名護市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
結果報告書

令和5年3月

名護市

目次

1. 調査の概要.....	1
2. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果.....	2
○基本属性.....	2
○調査票の記入者.....	4
問1 家族の生活状況.....	6
問2 からだを動かすことについて.....	20
問3 食べることについて.....	38
問4 毎日の生活について.....	58
問5 地域での活動について.....	92
問6 たすけあいについて.....	104
問7 健康について.....	116
問8 認知症にかかる相談窓口の把握について.....	135
問9 認知症に関する取り組みについて.....	139
問10 介護が必要になったときの住まいについて.....	140
3. 各種リスクの状況.....	146
4. 日常生活圏域別の各種リスクの状況.....	154
名護市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査【調査票】.....	159

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

・要介護状態になる前の高齢者のリスクや社会参加状況を把握することで、地域の抱える課題や高齢者の実態を浮き彫りにし、第8期介護保険事業計画等における取り組みを検討し、計画の策定に活用するため本調査を実施しました。

(2) 調査の対象者、調査方法など

・調査対象：本市に居住する 65 歳以上の高齢者で、要介護認定を受けていない高齢者（一般高齢者、介護予防・日常生活支援総合事業対象者、要支援認定者）

2,500 名を無作為に抽出

・調査方法：郵送による調査票の配布・回収

・調査期間：令和2年1月～2月

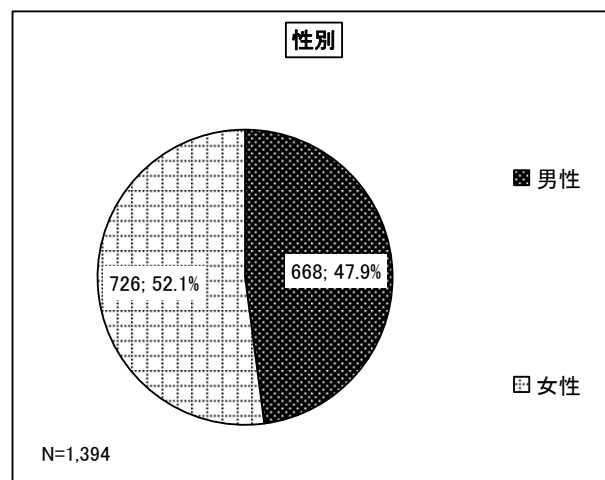
(3) 回収結果

・対象者：2,500 件、有効回収数：1,394 件（有効回収率：55.8%）

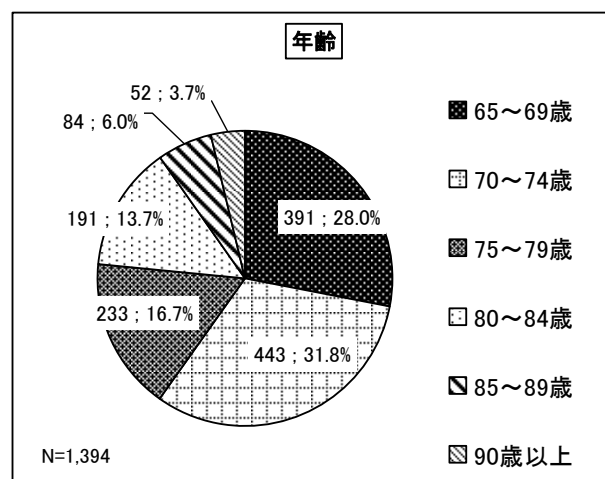
2. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果

○基本属性

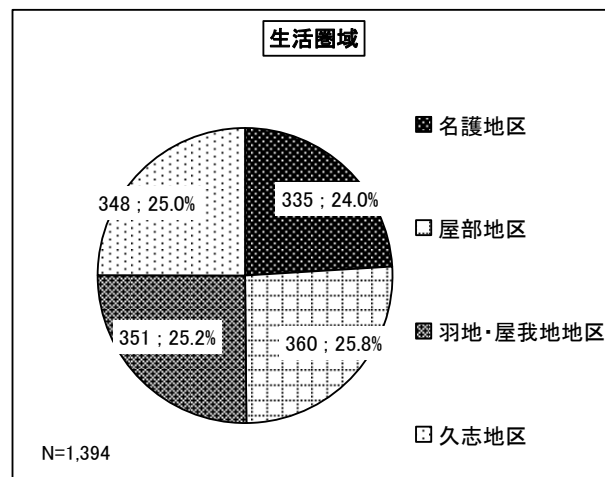
回答のあった調査対象者の基本属性について、性別でみると、女性が 52.1%、男性が 47.9%と若干女性の割合が高いものの、大きな差はみられません。



年齢階級別でみると、70～74 歳が 31.8%と最も高く、次いで 65～69 歳が 28.0%、75～79 歳が 16.7%、80～84 歳が 13.7%、85～89 歳が 6.0%、90 歳以上が 3.7%となっています。



生活圏域別でみると、名護地区が 24.0%、屋部地区が 25.8%、羽地・屋我地地区が 25.2%、久志地区が 25.0%となっています。



高齢者の状態別にみると、一般高齢者が 94.0%、要支援認定者が 5.6%、総合事業対象者が 0.4%となっています。

高齢者の状態

	件数	構成比
一般高齢者	1,311	94.0%
要支援認定者	78	5.6%
総合事業対象者	5	0.4%
	1,394	100.0%

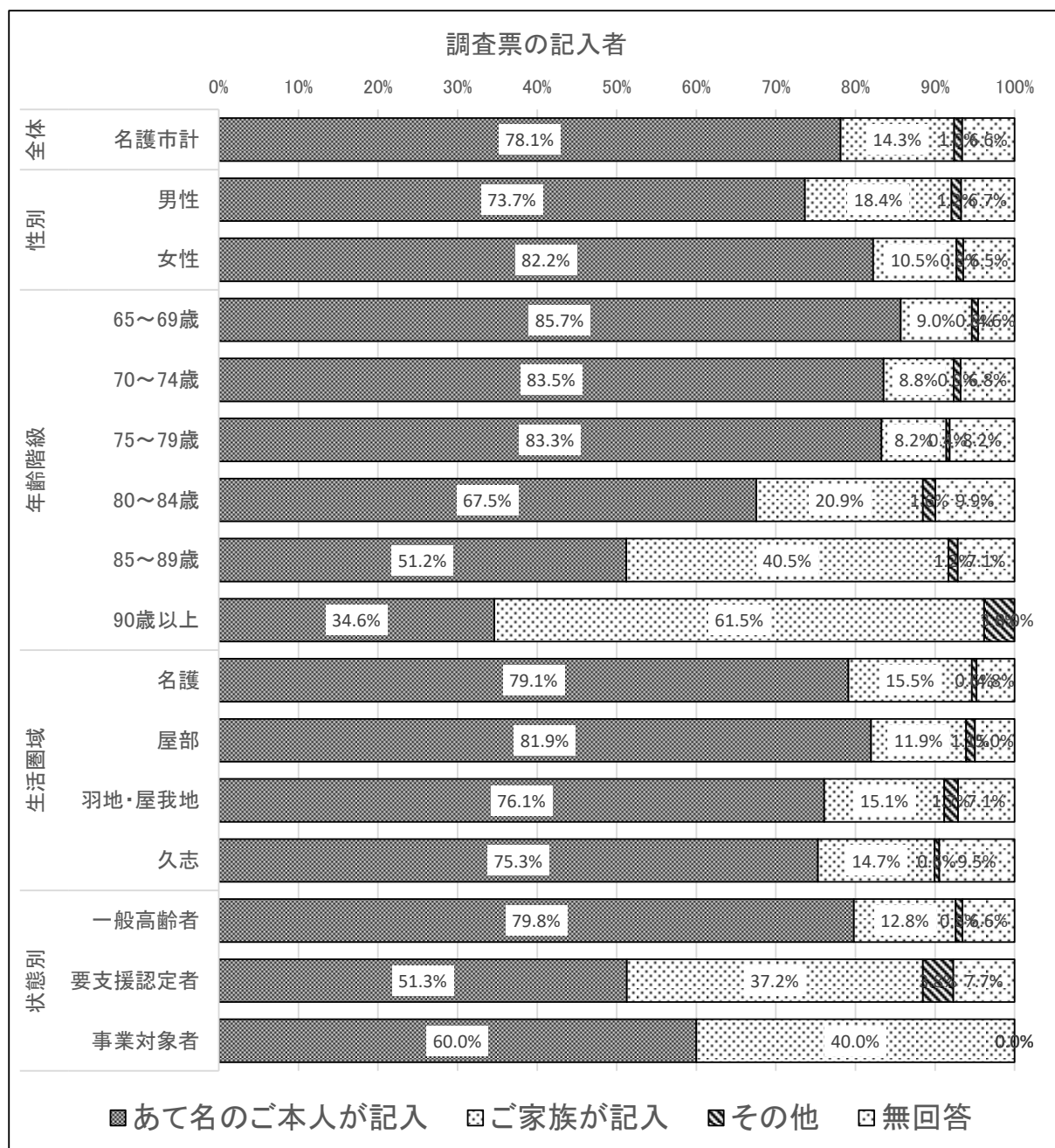
○調査票の記入者

調査票の記入者は、「あて名のご本人が記入」が最も高く 78.1%、次いで「ご家族が記入」で 14.3%、「その他」で 1.0%となっています。

年齢間級別でみると、年齢が上がるにつれ、「あて名のご本人が記入」という割合は低下する傾向にあります。

高齢者の状態別にみると、「あて名のご本人が記入」という割合は、一般高齢者（79.8%）よりも要支援認定者（51.3%）が低くなっています。

		あて名のご 本人が記入	ご家族が記 入	その他	無回答	回答数合計	
全体(N=1,394)		回答数	1,089	199	14	92	1,394
		%	78.1%	14.3%	1.0%	6.6%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	492	123	8	45	668
		%	73.7%	18.4%	1.2%	6.7%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	597	76	6	47	726
		%	82.2%	10.5%	0.8%	6.5%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	335	35	3	18	391
		%	85.7%	9.0%	0.8%	4.6%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	370	39	4	30	443
		%	83.5%	8.8%	0.9%	6.8%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	194	19	1	19	233
		%	83.3%	8.2%	0.4%	8.2%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	129	40	3	19	191
		%	67.5%	20.9%	1.6%	9.9%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	43	34	1	6	84
		%	51.2%	40.5%	1.2%	7.1%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	18	32	2	0	52
		%	34.6%	61.5%	3.8%	0.0%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	265	52	2	16	335
		%	79.1%	15.5%	0.6%	4.8%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	295	43	4	18	360
		%	81.9%	11.9%	1.1%	5.0%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	267	53	6	25	351
		%	76.1%	15.1%	1.7%	7.1%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	262	51	2	33	348
		%	75.3%	14.7%	0.6%	9.5%	100.0%
高齢者 状態	一般高齢者(N=1,311)	回答数	1,046	168	11	86	1,311
		%	79.8%	12.8%	0.8%	6.6%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	40	29	3	6	78
		%	51.3%	37.2%	3.8%	7.7%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	3	2	0	0	5
		%	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	100.0%



問1 家族の生活状況

(1) 家族構成

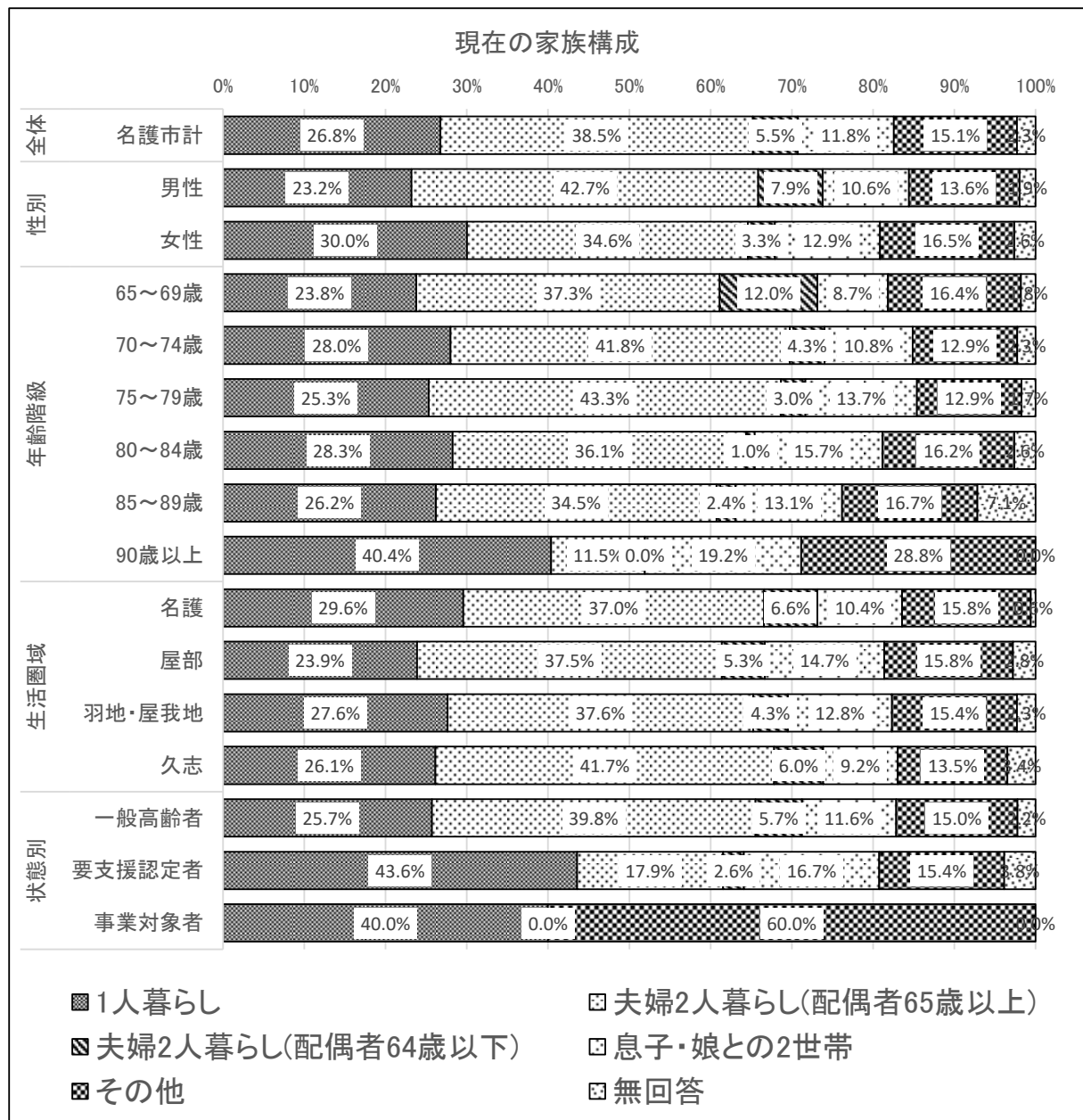
家族構成について、『夫婦2人暮らし』（「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」＋「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」）が44.0%を占め、次いで「1人暮らし」が26.8%、「息子・娘との2世帯」が11.8%となっています。

性別でみると、『夫婦2人暮らし』の割合は、男性（50.6%）は女性（37.9%）に比べて12.7ポイント高くなっています。「1人暮らし」は、女性（30.0%）は男性（23.2%）より6.8ポイント高くなっています。

年齢階級別でみると、「1人暮らし」の割合が70歳以上で25%を超えています。

家族構成で最も高い割合を状態別でみると、一般高齢者では『夫婦2人暮らし』、要支援認定者では「1人暮らし」となっています。

		1人暮らし	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	息子・娘との2世帯	その他	無回答
全体(N=1,394)	回答数	373	536	77	165	211	32
	%	26.8%	38.5%	5.5%	11.8%	15.1%	2.3%
性別	男性(N=668)	回答数	155	285	53	71	13
		%	23.2%	42.7%	7.9%	10.6%	1.9%
	女性(N=726)	回答数	218	251	24	94	19
		%	30.0%	34.6%	3.3%	12.9%	2.6%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	93	146	47	34	64
		%	23.8%	37.3%	12.0%	8.7%	16.4%
	70～74歳(N=443)	回答数	124	185	19	48	57
		%	28.0%	41.8%	4.3%	10.8%	12.9%
	75～79歳(N=233)	回答数	59	101	7	32	30
		%	25.3%	43.3%	3.0%	13.7%	12.9%
	80～84歳(N=191)	回答数	54	69	2	30	31
		%	28.3%	36.1%	1.0%	15.7%	16.2%
	85～89歳(N=84)	回答数	22	29	2	11	14
		%	26.2%	34.5%	2.4%	13.1%	16.7%
	90歳以上(N=52)	回答数	21	6	0	10	15
		%	40.4%	11.5%	0.0%	19.2%	28.8%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	99	124	22	35	53
		%	29.6%	37.0%	6.6%	10.4%	15.8%
	屋部地区(N=360)	回答数	86	135	19	53	57
		%	23.9%	37.5%	5.3%	14.7%	15.8%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	97	132	15	45	54
		%	27.6%	37.6%	4.3%	12.8%	15.4%
	久志地区(N=348)	回答数	91	145	21	32	47
		%	26.1%	41.7%	6.0%	9.2%	13.5%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	337	522	75	152	196
		%	25.7%	39.8%	5.7%	11.6%	15.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	34	14	2	13	12
		%	43.6%	17.9%	2.6%	16.7%	15.4%
	事業対象者(N=5)	回答数	2	0	0	0	3
		%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%



(2) 普段の生活での介護・介助の必要性

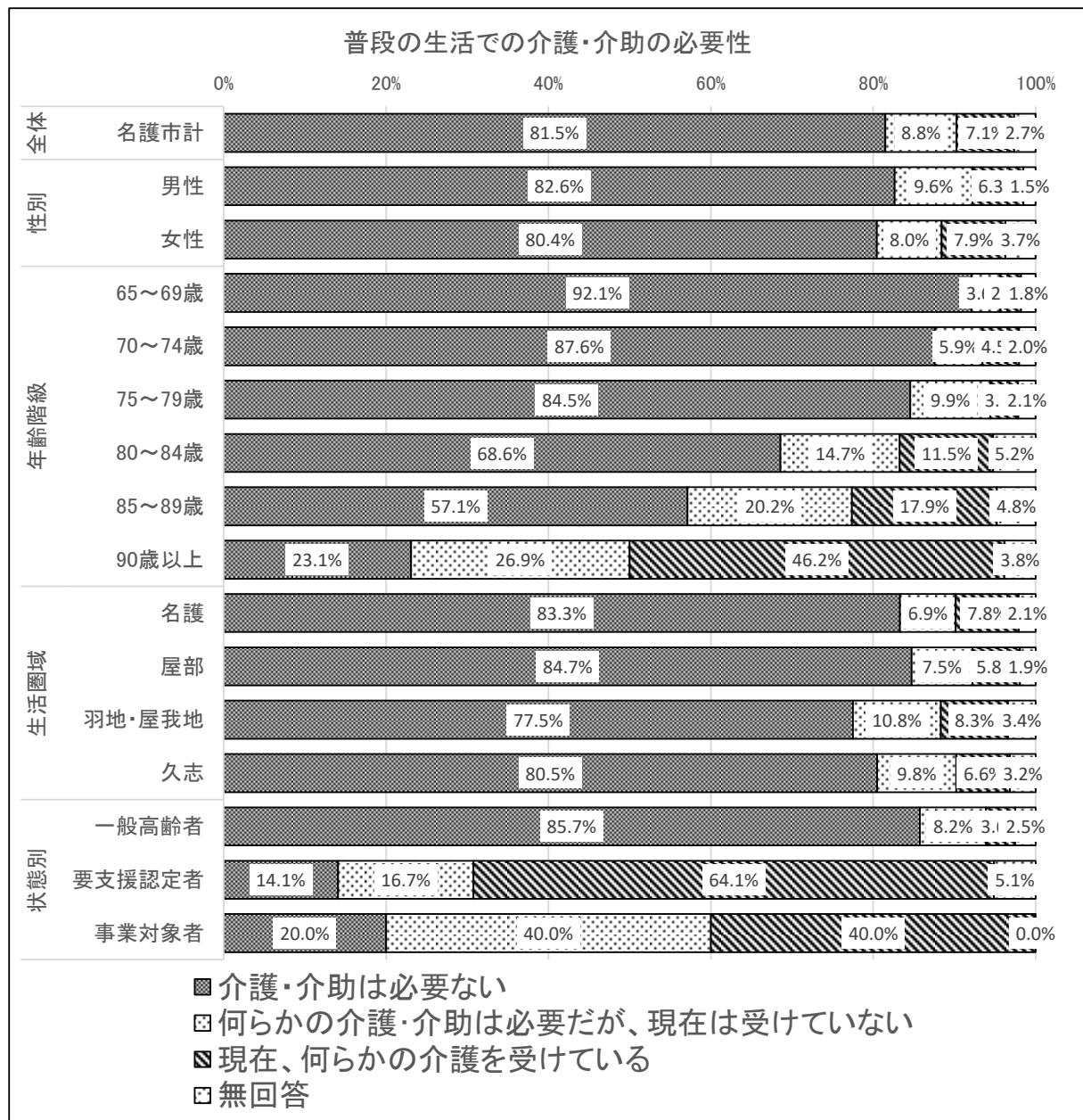
家族構成について、「介護・介助は必要ない」が最も高く 81.5%、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 8.8%、「現在、何らかの介護を受けている」が 7.1% となっています。

性別で「介護・介助は必要ない」という割合をみると、男性 (82.6%) は女性 (80.4%) に比べて 2.2 ポイント高くなるものの「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は、男性 (9.6%) が女性 (8.0%) より 1.6 ポイント高くなっています。

「介護・介助は必要ない」という割合、年齢が上がるにつれ低下しています。

「介護・介助は必要ない」という割合を生活圏域別でみると、屋部地区が 84.7% で最も高く、逆に羽地・屋我地地区が 77.5% で最も低くなっており地域間での差がみられます。

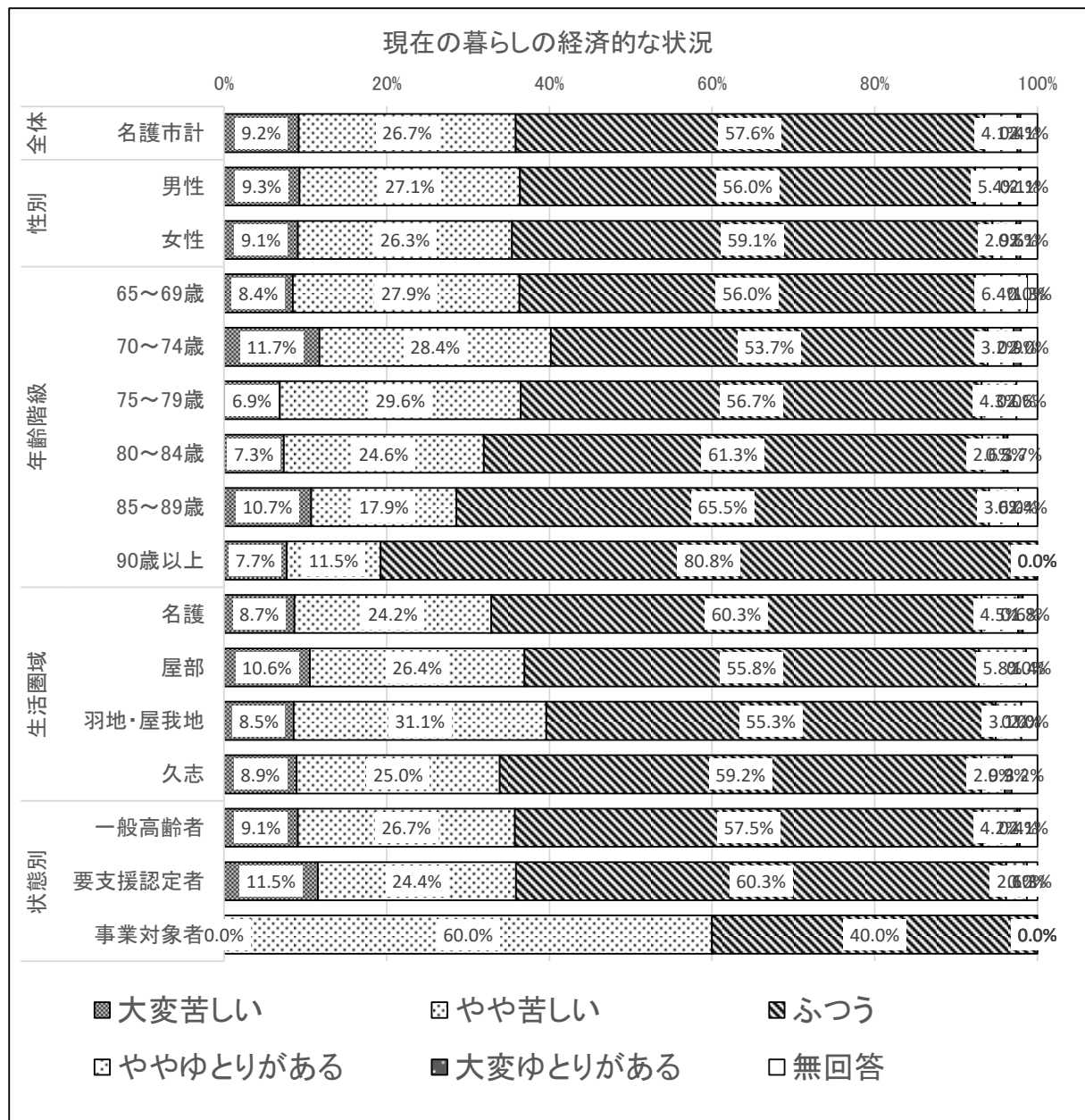
		介護・介助 は必要ない	何らかの介護・介助は 必要だが、 現在は受けていない	現在、何らかの介護を 受けている	無回答
全体(N=1,394)	回答数	1,136	122	99	37
	%	81.5%	8.8%	7.1%	2.7%
性別	男性(N=668)	回答数	552	64	42
		%	82.6%	9.6%	6.3%
	女性(N=726)	回答数	584	58	57
		%	80.4%	8.0%	7.9%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	360	14	10
		%	92.1%	3.6%	2.6%
	70～74歳(N=443)	回答数	388	26	20
		%	87.6%	5.9%	4.5%
	75～79歳(N=233)	回答数	197	23	8
		%	84.5%	9.9%	3.4%
	80～84歳(N=191)	回答数	131	28	22
		%	68.6%	14.7%	11.5%
	85～89歳(N=84)	回答数	48	17	15
		%	57.1%	20.2%	17.9%
	90歳以上(N=52)	回答数	12	14	24
		%	23.1%	26.9%	46.2%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	279	23	26
		%	83.3%	6.9%	7.8%
	屋部地区(N=360)	回答数	305	27	21
		%	84.7%	7.5%	5.8%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	272	38	29
		%	77.5%	10.8%	8.3%
	久志地区(N=348)	回答数	280	34	23
		%	80.5%	9.8%	6.6%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	1,124	107	47
		%	85.7%	8.2%	3.6%
	要支援認定者(N=78)	回答数	11	13	50
		%	14.1%	16.7%	64.1%
	事業対象者(N=5)	回答数	1	2	2
		%	20.0%	40.0%	40.0%



(3) 現在の暮らし

現在の暮らしの状況を経済的にどう感じているかについて、「ふつう」が 57.6%で最も高く、次いで「やや苦しい」が 26.7%、「大変苦しい」が 9.2%となっています。『苦しい』（「大変苦しい」＋「やや苦しい」）が 35.9%、『ゆとりがある』（「ややゆとりがある」＋「大変ゆとりがある」）4.4%となっており、経済的に苦しい状況の方が多いことが伺えます。

		大変苦しい	やや苦しい	ふつう	ややゆとり がある	大変ゆとり がある	無回答	回答数合計
全体(N=1,394)	回答数	128	372	803	57	5	29	1,394
	%	9.2%	26.7%	57.6%	4.1%	0.4%	2.1%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	62	181	374	36	1	668
		%	9.3%	27.1%	56.0%	5.4%	0.1%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	66	191	429	21	4	726
		%	9.1%	26.3%	59.1%	2.9%	0.6%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	33	109	219	25	0	391
		%	8.4%	27.9%	56.0%	6.4%	0.0%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	52	126	238	14	4	443
		%	11.7%	28.4%	53.7%	3.2%	0.9%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	16	69	132	10	0	233
		%	6.9%	29.6%	56.7%	4.3%	0.0%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	14	47	117	5	1	191
		%	7.3%	24.6%	61.3%	2.6%	0.5%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	9	15	55	3	0	84
		%	10.7%	17.9%	65.5%	3.6%	0.0%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	4	6	42	0	0	52
		%	7.7%	11.5%	80.8%	0.0%	0.0%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	29	81	202	15	2	335
		%	8.7%	24.2%	60.3%	4.5%	0.6%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	38	95	201	21	0	360
		%	10.6%	26.4%	55.8%	5.8%	0.0%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	30	109	194	11	0	351
		%	8.5%	31.1%	55.3%	3.1%	0.0%	100.0%
状態別	久志地区(N=348)	回答数	31	87	206	10	3	348
		%	8.9%	25.0%	59.2%	2.9%	0.9%	100.0%
	一般高齢者(N=1,311)	回答数	119	350	754	55	5	1,311
		%	9.1%	26.7%	57.5%	4.2%	0.4%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	9	19	47	2	0	78
		%	11.5%	24.4%	60.3%	2.6%	0.0%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	0	3	2	0	0	5
		%	0.0%	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	100.0%

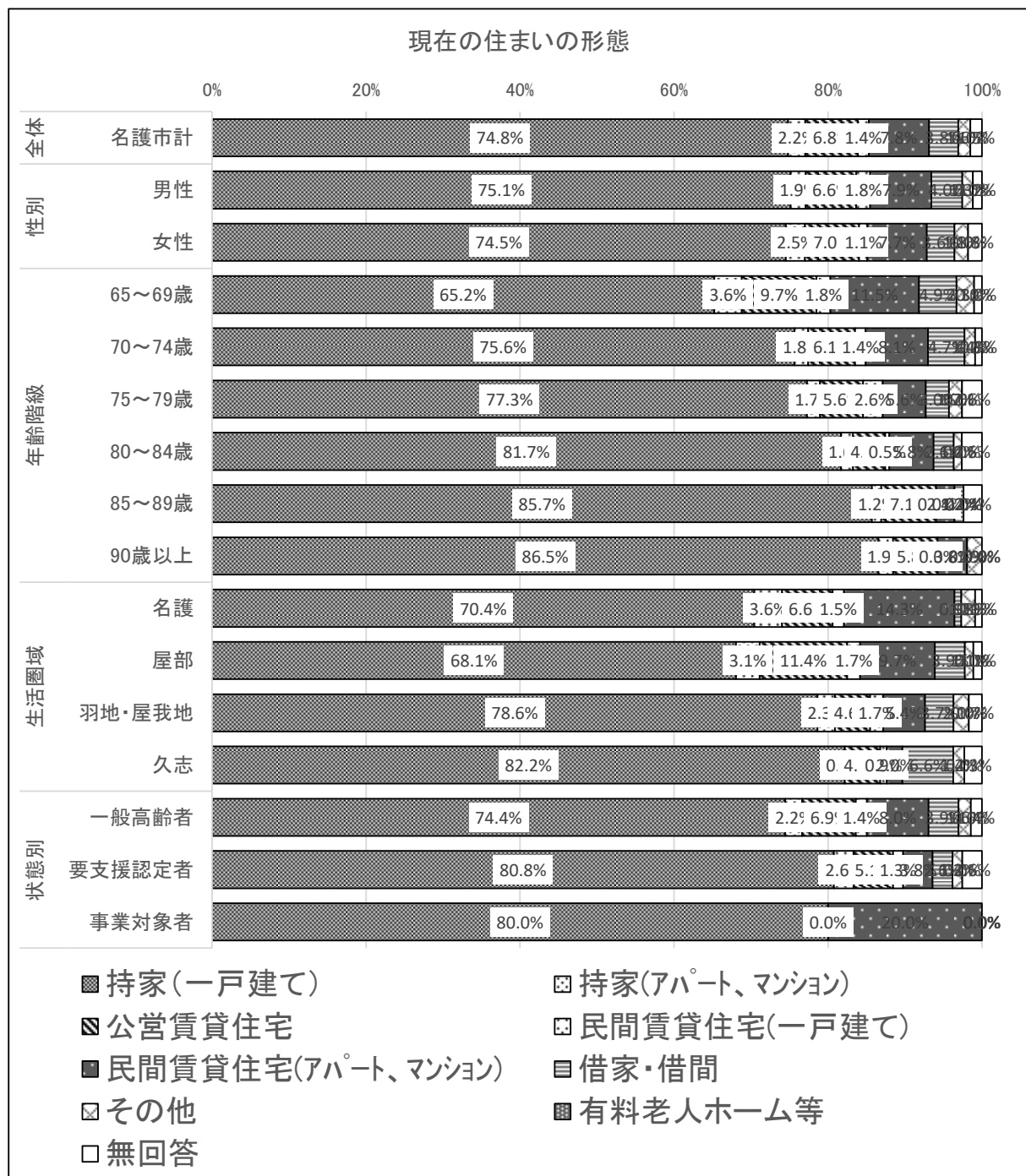


(4) 住まいの形態

住まいの形態については、「持家（一戸建て）」が74.8%で最も高く、次いで「民間賃貸住宅（アパート、マンション）」が7.8%、「公営賃貸住宅（市営住宅・県営住宅）」が6.8%、「借家・借間（親族等から借りるなど貸借契約のないもの）」が3.8%、「持家（アパート、マンション）」が2.2%となっています。『持家』（「持家（一戸建て）」+「持家（アパート、マンション）」）は77.0%となっています。

生活圏域別でみると、「持家（一戸建て）」の割合では「羽地・屋我地地区」（78.6%）と「久志地区」（82.2%）が高く、「民間賃貸住宅（アパート、マンション）」では「名護地区」（14.3%）と「屋部地区」（9.7%）で高くなっています。

		持家（一戸建て）	持家（アパート、マンション）	公営賃貸住宅（市営住宅・県営住宅）	民間賃貸住宅（一戸建て）	民間賃貸住宅（アパート、マンション）	借家・借間（親族等から借りるなど貸借契約のないもの）	その他	有料老人ホーム・サービス付高齢者向け住宅	無回答	回答数合計
全体(N=1,394)	回答数	1,043	31	95	20	109	53	22	0	21	1,394
	%	74.8%	2.2%	6.8%	1.4%	7.8%	3.8%	1.6%	0.0%	1.5%	100.0%
性別	男性(N=668)	502	13	44	12	53	27	9	0	8	668
	%	75.1%	1.9%	6.6%	1.8%	7.9%	4.0%	1.3%	0.0%	1.2%	100.0%
	女性(N=726)	541	18	51	8	56	26	13	0	13	726
	%	74.5%	2.5%	7.0%	1.1%	7.7%	3.6%	1.8%	0.0%	1.8%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	255	14	38	7	45	19	9	0	4	391
	%	65.2%	3.6%	9.7%	1.8%	11.5%	4.9%	2.3%	0.0%	1.0%	100.0%
	70～74歳(N=443)	335	8	27	6	36	21	6	0	4	443
	%	75.6%	1.8%	6.1%	1.4%	8.1%	4.7%	1.4%	0.0%	0.9%	100.0%
	75～79歳(N=233)	180	4	13	6	13	7	4	0	6	233
	%	77.3%	1.7%	5.6%	2.6%	5.6%	3.0%	1.7%	0.0%	2.6%	100.0%
	80～84歳(N=191)	156	3	8	1	11	5	2	0	5	191
	%	81.7%	1.6%	4.2%	0.5%	5.8%	2.6%	1.0%	0.0%	2.6%	100.0%
	85～89歳(N=84)	72	1	6	0	2	1	0	0	2	84
	%	85.7%	1.2%	7.1%	0.0%	2.4%	1.2%	0.0%	0.0%	2.4%	100.0%
生活圏域	90歳以上(N=52)	45	1	3	0	2	0	1	0	0	52
	%	86.5%	1.9%	5.8%	0.0%	3.8%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	名護地区(N=335)	236	12	22	5	48	3	6	0	3	335
	%	70.4%	3.6%	6.6%	1.5%	14.3%	0.9%	1.8%	0.0%	0.9%	100.0%
	屋部地区(N=360)	245	11	41	6	35	14	4	0	4	360
	%	68.1%	3.1%	11.4%	1.7%	9.7%	3.9%	1.1%	0.0%	1.1%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	276	8	16	6	19	13	7	0	6	351
	%	78.6%	2.3%	4.6%	1.7%	5.4%	3.7%	2.0%	0.0%	1.7%	100.0%
	久志地区(N=348)	286	0	16	3	7	23	5	0	8	348
	%	82.2%	0.0%	4.6%	0.9%	2.0%	6.6%	1.4%	0.0%	2.3%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	976	29	91	19	105	51	21	0	19	1,311
	%	74.4%	2.2%	6.9%	1.4%	8.0%	3.9%	1.6%	0.0%	1.4%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	63	2	4	1	3	2	1	0	2	78
	%	80.8%	2.6%	5.1%	1.3%	3.8%	2.6%	1.3%	0.0%	2.6%	100.0%
	事業対象者(N=5)	4	0	0	0	1	0	0	0	0	5
	%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

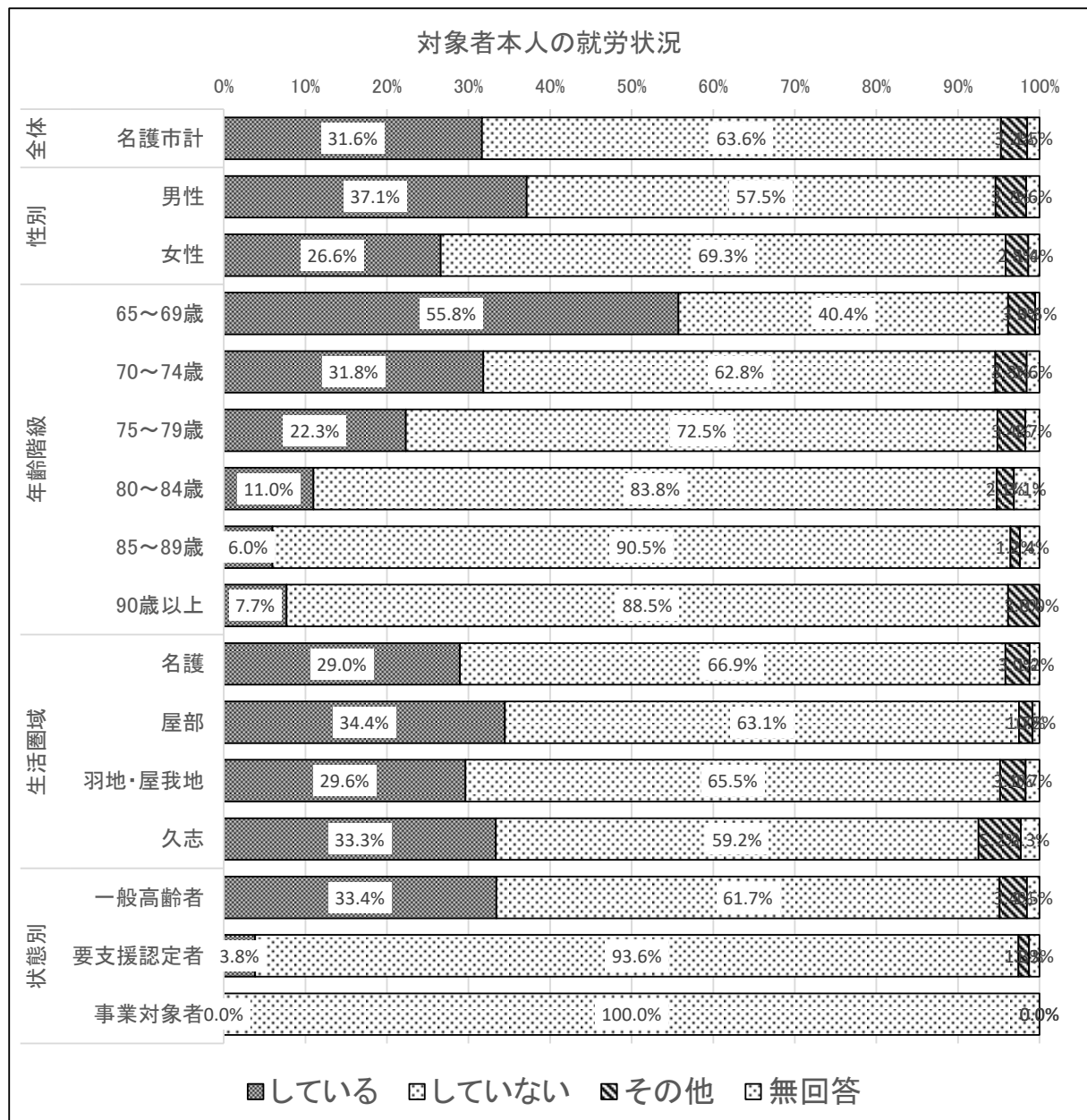


(5) 仕事の状況

現在、仕事をしているかについては、「していない」が63.6%、「している」が31.6%、「その他」が3.2%となっています。

年齢階級でみると、仕事をしているという回答割合は、年齢が上がるにつれ低下する傾向にあります。

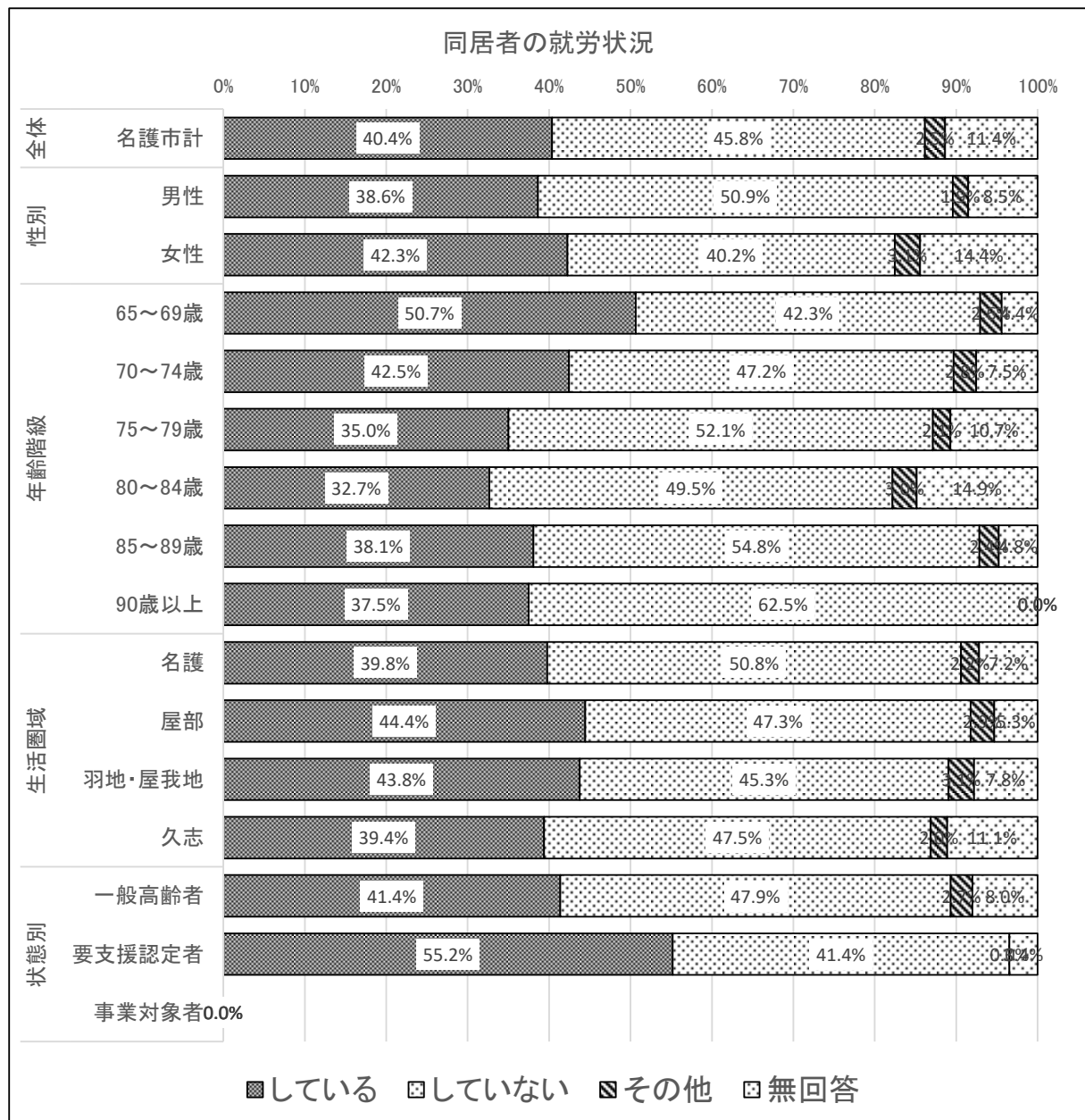
		している	していない	その他	無回答	回答数合計
全体(N=1,394)	回答数	441	887	45	21	1,394
	%	31.6%	63.6%	3.2%	1.5%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	248	384	25	668
		%	37.1%	57.5%	3.7%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	193	503	20	726
		%	26.6%	69.3%	2.8%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	218	158	13	391
		%	55.8%	40.4%	3.3%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	141	278	17	443
		%	31.8%	62.8%	3.8%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	52	169	8	233
		%	22.3%	72.5%	3.4%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	21	160	4	191
		%	11.0%	83.8%	2.1%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	5	76	1	84
		%	6.0%	90.5%	1.2%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	4	46	2	52
		%	7.7%	88.5%	3.8%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	97	224	10	335
		%	29.0%	66.9%	3.0%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	124	227	6	360
		%	34.4%	63.1%	1.7%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	104	230	11	351
		%	29.6%	65.5%	3.1%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	116	206	18	348
		%	33.3%	59.2%	5.2%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	438	809	44	1,311
		%	33.4%	61.7%	3.4%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	3	73	1	78
		%	3.8%	93.6%	1.3%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	0	5	0	5
		%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%



(6) 同居者の仕事

同居者がいる方が仕事をしているかについては、「していない」が45.8%、「している」が40.4%、「その他」が2.5%となっています。

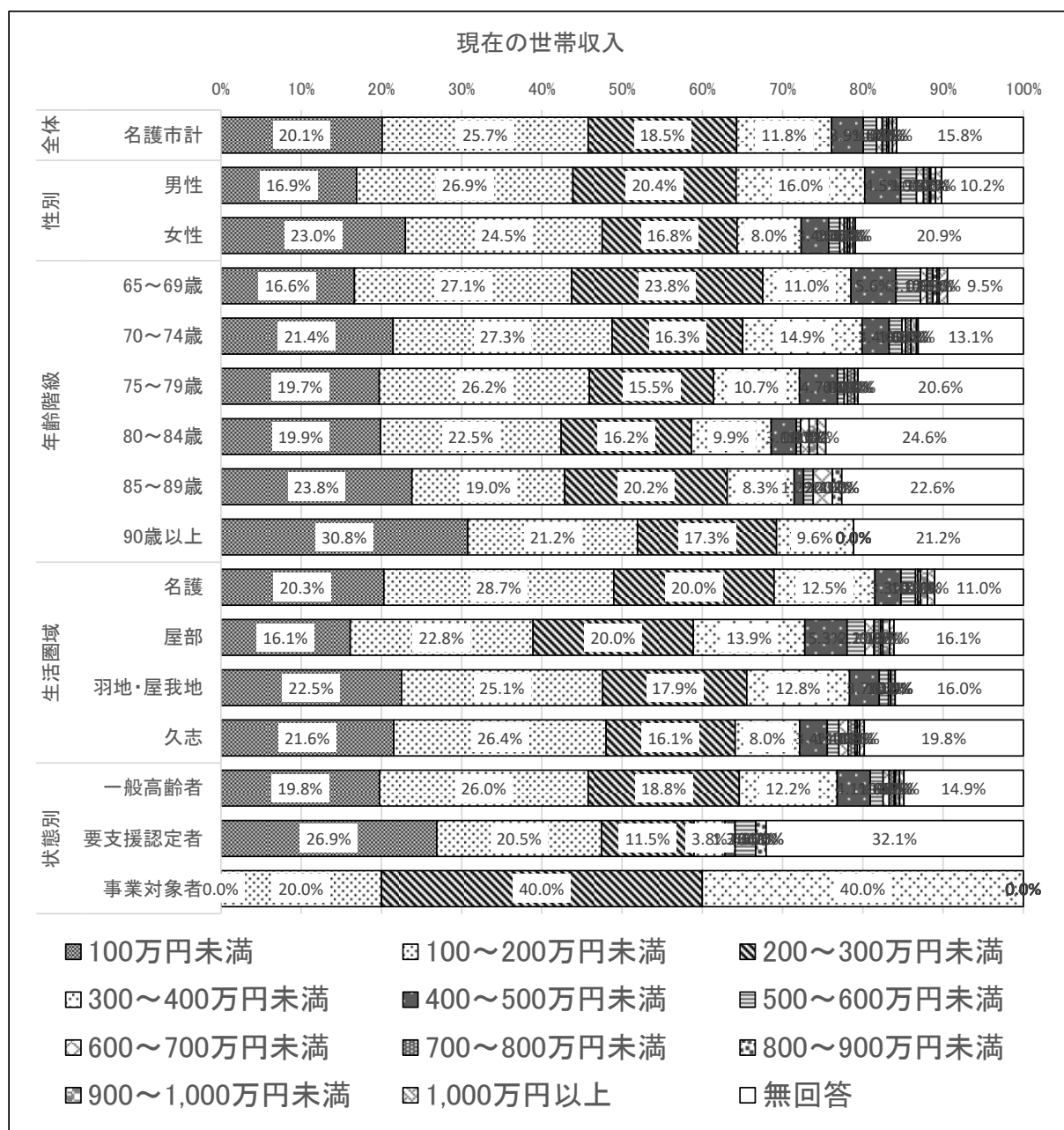
			している	していない	その他	無回答	回答数合計
全体(N=810)		回答数	327	371	20	92	810
		%	40.4%	45.8%	2.5%	11.4%	100.0%
性別	男性(N=422)	回答数	163	215	8	36	422
		%	38.6%	50.9%	1.9%	8.5%	100.0%
	女性(N=388)	回答数	164	156	12	56	388
		%	42.3%	40.2%	3.1%	14.4%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=227)	回答数	115	96	6	10	227
		%	50.7%	42.3%	2.6%	4.4%	100.0%
	70～74歳(N=252)	回答数	107	119	7	19	252
		%	42.5%	47.2%	2.8%	7.5%	100.0%
	75～79歳(N=140)	回答数	49	73	3	15	140
		%	35.0%	52.1%	2.1%	10.7%	100.0%
	80～84歳(N=101)	回答数	33	50	3	15	101
		%	32.7%	49.5%	3.0%	14.9%	100.0%
	85～89歳(N=42)	回答数	16	23	1	2	42
		%	38.1%	54.8%	2.4%	4.8%	100.0%
	90歳以上(N=16)	回答数	6	10	0	0	16
		%	37.5%	62.5%	0.0%	0.0%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=181)	回答数	72	92	4	13	181
		%	39.8%	50.8%	2.2%	7.2%	100.0%
	屋部地区(N=207)	回答数	92	98	6	11	207
		%	44.4%	47.3%	2.9%	5.3%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=192)	回答数	84	87	6	15	192
		%	43.8%	45.3%	3.1%	7.8%	100.0%
	久志地区(N=198)	回答数	78	94	4	22	198
		%	39.4%	47.5%	2.0%	11.1%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=749)	回答数	310	359	20	60	749
		%	41.4%	47.9%	2.7%	8.0%	100.0%
	要支援認定者(N=29)	回答数	16	12	0	1	29
		%	55.2%	41.4%	0.0%	3.4%	100.0%
	事業対象者(N=0)	回答数	0	0	0	0	0
		%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%



(7) 世帯の年間収入

現在の世帯全体の年間収入(手取り額)については、「100～200 万円未満」が最も多く 25.7%、次いで「100 万円未満」が 20.1%、「200～300 万円未満」が 18.5%、「300～400 万円未満」が 11.8%、「400～500 万円未満」が 3.9%となっています。

		100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800～900万円未満	900～1,000万円未満	1,000万円以上	無回答	回答数合計
全体(N=1,394)	回答数	280	358	258	165	55	23	10	8	3	7	7	220	1,394
	%	20.1%	25.7%	18.5%	11.8%	3.9%	1.6%	0.7%	0.6%	0.2%	0.5%	0.5%	15.8%	100.0%
性別	男性(N=668)	113	180	136	107	30	13	6	5	1	4	5	68	668
	%	16.9%	26.9%	20.4%	16.0%	4.5%	1.9%	0.9%	0.7%	0.1%	0.6%	0.7%	10.2%	100.0%
女性(N=726)	回答数	167	178	122	58	25	10	4	3	2	3	2	152	726
	%	23.0%	24.5%	16.8%	8.0%	3.4%	1.4%	0.6%	0.4%	0.3%	0.4%	0.3%	20.9%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	65	106	93	43	22	12	3	3	2	1	4	37	391
	%	16.6%	27.1%	23.8%	11.0%	5.6%	3.1%	0.8%	0.8%	0.5%	0.3%	1.0%	9.5%	100.0%
	70～74歳(N=443)	95	121	72	66	15	7	2	3	0	3	1	58	443
	%	21.4%	27.3%	16.3%	14.9%	3.4%	1.6%	0.5%	0.7%	0.0%	0.7%	0.2%	13.1%	100.0%
	75～79歳(N=233)	46	61	36	25	11	2	1	2	0	1	0	48	233
	%	19.7%	26.2%	15.5%	10.7%	4.7%	0.9%	0.4%	0.9%	0.0%	0.4%	0.0%	20.6%	100.0%
	80～84歳(N=191)	38	43	31	19	6	1	2	0	0	2	2	47	191
	%	19.9%	22.5%	16.2%	9.9%	3.1%	0.5%	1.0%	0.0%	0.0%	1.0%	1.0%	24.6%	100.0%
生活圏域	85～89歳(N=84)	20	16	17	7	1	1	2	0	1	0	0	19	84
	%	23.8%	19.0%	20.2%	8.3%	1.2%	1.2%	2.4%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	22.6%	100.0%
	90歳以上(N=52)	16	11	9	5	0	0	0	0	0	0	0	11	52
	%	30.8%	21.2%	17.3%	9.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	21.2%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	68	96	67	42	11	6	1	0	1	3	3	37	335
	%	20.3%	28.7%	20.0%	12.5%	3.3%	1.8%	0.3%	0.0%	0.3%	0.9%	0.9%	11.0%	100.0%
	屋部地区(N=360)	58	82	72	50	19	8	4	3	1	3	2	58	360
	%	16.1%	22.8%	20.0%	13.9%	5.3%	2.2%	1.1%	0.8%	0.3%	0.8%	0.6%	16.1%	100.0%
生活圏域	羽地・屋我地地区(N=351)	79	88	63	45	13	4	1	2	0	0	0	56	351
	%	22.5%	25.1%	17.9%	12.8%	3.7%	1.1%	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	16.0%	100.0%
	久志地区(N=348)	75	92	56	28	12	5	4	3	1	1	2	69	348
	%	21.6%	26.4%	16.1%	8.0%	3.4%	1.4%	1.1%	0.9%	0.3%	0.3%	0.6%	19.8%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	259	341	247	160	54	21	10	8	2	7	7	195	1,311
	%	19.8%	26.0%	18.8%	12.2%	4.1%	1.6%	0.8%	0.6%	0.2%	0.5%	0.5%	14.9%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	21	16	9	3	1	2	0	0	1	0	0	25	78
	%	26.9%	20.5%	11.5%	3.8%	1.3%	2.6%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	32.1%	100.0%
状態別	事業対象者(N=5)	0	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	%	0.0%	20.0%	40.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%



問2 からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりをつたわずに昇っているか

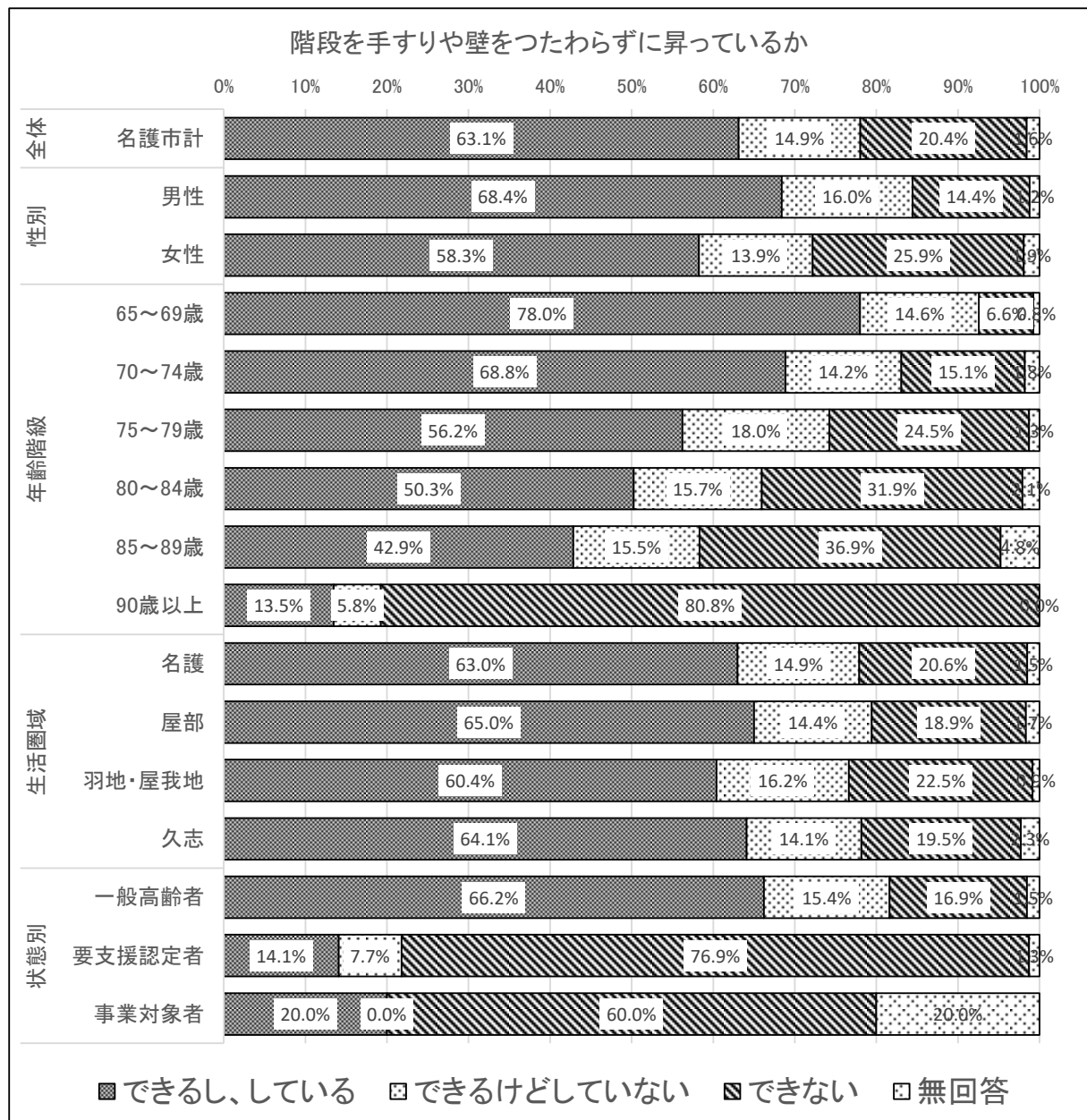
階段を手すりをつたわずに昇っているについて、「できるし、している」が最も高く 63.1%、「できない」が 20.4%、「できるけどしていない」が 14.9%となっています。

性別にみると、「できない」という回答割合は、男性（14.4%）より女性（25.9%）が 11.5 ポイント高くなっています。

年齢階級別に「できない」という回答割合をみると、年齢が上がるにつれ高くなる傾向にあります。

状態別に「できない」という回答割合をみると、一般高齢者で 16.9%、要支援認定者では 76.9%となっています。

		できるし、し ている	できるけどし ていない	できない	無回答	回答数 合計	
全体(N=1,394)		回答数	880	208	284	22	1,394
		%	63.1%	14.9%	20.4%	1.6%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	457	107	96	8	668
		%	68.4%	16.0%	14.4%	1.2%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	423	101	188	14	726
		%	58.3%	13.9%	25.9%	1.9%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	305	57	26	3	391
		%	78.0%	14.6%	6.6%	0.8%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	305	63	67	8	443
		%	68.8%	14.2%	15.1%	1.8%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	131	42	57	3	233
		%	56.2%	18.0%	24.5%	1.3%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	96	30	61	4	191
		%	50.3%	15.7%	31.9%	2.1%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	36	13	31	4	84
		%	42.9%	15.5%	36.9%	4.8%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	7	3	42	0	52
		%	13.5%	5.8%	80.8%	0.0%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	211	50	69	5	335
		%	63.0%	14.9%	20.6%	1.5%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	234	52	68	6	360
		%	65.0%	14.4%	18.9%	1.7%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	212	57	79	3	351
		%	60.4%	16.2%	22.5%	0.9%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	223	49	68	8	348
		%	64.1%	14.1%	19.5%	2.3%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	868	202	221	20	1,311
		%	66.2%	15.4%	16.9%	1.5%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	11	6	60	1	78
		%	14.1%	7.7%	76.9%	1.3%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	1	0	3	1	5
		%	20.0%	0.0%	60.0%	20.0%	100.0%



(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかについて、「できるし、している」が最も高く 73.3%、「できない」が 16.0%、「できるけどしていない」が 8.9%となっています。

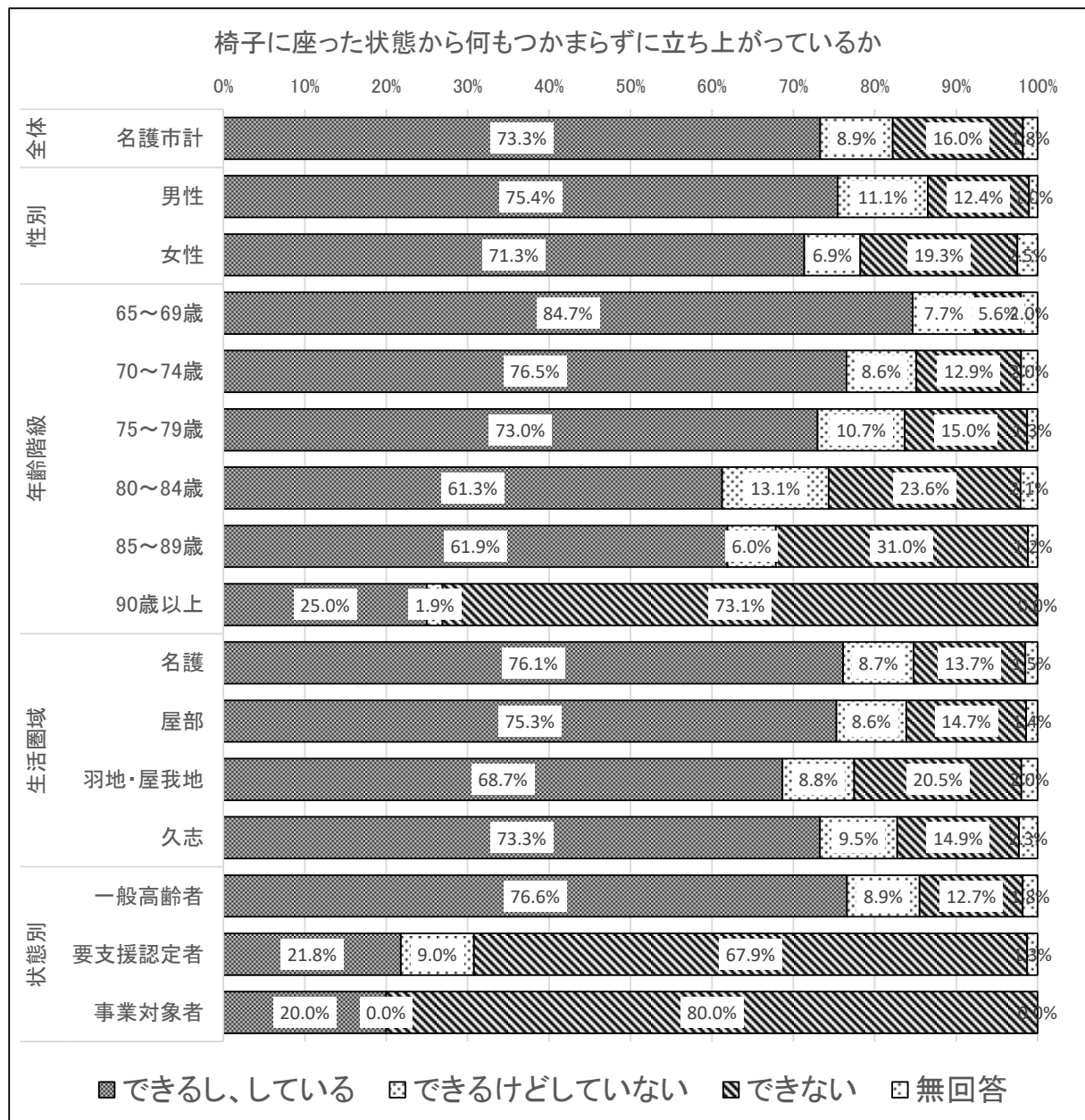
性別にみると、「できない」という回答割合は、男性（12.4%）より女性（19.3%）が 6.9 ポイント高くなっています。

年齢階級別に「できない」という回答割合をみると、年齢が上がるにつれ高くなる傾向にあります。

生活圏域別に「できない」という回答割合をみると、「羽地・屋我地地区」（20.5%）で他の地区より高くなっています。

状態別に「できない」という回答割合をみると、一般高齢者で 12.7%、要支援認定者では 67.9%となっています。

		できるし、し ている	できるけどし ていない	できない	無回答	回答数 合計		
全体(N=1,394)		回答数 1,022 73.3%	124 8.9%	223 16.0%	25 1.8%	1,394 100.0%		
性別	男性(N=668)	回答数 504 75.4%	74 11.1%	83 12.4%	7 1.0%	668 100.0%		
		女性(N=726)	回答数 518 71.3%	50 6.9%	140 19.3%	18 2.5%	726 100.0%	
	年齢階級		65～69歳(N=391)	回答数 331 84.7%	30 7.7%	22 5.6%	8 2.0%	391 100.0%
		70～74歳(N=443)		回答数 339 76.5%	38 8.6%	57 12.9%	9 2.0%	443 100.0%
75～79歳(N=233)			回答数 170 73.0%	25 10.7%	35 15.0%	3 1.3%	233 100.0%	
		80～84歳(N=191)	回答数 117 61.3%	25 13.1%	45 23.6%	4 2.1%	191 100.0%	
85～89歳(N=84)			回答数 52 61.9%	5 6.0%	26 31.0%	1 1.2%	84 100.0%	
		90歳以上(N=52)	回答数 13 25.0%	1 1.9%	38 73.1%	0 0.0%	52 100.0%	
生活圏域			名護地区(N=335)	回答数 255 76.1%	29 8.7%	46 13.7%	5 1.5%	335 100.0%
		屋部地区(N=360)		回答数 271 75.3%	31 8.6%	53 14.7%	5 1.4%	360 100.0%
			羽地・屋我地地区(N=351)	回答数 241 68.7%	31 8.8%	72 20.5%	7 2.0%	351 100.0%
		久志地区(N=348)		回答数 255 73.3%	33 9.5%	52 14.9%	8 2.3%	348 100.0%
			状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数 1,004 76.6%	117 8.9%	166 12.7%	24 1.8%
		要支援認定者(N=78)			回答数 17 21.8%	7 9.0%	53 67.9%	1 1.3%
	事業対象者(N=5)			回答数 1 20.0%	0 0.0%	4 80.0%	0 0.0%	5 100.0%



(3) 15 分位続けて歩いているか

15 分位続けて歩いているかについて、「できるし、している」が最も高く 68.3%、「できるけどしていない」が 19.3%、「できない」が 11.4%となっています。

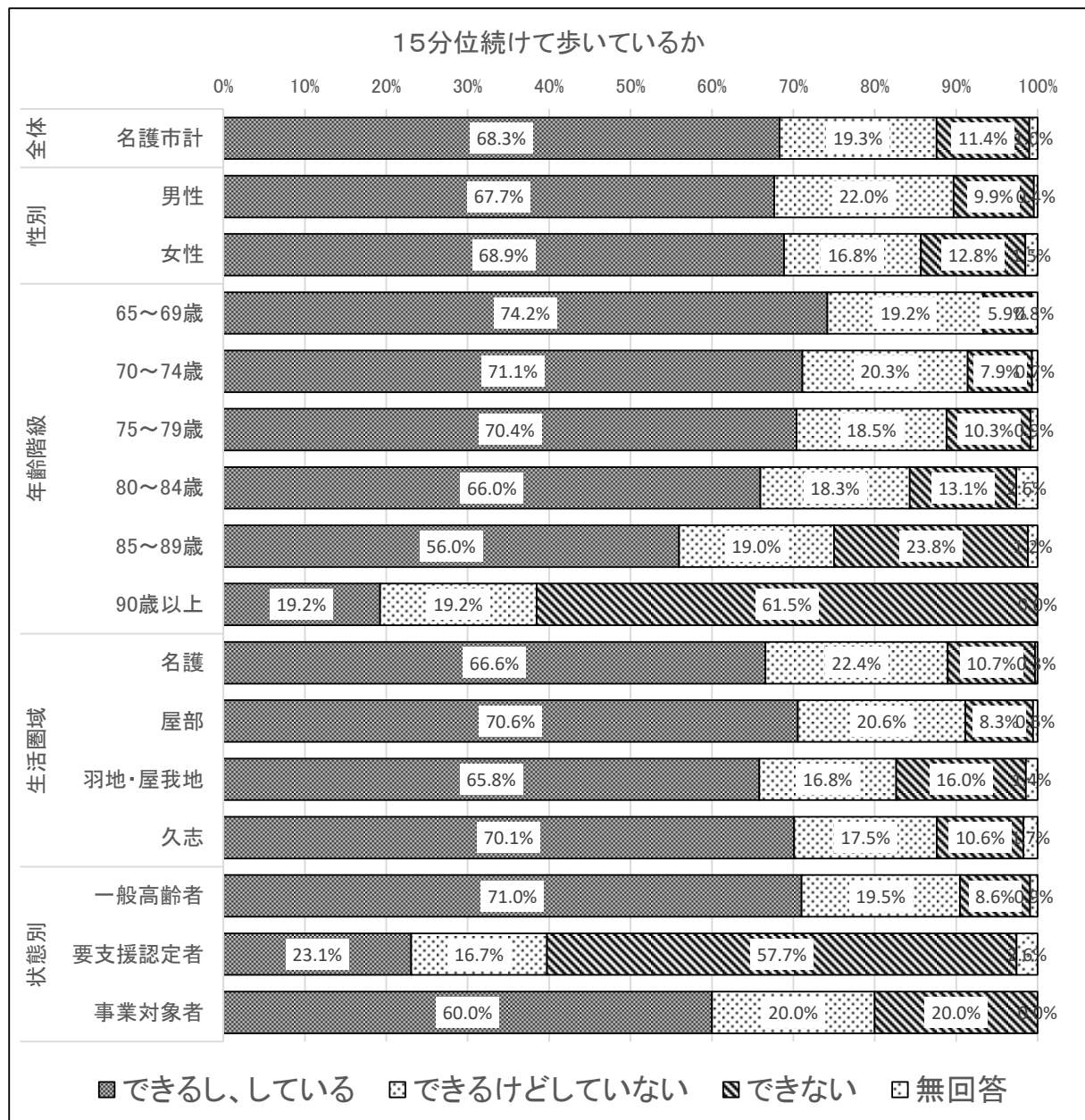
性別にみると、「できない」という回答割合は、男性（9.9%）より女性（12.8%）が 2.9 ポイント高くなっています。

年齢階級別に「できない」という回答割合をみると、年齢が上がるにつれ高くなる傾向にあります。

生活圏域別に「できない」という回答割合をみると、「羽地・屋我地地区」（16.0%）で他の地区より高くなっています。

状態別に「できない」という回答割合をみると、一般高齢者で 8.6%、要支援認定者では 57.7%となっています。

		回答数	できるし、している	できるけどしていない	できない	無回答	回答数合計
全体(N=1,394)			952	269	159	14	1,394
		%	68.3%	19.3%	11.4%	1.0%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	452	147	66	3	668
		%	67.7%	22.0%	9.9%	0.4%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	500	122	93	11	726
		%	68.9%	16.8%	12.8%	1.5%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	290	75	23	3	391
		%	74.2%	19.2%	5.9%	0.8%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	315	90	35	3	443
		%	71.1%	20.3%	7.9%	0.7%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	164	43	24	2	233
		%	70.4%	18.5%	10.3%	0.9%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	126	35	25	5	191
		%	66.0%	18.3%	13.1%	2.6%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	47	16	20	1	84
		%	56.0%	19.0%	23.8%	1.2%	100.0%
生活圏域	90歳以上(N=52)	回答数	10	10	32	0	52
		%	19.2%	19.2%	61.5%	0.0%	100.0%
	名護地区(N=335)	回答数	223	75	36	1	335
		%	66.6%	22.4%	10.7%	0.3%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	254	74	30	2	360
		%	70.6%	20.6%	8.3%	0.6%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	231	59	56	5	351
		%	65.8%	16.8%	16.0%	1.4%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	244	61	37	6	348
		%	70.1%	17.5%	10.6%	1.7%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	931	255	113	12	1,311
		%	71.0%	19.5%	8.6%	0.9%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	18	13	45	2	78
		%	23.1%	16.7%	57.7%	2.6%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	3	1	1	0	5
		%	60.0%	20.0%	20.0%	0.0%	100.0%



(4) 過去1年間に転んだ経験があるか

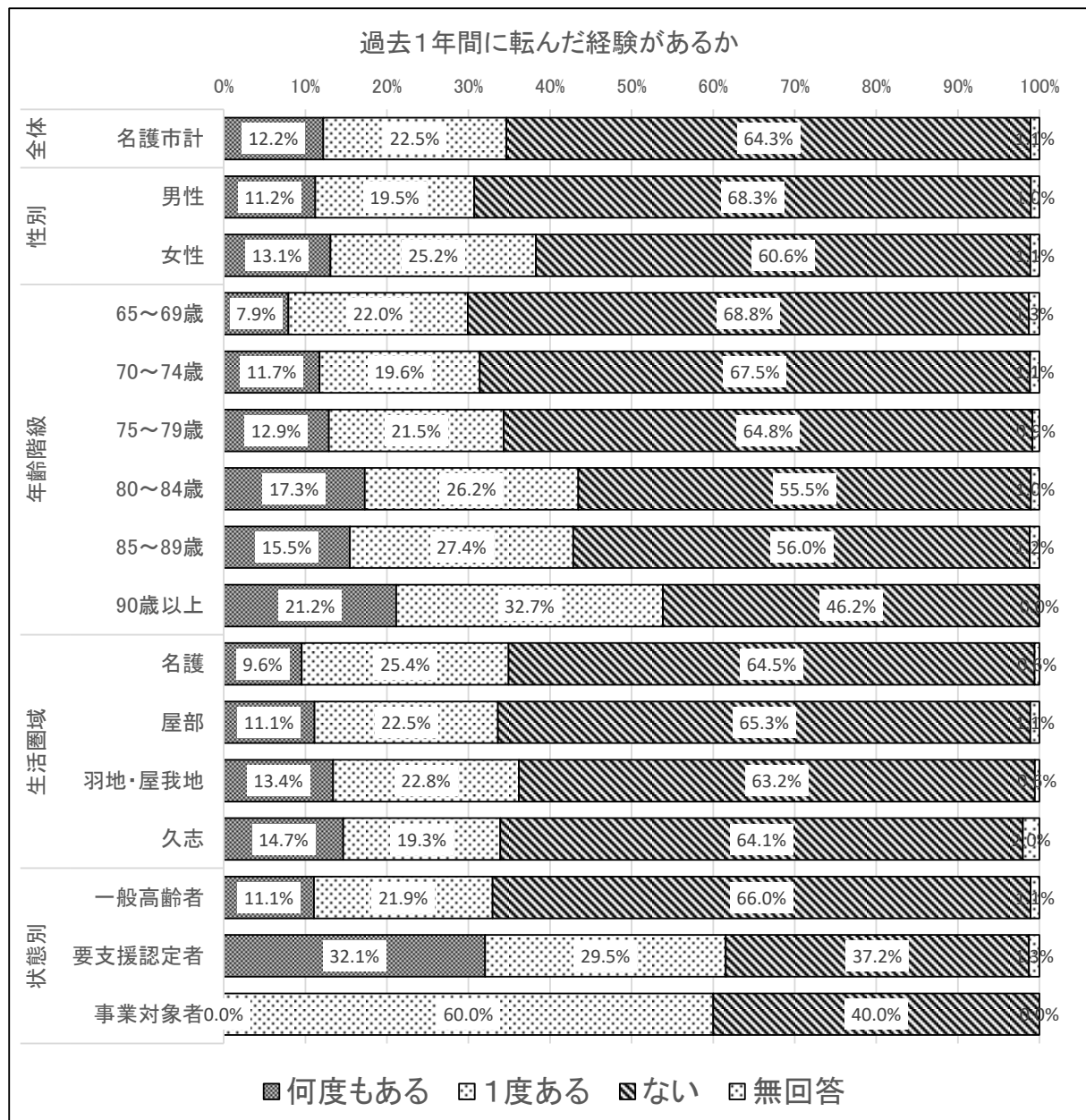
過去1年間に転んだ経験があるかについて、「ない」が最も高く64.3%、「1度ある」が22.5%、「何度もある」が12.2%となっています。経験が『ある』（「何度もある」＋「1度ある」）との回答は34.6%となっています。

性別で『ある』という回答割合は、男性（30.7%）より女性（38.3%）が7.6ポイント高くなっています。

年齢階級別に『ある』という回答割合をみると、80～84歳で43.5%となり、75～79歳（34.3%）より9.1ポイントの上昇し、80歳を境に大きく変化していることが伺えます。

状態別に『ある』という回答割合をみると、一般高齢者で33.0%、要支援認定者では61.5%となっています。

		何度もある	1度ある	ない	無回答	回答数 合計	
全体(N=1,394)		回答数	170	313	896	15	1,394
		%	12.2%	22.5%	64.3%	1.1%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	75	130	456	7	668
		%	11.2%	19.5%	68.3%	1.0%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	95	183	440	8	726
		%	13.1%	25.2%	60.6%	1.1%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	31	86	269	5	391
		%	7.9%	22.0%	68.8%	1.3%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	52	87	299	5	443
		%	11.7%	19.6%	67.5%	1.1%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	30	50	151	2	233
		%	12.9%	21.5%	64.8%	0.9%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	33	50	106	2	191
		%	17.3%	26.2%	55.5%	1.0%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	13	23	47	1	84
		%	15.5%	27.4%	56.0%	1.2%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	11	17	24	0	52
		%	21.2%	32.7%	46.2%	0.0%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	32	85	216	2	335
		%	9.6%	25.4%	64.5%	0.6%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	40	81	235	4	360
		%	11.1%	22.5%	65.3%	1.1%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	47	80	222	2	351
		%	13.4%	22.8%	63.2%	0.6%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	51	67	223	7	348
		%	14.7%	19.3%	64.1%	2.0%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	145	287	865	14	1,311
		%	11.1%	21.9%	66.0%	1.1%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	25	23	29	1	78
		%	32.1%	29.5%	37.2%	1.3%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	0	3	2	0	5
		%	0.0%	60.0%	40.0%	0.0%	100.0%



(5) 転倒に関する不安

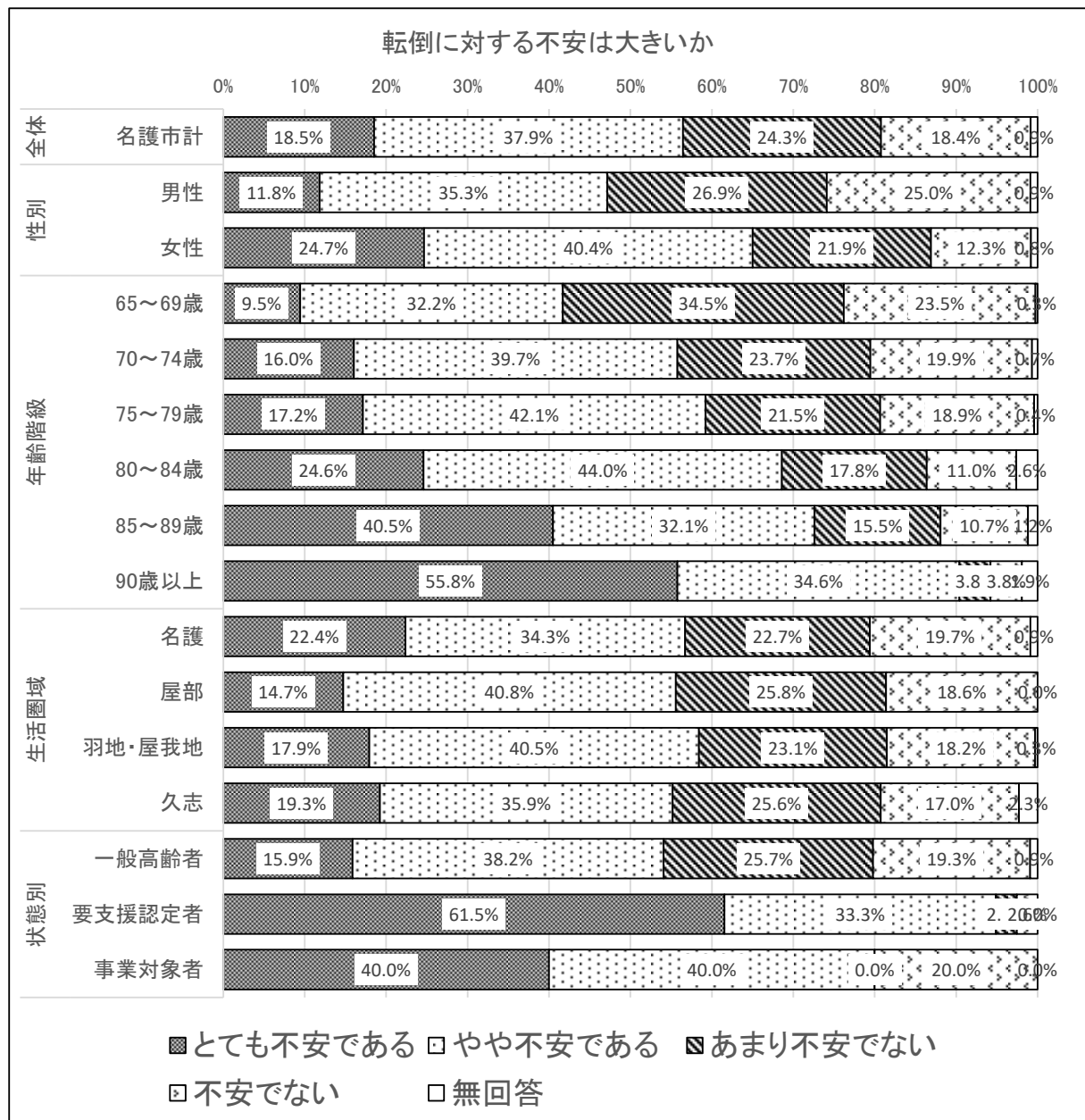
転倒に関する不安があるかについて、「やや不安である」が最も高く 37.9%、「あまり不安でない」が 24.3%、「とても不安である」が 18.5%、「不安でない」が 18.4%となっています。『不安がある』（「とても不安である」＋「やや不安である」）が 56.5%、『不安でない』（「あまり不安でない」＋「不安でない」）が 42.7%と、不安があるとの回答が 13.8 ポイント高くなっています。

性別で『不安がある』という回答割合は、男性（47.2%）より女性（65.0%）が 17.9 ポイント高くなっています。

年齢階級別に『不安がある』という回答割合をみると、年齢が上がるにつれ高くなる傾向にあります。

状態別に『不安がある』という回答割合をみると、一般高齢者で 54.1%、要支援認定者では 94.9%となり、要支援認定者の大多数が転倒への不安を感じています。

			とても不安 である	やや不安で ある	あまり不安 でない	不安でない	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)		回答数	258	529	339	256	12	1,394
		%	18.5%	37.9%	24.3%	18.4%	0.9%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	79	236	180	167	6	668
		%	11.8%	35.3%	26.9%	25.0%	0.9%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	179	293	159	89	6	726
%		24.7%	40.4%	21.9%	12.3%	0.8%	100.0%	
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	37	126	135	92	1	391
		%	9.5%	32.2%	34.5%	23.5%	0.3%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	71	176	105	88	3	443
		%	16.0%	39.7%	23.7%	19.9%	0.7%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	40	98	50	44	1	233
		%	17.2%	42.1%	21.5%	18.9%	0.4%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	47	84	34	21	5	191
		%	24.6%	44.0%	17.8%	11.0%	2.6%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	34	27	13	9	1	84
		%	40.5%	32.1%	15.5%	10.7%	1.2%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	29	18	2	2	1	52
		%	55.8%	34.6%	3.8%	3.8%	1.9%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	75	115	76	66	3	335
		%	22.4%	34.3%	22.7%	19.7%	0.9%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	53	147	93	67	0	360
		%	14.7%	40.8%	25.8%	18.6%	0.0%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	63	142	81	64	1	351
		%	17.9%	40.5%	23.1%	18.2%	0.3%	100.0%
久志地区(N=348)	回答数	67	125	89	59	8	348	
	%	19.3%	35.9%	25.6%	17.0%	2.3%	100.0%	
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	208	501	337	253	12	1,311
		%	15.9%	38.2%	25.7%	19.3%	0.9%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	48	26	2	2	0	78
		%	61.5%	33.3%	2.6%	2.6%	0.0%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	2	2	0	1	0	5
		%	40.0%	40.0%	0.0%	20.0%	0.0%	100.0%



（６）週に１回以上外出しているか

週に１回以上外出しているかについて、「週２～４回」が最も高く 40.6%、次いで「週５回以上」が 29.7%、「週１回」が 17.5%、「ほとんど外出しない」が 11.7%となっています。

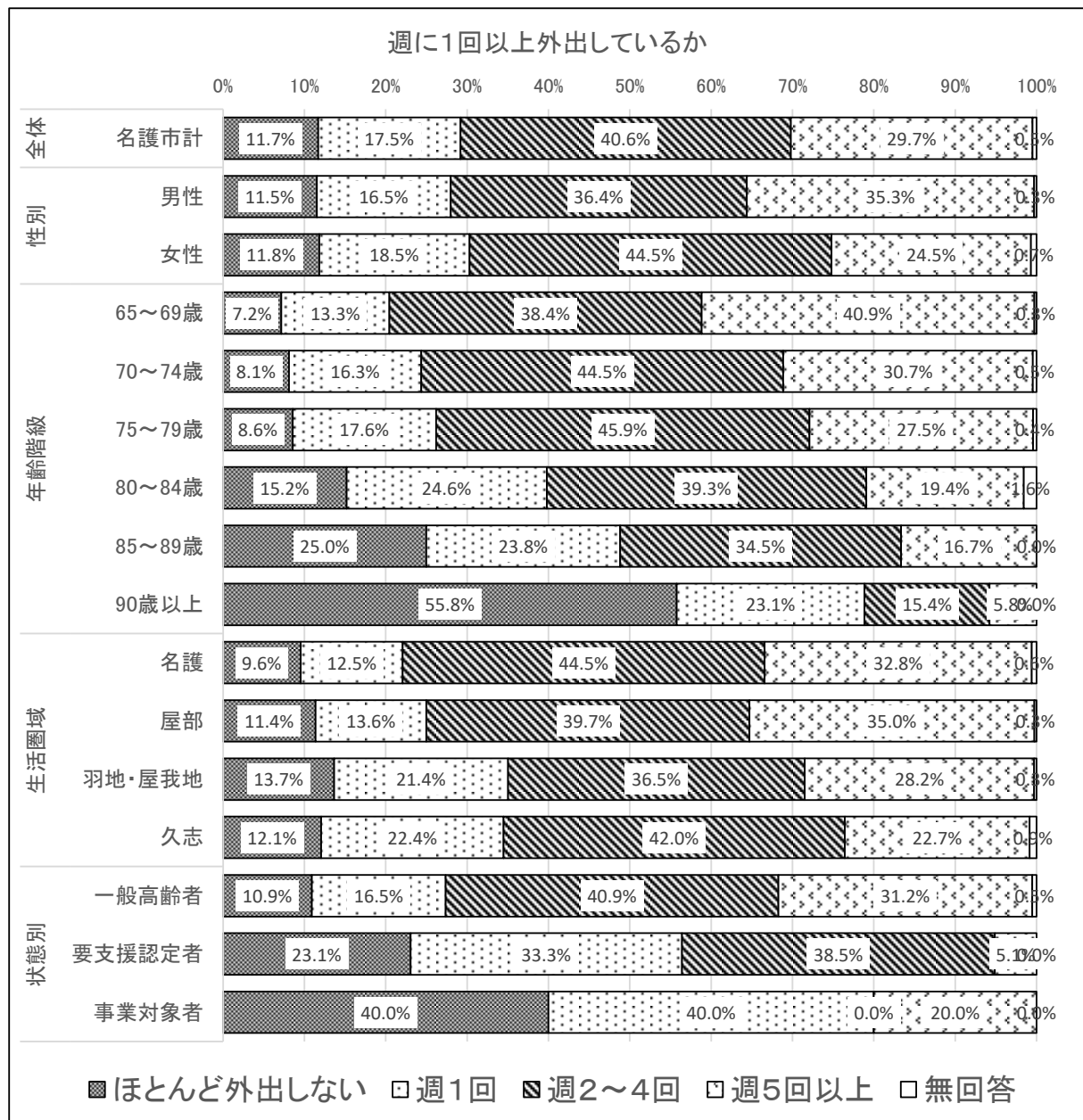
性別で「週５回以上」という回答割合をみると、女性（24.5%）より男性（35.3%）が 10.8 ポイント高くなっています。

年齢階級別に「ほとんど外出しない」という回答割合をみると、年齢が上がるにつれ高くなる傾向にあります。75～79歳の 8.6%から 80～84歳に 15.2%と、80歳を境に割合が急速に高まっています。

生活圏域別に「週５回以上」という回答割合をみると、久志地区（22.7%）が他地区より低くなっています。

状態別に「ほとんど外出しない」という回答割合をみると、一般高齢者（10.9%）と比較して、要支援認定者（23.1%）は倍以上高く、週１回以下の割合が 56.4%と半数を超えています。

		ほとんど外 出しない	週1回	週2～4回	週5回以上	無回答	回答数 合計			
全体(N=1,394)		回答数 %	163 11.7%	244 17.5%	566 40.6%	414 29.7%	7 0.5%	1,394 100.0%		
性別	男性(N=668)	回答数 %	77 11.5%	110 16.5%	243 36.4%	236 35.3%	2 0.3%	668 100.0%		
	女性(N=726)	回答数 %	86 11.8%	134 18.5%	323 44.5%	178 24.5%	5 0.7%	726 100.0%		
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数 %	28 7.2%	52 13.3%	150 38.4%	160 40.9%	1 0.3%	391 100.0%		
	70～74歳(N=443)	回答数 %	36 8.1%	72 16.3%	197 44.5%	136 30.7%	2 0.5%	443 100.0%		
	75～79歳(N=233)	回答数 %	20 8.6%	41 17.6%	107 45.9%	64 27.5%	1 0.4%	233 100.0%		
	80～84歳(N=191)	回答数 %	29 15.2%	47 24.6%	75 39.3%	37 19.4%	3 1.6%	191 100.0%		
	85～89歳(N=84)	回答数 %	21 25.0%	20 23.8%	29 34.5%	14 16.7%	0 0.0%	84 100.0%		
	90歳以上(N=52)	回答数 %	29 55.8%	12 23.1%	8 15.4%	3 5.8%	0 0.0%	52 100.0%		
	生活圏域	名護地区(N=335)	回答数 %	32 9.6%	42 12.5%	149 44.5%	110 32.8%	2 0.6%	335 100.0%	
		屋部地区(N=360)	回答数 %	41 11.4%	49 13.6%	143 39.7%	126 35.0%	1 0.3%	360 100.0%	
		羽地・屋我地地区(N=351)	回答数 %	48 13.7%	75 21.4%	128 36.5%	99 28.2%	1 0.3%	351 100.0%	
		久志地区(N=348)	回答数 %	42 12.1%	78 22.4%	146 42.0%	79 22.7%	3 0.9%	348 100.0%	
		状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数 %	143 10.9%	216 16.5%	536 40.9%	409 31.2%	7 0.5%	1,311 100.0%
			要支援認定者(N=78)	回答数 %	18 23.1%	26 33.3%	30 38.5%	4 5.1%	0 0.0%	78 100.0%
事業対象者(N=5)	回答数 %		2 40.0%	2 40.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	5 100.0%		



(7) 昨年に比べて外出の回数は減っているか

昨年に比べて外出の回数は減っているかについて、「減っていない」が最も高く 32.1%、次いで「減っている」が 30.5%、「あまり減っていない」が 29.2%、「とても減っている」が 7.5% となっています。『減っていない』（「あまり減っていない」＋「減っていない」）が 61.3%、『減っている』（「とても減っている」＋「減っている」）が 38.0% となり、減っているとの回答を前回調査（25.2%）と比較して 12.8 ポイント高くなっています。

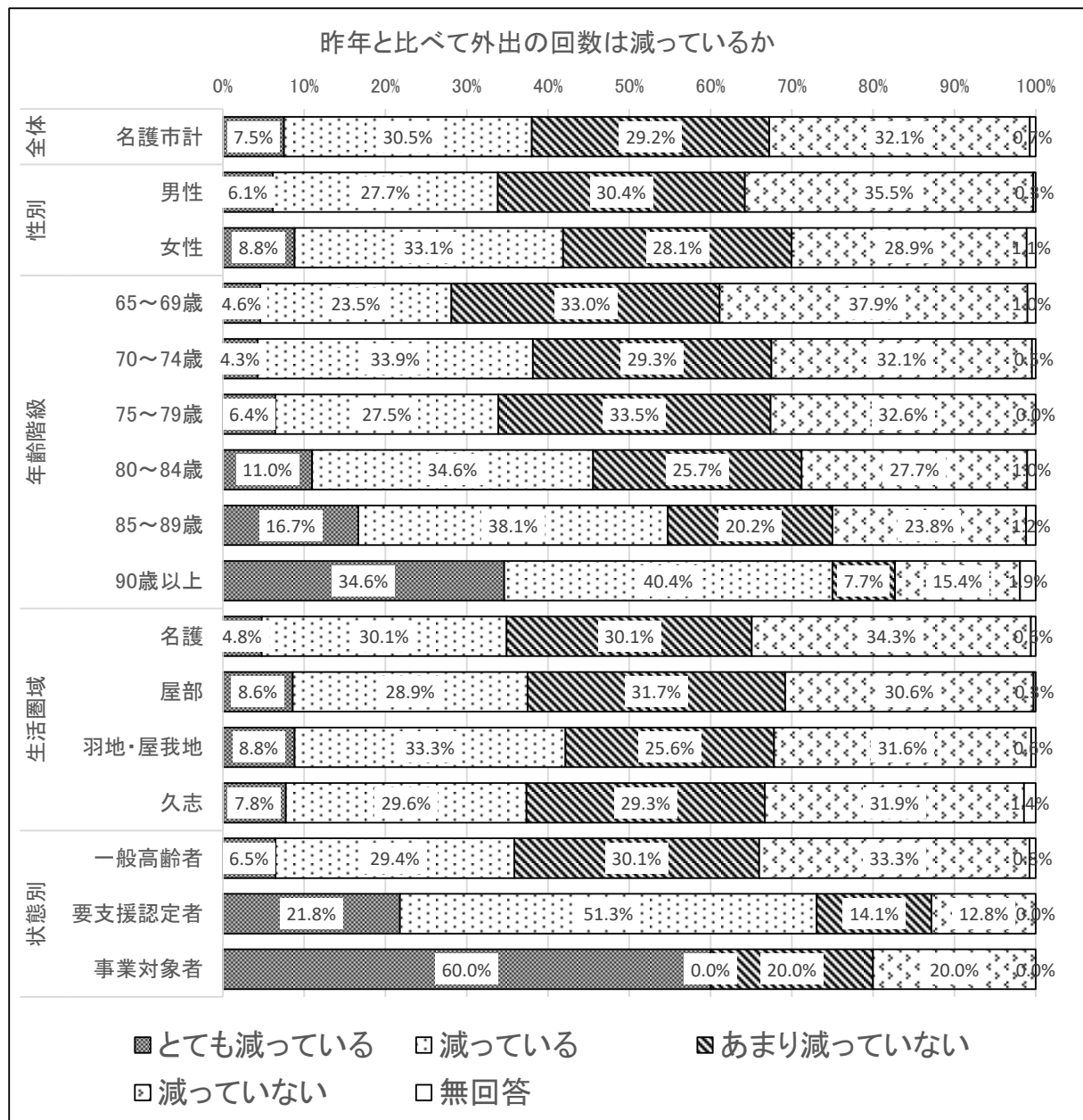
性別で『減っている』という回答割合をみると、男性（33.8%）より女性（41.9%）が 8.1 ポイント高くなっています。

年齢階級別に『減っている』という回答割合をみると、年齢が上がるにつれ高くなる傾向にあります。

生活圏域別に『減っている』という回答割合をみると、羽地・屋我地地区（42.2%）が他地区より高くなっています。

状態別に『減っている』という回答割合をみると、一般高齢者が 35.9%、要支援認定者が 73.1% となっています。

		とても減っている	減っている	あまり減っていない	減っていない	無回答	回答数合計
全体(N=1,394)	回答数	105	425	407	447	10	1,394
	%	7.5%	30.5%	29.2%	32.1%	0.7%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	41	185	203	237	668
		%	6.1%	27.7%	30.4%	35.5%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	64	240	204	210	726
		%	8.8%	33.1%	28.1%	28.9%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	18	92	129	148	391
		%	4.6%	23.5%	33.0%	37.9%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	19	150	130	142	443
		%	4.3%	33.9%	29.3%	32.1%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	15	64	78	76	233
		%	6.4%	27.5%	33.5%	32.6%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	21	66	49	53	191
		%	11.0%	34.6%	25.7%	27.7%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	14	32	17	20	84
		%	16.7%	38.1%	20.2%	23.8%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	18	21	4	8	52
		%	34.6%	40.4%	7.7%	15.4%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	16	101	101	115	335
		%	4.8%	30.1%	30.1%	34.3%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	31	104	114	110	360
		%	8.6%	28.9%	31.7%	30.6%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	31	117	90	111	351
		%	8.8%	33.3%	25.6%	31.6%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	27	103	102	111	348
		%	7.8%	29.6%	29.3%	31.9%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	85	385	395	436	1,311
		%	6.5%	29.4%	30.1%	33.3%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	17	40	11	10	78
		%	21.8%	51.3%	14.1%	12.8%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	3	0	1	1	5
		%	60.0%	0.0%	20.0%	20.0%	100.0%



(8) 外出を控えているか

外出を控えているかについて、「いいえ」が 57.5%、「はい」が 35.9%と外出を控えていないとの回答が上回っています。

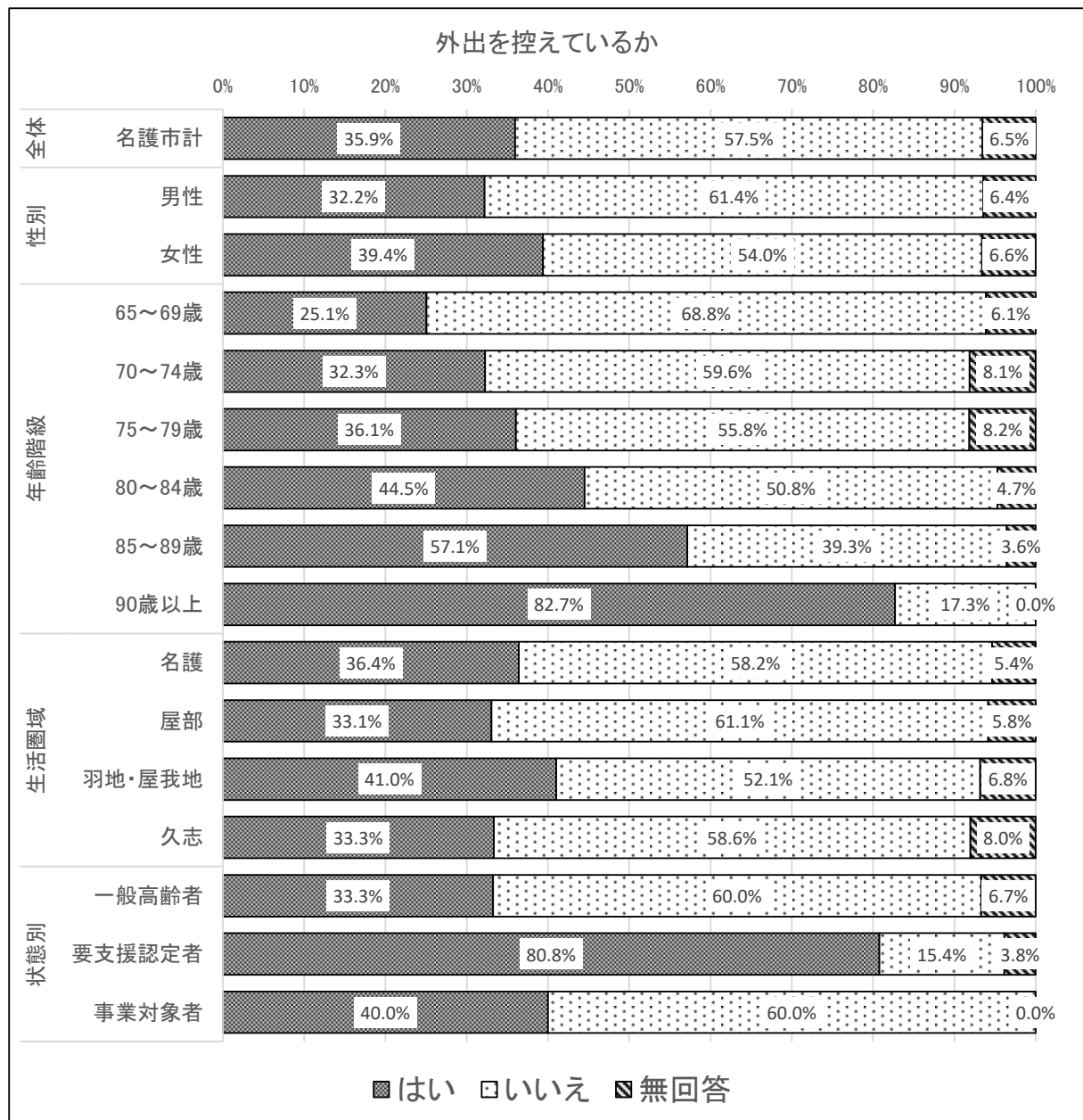
性別で「いいえ」の回答割合をみると、女性（54.0%）より男性（61.4%）が 7.4 ポイント高くなっています。

年齢階級別に「はい」という回答割合をみると、年齢が上がるにつれ高くなる傾向にあります。

生活圏域別に「はい」という回答割合をみると、羽地・屋我地地区（41.0%）が他地区より高くなっています。

状態別に「はい」という回答割合をみると、一般高齢者が 33.3%、要支援認定者が 80.8%となっています。

			はい	いいえ	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)		回答数	501	802	91	1,394
		%	35.9%	57.5%	6.5%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	215	410	43	668
		%	32.2%	61.4%	6.4%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	286	392	48	726
		%	39.4%	54.0%	6.6%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	98	269	24	391
		%	25.1%	68.8%	6.1%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	143	264	36	443
		%	32.3%	59.6%	8.1%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	84	130	19	233
		%	36.1%	55.8%	8.2%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	85	97	9	191
		%	44.5%	50.8%	4.7%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	48	33	3	84
		%	57.1%	39.3%	3.6%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	43	9	0	52
		%	82.7%	17.3%	0.0%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	122	195	18	335
		%	36.4%	58.2%	5.4%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	119	220	21	360
		%	33.1%	61.1%	5.8%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	144	183	24	351
		%	41.0%	52.1%	6.8%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	116	204	28	348
		%	33.3%	58.6%	8.0%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	436	787	88	1,311
		%	33.3%	60.0%	6.7%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	63	12	3	78
		%	80.8%	15.4%	3.8%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	2	3	0	5
		%	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%



(8) 外出を控えている理由

外出を控えている理由の第1位は「足腰などの痛み」で41.3%、第2位は「その他」で31.7%、第3位は「交通手段がない」で20.2%、第4位は「病気」と「外での楽しみがない」で16.4%となっています。

性別でみると、男女とも「足腰などの痛み」が第1位となっています。

年齢階級別に「足腰などの痛み」という回答割合をみると、年齢が上がるにつれ高くなる傾向にあります。

		病気	障害(脳卒中の後遺症など)	足腰などの痛み	トイレの心配(失禁など)	耳の障害(聞こえの問題など)	目の障害	外での楽しみがない	経済的に出られない	交通手段がない	その他	無回答
全体(N=501)	回答数	82	12	207	65	51	29	82	74	101	159	4
	%	16.4%	2.4%	41.3%	13.0%	10.2%	5.8%	16.4%	14.8%	20.2%	31.7%	0.8%
性別	男性(N=215)	回答数	39	8	84	22	18	15	36	33	34	61
	%	18.1%	3.7%	39.1%	10.2%	8.4%	7.0%	16.7%	15.3%	15.8%	28.4%	0.0%
	女性(N=286)	回答数	43	4	123	43	33	14	46	41	67	98
	%	15.0%	1.4%	43.0%	15.0%	11.5%	4.9%	16.1%	14.3%	23.4%	34.3%	1.4%
年齢階級	65～69歳(N=98)	回答数	17	4	25	2	4	5	15	18	16	48
	%	17.3%	4.1%	25.5%	2.0%	4.1%	5.1%	15.3%	18.4%	16.3%	49.0%	2.0%
	70～74歳(N=143)	回答数	26	3	45	10	10	6	24	27	16	51
	%	18.2%	2.1%	31.5%	7.0%	7.0%	4.2%	16.8%	18.9%	11.2%	35.7%	0.7%
	75～79歳(N=84)	回答数	15	2	36	10	6	3	8	11	14	27
	%	17.9%	2.4%	42.9%	11.9%	7.1%	3.6%	9.5%	13.1%	16.7%	32.1%	1.2%
	80～84歳(N=85)	回答数	14	3	48	20	10	7	17	7	24	16
	%	16.5%	3.5%	56.5%	23.5%	11.8%	8.2%	20.0%	8.2%	28.2%	18.8%	0.0%
	85～89歳(N=48)	回答数	6	0	29	9	6	3	6	7	15	9
	%	12.5%	0.0%	60.4%	18.8%	12.5%	6.3%	12.5%	14.6%	31.3%	18.8%	0.0%
	90歳以上(N=43)	回答数	4	0	24	14	15	5	12	4	16	8
	%	9.3%	0.0%	55.8%	32.6%	34.9%	11.6%	27.9%	9.3%	37.2%	18.6%	0.0%
生活圏域	名護地区(N=122)	回答数	18	4	48	11	14	2	22	17	18	47
	%	14.8%	3.3%	39.3%	9.0%	11.5%	1.6%	18.0%	13.9%	14.8%	38.5%	0.8%
	屋部地区(N=119)	回答数	18	3	43	13	14	8	21	21	28	40
	%	15.1%	2.5%	36.1%	10.9%	11.8%	6.7%	17.6%	17.6%	23.5%	33.6%	0.8%
	羽地・屋我地地区(N=144)	回答数	25	2	66	21	14	11	22	17	33	45
状態別	%	17.4%	1.4%	45.8%	14.6%	9.7%	7.6%	15.3%	11.8%	22.9%	31.3%	0.7%
	久志地区(N=116)	回答数	21	3	50	20	9	8	17	19	22	27
	%	18.1%	2.6%	43.1%	17.2%	7.8%	6.9%	14.7%	16.4%	19.0%	23.3%	0.9%
	一般高齢者(N=436)	回答数	68	7	158	52	37	27	65	68	85	153
	%	15.6%	1.6%	36.2%	11.9%	8.5%	6.2%	14.9%	15.6%	19.5%	35.1%	0.9%
	要支援認定者(N=63)	回答数	13	5	48	13	13	2	15	6	15	6
	%	20.6%	7.9%	76.2%	20.6%	20.6%	3.2%	23.8%	9.5%	23.8%	9.5%	0.0%
	事業対象者(N=2)	回答数	1	0	1	0	1	0	2	0	1	0
	%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%

(9) 外出する際の移動手段

外出する際の移動手段としては、「自動車（自分で運転）」が最も高く 66.4%、次いで「自動車（人に乗せてもらう）」で 25.2%、「徒歩」で 24.0%、「タクシー」で 11.3%となっています。

性別でみると、男女とも「自動車（自分で運転）」が最も高くなっています。「自動車（人に乗せてもらう）」は、男性（18.1%）より女性（31.7%）が 13.6 ポイント高くなっています。

年齢階級別に「自動車（自分で運転）」という回答割合をみると、年齢が上がるにつれ低くなる傾向にあります。「タクシー」については、80 歳以上で利用する割合が大きく上昇します。

生活圏域別に「徒歩」という回答割合をみると、「名護地区」（35.2%）が他地区よりも高くなっています。

状態別でみると、一般高齢者では「自動車（自分で運転）」が最も高く、要支援認定者では「自動車（人に乗せてもらう）」が最も高くなっています。

		徒歩	自転車	バイク	自動車(自分で運転)	自動車(人に乗せてもらう)	電車	路線バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす(カート)	歩行器・シールバーカー	タクシー	その他	無回答
全体(N=1,394)	回答数	334	90	27	926	351	1	74	37	4	3	10	158	13	19
	%	24.0%	6.5%	1.9%	66.4%	25.2%	0.1%	5.3%	2.7%	0.3%	0.2%	0.7%	11.3%	0.9%	1.4%
性別	男性(N=668)	156	61	21	517	121	1	22	10	3	1	2	50	3	4
	%	23.4%	9.1%	3.1%	77.4%	18.1%	0.1%	3.3%	1.5%	0.4%	0.1%	0.3%	7.5%	0.4%	0.6%
女性(N=726)	回答数	178	29	6	409	230	0	52	27	1	2	8	108	10	15
	%	24.5%	4.0%	0.8%	56.3%	31.7%	0.0%	7.2%	3.7%	0.1%	0.3%	1.1%	14.9%	1.4%	2.1%
年齢階級	65～69歳(N=391)	96	31	9	311	56	1	10	4	1	1	0	27	2	5
	%	24.6%	7.9%	2.3%	79.5%	14.3%	0.3%	2.6%	1.0%	0.3%	0.3%	0.0%	6.9%	0.5%	1.3%
	70～74歳(N=443)	93	30	10	339	77	0	22	4	1	0	2	29	7	9
	%	21.0%	6.8%	2.3%	76.5%	17.4%	0.0%	5.0%	0.9%	0.2%	0.0%	0.5%	6.5%	1.6%	2.0%
	75～79歳(N=233)	68	14	3	156	61	0	15	2	0	1	1	24	2	2
	%	29.2%	6.0%	1.3%	67.0%	26.2%	0.0%	6.4%	0.9%	0.0%	0.4%	0.4%	10.3%	0.9%	0.9%
	80～84歳(N=191)	48	7	2	88	77	0	17	12	1	0	1	45	1	3
	%	25.1%	3.7%	1.0%	46.1%	40.3%	0.0%	8.9%	6.3%	0.5%	0.0%	0.5%	23.6%	0.5%	1.6%
生活圏域	85～89歳(N=84)	22	5	3	27	43	0	8	7	0	1	4	23	1	0
	%	26.2%	6.0%	3.6%	32.1%	51.2%	0.0%	9.5%	8.3%	0.0%	1.2%	4.8%	27.4%	1.2%	0.0%
	90歳以上(N=52)	7	3	0	5	37	0	2	8	1	0	2	10	0	0
	%	13.5%	5.8%	0.0%	9.6%	71.2%	0.0%	3.8%	15.4%	1.9%	0.0%	3.8%	19.2%	0.0%	0.0%
	名護地区(N=335)	118	30	9	215	79	0	21	11	0	0	3	59	4	2
	%	35.2%	9.0%	2.7%	64.2%	23.6%	0.0%	6.3%	3.3%	0.0%	0.0%	0.9%	17.6%	1.2%	0.6%
	屋部地区(N=360)	79	24	7	251	75	1	18	11	0	0	1	50	2	5
	%	21.9%	6.7%	1.9%	69.7%	20.8%	0.3%	5.0%	3.1%	0.0%	0.0%	0.3%	13.9%	0.6%	1.4%
状態別	羽地・屋我地地区(N=351)	72	21	9	229	100	0	17	9	2	0	3	37	3	4
	%	20.5%	6.0%	2.6%	65.2%	28.5%	0.0%	4.8%	2.6%	0.6%	0.0%	0.9%	10.5%	0.9%	1.1%
	久志地区(N=348)	65	15	2	231	97	0	18	6	2	3	3	12	4	8
	%	18.7%	4.3%	0.6%	66.4%	27.9%	0.0%	5.2%	1.7%	0.6%	0.9%	0.9%	3.4%	1.1%	2.3%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	320	90	27	910	300	1	71	20	3	3	3	141	11	17
	%	24.4%	6.9%	2.1%	69.4%	22.9%	0.1%	5.4%	1.5%	0.2%	0.2%	0.2%	10.8%	0.8%	1.3%
	要支援認定者(N=78)	13	0	0	14	49	0	3	17	1	0	7	16	2	2
	%	16.7%	0.0%	0.0%	17.9%	62.8%	0.0%	3.8%	21.8%	1.3%	0.0%	9.0%	20.5%	2.6%	2.6%
状態別	事業対象者(N=5)	1	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	%	20.0%	0.0%	0.0%	40.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%

問3 食べることについて

(1) BMI

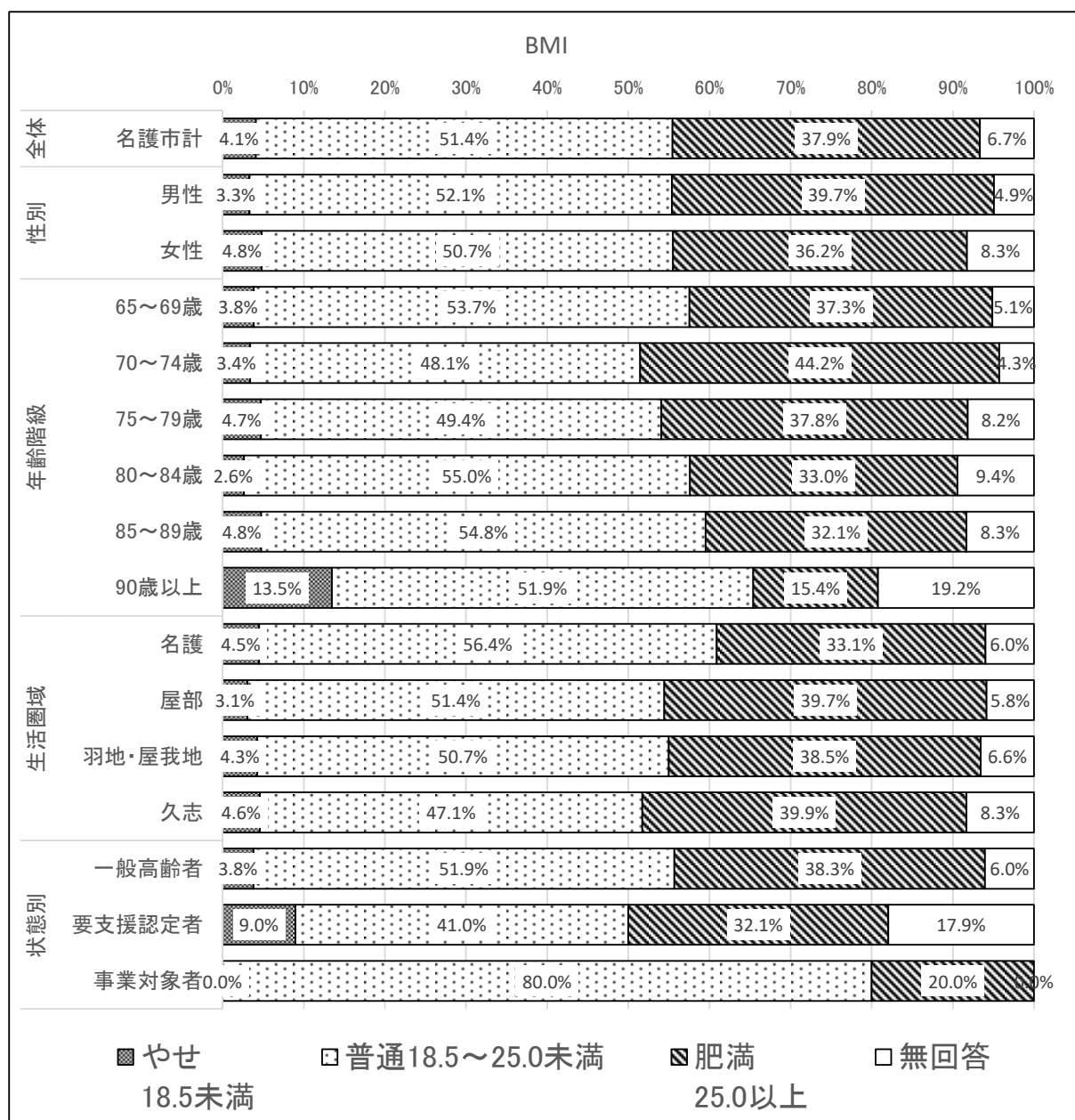
身長と体重をもとに算出した BMI (Body Mass Index: 肥満度) について、「普通 (18.5～25.0 未満)」が最も高く 51.4%、次いで「肥満 (25.0 以上)」が 37.9%、「やせ (18.5 未満)」4.1% となっています。

性別でみると、「やせ」の割合は男性より女性の方が高くなる一方で、「肥満」では女性より男性の方が高くなります。

生活圏域別でみると、他の地区と比較して屋部地区では「やせ」の割合が低く、「肥満」の割合が高くなっています。

状態別に「やせ」の割合をみると、一般高齢者 (3.8%) より要支援認定者 (9.0%) が 5.2 ポイント高くなっています。

		やせ 18.5未満	普通18.5～ 25.0未満	肥満 25.0以上	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)		回答数 57	716	528	93	1,394
		% 4.1%	51.4%	37.9%	6.7%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数 22	348	265	33	668
		% 3.3%	52.1%	39.7%	4.9%	100.0%
	女性(N=726)	回答数 35	368	263	60	726
		% 4.8%	50.7%	36.2%	8.3%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数 15	210	146	20	391
		% 3.8%	53.7%	37.3%	5.1%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数 15	213	196	19	443
		% 3.4%	48.1%	44.2%	4.3%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数 11	115	88	19	233
		% 4.7%	49.4%	37.8%	8.2%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数 5	105	63	18	191
		% 2.6%	55.0%	33.0%	9.4%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数 4	46	27	7	84
		% 4.8%	54.8%	32.1%	8.3%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数 7	27	8	10	52
		% 13.5%	51.9%	15.4%	19.2%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数 15	189	111	20	335
		% 4.5%	56.4%	33.1%	6.0%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数 11	185	143	21	360
		% 3.1%	51.4%	39.7%	5.8%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数 15	178	135	23	351
		% 4.3%	50.7%	38.5%	6.6%	100.0%
状態別	久志地区(N=348)	回答数 16	164	139	29	348
		% 4.6%	47.1%	39.9%	8.3%	100.0%
	一般高齢者(N=1,311)	回答数 50	680	502	79	1,311
		% 3.8%	51.9%	38.3%	6.0%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数 7	32	25	14	78
		% 9.0%	41.0%	32.1%	17.9%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数 0	4	1	0	5
		% 0.0%	80.0%	20.0%	0.0%	100.0%



(2) 硬いものが食べにくくなったか

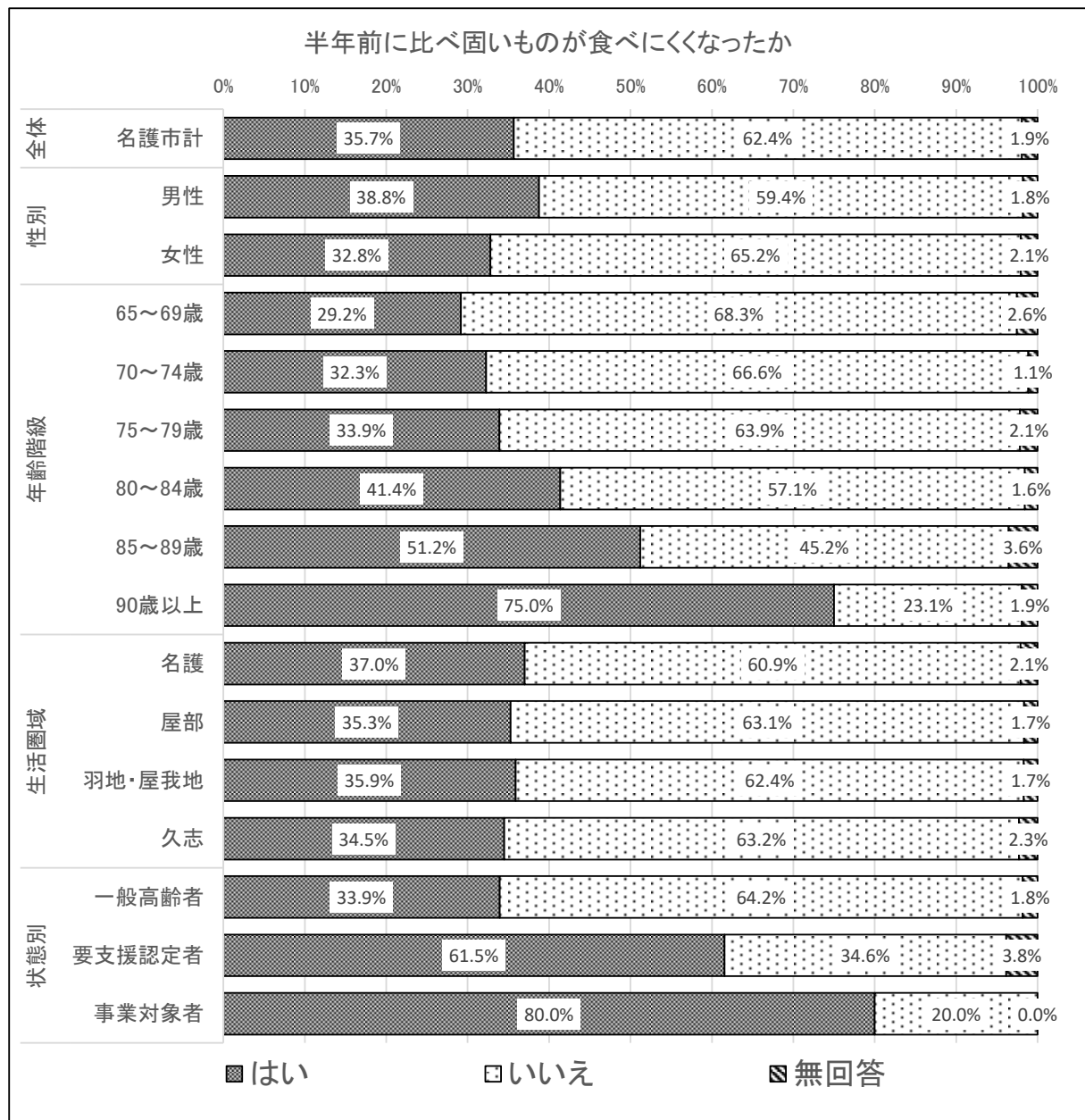
半年前と比べて硬いものが食べにくくなったかについて、「いいえ」が62.4%、「はい」が35.7%となっています。

性別で「はい」という回答割合をみると、女性(32.8%)より男性(38.8%)の方が6.0ポイント高くなります。

年齢階級別に「はい」という回答割合をみると、年齢が上がるとともに高くなる傾向にあります。

状態別に「はい」という回答割合をみると、一般高齢者が33.9%、要支援認定者が61.5%となっています。

		はい	いいえ	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)	回答数	497	870	27	1,394
	%	35.7%	62.4%	1.9%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	259	397	668
		%	38.8%	59.4%	1.8%
	女性(N=726)	回答数	238	473	726
		%	32.8%	65.2%	2.1%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	114	267	391
		%	29.2%	68.3%	2.6%
	70～74歳(N=443)	回答数	143	295	443
		%	32.3%	66.6%	1.1%
	75～79歳(N=233)	回答数	79	149	233
		%	33.9%	63.9%	2.1%
	80～84歳(N=191)	回答数	79	109	191
		%	41.4%	57.1%	1.6%
	85～89歳(N=84)	回答数	43	38	84
		%	51.2%	45.2%	3.6%
	90歳以上(N=52)	回答数	39	12	52
		%	75.0%	23.1%	1.9%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	124	204	335
		%	37.0%	60.9%	2.1%
	屋部地区(N=360)	回答数	127	227	360
		%	35.3%	63.1%	1.7%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	126	219	351
		%	35.9%	62.4%	1.7%
	久志地区(N=348)	回答数	120	220	348
		%	34.5%	63.2%	2.3%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	445	842	1,311
		%	33.9%	64.2%	1.8%
	要支援認定者(N=78)	回答数	48	27	78
		%	61.5%	34.6%	3.8%
	事業対象者(N=5)	回答数	4	1	5
		%	80.0%	20.0%	0.0%

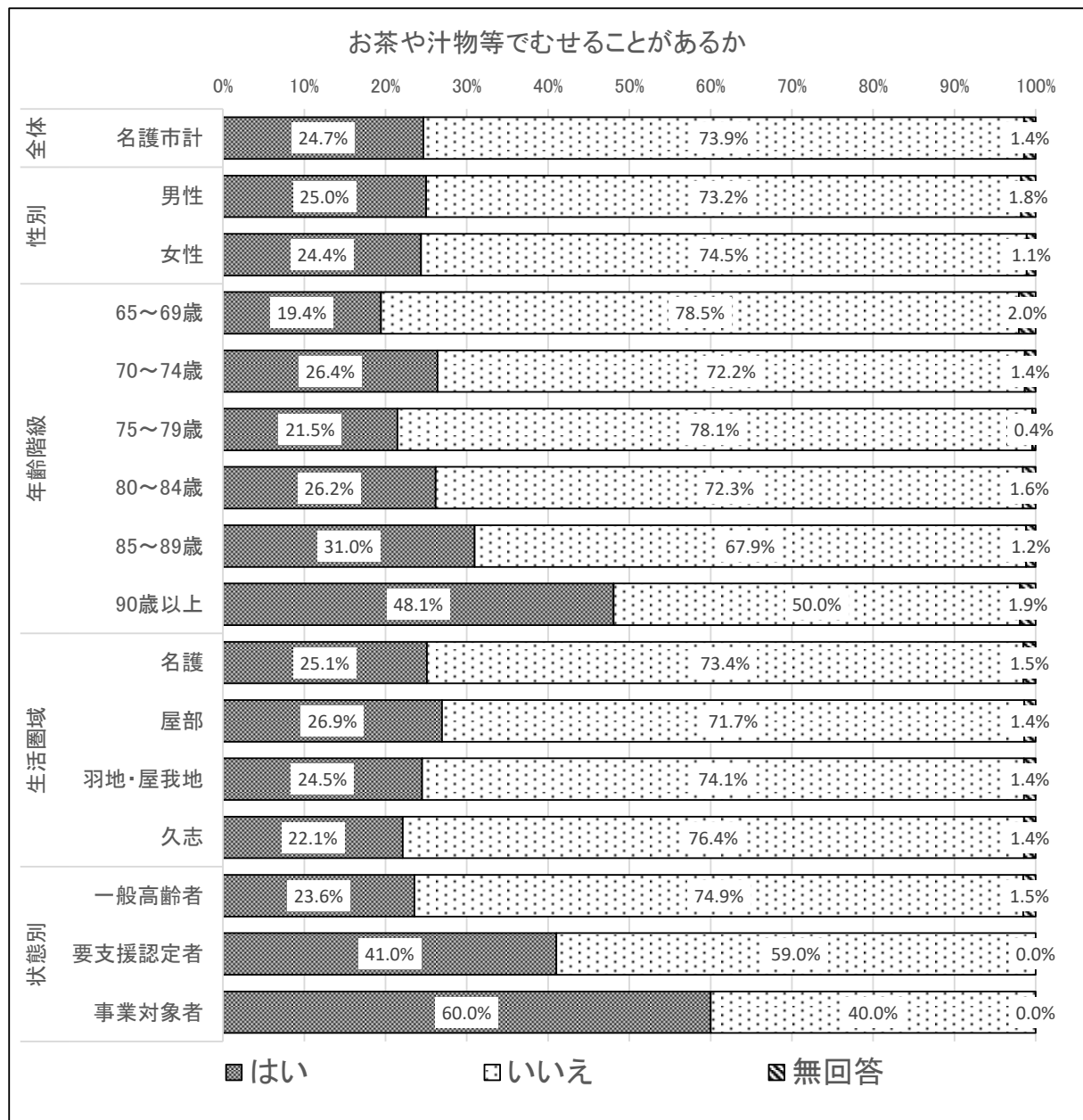


(3) お茶や汁物でむせることがあるか

お茶や汁物でむせることがあるかについて、「いいえ」が73.9%、「はい」が24.7%となっています。

状態別に「はい」という回答割合をみると、一般高齢者が23.6%、要支援認定者が41.0%となっています。

			はい	いいえ	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)		回答数	344	1,030	20	1,394
		%	24.7%	73.9%	1.4%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	167	489	12	668
		%	25.0%	73.2%	1.8%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	177	541	8	726
		%	24.4%	74.5%	1.1%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	76	307	8	391
		%	19.4%	78.5%	2.0%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	117	320	6	443
		%	26.4%	72.2%	1.4%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	50	182	1	233
		%	21.5%	78.1%	0.4%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	50	138	3	191
		%	26.2%	72.3%	1.6%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	26	57	1	84
		%	31.0%	67.9%	1.2%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	25	26	1	52
		%	48.1%	50.0%	1.9%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	84	246	5	335
		%	25.1%	73.4%	1.5%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	97	258	5	360
		%	26.9%	71.7%	1.4%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	86	260	5	351
		%	24.5%	74.1%	1.4%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	77	266	5	348
		%	22.1%	76.4%	1.4%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	309	982	20	1,311
		%	23.6%	74.9%	1.5%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	32	46	0	78
		%	41.0%	59.0%	0.0%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	3	2	0	5
		%	60.0%	40.0%	0.0%	100.0%

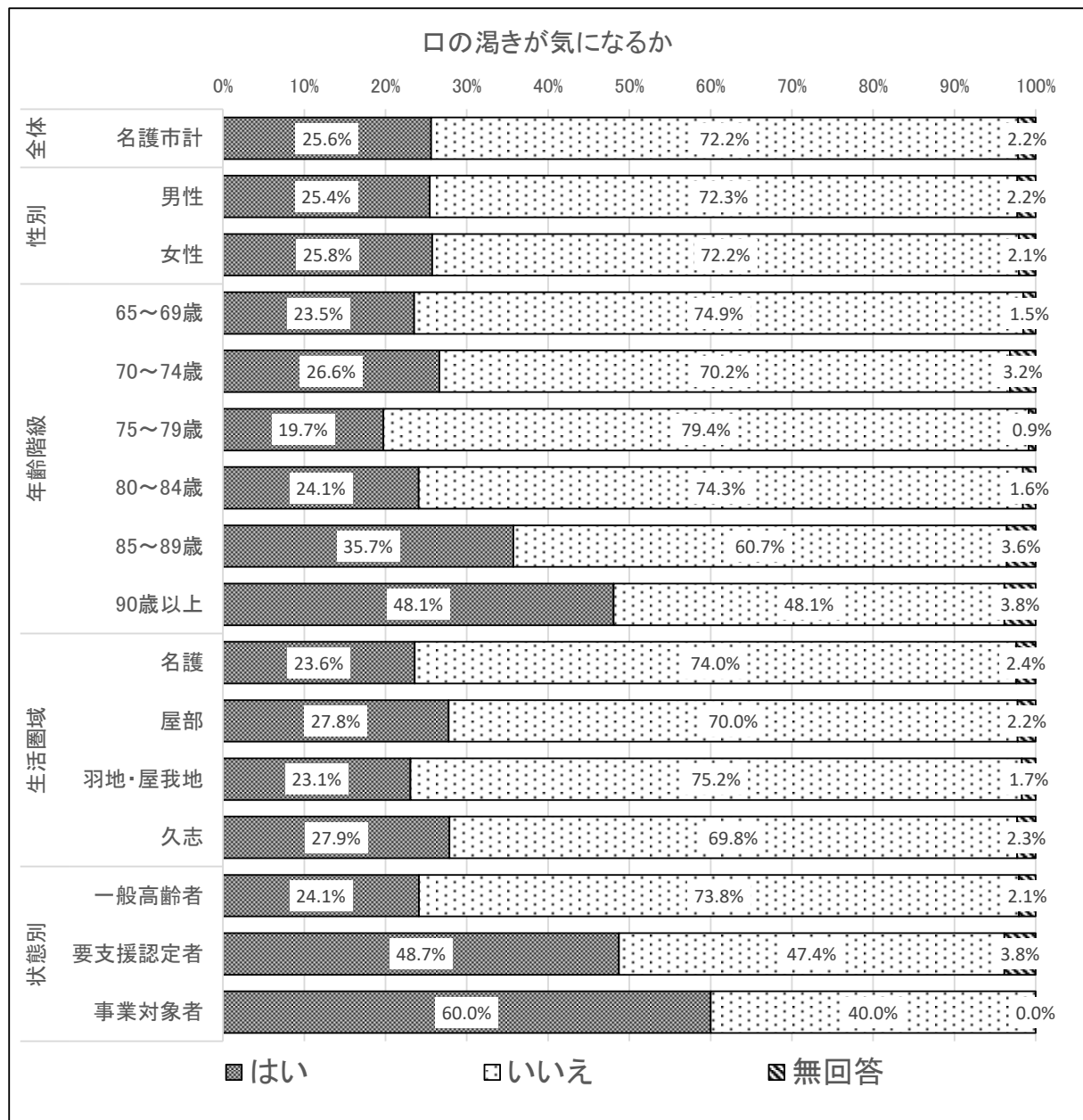


(4) 口の渇きが気になるか

口の渇きが気になるかについて、「いいえ」が 72.2%、「はい」が 25.6%となっています。

状態別に「はい」という回答割合をみると、一般高齢者が 24.1%、要支援認定者が 48.7%となっています。

			はい	いいえ	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)		回答数	357	1,007	30	1,394
		%	25.6%	72.2%	2.2%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	170	483	15	668
		%	25.4%	72.3%	2.2%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	187	524	15	726
		%	25.8%	72.2%	2.1%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	92	293	6	391
		%	23.5%	74.9%	1.5%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	118	311	14	443
		%	26.6%	70.2%	3.2%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	46	185	2	233
		%	19.7%	79.4%	0.9%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	46	142	3	191
		%	24.1%	74.3%	1.6%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	30	51	3	84
		%	35.7%	60.7%	3.6%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	25	25	2	52
		%	48.1%	48.1%	3.8%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	79	248	8	335
		%	23.6%	74.0%	2.4%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	100	252	8	360
		%	27.8%	70.0%	2.2%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	81	264	6	351
		%	23.1%	75.2%	1.7%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	97	243	8	348
		%	27.9%	69.8%	2.3%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	316	968	27	1,311
		%	24.1%	73.8%	2.1%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	38	37	3	78
		%	48.7%	47.4%	3.8%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	3	2	0	5
		%	60.0%	40.0%	0.0%	100.0%



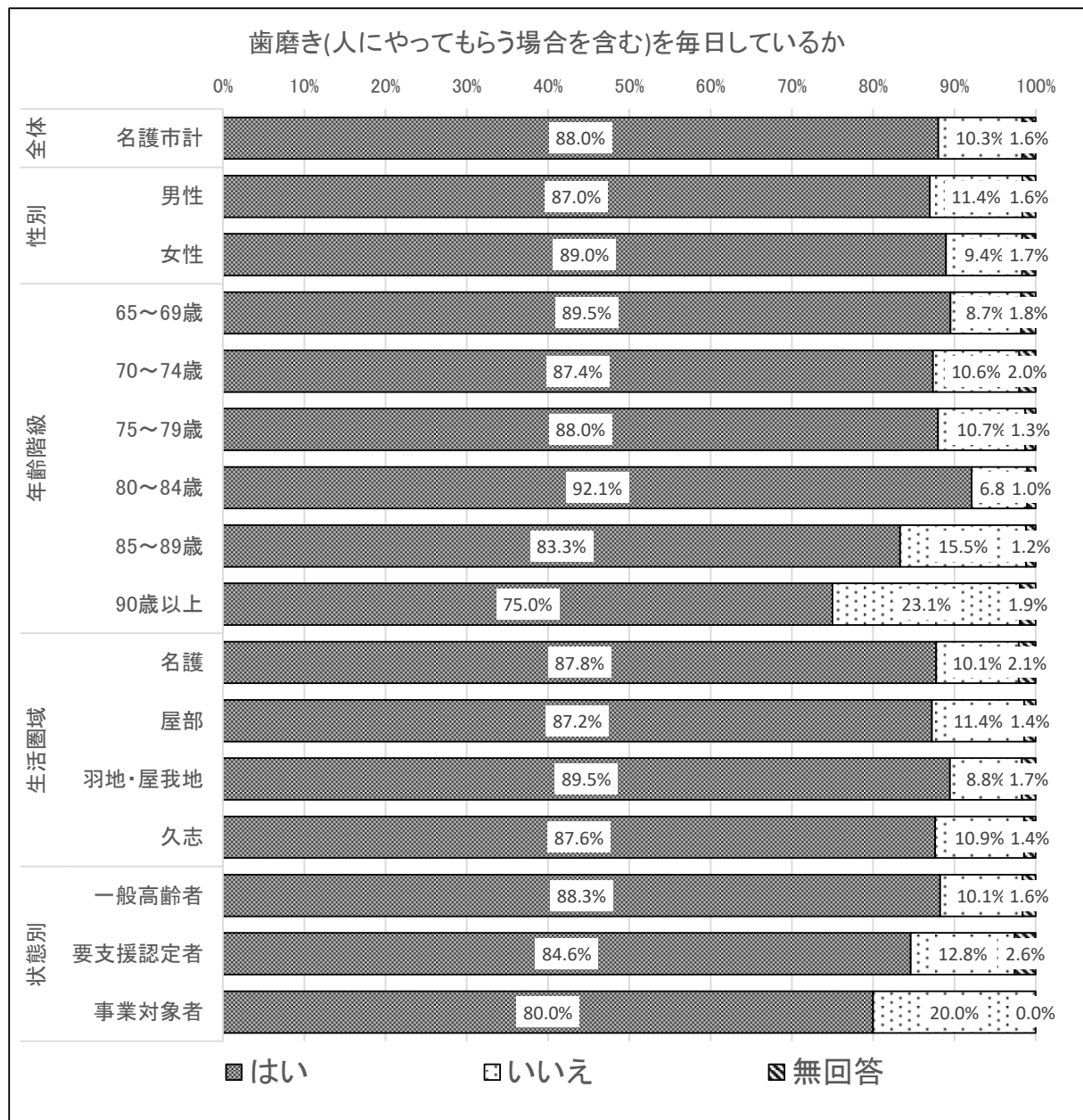
(5) 歯磨きを毎日しているか

歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日しているかについて、「はい」が88.0%、「いいえ」が10.3%となっています。

性別、年齢階級別、生活圏域別で回答割合をみても大きな違いはみられません。

状態別に「はい」という回答割合をみると、一般高齢者が88.3%、要支援認定者が84.6%となっています。

			はい	いいえ	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)		回答数	1,227	144	23	1,394
		%	88.0%	10.3%	1.6%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	581	76	11	668
		%	87.0%	11.4%	1.6%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	646	68	12	726
		%	89.0%	9.4%	1.7%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	350	34	7	391
		%	89.5%	8.7%	1.8%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	387	47	9	443
		%	87.4%	10.6%	2.0%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	205	25	3	233
		%	88.0%	10.7%	1.3%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	176	13	2	191
		%	92.1%	6.8%	1.0%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	70	13	1	84
		%	83.3%	15.5%	1.2%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	39	12	1	52
		%	75.0%	23.1%	1.9%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	294	34	7	335
		%	87.8%	10.1%	2.1%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	314	41	5	360
		%	87.2%	11.4%	1.4%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	314	31	6	351
		%	89.5%	8.8%	1.7%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	305	38	5	348
		%	87.6%	10.9%	1.4%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	1,157	133	21	1,311
		%	88.3%	10.1%	1.6%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	66	10	2	78
		%	84.6%	12.8%	2.6%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	4	1	0	5
		%	80.0%	20.0%	0.0%	100.0%



（６）歯の数と入れ歯の利用状況

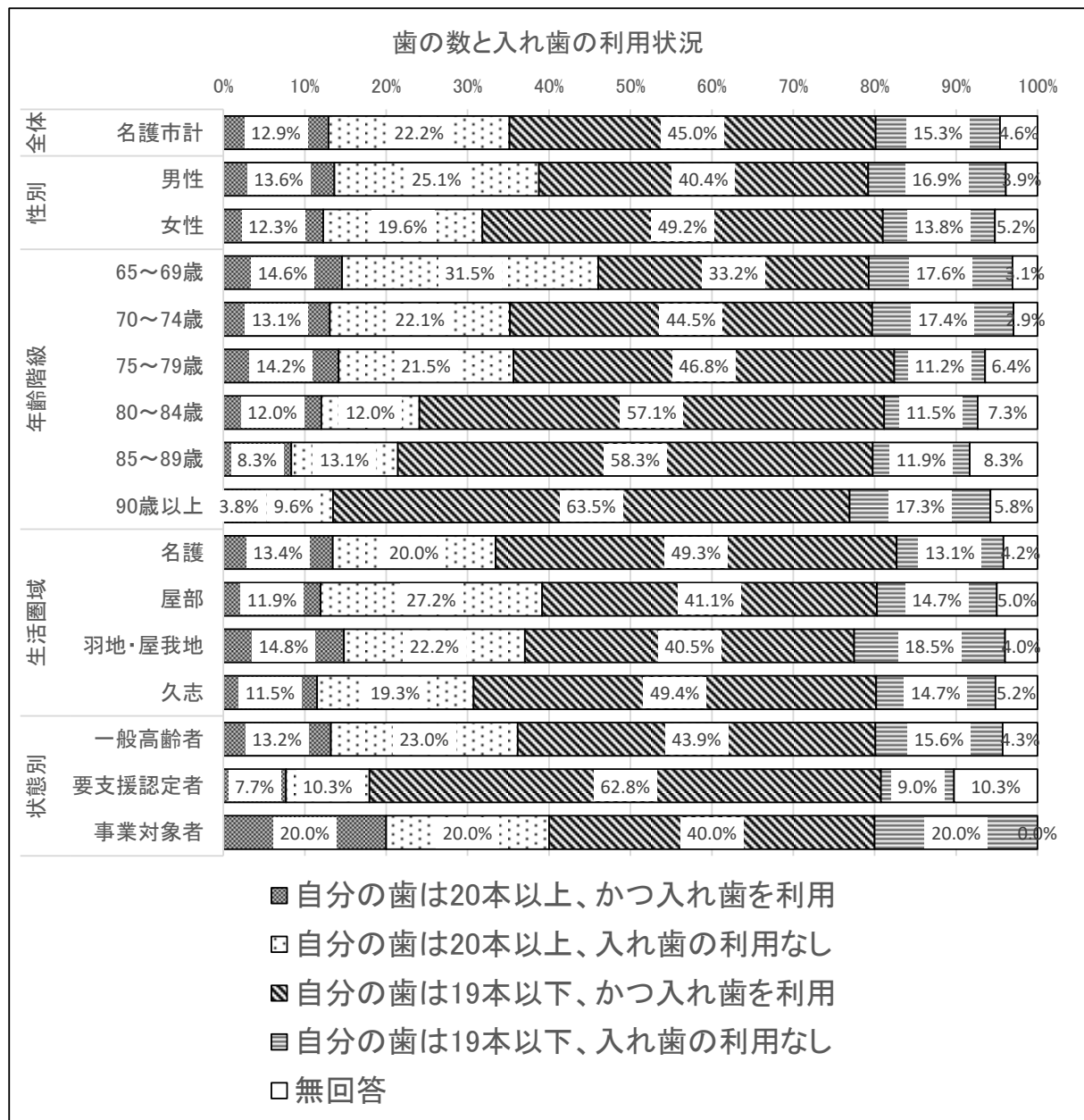
歯の数と入れ歯の利用状況については、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が最も高く 45.0%、次いで「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」で 22.2%、「自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用なし」で 15.3%、「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」で 12.9%となっています。

性別で「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」という回答割合をみると、女性（19.6%）より男性（25.1%）の方が 4.9 ポイント高くなります。

年齢階級別に「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」という回答割合をみると、年齢が上がるるとともに低くなる傾向にあります。

状態別に「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」という回答割合をみると、一般高齢者が 23.0%、要支援認定者が 10.3%となっています。

			自分の歯は 20本以上、 かつ入れ歯 を利用	自分の歯は 20本以上、 入れ歯の利 用なし	自分の歯は 19本以下、 かつ入れ歯 を利用	自分の歯は 19本以下、 入れ歯の利 用なし	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)		回答数	180	310	627	213	64	1,394
		%	12.9%	22.2%	45.0%	15.3%	4.6%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	91	168	270	113	26	668
		%	13.6%	25.1%	40.4%	16.9%	3.9%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	89	142	357	100	38	726
%		12.3%	19.6%	49.2%	13.8%	5.2%	100.0%	
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	57	123	130	69	12	391
		%	14.6%	31.5%	33.2%	17.6%	3.1%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	58	98	197	77	13	443
		%	13.1%	22.1%	44.5%	17.4%	2.9%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	33	50	109	26	15	233
		%	14.2%	21.5%	46.8%	11.2%	6.4%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	23	23	109	22	14	191
		%	12.0%	12.0%	57.1%	11.5%	7.3%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	7	11	49	10	7	84
		%	8.3%	13.1%	58.3%	11.9%	8.3%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	2	5	33	9	3	52
		%	3.8%	9.6%	63.5%	17.3%	5.8%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	45	67	165	44	14	335
		%	13.4%	20.0%	49.3%	13.1%	4.2%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	43	98	148	53	18	360
		%	11.9%	27.2%	41.1%	14.7%	5.0%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	52	78	142	65	14	351
		%	14.8%	22.2%	40.5%	18.5%	4.0%	100.0%
久志地区(N=348)	回答数	40	67	172	51	18	348	
	%	11.5%	19.3%	49.4%	14.7%	5.2%	100.0%	
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	173	301	576	205	56	1,311
		%	13.2%	23.0%	43.9%	15.6%	4.3%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	6	8	49	7	8	78
		%	7.7%	10.3%	62.8%	9.0%	10.3%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	1	1	2	1	0	5
		%	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%	0.0%	100.0%



(6) 噛み合わせは良いか

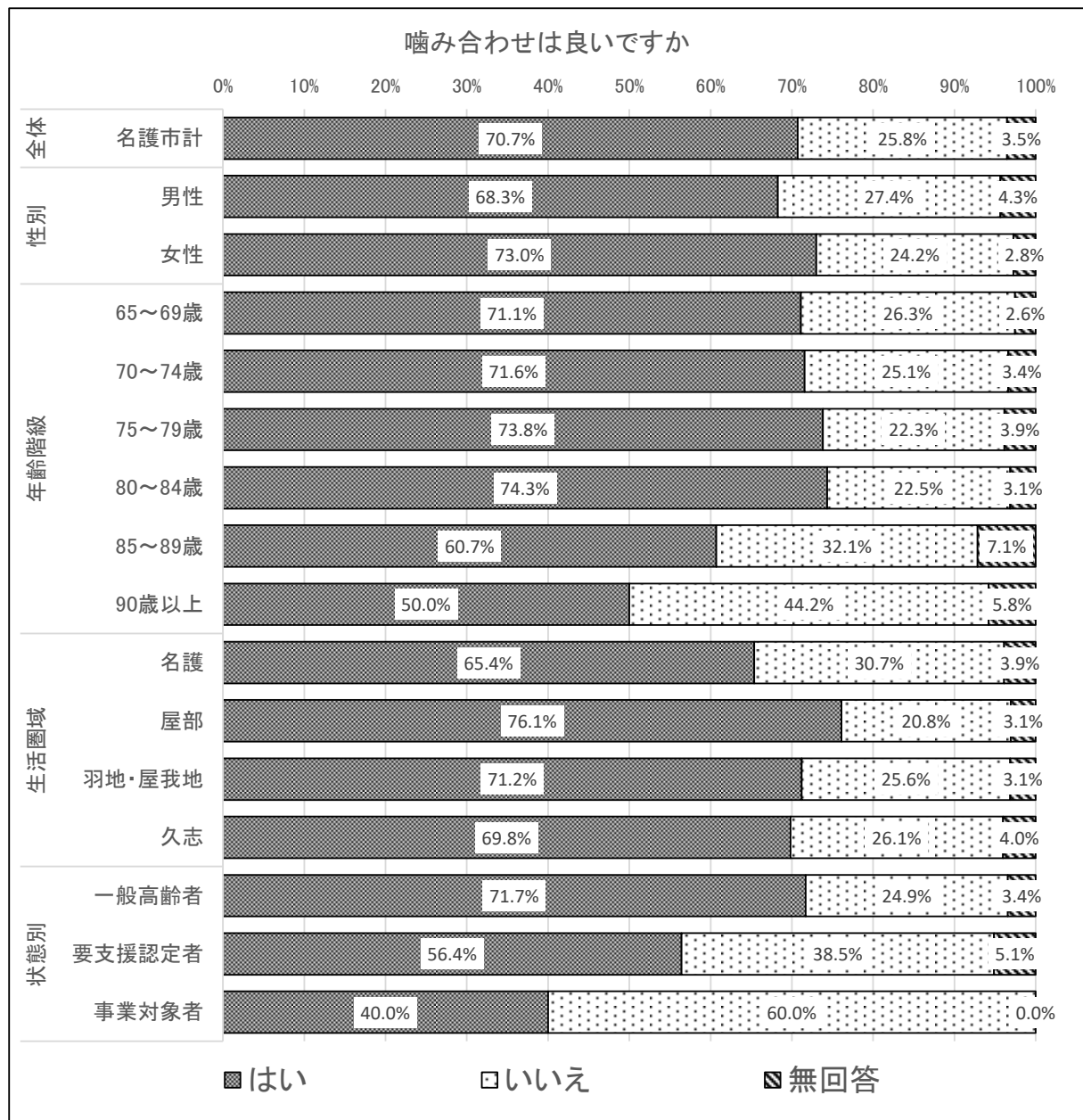
噛み合わせは良いかについて、「いいえ」が72.2%、「はい」が25.6%となっています。

性別で「はい」という回答割合をみると、女性(32.8%)より男性(38.8%)の方が6.0ポイント高くなります。

年齢階級別に「はい」という回答割合をみると、年齢が上がるとともに高くなる傾向にあります。

状態別に「はい」という回答割合をみると、一般高齢者が33.9%、要支援認定者が61.5%となっています。

		はい	いいえ	無回答	回答数 合計	
全体(N=1,394)		回答数 986 70.7%	359 25.8%	49 3.5%	1,394 100.0%	
性別	男性(N=668)	回答数 456 68.3%	183 27.4%	29 4.3%	668 100.0%	
	女性(N=726)	回答数 530 73.0%	176 24.2%	20 2.8%	726 100.0%	
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数 278 71.1%	103 26.3%	10 2.6%	391 100.0%	
	70～74歳(N=443)	回答数 317 71.6%	111 25.1%	15 3.4%	443 100.0%	
	75～79歳(N=233)	回答数 172 73.8%	52 22.3%	9 3.9%	233 100.0%	
	80～84歳(N=191)	回答数 142 74.3%	43 22.5%	6 3.1%	191 100.0%	
	85～89歳(N=84)	回答数 51 60.7%	27 32.1%	6 7.1%	84 100.0%	
	90歳以上(N=52)	回答数 26 50.0%	23 44.2%	3 5.8%	52 100.0%	
	生活圏域	名護地区(N=335)	回答数 219 65.4%	103 30.7%	13 3.9%	335 100.0%
		屋部地区(N=360)	回答数 274 76.1%	75 20.8%	11 3.1%	360 100.0%
		羽地・屋我地地区(N=351)	回答数 250 71.2%	90 25.6%	11 3.1%	351 100.0%
		久志地区(N=348)	回答数 243 69.8%	91 26.1%	14 4.0%	348 100.0%
		状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数 940 71.7%	326 24.9%	45 3.4%
	要支援認定者(N=78)		回答数 44 56.4%	30 38.5%	4 5.1%	78 100.0%
事業対象者(N=5)	回答数 2 40.0%		3 60.0%	0 0.0%	5 100.0%	



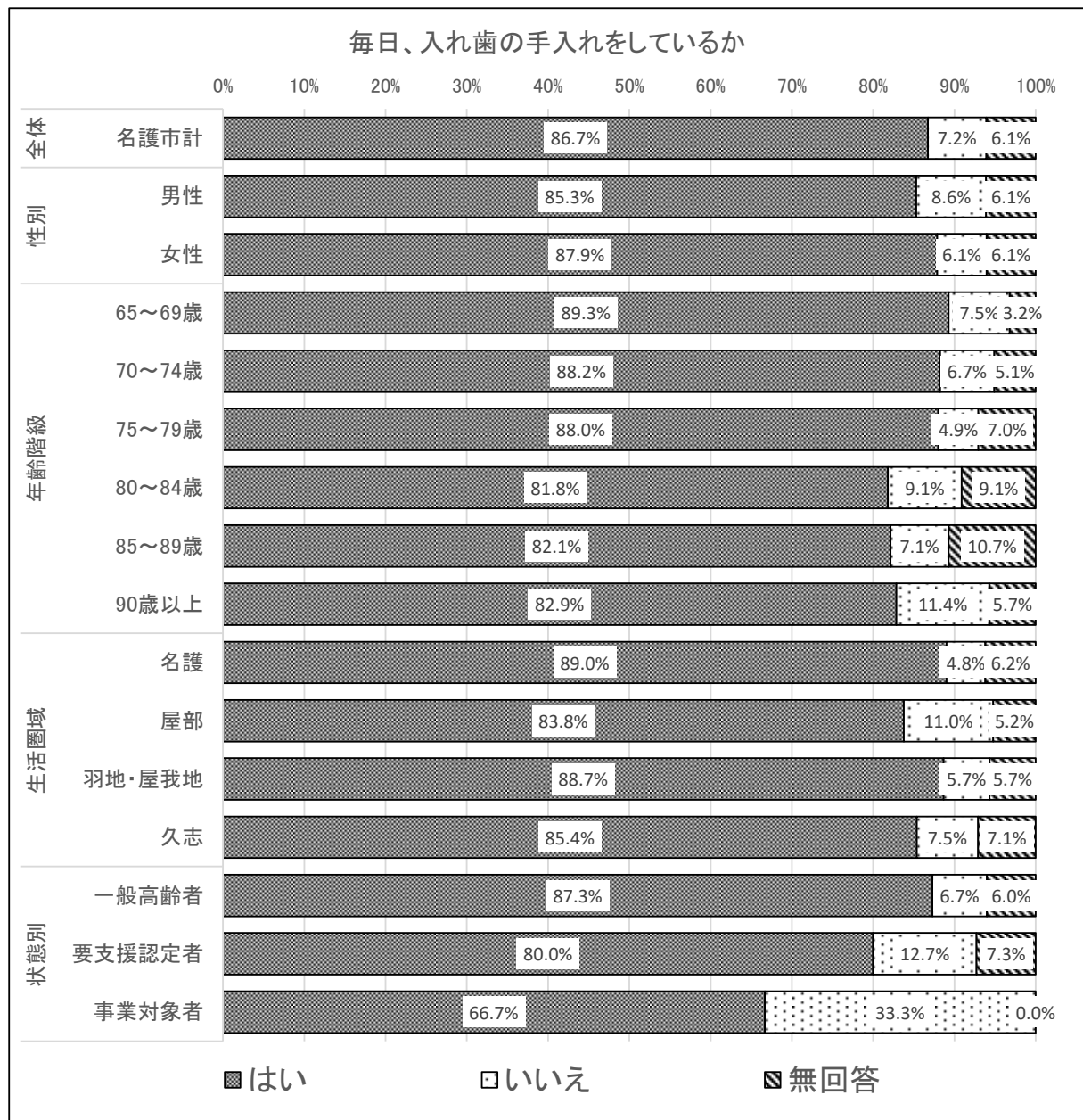
(6) 毎日、入れ歯の手入れしているか（入れ歯の利用者）

毎日、入れ歯の手入れしているかについて、「はい」が 86.7%、「いいえ」が 7.2%となっています。

性別、年齢階級別、生活圏域別で回答割合の大きな差はみられません。

状態別に「はい」という回答割合をみると、一般高齢者が 87.3%、要支援認定者が 80.0%となっています。

		はい	いいえ	無回答	回答数 合計
全体(N=807)					
	回答数	700	58	49	807
	%	86.7%	7.2%	6.1%	100.0%
性別	男性(N=361)				
	回答数	308	31	22	361
	%	85.3%	8.6%	6.1%	100.0%
	女性(N=446)				
	回答数	392	27	27	446
	%	87.9%	6.1%	6.1%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=187)				
	回答数	167	14	6	187
	%	89.3%	7.5%	3.2%	100.0%
	70～74歳(N=255)				
	回答数	225	17	13	255
	%	88.2%	6.7%	5.1%	100.0%
	75～79歳(N=142)				
	回答数	125	7	10	142
	%	88.0%	4.9%	7.0%	100.0%
	80～84歳(N=132)				
	回答数	108	12	12	132
	%	81.8%	9.1%	9.1%	100.0%
生活圏域	85～89歳(N=56)				
	回答数	46	4	6	56
	%	82.1%	7.1%	10.7%	100.0%
	90歳以上(N=35)				
	回答数	29	4	2	35
	%	82.9%	11.4%	5.7%	100.0%
	名護地区(N=210)				
	回答数	187	10	13	210
	%	89.0%	4.8%	6.2%	100.0%
	屋部地区(N=191)				
	回答数	160	21	10	191
	%	83.8%	11.0%	5.2%	100.0%
状態別	羽地・屋我地地区(N=194)				
	回答数	172	11	11	194
	%	88.7%	5.7%	5.7%	100.0%
	久志地区(N=212)				
	回答数	181	16	15	212
	%	85.4%	7.5%	7.1%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=749)				
	回答数	654	50	45	749
	%	87.3%	6.7%	6.0%	100.0%
	要支援認定者(N=55)				
	回答数	44	7	4	55
	%	80.0%	12.7%	7.3%	100.0%
	事業対象者(N=3)				
	回答数	2	1	0	3
	%	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%



(7) 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか

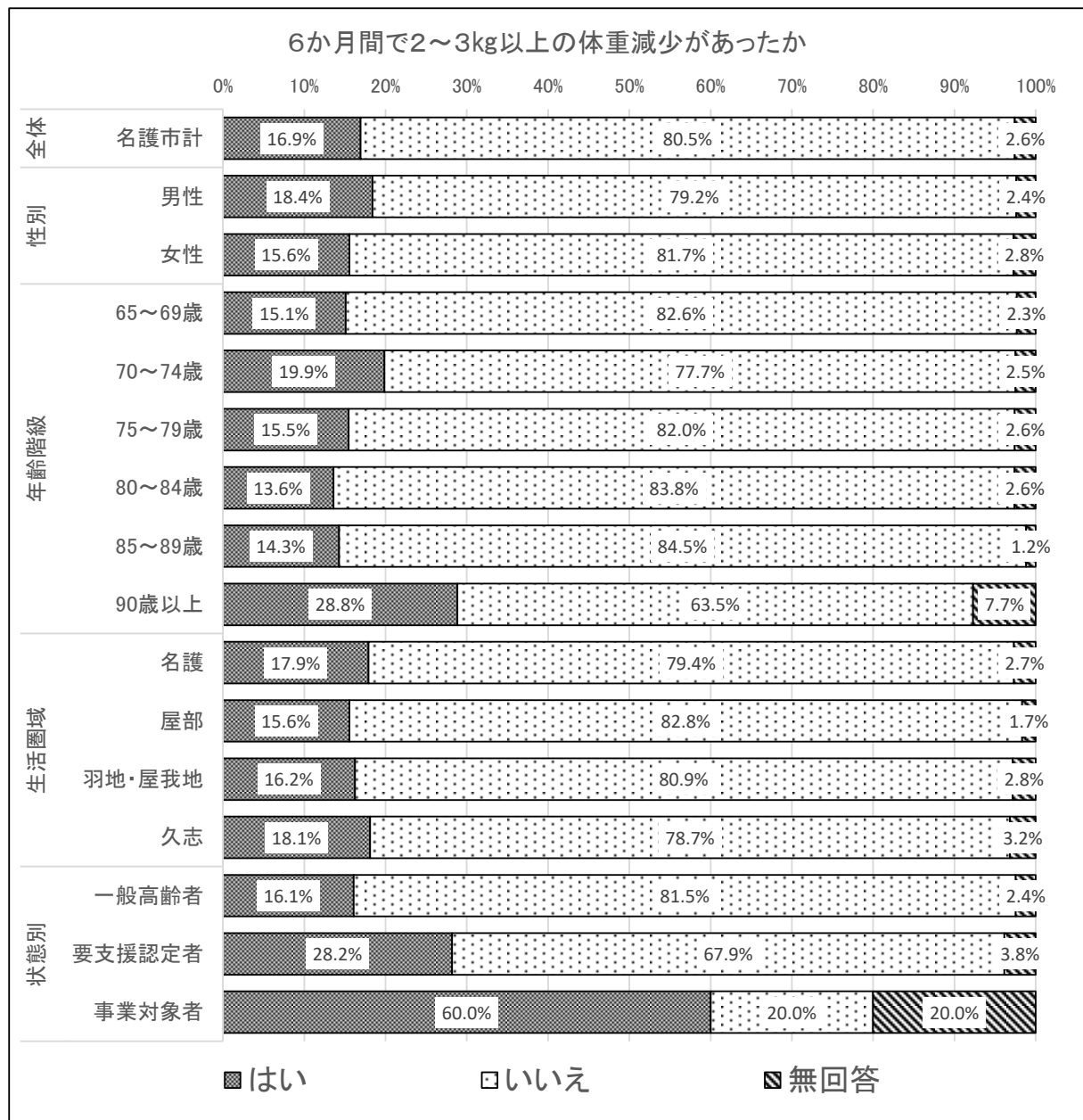
6か月間で2～3kg以上の体重減少があったかについて、「いいえ」が80.5%、「はい」が16.9%となっています。

性別で「はい」という回答割合をみると、女性（15.6%）より男性（18.4%）の方が2.8ポイント高くなります。

年齢階級別、生活圏域別の回答割合では大きな差はみられません。

状態別に「はい」という回答割合をみると、一般高齢者が16.1%、要支援認定者が28.2%となっています。

		はい	いいえ	無回答	回答数 合計	
全体(N=1,394)		回答数 236 16.9%	1,122 80.5%	36 2.6%	1,394 100.0%	
性別	男性(N=668)	回答数 123 18.4%	529 79.2%	16 2.4%	668 100.0%	
	女性(N=726)	回答数 113 15.6%	593 81.7%	20 2.8%	726 100.0%	
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数 59 15.1%	323 82.6%	9 2.3%	391 100.0%	
	70～74歳(N=443)	回答数 88 19.9%	344 77.7%	11 2.5%	443 100.0%	
	75～79歳(N=233)	回答数 36 15.5%	191 82.0%	6 2.6%	233 100.0%	
	80～84歳(N=191)	回答数 26 13.6%	160 83.8%	5 2.6%	191 100.0%	
	85～89歳(N=84)	回答数 12 14.3%	71 84.5%	1 1.2%	84 100.0%	
	90歳以上(N=52)	回答数 15 28.8%	33 63.5%	4 7.7%	52 100.0%	
	生活圏域	名護地区(N=335)	回答数 60 17.9%	266 79.4%	9 2.7%	335 100.0%
		屋部地区(N=360)	回答数 56 15.6%	298 82.8%	6 1.7%	360 100.0%
羽地・屋我地地区(N=351)		回答数 57 16.2%	284 80.9%	10 2.8%	351 100.0%	
久志地区(N=348)		回答数 63 18.1%	274 78.7%	11 3.2%	348 100.0%	
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数 211 16.1%	1,068 81.5%	32 2.4%	1,311 100.0%	
	要支援認定者(N=78)	回答数 22 28.2%	53 67.9%	3 3.8%	78 100.0%	
	事業対象者(N=5)	回答数 3 60.0%	1 20.0%	1 20.0%	5 100.0%	



(8) どなたかと食事をとにもする機会あるか

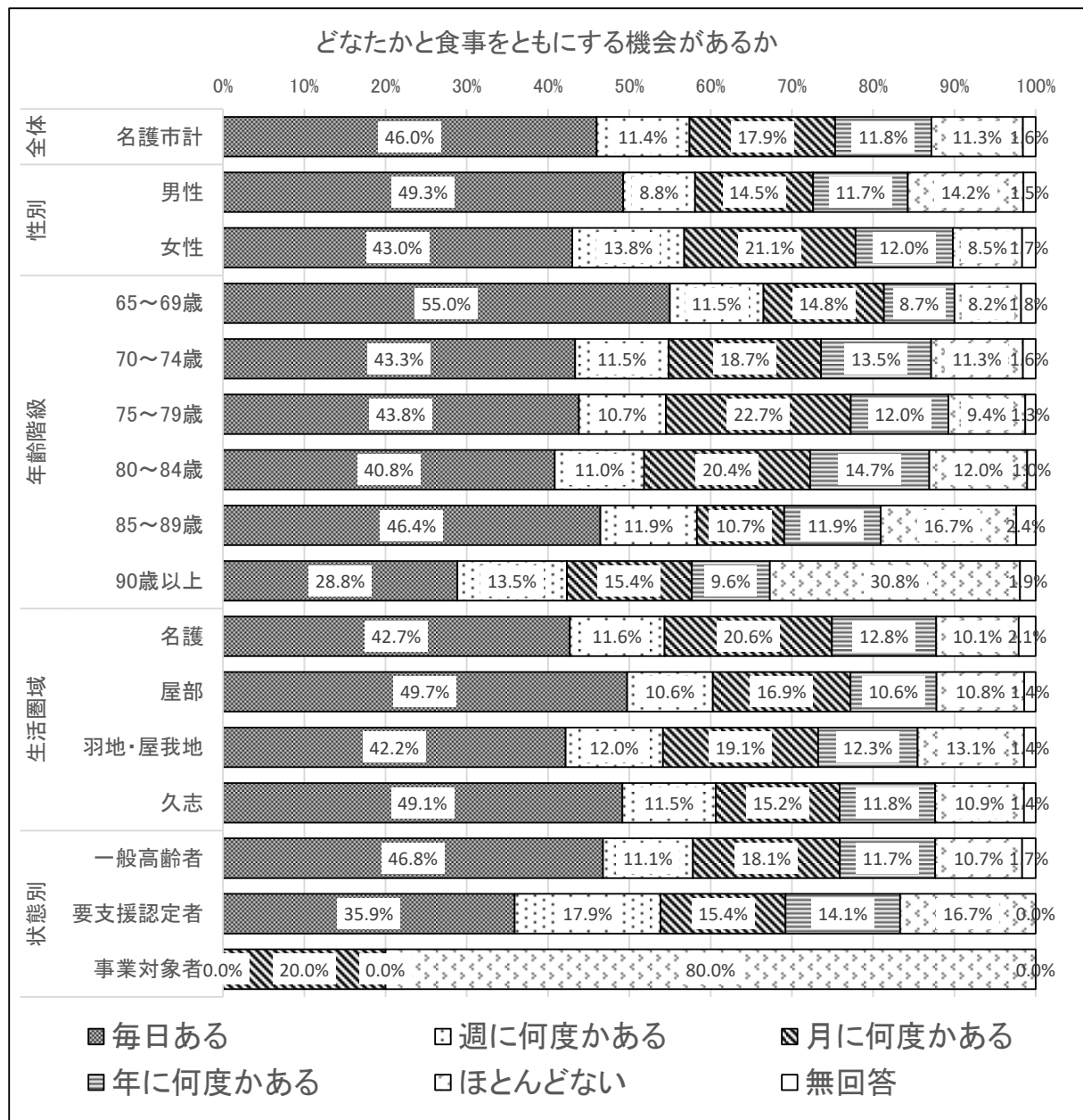
どなたかと食事をとにもする機会あるかについて、「毎日ある」が最も高く 46.0%、次いで「月に何度かある」で 17.9%、「年に何度かある」で 11.8%、「週に何度かある」で 11.4%、「ほとんどない」で 11.3%となっています。

性別で「ほとんどない」という回答割合をみると、女性（8.5%）より男性（14.2%）の方が 5.7 ポイント高くなります。

年齢階級別、生活圏域別の回答割合では大きな差はみられません。

状態別に「ほとんどない」という回答割合をみると、一般高齢者が 10.7%、要支援認定者が 16.7%となっています。

		毎日ある	週に何度かある	月に何度かある	年に何度かある	ほとんどない	無回答	回答数合計		
全体(N=1,394)		回答数 641 46.0%	159 11.4%	250 17.9%	165 11.8%	157 11.3%	22 1.6%	1,394 100.0%		
性別	男性(N=668)	回答数 329 49.3%	59 8.8%	97 14.5%	78 11.7%	95 14.2%	10 1.5%	668 100.0%		
	女性(N=726)	回答数 312 43.0%	100 13.8%	153 21.1%	87 12.0%	62 8.5%	12 1.7%	726 100.0%		
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数 215 55.0%	45 11.5%	58 14.8%	34 8.7%	32 8.2%	7 1.8%	391 100.0%		
	70～74歳(N=443)	回答数 192 43.3%	51 11.5%	83 18.7%	60 13.5%	50 11.3%	7 1.6%	443 100.0%		
	75～79歳(N=233)	回答数 102 43.8%	25 10.7%	53 22.7%	28 12.0%	22 9.4%	3 1.3%	233 100.0%		
	80～84歳(N=191)	回答数 78 40.8%	21 11.0%	39 20.4%	28 14.7%	23 12.0%	2 1.0%	191 100.0%		
	85～89歳(N=84)	回答数 39 46.4%	10 11.9%	9 10.7%	10 11.9%	14 16.7%	2 2.4%	84 100.0%		
	90歳以上(N=52)	回答数 15 28.8%	7 13.5%	8 15.4%	5 9.6%	16 30.8%	1 1.9%	52 100.0%		
	生活圏域	名護地区(N=335)	回答数 143 42.7%	39 11.6%	69 20.6%	43 12.8%	34 10.1%	7 2.1%	335 100.0%	
		屋部地区(N=360)	回答数 179 49.7%	38 10.6%	61 16.9%	38 10.6%	39 10.8%	5 1.4%	360 100.0%	
		羽地・屋我地地区(N=351)	回答数 148 42.2%	42 12.0%	67 19.1%	43 12.3%	46 13.1%	5 1.4%	351 100.0%	
		久志地区(N=348)	回答数 171 49.1%	40 11.5%	53 15.2%	41 11.8%	38 10.9%	5 1.4%	348 100.0%	
		状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数 613 46.8%	145 11.1%	237 18.1%	154 11.7%	140 10.7%	22 1.7%	1,311 100.0%
			要支援認定者(N=78)	回答数 28 35.9%	14 17.9%	12 15.4%	11 14.1%	13 16.7%	0 0.0%	78 100.0%
事業対象者(N=5)	回答数 0 0.0%		0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	4 80.0%	0 0.0%	5 100.0%		



問4 毎日の生活について

(1) 物忘れが多いと感じるか

物忘れが多いと感じるかについて、「いいえ」が59.8%、「はい」で37.2%となっています。

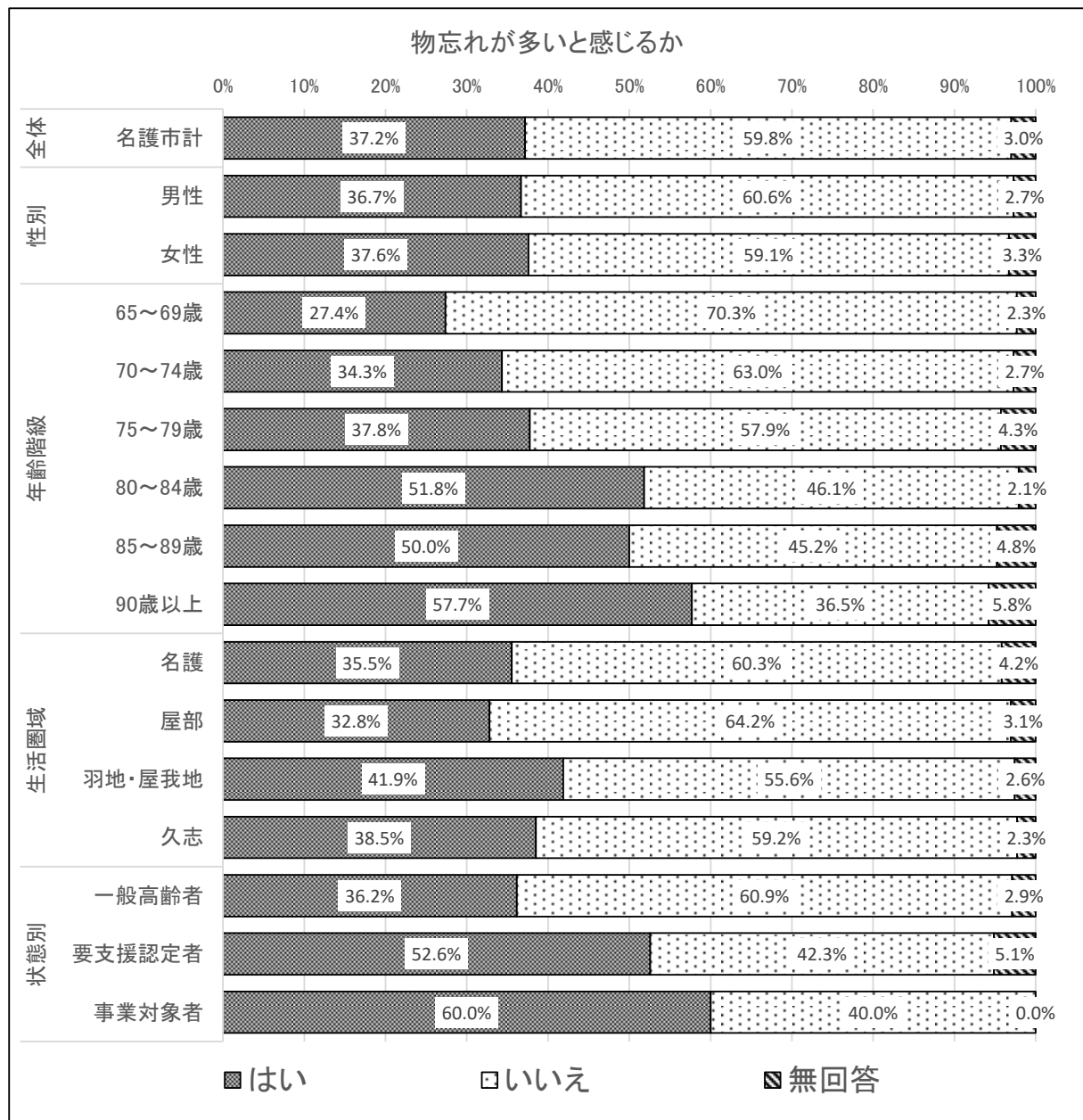
性別で回答割合をみても大きな違いはみられません。

年齢階級別に「はい」という割合割合をみると、年齢が上がるにつれ高くなる傾向にあります。

生活圏域別に「はい」という回答割合をみると、羽地・屋我地地区(41.9%)が他の地区より高くなっています。

状態別に「はい」という回答割合をみると、一般高齢者が36.2%、要支援認定者が52.6%となっています。

			はい	いいえ	無回答	回答数 合計
	全体(N=1,394)	回答数	518	834	42	1,394
		%	37.2%	59.8%	3.0%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	245	405	18	668
		%	36.7%	60.6%	2.7%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	273	429	24	726
		%	37.6%	59.1%	3.3%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	107	275	9	391
		%	27.4%	70.3%	2.3%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	152	279	12	443
		%	34.3%	63.0%	2.7%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	88	135	10	233
		%	37.8%	57.9%	4.3%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	99	88	4	191
		%	51.8%	46.1%	2.1%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	42	38	4	84
		%	50.0%	45.2%	4.8%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	30	19	3	52
		%	57.7%	36.5%	5.8%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	119	202	14	335
		%	35.5%	60.3%	4.2%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	118	231	11	360
		%	32.8%	64.2%	3.1%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	147	195	9	351
		%	41.9%	55.6%	2.6%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	134	206	8	348
		%	38.5%	59.2%	2.3%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	474	799	38	1,311
		%	36.2%	60.9%	2.9%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	41	33	4	78
		%	52.6%	42.3%	5.1%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	3	2	0	5
		%	60.0%	40.0%	0.0%	100.0%



(1) 物忘れについて受診や相談をしたか

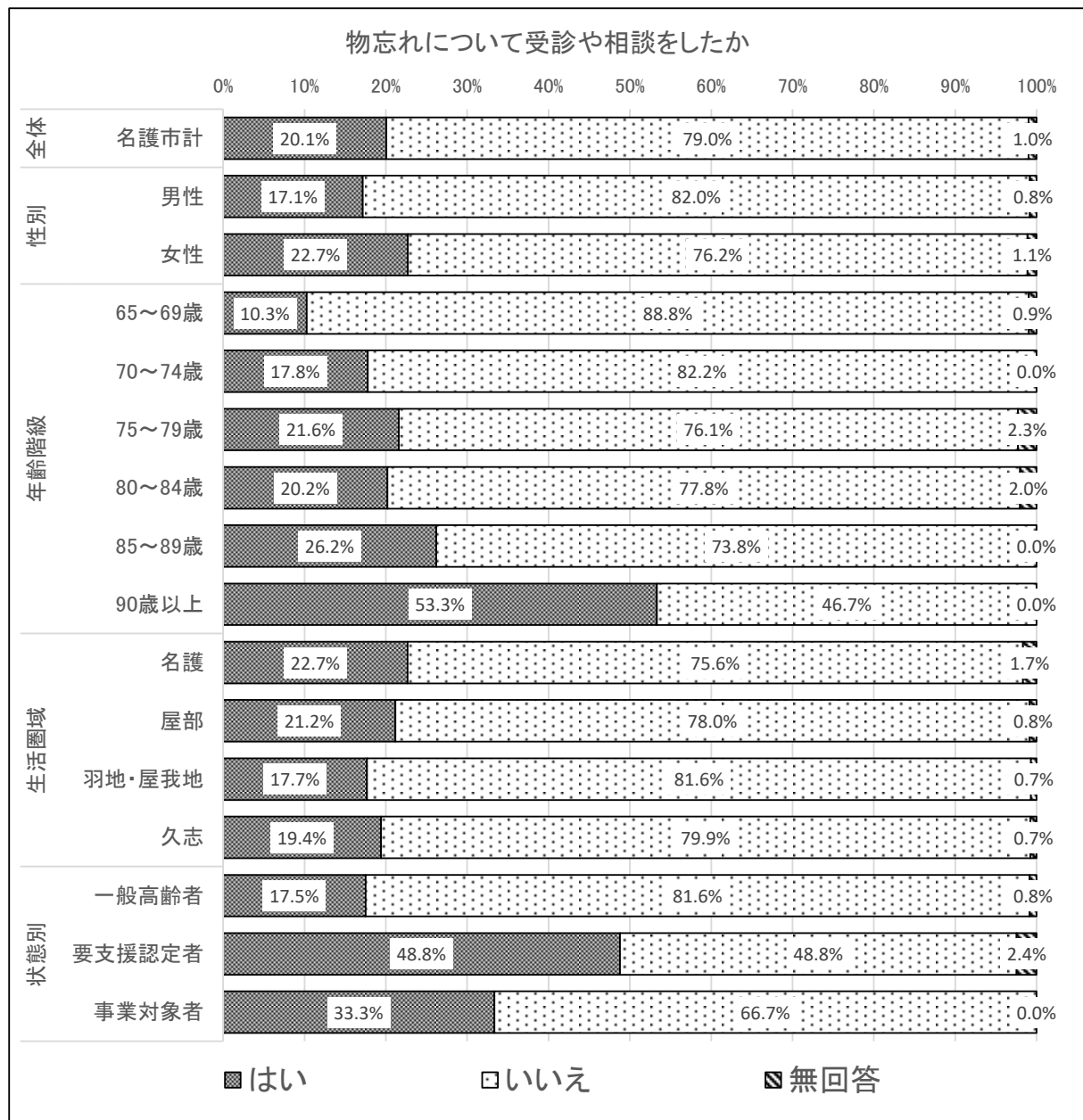
物忘れについて受診や相談をしたかについて、「いいえ」が 79.0%、「はい」で 20.1%となっています。

性別で「はい」という割合割合をみると、男性（17.1%）より女性（22.7%）の方が高くなっています。

年齢階級別に「はい」という割合割合をみると、年齢が上がるにつれ高くなる傾向にあります。

状態別に「はい」という回答割合をみると、一般高齢者が 17.5%、要支援認定者が 48.8%となっています。

			はい	いいえ	無回答	回答数 合計
全体(N=518)		回答数	104	409	5	518
		%	20.1%	79.0%	1.0%	100.0%
性別	男性(N=245)	回答数	42	201	2	245
		%	17.1%	82.0%	0.8%	100.0%
	女性(N=273)	回答数	62	208	3	273
		%	22.7%	76.2%	1.1%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=107)	回答数	11	95	1	107
		%	10.3%	88.8%	0.9%	100.0%
	70～74歳(N=152)	回答数	27	125	0	152
		%	17.8%	82.2%	0.0%	100.0%
	75～79歳(N=88)	回答数	19	67	2	88
		%	21.6%	76.1%	2.3%	100.0%
	80～84歳(N=99)	回答数	20	77	2	99
		%	20.2%	77.8%	2.0%	100.0%
	85～89歳(N=42)	回答数	11	31	0	42
		%	26.2%	73.8%	0.0%	100.0%
	90歳以上(N=30)	回答数	16	14	0	30
		%	53.3%	46.7%	0.0%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=119)	回答数	27	90	2	119
		%	22.7%	75.6%	1.7%	100.0%
	屋部地区(N=118)	回答数	25	92	1	118
		%	21.2%	78.0%	0.8%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=147)	回答数	26	120	1	147
		%	17.7%	81.6%	0.7%	100.0%
	久志地区(N=134)	回答数	26	107	1	134
		%	19.4%	79.9%	0.7%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=474)	回答数	83	387	4	474
		%	17.5%	81.6%	0.8%	100.0%
	要支援認定者(N=41)	回答数	20	20	1	41
		%	48.8%	48.8%	2.4%	100.0%
	事業対象者(N=3)	回答数	1	2	0	3
		%	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%



(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけているか

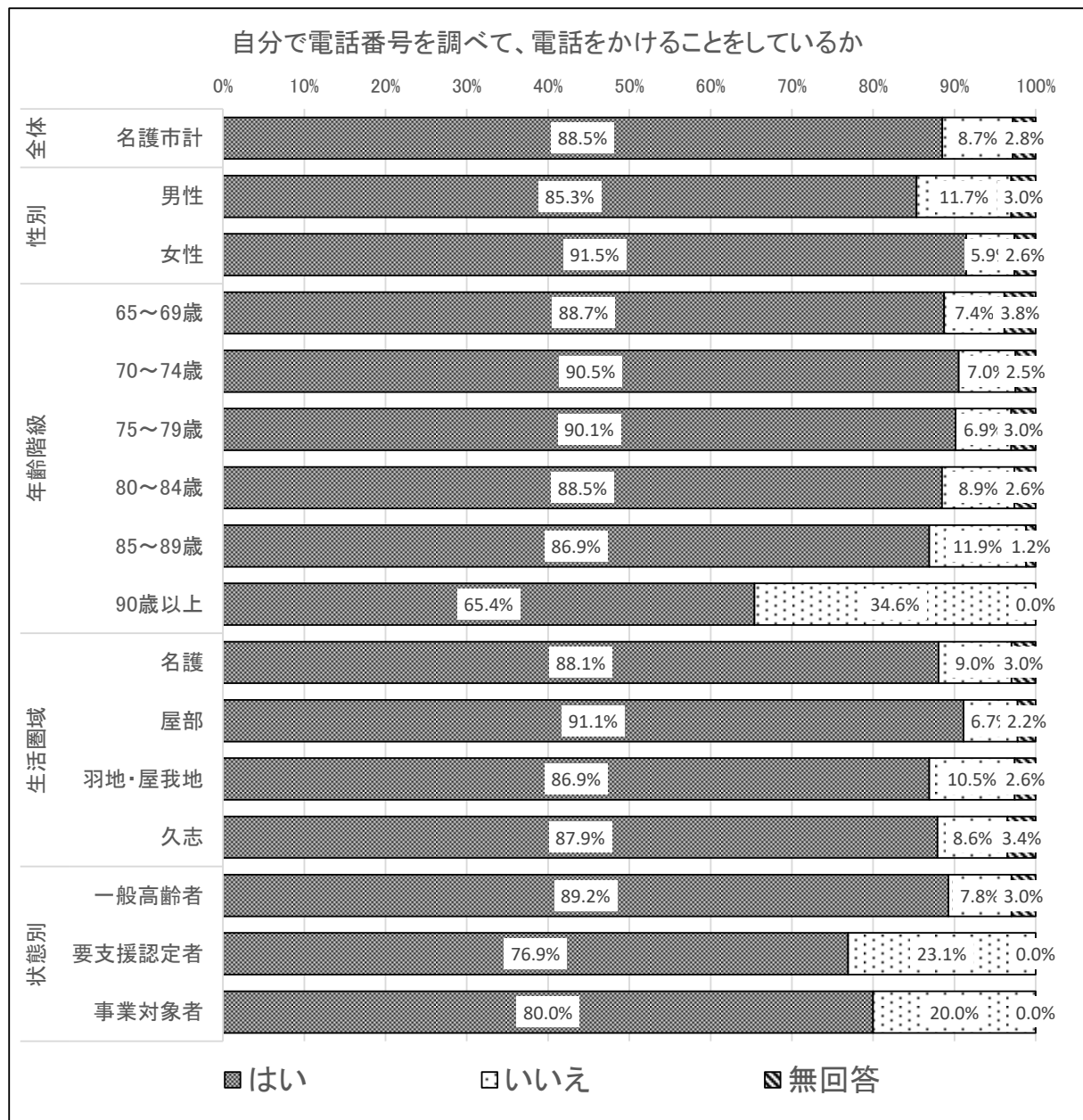
自分で電話番号を調べて、電話をかけているかについて、「はい」が88.5%、「いいえ」で8.7%となっています。

性別で「はい」という回答割合をみると、男性（85.3%）より女性（91.5%）の方が6.2ポイント高くなっています。

年齢階級別、生活圏域別の割合割合に大きな違いはみられません。

状態別に「はい」という回答割合をみると、一般高齢者が17.5%、要支援認定者が48.8%となっています。

		はい	いいえ	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)	回答数	1,234	121	39	1,394
	%	88.5%	8.7%	2.8%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	570	78	668
		%	85.3%	11.7%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	664	43	726
		%	91.5%	5.9%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	347	29	391
		%	88.7%	7.4%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	401	31	443
		%	90.5%	7.0%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	210	16	233
		%	90.1%	6.9%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	169	17	191
		%	88.5%	8.9%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	73	10	84
		%	86.9%	11.9%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	34	18	52
		%	65.4%	34.6%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	295	30	335
		%	88.1%	9.0%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	328	24	360
		%	91.1%	6.7%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	305	37	351
		%	86.9%	10.5%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	306	30	348
		%	87.9%	8.6%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	1,170	102	1,311
		%	89.2%	7.8%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	60	18	78
		%	76.9%	23.1%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	4	1	5
		%	80.0%	20.0%	100.0%



(3) 今日が何月何日かわからない時があるか

今日が何月何日かわからない時があるかについて、「いいえ」が70.2%、「はい」が26.6%となっています。

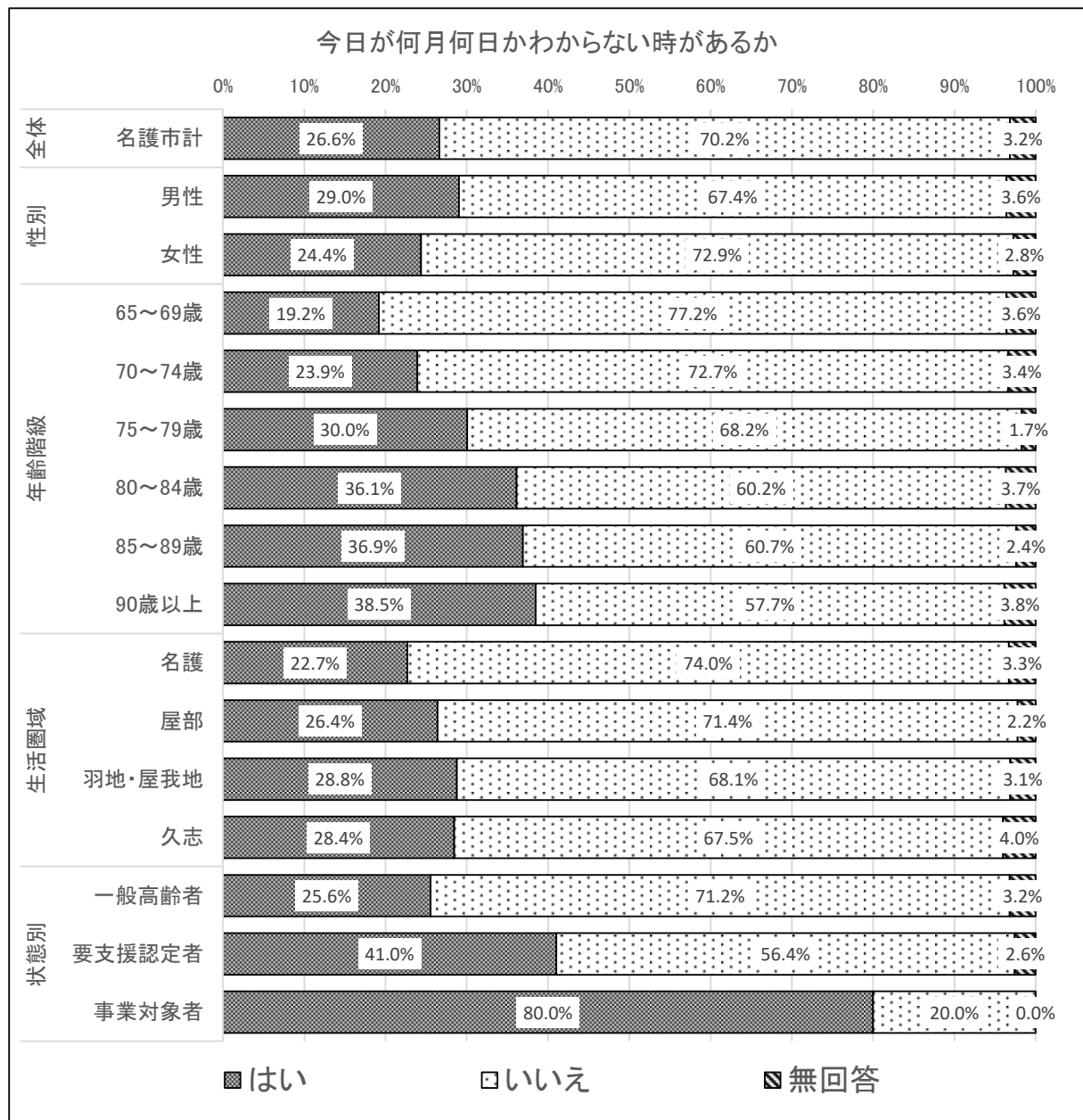
性別で「はい」という割合割合をみると、女性(24.4%)より男性(29.0%)の方が4.6ポイント高くなっています。

年齢階級別で「はい」という回答割合をみると、年齢が上がるにつれ高くなる傾向にあります。

生活圏域別で「はい」という回答割合をみると、名護地区(22.7%)が他の地区より低くなっています。

状態別に「はい」という回答割合をみると、一般高齢者が25.6%、要支援認定者が41.0%となっています。

			はい	いいえ	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)		回答数	371	979	44	1,394
		%	26.6%	70.2%	3.2%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	194	450	24	668
		%	29.0%	67.4%	3.6%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	177	529	20	726
		%	24.4%	72.9%	2.8%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	75	302	14	391
		%	19.2%	77.2%	3.6%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	106	322	15	443
		%	23.9%	72.7%	3.4%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	70	159	4	233
		%	30.0%	68.2%	1.7%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	69	115	7	191
		%	36.1%	60.2%	3.7%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	31	51	2	84
		%	36.9%	60.7%	2.4%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	20	30	2	52
		%	38.5%	57.7%	3.8%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	76	248	11	335
		%	22.7%	74.0%	3.3%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	95	257	8	360
		%	26.4%	71.4%	2.2%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	101	239	11	351
		%	28.8%	68.1%	3.1%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	99	235	14	348
		%	28.4%	67.5%	4.0%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	335	934	42	1,311
		%	25.6%	71.2%	3.2%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	32	44	2	78
		%	41.0%	56.4%	2.6%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	4	1	0	5
		%	80.0%	20.0%	0.0%	100.0%



(4) バスやモノレールを使って1人で外出しているか

バスやモノレールを使って1人で外出しているかについて、「できるし、している」が最も高く70.6%、「できるけどしていない」が14.6%、「できない」が11.1%となっています。

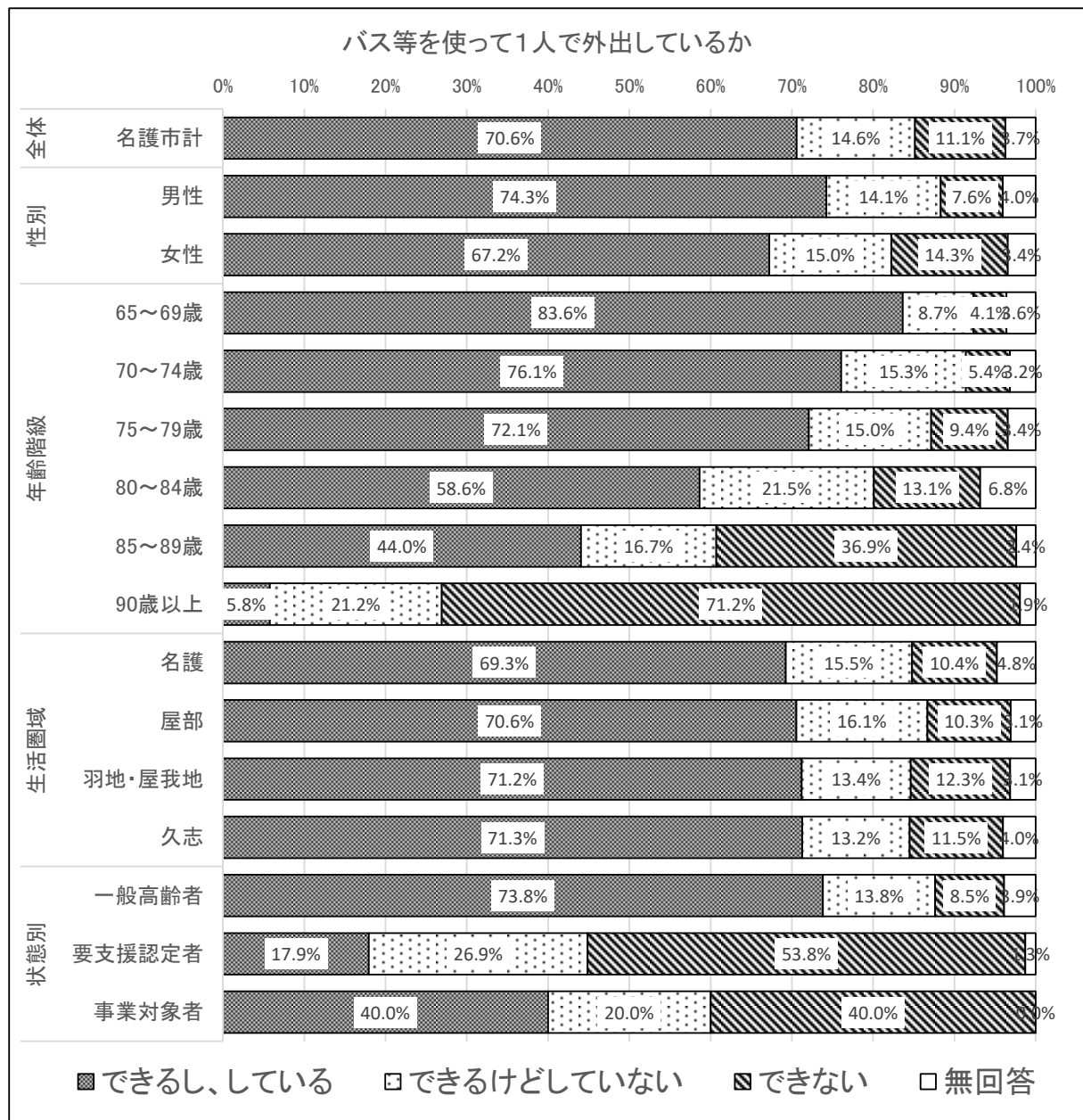
性別で「できない」という割合割合をみると、女性(14.3%)より男性(7.6%)の方が6.7ポイント高くなっています。

年齢階級別で「できない」という回答割合をみると、年齢が上がるにつれ高くなる傾向にあります。

生活圏域別で回答割合をみても大きな違いはみられません。

状態別に「できない」という回答割合をみると、一般高齢者が8.5%、要支援認定者が53.8%となっています。

		回答数	できるし、している	できるけどしていない	できない	無回答	回答数合計
全体(N=1,394)		回答数	984	203	155	52	1,394
		%	70.6%	14.6%	11.1%	3.7%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	496	94	51	27	668
		%	74.3%	14.1%	7.6%	4.0%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	488	109	104	25	726
		%	67.2%	15.0%	14.3%	3.4%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	327	34	16	14	391
		%	83.6%	8.7%	4.1%	3.6%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	337	68	24	14	443
		%	76.1%	15.3%	5.4%	3.2%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	168	35	22	8	233
		%	72.1%	15.0%	9.4%	3.4%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	112	41	25	13	191
		%	58.6%	21.5%	13.1%	6.8%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	37	14	31	2	84
		%	44.0%	16.7%	36.9%	2.4%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	3	11	37	1	52
		%	5.8%	21.2%	71.2%	1.9%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	232	52	35	16	335
		%	69.3%	15.5%	10.4%	4.8%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	254	58	37	11	360
		%	70.6%	16.1%	10.3%	3.1%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	250	47	43	11	351
		%	71.2%	13.4%	12.3%	3.1%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	248	46	40	14	348
		%	71.3%	13.2%	11.5%	4.0%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	968	181	111	51	1,311
		%	73.8%	13.8%	8.5%	3.9%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	14	21	42	1	78
		%	17.9%	26.9%	53.8%	1.3%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	2	1	2	0	5
		%	40.0%	20.0%	40.0%	0.0%	100.0%



(5) 自分で食品・日用品の買物をしているか

自分で食品・日用品の買物をしているかについて、「できるし、している」が最も高く 80.0%、「できるけどしていない」が 10.6%、「できない」が 7.2%となっています。

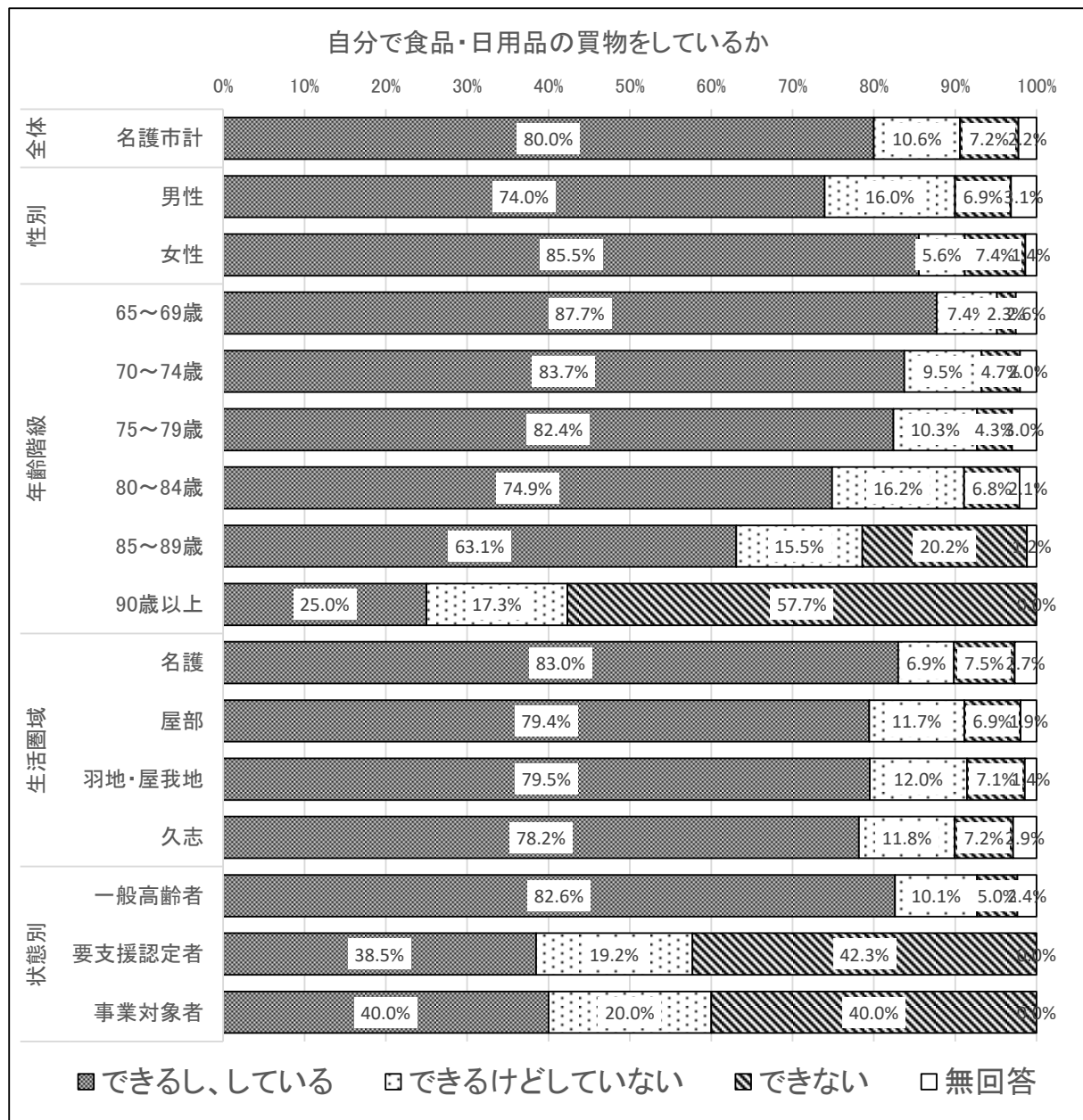
性別で「できるし、している」という割合割合をみると、男性 (74.0%) より女性 (85.5%) の方が 11.5 ポイント高くなっています。

年齢階級別で「できるし、している」という回答割合をみると、年齢が上がるにつれ低下する傾向にあります。

生活圏域別で「できるし、している」という回答割合をみると、名護地区 (83.0%) が他の地区より高くなっています。

状態別に「できるし、している」という回答割合をみると、一般高齢者が 82.6%、要支援認定者が 38.5%となっています。

		回答数	できるし、している	できるけどしていない	できない	無回答	回答数合計
全体(N=1,394)		回答数	1,115	148	100	31	1,394
		%	80.0%	10.6%	7.2%	2.2%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	494	107	46	21	668
		%	74.0%	16.0%	6.9%	3.1%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	621	41	54	10	726
		%	85.5%	5.6%	7.4%	1.4%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	343	29	9	10	391
		%	87.7%	7.4%	2.3%	2.6%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	371	42	21	9	443
		%	83.7%	9.5%	4.7%	2.0%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	192	24	10	7	233
		%	82.4%	10.3%	4.3%	3.0%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	143	31	13	4	191
		%	74.9%	16.2%	6.8%	2.1%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	53	13	17	1	84
		%	63.1%	15.5%	20.2%	1.2%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	13	9	30	0	52
		%	25.0%	17.3%	57.7%	0.0%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	278	23	25	9	335
		%	83.0%	6.9%	7.5%	2.7%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	286	42	25	7	360
		%	79.4%	11.7%	6.9%	1.9%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	279	42	25	5	351
		%	79.5%	12.0%	7.1%	1.4%	100.0%
状態別	久志地区(N=348)	回答数	272	41	25	10	348
		%	78.2%	11.8%	7.2%	2.9%	100.0%
	一般高齢者(N=1,311)	回答数	1,083	132	65	31	1,311
		%	82.6%	10.1%	5.0%	2.4%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	30	15	33	0	78
		%	38.5%	19.2%	42.3%	0.0%	100.0%
事業対象者(N=5)		回答数	2	1	2	0	5
		%	40.0%	20.0%	40.0%	0.0%	100.0%



(6) 自分で食事の用意をしているか

自分で食事の用意をしているかについて、「できるし、している」が最も高く 73.7%、「できるけどしていない」が 16.9%、「できない」が 7.5%となっています。

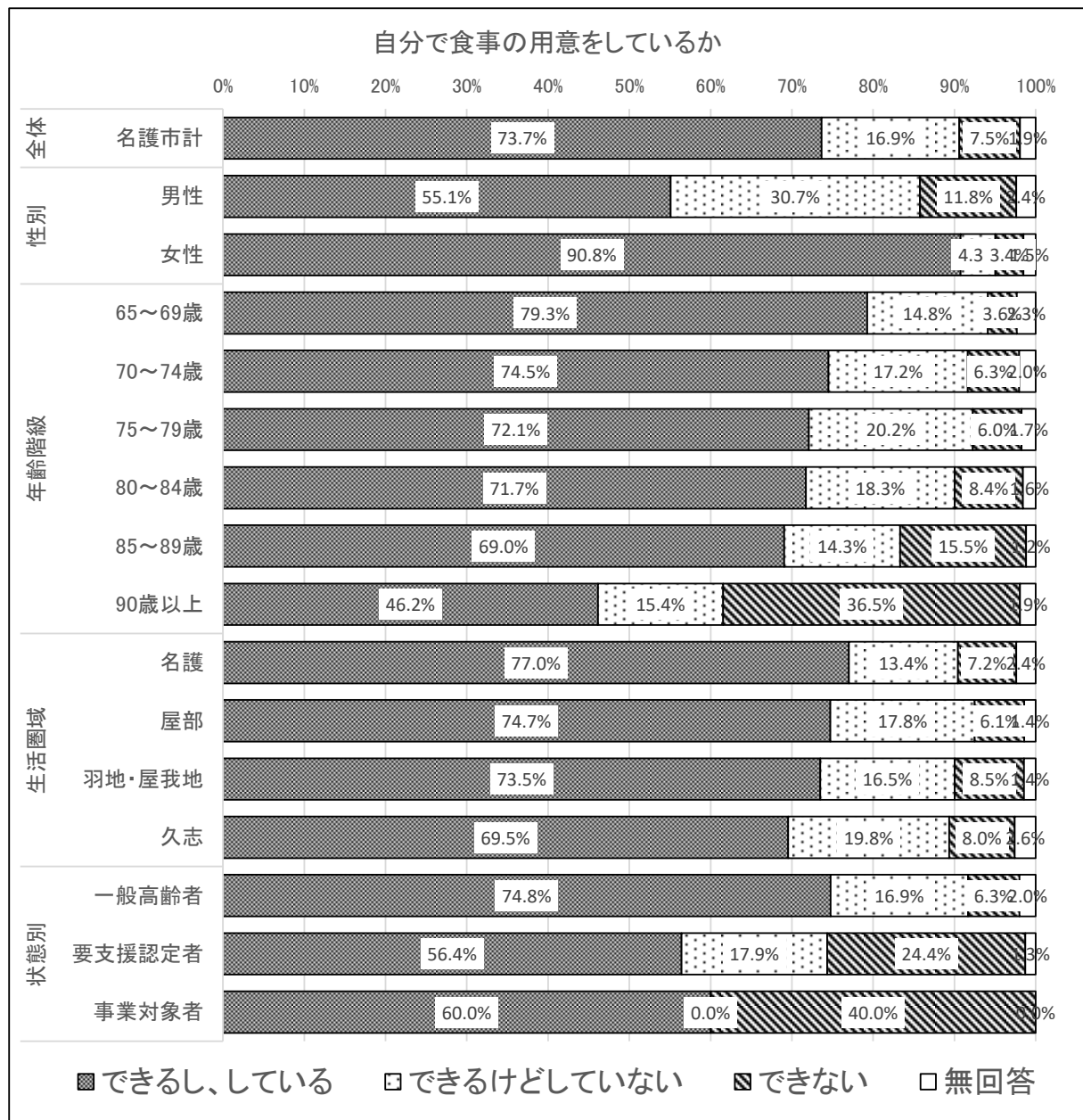
性別で「できるし、している」という割合割合をみると、男性 (55.1%) より女性 (90.8%)の方が大きく上回り、食事の準備については男女で大きな差があります。

年齢階級別で「できるし、している」という回答割合をみると、年齢が上がるにつれ徐々に低下する傾向にあります。

生活圏域別で「できるし、している」という回答割合をみると、久志地区 (69.5%) が他の地区より低くなっています。

状態別に「できるし、している」という回答割合をみると、一般高齢者が 74.8%、要支援認定者が 56.4%となっています。

		回答数	できるし、している	できるけどしていない	できない	無回答	回答数合計
全体(N=1,394)		回答数	1,027	236	104	27	1,394
		%	73.7%	16.9%	7.5%	1.9%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	368	205	79	16	668
		%	55.1%	30.7%	11.8%	2.4%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	659	31	25	11	726
		%	90.8%	4.3%	3.4%	1.5%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	310	58	14	9	391
		%	79.3%	14.8%	3.6%	2.3%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	330	76	28	9	443
		%	74.5%	17.2%	6.3%	2.0%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	168	47	14	4	233
		%	72.1%	20.2%	6.0%	1.7%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	137	35	16	3	191
		%	71.7%	18.3%	8.4%	1.6%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	58	12	13	1	84
		%	69.0%	14.3%	15.5%	1.2%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	24	8	19	1	52
		%	46.2%	15.4%	36.5%	1.9%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	258	45	24	8	335
		%	77.0%	13.4%	7.2%	2.4%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	269	64	22	5	360
		%	74.7%	17.8%	6.1%	1.4%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	258	58	30	5	351
		%	73.5%	16.5%	8.5%	1.4%	100.0%
状態別	久志地区(N=348)	回答数	242	69	28	9	348
		%	69.5%	19.8%	8.0%	2.6%	100.0%
	一般高齢者(N=1,311)	回答数	980	222	83	26	1,311
		%	74.8%	16.9%	6.3%	2.0%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	44	14	19	1	78
		%	56.4%	17.9%	24.4%	1.3%	100.0%
事業対象者(N=5)	事業対象者(N=5)	回答数	3	0	2	0	5
		%	60.0%	0.0%	40.0%	0.0%	100.0%



(7) 自分で請求書の支払いをしているか

自分で請求書の支払いをしているかについて、「できるし、している」が最も高く 79.0%、「できるけどしていない」が 13.1%、「できない」が 5.9%となっています。

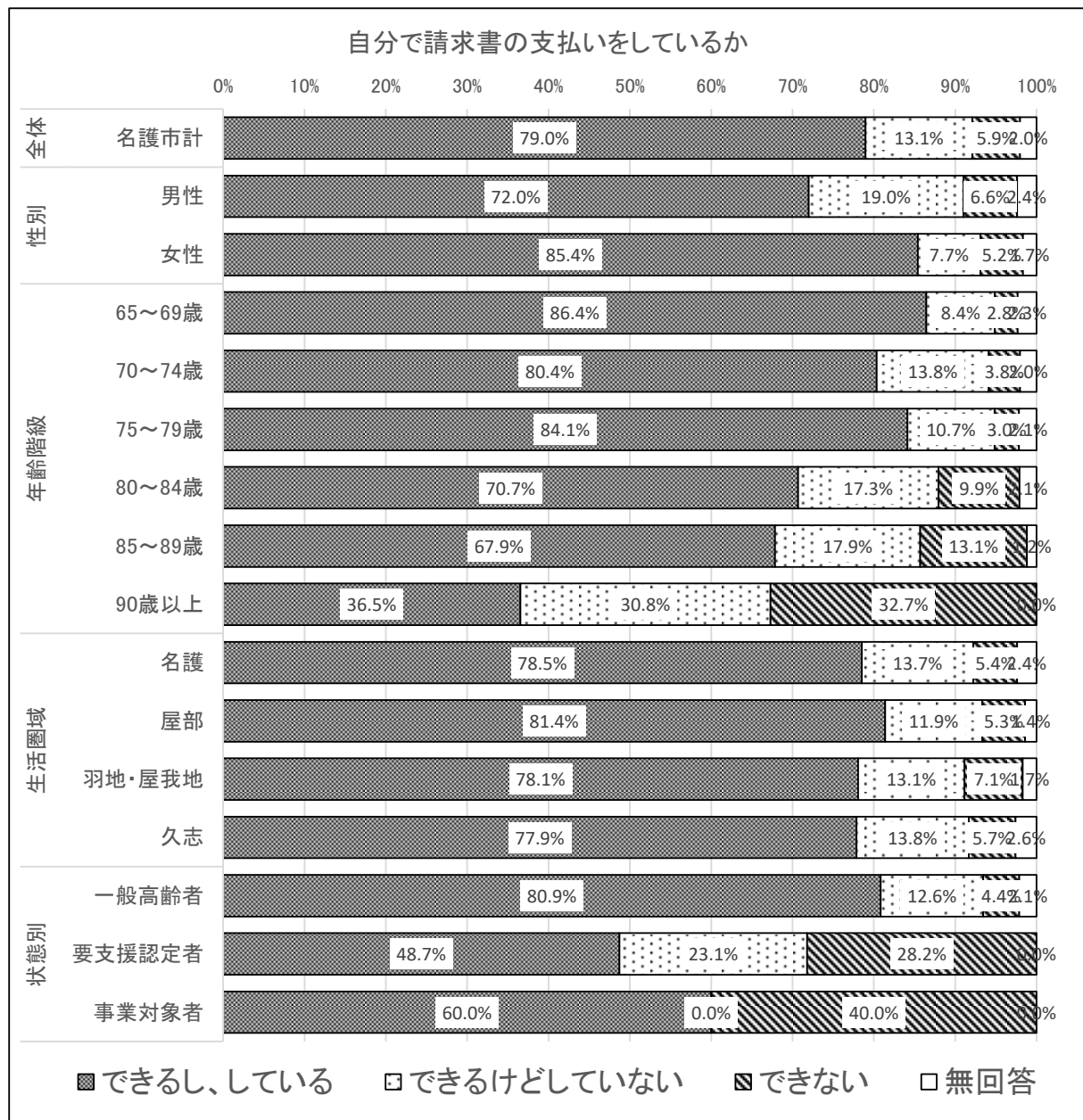
性別で「できるし、している」という割合割合をみると、男性 (72.0%) より女性 (85.4%) の方が高くなっています。

年齢階級別で「できるし、している」という回答割合をみると、年齢が上がるにつれ低下する傾向にあります。

生活圏域別で回答割合をみても大きな違いはみられません。

状態別に「できるし、している」という回答割合をみると、一般高齢者が 80.9%、要支援認定者が 48.7%となっています。

			できるし、 している	できるけど していない	できない	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)		回答数	1,101	183	82	28	1,394
		%	79.0%	13.1%	5.9%	2.0%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	481	127	44	16	668
		%	72.0%	19.0%	6.6%	2.4%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	620	56	38	12	726
		%	85.4%	7.7%	5.2%	1.7%	100.0%
年齢 階級	65～69歳(N=391)	回答数	338	33	11	9	391
		%	86.4%	8.4%	2.8%	2.3%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	356	61	17	9	443
		%	80.4%	13.8%	3.8%	2.0%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	196	25	7	5	233
		%	84.1%	10.7%	3.0%	2.1%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	135	33	19	4	191
		%	70.7%	17.3%	9.9%	2.1%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	57	15	11	1	84
		%	67.9%	17.9%	13.1%	1.2%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	19	16	17	0	52
		%	36.5%	30.8%	32.7%	0.0%	100.0%
生活 圏域	名護地区(N=335)	回答数	263	46	18	8	335
		%	78.5%	13.7%	5.4%	2.4%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	293	43	19	5	360
		%	81.4%	11.9%	5.3%	1.4%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	274	46	25	6	351
		%	78.1%	13.1%	7.1%	1.7%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	271	48	20	9	348
		%	77.9%	13.8%	5.7%	2.6%	100.0%
状態 別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	1,060	165	58	28	1,311
		%	80.9%	12.6%	4.4%	2.1%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	38	18	22	0	78
		%	48.7%	23.1%	28.2%	0.0%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	3	0	2	0	5
		%	60.0%	0.0%	40.0%	0.0%	100.0%



(8) 自分で預貯金の出し入れをしているか

自分で預貯金の出し入れをしているかについて、「できるし、している」が最も高く 80.1%、「できるけどしていない」が 10.6%、「できない」が 7.8%となっています。

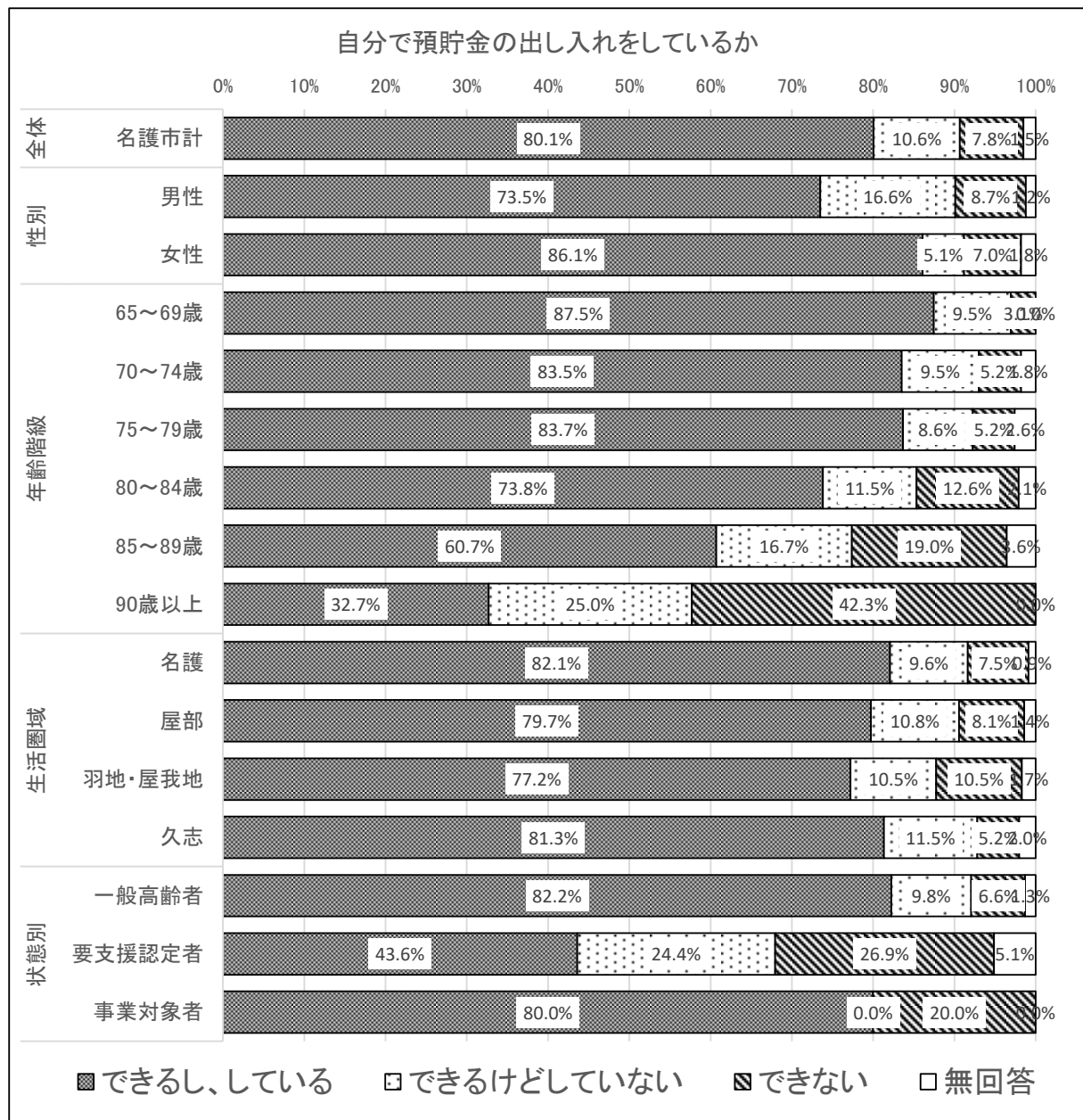
性別で「できるし、している」という割合割合をみると、男性 (73.5%) より女性 (86.1%) の方が 12.6 ポイント高くなっています。

年齢階級別で「できるし、している」という回答割合をみると、年齢が上がるにつれ低下する傾向にあります。

生活圏域別で「できるし、している」という回答割合をみると、羽地・屋我地地区 (77.2%) が他の地区より低くなっています。

状態別に「できるし、している」という回答割合をみると、一般高齢者が 82.2%、要支援認定者が 43.6%となっています。

		回答数	できるし、している	できるけどしていない	できない	無回答	回答数合計
全体(N=1,394)		回答数	1,116	148	109	21	1,394
		%	80.1%	10.6%	7.8%	1.5%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	491	111	58	8	668
		%	73.5%	16.6%	8.7%	1.2%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	625	37	51	13	726
		%	86.1%	5.1%	7.0%	1.8%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	342	37	12	0	391
		%	87.5%	9.5%	3.1%	0.0%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	370	42	23	8	443
		%	83.5%	9.5%	5.2%	1.8%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	195	20	12	6	233
		%	83.7%	8.6%	5.2%	2.6%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	141	22	24	4	191
		%	73.8%	11.5%	12.6%	2.1%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	51	14	16	3	84
		%	60.7%	16.7%	19.0%	3.6%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	17	13	22	0	52
		%	32.7%	25.0%	42.3%	0.0%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	275	32	25	3	335
		%	82.1%	9.6%	7.5%	0.9%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	287	39	29	5	360
		%	79.7%	10.8%	8.1%	1.4%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	271	37	37	6	351
		%	77.2%	10.5%	10.5%	1.7%	100.0%
状態別	久志地区(N=348)	回答数	283	40	18	7	348
		%	81.3%	11.5%	5.2%	2.0%	100.0%
	一般高齢者(N=1,311)	回答数	1,078	129	87	17	1,311
		%	82.2%	9.8%	6.6%	1.3%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	34	19	21	4	78
		%	43.6%	24.4%	26.9%	5.1%	100.0%
状態別	事業対象者(N=5)	回答数	4	0	1	0	5
		%	80.0%	0.0%	20.0%	0.0%	100.0%



(9) 新聞を読んでいるか

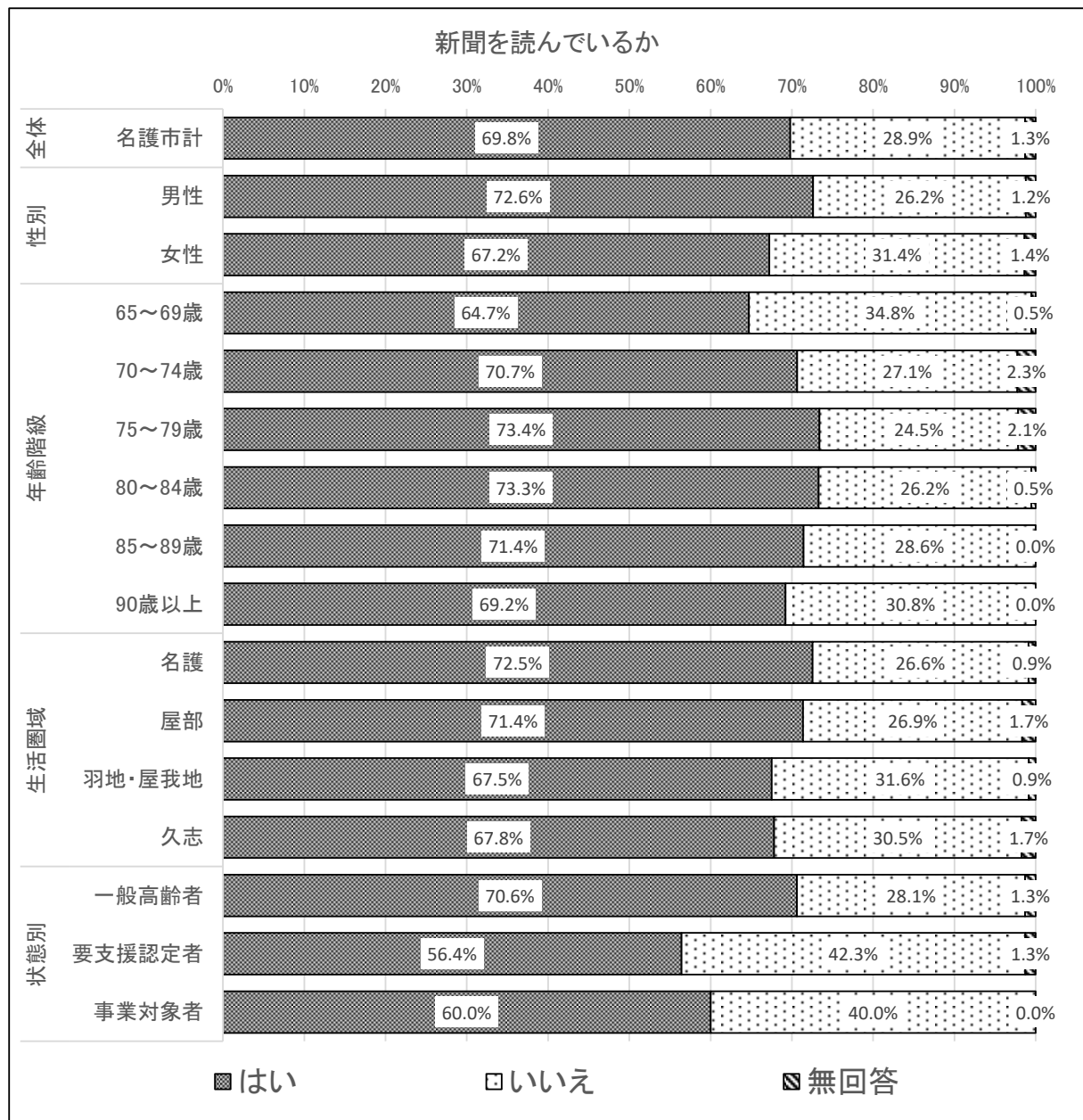
新聞を読んでいるかについて、「はい」が69.8%、「いいえ」が28.9%となっています。

性別で「はい」という割合割合をみると、女性（67.2%）より男性（72.6%）の方が5.4ポイント高くなっています。

年齢階級別、生活圏域別で回答割合をみても大きな違いはみられません。

状態別に「はい」という回答割合をみると、一般高齢者が70.6%、要支援認定者が56.4%となっています。

			はい	いいえ	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)		回答数	973	403	18	1,394
		%	69.8%	28.9%	1.3%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	485	175	8	668
		%	72.6%	26.2%	1.2%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	488	228	10	726
		%	67.2%	31.4%	1.4%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	253	136	2	391
		%	64.7%	34.8%	0.5%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	313	120	10	443
		%	70.7%	27.1%	2.3%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	171	57	5	233
		%	73.4%	24.5%	2.1%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	140	50	1	191
		%	73.3%	26.2%	0.5%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	60	24	0	84
		%	71.4%	28.6%	0.0%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	36	16	0	52
		%	69.2%	30.8%	0.0%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	243	89	3	335
		%	72.5%	26.6%	0.9%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	257	97	6	360
		%	71.4%	26.9%	1.7%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	237	111	3	351
		%	67.5%	31.6%	0.9%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	236	106	6	348
		%	67.8%	30.5%	1.7%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	926	368	17	1,311
		%	70.6%	28.1%	1.3%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	44	33	1	78
		%	56.4%	42.3%	1.3%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	3	2	0	5
		%	60.0%	40.0%	0.0%	100.0%



(10) 本や雑誌を読んでいるか

本や雑誌を読んでいるかについて、「はい」が 66.5%、「いいえ」が 32.2%となっています。

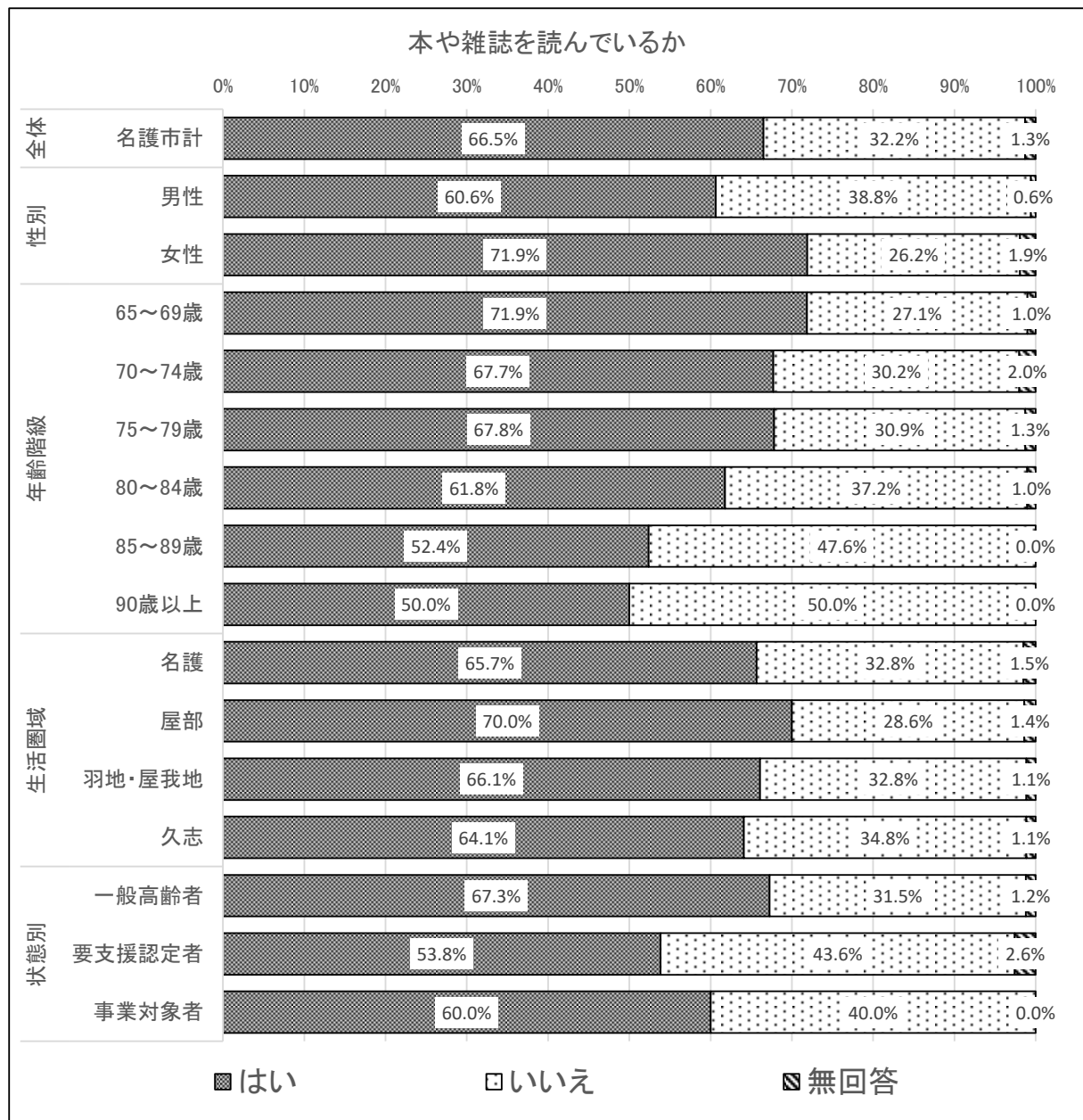
性別で「はい」という割合割合をみると、男性（60.6%）より女性（71.9%）の方が 11.3 ポイント高くなっています。

年齢階級別で「はい」という回答割合をみると、年齢が上がるにつれ低下する傾向にあります。

生活圏域別で「はい」という回答割合をみると、屋部地区（70.0%）が他の地区より高くなっています。

状態別に「はい」という回答割合をみると、一般高齢者が 67.3%、要支援認定者が 53.8%となっています。

			はい	いいえ	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)		回答数	927	449	18	1,394
		%	66.5%	32.2%	1.3%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	405	259	4	668
		%	60.6%	38.8%	0.6%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	522	190	14	726
		%	71.9%	26.2%	1.9%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	281	106	4	391
		%	71.9%	27.1%	1.0%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	300	134	9	443
		%	67.7%	30.2%	2.0%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	158	72	3	233
		%	67.8%	30.9%	1.3%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	118	71	2	191
		%	61.8%	37.2%	1.0%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	44	40	0	84
		%	52.4%	47.6%	0.0%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	26	26	0	52
		%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	220	110	5	335
		%	65.7%	32.8%	1.5%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	252	103	5	360
		%	70.0%	28.6%	1.4%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	232	115	4	351
		%	66.1%	32.8%	1.1%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	223	121	4	348
		%	64.1%	34.8%	1.1%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	882	413	16	1,311
		%	67.3%	31.5%	1.2%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	42	34	2	78
		%	53.8%	43.6%	2.6%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	3	2	0	5
		%	60.0%	40.0%	0.0%	100.0%



(11) 友人の家を訪ねているか

友人の家を訪ねているかについて、「はい」が 55.1%、「いいえ」が 43.6%となっています。

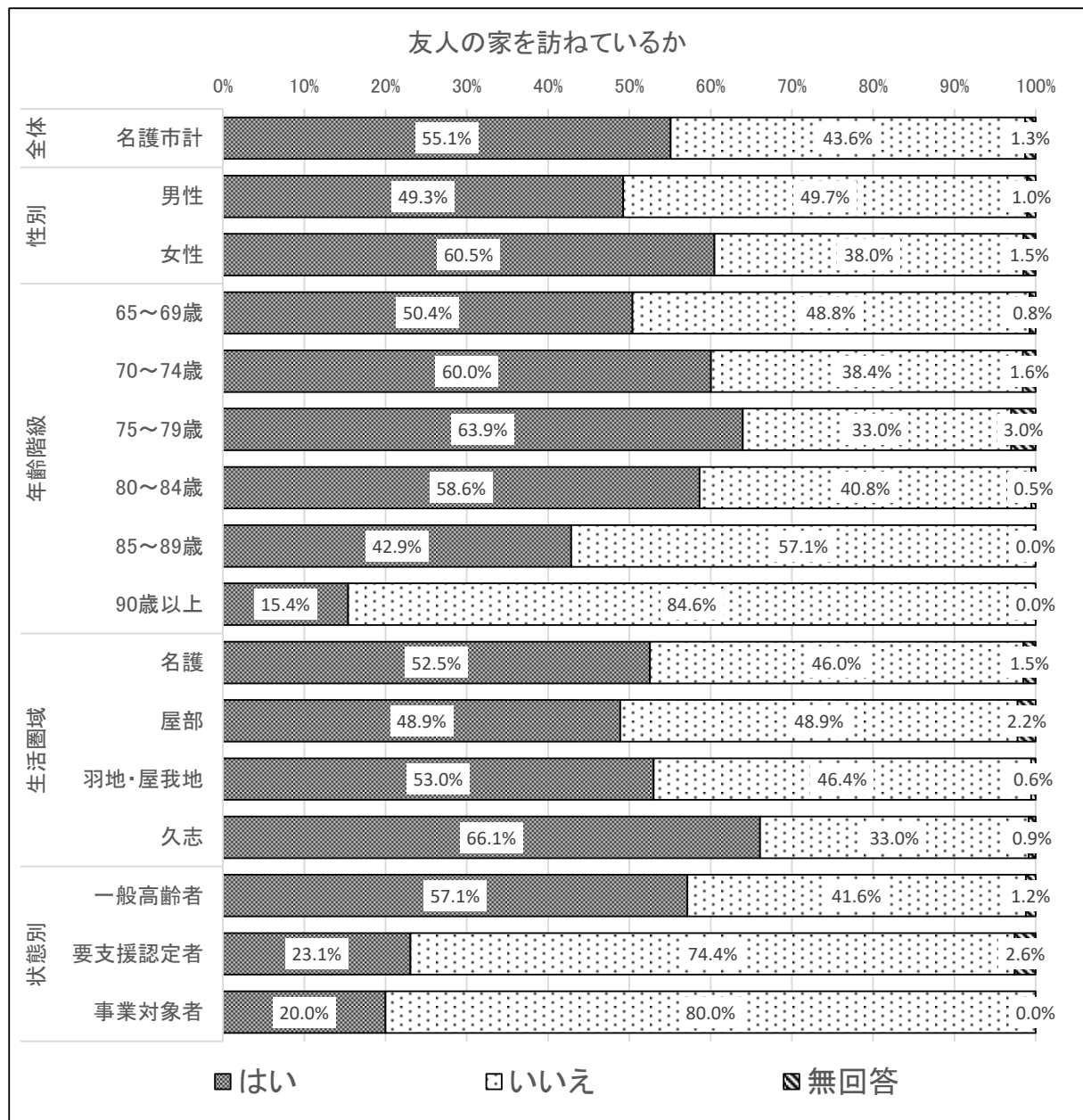
性別で「はい」という割合割合をみると、男性（49.3%）より女性（60.5%）の方が 11.2 ポイント高くなっています。

年齢階級別で「はい」という回答割合をみると、75～79 歳までは年齢が上がるにつれ高くなり、80 歳を境に低下する傾向にあります。

生活圏域別で「はい」という回答割合をみると、久志地区（66.1%）が他の地区より高くなっています。

状態別に「はい」という回答割合をみると、一般高齢者が 57.1%、要支援認定者が 23.1%となっています。

			はい	いいえ	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)			回答数 768	608	18	1,394
			% 55.1%	43.6%	1.3%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数 329	329	332	7	668
		% 49.3%	49.7%	1.0%	100.0%	
	女性(N=726)	回答数 439	276	11	726	
		% 60.5%	38.0%	1.5%	100.0%	
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数 197	191	3	391	
		% 50.4%	48.8%	0.8%	100.0%	
	70～74歳(N=443)	回答数 266	170	7	443	
		% 60.0%	38.4%	1.6%	100.0%	
	75～79歳(N=233)	回答数 149	77	7	233	
		% 63.9%	33.0%	3.0%	100.0%	
	80～84歳(N=191)	回答数 112	78	1	191	
		% 58.6%	40.8%	0.5%	100.0%	
	85～89歳(N=84)	回答数 36	48	0	84	
		% 42.9%	57.1%	0.0%	100.0%	
	90歳以上(N=52)	回答数 8	44	0	52	
		% 15.4%	84.6%	0.0%	100.0%	
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数 176	154	5	335	
		% 52.5%	46.0%	1.5%	100.0%	
	屋部地区(N=360)	回答数 176	176	8	360	
		% 48.9%	48.9%	2.2%	100.0%	
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数 186	163	2	351	
		% 53.0%	46.4%	0.6%	100.0%	
	久志地区(N=348)	回答数 230	115	3	348	
		% 66.1%	33.0%	0.9%	100.0%	
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数 749	546	16	1,311	
		% 57.1%	41.6%	1.2%	100.0%	
	要支援認定者(N=78)	回答数 18	58	2	78	
		% 23.1%	74.4%	2.6%	100.0%	
	事業対象者(N=5)	回答数 1	4	0	5	
		% 20.0%	80.0%	0.0%	100.0%	



(12) 家族や友人の相談にのっているか

家族や友人の相談にのっているかについて、「はい」が74.4%、「いいえ」が24.2%となっています。

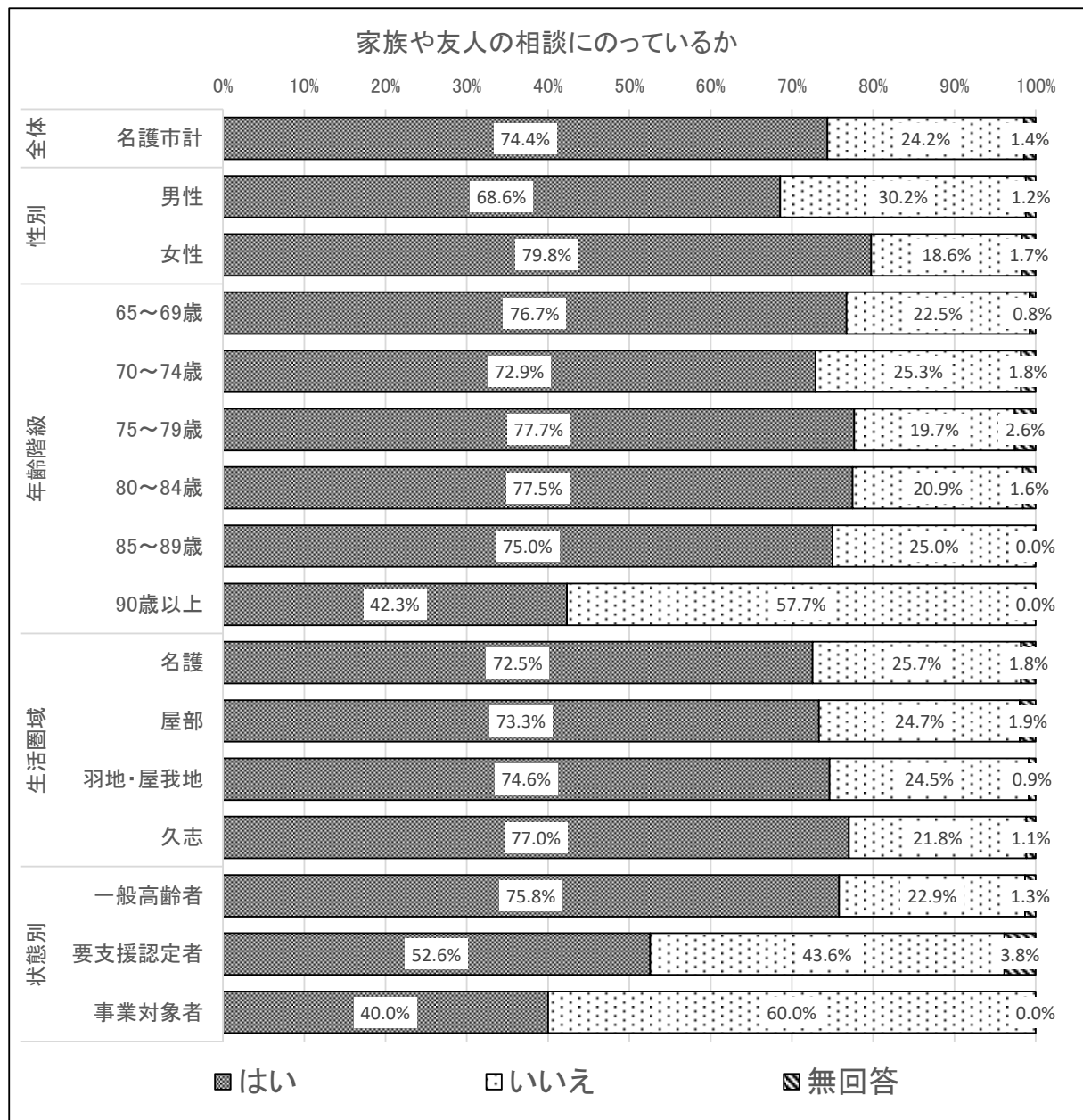
性別で「はい」という割合割合をみると、男性（68.6%）より女性（79.8%）の方が11.2ポイント高くなっています。

年齢階級別で回答割合をみても年齢別の特徴はみられません。

生活圏域別で「はい」という回答割合をみると、久志地区（77.0%）が他の地区より高くなっています。

状態別に「はい」という回答割合をみると、一般高齢者が75.8%、要支援認定者が52.6%となっています。

			はい	いいえ	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)			回答数 1,037	337	20	1,394
			% 74.4%	24.2%	1.4%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	458	202	8	668
		%	68.6%	30.2%	1.2%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	579	135	12	726
		%	79.8%	18.6%	1.7%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	300	88	3	391
		%	76.7%	22.5%	0.8%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	323	112	8	443
		%	72.9%	25.3%	1.8%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	181	46	6	233
		%	77.7%	19.7%	2.6%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	148	40	3	191
		%	77.5%	20.9%	1.6%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	63	21	0	84
		%	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	22	30	0	52
		%	42.3%	57.7%	0.0%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	243	86	6	335
		%	72.5%	25.7%	1.8%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	264	89	7	360
		%	73.3%	24.7%	1.9%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	262	86	3	351
		%	74.6%	24.5%	0.9%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	268	76	4	348
		%	77.0%	21.8%	1.1%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	994	300	17	1,311
		%	75.8%	22.9%	1.3%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	41	34	3	78
		%	52.6%	43.6%	3.8%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	2	3	0	5
		%	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%



(13) 趣味はあるか

趣味はあるかについて、「趣味あり」が 67.9%、「思いつかない」が 28.2%となっています。

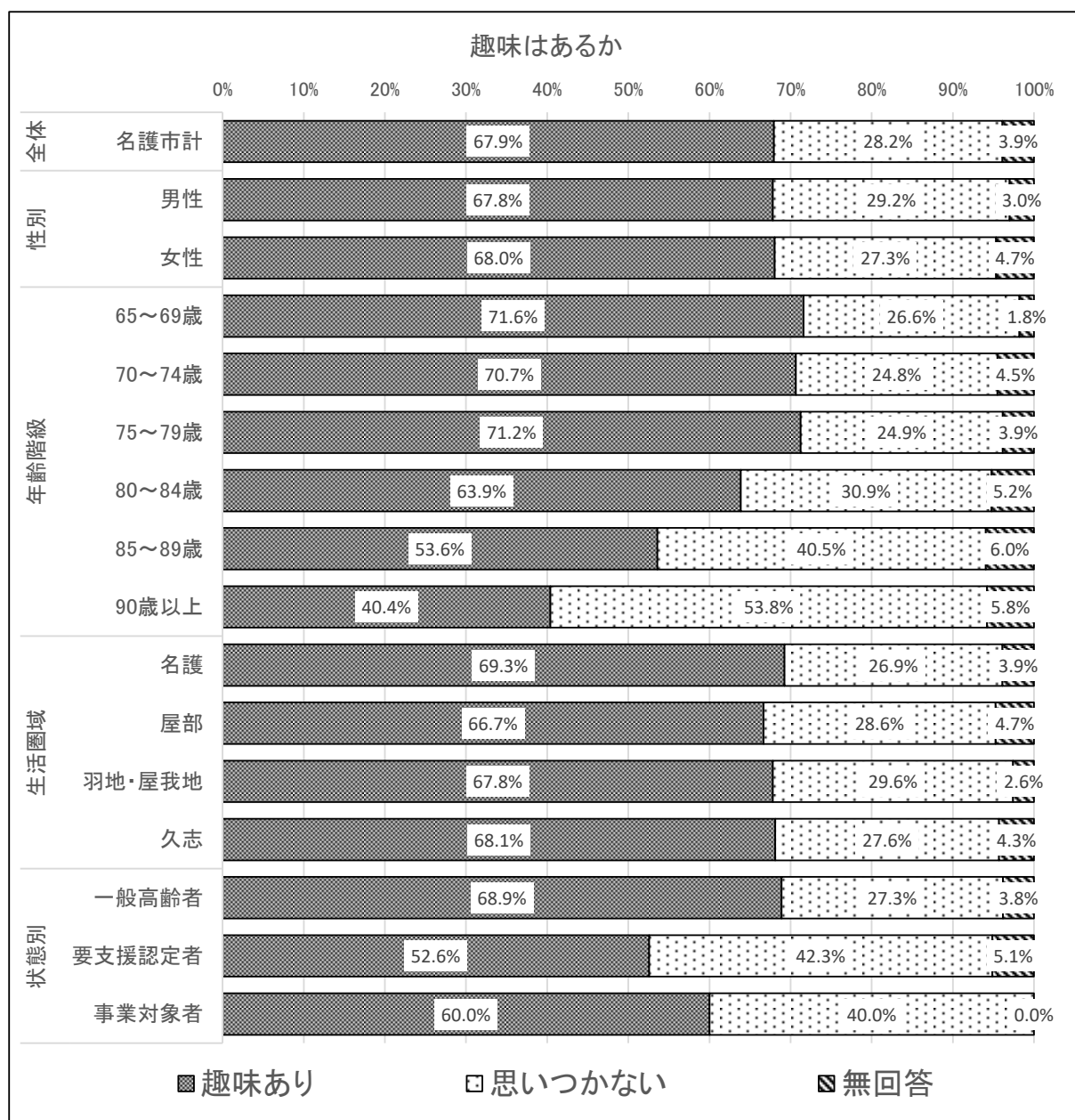
性別で割合割合をみても大きな違いはみられません。

年齢階級別で「趣味あり」という回答割合をみると、80～84 歳（63.9%）から年齢が上がるにつれ低下する傾向にあります。

生活圏域別で回答割合をみても特徴はみられません。

状態別に「趣味あり」という回答割合をみると、一般高齢者が 68.9%、要支援認定者が 52.6%となっています。

			趣味あり	思いつかない	無回答	回答数合計
全体(N=1,394)		回答数	947	393	54	1,394
		%	67.9%	28.2%	3.9%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	453	195	20	668
		%	67.8%	29.2%	3.0%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	494	198	34	726
		%	68.0%	27.3%	4.7%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	280	104	7	391
		%	71.6%	26.6%	1.8%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	313	110	20	443
		%	70.7%	24.8%	4.5%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	166	58	9	233
		%	71.2%	24.9%	3.9%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	122	59	10	191
		%	63.9%	30.9%	5.2%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	45	34	5	84
		%	53.6%	40.5%	6.0%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	21	28	3	52
		%	40.4%	53.8%	5.8%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	232	90	13	335
		%	69.3%	26.9%	3.9%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	240	103	17	360
		%	66.7%	28.6%	4.7%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	238	104	9	351
		%	67.8%	29.6%	2.6%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	237	96	15	348
		%	68.1%	27.6%	4.3%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	903	358	50	1,311
		%	68.9%	27.3%	3.8%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	41	33	4	78
		%	52.6%	42.3%	5.1%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	3	2	0	5
		%	60.0%	40.0%	0.0%	100.0%



(14) 生きがいはあるか

生きがいはあるかについて、「生きがいあり」が 57.2%、「思いつかない」が 36.1%となっています。

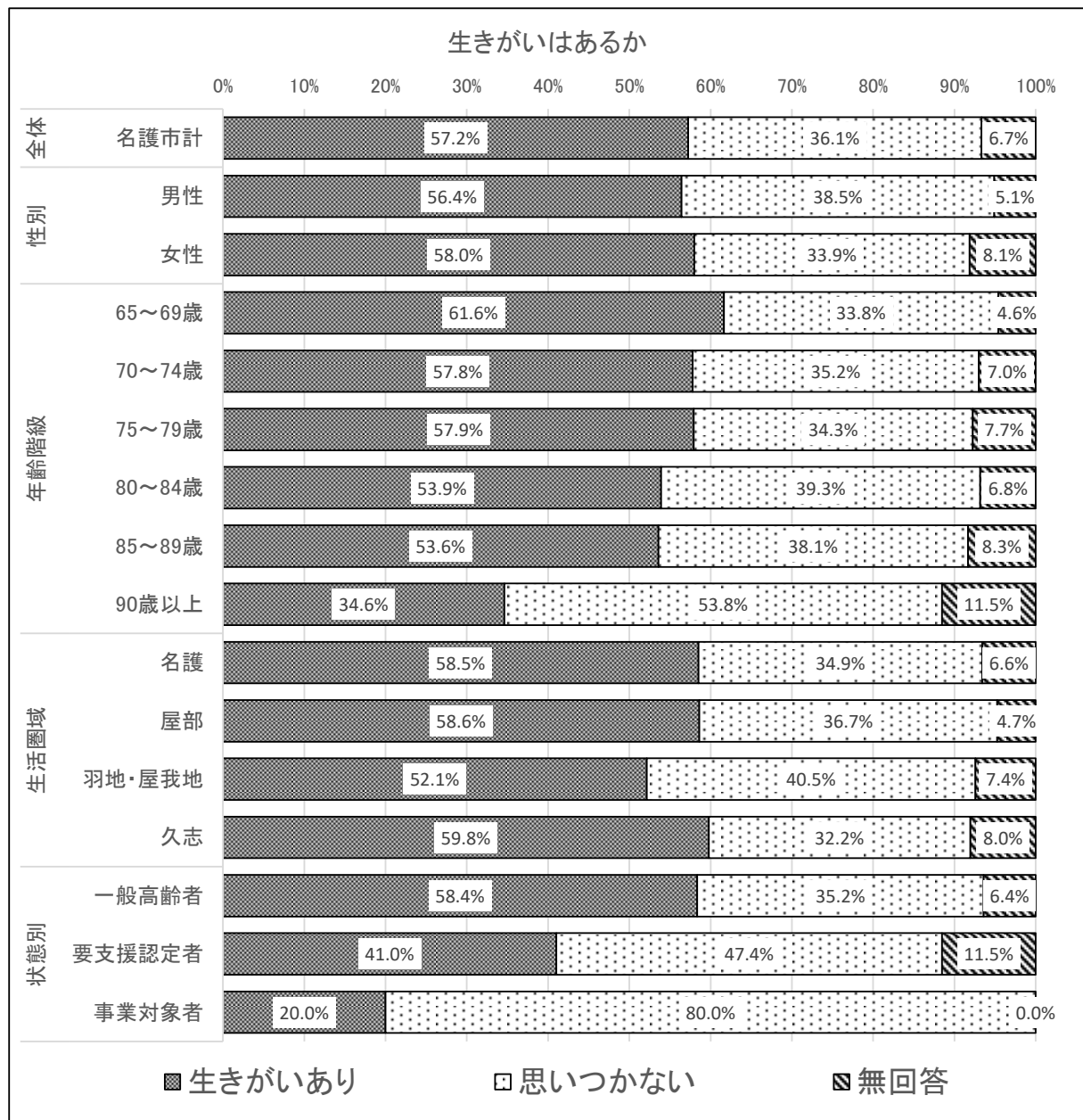
性別で「生きがいあり」という割合割合をみると、男性（56.4%）より女性（58.0%）の方が若干高くなっています。

年齢階級別で「生きがいあり」という回答割合をみると、年齢が上がるにつれ徐々に低下する傾向にあります。

生活圏域別で「生きがいあり」という回答割合をみると、羽地・屋我地地区（52.1%）が他の地区より低くなっています。

状態別に「趣味あり」という回答割合をみると、一般高齢者が 58.4%、要支援認定者が 41.0%となっています。

		生きがいあり	思いつかない	無回答	回答数合計
全体(N=1,394)		回答数 798	503	93	1,394
		% 57.2%	36.1%	6.7%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数 377	257	34	668
		% 56.4%	38.5%	5.1%	100.0%
	女性(N=726)	回答数 421	246	59	726
		% 58.0%	33.9%	8.1%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数 241	132	18	391
		% 61.6%	33.8%	4.6%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数 256	156	31	443
		% 57.8%	35.2%	7.0%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数 135	80	18	233
		% 57.9%	34.3%	7.7%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数 103	75	13	191
		% 53.9%	39.3%	6.8%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数 45	32	7	84
		% 53.6%	38.1%	8.3%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数 18	28	6	52
		% 34.6%	53.8%	11.5%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数 196	117	22	335
		% 58.5%	34.9%	6.6%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数 211	132	17	360
		% 58.6%	36.7%	4.7%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数 183	142	26	351
		% 52.1%	40.5%	7.4%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数 208	112	28	348
		% 59.8%	32.2%	8.0%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数 765	462	84	1,311
		% 58.4%	35.2%	6.4%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数 32	37	9	78
		% 41.0%	47.4%	11.5%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数 1	4	0	5
		% 20.0%	80.0%	0.0%	100.0%



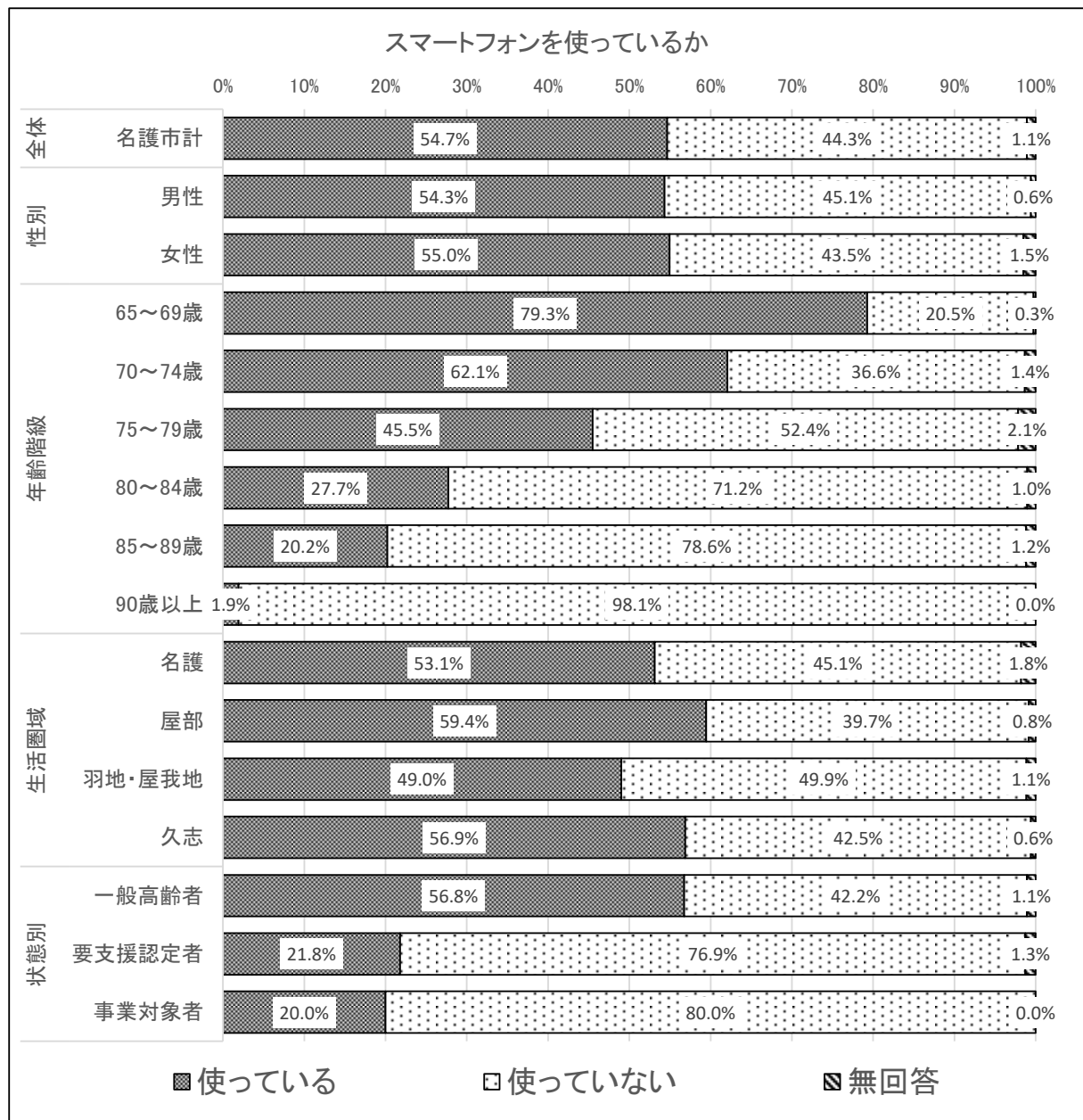
(15) スマートフォンを使っているか

スマートフォンを使っているかについて、「使っている」が 54.7%、「使っていない」が 44.3%と、スマートフォンを使っているとの回答が半数を超えています。

性別で回答割合をみても大きな違いはありません。

年齢階級別で「使っている」という回答割合をみると、年齢が上がるにつれ低下する傾向にあります。

		使っている	使っていない	無回答	回答数 合計	
全体(N=1,394)		回答数 762 54.7%	617 44.3%	15 1.1%	1,394 100.0%	
性別	男性(N=668)	回答数 363 54.3%	301 45.1%	4 0.6%	668 100.0%	
	女性(N=726)	回答数 399 55.0%	316 43.5%	11 1.5%	726 100.0%	
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数 310 79.3%	80 20.5%	1 0.3%	391 100.0%	
	70～74歳(N=443)	回答数 275 62.1%	162 36.6%	6 1.4%	443 100.0%	
	75～79歳(N=233)	回答数 106 45.5%	122 52.4%	5 2.1%	233 100.0%	
	80～84歳(N=191)	回答数 53 27.7%	136 71.2%	2 1.0%	191 100.0%	
	85～89歳(N=84)	回答数 17 20.2%	66 78.6%	1 1.2%	84 100.0%	
	90歳以上(N=52)	回答数 1 1.9%	51 98.1%	0 0.0%	52 100.0%	
	生活圏域	名護地区(N=335)	回答数 178 53.1%	151 45.1%	6 1.8%	335 100.0%
		屋部地区(N=360)	回答数 214 59.4%	143 39.7%	3 0.8%	360 100.0%
		羽地・屋我地地区(N=351)	回答数 172 49.0%	175 49.9%	4 1.1%	351 100.0%
		久志地区(N=348)	回答数 198 56.9%	148 42.5%	2 0.6%	348 100.0%
状態別		一般高齢者(N=1,311)	回答数 744 56.8%	553 42.2%	14 1.1%	1,311 100.0%
		要支援認定者(N=78)	回答数 17 21.8%	60 76.9%	1 1.3%	78 100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数 1 20.0%	4 80.0%	0 0.0%	5 100.0%	



(15) スマートフォンでメールやLINE でやりとりをしているか

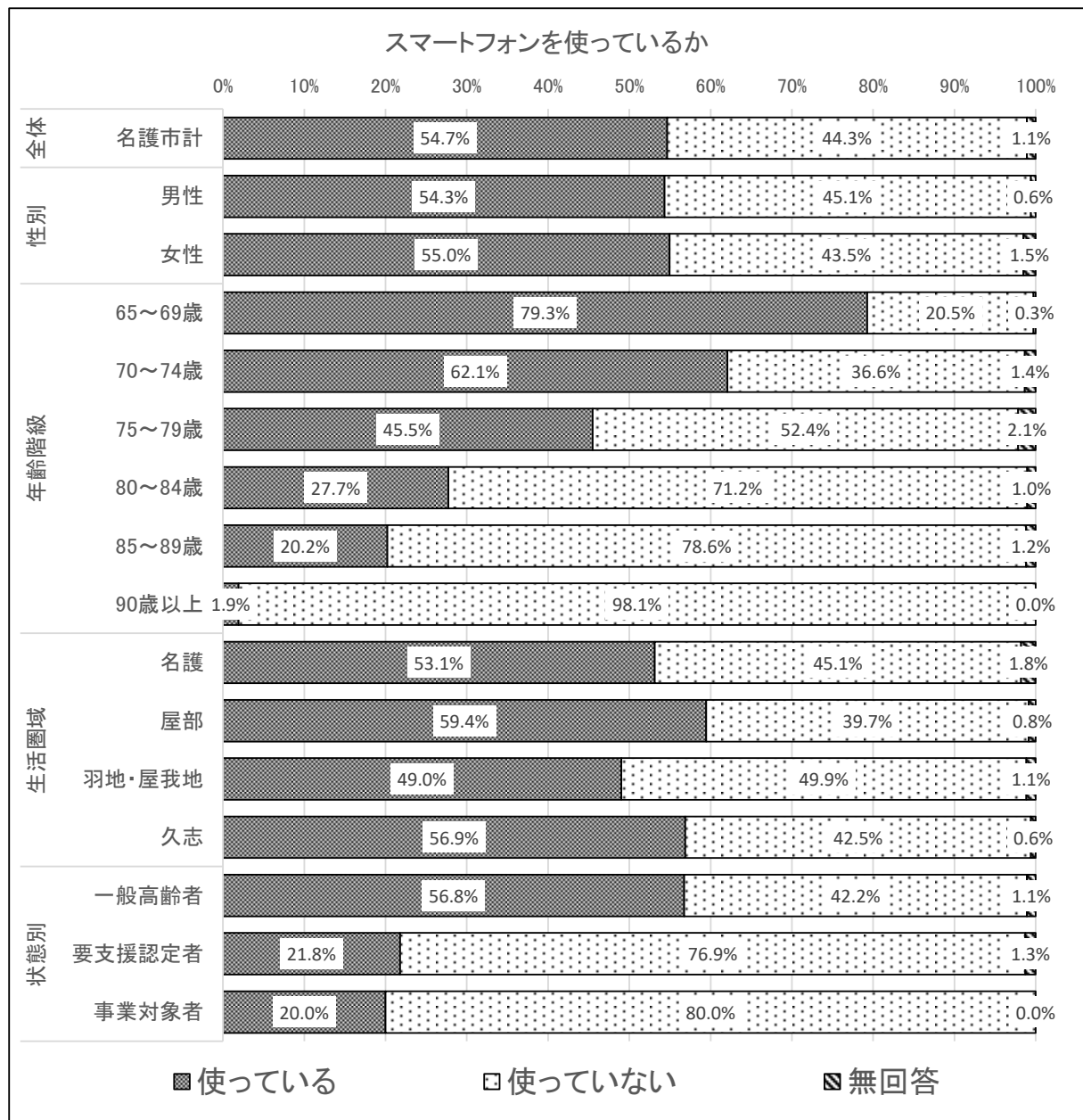
スマートフォンでメールやLINE でやりとりをしているかについて、「はい」が 80.3%、「いいえ」が 19.0%となっています。

性別で「はい」という回答割合をみると、男性（73.3%）より女性（86.7%）の方が 13.4 ポイント高くなっています。

年齢階級別で「はい」という回答割合をみると、年齢が上がるにつれ低下する傾向にあります。

状態別で「はい」という回答割合をみると、一般高齢者が 81.2%、要支援認定者が 41.2% となっています。

			はい	いいえ	無回答	回答数 合計
全体(N=762)		回答数	612	145	5	762
		%	80.3%	19.0%	0.7%	100.0%
性別	男性(N=363)	回答数	266	96	1	363
		%	73.3%	26.4%	0.3%	100.0%
	女性(N=399)	回答数	346	49	4	399
		%	86.7%	12.3%	1.0%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=310)	回答数	281	29	0	310
		%	90.6%	9.4%	0.0%	100.0%
	70～74歳(N=275)	回答数	218	55	2	275
		%	79.3%	20.0%	0.7%	100.0%
	75～79歳(N=106)	回答数	76	27	3	106
		%	71.7%	25.5%	2.8%	100.0%
	80～84歳(N=53)	回答数	31	22	0	53
		%	58.5%	41.5%	0.0%	100.0%
	85～89歳(N=17)	回答数	5	12	0	17
		%	29.4%	70.6%	0.0%	100.0%
	90歳以上(N=1)	回答数	1	0	0	1
		%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=178)	回答数	145	30	3	178
		%	81.5%	16.9%	1.7%	100.0%
	屋部地区(N=214)	回答数	174	40	0	214
		%	81.3%	18.7%	0.0%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=172)	回答数	137	33	2	172
		%	79.7%	19.2%	1.2%	100.0%
	久志地区(N=198)	回答数	156	42	0	198
		%	78.8%	21.2%	0.0%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=744)	回答数	604	135	5	744
		%	81.2%	18.1%	0.7%	100.0%
	要支援認定者(N=17)	回答数	7	10	0	17
		%	41.2%	58.8%	0.0%	100.0%
	事業対象者(N=1)	回答数	1	0	0	1
		%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%



問5 地域での活動について

(1) 活動への参加頻度

① ボランティアのグループ

ボランティアのグループについての参加頻度、「参加していない」が最も高く 31.4%、次いで「年に数回」が 6.7%、「月に1～3回」が 3.9%となっています。『参加している』（年に1回以上参加している回答者の合計）は 14.6%となっています。

性別で『参加している』という回答割合をみると、女性（12.4%）より男性（16.9%）の方が 4.9 ポイント高くなっています。

年齢階級別で『参加している』という回答割合をみると、80歳未満で約 17%に対し、80歳以上では 10%以下に低下しています。

生活圏域別で『参加している』という回答割合をみると、名護地区（11.1%）で低く、久志地区（21.6%）で高くなっています。

状態別で『参加している』という回答割合をみると、一般高齢者が 15.2%、要支援認定者が 3.8%となっています。

		週4回以上	週2～3回	週1回	月に1～3回	年に数回	参加していない	無回答	回答数合計
全体(N=1,394)	回答数	8	30	17	55	93	753	438	1,394
	%	0.6%	2.2%	1.2%	3.9%	6.7%	54.0%	31.4%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	3	13	7	27	63	378	668
		%	0.4%	1.9%	1.0%	4.0%	9.4%	56.6%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	5	17	10	28	30	375	726
		%	0.7%	2.3%	1.4%	3.9%	4.1%	51.7%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	0	8	4	14	39	237	391
		%	0.0%	2.0%	1.0%	3.6%	10.0%	60.6%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	6	10	8	24	28	246	443
		%	1.4%	2.3%	1.8%	5.4%	6.3%	55.5%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	2	5	3	13	16	96	233
		%	0.9%	2.1%	1.3%	5.6%	6.9%	41.2%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	0	6	0	1	8	95	191
		%	0.0%	3.1%	0.0%	0.5%	4.2%	49.7%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	0	1	2	2	2	43	84
		%	0.0%	1.2%	2.4%	2.4%	2.4%	51.2%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	0	0	0	1	0	36	52
		%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	69.2%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	0	6	3	11	16	181	335
		%	0.0%	1.8%	0.9%	3.3%	4.8%	54.0%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	2	9	3	9	17	223	360
		%	0.6%	2.5%	0.8%	2.5%	4.7%	61.9%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	2	9	5	12	24	195	351
		%	0.6%	2.6%	1.4%	3.4%	6.8%	55.6%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	4	6	6	23	36	154	348
		%	1.1%	1.7%	1.7%	6.6%	10.3%	44.3%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	7	29	15	55	93	705	1,311
		%	0.5%	2.2%	1.1%	4.2%	7.1%	53.8%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	1	1	1	0	0	44	78
		%	1.3%	1.3%	1.3%	0.0%	0.0%	56.4%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	0	0	1	0	0	4	5
		%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	80.0%	100.0%

②スポーツ関係のグループやクラブ

スポーツ関係のグループやクラブの参加頻度、「参加していない」が最も高く 51.7%、次いで「週 2～3 回」が 4.7%、「週 1 回」が 4.2%となっています。『参加している』（年に 1 回以上参加している回答者の合計）は 18.9%となっています。

性別で『参加している』という回答割合をみると、女性（16.4%）より男性（21.6%）の方が 5.2 ポイント高くなっています。

年齢階級別で『参加している』という回答割合をみても特徴はみられません。

生活圏域別で『参加している』という回答割合をみると、屋部地区（15.6%）で低く、久志地区（21.0%）で高くなっています。

状態別で『参加している』という回答割合をみると、一般高齢者が 19.8%、要支援認定者が 5.1%となっています。

			週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加してい ない	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)		回答数	36	66	59	53	49	721	410	1,394
		%	2.6%	4.7%	4.2%	3.8%	3.5%	51.7%	29.4%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	16	28	26	40	34	367	157	668
		%	2.4%	4.2%	3.9%	6.0%	5.1%	54.9%	23.5%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	20	38	33	13	15	354	253	726
		%	2.8%	5.2%	4.5%	1.8%	2.1%	48.8%	34.8%	100.0%
年 齢 階 級	65～69歳(N=391)	回答数	6	22	23	16	19	227	78	391
		%	1.5%	5.6%	5.9%	4.1%	4.9%	58.1%	19.9%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	15	18	17	12	12	240	129	443
		%	3.4%	4.1%	3.8%	2.7%	2.7%	54.2%	29.1%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	7	15	9	15	4	97	86	233
		%	3.0%	6.4%	3.9%	6.4%	1.7%	41.6%	36.9%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	4	8	5	8	9	82	75	191
		%	2.1%	4.2%	2.6%	4.2%	4.7%	42.9%	39.3%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	4	3	5	2	4	38	28	84
		%	4.8%	3.6%	6.0%	2.4%	4.8%	45.2%	33.3%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	0	0	0	0	1	37	14	52
		%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	71.2%	26.9%	100.0%
生 活 圏 域	名護地区(N=335)	回答数	14	21	14	12	5	171	98	335
		%	4.2%	6.3%	4.2%	3.6%	1.5%	51.0%	29.3%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	5	12	15	15	9	209	95	360
		%	1.4%	3.3%	4.2%	4.2%	2.5%	58.1%	26.4%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	7	23	18	9	11	189	94	351
		%	2.0%	6.6%	5.1%	2.6%	3.1%	53.8%	26.8%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	10	10	12	17	24	152	123	348
		%	2.9%	2.9%	3.4%	4.9%	6.9%	43.7%	35.3%	100.0%
状 態 別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	35	66	57	53	48	674	378	1,311
		%	2.7%	5.0%	4.3%	4.0%	3.7%	51.4%	28.8%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	1	0	2	0	1	42	32	78
		%	1.3%	0.0%	2.6%	0.0%	1.3%	53.8%	41.0%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	0	0	0	0	0	5	0	5
		%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%

③趣味関係のグループ

趣味関係のグループの参加頻度、「参加していない」が最も高く 48.6%、次いで「月に1～3回」が6.5%「年に数回」が5.1%、となっています。『参加している』（年に1回以上参加している回答者の合計）は22.2%となっています。

性別で『参加している』という回答割合をみると、男性（21.3%）より女性（23.0%）の方が1.7ポイント高くなっています。

年齢階級別で『参加している』という回答割合をみても特徴はみられません。

生活圏域別で『参加している』という回答割合をみると、羽地・屋我地地区（19.9%）で低く、久志地区（24.7%）で高くなっています。

状態別で『参加している』という回答割合をみると、一般高齢者が23.0%、要支援認定者が9.0%となっています。

			週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加してい ない	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)		回答数	32	52	64	90	71	677	408	1,394
		%	2.3%	3.7%	4.6%	6.5%	5.1%	48.6%	29.3%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	13	13	24	51	41	350	176	668
		%	1.9%	1.9%	3.6%	7.6%	6.1%	52.4%	26.3%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	19	39	40	39	30	327	232	726
		%	2.6%	5.4%	5.5%	5.4%	4.1%	45.0%	32.0%	100.0%
年 齢 階 級	65～69歳(N=391)	回答数	6	16	22	23	28	215	81	391
		%	1.5%	4.1%	5.6%	5.9%	7.2%	55.0%	20.7%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	12	13	20	36	28	214	120	443
		%	2.7%	2.9%	4.5%	8.1%	6.3%	48.3%	27.1%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	9	7	11	21	7	89	89	233
		%	3.9%	3.0%	4.7%	9.0%	3.0%	38.2%	38.2%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	3	8	6	7	7	85	75	191
		%	1.6%	4.2%	3.1%	3.7%	3.7%	44.5%	39.3%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	2	7	5	3	1	38	28	84
		%	2.4%	8.3%	6.0%	3.6%	1.2%	45.2%	33.3%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	0	1	0	0	0	36	15	52
		%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	69.2%	28.8%	100.0%
生 活 圏 域	名護地区(N=335)	回答数	8	18	18	18	8	159	106	335
		%	2.4%	5.4%	5.4%	5.4%	2.4%	47.5%	31.6%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	10	17	15	25	16	194	83	360
		%	2.8%	4.7%	4.2%	6.9%	4.4%	53.9%	23.1%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	5	9	18	18	20	179	102	351
		%	1.4%	2.6%	5.1%	5.1%	5.7%	51.0%	29.1%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	9	8	13	29	27	145	117	348
		%	2.6%	2.3%	3.7%	8.3%	7.8%	41.7%	33.6%	100.0%
状 態 別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	32	48	63	89	70	631	378	1,311
		%	2.4%	3.7%	4.8%	6.8%	5.3%	48.1%	28.8%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	0	4	1	1	1	41	30	78
		%	0.0%	5.1%	1.3%	1.3%	1.3%	52.6%	38.5%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	0	0	0	0	0	5	0	5
		%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%

④学習・教養サークル

学習・教養サークルの参加頻度、「参加していない」が最も高く 60.5%、次いで「年に数回」が 1.6%、「週 1 回」が 1.4%となっています。『参加している』（年に 1 回以上参加している回答者の合計）は 5.2%となっています。

性別で『参加している』という回答割合をみると、男性（3.9%）より女性（6.5%）の方が 2.6 ポイント高くなっています。

年齢階級別で『参加している』という回答割合をみると、85～89 歳が 1.2%で最も低く、75～79 歳が 7.3%と最も高くなっています。

生活圏域別で『参加している』という回答割合をみると、久志地区（4.6%）で低く、羽地・屋我地地区（5.7%）で高くなっています。

状態別で『参加している』という回答割合をみると、一般高齢者が 5.3%、要支援認定者が 3.8%となっています。

		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加して いない	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)	回答数	5	9	20	16	23	843	478	1,394
	%	0.4%	0.6%	1.4%	1.1%	1.6%	60.5%	34.3%	100.0%
性別	男性(N=668)	2	3	3	6	12	443	199	668
	%	0.3%	0.4%	0.4%	0.9%	1.8%	66.3%	29.8%	100.0%
	女性(N=726)	3	6	17	10	11	400	279	726
	%	0.4%	0.8%	2.3%	1.4%	1.5%	55.1%	38.4%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	0	2	3	4	11	274	97	391
	%	0.0%	0.5%	0.8%	1.0%	2.8%	70.1%	24.8%	100.0%
	70～74歳(N=443)	2	2	6	7	3	279	144	443
	%	0.5%	0.5%	1.4%	1.6%	0.7%	63.0%	32.5%	100.0%
	75～79歳(N=233)	1	2	5	3	6	110	106	233
	%	0.4%	0.9%	2.1%	1.3%	2.6%	47.2%	45.5%	100.0%
	80～84歳(N=191)	2	2	4	2	3	96	82	191
	%	1.0%	1.0%	2.1%	1.0%	1.6%	50.3%	42.9%	100.0%
	85～89歳(N=84)	0	0	1	0	0	48	35	84
	%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	57.1%	41.7%	100.0%
	90歳以上(N=52)	0	1	1	0	0	36	14	52
	%	0.0%	1.9%	1.9%	0.0%	0.0%	69.2%	26.9%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	1	4	4	4	5	194	123	335
	%	0.3%	1.2%	1.2%	1.2%	1.5%	57.9%	36.7%	100.0%
	屋部地区(N=360)	1	2	10	3	3	239	102	360
	%	0.3%	0.6%	2.8%	0.8%	0.8%	66.4%	28.3%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	2	1	4	4	9	216	115	351
	%	0.6%	0.3%	1.1%	1.1%	2.6%	61.5%	32.8%	100.0%
状態別	久志地区(N=348)	1	2	2	5	6	194	138	348
	%	0.3%	0.6%	0.6%	1.4%	1.7%	55.7%	39.7%	100.0%
	一般高齢者(N=1,311)	5	8	18	16	23	794	447	1,311
	%	0.4%	0.6%	1.4%	1.2%	1.8%	60.6%	34.1%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	0	1	2	0	0	44	31	78
	%	0.0%	1.3%	2.6%	0.0%	0.0%	56.4%	39.7%	100.0%
事業対象者(N=5)	回答数	0	0	0	0	0	5	0	5
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%

⑤いきいき 100 歳体操や高齢者体操教室など介護予防のための通いの場

いきいき 100 歳体操や高齢者体操教室など介護予防のための通いの場の参加頻度、「参加していない」が最も高く 59.8%、次いで「週 1 回」が 4.1%、「週 2～3 回」が 1.8%となっています。『参加している』（年に 1 回以上参加している回答者の合計）は 9.5%となっています。

性別で『参加している』という回答割合をみると、男性（3.9%）より女性（14.7%）の方が約 3.7 倍高くなっています。

年齢階級別で『参加している』という回答割合をみると、年齢が上がるにつれ高まる傾向にあります。

生活圏域別で『参加している』という回答割合をみると、名護地区（8.4%）と羽地・屋我地地区（8.5%）で低く、屋部地区（10.6%）と久志地区（10.6%）で高くなっています。

状態別で『参加している』という回答割合をみると、一般高齢者が 8.8%、要支援認定者が 20.5%となっています。

			週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加してい ない	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)		回答数	14	25	57	22	15	833	428	1,394
		%	1.0%	1.8%	4.1%	1.6%	1.1%	59.8%	30.7%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	4	6	5	4	7	449	193	668
		%	0.6%	0.9%	0.7%	0.6%	1.0%	67.2%	28.9%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	10	19	52	18	8	384	235	726
		%	1.4%	2.6%	7.2%	2.5%	1.1%	52.9%	32.4%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	2	3	10	1	2	278	95	391
		%	0.5%	0.8%	2.6%	0.3%	0.5%	71.1%	24.3%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	1	8	17	9	3	273	132	443
		%	0.2%	1.8%	3.8%	2.0%	0.7%	61.6%	29.8%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	4	1	13	2	5	112	96	233
		%	1.7%	0.4%	5.6%	0.9%	2.1%	48.1%	41.2%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	4	6	12	4	3	95	67	191
		%	2.1%	3.1%	6.3%	2.1%	1.6%	49.7%	35.1%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	1	3	4	3	2	42	29	84
		%	1.2%	3.6%	4.8%	3.6%	2.4%	50.0%	34.5%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	2	4	1	3	0	33	9	52
		%	3.8%	7.7%	1.9%	5.8%	0.0%	63.5%	17.3%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	3	5	16	1	3	194	113	335
		%	0.9%	1.5%	4.8%	0.3%	0.9%	57.9%	33.7%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	6	7	17	7	1	233	89	360
		%	1.7%	1.9%	4.7%	1.9%	0.3%	64.7%	24.7%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	1	5	15	6	3	218	103	351
		%	0.3%	1.4%	4.3%	1.7%	0.9%	62.1%	29.3%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	4	8	9	8	8	188	123	348
		%	1.1%	2.3%	2.6%	2.3%	2.3%	54.0%	35.3%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	13	17	50	21	15	790	405	1,311
		%	1.0%	1.3%	3.8%	1.6%	1.1%	60.3%	30.9%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	1	8	6	1	0	39	23	78
		%	1.3%	10.3%	7.7%	1.3%	0.0%	50.0%	29.5%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	0	0	1	0	0	4	0	5
		%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	80.0%	0.0%	100.0%

⑥老人クラブ

老人クラブの参加頻度、「参加していない」が最も高く 53.7%、次いで「年に数回」が 9.5%、「月に 1～3 回」が 4.8%となっています。『参加している』（年に 1 回以上参加している回答者の合計）は 19.0%となっています。『参加している』は前回調査（20.5%）より低下しています。

性別で『参加している』という回答割合をみると、女性（18.2%）より男性（19.9%）の方が 1.7 ポイント高くなっています。

年齢階級別で『参加している』という回答割合をみると、85～89 歳まで年齢が上がるにつれ高まる傾向にあります。

生活圏域別で『参加している』という回答割合をみると、名護地区（9.9%）で低く、久志地区（35.6%）で高く、地区に参加率で大きな差がみられます。

状態別で『参加している』という回答割合をみると、一般高齢者が 19.3%、要支援認定者が 14.1%となっています。

		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答	回答数合計
全体(N=1,394)	回答数	17	21	28	67	132	748	381	1,394
	%	1.2%	1.5%	2.0%	4.8%	9.5%	53.7%	27.3%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	8	11	13	35	66	384	668
		%	1.2%	1.6%	1.9%	5.2%	9.9%	57.5%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	9	10	15	32	66	364	726
		%	1.2%	1.4%	2.1%	4.4%	9.1%	50.1%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	2	3	3	8	27	260	391
		%	0.5%	0.8%	0.8%	2.0%	6.9%	66.5%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	6	5	11	23	40	249	443
		%	1.4%	1.1%	2.5%	5.2%	9.0%	56.2%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	0	3	8	20	26	85	233
		%	0.0%	1.3%	3.4%	8.6%	11.2%	36.5%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	5	4	5	9	27	83	191
		%	2.6%	2.1%	2.6%	4.7%	14.1%	43.5%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	3	4	1	6	12	35	84
		%	3.6%	4.8%	1.2%	7.1%	14.3%	41.7%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	1	2	0	1	0	36	52
		%	1.9%	3.8%	0.0%	1.9%	0.0%	69.2%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	1	4	3	8	17	189	335
		%	0.3%	1.2%	0.9%	2.4%	5.1%	56.4%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	2	4	2	9	25	226	360
		%	0.6%	1.1%	0.6%	2.5%	6.9%	62.8%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	3	4	9	16	34	194	351
		%	0.9%	1.1%	2.6%	4.6%	9.7%	55.3%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	11	9	14	34	56	139	348
		%	3.2%	2.6%	4.0%	9.8%	16.1%	39.9%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	17	20	25	63	128	704	1,311
		%	1.3%	1.5%	1.9%	4.8%	9.8%	53.7%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	0	1	2	4	4	40	78
		%	0.0%	1.3%	2.6%	5.1%	5.1%	51.3%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	0	0	1	0	0	4	5
		%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	80.0%	100.0%

⑦自治会（区）

自治会（区）の参加頻度、「参加していない」が最も高く 47.1%、次いで「年に数回」が 15.1%、「月に 1～3 回」が 5.5%となっています。『参加している』（年に 1 回以上参加している回答者の合計）は 23.0%となっています。『参加している』は前回調査（18.8%）より上昇しています。

性別で『参加している』という回答割合をみると、女性（17.8%）より男性（28.7%）の方が 10.9 ポイント高くなっています。

年齢階級別で『参加している』という回答割合をみても特徴はみられません。

生活圏域別で『参加している』という回答割合をみると、名護地区（13.4%）で低く、久志地区（39.9%）で高く、地区で大きな差がみられます。

状態別で『参加している』という回答割合をみると、一般高齢者が 24.0%、要支援認定者が 5.1%となっています。

			週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加してい ない	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)		回答数	13	11	9	77	211	657	416	1,394
		%	0.9%	0.8%	0.6%	5.5%	15.1%	47.1%	29.8%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	6	4	1	52	129	317	159	668
		%	0.9%	0.6%	0.1%	7.8%	19.3%	47.5%	23.8%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	7	7	8	25	82	340	257	726
		%	1.0%	1.0%	1.1%	3.4%	11.3%	46.8%	35.4%	100.0%
年 齢 階 級	65～69歳(N=391)	回答数	4	3	3	25	52	219	85	391
		%	1.0%	0.8%	0.8%	6.4%	13.3%	56.0%	21.7%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	3	4	2	27	75	208	124	443
		%	0.7%	0.9%	0.5%	6.1%	16.9%	47.0%	28.0%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	2	2	1	18	34	77	99	233
		%	0.9%	0.9%	0.4%	7.7%	14.6%	33.0%	42.5%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	3	1	2	4	31	83	67	191
		%	1.6%	0.5%	1.0%	2.1%	16.2%	43.5%	35.1%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	1	0	1	3	17	34	28	84
		%	1.2%	0.0%	1.2%	3.6%	20.2%	40.5%	33.3%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	0	1	0	0	2	36	13	52
		%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	3.8%	69.2%	25.0%	100.0%
生 活 圏 域	名護地区(N=335)	回答数	1	1	1	9	33	176	114	335
		%	0.3%	0.3%	0.3%	2.7%	9.9%	52.5%	34.0%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	4	1	3	10	42	208	92	360
		%	1.1%	0.3%	0.8%	2.8%	11.7%	57.8%	25.6%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	0	4	2	12	59	167	107	351
		%	0.0%	1.1%	0.6%	3.4%	16.8%	47.6%	30.5%	100.0%
久志地区(N=348)	回答数	8	5	3	46	77	106	103	348	
	%	2.3%	1.4%	0.9%	13.2%	22.1%	30.5%	29.6%	100.0%	
状 態 別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	13	9	9	75	209	610	386	1,311
		%	1.0%	0.7%	0.7%	5.7%	15.9%	46.5%	29.4%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	0	2	0	1	1	44	30	78
		%	0.0%	2.6%	0.0%	1.3%	1.3%	56.4%	38.5%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	0	0	0	1	1	3	0	5
		%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	60.0%	0.0%	100.0%

⑧収入のある仕事

収入のある仕事の参加頻度、「参加していない」が最も高く 47.2%、次いで「週 4 回以上」が 13.7%、「週 2～3 回」が 3.5%となっています。『参加している』（年に 1 回以上参加している回答者の合計）は 22.2%となっています。

性別で『参加している』という回答割合をみると、女性（19.0%）より男性（25.6%）の方が 6.6 ポイント高くなっています。

年齢階級別で『参加している』という回答割合は、年齢が上がるにつれ低下する傾向にあります。

生活圏域別で『参加している』という回答割合をみると、名護地区（17.9%）で低く、久志地区（27.6%）で高くなっています。

状態別で『参加している』という回答割合をみると、一般高齢者が 23.4%、要支援認定者が 2.6%となっています。

		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答	回答数合計
全体(N=1,394)	回答数	191	49	17	17	35	658	427	1,394
	%	13.7%	3.5%	1.2%	1.2%	2.5%	47.2%	30.6%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	98	26	7	15	25	320	668
	%	14.7%	3.9%	1.0%	2.2%	3.7%	47.9%	26.5%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	93	23	10	2	10	338	726
	%	12.8%	3.2%	1.4%	0.3%	1.4%	46.6%	34.4%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	109	18	4	7	17	160	391
	%	27.9%	4.6%	1.0%	1.8%	4.3%	40.9%	19.4%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	60	18	8	6	11	210	443
	%	13.5%	4.1%	1.8%	1.4%	2.5%	47.4%	29.3%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	16	12	4	2	5	99	233
	%	6.9%	5.2%	1.7%	0.9%	2.1%	42.5%	40.8%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	5	0	1	1	1	104	191
	%	2.6%	0.0%	0.5%	0.5%	0.5%	54.5%	41.4%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	1	1	0	1	1	48	84
	%	1.2%	1.2%	0.0%	1.2%	1.2%	57.1%	38.1%	100.0%
生活圏域	90歳以上(N=52)	回答数	0	0	0	0	0	37	52
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	71.2%	28.8%	100.0%
	名護地区(N=335)	回答数	35	9	3	7	6	163	335
	%	10.4%	2.7%	0.9%	2.1%	1.8%	48.7%	33.4%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	59	16	2	3	3	182	360
	%	16.4%	4.4%	0.6%	0.8%	0.8%	50.6%	26.4%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	44	9	6	2	9	178	351
	%	12.5%	2.6%	1.7%	0.6%	2.6%	50.7%	29.3%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	53	15	6	5	17	135	348
	%	15.2%	4.3%	1.7%	1.4%	4.9%	38.8%	33.6%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	189	49	17	17	35	610	1,311
	%	14.4%	3.7%	1.3%	1.3%	2.7%	46.5%	30.1%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	2	0	0	0	0	44	78
	%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	56.4%	41.0%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	0	0	0	0	0	4	5
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	80.0%	20.0%	100.0%

(2) 地域づくりへの参加者としての参加意向

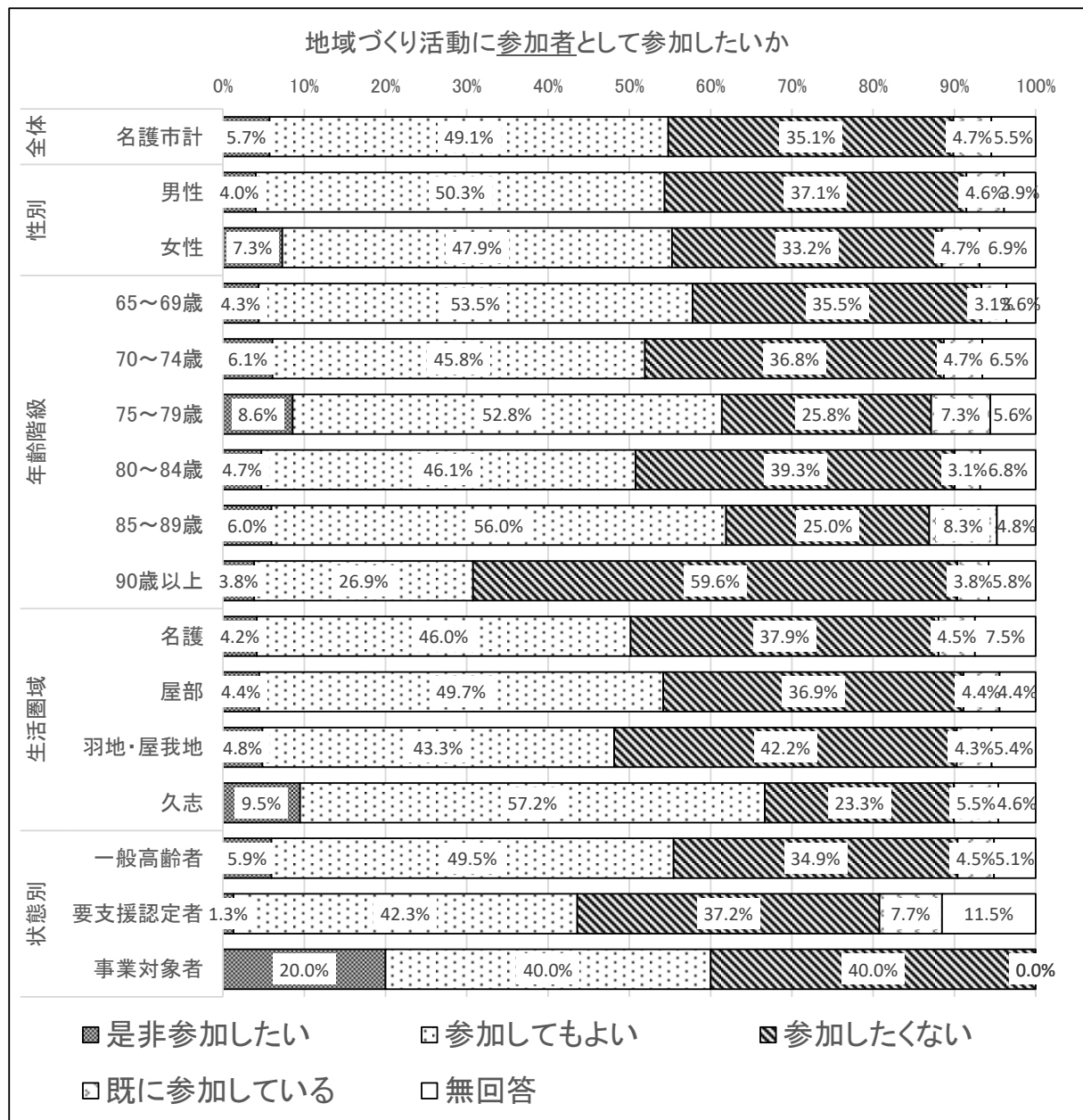
地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動等に参加者として参加したいかについて、「参加してもよい」が最も高く 49.1%、次いで「参加したくない」が 35.1%、「是非参加したい」が 5.7%、「既に参加している」が 4.7%となっています。『参加したい』（「是非参加したい」＋「参加してもよい」）は 54.8%となっています。

性別、年齢階級別で『参加したい』という回答割合をみても特徴はみられません。

生活圏域別で『参加したい』という回答割合をみると、羽地・屋我地地区（48.1%）で低く、久志地区（66.7%）で高くなっています。

状態別で『参加している』という回答割合をみると、一般高齢者が 55.5%、要支援認定者が 43.6%となっています。

		是非参加 したい	参加しても よい	参加したくな い	既に参加し ている	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)	回答数	80	684	489	65	76	1,394
	%	5.7%	49.1%	35.1%	4.7%	5.5%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	27	336	248	31	668
		%	4.0%	50.3%	37.1%	4.6%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	53	348	241	34	726
		%	7.3%	47.9%	33.2%	4.7%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	17	209	139	12	391
		%	4.3%	53.5%	35.5%	3.1%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	27	203	163	21	443
		%	6.1%	45.8%	36.8%	4.7%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	20	123	60	17	233
		%	8.6%	52.8%	25.8%	7.3%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	9	88	75	6	191
		%	4.7%	46.1%	39.3%	3.1%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	5	47	21	7	84
		%	6.0%	56.0%	25.0%	8.3%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	2	14	31	2	52
		%	3.8%	26.9%	59.6%	3.8%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	14	154	127	15	335
		%	4.2%	46.0%	37.9%	4.5%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	16	179	133	16	360
		%	4.4%	49.7%	36.9%	4.4%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	17	152	148	15	351
		%	4.8%	43.3%	42.2%	4.3%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	33	199	81	19	348
		%	9.5%	57.2%	23.3%	5.5%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	78	649	458	59	1,311
		%	5.9%	49.5%	34.9%	4.5%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	1	33	29	6	78
		%	1.3%	42.3%	37.2%	7.7%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	1	2	2	0	5
		%	20.0%	40.0%	40.0%	0.0%	100.0%



(3) 地域づくりへの企画・運営としての参加意向

地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動等に企画・運営として参加したいかについて、「参加したくない」が最も高く 54.7%、次いで「参加してもよい」が 33.5%、「既に参加している」が 3.2%、「是非参加したい」が 2.0%となっています。『参加したい』（「是非参加したい」＋「参加してもよい」）は 35.5%となっています。参加者として参加意向（54.8%）と比較すると、企画・運営での参加意向は 19.3 ポイント低くなっています。

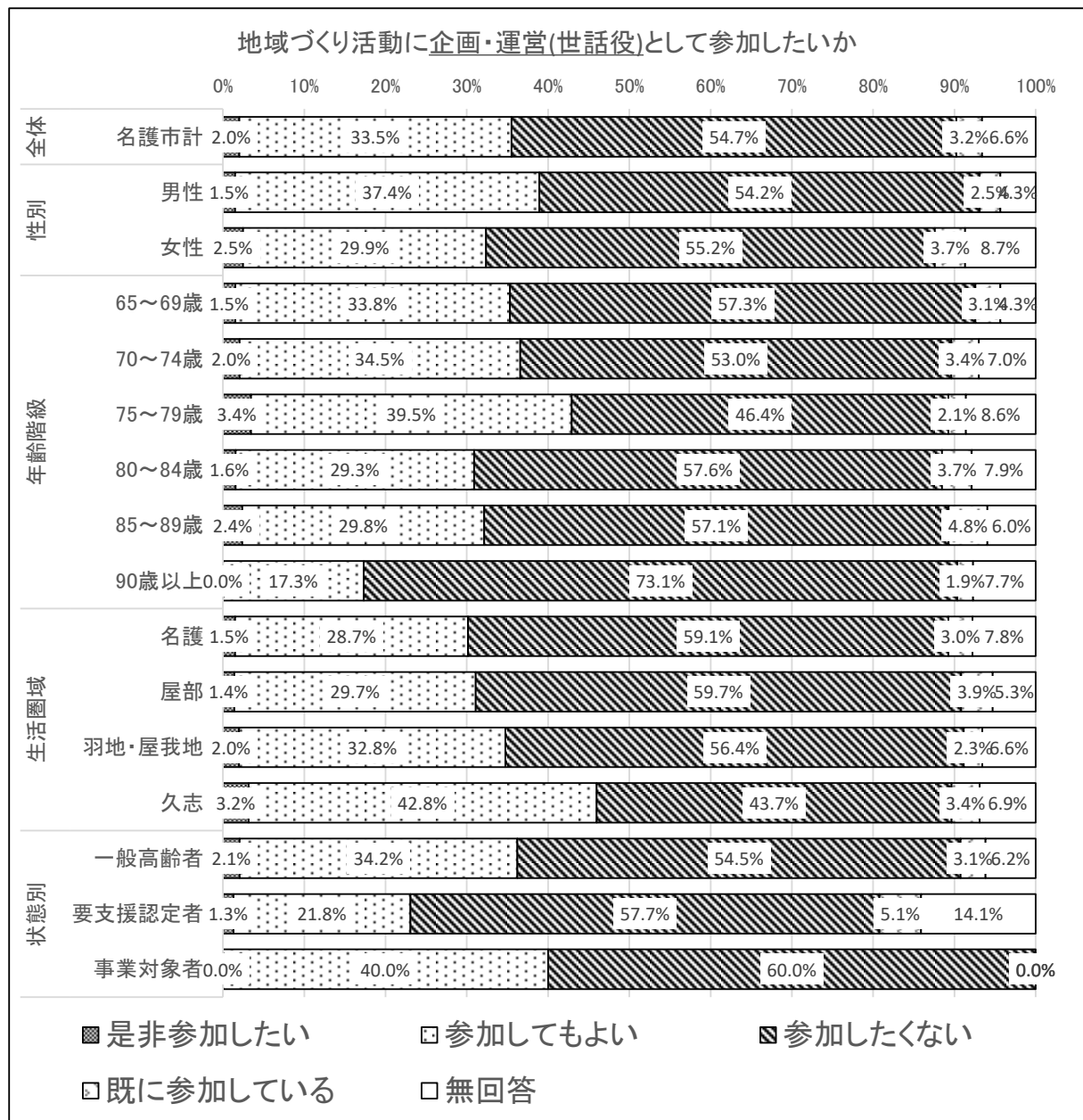
性別で『参加したい』という回答割合をみると、女性（32.4%）より男性（38.9%）の方が 6.5 ポイント高くなっています。

年齢階級別で『参加したい』という回答割合をみても特徴はみられません。

生活圏域別で『参加したい』という回答割合をみると、名護地区（30.1%）と屋部地区（31.1%）で低く、久志地区（46.0%）で高くなっています。

状態別で『参加している』という回答割合をみると、一般高齢者が 36.2%、要支援認定者が 23.1%となっています。

		是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答	回答数合計
全体(N=1,394)	回答数	28	467	763	44	92	1,394
	%	2.0%	33.5%	54.7%	3.2%	6.6%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	10	250	362	17	668
		%	1.5%	37.4%	54.2%	2.5%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	18	217	401	27	726
		%	2.5%	29.9%	55.2%	3.7%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	6	132	224	12	391
		%	1.5%	33.8%	57.3%	3.1%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	9	153	235	15	443
		%	2.0%	34.5%	53.0%	3.4%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	8	92	108	5	233
		%	3.4%	39.5%	46.4%	2.1%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	3	56	110	7	191
		%	1.6%	29.3%	57.6%	3.7%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	2	25	48	4	84
		%	2.4%	29.8%	57.1%	4.8%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	0	9	38	1	52
		%	0.0%	17.3%	73.1%	1.9%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	5	96	198	10	335
		%	1.5%	28.7%	59.1%	3.0%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	5	107	215	14	360
		%	1.4%	29.7%	59.7%	3.9%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	7	115	198	8	351
		%	2.0%	32.8%	56.4%	2.3%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	11	149	152	12	348
		%	3.2%	42.8%	43.7%	3.4%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	27	448	715	40	1,311
		%	2.1%	34.2%	54.5%	3.1%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	1	17	45	4	78
		%	1.3%	21.8%	57.7%	5.1%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	0	2	3	0	5
		%	0.0%	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%



問6 たすけあいについて

(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人(複数回答)

心配事や愚痴を聞いてくる人の第1位は「配偶者」で45.8%、第2位は「友人」で43.5%、第3位は「別居の子ども」で38.6%、第4位は「兄弟姉妹・親戚・親・孫」で36.7%と続いています。「そのような人はいない」という回答も4.2%みられます。

性別でみると、男性では「配偶者」が最も高く、女性では「友人」が最も高くなっており、「そのような人はいない」では、女性(1.4%)より男性(7.3%)が5倍以上高くなっています。

年齢階級別にみると、年齢が上がるにつれ、「同居の子ども」や「別居の子ども」の割合が高まる傾向にあります。

		配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体(N=1,394)	回答数	638	220	538	512	161	606	31	59	39
	%	45.8%	15.8%	38.6%	36.7%	11.5%	43.5%	2.2%	4.2%	2.8%
性別	男性(N=668)	回答数	395	74	190	176	50	222	19	49
		%	59.1%	11.1%	28.4%	26.3%	7.5%	33.2%	2.8%	7.3%
	女性(N=726)	回答数	243	146	348	336	111	384	12	10
		%	33.5%	20.1%	47.9%	46.3%	15.3%	52.9%	1.7%	1.4%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	205	46	133	153	44	190	9	13
		%	52.4%	11.8%	34.0%	39.1%	11.3%	48.6%	2.3%	3.3%
	70～74歳(N=443)	回答数	198	65	143	165	41	208	14	21
		%	44.7%	14.7%	32.3%	37.2%	9.3%	47.0%	3.2%	4.7%
	75～79歳(N=233)	回答数	115	36	99	82	31	110	4	10
		%	49.4%	15.5%	42.5%	35.2%	13.3%	47.2%	1.7%	4.3%
	80～84歳(N=191)	回答数	80	45	91	61	32	63	3	10
		%	41.9%	23.6%	47.6%	31.9%	16.8%	33.0%	1.6%	5.2%
	85～89歳(N=84)	回答数	31	12	47	28	9	25	0	4
		%	36.9%	14.3%	56.0%	33.3%	10.7%	29.8%	0.0%	4.8%
	90歳以上(N=52)	回答数	9	16	25	23	4	10	1	1
		%	17.3%	30.8%	48.1%	44.2%	7.7%	19.2%	1.9%	1.9%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	151	68	140	122	24	150	9	8
		%	45.1%	20.3%	41.8%	36.4%	7.2%	44.8%	2.7%	2.4%
	屋部地区(N=360)	回答数	178	56	131	127	38	153	5	17
		%	49.4%	15.6%	36.4%	35.3%	10.6%	42.5%	1.4%	4.7%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	165	49	132	140	44	153	7	12
		%	47.0%	14.0%	37.6%	39.9%	12.5%	43.6%	2.0%	3.4%
	久志地区(N=348)	回答数	144	47	135	123	55	150	10	22
		%	41.4%	13.5%	38.8%	35.3%	15.8%	43.1%	2.9%	6.3%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	620	205	505	478	150	582	30	54
		%	47.3%	15.6%	38.5%	36.5%	11.4%	44.4%	2.3%	4.1%
	要支援認定者(N=78)	回答数	17	14	31	33	9	23	1	3
		%	21.8%	17.9%	39.7%	42.3%	11.5%	29.5%	1.3%	3.8%
	事業対象者(N=5)	回答数	1	1	2	1	2	1	0	2
		%	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%	40.0%	20.0%	0.0%	40.0%

(2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人（複数回答）

心配事や愚痴を聞いてあげる人の第1位は「友人」で44.3%、第2位は「配偶者」で44.0%、第3位は「兄弟姉妹・親戚・親・孫」で41.0%、第4位は「別居の子ども」で36.9%と続いています。「そのような人はいない」という回答も6.8%みられます。

性別でみると、男性では「配偶者」が最も高く、女性では「友人」が最も高くなっており、「そのような人はいない」では、女性（4.4%）より男性（9.4%）が2倍以上高くなっています。

年齢階級別にみると、年齢が上がるにつれ、「そのような人はいない」との回答割合が高まる傾向にあります。

		配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体(N=1,394)	回答数	613	222	515	571	189	617	22	95	54
	%	44.0%	15.9%	36.9%	41.0%	13.6%	44.3%	1.6%	6.8%	3.9%
性別	男性(N=668)	回答数	383	82	201	210	60	228	16	63
		%	57.3%	12.3%	30.1%	31.4%	9.0%	34.1%	2.4%	9.4%
	女性(N=726)	回答数	230	140	314	361	129	389	6	32
		%	31.7%	19.3%	43.3%	49.7%	17.8%	53.6%	0.8%	4.4%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	207	53	135	181	51	186	7	15
		%	52.9%	13.6%	34.5%	46.3%	13.0%	47.6%	1.8%	3.8%
	70～74歳(N=443)	回答数	185	61	143	184	52	226	11	28
		%	41.8%	13.8%	32.3%	41.5%	11.7%	51.0%	2.5%	6.3%
	75～79歳(N=233)	回答数	106	43	92	85	41	109	2	21
		%	45.5%	18.5%	39.5%	36.5%	17.6%	46.8%	0.9%	9.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	74	43	85	72	34	68	2	16
		%	38.7%	22.5%	44.5%	37.7%	17.8%	35.6%	1.0%	8.4%
	85～89歳(N=84)	回答数	34	9	41	28	8	21	0	8
		%	40.5%	10.7%	48.8%	33.3%	9.5%	25.0%	0.0%	9.5%
	90歳以上(N=52)	回答数	7	13	19	21	3	7	0	7
		%	13.5%	25.0%	36.5%	40.4%	5.8%	13.5%	0.0%	13.5%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	145	64	124	142	35	156	6	18
		%	43.3%	19.1%	37.0%	42.4%	10.4%	46.6%	1.8%	5.4%
	屋部地区(N=360)	回答数	171	57	136	151	41	151	2	24
		%	47.5%	15.8%	37.8%	41.9%	11.4%	41.9%	0.6%	6.7%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	157	57	123	153	46	154	8	20
		%	44.7%	16.2%	35.0%	43.6%	13.1%	43.9%	2.3%	5.7%
	久志地区(N=348)	回答数	140	44	132	125	67	156	6	33
		%	40.2%	12.6%	37.9%	35.9%	19.3%	44.8%	1.7%	9.5%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	596	209	488	548	179	597	22	78
		%	45.5%	15.9%	37.2%	41.8%	13.7%	45.5%	1.7%	5.9%
	要支援認定者(N=78)	回答数	16	13	27	23	8	19	0	15
		%	20.5%	16.7%	34.6%	29.5%	10.3%	24.4%	0.0%	19.2%
	事業対象者(N=5)	回答数	1	0	0	0	2	1	0	2
		%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	20.0%	0.0%	40.0%

(3) 病気の時に看病や世話をしてくれる人（複数回答）

病気で数日間寝込んだ時に看病や世話をしてくれる人の第1位は「配偶者」で50.9%、第2位は「別居の子ども」で40.7%、第3位は「兄弟姉妹・親戚・親・孫」で24.7%、第4位は「同居の子ども」で21.8%と続いています。「そのような人はいない」という回答も7.0%みられます。

性別でみると、男性では「配偶者」が最も高く、女性では「別居の子ども」が最も高くなっており、「そのような人はいない」では、女性（5.0%）より男性（9.1%）が4.1ポイント高くなっています。

年齢階級別にみると、年齢が上がるにつれ「別居の子ども」と「同居の子ども」の回答割合が高まる傾向にあります。

		配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体(N=1,394)	回答数	710	304	567	345	42	94	21	97	44
	%	50.9%	21.8%	40.7%	24.7%	3.0%	6.7%	1.5%	7.0%	3.2%
性別	男性(N=668)	回答数	438	116	214	13	28	9	61	15
		%	65.6%	17.4%	32.0%	1.9%	4.2%	1.3%	9.1%	2.2%
	女性(N=726)	回答数	272	188	353	29	66	12	36	29
		%	37.5%	25.9%	48.6%	4.0%	9.1%	1.7%	5.0%	4.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	230	64	136	9	32	5	33	8
		%	58.8%	16.4%	34.8%	2.3%	8.2%	1.3%	8.4%	2.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	232	86	161	12	30	11	34	12
		%	52.4%	19.4%	36.3%	2.7%	6.8%	2.5%	7.7%	2.7%
	75～79歳(N=233)	回答数	124	54	98	7	17	1	14	9
		%	53.2%	23.2%	42.1%	3.0%	7.3%	0.4%	6.0%	3.9%
	80～84歳(N=191)	回答数	85	58	96	10	12	2	7	8
		%	44.5%	30.4%	50.3%	5.2%	6.3%	1.0%	3.7%	4.2%
	85～89歳(N=84)	回答数	33	24	51	3	3	1	6	3
		%	39.3%	28.6%	60.7%	3.6%	3.6%	1.2%	7.1%	3.6%
	90歳以上(N=52)	回答数	6	18	25	1	0	1	3	4
		%	11.5%	34.6%	48.1%	1.9%	0.0%	1.9%	5.8%	7.7%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	175	85	135	85	4	22	4	22
		%	52.2%	25.4%	40.3%	25.4%	1.2%	6.6%	1.2%	6.6%
	屋部地区(N=360)	回答数	191	86	145	80	7	18	3	23
		%	53.1%	23.9%	40.3%	22.2%	1.9%	5.0%	0.8%	6.4%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	177	69	147	91	15	22	8	21
		%	50.4%	19.7%	41.9%	25.9%	4.3%	6.3%	2.3%	6.0%
	久志地区(N=348)	回答数	167	64	140	89	16	32	6	31
		%	48.0%	18.4%	40.2%	25.6%	4.6%	9.2%	1.7%	8.9%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	691	280	532	320	39	88	20	90
		%	52.7%	21.4%	40.6%	24.4%	3.0%	6.7%	1.5%	6.9%
	要支援認定者(N=78)	回答数	18	23	34	23	2	5	1	5
		%	23.1%	29.5%	43.6%	29.5%	2.6%	6.4%	1.3%	6.4%
	事業対象者(N=5)	回答数	1	1	1	2	1	1	0	2
		%	20.0%	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%	20.0%	0.0%	40.0%

(4) 病気の時に看病や世話をしあける人(複数回答)

病気時に看病や世話をしあける人の第1位は「配偶者」で51.1%、第2位は「別居の子ども」で29.2%、第3位は「兄弟姉妹・親戚・親・孫」で28.8%、第4位は「同居の子ども」で17.4%と続いています。「そのような人はいない」という回答は15.0%みられます。

性別でみると、男女とも「配偶者」が最も高く、女性(41.0%)より男性(62.0%)が21ポイント高くなっています。その他の項目では男性よりも女性が高く、男性が看病等を行うのは主に配偶者で、女性の場合は幅広く世話を担っている状況が伺えます。

年齢階級別、生活圏域別にみても特徴はみられません。

状態別に「そのような人はいない」という回答割合をみると、一般高齢者が14.0%、要支援認定者が29.5%となっています。

		配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・ 親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような 人はいない	無回答			
全体(N=1,394)		回答数 %	712 51.1%	242 17.4%	407 29.2%	401 28.8%	47 3.4%	111 8.0%	10 0.7%	209 15.0%	82 5.9%		
性別	男性(N=668)	回答数 %	414 62.0%	88 13.2%	148 22.2%	130 19.5%	17 2.5%	33 4.9%	4 0.6%	128 19.2%	30 4.5%		
		女性(N=726)	回答数 %	298 41.0%	154 21.2%	259 35.7%	271 37.3%	30 4.1%	78 10.7%	6 0.8%	81 11.2%	52 7.2%	
	年齢階級		65～69歳(N=391)	回答数 %	222 56.8%	56 14.3%	125 32.0%	145 37.1%	13 3.3%	38 9.7%	4 1.0%	40 10.2%	19 4.9%
		70～74歳(N=443)		回答数 %	229 51.7%	81 18.3%	117 26.4%	139 31.4%	15 3.4%	34 7.7%	4 0.9%	74 16.7%	15 3.4%
75～79歳(N=233)			回答数 %	136 58.4%	40 17.2%	72 30.9%	57 24.5%	10 4.3%	20 8.6%	0 0.0%	26 11.2%	18 7.7%	
		80～84歳(N=191)	回答数 %	82 42.9%	41 21.5%	56 29.3%	34 17.8%	6 3.1%	13 6.8%	1 0.5%	32 16.8%	19 9.9%	
85～89歳(N=84)			回答数 %	38 45.2%	12 14.3%	24 28.6%	16 19.0%	3 3.6%	6 7.1%	0 0.0%	17 20.2%	4 4.8%	
		90歳以上(N=52)	回答数 %	5 9.6%	12 23.1%	13 25.0%	10 19.2%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.9%	20 38.5%	7 13.5%	
生活圏域			名護地区(N=335)	回答数 %	165 49.3%	71 21.2%	96 28.7%	100 29.9%	10 3.0%	29 8.7%	3 0.9%	47 14.0%	19 5.7%
		屋部地区(N=360)		回答数 %	191 53.1%	63 17.5%	108 30.0%	100 27.8%	7 1.9%	22 6.1%	3 0.8%	55 15.3%	19 5.3%
			羽地・屋我地地区(N=351)	回答数 %	186 53.0%	63 17.9%	103 29.3%	101 28.8%	10 2.8%	22 6.3%	2 0.6%	48 13.7%	21 6.0%
		久志地区(N=348)		回答数 %	170 48.9%	45 12.9%	100 28.7%	100 28.7%	20 5.7%	38 10.9%	2 0.6%	59 17.0%	23 6.6%
			状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数 %	695 53.0%	226 17.2%	391 29.8%	385 29.4%	46 3.5%	107 8.2%	10 0.8%	184 14.0%
		要支援認定者(N=78)			回答数 %	16 20.5%	14 17.9%	16 20.5%	15 19.2%	1 1.3%	4 5.1%	0 0.0%	23 29.5%
事業対象者(N=5)	回答数 %			1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 40.0%	0 0.0%	

(5) 家族や友人以外で相談する相手（複数回答）

家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手の第1位は「そのような人はいない」で39.7%、第2位は「医師・歯科医師・看護師」で25.8%、第3位は「地域包括支援センター・役所・役場」で13.1%、第4位は「自治会・老人クラブ」で10.4%と続いています。

性別で「そのような人はいない」という回答割合をみると、女性(38.4%)より男性(41.2%)が2.8ポイント高くなっています。

生活圏域別で「そのような人はいない」という回答割合をみると、名護地区(46.0%)で高く、久志地区(30.5%)が低くなっています。

		自治会・老人クラブ	社会福祉協議会・民生委員	ケアマネジャー	医師・歯科医師・看護師	地域包括支援センター・役所・役場	その他	そのような人はいない	無回答
全体(N=1,394)	回答数	145	114	108	359	182	109	554	118
	%	10.4%	8.2%	7.7%	25.8%	13.1%	7.8%	39.7%	8.5%
性別	男性(N=668)	回答数	67	52	44	178	83	56	275
		%	10.0%	7.8%	6.6%	26.6%	12.4%	8.4%	41.2%
	女性(N=726)	回答数	78	62	64	181	99	53	279
		%	10.7%	8.5%	8.8%	24.9%	13.6%	7.3%	38.4%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	31	28	20	92	49	38	170
		%	7.9%	7.2%	5.1%	23.5%	12.5%	9.7%	43.5%
	70～74歳(N=443)	回答数	38	24	25	104	54	39	199
		%	8.6%	5.4%	5.6%	23.5%	12.2%	8.8%	44.9%
	75～79歳(N=233)	回答数	36	19	16	68	27	16	80
		%	15.5%	8.2%	6.9%	29.2%	11.6%	6.9%	34.3%
	80～84歳(N=191)	回答数	20	23	18	56	31	10	69
		%	10.5%	12.0%	9.4%	29.3%	16.2%	5.2%	36.1%
	85～89歳(N=84)	回答数	16	14	16	26	15	3	18
		%	19.0%	16.7%	19.0%	31.0%	17.9%	3.6%	21.4%
	90歳以上(N=52)	回答数	4	6	13	13	6	3	18
		%	7.7%	11.5%	25.0%	25.0%	11.5%	5.8%	34.6%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	16	18	25	84	41	25	154
		%	4.8%	5.4%	7.5%	25.1%	12.2%	7.5%	46.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	23	27	24	103	46	28	150
		%	6.4%	7.5%	6.7%	28.6%	12.8%	7.8%	41.7%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	38	33	32	94	48	28	144
		%	10.8%	9.4%	9.1%	26.8%	13.7%	8.0%	41.0%
	久志地区(N=348)	回答数	68	36	27	78	47	28	106
		%	19.5%	10.3%	7.8%	22.4%	13.5%	8.0%	30.5%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	137	106	62	343	163	102	542
		%	10.5%	8.1%	4.7%	26.2%	12.4%	7.8%	41.3%
	要支援認定者(N=78)	回答数	7	8	43	16	17	6	12
		%	9.0%	10.3%	55.1%	20.5%	21.8%	7.7%	15.4%
	事業対象者(N=5)	回答数	1	0	3	0	2	1	0
		%	20.0%	0.0%	60.0%	0.0%	40.0%	20.0%	0.0%

(6) 友人・知人と会う頻度

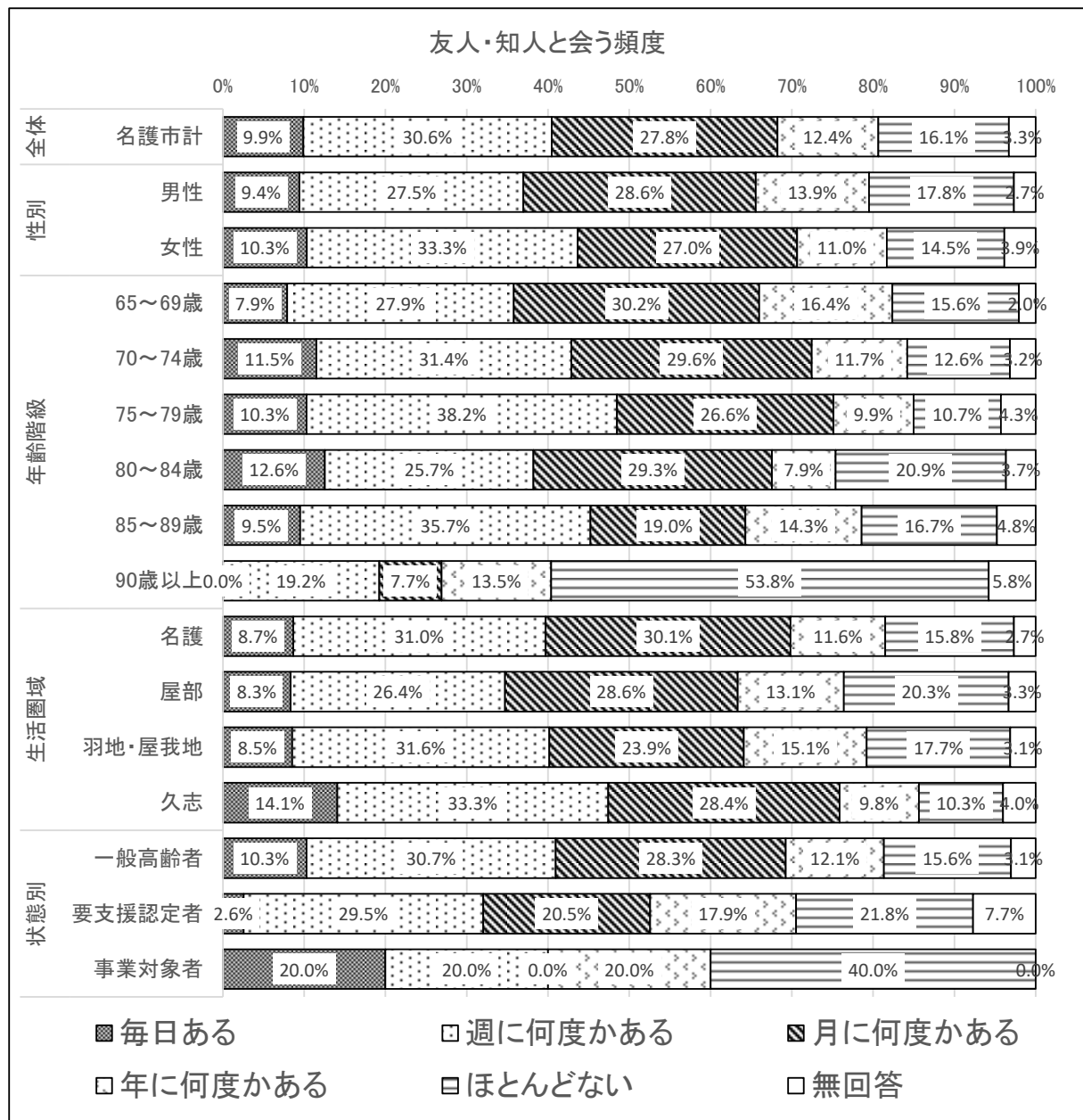
友人・知人と会う頻度について、「週に何度かある」が最も高く 30.6%、次いで「月に何度かある」で 27.8%、「ほとんどない」で 16.1%、「年に何度かある」で 12.4%、「毎日ある」で 9.9%となっています。『ある』（「ほとんどない」と「無回答」を除く）との回答は 80.6%となっています。

性別で『ある』という回答割合をみると、男性（79.5%）より女性（81.7%）が若干高くなっています。

生活圏域別で『ある』という回答割合をみると、屋部地区（76.4%）で高く、久志地区（85.6%）が低くなっています。

状態別に『ある』という回答割合をみると、一般高齢者が 81.3%、要支援認定者が 70.5%となっています。

		毎日ある	週に何度かある	月に何度かある	年に何度かある	ほとんどない	無回答	回答数合計	
全体(N=1,394)		回答数	138	426	387	173	224	46	1,394
		%	9.9%	30.6%	27.8%	12.4%	16.1%	3.3%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	63	184	191	93	119	18	668
		%	9.4%	27.5%	28.6%	13.9%	17.8%	2.7%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	75	242	196	80	105	28	726
		%	10.3%	33.3%	27.0%	11.0%	14.5%	3.9%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	31	109	118	64	61	8	391
		%	7.9%	27.9%	30.2%	16.4%	15.6%	2.0%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	51	139	131	52	56	14	443
		%	11.5%	31.4%	29.6%	11.7%	12.6%	3.2%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	24	89	62	23	25	10	233
		%	10.3%	38.2%	26.6%	9.9%	10.7%	4.3%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	24	49	56	15	40	7	191
		%	12.6%	25.7%	29.3%	7.9%	20.9%	3.7%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	8	30	16	12	14	4	84
		%	9.5%	35.7%	19.0%	14.3%	16.7%	4.8%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	0	10	4	7	28	3	52
		%	0.0%	19.2%	7.7%	13.5%	53.8%	5.8%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	29	104	101	39	53	9	335
		%	8.7%	31.0%	30.1%	11.6%	15.8%	2.7%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	30	95	103	47	73	12	360
		%	8.3%	26.4%	28.6%	13.1%	20.3%	3.3%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	30	111	84	53	62	11	351
		%	8.5%	31.6%	23.9%	15.1%	17.7%	3.1%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	49	116	99	34	36	14	348
		%	14.1%	33.3%	28.4%	9.8%	10.3%	4.0%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	135	402	371	158	205	40	1,311
		%	10.3%	30.7%	28.3%	12.1%	15.6%	3.1%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	2	23	16	14	17	6	78
		%	2.6%	29.5%	20.5%	17.9%	21.8%	7.7%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	1	1	0	1	2	0	5
		%	20.0%	20.0%	0.0%	20.0%	40.0%	0.0%	100.0%



(7) この1か月間、何人と友人・知人と会ったか

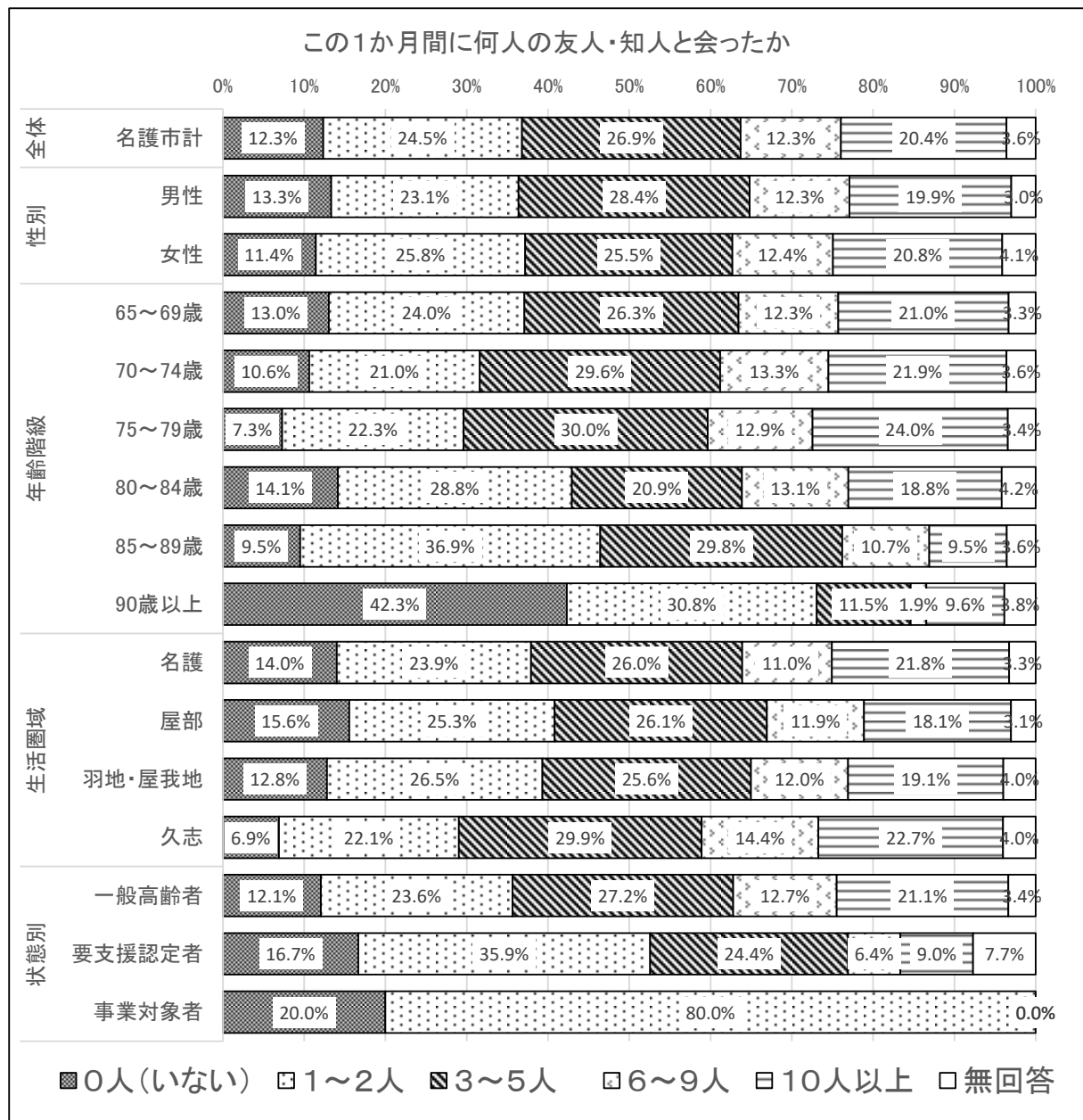
この1か月間、何人と友人・知人と会ったかについて、「3～5人」が最も高く26.9%、次いで「1～2人」で24.5%、「10人以上」で20.4%、「0人(いない)」と「6～9人」で12.3%となっています。『友人等と会った』(「0人(いない)」と「無回答」を除く)との回答は84.1%となっています。

性別で「0人(いない)」という回答割合をみると、女性(11.4%)より男性(13.3%)が若干高くなっています。

生活圏域別で『友人等と会った』という回答割合をみると、屋部地区(81.4%)で低く、久志地区(89.1%)が高くなっています。

状態別に『友人等と会った』という回答割合をみると、一般高齢者が84.6%、要支援認定者が75.6%となっています。

		0人(いない)	1～2人	3～5人	6～9人	10人以上	無回答	回答数 合計	
全体(N=1,394)		回答数	172	341	375	172	284	50	1,394
		%	12.3%	24.5%	26.9%	12.3%	20.4%	3.6%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	89	154	190	82	133	20	668
		%	13.3%	23.1%	28.4%	12.3%	19.9%	3.0%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	83	187	185	90	151	30	726
		%	11.4%	25.8%	25.5%	12.4%	20.8%	4.1%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	51	94	103	48	82	13	391
		%	13.0%	24.0%	26.3%	12.3%	21.0%	3.3%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	47	93	131	59	97	16	443
		%	10.6%	21.0%	29.6%	13.3%	21.9%	3.6%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	17	52	70	30	56	8	233
		%	7.3%	22.3%	30.0%	12.9%	24.0%	3.4%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	27	55	40	25	36	8	191
		%	14.1%	28.8%	20.9%	13.1%	18.8%	4.2%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	8	31	25	9	8	3	84
		%	9.5%	36.9%	29.8%	10.7%	9.5%	3.6%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	22	16	6	1	5	2	52
		%	42.3%	30.8%	11.5%	1.9%	9.6%	3.8%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	47	80	87	37	73	11	335
		%	14.0%	23.9%	26.0%	11.0%	21.8%	3.3%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	56	91	94	43	65	11	360
		%	15.6%	25.3%	26.1%	11.9%	18.1%	3.1%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	45	93	90	42	67	14	351
		%	12.8%	26.5%	25.6%	12.0%	19.1%	4.0%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	24	77	104	50	79	14	348
		%	6.9%	22.1%	29.9%	14.4%	22.7%	4.0%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	158	309	356	167	277	44	1,311
		%	12.1%	23.6%	27.2%	12.7%	21.1%	3.4%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	13	28	19	5	7	6	78
		%	16.7%	35.9%	24.4%	6.4%	9.0%	7.7%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	1	4	0	0	0	0	5
		%	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%



(8) よく会う友人・知人との関係

よく会う友人・知人との関係をみると、第1位は「近所・同じ地域の人」で44.3%、第2位は「趣味や関心が同じ友人」で31.8%、第3位は「仕事での同僚・元同僚」で29.3%、「学生時代の友人」で20.4%、「幼なじみ」で12.0%と続いています。「いない」との回答は8.8%となっています。

性別で「いない」という回答割合をみると、女性(8.4%)より男性(9.3%)が若干高くなっています。

年齢階級別でみると、「近所・同じ地域の人」という回答割合が年齢が上がるにつれ高くなる傾向にあります。

生活圏域別で「近所・同じ地域の人」という回答割合をみると、名護地区(34.3%)と屋部地区(33.9%)で低く、羽地・屋我地地区(49.6%)と久志地区(59.2%)で高くなっています。

状態別に「いない」という回答割合をみると、一般高齢者が8.3%、要支援認定者が15.4%となっています。

		近所・同じ地域の人	幼なじみ	学生時代の友人	仕事での同僚・元同僚	趣味や関心が同じ友人	ボランティア等の活動での友人	その他	いない	無回答
全体(N=1,394)	回答数	617	167	284	409	443	79	108	123	55
	%	44.3%	12.0%	20.4%	29.3%	31.8%	5.7%	7.7%	8.8%	3.9%
性別	男性(N=668)	回答数	284	76	135	203	211	36	48	62
		%	42.5%	11.4%	20.2%	30.4%	31.6%	5.4%	7.2%	9.3%
	女性(N=726)	回答数	333	91	149	206	232	43	60	35
		%	45.9%	12.5%	20.5%	28.4%	32.0%	5.9%	8.3%	4.8%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	140	57	107	155	123	18	34	32
		%	35.8%	14.6%	27.4%	39.6%	31.5%	4.6%	8.7%	8.2%
	70～74歳(N=443)	回答数	185	58	96	148	142	29	32	31
		%	41.8%	13.1%	21.7%	33.4%	32.1%	6.5%	7.2%	7.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	122	22	51	59	99	17	11	11
		%	52.4%	9.4%	21.9%	25.3%	42.5%	7.3%	4.7%	4.7%
	80～84歳(N=191)	回答数	102	17	21	33	54	8	20	18
		%	53.4%	8.9%	11.0%	17.3%	28.3%	4.2%	10.5%	9.4%
	85～89歳(N=84)	回答数	52	9	5	9	22	4	5	7
		%	61.9%	10.7%	6.0%	10.7%	26.2%	4.8%	6.0%	8.3%
	90歳以上(N=52)	回答数	16	4	4	5	3	3	6	24
		%	30.8%	7.7%	7.7%	9.6%	5.8%	5.8%	11.5%	46.2%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	115	47	79	100	118	14	32	37
		%	34.3%	14.0%	23.6%	29.9%	35.2%	4.2%	9.6%	11.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	122	33	76	120	114	19	36	37
		%	33.9%	9.2%	21.1%	33.3%	31.7%	5.3%	10.0%	10.3%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	174	44	71	98	106	17	21	27
		%	49.6%	12.5%	20.2%	27.9%	30.2%	4.8%	6.0%	7.7%
	久志地区(N=348)	回答数	206	43	58	91	105	29	19	22
		%	59.2%	12.4%	16.7%	26.1%	30.2%	8.3%	5.5%	6.3%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	583	159	278	396	432	76	97	109
		%	44.5%	12.1%	21.2%	30.2%	33.0%	5.8%	7.4%	8.3%
	要支援認定者(N=78)	回答数	32	8	6	13	10	3	11	12
		%	41.0%	10.3%	7.7%	16.7%	12.8%	3.8%	14.1%	15.4%
	事業対象者(N=5)	回答数	2	0	0	0	1	0	0	2
		%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	40.0%

(9) 地域包括支援センターを知っているか

地域包括支援センターを知っているかについて、「知らない」が53.8%、「知っている」が41.3%と知らないという回答が半数を超えています。

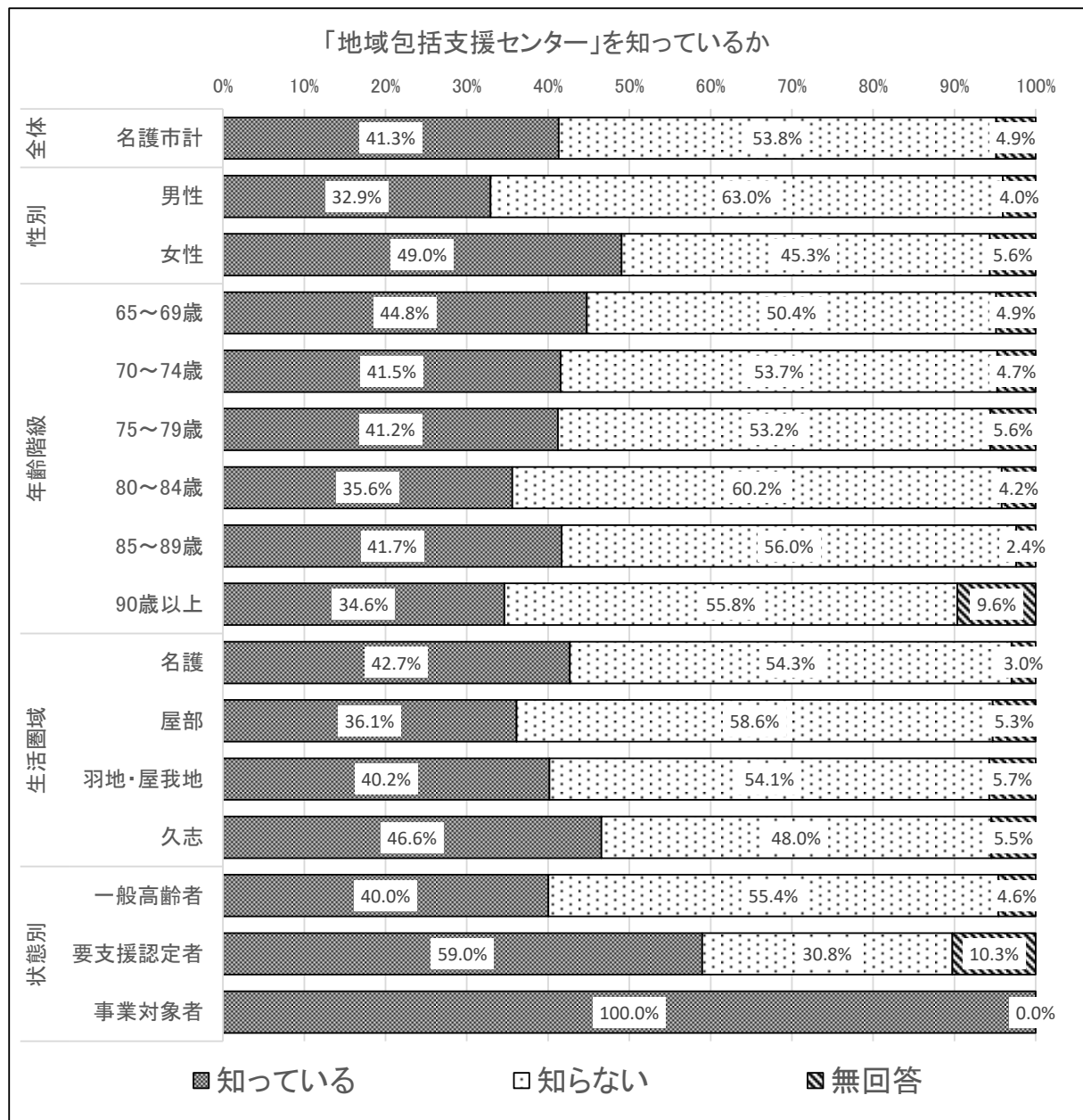
性別で「知っている」という回答割合をみると、男性(32.9%)より女性(49.0%)が16.1ポイント高くなっています。

年齢階級別でみると、全ての年齢層で「知らない」という回答が半数を超えており、75～79歳が60.2%で最も高くなっています。

生活圏域別で「知っている」という回答割合をみると、屋部地区(36.1%)で低く、久志地区(46.6%)で高くなっています。

状態別に「知っている」という回答割合をみると、一般高齢者が40.0%、要支援認定者が59.0%と、要支援認定者では知っている割合が半数を超えています。

			知っている	知らない	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)		回答数	576	750	68	1,394
		%	41.3%	53.8%	4.9%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	220	421	27	668
		%	32.9%	63.0%	4.0%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	356	329	41	726
		%	49.0%	45.3%	5.6%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	175	197	19	391
		%	44.8%	50.4%	4.9%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	184	238	21	443
		%	41.5%	53.7%	4.7%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	96	124	13	233
		%	41.2%	53.2%	5.6%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	68	115	8	191
		%	35.6%	60.2%	4.2%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	35	47	2	84
		%	41.7%	56.0%	2.4%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	18	29	5	52
		%	34.6%	55.8%	9.6%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	143	182	10	335
		%	42.7%	54.3%	3.0%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	130	211	19	360
		%	36.1%	58.6%	5.3%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	141	190	20	351
		%	40.2%	54.1%	5.7%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	162	167	19	348
		%	46.6%	48.0%	5.5%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	525	726	60	1,311
		%	40.0%	55.4%	4.6%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	46	24	8	78
		%	59.0%	30.8%	10.3%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	5	0	0	5
		%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%



問7 健康について

(1) 現在のあなたの健康状態

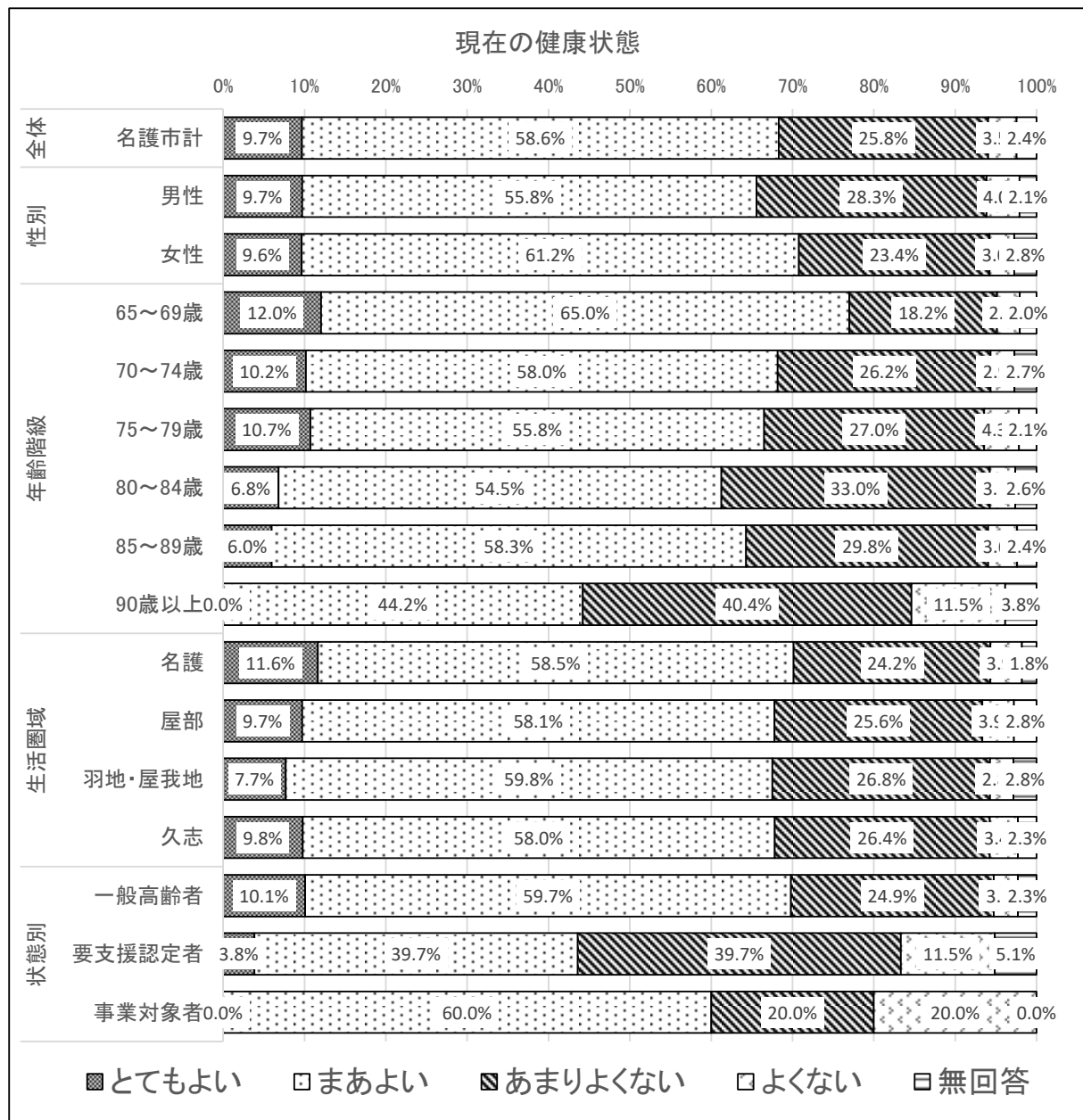
現在のあなたの健康状態について、「まあよい」が最も高く 58.6%、次いで「あまりよくない」が 25.8%、「とてもよい」が 9.7%、「よくない」が 3.5%となっています。『よい』（「とてもよい」+「まあよい」）が 68.3%、『よくない』（「あまりよくない」+「よくない」）が 29.3%となっています。

性別で『よい』という回答割合をみると、男性（65.6%）より女性（70.8%）が 4.8 ポイント高くなっています。

年齢階級別で『よい』という回答割合をみると、年齢が上がるにつれ低下する傾向にあります。

状態別に『よい』という回答割合をみると、一般高齢者が 69.8%、要支援認定者が 43.6%となっています。

		とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)	回答数	135	817	359	49	34	1,394
	%	9.7%	58.6%	25.8%	3.5%	2.4%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	65	373	189	27	668
		%	9.7%	55.8%	28.3%	4.0%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	70	444	170	22	726
		%	9.6%	61.2%	23.4%	3.0%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	47	254	71	11	391
		%	12.0%	65.0%	18.2%	2.8%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	45	257	116	13	443
		%	10.2%	58.0%	26.2%	2.9%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	25	130	63	10	233
		%	10.7%	55.8%	27.0%	4.3%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	13	104	63	6	191
		%	6.8%	54.5%	33.0%	3.1%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	5	49	25	3	84
		%	6.0%	58.3%	29.8%	3.6%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	0	23	21	6	52
		%	0.0%	44.2%	40.4%	11.5%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	39	196	81	13	335
		%	11.6%	58.5%	24.2%	3.9%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	35	209	92	14	360
		%	9.7%	58.1%	25.6%	3.9%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	27	210	94	10	351
		%	7.7%	59.8%	26.8%	2.8%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	34	202	92	12	348
		%	9.8%	58.0%	26.4%	3.4%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	132	783	327	39	1,311
		%	10.1%	59.7%	24.9%	3.0%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	3	31	31	9	78
		%	3.8%	39.7%	39.7%	11.5%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	0	3	1	1	5
		%	0.0%	60.0%	20.0%	20.0%	100.0%



(2) 現在の幸せの程度

あなたは現在どの程度幸せか（主観的健康観）について、「5点」が最も高く 23.1%、次いで「10点」が 16.7%、「8点」が 16.1%、「7点」が 12.3%と続いています。『0～4点』という幸福感が低い方が 11.0%みられます。

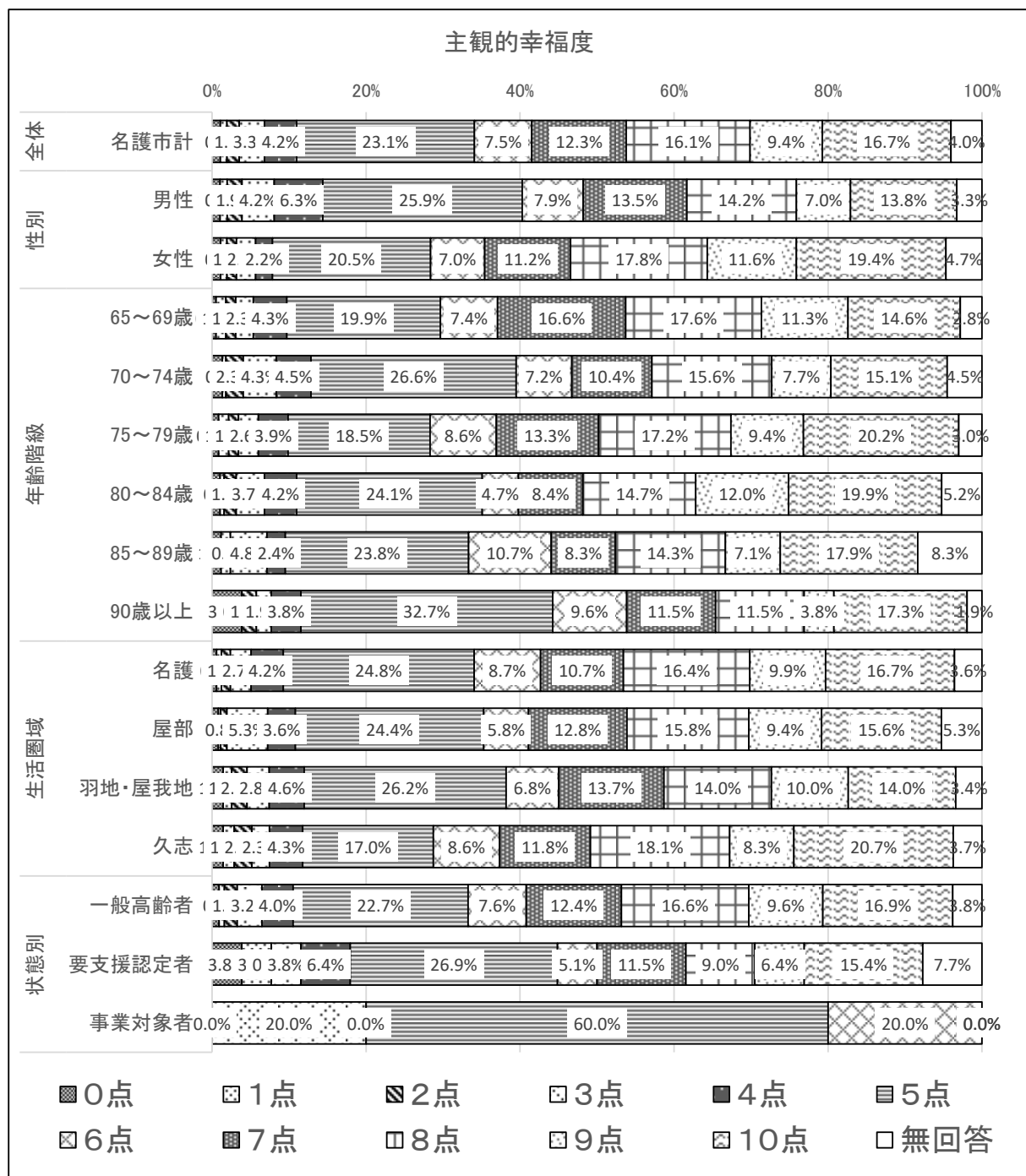
『よい』（「とてもよい」＋「まあよい」）が 68.3%、『よくない』（「あまりよくない」＋「よくない」）が 29.3%となっています。

性別で『0～4点』という回答割合をみると、女性（7.9%）より男性（14.4%）が 6.5 ポイント高くなっています。

年齢階級別、生活圏域別で回答割合をみても特徴はみられません。

状態別に『よい』という回答割合をみると、一般高齢者が 10.5%、要支援認定者が 17.9%となっています。

		0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)	回答数	15	12	22	46	58	322	104	171	224	131	233	56	1,394
	%	1.1%	0.9%	1.6%	3.3%	4.2%	23.1%	7.5%	12.3%	16.1%	9.4%	16.7%	4.0%	100.0%
性別	男性(N=668)	7	6	13	28	42	173	53	90	95	47	92	22	668
	%	1.0%	0.9%	1.9%	4.2%	6.3%	25.9%	7.9%	13.5%	14.2%	7.0%	13.8%	3.3%	100.0%
	女性(N=726)	8	6	9	18	16	149	51	81	129	84	141	34	726
	%	1.1%	0.8%	1.2%	2.5%	2.2%	20.5%	7.0%	11.2%	17.8%	11.6%	19.4%	4.7%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	2	5	5	9	17	78	29	65	69	44	57	11	391
	%	0.5%	1.3%	1.3%	2.3%	4.3%	19.9%	7.4%	16.6%	17.6%	11.3%	14.6%	2.8%	100.0%
	70～74歳(N=443)	6	2	10	19	20	118	32	46	69	34	67	20	443
	%	1.4%	0.5%	2.3%	4.3%	4.5%	26.6%	7.2%	10.4%	15.6%	7.7%	15.1%	4.5%	100.0%
	75～79歳(N=233)	2	3	3	6	9	43	20	31	40	22	47	7	233
	%	0.9%	1.3%	1.3%	2.6%	3.9%	18.5%	8.6%	13.3%	17.2%	9.4%	20.2%	3.0%	100.0%
	80～84歳(N=191)	2	1	3	7	8	46	9	16	28	23	38	10	191
	%	1.0%	0.5%	1.6%	3.7%	4.2%	24.1%	4.7%	8.4%	14.7%	12.0%	19.9%	5.2%	100.0%
	85～89歳(N=84)	1	1	0	4	2	20	9	7	12	6	15	7	84
	%	1.2%	1.2%	0.0%	4.8%	2.4%	23.8%	10.7%	8.3%	14.3%	7.1%	17.9%	8.3%	100.0%
生活圏域	90歳以上(N=52)	2	0	1	1	2	17	5	6	6	2	9	1	52
	%	3.8%	0.0%	1.9%	1.9%	3.8%	32.7%	9.6%	11.5%	11.5%	3.8%	17.3%	1.9%	100.0%
	名護地区(N=335)	2	2	4	9	14	83	29	36	55	33	56	12	335
	%	0.6%	0.6%	1.2%	2.7%	4.2%	24.8%	8.7%	10.7%	16.4%	9.9%	16.7%	3.6%	100.0%
	屋部地区(N=360)	3	1	3	19	13	88	21	46	57	34	56	19	360
	%	0.8%	0.3%	0.8%	5.3%	3.6%	24.4%	5.8%	12.8%	15.8%	9.4%	15.6%	5.3%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	5	4	7	10	16	92	24	48	49	35	49	12	351
	%	1.4%	1.1%	2.0%	2.8%	4.6%	26.2%	6.8%	13.7%	14.0%	10.0%	14.0%	3.4%	100.0%
	久志地区(N=348)	5	5	8	8	15	59	30	41	63	29	72	13	348
	%	1.4%	1.4%	2.3%	2.3%	4.3%	17.0%	8.6%	11.8%	18.1%	8.3%	20.7%	3.7%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	12	9	22	42	53	298	99	162	217	126	221	50	1,311
	%	0.9%	0.7%	1.7%	3.2%	4.0%	22.7%	7.6%	12.4%	16.6%	9.6%	16.9%	3.8%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	3	3	0	3	5	21	4	9	7	5	12	6	78
	%	3.8%	3.8%	0.0%	3.8%	6.4%	26.9%	5.1%	11.5%	9.0%	6.4%	15.4%	7.7%	100.0%
	事業対象者(N=5)	0	0	0	1	0	3	1	0	0	0	0	0	5
	%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%



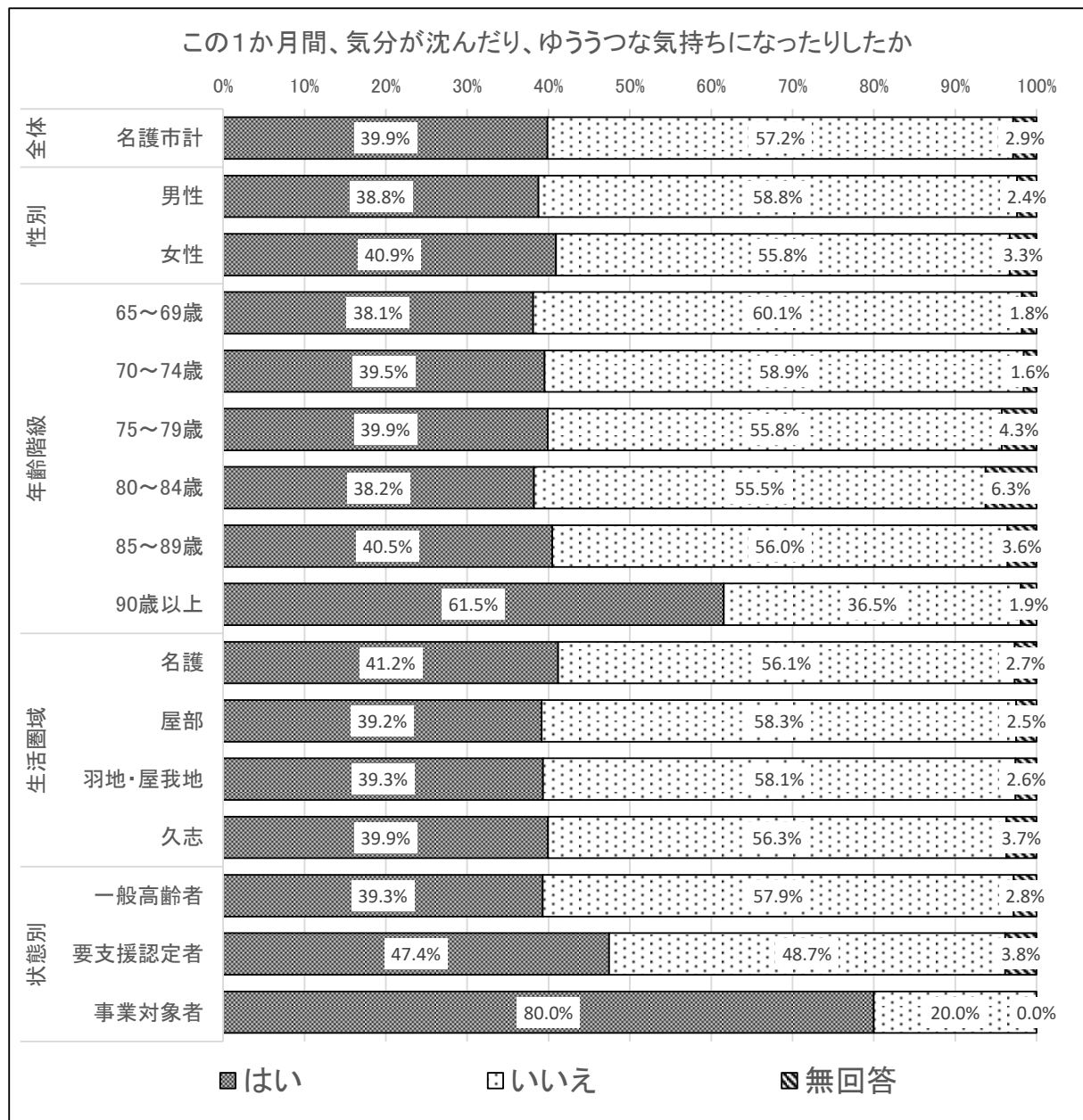
(3) この1か月間、気分が沈んだりすることがあったか

この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかについて、「いいえ」が57.2%、「はい」が39.9%となっています。

性別、年齢階級別、生活圏域別でみても特徴はみられません。

状態別に「はい」という回答割合をみると、一般高齢者が39.3%、要支援認定者が47.4%となっています。

		はい	いいえ	無回答	回答数 合計		
全体(N=1,394)		回答数 556 39.9%	798 57.2%	40 2.9%	1,394 100.0%		
性別	男性(N=668)	回答数 259 38.8%	393 58.8%	16 2.4%	668 100.0%		
	女性(N=726)	回答数 297 40.9%	405 55.8%	24 3.3%	726 100.0%		
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数 149 38.1%	235 60.1%	7 1.8%	391 100.0%		
		70～74歳(N=443)	回答数 175 39.5%	261 58.9%	7 1.6%	443 100.0%	
	75～79歳(N=233)	回答数 93 39.9%	130 55.8%	10 4.3%	233 100.0%		
		80～84歳(N=191)	回答数 73 38.2%	106 55.5%	12 6.3%	191 100.0%	
	85～89歳(N=84)	回答数 34 40.5%	47 56.0%	3 3.6%	84 100.0%		
		90歳以上(N=52)	回答数 32 61.5%	19 36.5%	1 1.9%	52 100.0%	
	生活圏域	名護地区(N=335)	回答数 138 41.2%	188 56.1%	9 2.7%	335 100.0%	
			屋部地区(N=360)	回答数 141 39.2%	210 58.3%	9 2.5%	360 100.0%
		羽地・屋我地地区(N=351)	回答数 138 39.3%	204 58.1%	9 2.6%	351 100.0%	
			久志地区(N=348)	回答数 139 39.9%	196 56.3%	13 3.7%	348 100.0%
		状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数 515 39.3%	759 57.9%	37 2.8%	1,311 100.0%
				要支援認定者(N=78)	回答数 37 47.4%	38 48.7%	3 3.8%
事業対象者(N=5)			回答数 4 80.0%	1 20.0%	0 0.0%	5 100.0%	



(4) この1か月間、物事に対して興味がわかない感じ等がよくあったか

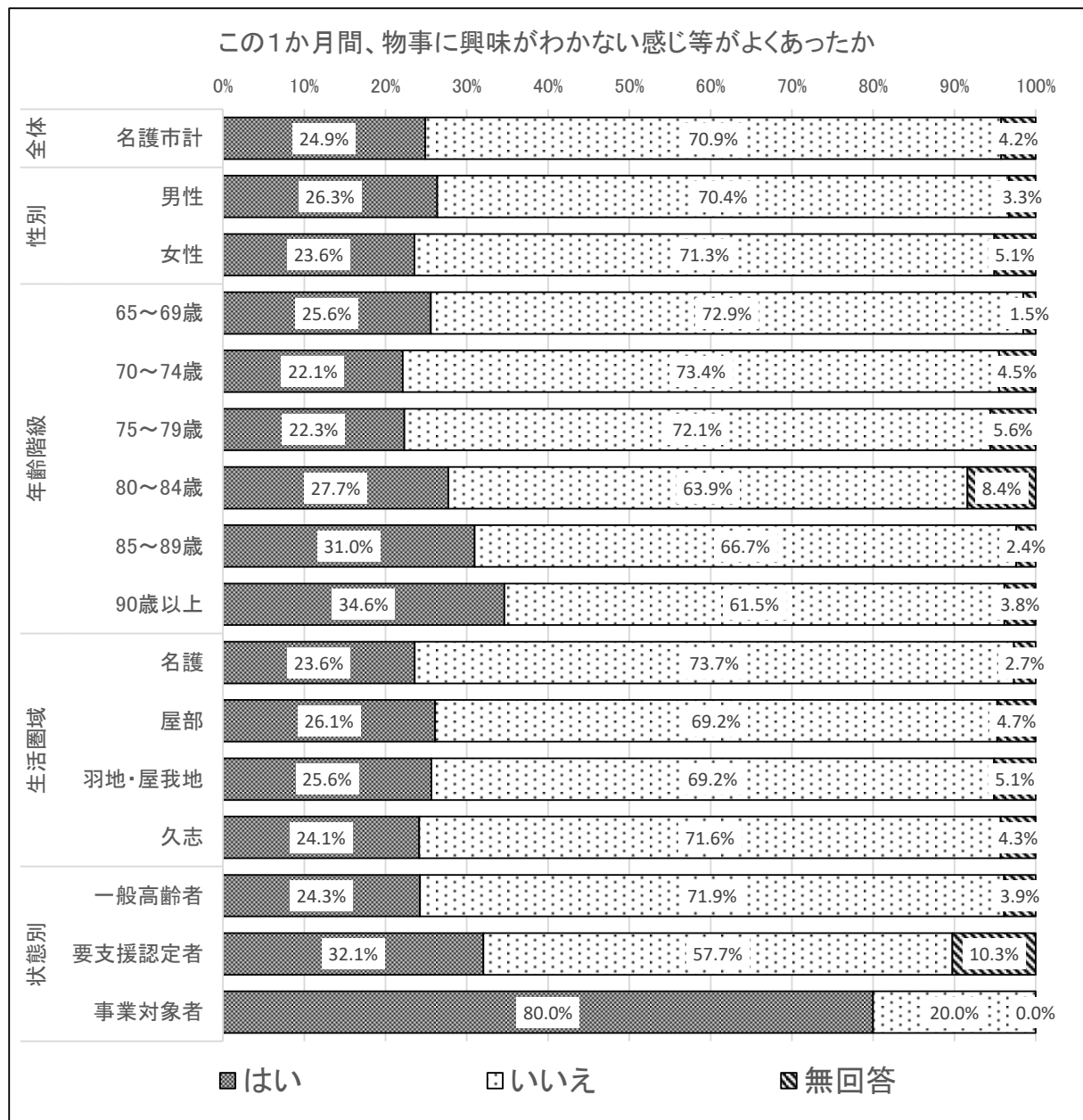
この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じよくあったかについて、「いいえ」が70.9%、「はい」が24.9%となっています。

性別で「はい」という回答割合をみると、女性(23.6%)より男性(26.3%)の方が2.7ポイント高くなっています。

年齢階級別に「はい」という回答割合をみると、80歳を境に年齢が上がるにつれ、高まる傾向にあります。

状態別に「はい」という回答割合をみると、一般高齢者が24.3%、要支援認定者が32.1%となっています。

			はい	いいえ	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)		回答数	347	988	59	1,394
		%	24.9%	70.9%	4.2%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	176	470	22	668
		%	26.3%	70.4%	3.3%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	171	518	37	726
		%	23.6%	71.3%	5.1%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	100	285	6	391
		%	25.6%	72.9%	1.5%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	98	325	20	443
		%	22.1%	73.4%	4.5%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	52	168	13	233
		%	22.3%	72.1%	5.6%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	53	122	16	191
		%	27.7%	63.9%	8.4%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	26	56	2	84
		%	31.0%	66.7%	2.4%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	18	32	2	52
		%	34.6%	61.5%	3.8%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	79	247	9	335
		%	23.6%	73.7%	2.7%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	94	249	17	360
		%	26.1%	69.2%	4.7%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	90	243	18	351
		%	25.6%	69.2%	5.1%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	84	249	15	348
		%	24.1%	71.6%	4.3%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	318	942	51	1,311
		%	24.3%	71.9%	3.9%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	25	45	8	78
		%	32.1%	57.7%	10.3%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	4	1	0	5
		%	80.0%	20.0%	0.0%	100.0%



(5) お酒を飲むか

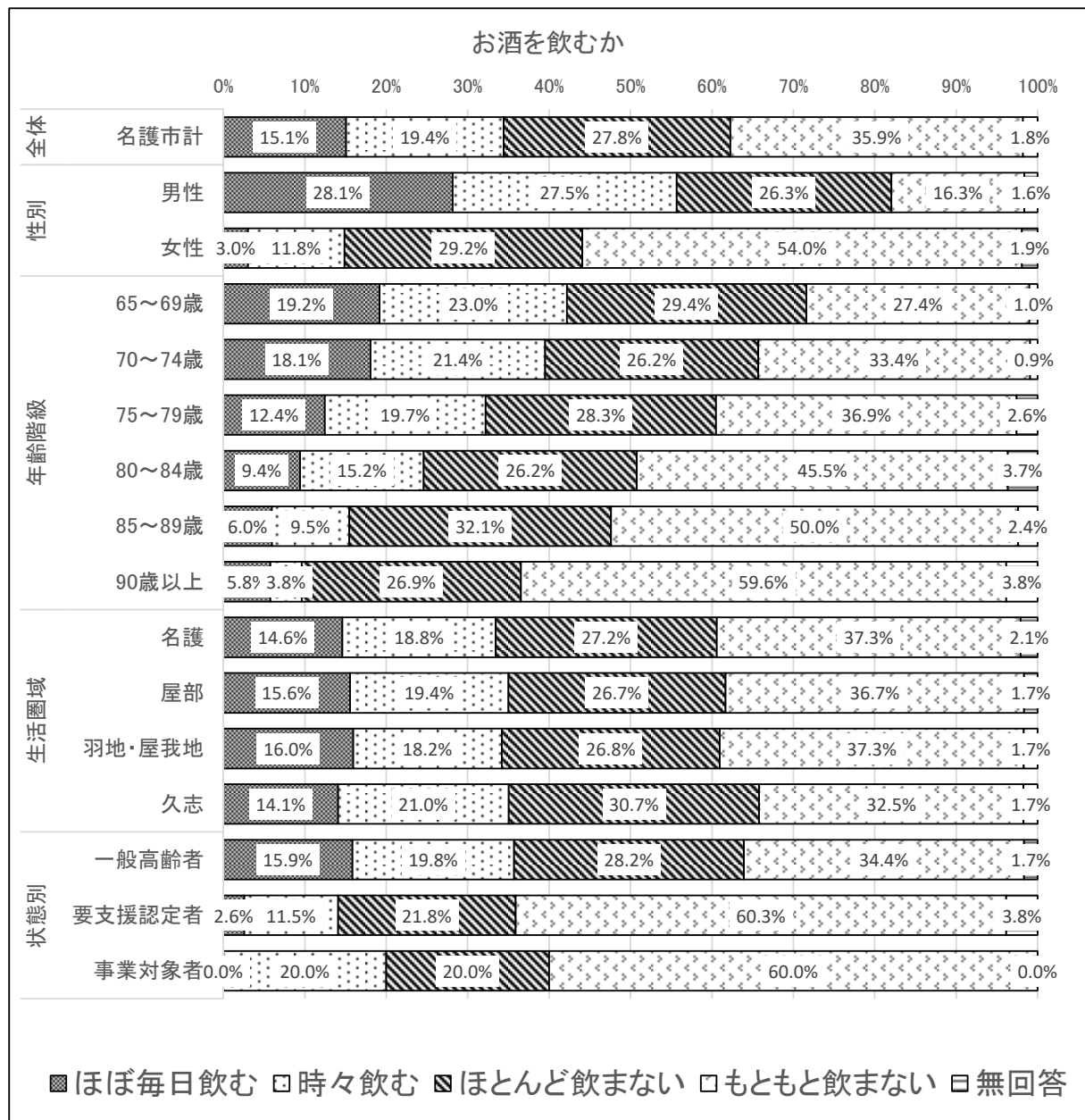
お酒を飲むかについて、「もともと飲まない」が最も高く 35.9%、次いで「ほとんど飲まない」が 27.8%、「時々飲む」が 19.4%、「ほぼ毎日飲む」が 15.1%となっています。

性別で「ほぼ毎日飲む」という回答割合をみると、女性（3.0%）より男性（28.1%）の方が9倍以上高くなっています。

年齢階級別にみると、「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」という回答は、年齢が上がるにつれ低下する傾向にあります。

状態別に「ほぼ毎日飲む」という回答割合をみると、一般高齢者が 15.9%、要支援認定者が 2.6%となっています。

		ほぼ毎日飲む	時々飲む	ほとんど飲まない	もともと飲まない	無回答	回答数合計
全体(N=1,394)	回答数	210	270	388	501	25	1,394
	%	15.1%	19.4%	27.8%	35.9%	1.8%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	188	184	176	109	668
		%	28.1%	27.5%	26.3%	16.3%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	22	86	212	392	726
		%	3.0%	11.8%	29.2%	54.0%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	75	90	115	107	391
		%	19.2%	23.0%	29.4%	27.4%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	80	95	116	148	443
		%	18.1%	21.4%	26.2%	33.4%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	29	46	66	86	233
		%	12.4%	19.7%	28.3%	36.9%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	18	29	50	87	191
		%	9.4%	15.2%	26.2%	45.5%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	5	8	27	42	84
		%	6.0%	9.5%	32.1%	50.0%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	3	2	14	31	52
		%	5.8%	3.8%	26.9%	59.6%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	49	63	91	125	335
		%	14.6%	18.8%	27.2%	37.3%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	56	70	96	132	360
		%	15.6%	19.4%	26.7%	36.7%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	56	64	94	131	351
		%	16.0%	18.2%	26.8%	37.3%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	49	73	107	113	348
		%	14.1%	21.0%	30.7%	32.5%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	208	260	370	451	1,311
		%	15.9%	19.8%	28.2%	34.4%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	2	9	17	47	78
		%	2.6%	11.5%	21.8%	60.3%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	0	1	1	3	5
		%	0.0%	20.0%	20.0%	60.0%	100.0%



(6) タバコを吸っているか

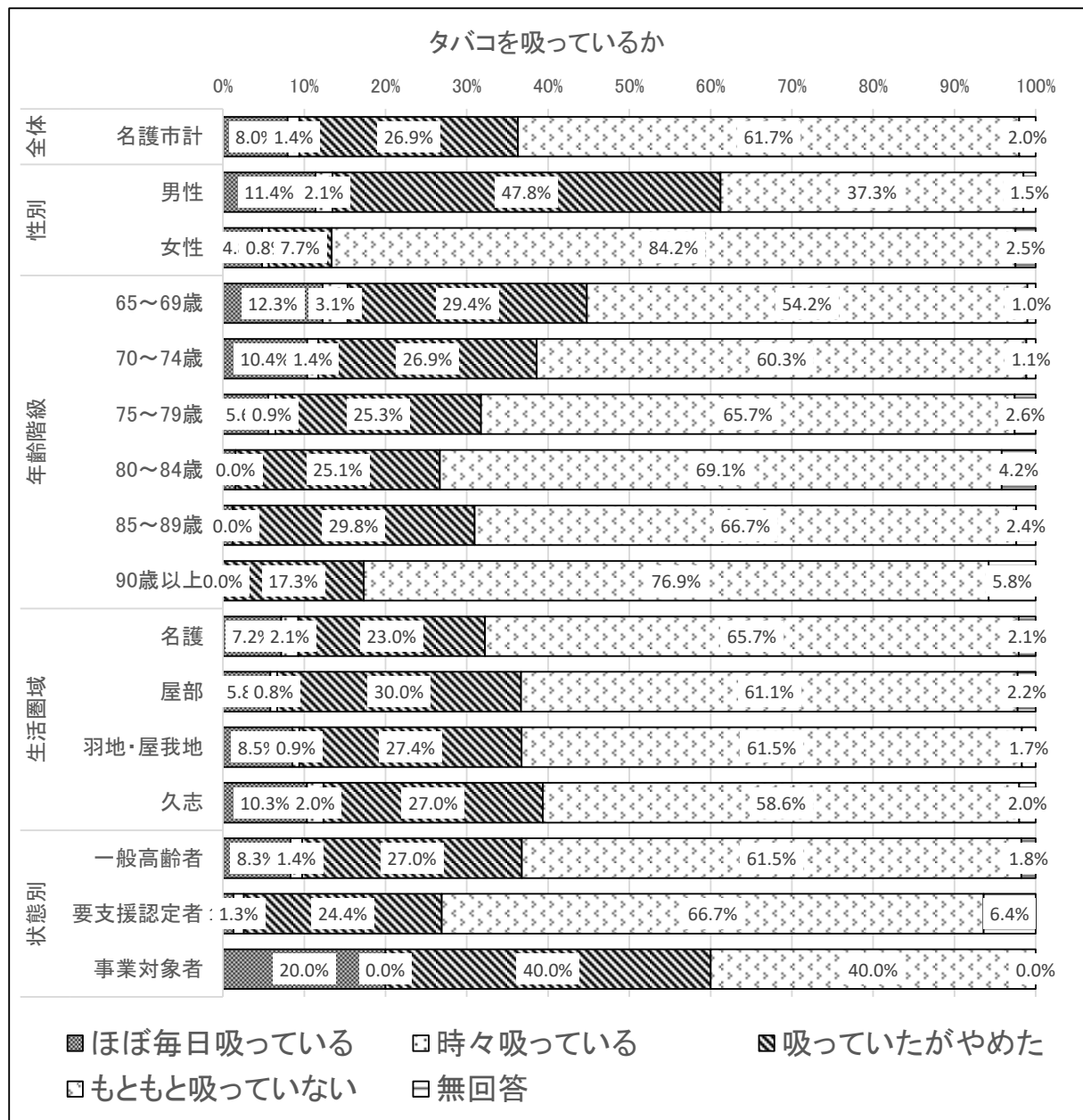
タバコを吸っているかについて、「もともと吸っていない」が最も高く 61.7%、次いで「吸っていたがやめた」が 26.9%、「ほぼ毎日吸っている」が 8.0%、「時々吸っている」が 1.4%となっています。

性別で「ほぼ毎日吸っている」という回答割合をみると、女性 (4.8%) より男性 (11.4%) の方が倍以上高くなっています。

年齢階級別にみると、「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」という回答は、年齢が上がるにつれ低下する傾向にあります。

状態別に「ほぼ毎日吸っている」という回答割合をみると、一般高齢者が 8.3%、要支援認定者が 1.3%となっています。

		ほぼ毎日 吸っている	時々吸って いる	吸っていた がやめた	もともと吸 ていない	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)		回答数 111 8.0%	20 1.4%	375 26.9%	860 61.7%	28 2.0%	1,394 100.0%
性別	男性(N=668)	回答数 76 11.4%	14 2.1%	319 47.8%	249 37.3%	10 1.5%	668 100.0%
		回答数 35 4.8%	6 0.8%	56 7.7%	611 84.2%	18 2.5%	726 100.0%
	女性(N=726)	回答数 48 12.3%	12 3.1%	115 29.4%	212 54.2%	4 1.0%	391 100.0%
		回答数 46 10.4%	6 1.4%	119 26.9%	267 60.3%	5 1.1%	443 100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数 13 5.6%	2 0.9%	59 25.3%	153 65.7%	6 2.6%	233 100.0%
		回答数 3 1.6%	0 0.0%	48 25.1%	132 69.1%	8 4.2%	191 100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数 1 1.2%	0 0.0%	25 29.8%	56 66.7%	2 2.4%	84 100.0%
		回答数 0 0.0%	0 0.0%	9 17.3%	40 76.9%	3 5.8%	52 100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数 24 7.2%	7 2.1%	77 23.0%	220 65.7%	7 2.1%	335 100.0%
		回答数 21 5.8%	3 0.8%	108 30.0%	220 61.1%	8 2.2%	360 100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数 30 8.5%	3 0.9%	96 27.4%	216 61.5%	6 1.7%	351 100.0%
		回答数 36 10.3%	7 2.0%	94 27.0%	204 58.6%	7 2.0%	348 100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数 1 1.3%	1 1.3%	19 24.4%	52 66.7%	5 6.4%	78 100.0%
		回答数 1 20.0%	0 0.0%	2 40.0%	2 40.0%	0 0.0%	5 100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数 24 7.2%	7 2.1%	77 23.0%	220 65.7%	7 2.1%	335 100.0%
		回答数 21 5.8%	3 0.8%	108 30.0%	220 61.1%	8 2.2%	360 100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数 30 8.5%	3 0.9%	96 27.4%	216 61.5%	6 1.7%	351 100.0%
		回答数 36 10.3%	7 2.0%	94 27.0%	204 58.6%	7 2.0%	348 100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数 1 1.3%	1 1.3%	19 24.4%	52 66.7%	5 6.4%	78 100.0%
		回答数 1 20.0%	0 0.0%	2 40.0%	2 40.0%	0 0.0%	5 100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数 109 8.3%	19 1.4%	354 27.0%	806 61.5%	23 1.8%	1,311 100.0%
		回答数 1 1.3%	1 1.3%	19 24.4%	52 66.7%	5 6.4%	78 100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数 1 1.3%	1 1.3%	19 24.4%	52 66.7%	5 6.4%	78 100.0%
		回答数 1 20.0%	0 0.0%	2 40.0%	2 40.0%	0 0.0%	5 100.0%



（７）現在治療中、または後遺症のある病気（複数回答）

現在治療中、または後遺症のある病気について、「高血圧」が最も高く 52.9%、次いで「目の病気」で 17.2%、「高脂血症（脂質異常）」で 13.7%、「糖尿病」で 13.2%、「心臓病」で 11.7%と続いています。「ない」は 13.1%となっています。

性別でみると、「ない」という回答割合じゃ女性（11.3%）より男性（15.1%）の方が 3.8 ポイント高くなっています。男女で比較すると、男性が女性より高いのは「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」、「心臓病」、「糖尿病」、「腎臓・前立腺の病気」となっており、逆に女性が男性より高いのは「高脂血症（脂質異常）」、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」、「外傷（転倒・骨折等）」、「目の病気」となっています。

年齢階級別にみると、何かしらの病気のある回答割合が年齢が上がるにつれ、高くなる傾向にあります。

状態別に「ない」という回答割合をみると、一般高齢者が 13.8%、要支援認定者が 2.6%となっています。

	ない	高血圧	脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	心臓病	糖尿病	高脂血症(脂質異常等)	呼吸器の病気(肺炎・気管支炎等)	胃腸・肝臓、胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気(骨折・脱臼・変形性関節症等)	外傷(転倒・骨折等)	がん(悪性新生物)	血液・免疫の病気	うつ病	認知症(アルツハイマー病等)	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	無回答	回答数合計	
全体(N=1394)	回答数 183	737	46	163	184	191	59	62	111	138	47	43	17	13	12	8	240	102	127	59	2,542	
%	13.1%	52.9%	3.3%	11.7%	13.2%	13.7%	4.2%	4.4%	8.0%	9.9%	3.4%	3.1%	1.2%	0.9%	0.9%	0.6%	17.2%	7.3%	9.1%	4.2%	182.4%	
性別																						
男性(N=688)	回答数 101	353	31	96	107	58	34	29	96	42	12	24	7	3	6	3	100	53	57	25	1,237	
%	15.1%	52.8%	4.6%	14.4%	16.0%	8.7%	5.1%	4.3%	14.4%	6.3%	1.8%	3.6%	1.0%	0.4%	0.9%	0.4%	15.0%	7.9%	8.5%	3.7%	185.2%	
女性(N=706)	回答数 82	384	15	67	77	133	25	33	15	96	35	19	10	10	6	5	140	49	70	34	1,305	
%	11.3%	52.9%	2.1%	9.2%	10.6%	18.3%	3.4%	4.5%	2.1%	13.2%	4.8%	2.6%	1.4%	1.4%	0.8%	0.7%	19.3%	6.7%	9.6%	4.7%	179.8%	
年齢																						
65～69歳(N=391)	回答数 86	160	9	33	50	62	14	19	25	32	10	11	4	3	4	4	47	16	40	12	631	
%	22.0%	40.9%	2.3%	8.4%	12.8%	13.3%	3.6%	4.9%	6.4%	8.2%	2.6%	2.8%	1.0%	0.8%	1.0%	1.0%	12.0%	4.1%	10.2%	3.1%	161.4%	
70～74歳(N=443)	回答数 58	235	16	39	69	67	14	20	24	37	11	13	4	4	4	3	55	29	42	21	762	
%	13.1%	53.0%	3.6%	8.8%	15.6%	15.1%	3.2%	4.5%	5.4%	8.4%	2.5%	2.9%	0.9%	0.9%	0.2%	0.7%	12.4%	6.5%	9.5%	4.7%	172.0%	
75～79歳(N=233)	回答数 24	127	8	37	30	31	11	8	21	28	5	7	3	2	1	0	59	16	14	11	443	
%	10.3%	54.5%	3.4%	15.9%	12.9%	13.3%	4.7%	3.4%	9.0%	12.0%	2.1%	3.0%	1.3%	0.9%	0.4%	0.0%	25.3%	6.9%	6.0%	4.7%	190.1%	
80～84歳(N=191)	回答数 7	121	7	34	23	27	9	6	21	24	9	7	5	1	5	0	44	19	19	11	399	
%	3.7%	63.4%	3.7%	17.8%	12.0%	14.1%	4.7%	3.1%	11.0%	12.6%	4.7%	3.7%	2.6%	0.5%	2.6%	0.0%	23.0%	9.9%	9.9%	5.8%	208.9%	
85～89歳(N=84)	回答数 7	56	3	10	9	11	8	6	11	10	5	4	0	1	1	0	19	9	5	3	178	
%	8.3%	66.7%	3.6%	11.9%	10.7%	13.1%	9.5%	7.1%	13.1%	11.9%	6.0%	4.8%	0.0%	1.2%	1.2%	0.0%	22.6%	10.7%	6.0%	3.6%	211.9%	
90歳以上(N=52)	回答数 1	38	3	10	3	3	3	3	9	7	7	1	1	1	2	0	1	16	13	7	1	129
%	1.9%	73.1%	5.8%	19.2%	5.8%	5.8%	5.8%	5.8%	17.3%	13.5%	13.5%	1.9%	1.9%	3.8%	0.0%	0.0%	30.8%	25.0%	13.5%	1.9%	248.1%	
生																						
名護地区(N=335)	回答数 50	183	10	37	41	42	21	10	31	33	7	9	4	4	2	2	49	22	23	14	594	
%	14.9%	54.6%	3.0%	11.0%	12.2%	12.5%	6.3%	3.0%	9.3%	9.9%	2.1%	2.7%	1.2%	0.6%	0.6%	1.2%	14.6%	6.6%	6.9%	4.2%	177.3%	
那覇地区(N=360)	回答数 51	190	18	46	44	61	12	16	26	31	12	14	4	1	0	0	64	25	35	16	668	
%	14.2%	52.8%	5.0%	12.8%	12.2%	16.9%	3.3%	4.4%	7.2%	8.6%	3.3%	3.9%	1.1%	0.3%	0.0%	0.6%	17.8%	6.9%	9.7%	4.4%	185.6%	
地																						
羽地・屋敷地区(N=351)	回答数 41	192	4	42	46	43	12	17	30	43	13	8	2	6	5	2	69	26	35	10	646	
%	11.7%	54.7%	1.1%	12.0%	13.1%	12.3%	3.4%	4.8%	8.5%	12.3%	3.7%	2.3%	0.6%	1.7%	1.4%	0.6%	19.7%	7.4%	10.0%	2.8%	184.0%	
久志地区(N=348)	回答数 41	172	14	38	53	45	14	19	24	31	15	12	7	4	5	0	58	29	34	19	634	
%	11.8%	49.4%	4.0%	10.9%	15.2%	12.9%	4.0%	5.5%	6.9%	8.9%	4.3%	3.4%	2.0%	1.1%	1.4%	0.0%	16.7%	8.3%	9.8%	5.5%	182.2%	
市																						
一般高齢者(N=1,311)	回答数 181	685	27	148	171	182	53	50	102	121	38	40	15	10	8	8	229	91	113	55	2,346	
%	13.8%	52.3%	2.8%	11.3%	13.0%	13.9%	4.0%	4.5%	7.8%	9.2%	2.9%	3.1%	1.1%	0.8%	0.6%	0.6%	17.5%	6.9%	8.6%	4.2%	178.9%	
支																						
要支援認定者(N=78)	回答数 2	45	8	14	12	8	6	5	7	16	9	3	1	1	2	4	11	10	13	4	181	
%	2.6%	61.5%	10.3%	17.9%	15.4%	10.3%	7.7%	3.8%	9.0%	20.5%	11.5%	3.8%	1.3%	2.6%	5.1%	0.0%	14.1%	12.8%	16.7%	5.1%	232.1%	
体																						
事業対象者(N=5)	回答数 0	4	1	1	1	1	1	0	2	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	15
%	0.0%	80.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	300.0%	

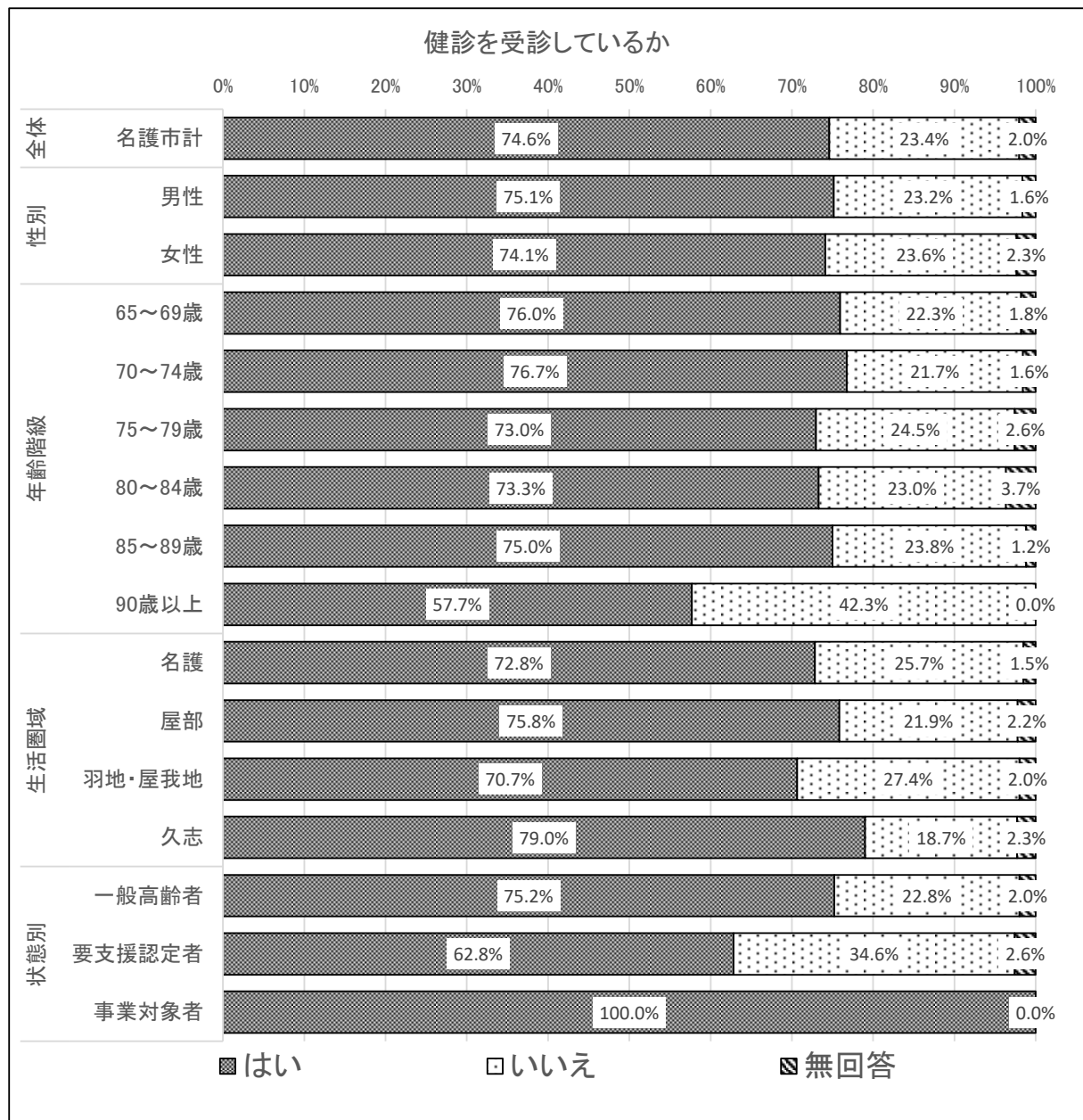
(8) 健診を受診しているか

健診を受診しているかについて、「はい」が74.6%、「いいえ」が23.4%となっています。
性別、年齢階級別にみても特徴はありません。

生活圏域別に「はい」という回答割合をみると、羽地・屋我地地区(70.7%)で低く、久志地区(79.0%)で高くなっています。

状態別に「はい」という回答割合をみると、一般高齢者が75.2%、要支援認定者が62.8%となっています。

			はい	いいえ	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)			回答数 1,040 74.6%	326 23.4%	28 2.0%	1,394 100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	502	155	11	668
		%	75.1%	23.2%	1.6%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	538	171	17	726
		%	74.1%	23.6%	2.3%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	297	87	7	391
		%	76.0%	22.3%	1.8%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	340	96	7	443
		%	76.7%	21.7%	1.6%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	170	57	6	233
		%	73.0%	24.5%	2.6%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	140	44	7	191
		%	73.3%	23.0%	3.7%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	63	20	1	84
		%	75.0%	23.8%	1.2%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	30	22	0	52
		%	57.7%	42.3%	0.0%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	244	86	5	335
		%	72.8%	25.7%	1.5%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	273	79	8	360
		%	75.8%	21.9%	2.2%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	248	96	7	351
		%	70.7%	27.4%	2.0%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	275	65	8	348
		%	79.0%	18.7%	2.3%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	986	299	26	1,311
		%	75.2%	22.8%	2.0%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	49	27	2	78
		%	62.8%	34.6%	2.6%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	5	0	0	5
		%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%



(9) 健診の受診後の指導等を受けたか

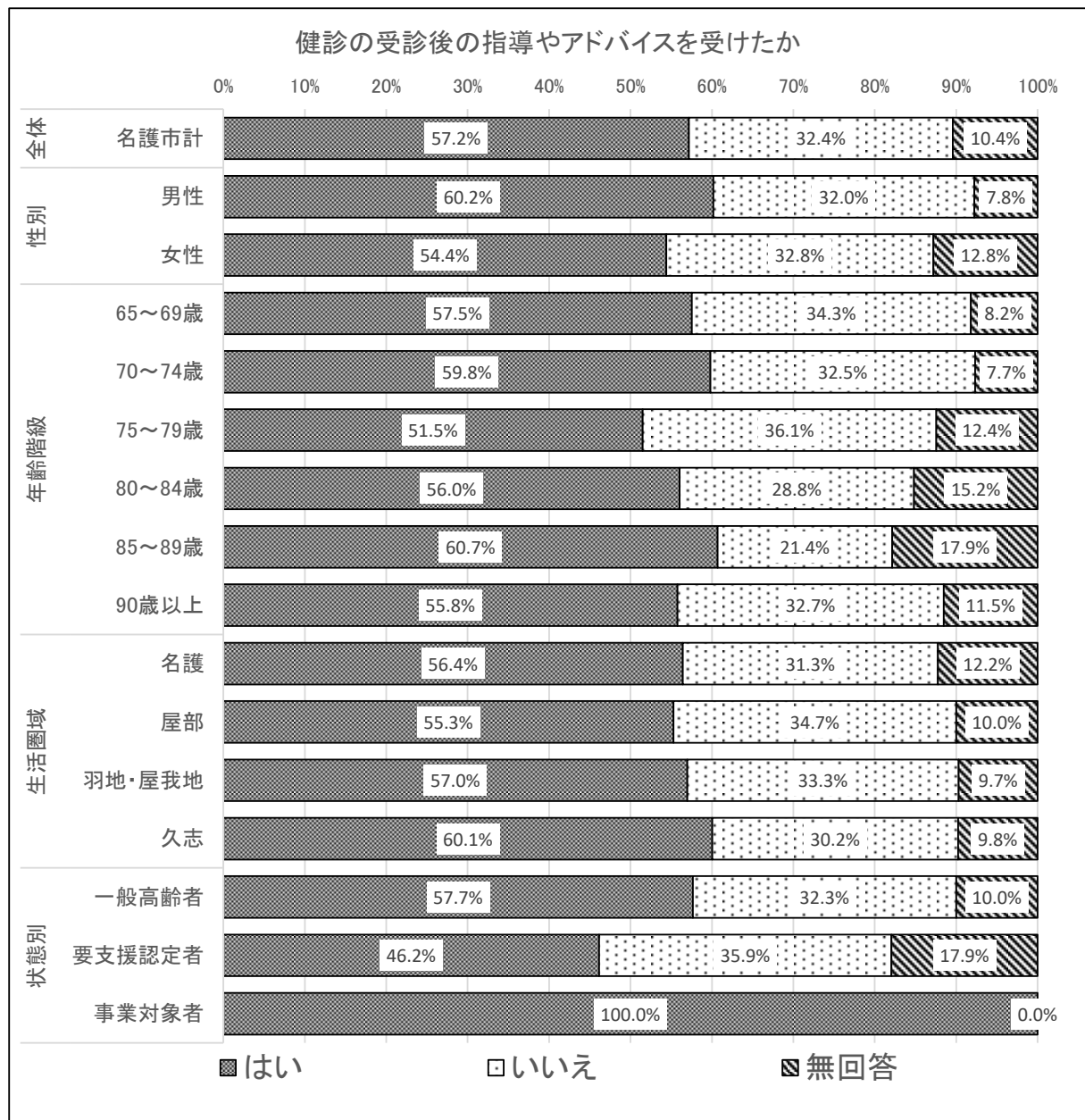
健診の受診後の指導やアドバイスを受けたかについて、「はい」が 57.2%、「いいえ」が 32.4%となっています。

性別で「はい」という回答割合をみると、女性 (54.4%) より男性 (60.2%) の方が 5.8 ポイント高くなっています。

年齢階級別、生活圏域別にみても特徴はありません。

状態別に「はい」という回答割合をみると、一般高齢者が 57.7%、要支援認定者が 46.2% となっています。

		はい	いいえ	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)	回答数	797	452	145	1,394
	%	57.2%	32.4%	10.4%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	402	214	668
		%	60.2%	32.0%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	395	238	726
		%	54.4%	32.8%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	225	134	391
		%	57.5%	34.3%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	265	144	443
		%	59.8%	32.5%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	120	84	233
		%	51.5%	36.1%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	107	55	191
		%	56.0%	28.8%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	51	18	84
		%	60.7%	21.4%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	29	17	52
		%	55.8%	32.7%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	189	105	335
		%	56.4%	31.3%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	199	125	360
		%	55.3%	34.7%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	200	117	351
		%	57.0%	33.3%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	209	105	348
		%	60.1%	30.2%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	756	424	1,311
		%	57.7%	32.3%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	36	28	78
		%	46.2%	35.9%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	5	0	5
		%	100.0%	0.0%	100.0%



(9) 健診を受診していない理由（複数回答）

健診を受診していない理由の第1位は「かかりつけ医で定期的に検査しているから」で63.8%、第2位は「体調不良時に医療機関を受診しているから」が23.6%、第3位は「特に理由はない」で11.7%、第4位は「その他」で7.4%、第5位は「忙しくて時間がとれないから」で4.6%と続いています。

性別で「特に理由はない」という回答割合をみると、女性（8.8%）より男性（14.8%）の方が6.0ポイント高くなっています。

年齢階級別に「かかりつけ医で定期的に検査しているから」という回答割合をみると、年齢があがるにつれ高くなる傾向にあります。

状態別に「かかりつけ医で定期的に検査しているから」という回答割合をみると、一般高齢者が62.9%、要支援認定者が74.1%となっています。

		かかりつけ 医で定期的 に検査して いるから	体調不良時 に医療機関 を受診して いるから	忙しくて時間 がとれない から	どこで受診 できるのか わからない から	結果が悪い と不安にな るから	健康には自 信があるか ら	その他	特に理由は ない	無回答
全体(N=326)	回答数	208	77	15	7	11	14	24	38	7
	%	63.8%	23.6%	4.6%	2.1%	3.4%	4.3%	7.4%	11.7%	2.1%
性別	男性(N=155)	回答数	94	35	6	4	3	7	10	23
		%	60.6%	22.6%	3.9%	2.6%	1.9%	4.5%	6.5%	14.8%
	女性(N=171)	回答数	114	42	9	3	8	7	14	15
		%	66.7%	24.6%	5.3%	1.8%	4.7%	4.1%	8.2%	8.8%
年齢階級	65～69歳(N=87)	回答数	43	22	9	3	5	5	8	15
		%	49.4%	25.3%	10.3%	3.4%	5.7%	5.7%	9.2%	17.2%
	70～74歳(N=96)	回答数	58	18	1	2	3	3	6	16
		%	60.4%	18.8%	1.0%	2.1%	3.1%	3.1%	6.3%	16.7%
	75～79歳(N=57)	回答数	39	17	5	1	2	4	4	4
		%	68.4%	29.8%	8.8%	1.8%	3.5%	7.0%	7.0%	7.0%
	80～84歳(N=44)	回答数	33	9	0	1	0	2	5	1
		%	75.0%	20.5%	0.0%	2.3%	0.0%	4.5%	11.4%	2.3%
	85～89歳(N=20)	回答数	16	5	0	0	1	0	0	2
		%	80.0%	25.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	10.0%
	90歳以上(N=22)	回答数	19	6	0	0	0	0	1	0
		%	86.4%	27.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%	0.0%
生活圏域	名護地区(N=86)	回答数	57	17	4	1	2	1	5	12
		%	66.3%	19.8%	4.7%	1.2%	2.3%	1.2%	5.8%	14.0%
	屋部地区(N=79)	回答数	50	18	4	1	2	3	6	10
		%	63.3%	22.8%	5.1%	1.3%	2.5%	3.8%	7.6%	12.7%
	羽地・屋我地地区(N=96)	回答数	61	27	3	3	5	6	9	7
		%	63.5%	28.1%	3.1%	3.1%	5.2%	6.3%	9.4%	7.3%
状態別	久志地区(N=65)	回答数	40	15	4	2	2	4	4	9
		%	61.5%	23.1%	6.2%	3.1%	3.1%	6.2%	6.2%	13.8%
	一般高齢者(N=299)	回答数	188	69	15	6	10	14	24	36
		%	62.9%	23.1%	5.0%	2.0%	3.3%	4.7%	8.0%	12.0%
	要支援認定者(N=27)	回答数	20	8	0	1	1	0	0	2
事業対象者(N=)		%	74.1%	29.6%	0.0%	3.7%	3.7%	0.0%	0.0%	7.4%
	事業対象者(N=)	回答数								
		%								

問8 認知症にかかる相談窓口の把握について

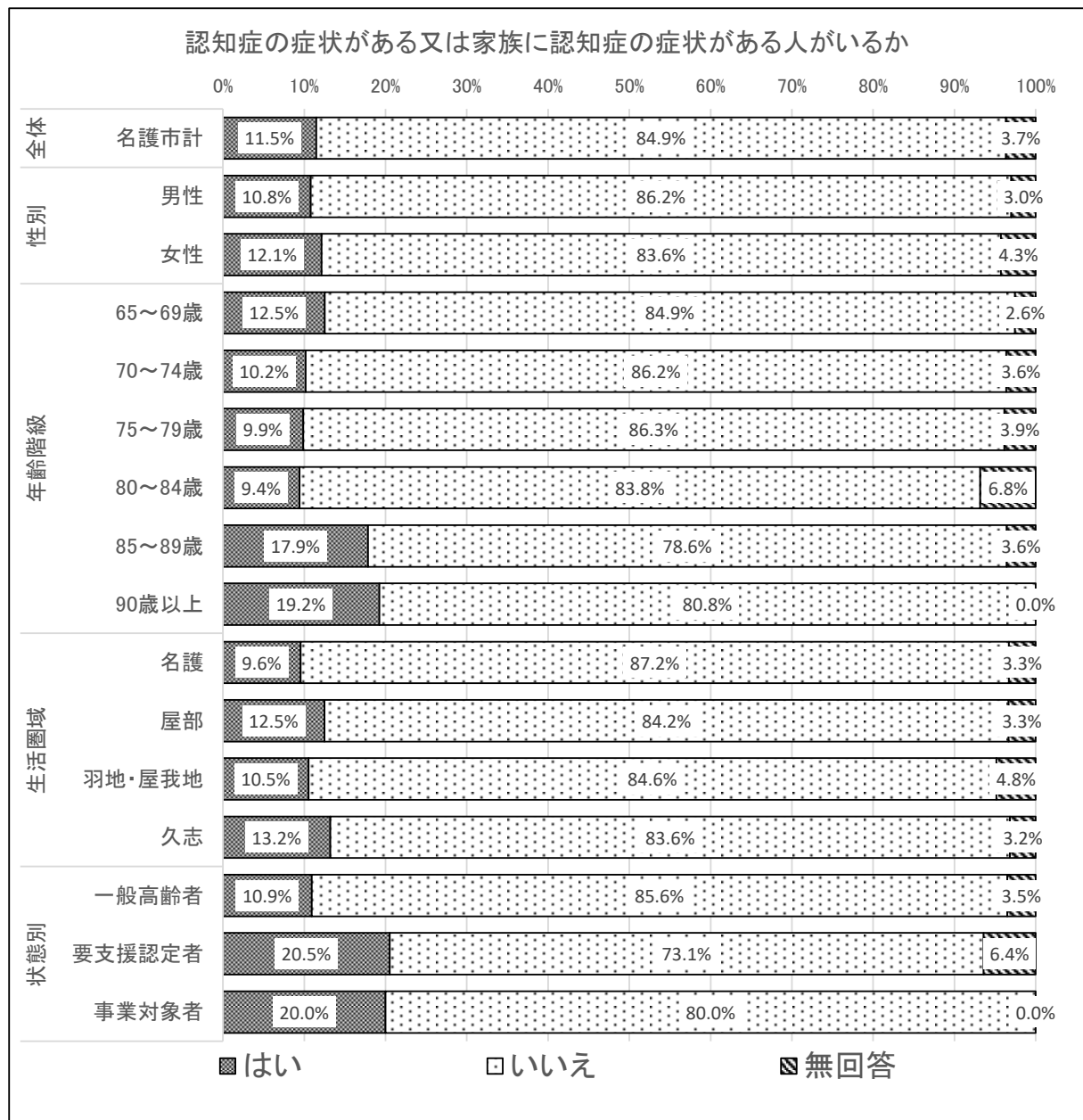
(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるか

認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるかについて、「いいえ」が84.9%、「はい」が11.5%となっています。

年齢階級別に「はい」という回答割合をみると、75～84歳では10%を下回るものの、他の年齢層では10%を超えています。特に85歳以上で割合が高くなる傾向にあります。

状態別に「はい」という回答割合をみると、一般高齢者が10.9%、要支援認定者が20.5%となっています。

		はい	いいえ	無回答	回答数 合計	
全体(N=1,394)		回答数	160	1,183	51	1,394
		%	11.5%	84.9%	3.7%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	72	576	20	668
		%	10.8%	86.2%	3.0%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	88	607	31	726
		%	12.1%	83.6%	4.3%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	49	332	10	391
		%	12.5%	84.9%	2.6%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	45	382	16	443
		%	10.2%	86.2%	3.6%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	23	201	9	233
		%	9.9%	86.3%	3.9%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	18	160	13	191
		%	9.4%	83.8%	6.8%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	15	66	3	84
		%	17.9%	78.6%	3.6%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	10	42	0	52
		%	19.2%	80.8%	0.0%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	32	292	11	335
		%	9.6%	87.2%	3.3%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	45	303	12	360
		%	12.5%	84.2%	3.3%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	37	297	17	351
		%	10.5%	84.6%	4.8%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	46	291	11	348
		%	13.2%	83.6%	3.2%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	143	1,122	46	1,311
		%	10.9%	85.6%	3.5%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	16	57	5	78
		%	20.5%	73.1%	6.4%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	1	4	0	5
		%	20.0%	80.0%	0.0%	100.0%



(2) 認知症に関する相談窓口を知っているか

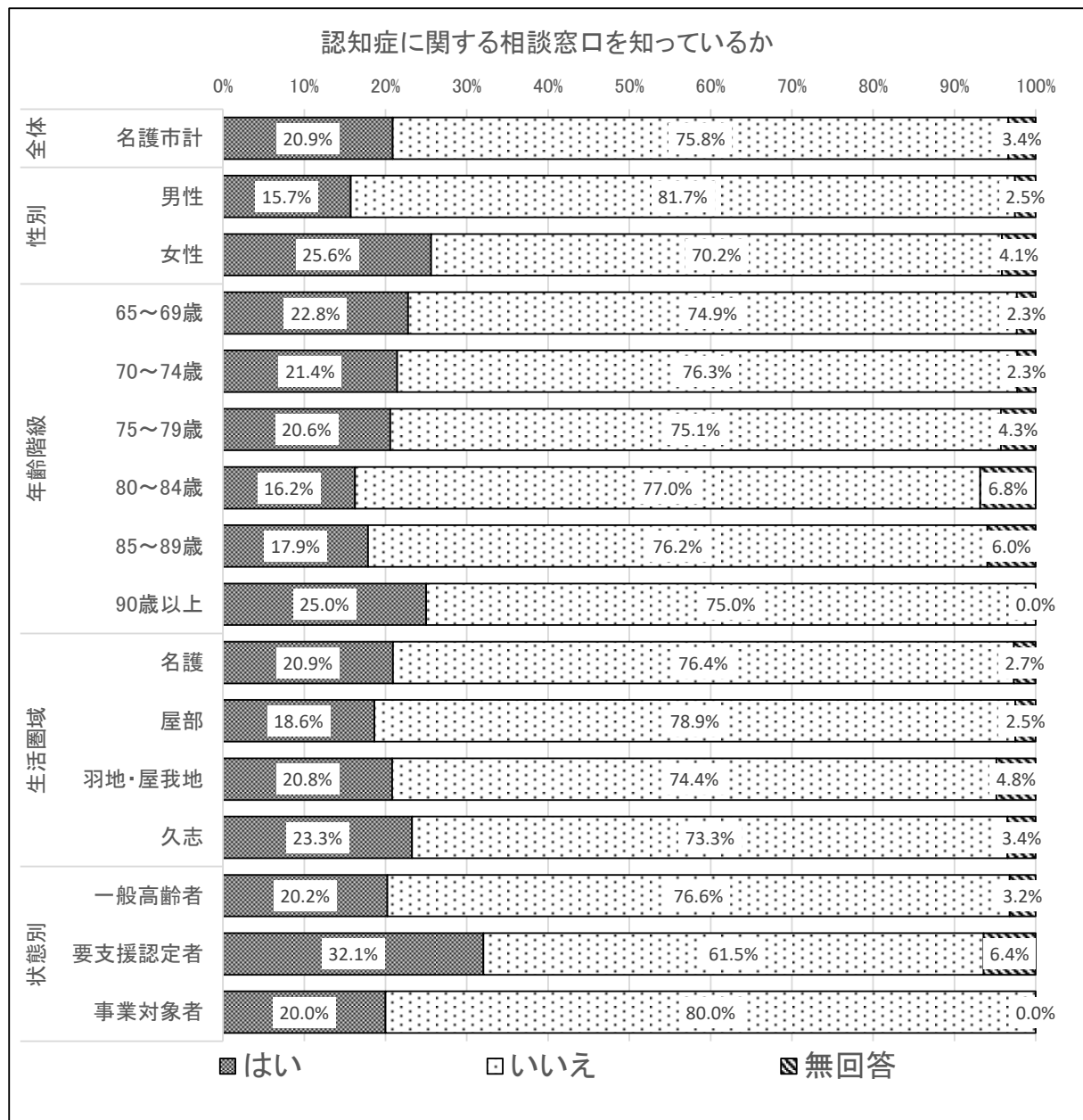
認知症に関する相談窓口を知っているかについて、「いいえ」が75.8%、「はい」が20.9%となっています。

性別で「はい」という回答割合をみると、男性(15.7%)より女性(25.6%)の方が9.9ポイント高くなっています。

生活圏域別で「はい」という回答割合をみると、屋部地区(18.6%)で低く、久志地区(23.3%)で高くなっています。

状態別に「はい」という回答割合をみると、一般高齢者が20.2%、要支援認定者が32.1%となっています。

			はい	いいえ	無回答	回答数 合計
全体(N=1,394)		回答数	291	1,056	47	1,394
		%	20.9%	75.8%	3.4%	100.0%
性別	男性(N=668)	回答数	105	546	17	668
		%	15.7%	81.7%	2.5%	100.0%
	女性(N=726)	回答数	186	510	30	726
		%	25.6%	70.2%	4.1%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=391)	回答数	89	293	9	391
		%	22.8%	74.9%	2.3%	100.0%
	70～74歳(N=443)	回答数	95	338	10	443
		%	21.4%	76.3%	2.3%	100.0%
	75～79歳(N=233)	回答数	48	175	10	233
		%	20.6%	75.1%	4.3%	100.0%
	80～84歳(N=191)	回答数	31	147	13	191
		%	16.2%	77.0%	6.8%	100.0%
	85～89歳(N=84)	回答数	15	64	5	84
		%	17.9%	76.2%	6.0%	100.0%
	90歳以上(N=52)	回答数	13	39	0	52
		%	25.0%	75.0%	0.0%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数	70	256	9	335
		%	20.9%	76.4%	2.7%	100.0%
	屋部地区(N=360)	回答数	67	284	9	360
		%	18.6%	78.9%	2.5%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数	73	261	17	351
		%	20.8%	74.4%	4.8%	100.0%
	久志地区(N=348)	回答数	81	255	12	348
		%	23.3%	73.3%	3.4%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数	265	1,004	42	1,311
		%	20.2%	76.6%	3.2%	100.0%
	要支援認定者(N=78)	回答数	25	48	5	78
		%	32.1%	61.5%	6.4%	100.0%
	事業対象者(N=5)	回答数	1	4	0	5
		%	20.0%	80.0%	0.0%	100.0%



問9 認知症に関する取り組みについて

(1) 認知症に関して優先的に取り組むべきこと（複数回答）

名護市で認知症に関する取り組みを進める中で、特に優先的に取り組むべきだと思うことの第1位は「認知症の専門医療機関がすみやかに受診・相談できる環境づくり（病院の紹介など）」で63.7%、第2位は「家族介護者の不安や負担を軽減する支援」で53.7%、第3位は「認知症の予防や認知症の早期発見」で50.6%となっており、他の項目と比較して半数以上が取り組むべきと回答しています。

性別、年齢階層別、生活圏域別、状態別でも上記の項目が上位3位にあげられています。

		認知症の専門医療機関がすみやかに受診・相談できる環境づくり(病院の紹介など)	認知症の予防や認知症の早期発見	家族介護者の不安や負担を軽減する支援	認知症の方や家族を地域で見守るボランティアの育成	徘徊や緊急時への対応	認知症(若年性認知症含む)に関する正しい知識の普及(講座等の開催)	認知症の人が活動する場づくり、社会参加の支援	虐待防止及び権利擁護に関する取り組み	わからない	無回答
全体(N=1,394)		回答数 888 % 63.7%	706 50.6%	749 53.7%	206 14.8%	238 17.1%	187 13.4%	199 14.3%	84 6.0%	133 9.5%	93 6.7%
性別	男性(N=668)	回答数 432 % 64.7%	353 52.8%	359 53.7%	85 12.7%	118 17.7%	87 13.0%	89 13.3%	38 5.7%	76 11.4%	36 5.4%
	女性(N=726)	回答数 456 % 62.8%	353 48.6%	390 53.7%	121 16.7%	120 16.5%	100 13.8%	110 15.2%	46 6.3%	57 7.9%	57 7.9%
年齢階層	65～69歳(N=391)	回答数 243 % 62.1%	195 49.9%	215 55.0%	68 17.4%	70 17.9%	58 14.8%	63 16.1%	36 9.2%	32 8.2%	25 6.4%
	70～74歳(N=443)	回答数 286 % 64.6%	220 49.7%	244 55.1%	61 13.8%	80 18.1%	59 13.3%	80 18.1%	23 5.2%	41 9.3%	24 5.4%
	75～79歳(N=233)	回答数 147 % 63.1%	127 54.5%	121 51.9%	34 14.6%	37 15.9%	42 18.0%	31 13.3%	10 4.3%	21 9.0%	13 5.6%
	80～84歳(N=191)	回答数 119 % 62.3%	101 52.9%	99 51.8%	26 13.6%	29 15.2%	19 9.9%	20 10.5%	7 3.7%	20 10.5%	17 8.9%
	85～89歳(N=84)	回答数 61 % 72.6%	42 50.0%	45 53.6%	11 13.1%	13 15.5%	5 6.0%	4 4.8%	6 7.1%	8 9.5%	10 11.9%
	90歳以上(N=52)	回答数 32 % 61.5%	21 40.4%	25 48.1%	6 11.5%	9 17.3%	4 7.7%	1 1.9%	2 3.8%	11 21.2%	4 7.7%
生活圏域	名護地区(N=335)	回答数 224 % 66.9%	173 51.6%	183 54.6%	44 13.1%	51 15.2%	52 15.5%	44 13.1%	15 4.5%	23 6.9%	27 8.1%
	屋部地区(N=360)	回答数 230 % 63.9%	186 51.7%	196 54.4%	50 13.9%	59 16.4%	47 13.1%	46 12.8%	26 7.2%	34 9.4%	21 5.8%
	羽地・屋我地地区(N=351)	回答数 220 % 62.7%	173 49.3%	186 53.0%	45 12.8%	70 19.9%	42 12.0%	52 14.8%	21 6.0%	45 12.8%	21 6.0%
	久志地区(N=348)	回答数 214 % 61.5%	174 50.0%	184 52.9%	67 19.3%	58 16.7%	46 13.2%	57 16.4%	22 6.3%	31 8.9%	24 6.9%
状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数 845 % 64.5%	668 51.0%	718 54.8%	188 14.3%	228 17.4%	178 13.6%	192 14.6%	80 6.1%	120 9.2%	81 6.2%
	要支援認定者(N=78)	回答数 40 % 51.3%	35 44.9%	28 35.9%	16 20.5%	9 11.5%	7 9.0%	7 9.0%	3 3.8%	13 16.7%	12 15.4%
	事業対象者(N=5)	回答数 3 % 60.0%	3 60.0%	3 60.0%	2 40.0%	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%

問 10 介護が必要になったときの住まいについて

(1) 介護が必要になったときにどのように暮らしたいか

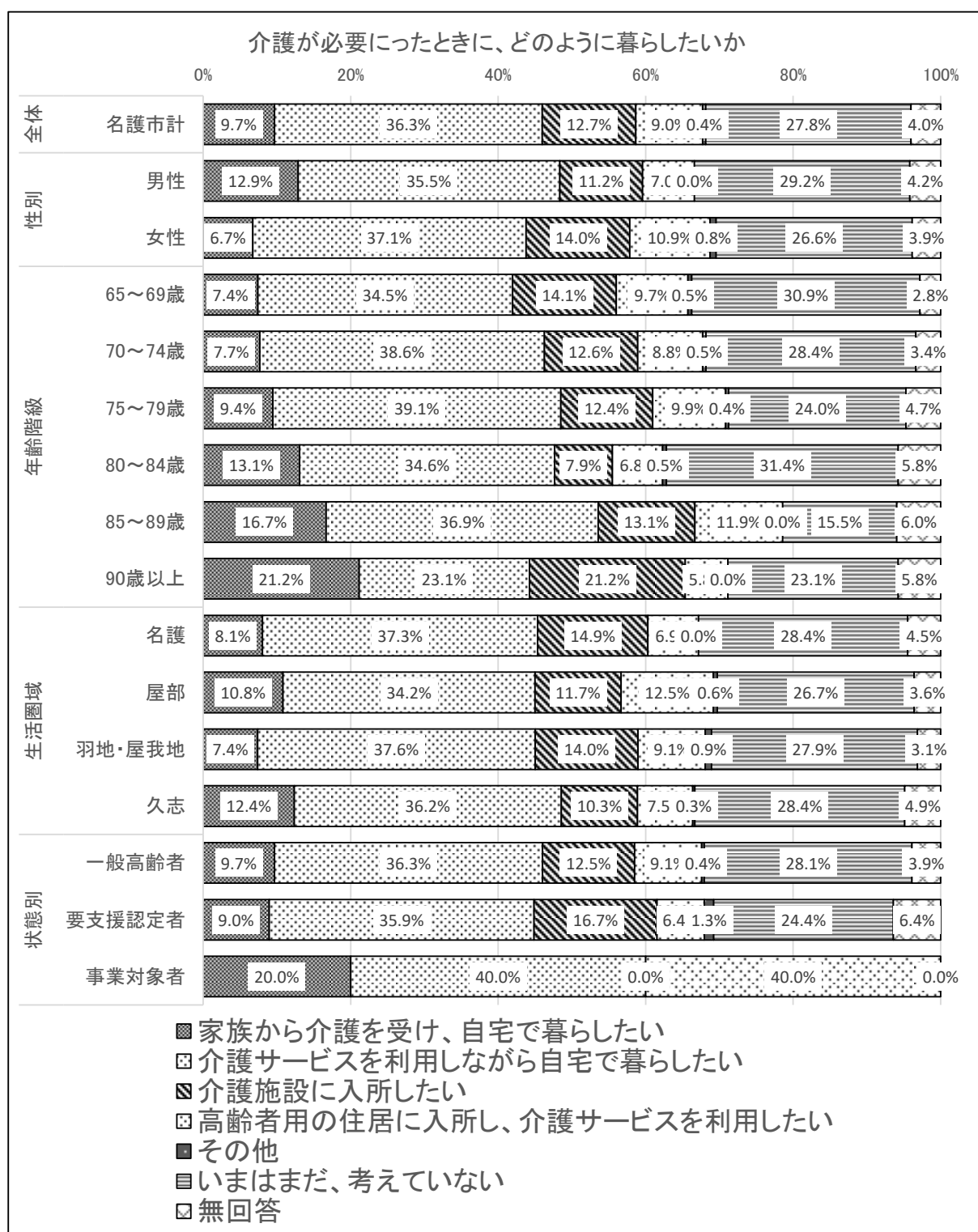
介護が必要になったときにどのように暮らしたいかについては、「介護サービスを利用しながら自宅で暮らしたい」が最も高く 36.3%、次いで「いまはまだ、考えていない」で 27.8%、「介護施設に入所したい」で 12.7%、「家族から介護を受け、自宅で暮らしたい」で 9.7%、「高齢者用の住居に入所し、介護サービスを利用したい」で 9.0%となっています。

性別でみると、男性で女性より高いのは「家族から介護受け、自宅で暮らしたい」、「いまはまだ、考えていない」となり、女性で男性より高いのは「介護施設に入所したい」と「高齢者用の住居に入所し、介護サービスを利用したい」となっています。

年齢階層別に「家族から介護を受け、自宅で暮らしたい」という回答割合をみると、年齢が上がるにつれ高まる傾向にあります

生活圏域別、状態別で特徴はみられません。

		家族から介護を受け、 自宅で暮らしたい	介護サービスを利用しながら自宅 で暮らしたい	介護施設に 入所したい	高齢者用の 住居に入所し、介護 サービスを利用したい	その他	いまはまだ、考えて いない	無回答	回答数 合計			
全体(N=1,394)		回答数 %	135 9.7%	506 36.3%	177 12.7%	126 9.0%	6 0.4%	388 27.8%	56 4.0%	1,394 100.0%		
性別	男性(N=668)	回答数 %	86 12.9%	237 35.5%	75 11.2%	47 7.0%	0 0.0%	195 29.2%	28 4.2%	668 100.0%		
		女性(N=726)	回答数 %	49 6.7%	269 37.1%	102 14.0%	79 10.9%	6 0.8%	193 26.6%	28 3.9%	726 100.0%	
	年齢階級		65～69歳(N=391)	回答数 %	29 7.4%	135 34.5%	55 14.1%	38 9.7%	2 0.5%	121 30.9%	11 2.8%	391 100.0%
		70～74歳(N=443)		回答数 %	34 7.7%	171 38.6%	56 12.6%	39 8.8%	2 0.5%	126 28.4%	15 3.4%	443 100.0%
75～79歳(N=233)			回答数 %	22 9.4%	91 39.1%	29 12.4%	23 9.9%	1 0.4%	56 24.0%	11 4.7%	233 100.0%	
		80～84歳(N=191)	回答数 %	25 13.1%	66 34.6%	15 7.9%	13 6.8%	1 0.5%	60 31.4%	11 5.8%	191 100.0%	
85～89歳(N=84)			回答数 %	14 16.7%	31 36.9%	11 13.1%	10 11.9%	0 0.0%	13 15.5%	5 6.0%	84 100.0%	
		90歳以上(N=52)	回答数 %	11 21.2%	12 23.1%	11 21.2%	3 5.8%	0 0.0%	12 23.1%	3 5.8%	52 100.0%	
生活圏域			名護地区(N=335)	回答数 %	27 8.1%	125 37.3%	50 14.9%	23 6.9%	0 0.0%	95 28.4%	15 4.5%	335 100.0%
		屋部地区(N=360)		回答数 %	39 10.8%	123 34.2%	42 11.7%	45 12.5%	2 0.6%	96 26.7%	13 3.6%	360 100.0%
			羽地・屋我地地区(N=351)	回答数 %	26 7.4%	132 37.6%	49 14.0%	32 9.1%	3 0.9%	98 27.9%	11 3.1%	351 100.0%
		久志地区(N=348)		回答数 %	43 12.4%	126 36.2%	36 10.3%	26 7.5%	1 0.3%	99 28.4%	17 4.9%	348 100.0%
			状態別	一般高齢者(N=1,311)	回答数 %	127 9.7%	476 36.3%	164 12.5%	119 9.1%	5 0.4%	369 28.1%	51 3.9%
		要支援認定者(N=78)			回答数 %	7 9.0%	28 35.9%	13 16.7%	5 6.4%	1 1.3%	19 24.4%	5 6.4%
	事業対象者(N=5)			回答数 %	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 100.0%

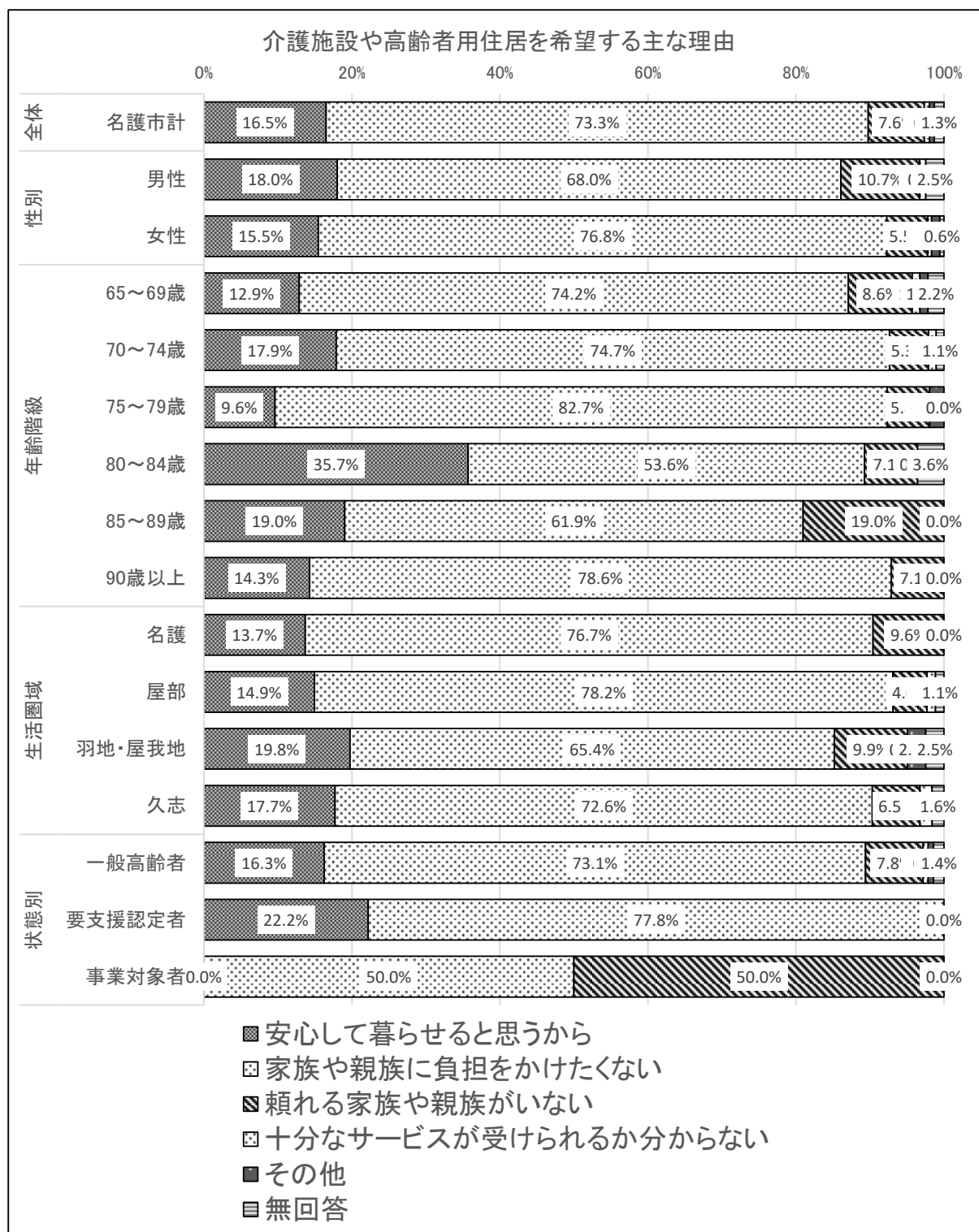


(1) ①介護施設や高齢者用住宅を希望する主な理由

介護施設の入所や高齢者住居への入居を希望する方の介護施設や高齢者用住宅を希望する主な理由は、「家族や親族に負担をかけたくない」が最も高く 73.3%、次いで「安心して暮らせると思うから」で 16.5%、「頼れる家族や親族がいない」で 7.6%と続いています。

性別、年齢階層別、生活圏域別、状態別でもみて上位3項目は共通しています。

		安心して暮らせると思うから	家族や親族に負担をかけたくない	頼れる家族や親族がいない	十分なサービスが受けられるか分からない	その他	無回答	回答数合計
全体(N=303)	回答数	50	222	23	2	2	4	303
	%	16.5%	73.3%	7.6%	0.7%	0.7%	1.3%	100.0%
性別	男性(N=122)	回答数	22	83	13	1	3	122
		%	18.0%	68.0%	10.7%	0.8%	2.5%	100.0%
	女性(N=181)	回答数	28	139	10	1	1	181
		%	15.5%	76.8%	5.5%	0.6%	0.6%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=93)	回答数	12	69	8	1	2	93
		%	12.9%	74.2%	8.6%	1.1%	2.2%	100.0%
	70～74歳(N=95)	回答数	17	71	5	1	1	95
		%	17.9%	74.7%	5.3%	1.1%	1.1%	100.0%
	75～79歳(N=52)	回答数	5	43	3	0	0	52
		%	9.6%	82.7%	5.8%	0.0%	0.0%	100.0%
	80～84歳(N=28)	回答数	10	15	2	0	1	28
		%	35.7%	53.6%	7.1%	0.0%	3.6%	100.0%
	85～89歳(N=21)	回答数	4	13	4	0	0	21
		%	19.0%	61.9%	19.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	90歳以上(N=14)	回答数	2	11	1	0	0	14
		%	14.3%	78.6%	7.1%	0.0%	0.0%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=73)	回答数	10	56	7	0	0	73
		%	13.7%	76.7%	9.6%	0.0%	0.0%	100.0%
	屋部地区(N=87)	回答数	13	68	4	1	1	87
		%	14.9%	78.2%	4.6%	1.1%	1.1%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=81)	回答数	16	53	8	0	2	81
		%	19.8%	65.4%	9.9%	0.0%	2.5%	100.0%
状態別	久志地区(N=62)	回答数	11	45	4	1	1	62
		%	17.7%	72.6%	6.5%	1.6%	1.6%	100.0%
	一般高齢者(N=283)	回答数	46	207	22	2	4	283
		%	16.3%	73.1%	7.8%	0.7%	1.4%	100.0%
	要支援認定者(N=18)	回答数	4	14	0	0	0	18
		%	22.2%	77.8%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	事業対象者(N=2)	回答数	0	1	1	0	0	2
		%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%



(1) ②施設や住居を選ぶ際に希望する場所

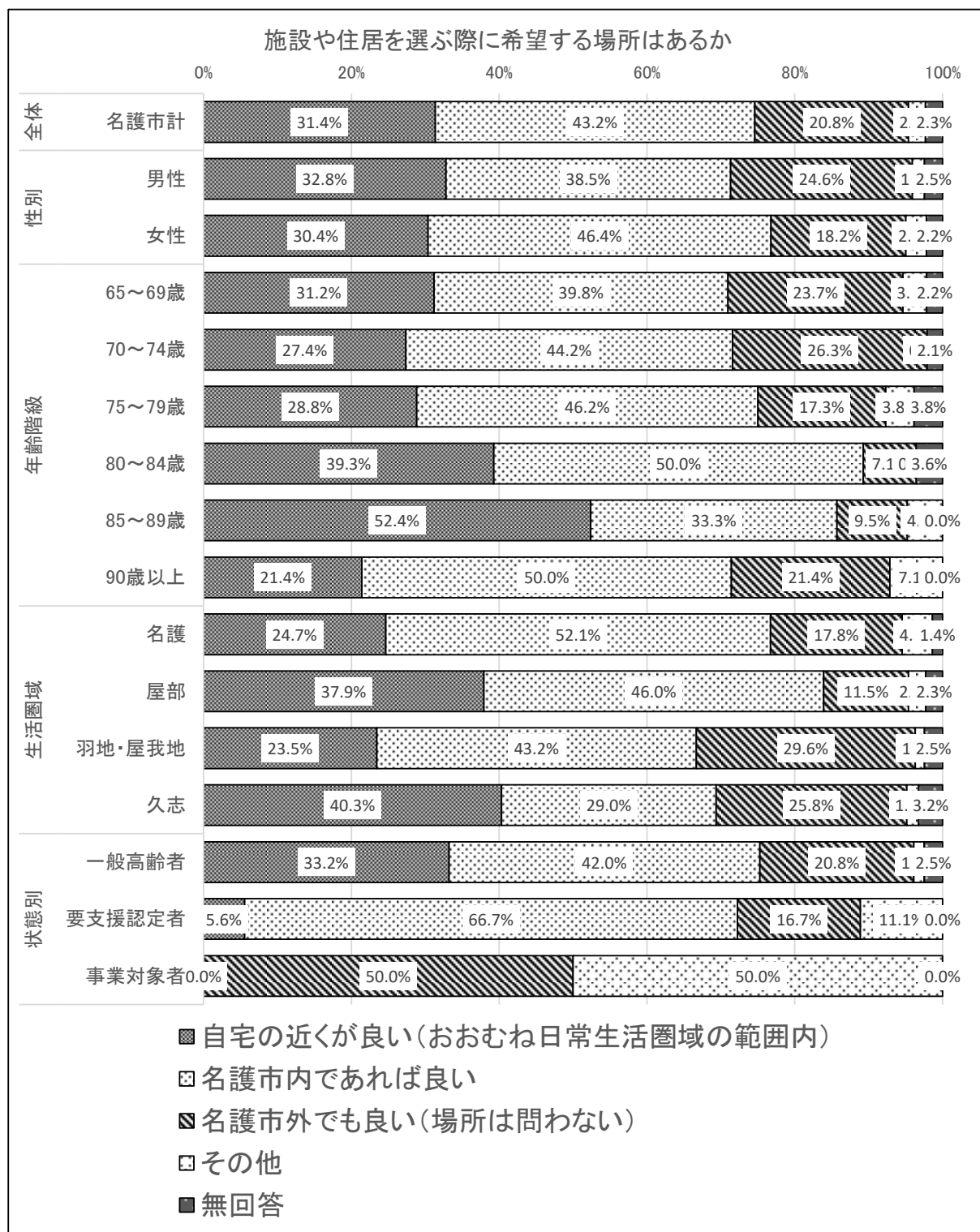
施設や住居を選ぶ際に希望する場所については、「名護市内であれば良い」が最も高く43.2%、次いで「自宅の近くが良い（おおむね日常生活圏域の範囲内）」で31.4%、「名護市外でも良い（場所は問わない）」で20.8%となっており、『名護市内』（「名護市内であれば良い」+「自宅の近くが良い（おおむね日常生活圏域の範囲内）」）を希望する割合が74.6%となっています

性別で「自宅の近くが良い（おおむね日常生活圏域の範囲内）」という回答割合をみると、女性（30.4%）より男性（32.8%）の方が2.4ポイント高くなっています。

生活圏域別で「自宅の近くが良い（おおむね日常生活圏域の範囲内）」という回答割合をみると、屋部地区（37.9%）と久志地区（40.3%）で高くなっています。

状態別でみると、一般高齢者では要支援認定者よりも「自宅の近くが良い（おおむね日常生活圏域の範囲内）」を希望する割合が高く、逆に要支援認定者では一般高齢者よりも「名護市内であれば良い」を希望する割合が高くなっています。

		自宅の近く が良い(お おむね日常 生活圏域の 範囲内)	名護市内で あれば良い	名護市外で も良い(場所 は問わない)	その他	無回答	回答数 合計
全体(N=303)		回答数 95	131	63	7	7	303
		% 31.4%	43.2%	20.8%	2.3%	2.3%	100.0%
性別	男性(N=122)	回答数 40	47	30	2	3	122
		% 32.8%	38.5%	24.6%	1.6%	2.5%	100.0%
	女性(N=181)	回答数 55	84	33	5	4	181
		% 30.4%	46.4%	18.2%	2.8%	2.2%	100.0%
年齢階級	65～69歳(N=93)	回答数 29	37	22	3	2	93
		% 31.2%	39.8%	23.7%	3.2%	2.2%	100.0%
	70～74歳(N=95)	回答数 26	42	25	0	2	95
		% 27.4%	44.2%	26.3%	0.0%	2.1%	100.0%
	75～79歳(N=52)	回答数 15	24	9	2	2	52
		% 28.8%	46.2%	17.3%	3.8%	3.8%	100.0%
	80～84歳(N=28)	回答数 11	14	2	0	1	28
		% 39.3%	50.0%	7.1%	0.0%	3.6%	100.0%
	85～89歳(N=21)	回答数 11	7	2	1	0	21
		% 52.4%	33.3%	9.5%	4.8%	0.0%	100.0%
	90歳以上(N=14)	回答数 3	7	3	1	0	14
		% 21.4%	50.0%	21.4%	7.1%	0.0%	100.0%
生活圏域	名護地区(N=73)	回答数 18	38	13	3	1	73
		% 24.7%	52.1%	17.8%	4.1%	1.4%	100.0%
	屋部地区(N=87)	回答数 33	40	10	2	2	87
		% 37.9%	46.0%	11.5%	2.3%	2.3%	100.0%
	羽地・屋我地地区(N=81)	回答数 19	35	24	1	2	81
		% 23.5%	43.2%	29.6%	1.2%	2.5%	100.0%
	久志地区(N=62)	回答数 25	18	16	1	2	62
		% 40.3%	29.0%	25.8%	1.6%	3.2%	100.0%
状態別	一般高齢者(N=283)	回答数 94	119	59	4	7	283
		% 33.2%	42.0%	20.8%	1.4%	2.5%	100.0%
	要支援認定者(N=18)	回答数 1	12	3	2	0	18
		% 5.6%	66.7%	16.7%	11.1%	0.0%	100.0%
	事業対象者(N=2)	回答数 0	0	1	1	0	2
		% 0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%



3. 各種リスクの状況

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の設問をもとに、各機能のリスク評価の結果を整理します。

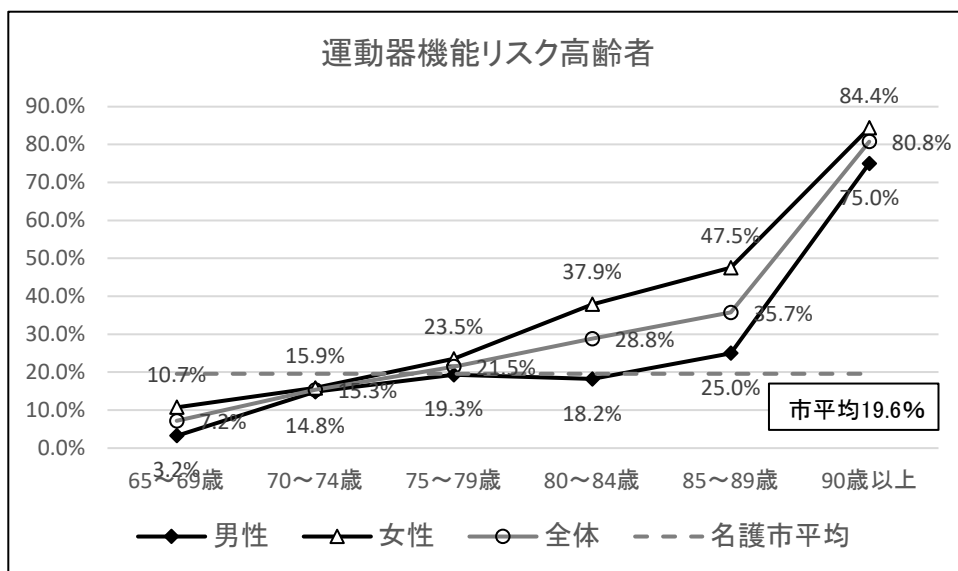
(1) 運動器機能

運動器に関する次の5項目のうち3項目以上に該当する人を『運動器の機能低下』のリスク該当者と判定します。

運動器機能リスク

問2	(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	3. できない
	(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	3. できない
	(3) 15分位続けて歩いていますか	3. できない
	(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある
	(5) 転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である

- 運動器機能リスク者の割合は市平均で 19.6%となっており、令和元年度調査（16.5%）より 3.1 ポイント上昇しています。
- リスク者の割合を男女別にみると、全ての年齢層で男性より女性の方が高くなっており、特に 80 歳代で男女の差が大きくなっています。



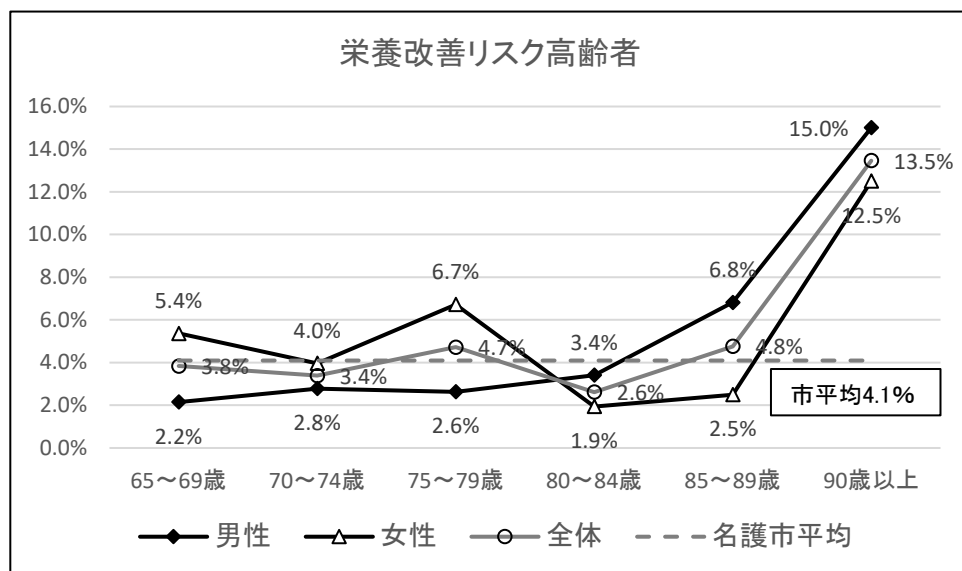
(2) 栄養改善（低栄養）

栄養に関する次の1項目に該当する人を『栄養改善（低栄養）』のリスク該当者と判定します。

栄養改善（低栄養）リスク

問3	(1) 身長・体重を記入ください BMI 18.5 未満	BMI 18.5 未満
----	------------------------------	-------------

- 栄養改善(低栄養)リスク者の割合は市平均で4.1%となっており、令和元年度調査(4.1%)からの変化はみられません。
- リスク者の割合を男女別にみると、80歳未満では男性より女性の方が高く、80歳以降では男女が逆転し、男性の割合が高くなっています。



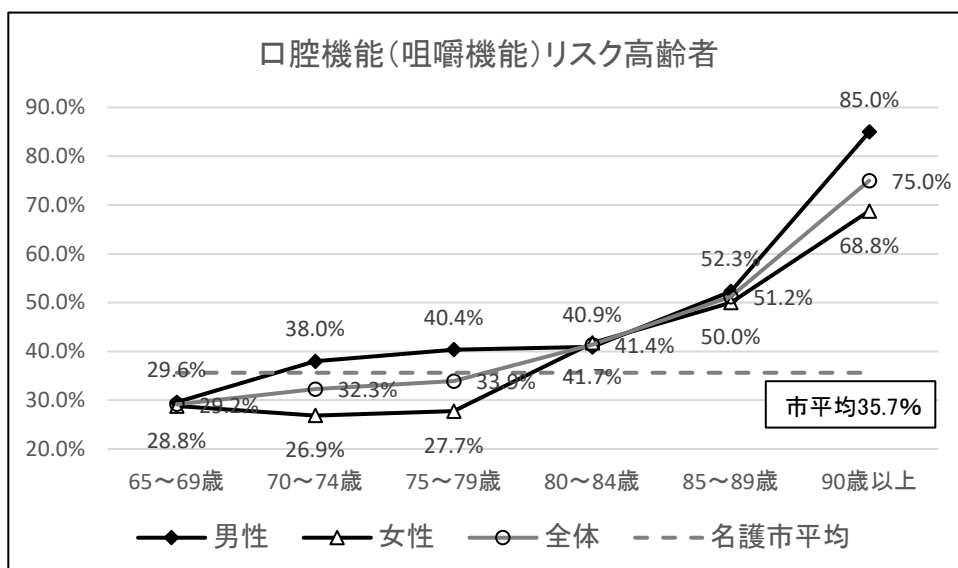
(3) 口腔機能（咀嚼機能）

咀嚼に関する次の1項目に該当する人を『口腔機能（咀嚼機能）』のリスク該当者と判定します。

口腔機能リスク（咀嚼機能）

問3	(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい
----	-----------------------------	-------

- 口腔機能（咀嚼機能）リスク者の割合は市平均で35.7%となっており、令和元年度調査（32.0%）から3.7ポイント上昇しています。
- リスク者の割合を男女別にみると、80～84歳を除く年齢層で女性より男性の方が高くなっています。85～89歳では、半数がリスク者となっており、90歳以上では男性で85.0%、女性で68.8%を占めています。



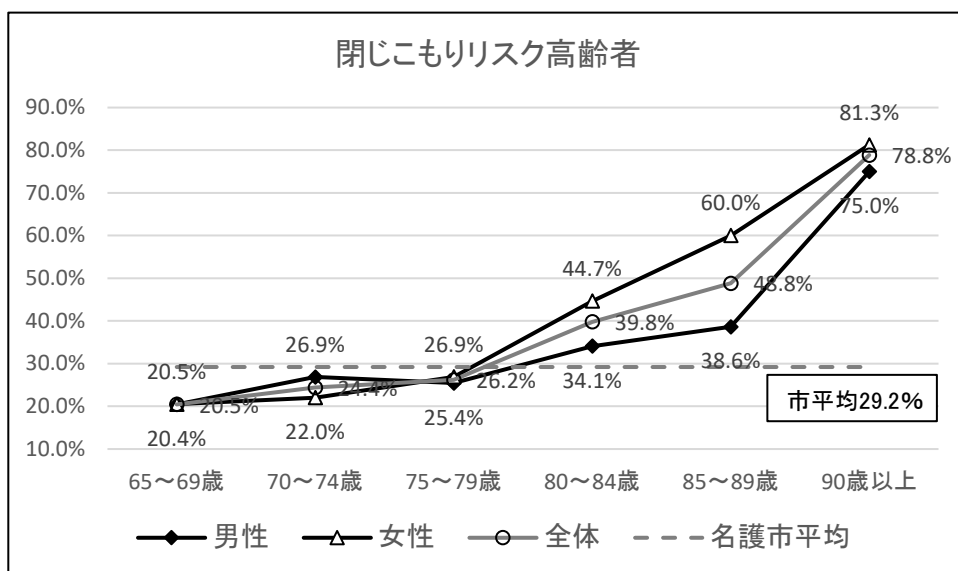
(4) 閉じこもり

閉じこもりに関する次の 1 項目に該当する人を『閉じこもり』のリスク該当者と判定します。

閉じこもりリスク

問 2	(6) 週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週 1 回
-----	---------------------	--------------------------

- 閉じこもりリスク者の割合は市平均で 29.2%となっており、令和元年度調査 (21.2%) から 8.0 ポイント上昇しており、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う影響が伺えます。
- リスク者の割合を男女別にみると、80 歳未満では男女間で大きな差はみられません。80 歳以上では、男性より女性の割合が高くなっています。75 歳以降は、年齢が上がるにつれてリスク割合が高まる傾向にあります。



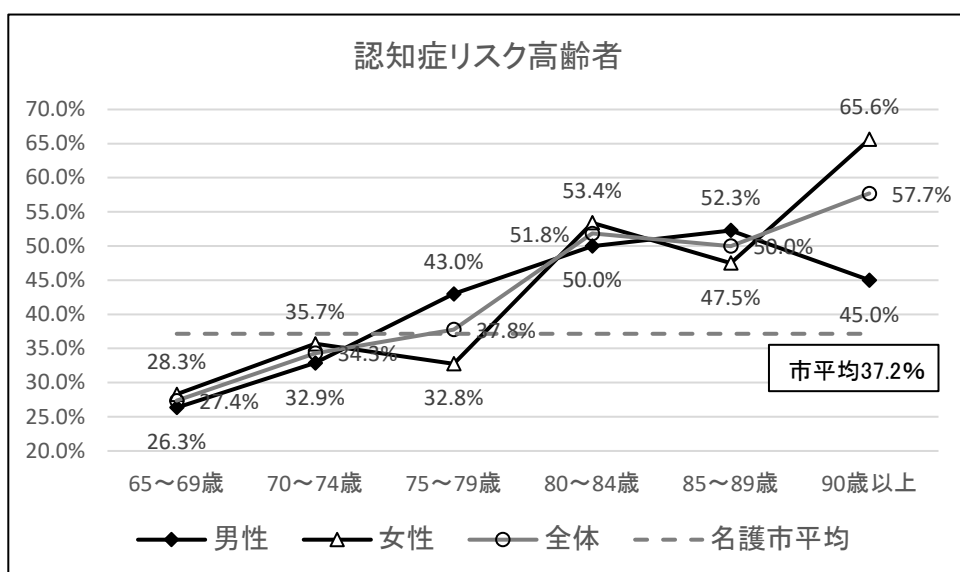
（５）認知症

認知機能に関する次の１項目に該当する人を『認知症』のリスク該当者と判定します。

認知症リスク

問 4	(1) 物忘れが多いと感じますか	1. はい
-----	------------------	-------

- 認知症リスク者の割合は市平均で 37.2%となっており、令和元年度調査（33.2%）から 4.0 ポイント上昇しており、今後も認知症予防対策の充実が求められます。
- リスク者の割合は、年齢が上がるとともに上昇する傾向にあります。80 歳以上では半数以上がリスク者となっています。



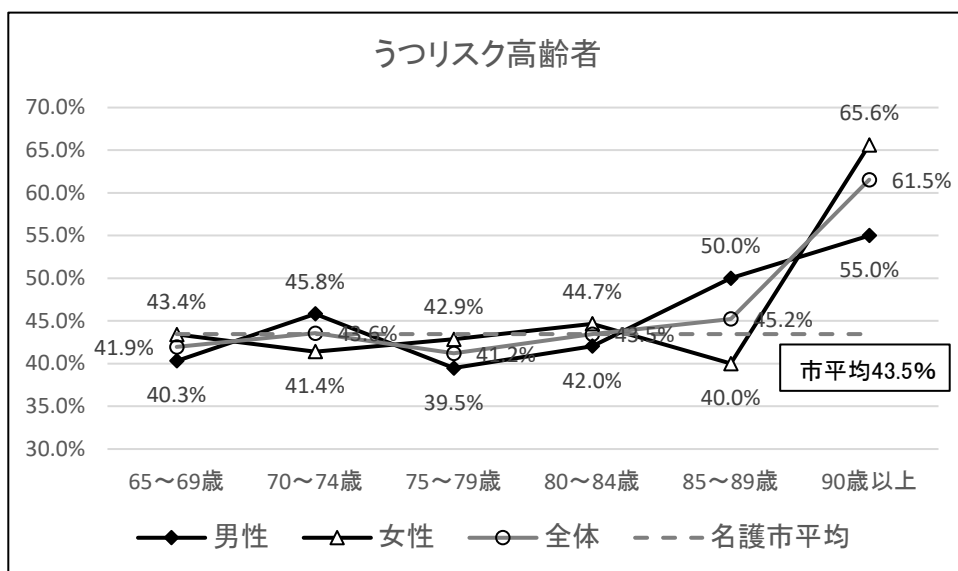
(6) うつ

うつに関する次の2項目のうち1項目以上に該当する人を『うつ』のリスク該当者と判定します。

うつリスク

問7	(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい
	(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい

- うつリスク者の割合は市平均で43.2%となっており、令和元年度調査(40.2%)から3.0ポイント上昇しており、たすけあいや地域活動等に関する対策の充実が求められます。
- リスク者の割合について、85歳未満では男女に大きな差はみられず、市平均値と近い数値となっています。85歳以上では男女間の差がみられ、特に90歳以上では約6割がリスク者となっています。



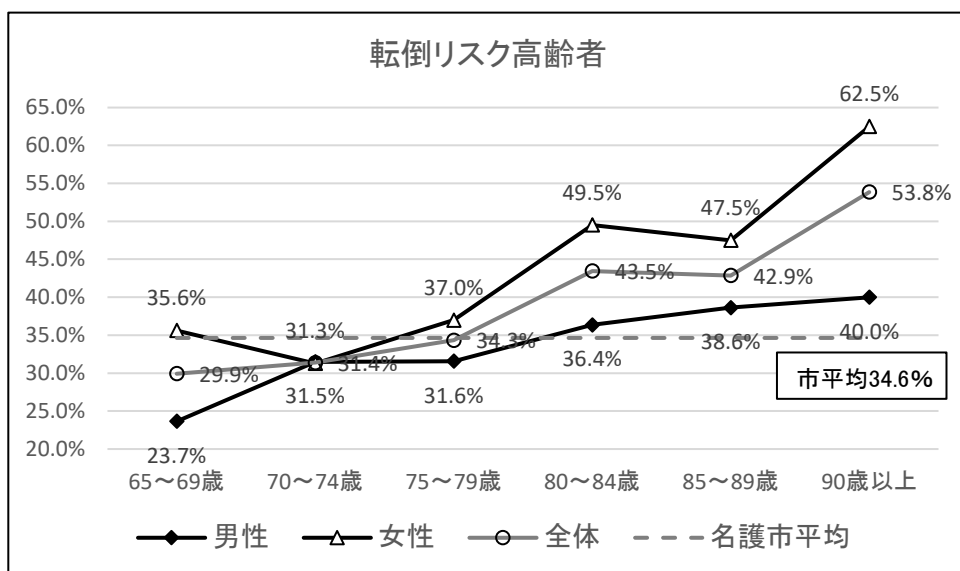
(7) 転倒

転倒に関する次の1項目に該当する人を『転倒』のリスク該当者と判定します。

転倒リスク

問2	(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある
----	-----------------------	---------------------

- 転倒リスク者の割合は市平均で34.6%となっており、令和元年度調査(28.9%)から5.7ポイント上昇しており、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う外出自粛等の影響が伺えます。
- リスク者の割合を男女別にみると、70～74歳を除く年齢層で男性より女性の割合が高くなっています。70～74歳以降に男女とも年齢が上がるにつれ、リスク者割合が上昇する傾向にありますが、男性の上昇率よりも女性の上昇率が上回り、年齢とともに男女の差が開く傾向にあります。

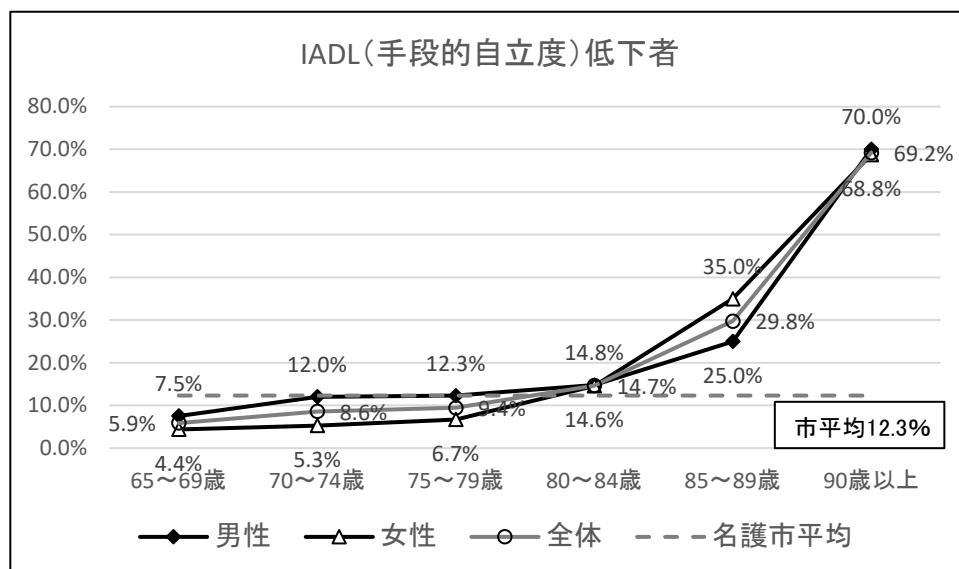


(8) IADL（手段的自立度）

IADL（手段的自立度）に関する次の5項目について、「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として5点満点で評価し、3点以下を『IADL（手段的自立度）』の低下者と判定します。

問 4	(4) バスや電車を使って1人で外出していますか	1. できるし、している（1点） 2. できるけどしていない（1点）
	(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか	1. できるし、している（1点） 2. できるけどしていない（1点）
	(6) 自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している（1点） 2. できるけどしていない（1点）
	(7) 自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している（1点） 2. できるけどしていない（1点）
	(8) 自分で預貯金のおし入れをしていますか	1. できるし、している（1点） 2. できるけどしていない（1点）

- IADL（手段的自立度）低下者の割合は市平均で 12.3%となっており、令和元年度調査（9.0%）から 3.3 ポイント上昇しています。
- IADL（手段的自立度）低下者の割合を年齢階級別でみると、年齢が上がるにつれ割合が上昇する傾向にあります。85 歳までは上昇率は低く、85 歳以降は大きく上昇し、90 歳以上では約 7 割が低下者となっています。
- IADL（手段的自立度）低下者の割合を男女別にみると、85～89 歳を除く年齢層で女性より男性が高くなっています。



4. 日常生活圏域別の各種リスクの状況

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の設問をもとに、各機能のリスク評価の結果を日常生活圏域ごとに整理します。

(1) 運動器機能

- 運動器機能のリスク者の割合は、名護市全体の平均は 19.6%となっており、日常生活圏域別でみると羽地・屋我地地区が最も高く 24.2%、次いで名護地区が 18.5%、久志地区が 18.4%、屋部地区が 17.2%となっており、羽地・屋我地地区のみ名護市全体の数値を上回っています。
- 羽地・屋我地地区では、男性では 90 歳未満の年齢層で名護市全体の数値を上回り、女性では 50 歳未満で名護市全体の数値を上回っています。

運動器機能リスク

		名護市全体	名護地区	屋部地区	羽地・屋我地地区	久志地区
男性	65～69歳	3.2%	2.2%	1.8%	5.3%	4.3%
	70～74歳	14.8%	16.7%	16.7%	16.4%	8.5%
	75～79歳	19.3%	16.7%	21.4%	20.7%	18.2%
	80～84歳	18.2%	15.0%	4.8%	20.0%	31.8%
	85～89歳	25.0%	16.7%	9.1%	42.9%	35.7%
	90歳以上	75.0%	50.0%	80.0%	75.0%	100.0%
	計	15.3%	13.2%	12.6%	19.0%	16.3%
女性	65～69歳	10.7%	18.4%	5.3%	12.0%	8.2%
	70～74歳	15.9%	16.4%	10.7%	28.6%	8.3%
	75～79歳	23.5%	12.9%	41.7%	25.0%	18.8%
	80～84歳	37.9%	28.0%	30.0%	46.2%	50.0%
	85～89歳	47.5%	62.5%	45.5%	37.5%	46.2%
	90歳以上	84.4%	87.5%	100.0%	72.7%	83.3%
	計	23.6%	23.3%	21.6%	29.0%	20.3%
平均		19.6%	18.5%	17.2%	24.2%	18.4%

(2) 栄養

- 栄養改善のリスク者の割合は、名護市全体の平均は 4.1%となっており、日常生活圏域別でみると久志地区が最も高く 4.6%、次いで名護地区が 4.5%、羽地・屋我地地区が 4.3%、屋部地区が 3.1%となっています。
- 久志地区では、男性では 85 歳以上で名護市全体の数値を上回り、女性では 65～69 歳及び 75～79 歳で名護市全体の数値を上回っています。

栄養改善リスク

		名護市全体	名護地区	屋部地区	羽地・屋我地地区	久志地区
男性	65～69歳	2.2%	4.4%	0.0%	0.0%	4.3%
	70～74歳	2.8%	3.7%	0.0%	4.9%	2.1%
	75～79歳	2.6%	4.2%	3.6%	0.0%	3.0%
	80～84歳	3.4%	10.0%	4.8%	0.0%	0.0%
	85～89歳	6.8%	0.0%	9.1%	0.0%	14.3%
	90歳以上	15.0%	25.0%	0.0%	12.5%	33.3%
	計	3.3%	5.0%	1.7%	2.4%	4.2%
女性	65～69歳	5.4%	6.1%	1.8%	6.0%	8.2%
	70～74歳	4.0%	1.8%	3.6%	7.1%	3.3%
	75～79歳	6.7%	3.2%	12.5%	3.1%	9.4%
	80～84歳	1.9%	4.0%	0.0%	3.8%	0.0%
	85～89歳	2.5%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%
	90歳以上	12.5%	12.5%	14.3%	18.2%	0.0%
	計	4.8%	4.0%	4.3%	6.0%	4.9%
平均		4.1%	4.5%	3.1%	4.3%	4.6%

(3) 口腔機能（咀嚼機能）

- 口腔機能（咀嚼機能）のリスク者の割合は、名護市全体の平均は 35.7%となっており、日常生活圏域別でみると名護地区が最も高く 37.0%、次いで羽地・屋我地地区が 35.9%、屋部地区が 35.3%、久志地区が 34.5%となっており、名護地区と羽地・屋我地地区で名護市全体の数値を上回っています。
- 名護地区では、男性では 90 歳未満の年齢層で名護市全体の数値を上回り、女性では 50 歳未満で名護市全体の数値を上回っています。

口腔機能（咀嚼機能）リスク

		名護市全体	名護地区	屋部地区	羽地・屋我地地区	久志地区
男性	65～69歳	29.6%	24.4%	37.5%	15.8%	36.2%
	70～74歳	38.0%	40.7%	25.9%	42.6%	42.6%
	75～79歳	40.4%	37.5%	50.0%	34.5%	39.4%
	80～84歳	40.9%	30.0%	33.3%	60.0%	36.4%
	85～89歳	52.3%	41.7%	36.4%	57.1%	71.4%
	90歳以上	85.0%	100.0%	100.0%	75.0%	66.7%
	計	38.8%	35.8%	37.1%	39.9%	42.2%
女性	65～69歳	28.8%	34.7%	22.8%	32.0%	26.5%
	70～74歳	26.9%	40.0%	32.1%	26.8%	10.0%
	75～79歳	27.7%	19.4%	29.2%	25.0%	37.5%
	80～84歳	41.7%	40.0%	43.3%	34.6%	50.0%
	85～89歳	50.0%	62.5%	63.6%	37.5%	38.5%
	90歳以上	68.8%	87.5%	57.1%	72.7%	50.0%
	計	32.8%	38.1%	33.5%	32.2%	27.5%
平均		35.7%	37.0%	35.3%	35.9%	34.5%

(4) 閉じこもり

- 閉じこもりのリスク者の割合は、名護市全体の平均は 29.2%となっており、日常生活圏域別でみると羽地・屋我地地区が最も高く 35.0%、次いで久志地区が 34.5%、屋部地区が 25.0%、名護地区が 22.1%となっており、羽地・屋我地地区及び久志地区で名護市全体の数値を上回っています。
- 羽地・屋我地地区では、男性では 85 歳未満で名護市全体の数値を上回り、女性では 75～79 歳及び 85～89 歳を除く年齢層で名護市全体の数値を上回っています。

閉じこもりリスク

		名護市全体	名護地区	屋部地区	羽地・屋我地地区	久志地区
男性	65～69歳	20.4%	17.8%	8.9%	26.3%	31.9%
	70～74歳	26.9%	24.1%	27.8%	29.5%	25.5%
	75～79歳	25.4%	12.5%	21.4%	27.6%	36.4%
	80～84歳	34.1%	30.0%	28.6%	40.0%	36.4%
	85～89歳	38.6%	16.7%	45.5%	28.6%	57.1%
	90歳以上	75.0%	75.0%	60.0%	75.0%	100.0%
	計	28.0%	22.0%	22.9%	32.1%	34.9%
女性	65～69歳	20.5%	18.4%	10.5%	22.0%	32.7%
	70～74歳	22.0%	12.7%	14.3%	35.7%	25.0%
	75～79歳	26.9%	22.6%	33.3%	25.0%	28.1%
	80～84歳	44.7%	24.0%	46.7%	61.5%	45.5%
	85～89歳	60.0%	37.5%	72.7%	50.0%	69.2%
	90歳以上	81.3%	87.5%	85.7%	90.9%	50.0%
	計	30.3%	22.2%	27.0%	37.7%	34.1%
平均		29.2%	22.1%	25.0%	35.0%	34.5%

(5) 認知症

- 認知症のリスク者の割合は、名護市全体の平均は 37.2%となっており、日常生活圏域別でみると羽地・屋我地地区が最も高く 41.9%、次いで久志地区が 38.5%、名護地区が 35.5%、屋部地区が 32.8%となっており、羽地・屋我地地区及び久志地区で名護市全体の数値を上回っています。
- 羽地・屋我地地区では、男性では 70～74 歳を除く年齢層で名護市全体の数値を上回り、女性では 85 歳未満で名護市全体の数値を上回っています。

認知症リスク

		名護市全体	名護地区	屋部地区	羽地・屋我地地区	久志地区
男性	65～69歳	26.3%	22.2%	19.6%	36.8%	29.8%
	70～74歳	32.9%	31.5%	37.0%	31.1%	31.9%
	75～79歳	43.0%	45.8%	42.9%	48.3%	36.4%
	80～84歳	50.0%	45.0%	38.1%	60.0%	54.5%
	85～89歳	52.3%	41.7%	45.5%	57.1%	64.3%
	90歳以上	45.0%	50.0%	20.0%	62.5%	33.3%
	計	36.7%	34.0%	32.6%	42.3%	38.0%
女性	65～69歳	28.3%	32.7%	19.3%	32.0%	30.6%
	70～74歳	35.7%	30.9%	35.7%	44.6%	31.7%
	75～79歳	32.8%	35.5%	20.8%	40.6%	31.3%
	80～84歳	53.4%	48.0%	46.7%	53.8%	68.2%
	85～89歳	47.5%	37.5%	54.5%	25.0%	61.5%
	90歳以上	65.6%	75.0%	71.4%	54.5%	66.7%
	計	37.6%	36.9%	33.0%	41.5%	39.0%
平均		37.2%	35.5%	32.8%	41.9%	38.5%

(6) うつ

- うつのリスク者の割合は、名護市全体の平均は 43.5%となっており、日常生活圏域別で見ると名護地区が最も高く 44.8%、次いで屋部地区が 44.2%、羽地・屋我地地区が 42.7%、久志地区が 42.2%となっています。
- 名護地区では、男性では 75～79 歳及び 85～89 歳を除く年齢層で名護市全体の数値を上回り、女性では 85～89 歳で名護市全体の数値を上回っています。

うつリスク

		名護市全体	名護地区	屋部地区	羽地・屋我地地区	久志地区
男性	65～69歳	40.3%	55.6%	32.1%	28.9%	44.7%
	70～74歳	45.8%	46.3%	50.0%	44.3%	42.6%
	75～79歳	39.5%	33.3%	50.0%	41.4%	33.3%
	80～84歳	42.0%	55.0%	33.3%	40.0%	40.9%
	85～89歳	50.0%	33.3%	63.6%	57.1%	50.0%
	90歳以上	55.0%	75.0%	80.0%	37.5%	33.3%
	計	43.3%	47.8%	44.0%	39.9%	41.6%
女性	65～69歳	43.4%	40.8%	45.6%	48.0%	38.8%
	70～74歳	41.4%	40.0%	44.6%	41.1%	40.0%
	75～79歳	42.9%	38.7%	45.8%	40.6%	46.9%
	80～84歳	44.7%	40.0%	46.7%	46.2%	45.5%
	85～89歳	40.0%	62.5%	36.4%	25.0%	38.5%
	90歳以上	65.6%	62.5%	28.6%	81.8%	83.3%
	計	43.7%	42.0%	44.3%	45.4%	42.9%
平均		43.5%	44.8%	44.2%	42.7%	42.2%

(7) 転倒

- 転倒のリスク者の割合は、名護市全体の平均は 34.6%となっており、日常生活圏域別で見ると羽地・屋我地地区が最も高く 36.2%、次いで名護地区が 34.9%、久志地区が 33.9%、屋部地区が 33.6%となっています。
- 羽地・屋我地地区では、男性では 85～89 歳で名護市全体の数値を上回り、女性では 75～79 歳を除く年齢層で名護市全体の数値を上回っています。

転倒リスク

		名護市全体	名護地区	屋部地区	羽地・屋我地地区	久志地区
男性	65～69歳	23.7%	26.7%	21.4%	23.7%	23.4%
	70～74歳	31.5%	37.0%	33.3%	29.5%	25.5%
	75～79歳	31.6%	20.8%	46.4%	31.0%	27.3%
	80～84歳	36.4%	30.0%	47.6%	28.0%	40.9%
	85～89歳	38.6%	33.3%	18.2%	71.4%	42.9%
	90歳以上	40.0%	25.0%	40.0%	37.5%	66.7%
	計	30.7%	30.2%	32.6%	30.4%	29.5%
女性	65～69歳	35.6%	42.9%	26.3%	40.0%	34.7%
	70～74歳	31.3%	27.3%	28.6%	37.5%	31.7%
	75～79歳	37.0%	38.7%	41.7%	31.3%	37.5%
	80～84歳	49.5%	52.0%	46.7%	53.8%	45.5%
	85～89歳	47.5%	50.0%	45.5%	50.0%	46.2%
	90歳以上	62.5%	50.0%	57.1%	63.6%	83.3%
	計	38.3%	39.2%	34.6%	41.5%	37.9%
平均		34.6%	34.9%	33.6%	36.2%	33.9%

(8) IADL (手段的自立度)

- IADL (手段的自立度) の低下者の割合は、名護市全体の平均は 12.3% となっており、日常生活圏域別でみると羽地・屋我地地区が最も高く 14.2%、次いで久志地区が 12.1%、名護地区が 11.9%、屋部地区が 11.1% となっています。
- 羽地・屋我地地区では、男性では 75～89 歳で名護市全体の数値を上回り、女性では 65～74 歳及び 80～84 歳で名護市全体の数値を上回っています。

IADL(手段的自立度)低下者

		名護市全体	名護地区	屋部地区	羽地・屋我地地区	久志地区
男性	65～69歳	7.5%	11.1%	7.1%	5.3%	6.4%
	70～74歳	12.0%	18.5%	5.6%	11.5%	12.8%
	75～79歳	12.3%	16.7%	7.1%	13.8%	12.1%
	80～84歳	14.8%	10.0%	14.3%	16.0%	18.2%
	85～89歳	25.0%	16.7%	27.3%	42.9%	21.4%
	90歳以上	70.0%	100.0%	60.0%	62.5%	66.7%
	計	13.8%	17.0%	10.3%	14.9%	13.3%
女性	65～69歳	4.4%	4.1%	1.8%	6.0%	6.1%
	70～74歳	5.3%	5.5%	3.6%	8.9%	3.3%
	75～79歳	6.7%	0.0%	16.7%	3.1%	9.4%
	80～84歳	14.6%	12.0%	6.7%	30.8%	9.1%
	85～89歳	35.0%	0.0%	63.6%	12.5%	46.2%
	90歳以上	68.8%	62.5%	85.7%	63.6%	66.7%
	計	11.0%	7.4%	11.9%	13.7%	11.0%
平均		12.3%	11.9%	11.1%	14.2%	12.1%

整理番号

- 調査票を記入する際は、各項目で該当する数字に○をつけてください。
- 調査票記入後は、同封の返信用封筒に入れて、令和5年1月6日(金)までに投函してください。

記入日	令和	年	月	日
調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。				
1. あて名のご本人が記入				
2. ご家族が記入				
(あて名のご本人からみた続柄)				
3. その他				

電話：53-1212（内線207/135）

記 入 に 際 し て の お 願 い

1. この調査の対象者は、令和4年10月1日現在、市内にお住いの65歳以上の方(要介護認定を受けていない方)から無作為に抽出した2,500人です。
2. ご回答にあたっては封筒の宛名のご本人についてお答えいただきますが、ご家族の方がご本人の代わりに記入されたり、ご一緒に回答されてもかまいません。
3. ご回答にあたっては質問をよくお読みいただき、該当する番号を○で囲み、数字を記入する欄は右詰め(例

0	6	2
---	---	---

 kg)でご記入ください。
4. この調査で使う用語の意味は、以下の通りです。

介護…介護保険のサービスを受けている場合のほか、認定を受けていない場合でも、常時ご家族などの援助をうけている状態
介助…ご自分の意志により、一時的に他人に援助を頼んでいる状態

個人情報の取り扱いについて

個人情報の保護および活用目的は以下のとおりですので、ご確認ください。

なお、本調査票のご返送をもちまして、下記にご同意いただいたものと見なさせていただきます。

【個人情報の保護および活用目的について】

- この調査は、効果的な介護予防政策の立案と効果評価のために行うものです。本市の介護予防の取り組みの効果を検証できるよう、表紙に整理番号をつけています。
- 本調査で得られた情報につきましては、名護市個人情報保護条例に基づいて適切に取り扱い、市の介護保険事業計画策定の目的以外には利用いたしません。また当該情報については、市町村内で適切に管理いたします。
- ただし、介護保険事業計画策定時に本調査で得られたデータを活用するにあたり、厚生労働省の管理する市町村外のデータベース内に情報を登録し、必要に応じて集計・分析するなど、個人が識別されない形で利用することがあります。
- また、集計・分析作業は名護市が下記業者に委託して行います。本調査で得られたデータは適切に管理するよう指導し、第三者への開示・提供や漏洩、目的以外の使用を禁止します。

【調査委託企画】株式会社 沖縄計画機構

〒900-0021 那覇市泉崎 1-7-17

※ご記入いただいた内容については、統計的に集計・分析します。誰が何を書いたか他人に知られることはありません。また、営利目的に使用されることも一切ありません。調査の趣旨をご理解いただき、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

問 1

あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成をお教えてください (○は1つ)

1. 1人暮らし
2. 夫婦2人暮らし(配偶者 65 歳以上)
3. 夫婦2人暮らし(配偶者 64 歳以下)
4. 息子・娘との2世帯
5. その他

(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか (○は1つ)

1. 介護・介助は必要ない
2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
3. 現在、何らかの介護を受けている
(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)

(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか (○は1つ)

1. 大変苦しい
2. やや苦しい
3. ふつう
4. ややゆとりがある
5. 大変ゆとりがある

(4) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか (○は1つ)

1. 持家 (一戸建て)
2. 持家 (アパート、マンション)
3. こうえいちんたいじゅうたく 公営賃貸住宅 (市営住宅・県営団地)
4. みんかんちんたいじゅうたく 民間賃貸住宅 (一戸建て)
5. みんかんちんたいじゅうたく 民間賃貸住宅 (アパート、マンション)
6. 借家・借間 (親族等から借りるなど賃貸借契約のないもの)
7. その他
8. 有料老人ホーム・サービス付高齢者向け住宅

(5) あなたは現在、お仕事をしていますか (○は1つ)

1. している
2. していない
3. その他 ()

【現在、同居している人がいる方のみ】 (○は1つ)

(6) あなた以外の同居している方は、お仕事をしていますか

1. している
2. していない
3. その他 ()

（7）現在の世帯全体のおおよその年間収入（手取り額）はいくらですか（○は1つ）

【例】夫婦共働き世帯：1ヶ月あたり夫20万円、妻10万円の場合、合算して1ヶ月30万円となり、12ヶ月で360万円となるので、下記の選択肢「4.」となります。

- | | | |
|-------------------|----------------|----------------|
| 1. 100万円未満 | 2. 100～200万円未満 | 3. 200～300万円未満 |
| 4. 300～400万円未満 | 5. 400～500万円未満 | 6. 500～600万円未満 |
| 7. 600～700万円未満 | 8. 700～800万円未満 | 9. 800～900万円未満 |
| 10. 900～1,000万円未満 | 11. 1,000万円以上 | |

問2 からだを動かすことについて

（1）階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか（○は1つ）

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

（2）椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか（○は1つ）

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

（3）15分位続けて歩いていますか（○は1つ）

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

（4）過去1年間に転んだ経験がありますか（○は1つ）

1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない

（5）転倒に対する不安は大きいですか（○は1つ）

1. とても不安であ 2. やや不安であ 3. あまり不安でない 4. 不安でない

（6）週に1回以上は外出していますか（○は1つ）

1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2～4回 4. 週5回以上

（7）昨年と比べて外出の回数が減っていますか（○は1つ）

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. とても減っている | 2. 減っている |
| 3. あまり減っていない | 4. 減っていない |

(8) 外出を控えていますか (○は1つ)

1. はい

2. いいえ

(8) で「1. はい」(外出を控えている)の方のみ】

①外出を控えている理由は、次のどれですか (○はいくつでも)

1. 病気

2. 障害 (脳卒^{しょうがい} 中^{のうそっちゅう} の後遺症^{こういしょう} など)

3. 足腰などの痛み

4. トイレの心配 (失禁など)

5. 耳の障害 (聞こえの問題など)

6. 目の障害

7. 外での楽しみがない

8. 経済的に出られない

9. 交通手段がない

10. その他 ()

(9) 外出する際の移動手段は何ですか (○はいくつでも)

1. 徒歩

2. 自転車

3. バイク

4. 自動車 (自分で運転)

5. 自動車 (人に乗せてもらう)

6. 電車

7. 路線バス

8. 病院や施設のバス

9. 車いす

10. 電動車いす (カート)

11. 歩行器・シルバーカー

12. タクシー

問3

食べることについて

(1) 身長・体重（右詰めで記入ください 例

0	6
---	---

 2 kg）

身長

--	--	--

cm

体重

--	--	--

kg

(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか（○は1つ）

1. はい

2. いいえ

(3) お茶や汁物等でむせることがありますか（○は1つ）

1. はい

2. いいえ

(4) 口の渇きが気になりますか（○は1つ）

1. はい

2. いいえ

(5) 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか（○は1つ）

1. はい

2. いいえ

(6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください（○は1つ）
（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて 32 本です）

1. 自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を

2. 自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用

3. 自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を

4. 自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用

①噛み合わせは良いですか（○は1つ）

1. はい

2. いいえ

②【(6) で「1. 自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」「3. 自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」の方のみ】 毎日、入れ歯の手入れをしていますか（○

1. はい

2. いいえ

(7) 6 か月間で 2 ～ 3 kg 以上の体重減少がありましたか（○は1つ）

1. はい

2. いいえ

(8) どなたかと食事をともにする機会がありますか (○は1つ)

1. 毎日ある 2. 週に何度かある 3. 月に何度かある
4. 年に何度かある 5. ほとんどない

問 4 毎日の生活について

(1) 物忘れが多いと感じますか (○は1つ)

1. はい 2. いいえ

【(1) で「1. はい」の方のみ】 ①受診や相談をしましたか (○は1つ)

1. はい 2. いいえ

(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか (○は1つ)

1. はい 2. いいえ

(3) 今日が何月何日かわからない時がありますか (○は1つ)

1. はい 2. いいえ

(4) バスやモノレールを使って1人で外出していますか(自家用車でも可) (○は1つ)

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか (○は1つ)

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(6) 自分で食事の用意をしていますか (○は1つ)

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(7) 自分で請求書の支払いをしていますか (○は1つ)

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか (○は1つ)	
1. できるし、している	2. できるけどしていない 3. できない
(9) 新聞を読んでいますか (○は1つ)	
1. はい	2. いいえ
(10) 本や雑誌を読んでいますか (○は1つ)	
1. はい	2. いいえ
(11) 友人の家を訪ねていますか (○は1つ)	
1. はい	2. いいえ
(12) 家族や友人の相談にのっていますか (○は1つ)	
1. はい	2. いいえ
(13) 趣味はありますか (○は1つ)	
1. 趣味あり	(趣味は何ですか)
2. 思いつかない	
(14) 生きがいがありますか (○は1つ)	
1. 生きがいあり	(生きがいは何ですか)
2. 思いつかない	
(15) あなたは ^{アイフォン} iPhoneなどスマートフォンを使っていますか (○は1つ)	
1. 使っている	2. 使っていない
【(15)で「1. 使っている」の方のみ】 ①メールやLINEなどを使って家族や知人とやりとりができますか (○は1つ)	
1. はい	2. いいえ

問5 地域での活動について

(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか
※① - ⑧それぞれの項目に○を1つずつつけてください。

	週4回 以上	週2 ~3回	週1回	月1 ~3回	年に 数回	参加して いない
①ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
②スポーツ関係のグループやクラブ	1	2	3	4	5	6
③趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤いきいき100歳体操や高齢者体操教室など介護予防のための通いの場	1	2	3	4	5	6
⑥老人クラブ	1	2	3	4	5	6
⑦自治会（区）	1	2	3	4	5	6
⑧収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか（○は1つ）

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 3. 参加したくない 4. 既に参加している

(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか（○は1つ）

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 3. 参加したくない 4. 既に参加している

問6

たすけあいについて

あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします

(1) あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（いくつでも）

- | | | |
|--------------------------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者 | 2. 同居の子ども | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣 | 6. 友人 |
| 7. その他（ ） | 8. そのような人はいない | |

(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（いくつでも）

- | | | |
|--------------------------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者 | 2. 同居の子ども | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣 | 6. 友人 |
| 7. その他（ ） | 8. そのような人はいない | |

(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも）

- | | | |
|--------------------------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者 | 2. 同居の子ども | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣 | 6. 友人 |
| 7. その他（ ） | 8. そのような人はいない | |

(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人（いくつでも）

- | | | |
|--------------------------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者 | 2. 同居の子ども | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣 | 6. 友人 |
| 7. その他（ ） | 8. そのような人はいない | |

(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください（いくつでも）

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 自治会（区）・老人クラブ・婦人会 | 2. 社会福祉協議会・民生委員 |
| 3. ケアマネジャー | 4. 医師・歯科医師・看護師 |
| 5. 地域包括支援センター・役所・役場 | 6. その他 |
| 7. そのような人はいない | |

(6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。(○は1つ)	
1. 毎日ある	2. 週に何度かある 3. 月に何度かある
4. 年に何度かある	5. ほとんどない
(7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。(○は1つ) 同じ人には何度会っても1人と数えることとします。	
1. 0人(いない)	2. 1～2人 3. 3～5人
4. 6～9人	5. 10人以上
(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(いくつでも)	
1. 近所・同じ地域の人	2. 幼なじみ 3. 学生時代の友人
4. 仕事での同僚・元同僚	5. 趣味や関心が同じ友人
6. ボランティア等の活動での友人	
7. その他	8. いない
(9) あなたは「地域包括支援センター」をご存知ですか(○は1つ)	
1. 知っている	2. 知らない

問7	健康について
(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか(○は1つ)	
1. とてもよい	2. まあよい 3. あまりよくない 4. よくない
(2) あなたは、現在どの程度幸せですか(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、あてはまると思う点数に○を1つつけてください)	
とても不幸	とても幸せ
0点 1点 2点 3点 4点 5点 6点 7点 8点 9点 10点	

(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか (○は1つ)		
1. はい	2. いいえ	
(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか (○は1つ)		
1. はい	2. いいえ	
(5) お酒は飲みますか (○は1つ)		
1. ほぼ毎日飲む	2. 時々飲む	3. ほとんど飲まない
4. もともと飲まない		
(6) タバコは吸っていますか (○は1つ)		
1. ほぼ毎日吸っている	2. 時々吸っている	3. 吸っていたがやめた
4. もともと吸っていない		
(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (いくつでも)		
1. ない		
2. 高血圧	3. <small>のうそっちゅう</small> 脳卒中 (<small>のうしゅつけつ・のうこうそく</small> 脳出血・脳梗塞等)	
4. 心臓	5. <small>とうにようびょう</small> 糖尿病	
6. <small>こうしけっしょう</small> 高脂血症 (<small>しじつじょう</small> 脂質異常)	7. 呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎等)	
8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気	9. <small>じんぞう</small> 腎臓・ <small>ぜんりつせん</small> 前立腺の病気	
10. <small>きんこっかく</small> 筋骨格の病気 (<small>こつそ</small> 骨粗しょう症、 <small>しょう</small> 関節症等)	11. <small>がいしょう</small> 外傷 (<small>てんとう</small> 転倒・ <small>こっせつ</small> 骨折等)	
12. がん (悪性新生物)	13. <small>めんえき</small> 血液・免疫の病気	
14. うつ病	15. <small>にんちしょう</small> 認知症 (アルツハイマー病等)	
16. パーキンソン病	17. 目の病気	
18. 耳の病気	19. その他 ()	

(8) 健診を受診していますか (○は1つ)	
1. はい	2. いいえ
(9) 健診の受診後の指導やアドバイスを受けましたか (○は1つ)	
1. はい	2. いいえ
【(8) で「2. いいえ」の方のみ】 ①健診を受診していない理由はなんですか (いくつでも)	
1. かかりつけ医で定期的に検査しているから 2. 体調不良時に医療機関を受診しているから 3. 忙しくて時間がとれないから 4. どこで受診できるのかわからないから 5. 結果が悪いと不安になるから 6. 健康には自信があるから 7. その他 () 8. 特に理由はない	

問 8	認知症にかかる相談窓口の把握について
(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか (○は1	
1. はい	2. いいえ
(2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか (○は1つ)	
1. はい	2. いいえ

問 9**認知症に関する取り組みについて**

(1) 今後、名護市で認知症に関する取り組みを進める中で、特に優先的に取り組むべきだと思う事を、以下の中から3つ以内でお選びください。(○は3つまで)

1. 認知症の専門医療機関がすみやかに受診・相談できる環境づくり(病院の紹介など)
2. 認知症の予防や認知症の早期発見
3. 家族介護者の不安や負担を軽減する支援
4. 認知症の方や家族を地域で見守るボランティアの育成
5. 徘徊や緊急時への対応
6. 認知症(若年性認知症含む)に関する正しい知識の普及(講座等の開催)
7. 認知症の人が活動する場づくり、社会参加の支援
8. 虐待防止及び権利擁護に関する取り組み
9. わからない

問 10**介護が必要になったときの住まいについて**

(1) 介護が必要になったときに、どのように暮らしたいですか(○は1つ)

1. 家族から介護を受け、自宅で暮らしたい
2. 介護サービスを利用しながら自宅で暮らしたい
3. 介護施設に入所したい
4. 高齢者用の住居に入所し、介護サービスを利用したい
5. その他()
6. いまはまだ、考えていない

【上記(1)で「3. 介護施設に入所したい」及び「4. 高齢者用の住居に入所し、介護サービスを利用したい」と回答した方のみ】

①介護施設や高齢者用住居を希望する主な理由はなんですか(○は1つ)

1. 安心して暮らせると思うから
2. 家族や親族に負担をかけたくない
3. 頼れる家族や親族がいない
4. 十分なサービスが受けられるか分からない
5. その他()

②施設や住居を選ぶ際に、希望する場所はありますか（○は1つ）

1. 自宅の近くが良い（おおむね日常生活圏域の範囲内）
2. 名護市内であれば良い
3. 名護市外でも良い（場所は問わない）
4. その他（）

■■■以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました■■■

(クロス集計版)

在宅介護実態調査の集計結果

～第9期介護保険事業計画の策定に向けて～

令和5年3月

＜名護市＞

目次

I 在宅介護実態調査の実施概要	1
(1) 調査の目的.....	1
(2) 調査の対象.....	1
(3) 調査方法.....	1
(4) 回収結果.....	1
II 集計・分析結果のまとめ	2
1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討.....	2
1.1 集計・分析の狙い.....	2
1.2 集計結果と着目すべきポイント.....	3
(1) 基礎集計（要介護度別、世帯類型別の施設等検討の状況）.....	3
(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化.....	5
(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化.....	8
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係.....	13
(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係.....	17
(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係.....	20
(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係.....	24
1.3 考察（在宅限界点の向上のための支援）.....	31
2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討.....	32
2.1 集計・分析の狙い.....	32
2.2 集計結果と着目すべきポイント.....	33
(1) 基本集計.....	33
(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み.....	37
(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」 の関係.....	40
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係.....	42
(5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況.....	44
(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援.....	47
2.3 考察（仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制）.....	50
3 介護保険外の支援・サービスの検討.....	52
3.1 集計・分析の狙い.....	52
3.2 集計結果と着目すべきポイント.....	53
(1) 基礎集計.....	53
(2) 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス.....	54
(3) 「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」.....	57
(4) 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」.....	62
3.3 考察（介護保険外の支援・サービスの検討）.....	66

4	将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの検討	67
4.1	集計・分析の狙い	67
4.2	集計結果と着目すべきポイント	67
(1)	基礎集計	67
(2)	「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」	69
(3)	「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」	72
4.3	考察（将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの検討）	80
5	サービス未利用の理由など	81
5.1	集計・分析の狙い	81
5.2	集計結果	82
(1)	認知症自立度別の今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービス	82
(2)	本人の年齢別・主な介護者の年齢	86
(3)	要介護度別の抱えている傷病	87

I 在宅介護実態調査の実施概要

(1) 調査の目的

本調査は量の見込みを算出するものではなく、分析結果をもとに「本人の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の両立を支えるために、どのようなサービスが必要であるかを、地域ごとに議論する際の材料とすることを目的としています。

(2) 調査の対象

本調査の対象者は、在宅で生活している要支援者・要介護者のうち、「要支援・要介護認定の更新申請・区分変更申請」をし、対象期間中に認定調査を受けた人です。医療機関やグループホーム等に入所、入居している人は調査の対象とはなっていません。

(3) 調査方法

認定調査員により聞き取り調査。

(4) 回収結果

298 件

Ⅱ 集計・分析結果のまとめ

1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

1.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の2つの視点からの集計を行っています。
- それぞれ、「どのようなサービス利用パターンの場合」に、「在宅生活を継続することができるのか」、もしくは「介護者の不安が軽減されているのか」を分析するために、「サービス利用パターン」とのクロス集計を行っています。
- なお、「サービス利用パターン」は、「サービス利用の組み合わせ」と「サービス利用の回数」の2つからなります。
- また、在宅限界点についての分析を行うという主旨から、多くの集計は要介護3以上、もしくは認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上の方に限定して集計をしています。

1.2 集計結果と着目すべきポイント

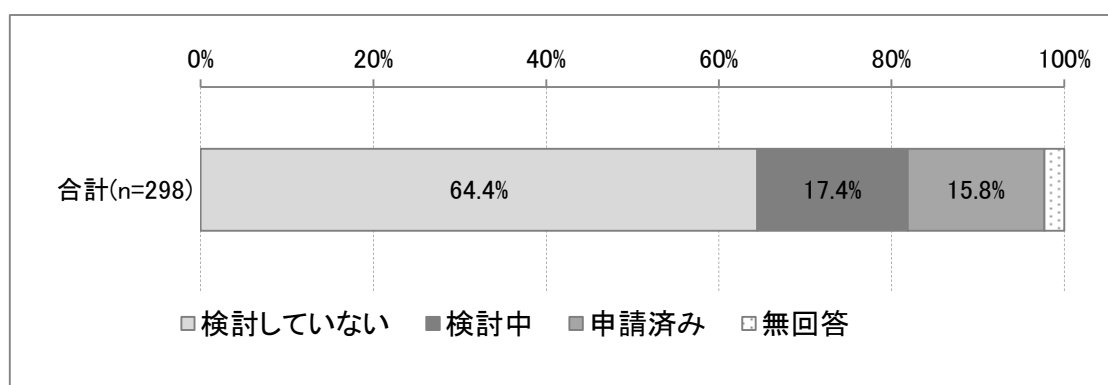
(1) 基礎集計（要介護度別、世帯類型別の施設等検討の状況）

- 施設等の検討状況に係る、基礎的な集計を行っています（図表 1-1～図表 1-3）。
- 要介護度の重度化に伴う、施設等検討状況の変化や世帯類型ごとの施設等検討状況についてその状況を確認してください。

【施設等検討の状況】

「検討していない」の割合が最も高く 64.4%となっている。次いで、「検討中（17.4%）」、「申請済み（15.8%）」となっている。

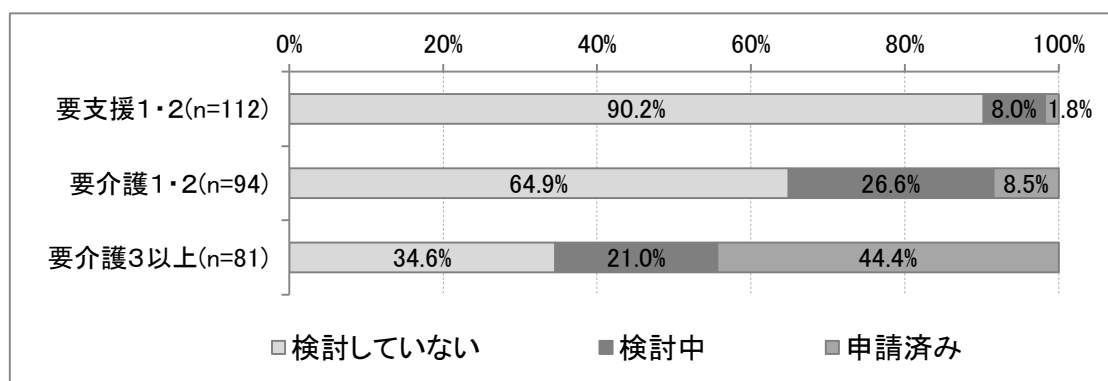
図表 1-1 施設等検討の状況



【要介護度別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「検討していない」が 90.2% ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 8.0%、「申請済み」が 1.8% となっている。「要介護１・２」では「検討していない」が 64.9% ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 26.6%、「申請済み」が 8.5% となっている。「要介護３以上」では「申請済み」が 44.4% ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が 34.6%、「検討中」が 21.0% となっている。

図表 1-2 要介護度別・施設等検討の状況<***>

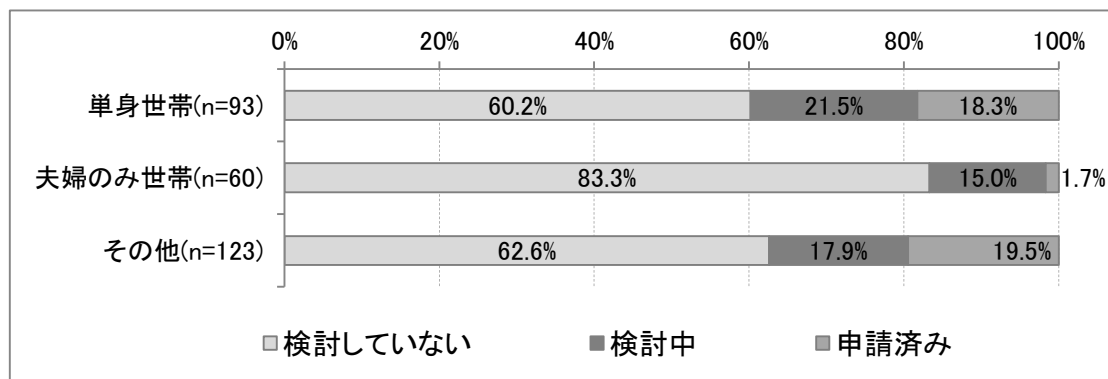


【世帯類型別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が 60.2% ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 21.5%、「申請済み」が 18.3% となっている。

「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が 83.3% ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 15.0%、「申請済み」が 1.7% となっている。「その他」では「検討していない」が 62.6% ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が 19.5%、「検討中」が 17.9% となっている。

図表 1-3 世帯類型別・施設等検討の状況<**>



(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化

【着目すべきポイント】

- 要介護度と認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化について、集計分析をしています（図表 1-4、図表 1-5）。
- ここでの「主な介護者が不安に感じる介護」とは、「現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等」のことです。なお、ここで選択される介護は、現状で行っている介護であるか否かは問われていません。
- ここから、要介護度・認知症自立度別の、主な介護者が不安に感じる介護等を把握することができます。
- また、主な介護者の不安が相対的に大きな介護や、重度化に伴い主な介護者の不安が大きくなる介護等に着目することで、在宅限界点に大きな影響を与えと考えられる「主な介護者が不安に感じる介護」を推測することも可能になります。

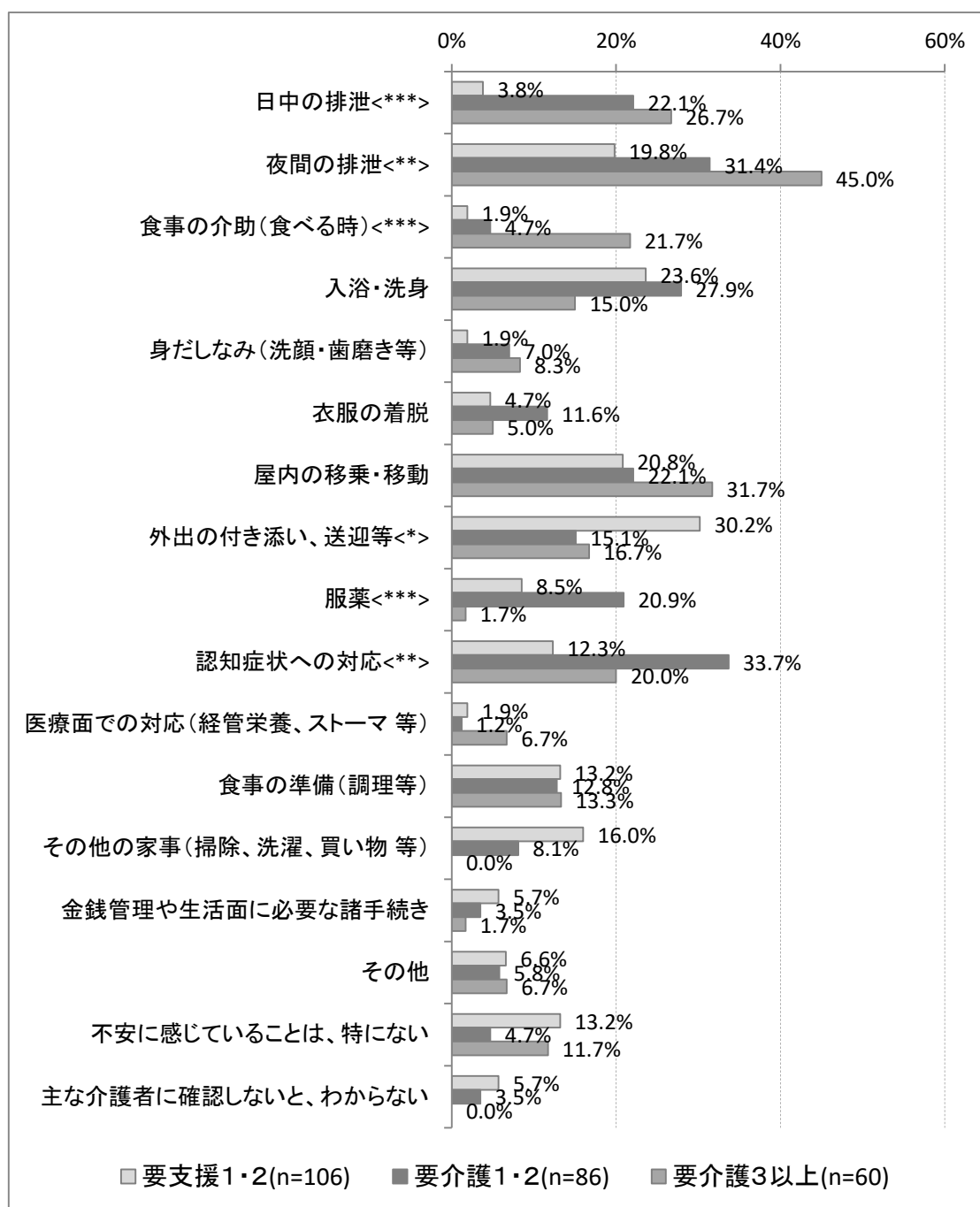
【留意事項】

- なお、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」については、特に、実際に行われている割合が低い可能性が高いと考えられます。したがって、仮に選択した回答者が少ない場合でも、実際に医療ニーズのある要介護者を介護しているケースでは、主な介護者の不安は大きいことも考えられます。
- そのような観点から、在宅限界点に与える影響が過小評価される項目もあると考えられることから、注意が必要です。

【要介護度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「外出の付き添い、送迎等」が30.2%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が23.6%、「屋内の移乗・移動」が20.8%となっている。「要介護1・2」では「認知症状への対応」が33.7%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が31.4%、「入浴・洗身」が27.9%となっている。「要介護3以上」では「夜間の排泄」が45.0%と最も割合が高く、次いで「屋内の移乗・移動」が31.7%、「日中の排泄」が26.7%となっている。

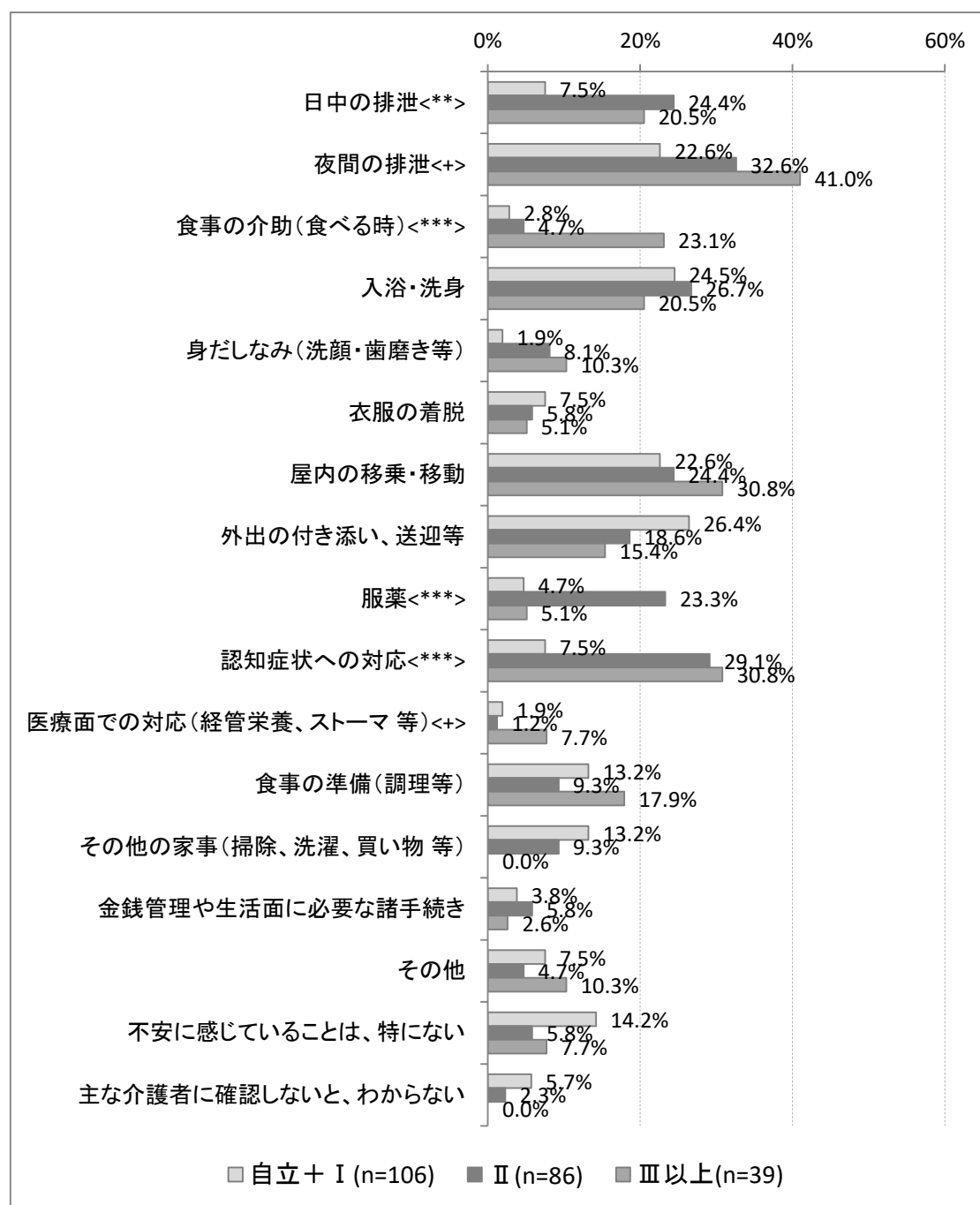
図表 1-4 要介護度別・介護者が不安に感じる介護



【認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「外出の付き添い、送迎等」が26.4%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が24.5%、「夜間の排泄」、「屋内の移乗・移動」が22.6%となっている。「Ⅱ」では「夜間の排泄」が32.6%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が29.1%、「入浴・洗身」が26.7%となっている。「Ⅲ以上」では「夜間の排泄」が41.0%と最も割合が高く、次いで「屋内の移乗・移動」、「認知症状への対応」が30.8%、「食事の介助（食べる時）」が23.1%となっている。

図表 1-5 認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護



(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

【着目すべきポイント】

- ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています（図表 1-6、図表 1-7）。
- 特に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。
- さらに、例えば今後の中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

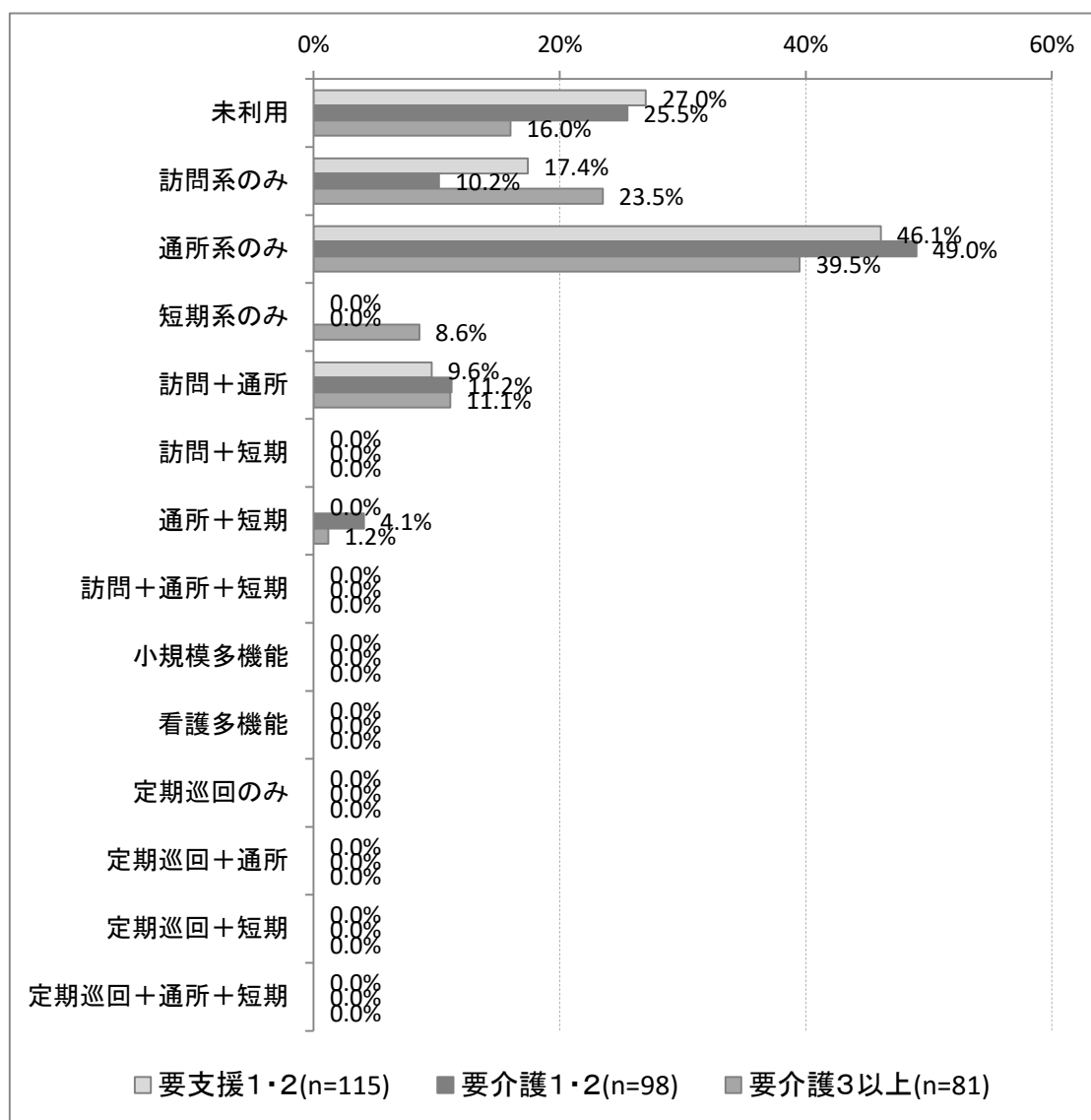
【留意事項】

- ただし、現在利用しているサービスが「地域目標を達成するためのサービス」であるとは限らない点には注意が必要です。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「通所系のみ」が46.1%と最も割合が高く、次いで「未利用」が27.0%、「訪問系のみ」が17.4%となっている。「要介護１・２」では「通所系のみ」が49.0%と最も割合が高く、次いで「未利用」が25.5%、「訪問＋通所」が11.2%となっている。「要介護３以上」では「通所系のみ」が39.5%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が23.5%、「未利用」が16.0%となっている。

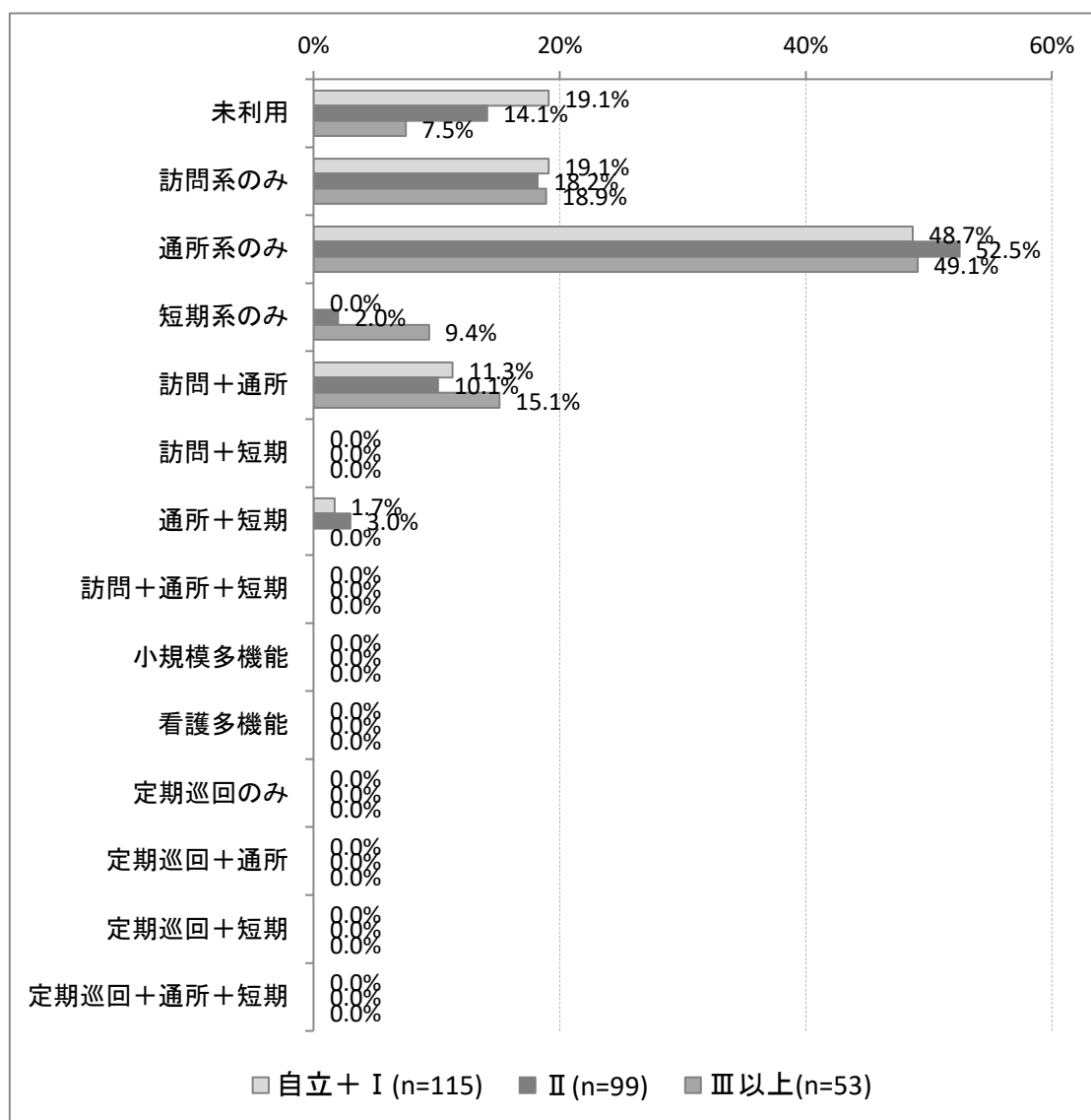
図表 1-6 要介護度別・サービス利用の組み合わせ<***>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「通所系のみ」が48.7%と最も割合が高く、次いで「未利用」、「訪問系のみ」が19.1%、「訪問＋通所」が11.3%となっている。「Ⅱ」では「通所系のみ」が52.5%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が18.2%、「未利用」が14.1%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系のみ」が49.1%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が18.9%、「訪問＋通所」が15.1%となっている。

図表 1-7 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ<*>



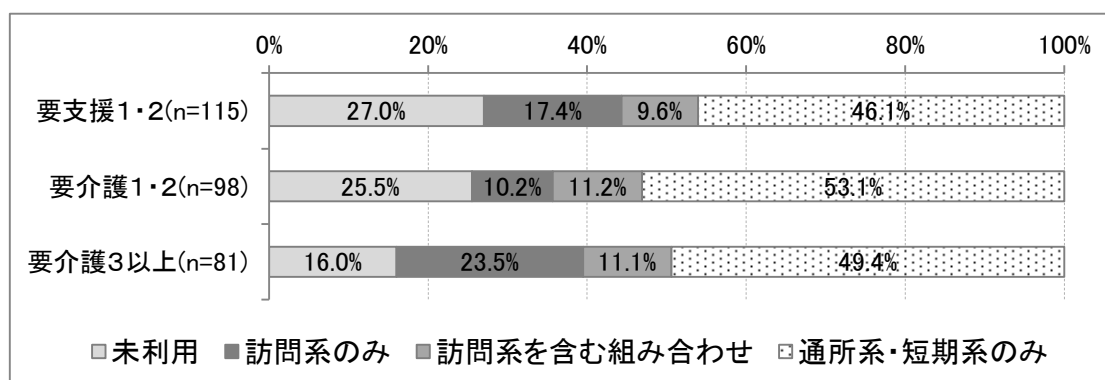
【着目すべきポイント】

- ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化した集計分析をしています（図表 1-8、図表 1-9）。
- 具体的には、サービス利用の組み合わせを、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類（未利用除く）に分類したものです。
- 組み合わせのパターンが細分化された集計分析（図表 1-6、図表 1-7）と比較して、上記のような視点から、重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化の傾向等を分かりやすく示すことを目的としたものです。
- 前掲の集計分析（図表 1-6、図表 1-7）と同様に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。
- また、中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「通所系・短期系のみ」が46.1%と最も割合が高く、次いで「未利用」が27.0%、「訪問系のみ」が17.4%となっている。「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が53.1%と最も割合が高く、次いで「未利用」が25.5%、「訪問系を含む組み合わせ」が11.2%となっている。「要介護3以上」では「通所系・短期系のみ」が49.4%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が23.5%、「未利用」が16.0%となっている。

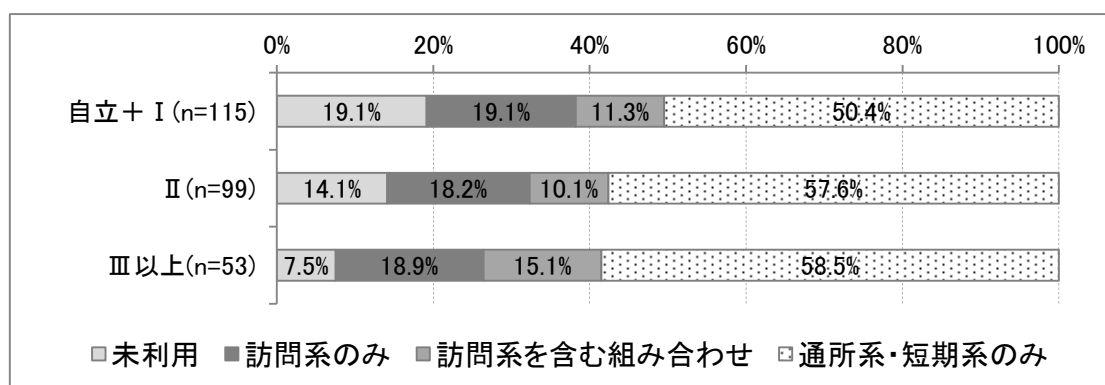
図表 1-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「通所系・短期系のみ」が50.4%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」、「訪問系のみ」が19.1%、「訪問系を含む組み合わせ」が11.3%となっている。「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が57.6%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が18.2%、「未利用」が14.1%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系・短期系のみ」が58.5%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が18.9%、「訪問系を含む組み合わせ」が15.1%となっている。

図表 1-9 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係について、集計分析をしています。それぞれ、要介護3以上と要介護4以上、認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表1-10～図表1-12は、「サービス利用の組み合わせ」別に「施設等検討の状況」の割合を集計分析したもので、特に「サービス利用の組み合わせ」ごとの「施設等検討の状況」の比較が容易です。
- また、図表1-13～図表1-15は、表側と表頭を逆にして集計したもので、「施設等検討の状況」別の「サービス利用の組み合わせ」をみることができます。これにより、例えば施設等への入所・入居を「検討していない」ケースのような「適切な在宅生活の継続を実現している」と考えられる要介護者について、実際に「どのような組み合わせのサービスを利用しているか」を把握することができます。
- したがって、例えば「検討中」や「申請済み」と比較して、「検討していない」ケースで多くみられるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

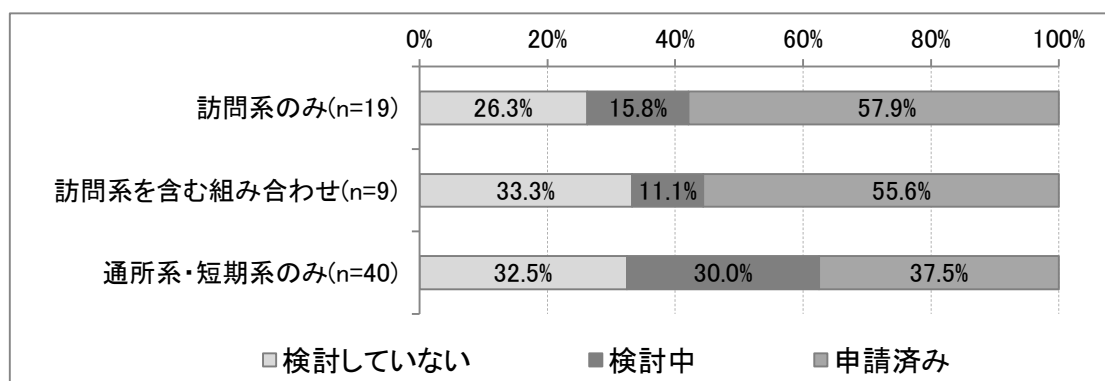
【留意事項】

- ただし、このような「サービス利用の組み合わせ」については、ケアマネジメントに直結する内容でもあることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論を交えながら、地域ごとにその効果等についての考察を深めていくことが重要となります。
- 例えば、「□□のサービスを利用しているケースでは、「検討していない」の割合が高い」といった傾向がみられたとしても、「何故、□□のサービスを利用しているケースでは、「検討していない」の割合が高いのか」といった解釈には、地域の特性や専門職の知見等を踏まえた個別の議論を行うことが必要になります。

【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護3以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「申請済み」が57.9%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が26.3%、「検討中」が15.8%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「申請済み」が55.6%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が33.3%、「検討中」が11.1%となっている。「通所系・短期系のみ」では「申請済み」が37.5%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が32.5%、「検討中」が30.0%となっている。

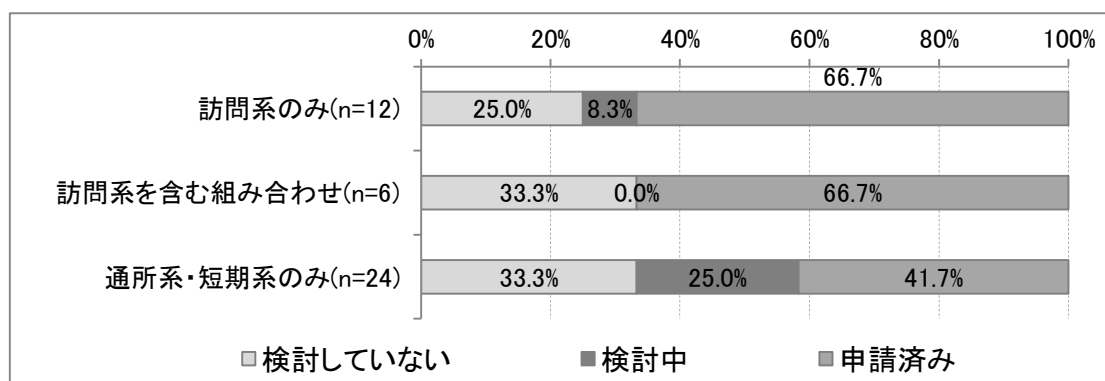
図表 1-10 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護4以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「申請済み」が66.7%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が25.0%、「検討中」が8.3%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「申請済み」が66.7%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が33.3%、「検討中」が0.0%となっている。「通所系・短期系のみ」では「申請済み」が41.7%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が33.3%、「検討中」が25.0%となっている。

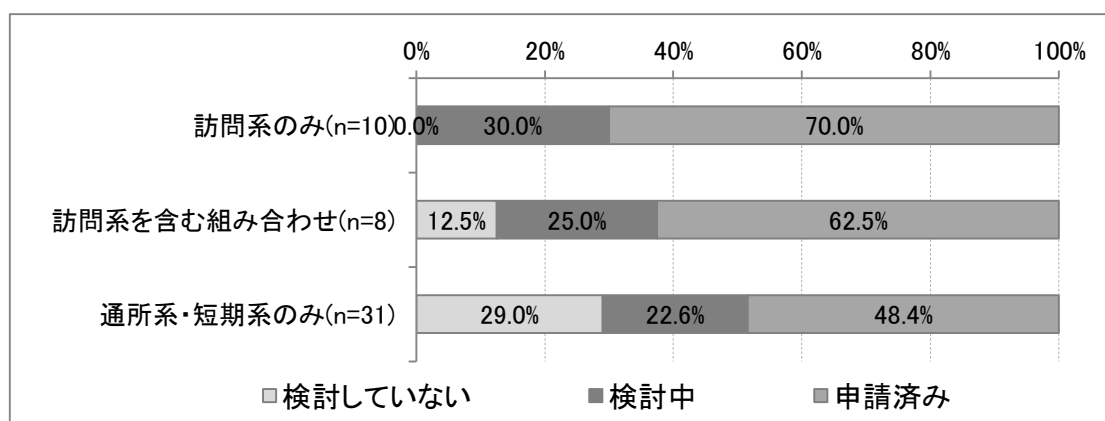
図表 1-11 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「申請済み」が70.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が30.0%、「検討していない」が0.0%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「申請済み」が62.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.0%、「検討していない」が12.5%となっている。「通所系・短期系のみ」では「申請済み」が48.4%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が29.0%、「検討中」が22.6%となっている。

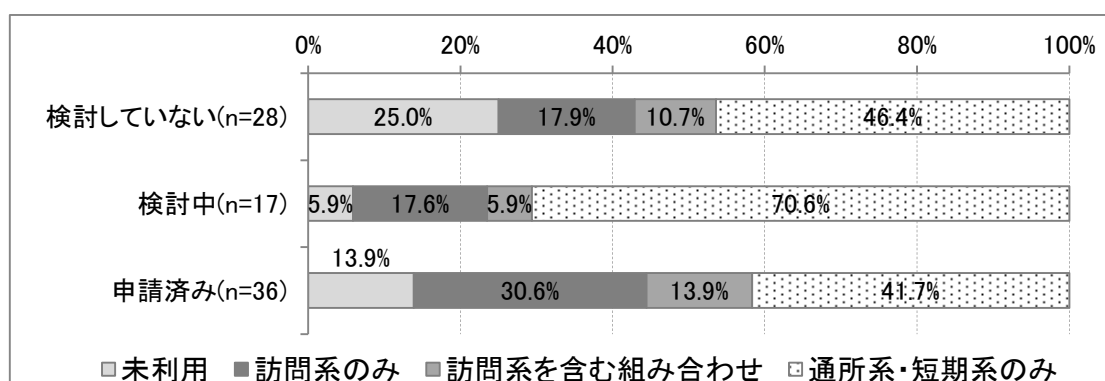
図表 1-12 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護3以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「通所系・短期系のみ」が46.4%と最も割合が高く、次いで「未利用」が25.0%、「訪問系のみ」が17.9%となっている。「検討中」では「通所系・短期系のみ」が70.6%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が17.6%、「未利用」が5.9%、「訪問系を含む組み合わせ」が5.9%となっている。「申請済み」では「通所系・短期系のみ」が41.7%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が30.6%、「未利用」が13.9%、「訪問系を含む組み合わせ」が13.9%となっている。

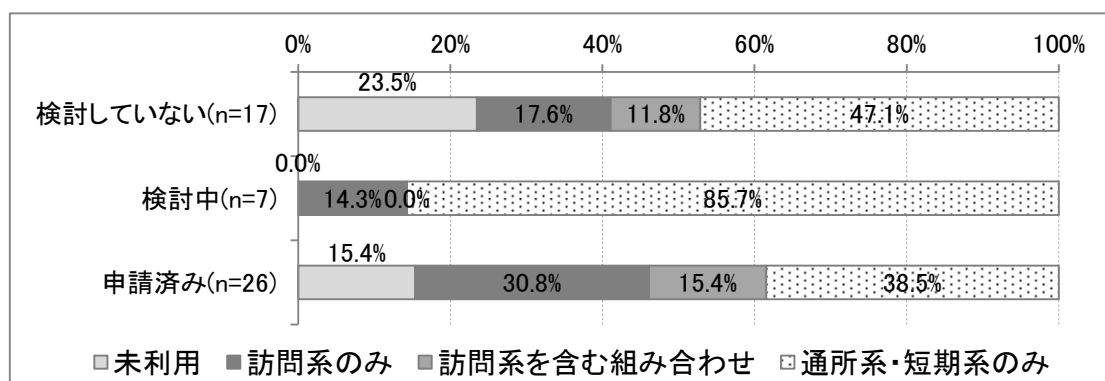
図表 1-13 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護4以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「通所系・短期系のみ」が47.1%と最も割合が高く、次いで「未利用」が23.5%、「訪問系のみ」が17.6%となっている。「検討中」では「通所系・短期系のみ」が85.7%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が14.3%、「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」が0.0%となっている。「申請済み」では「通所系・短期系のみ」が38.5%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が30.8%、「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」が15.4%となっている。

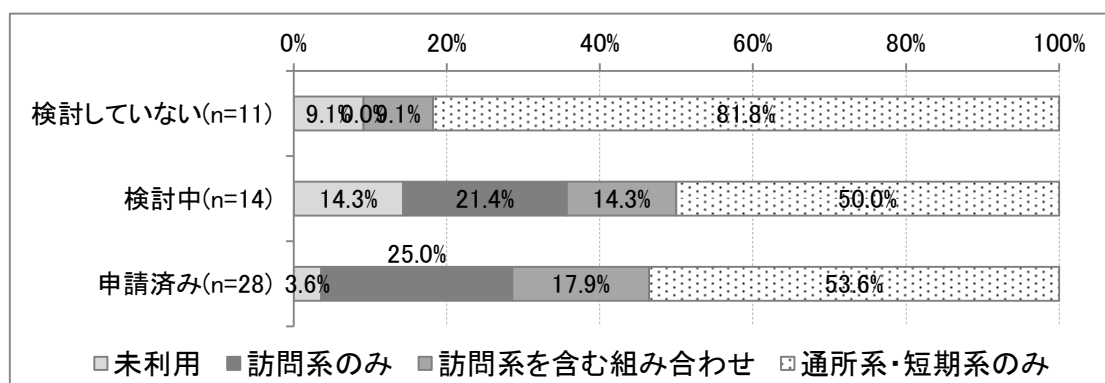
図表 1-14 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(認知症Ⅲ以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「通所系・短期系のみ」が81.8%と最も割合が高く、次いで「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」が9.1%、「訪問系のみ」が0.0%となっている。「検討中」では「通所系・短期系のみ」が50.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が21.4%、「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」が14.3%となっている。「申請済み」では「通所系・短期系のみ」が53.6%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が25.0%、「訪問系を含む組み合わせ」が17.9%となっている。

図表 1-15 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係について、集計分析をしています（図表 1-16、図表 1-17）。それぞれ、要介護 3 以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護 等）」について、「主な介護者が不安に感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の 1 つです。
- ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- したがって、「主な介護者の不安」が比較的小さくなるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するようなサービス整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

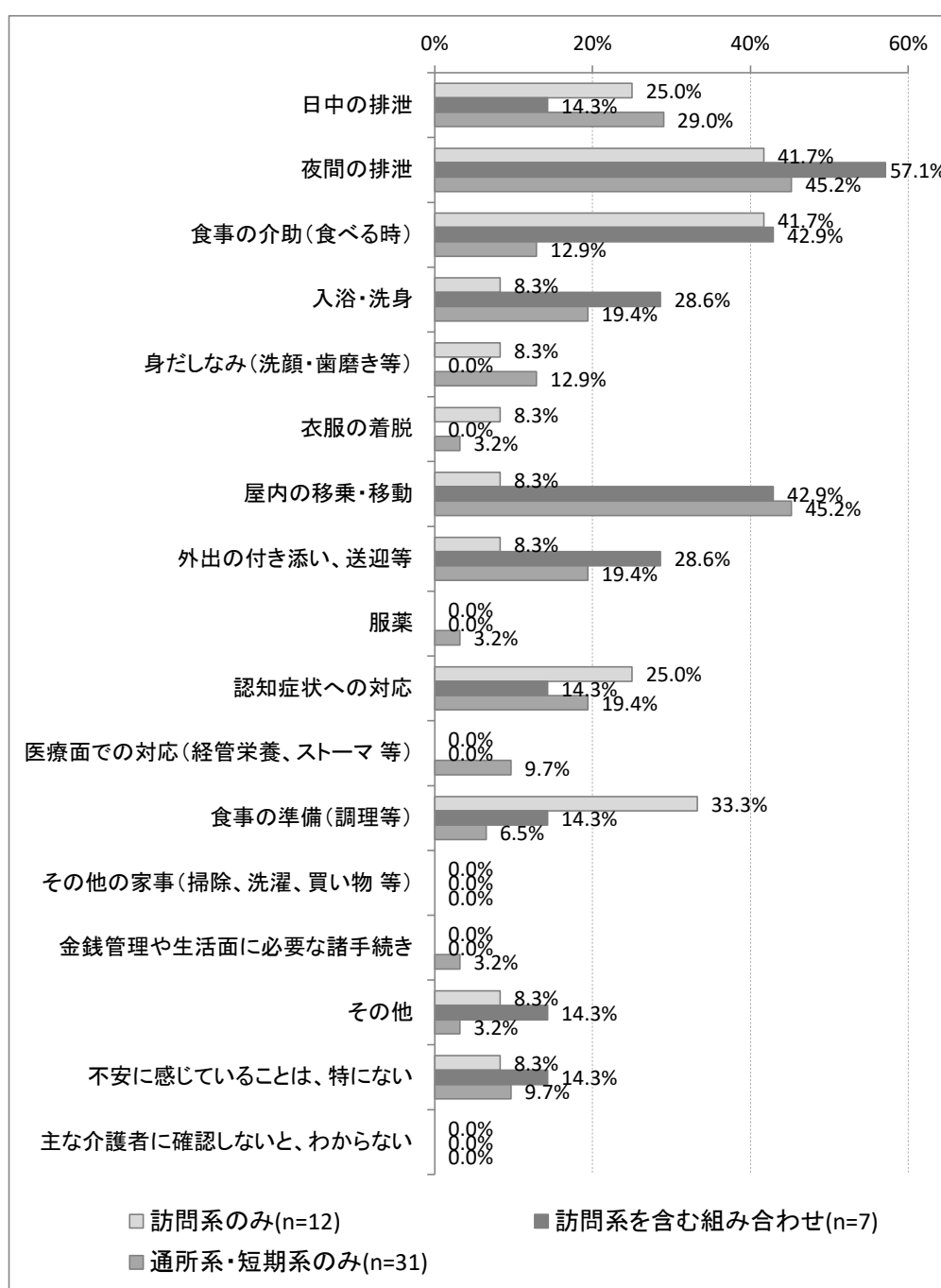
【留意事項】

- ただし、このような「サービス利用の組み合わせ」については、ケアマネジメントに直結する内容でもあることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。
- 例えば、「□□のサービスを利用しているケースでは、〇〇の介護について「主な介護者が不安に感じる」割合が低い」といった傾向がみられたとしても、「何故、□□のサービスを利用しているケースでは、〇〇の介護について「主な介護者が不安に感じる」割合が低いのか」といった解釈には、地域の特性や専門職の知見等を踏まえた個別の議論を行う必要があります。

【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「夜間の排泄」、「食事の介助（食べる時）」が41.7%と最も割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」が33.3%、「日中の排泄」、「認知症状への対応」が25.0%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「夜間の排泄」が57.1%と最も割合が高く、次いで「食事の介助（食べる時）」、「屋内の移乗・移動」が42.9%、「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」が28.6%となっている。「通所系・短期系のみ」では「夜間の排泄」、「屋内の移乗・移動」が45.2%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が29.0%、「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」が19.4%となっている。

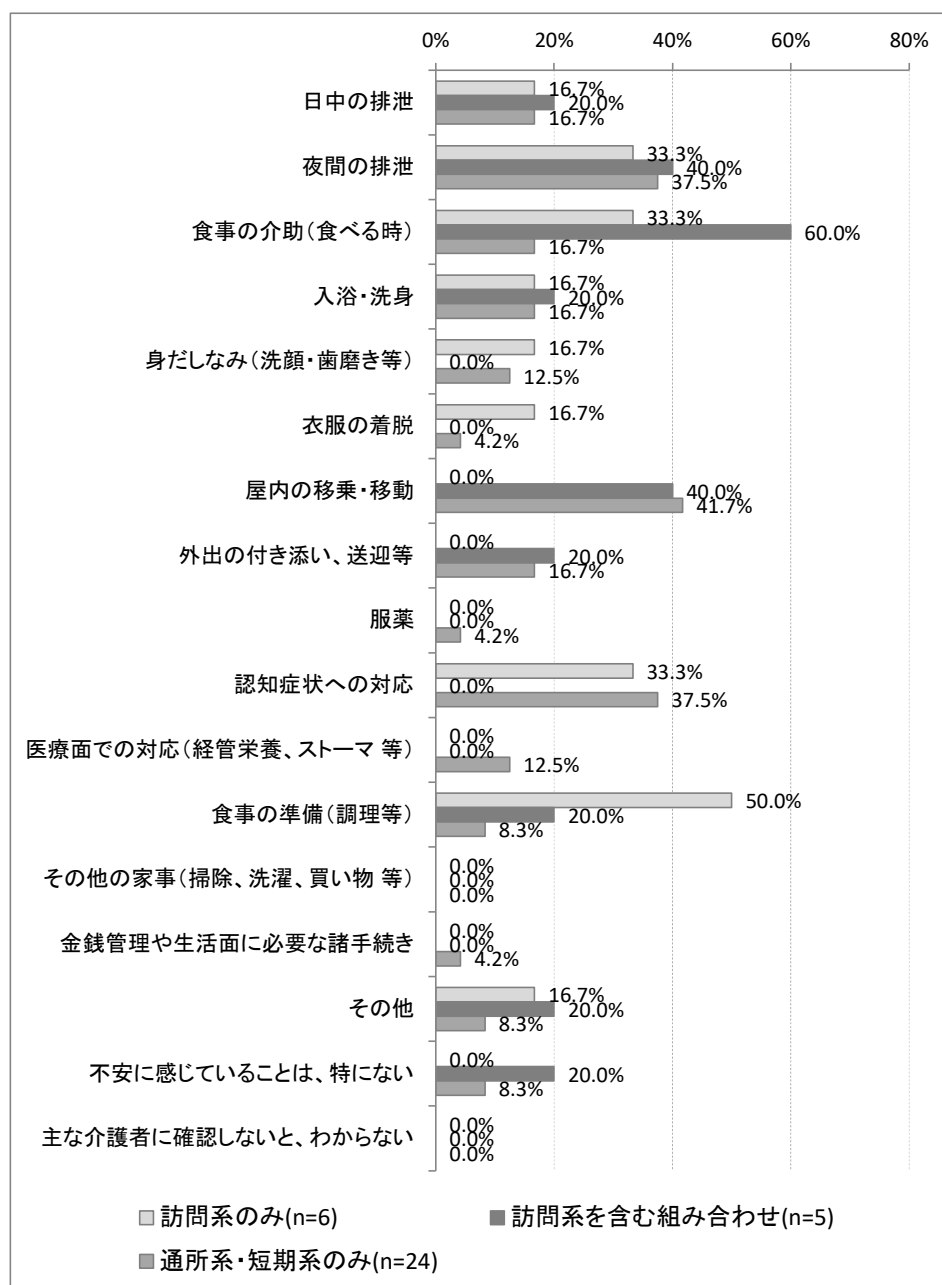
図表 1-16 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）



【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「食事の準備（調理等）」が50.0%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「食事の介助（食べる時）」、「認知症状への対応」が33.3%、「日中の排泄」、「入浴・洗身」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「衣服の着脱」、「その他」が16.7%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「食事の介助（食べる時）」が60.0%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「屋内の移乗・移動」が40.0%、「日中の排泄」、「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」、「食事の準備（調理等）」、「その他」、「不安に感じていることは、特にない」が20.0%となっている。「通所系・短期系のみ」では「屋内の移乗・移動」が41.7%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が37.5%、「日中の排泄」、「食事の介助（食べる時）」、「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」が16.7%となっている。

図表 1-17 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）



(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係

【着目すべきポイント】

- (4)では、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」について、集計分析を行っています。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表 1-18 と図表 1-19 が訪問系、図表 1-20 と図表 1-21 通所系、図表 1-22 と図表 1-23 が短期系について集計分析した結果です。
- 「サービス利用の回数」の増加に伴い、施設等への入所・入居を「検討していない」割合が高くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

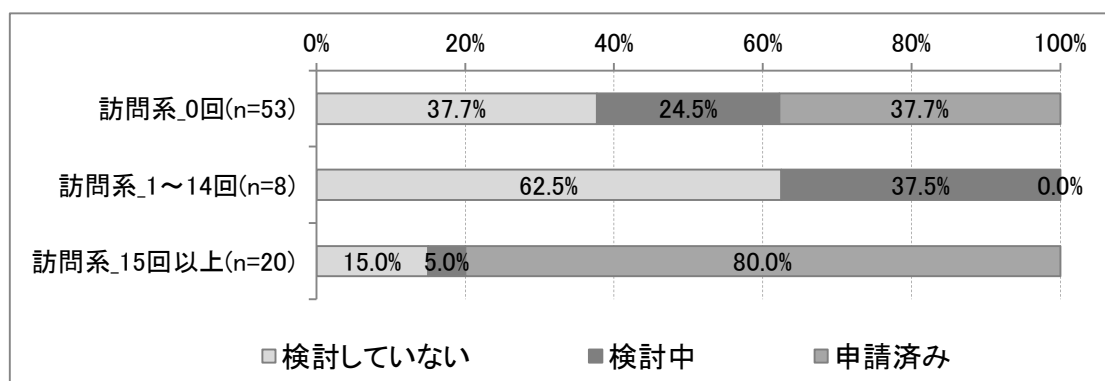
【留意事項】

- (4)の「サービス利用の組み合わせ」と、ここでの「サービス利用の回数」の2つの分析結果を参考に、在宅限界点の向上に資するサービス整備方針の検討につなげていくことが重要です。
- (4)の「サービス利用の組み合わせ」と同様、ケアマネジメントに直結する内容であることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。

【サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「検討していない」、「申請済み」が37.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が24.5%となっている。「訪問系_1～14回」では「検討していない」が62.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が37.5%、「申請済み」が0.0%となっている。「訪問系_15回以上」では「申請済み」が80.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が15.0%、「検討中」が5.0%となっている。

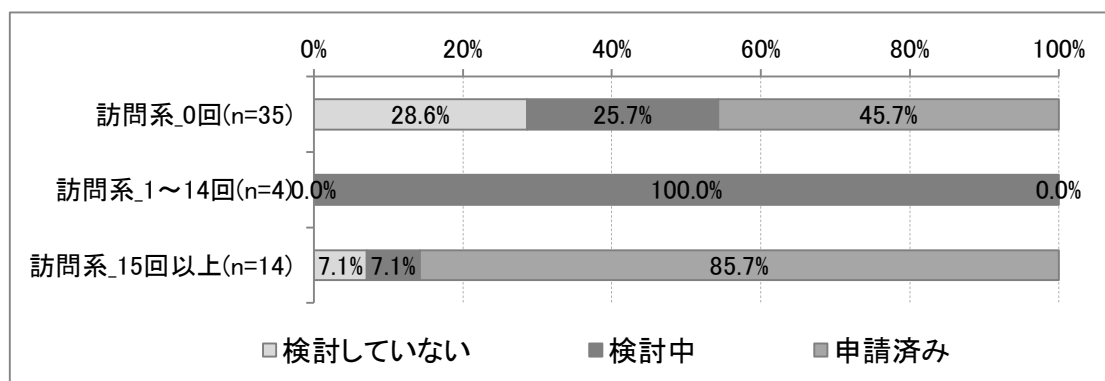
図表 1-18 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）<**>



【サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「申請済み」が45.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が28.6%、「検討中」が25.7%となっている。「訪問系_1～14回」では「検討中」が100.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」、「申請済み」が0.0%となっている。「訪問系_15回以上」では「申請済み」が85.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」、「検討中」が7.1%となっている。

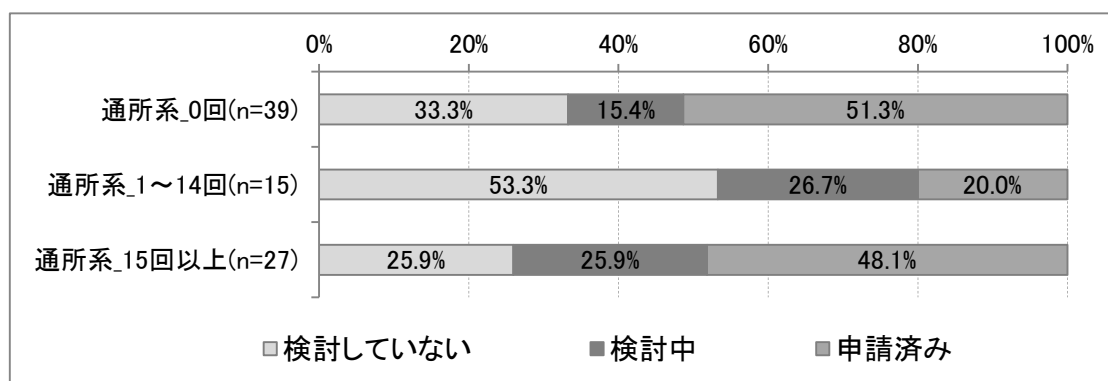
図表 1-19 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症Ⅲ以上）<***>



【サービス利用回数と施設等検討の状況(通所系、要介護3以上)】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「申請済み」が51.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が33.3%、「検討中」が15.4%となっている。「通所系_1～14回」では「検討していない」が53.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が26.7%、「申請済み」が20.0%となっている。「通所系_15回以上」では「申請済み」が48.1%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」、「検討中」が25.9%となっている。

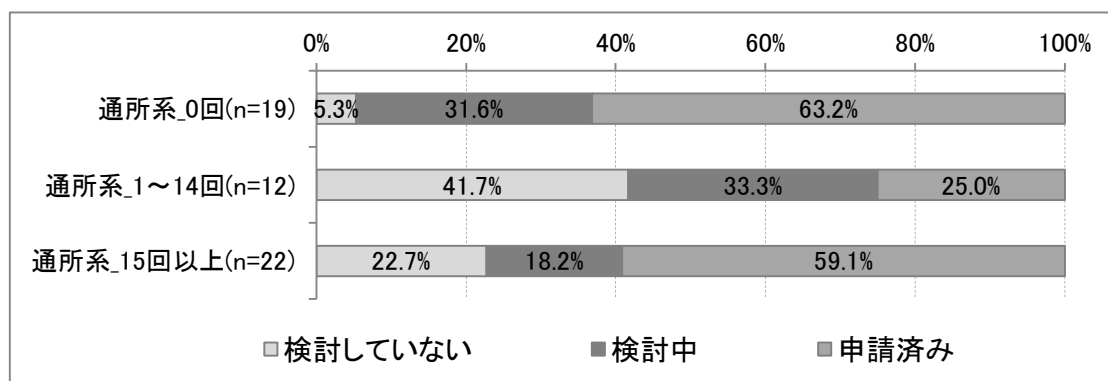
図表 1-20 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護3以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況(通所系、認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「申請済み」が63.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が31.6%、「検討していない」が5.3%となっている。「通所系_1～14回」では「検討していない」が41.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が33.3%、「申請済み」が25.0%となっている。「通所系_15回以上」では「申請済み」が59.1%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が22.7%、「検討中」が18.2%となっている。

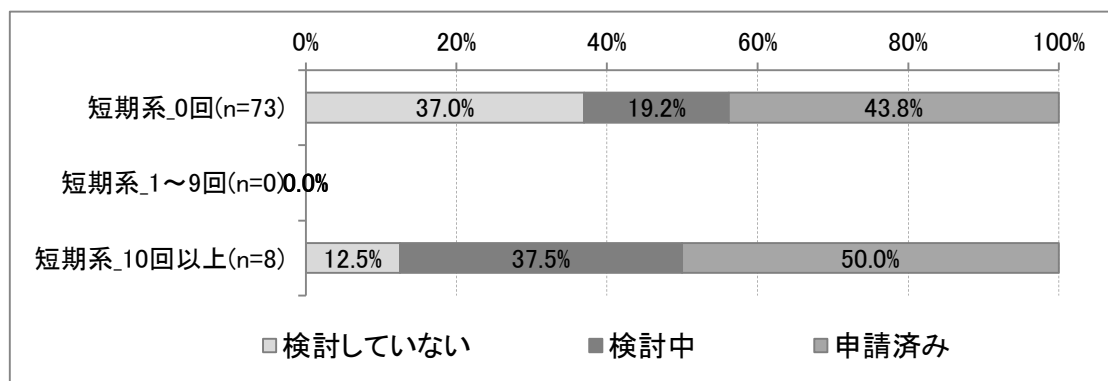
図表 1-21 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症Ⅲ以上）<+>



【サービス利用回数と施設等検討の状況(短期系、要介護3以上)】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「申請済み」が43.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が37.0%、「検討中」が19.2%となっている。「短期系_1～9回」では「検討していない」、「検討中」、「申請済み」が0.0%ともっとも割合が高くなっている。「短期系_10回以上」では「申請済み」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が37.5%、「検討していない」が12.5%となっている。

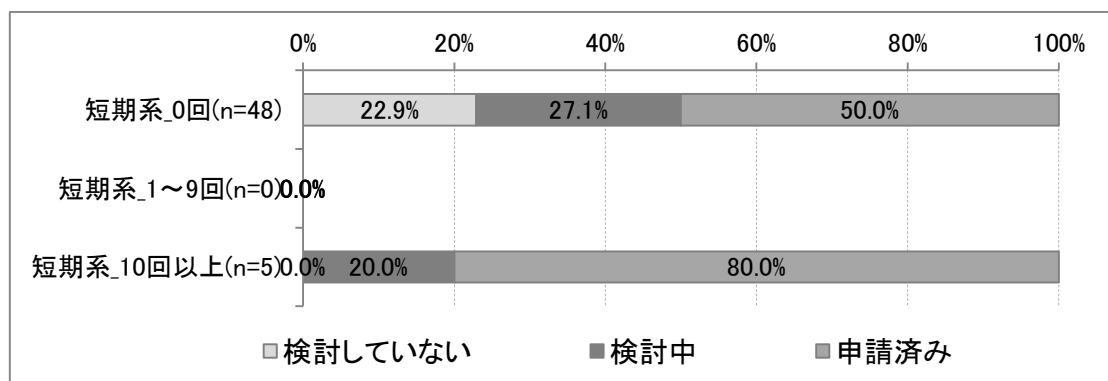
図表 1-22 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、要介護3以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況(短期系、認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「申請済み」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が27.1%、「検討していない」が22.9%となっている。「短期系_1～9回」では「検討していない」、「検討中」、「申請済み」が0.0%ともっとも割合が高くなっている。「短期系_10回以上」では「申請済み」が80.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が20.0%、「検討していない」が0.0%となっている。

図表 1-23 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、認知症Ⅲ以上）



(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

【着目すべきポイント】

- (5)では、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、集計分析を行っています。
- 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護 等）」について、「主な介護者が不安に感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表 1-24 と図表 1-25 が訪問系、図表 1-26 と図表 1-27 が通所系、図表 1-28 と図表 1-29 が短期系について集計分析した結果です。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「サービス利用の回数」の増加に伴い、「主な介護者が不安に感じる」割合が低くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

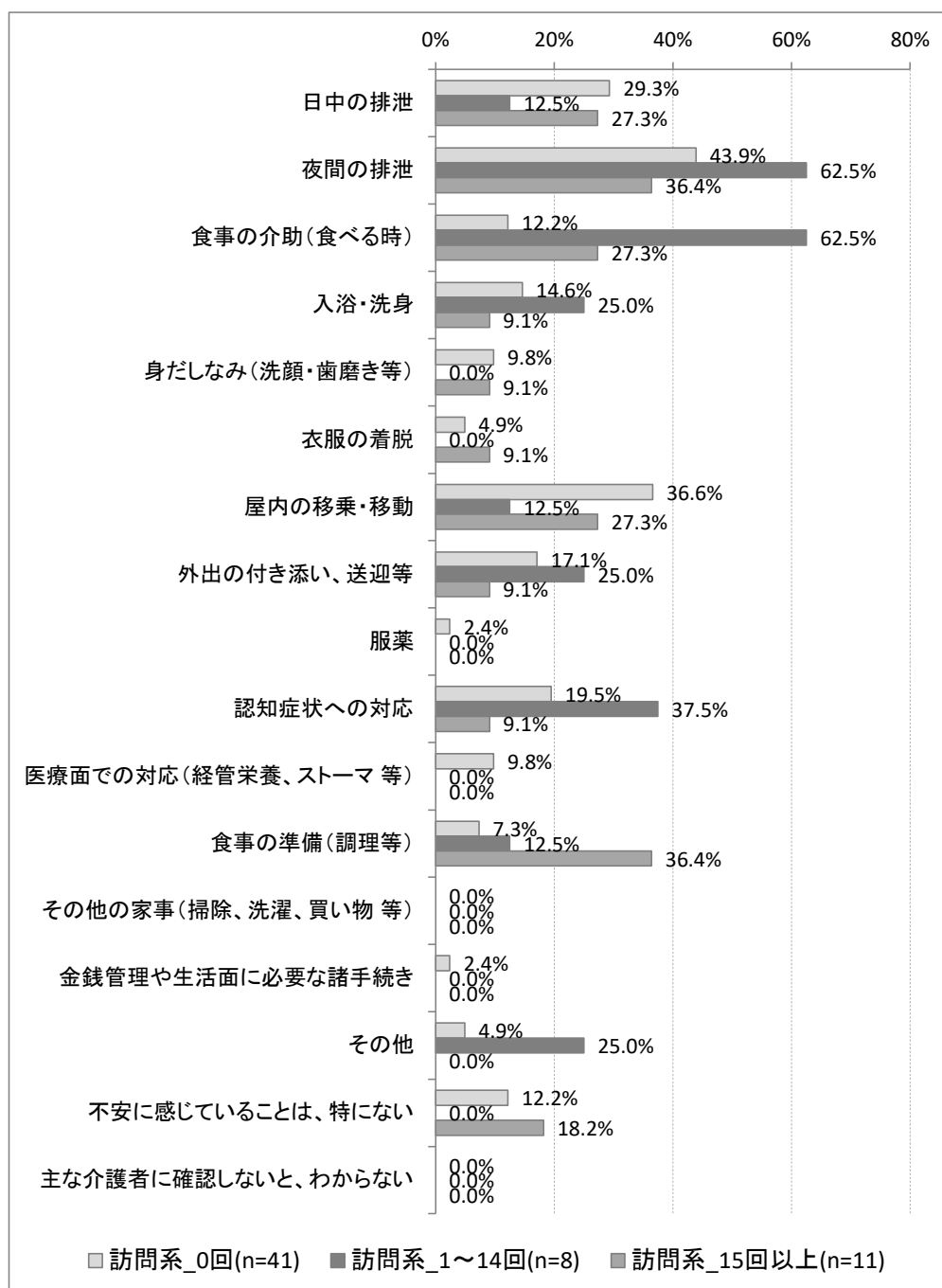
【留意事項】

- (5)の「サービス利用の組み合わせ」と、ここでの「サービス利用の回数」の2つの分析結果を参考に、介護者不安の軽減に資するサービス整備方針の検討につなげていくことが重要です。
- (5)の「サービス利用の組み合わせ」と同様、ケアマネジメントに直結する内容であることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。

【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「夜間の排泄」が43.9%と最も割合が高く、次いで「屋内の移乗・移動」が36.6%、「日中の排泄」が29.3%となっている。「訪問系_1～14回」では「夜間の排泄」、「食事の介助（食べる時）」が62.5%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が37.5%、「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」、「その他」が25.0%となっている。「訪問系_15回以上」では「夜間の排泄」、「食事の準備（調理等）」が36.4%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「食事の介助（食べる時）」、「屋内の移乗・移動」が27.3%、「不安に感じていることは、特にない」が18.2%となっている。

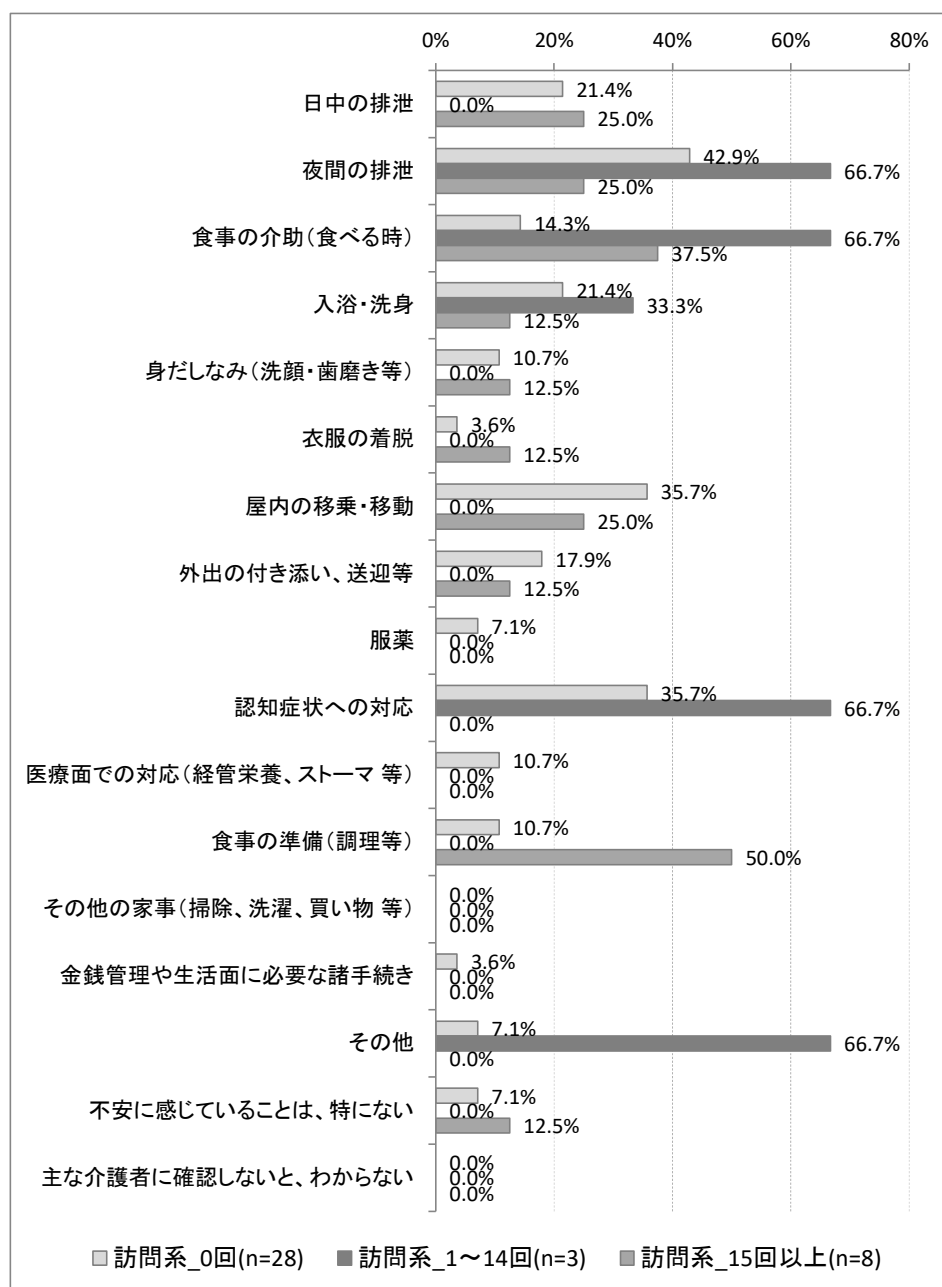
図表 1-24 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「夜間の排泄」が42.9%と最も割合が高く、次いで「屋内の移乗・移動」が35.7%、「認知症状への対応」が35.7%、「日中の排泄」が21.4%となっている。「訪問系_1～14回」では「夜間の排泄」、「食事の介助（食べる時）」、「認知症状への対応」、「その他」が66.7%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が33.3%、となっている。「訪問系_15回以上」では「食事の準備（調理等）」が50.0%と最も割合が高く、次いで「食事の介助（食べる時）」が37.5%、「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「屋内の移乗・移動」が25.0%となっている。

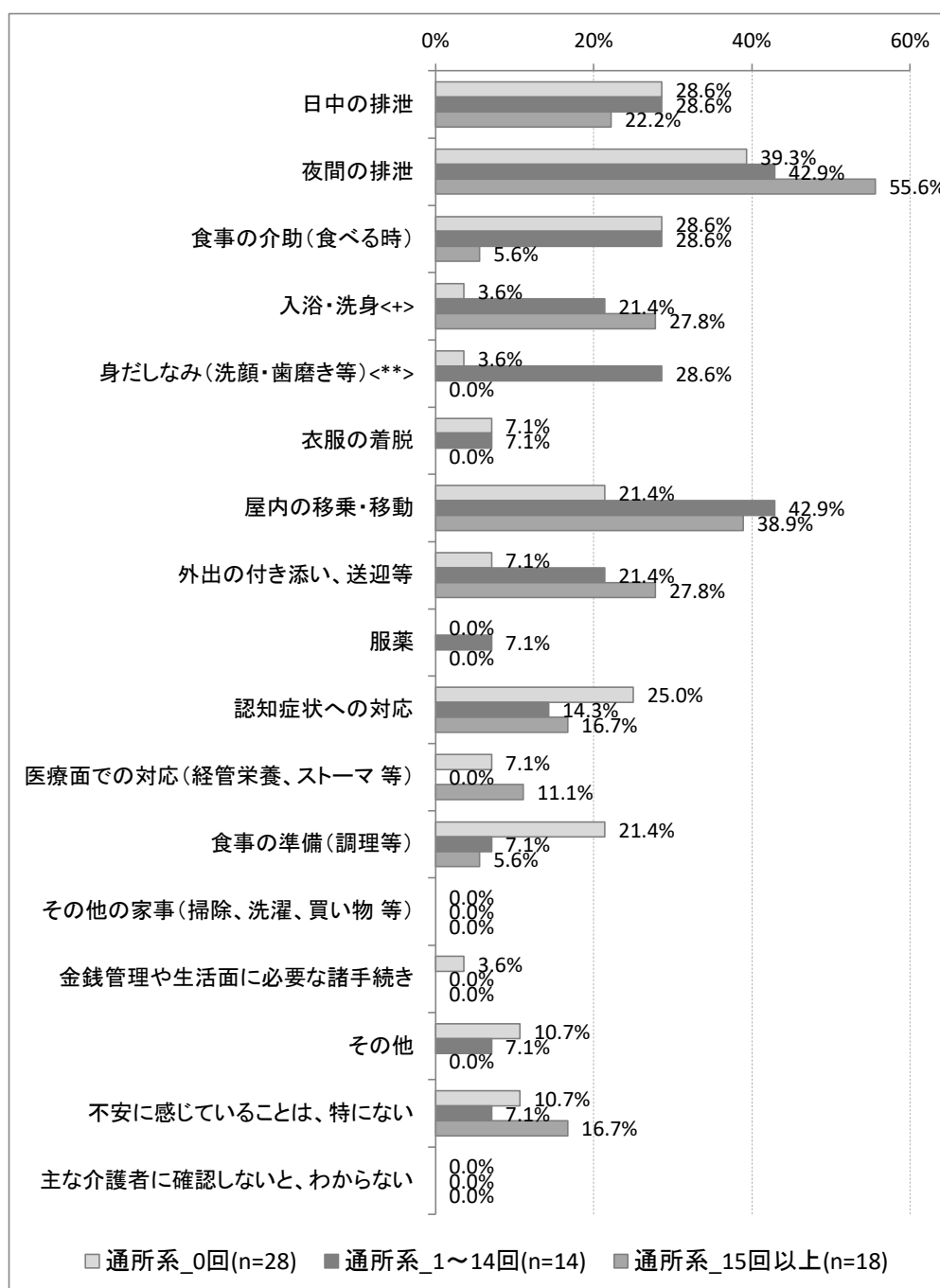
図表 1-25 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系、要介護3以上)】

介護者が不安に感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「夜間の排泄」が39.3%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「食事の介助(食べる時)」が28.6%、「認知症状への対応」が25.0%となっている。「通所系_1～14回」では「夜間の排泄」、「屋内の移乗・移動」が42.9%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「食事の介助(食べる時)」、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」が28.6%、「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」が21.4%となっている。「通所系_15回以上」では「夜間の排泄」が55.6%と最も割合が高く、次いで「屋内の移乗・移動」が38.9%、「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」が27.8%となっている。

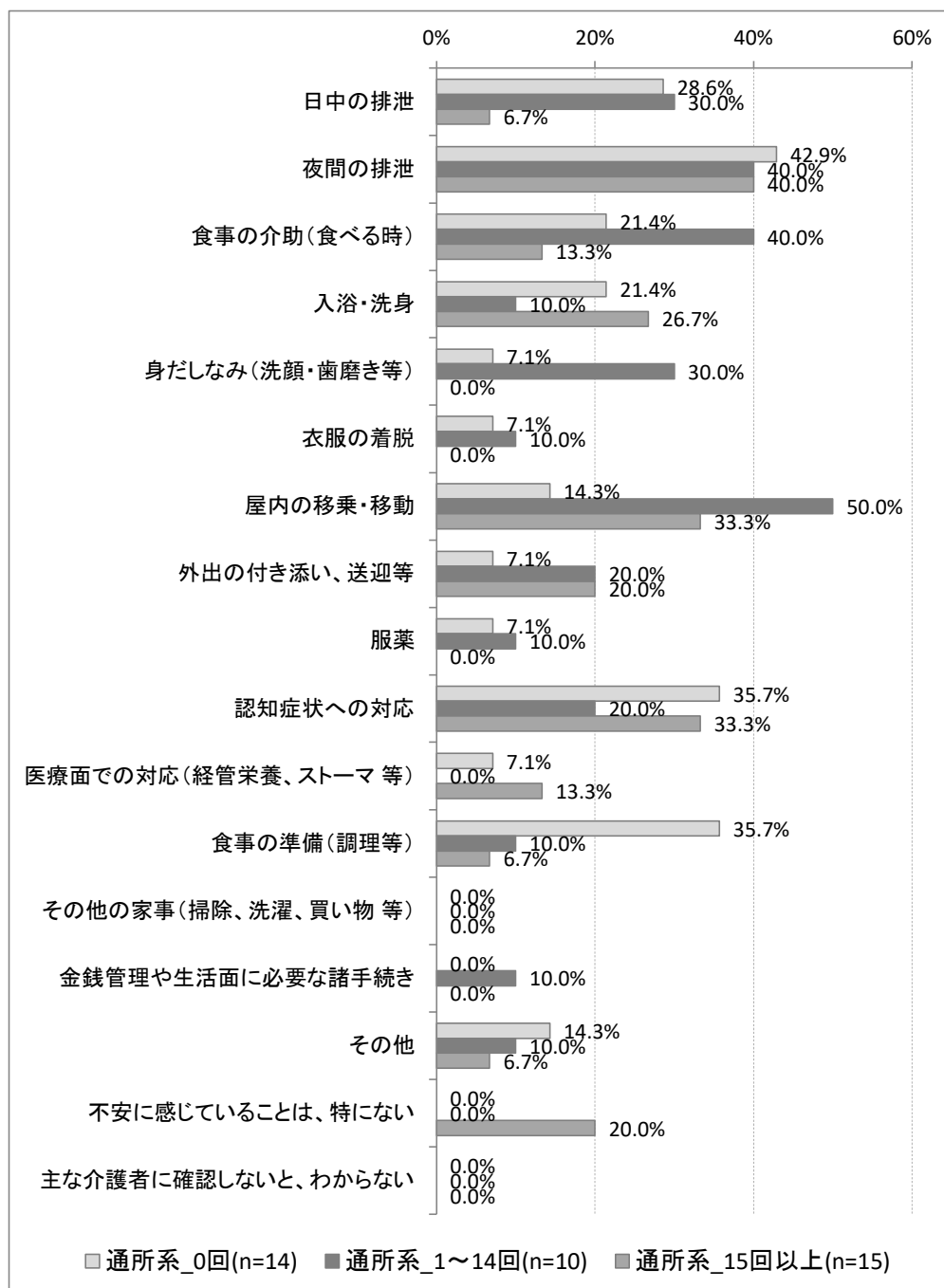
図表 1-26 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系、要介護3以上)



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系、認知症Ⅲ以上)】

介護者が不安に感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「夜間の排泄」が42.9%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」、「食事の準備(調理等)」が35.7%、「日中の排泄」が28.6%となっている。「通所系_1～14回」では「屋内の移乗・移動」が50.0%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「食事の介助(食べる時)」が40.0%、「日中の排泄」、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」が30.0%となっている。「通所系_15回以上」では「夜間の排泄」が40.0%と最も割合が高く、次いで「屋内の移乗・移動」、「認知症状への対応」が33.3%、「入浴・洗身」が26.7%となっている。

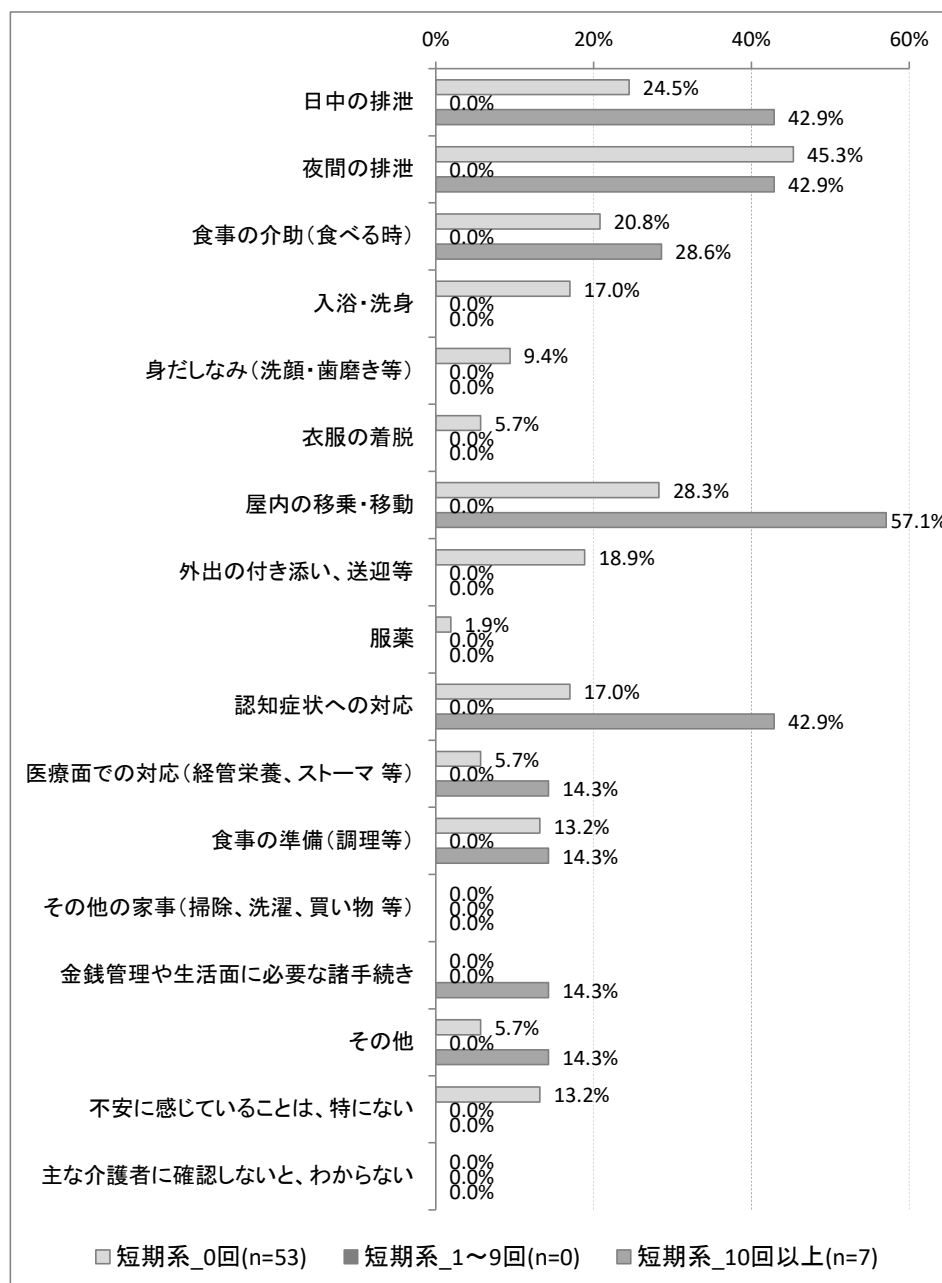
図表 1-27 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系、認知症Ⅲ以上)



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(短期系、要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「夜間の排泄」が45.3%と最も割合が高く、次いで「屋内の移乗・移動」が28.3%、「日中の排泄」が24.5%となっている。「短期系_10回以上」では「屋内の移乗・移動」が57.1%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が42.9%、「食事の介助(食べる時)」が28.6%となっている。

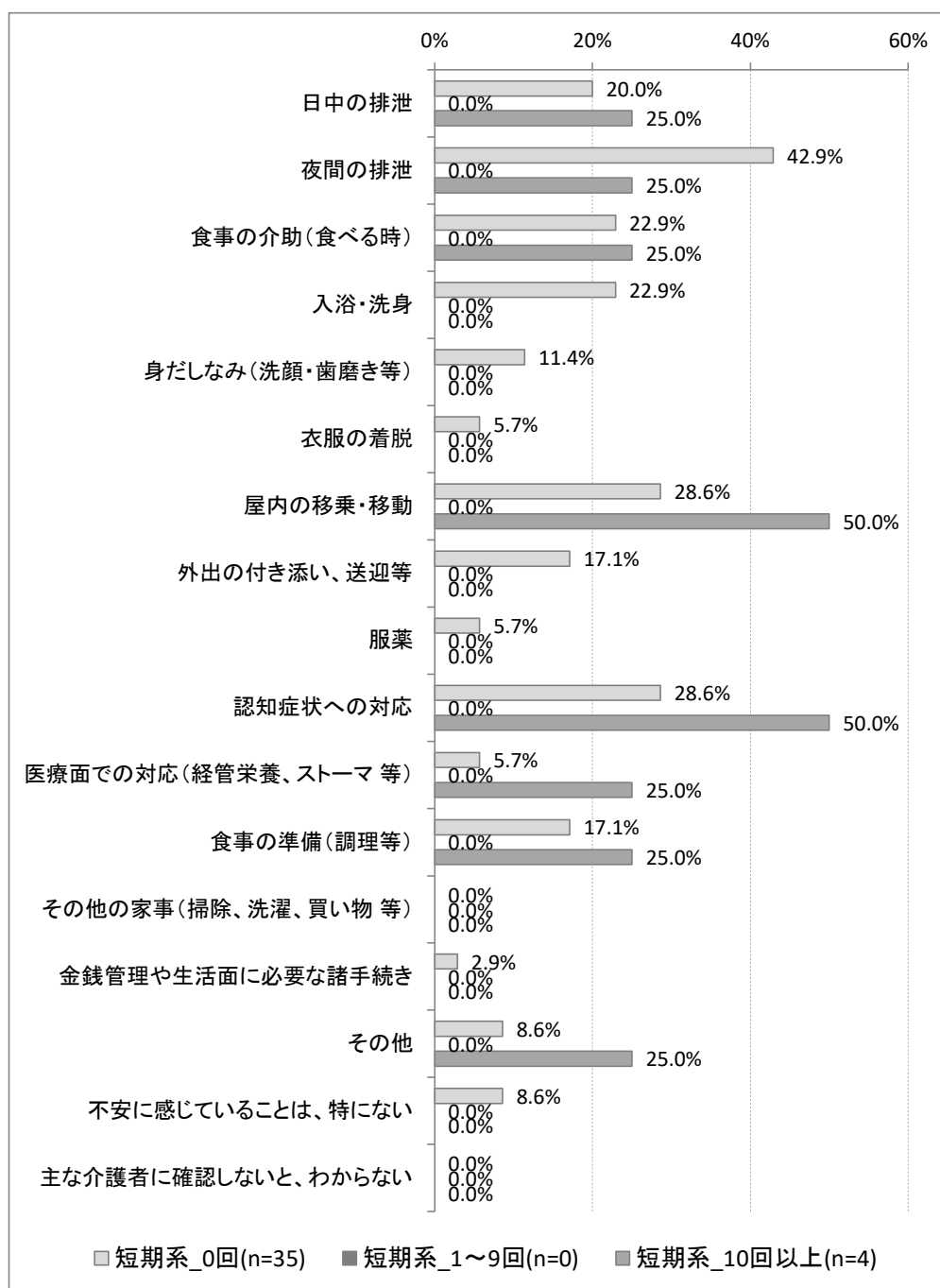
図表 1-28 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(短期系、要介護3以上)



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(短期系、認知症Ⅲ以上)】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「夜間の排泄」が42.9%と最も割合が高く、次いで「屋内の移乗・移動」、「認知症状への対応」が28.6%、「食事の介助(食べる時)」、「入浴・洗身」が22.9%となっている。「短期系_10回以上」では「屋内の移乗・移動」、「認知症状への対応」が50.0%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「食事の介助(食べる時)」、「医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)」、「食事の準備(調理等)」、「その他」が25.0%となっている。

図表 1-29 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(短期系、認知症Ⅲ以上)



1.3 考察（在宅限界点の向上のための支援）

「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「屋内の移乗・移動」、「認知症状への対応」の充実

- 施設等への入所・入居について検討状況は、要支援１・２で「検討していない」が90.2%となっている。要介護１・２では「検討中」(26.6%)、「申請済み」(8.5%)の割合が高まり、要介護３以上では「申請済み」が44.4%、検討中が21.0%となり、施設等を希望する割合が上回っている。
- 介護者が不安に感じる介護を要介護度別にみると、最も不安を感じている割合が高いのが要支援１・２で「外出時の付き添い、送迎等」(30.2%)、要介護１・２で「認知症への対応」(33.7%)、要介護３以上で「夜間の排泄」(45.0%)となっている。
- 「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「屋内の移乗・移動」については、介護度が上がるにつれて不安に感じる割合が高まる傾向にある。
- 要介護１・２は、要支援１・２と比較しても施設等への入所・入居を検討する割合が上昇しており、要支援１・２が不安を感じている「外出時の付き添い、送迎等」への充実を図りつつ、介護度が上がるにつれ不安が高まる「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「屋内の移乗・移動」の充実を図ることで、要介護者の在宅生活の継続を支えることができると考える。

高齢者の状態に応じ訪問系、通所系、短期入所等を組み合わせたサービス提供

- サービスの利用形態は、介護度の重さに関係なく「通所系のみ」という割合が最も高くなっています。認知症高齢者自立度別にみても、全てで「通所系のみ」という割合が最も高く、市では通所系サービスの利用率が高いことが伺える。
- 要介護３以上の方の訪問系サービス利用回数で施設等への入所・入居を「検討していない」割合をみると、訪問系を利用していない(37.7%)より訪問系１～14回利用している(62.5%)方が高い。また通所系を利用していない(33.3%)より通所系１～14回利用している(53.3%)の方が高く、訪問系・通所系の利用が在宅生活を支えていることが伺える。
- 通所・短期系のみ利用の介護者が不安に感じる介護として、要介護３以上で「夜間の排泄」(45.2%)、「屋内の移乗・移動」(45.2%)、「日中の排泄」(29.0%)が高く、認知症Ⅲ以上で「屋内の移乗・移動」(41.7%)、「夜間の排泄」と「認知症状への対応」(37.5%)が高く、訪問系サービスによる支援の必要性が伺える。

2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

2.1 集計・分析の狙い

- ここでは、介護者の就労継続見込みの向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「主な介護者の就労状況」と「主な介護者の就労継続見込み」の2つの視点からの集計を行っています。
- 具体的には、「就労している介護者（フルタイム勤務、パートタイム勤務）」と「就労していない介護者」の違いに着目し、就労している介護者の属性や介護状況の特徴別に、必要な支援を集計・分析しています。
- さらに、「どのようなサービス利用」や「働き方の調整・職場の支援」を受けている場合に、「就労を継続することができる」という見込みを持つことができるのかを分析するために、主な介護者の「就労継続見込み」と、「主な介護者が行っている介護」や「介護保険サービスの利用の有無」、「介護のための働き方の調整」などとのクロス集計を行っています。
- 上記の視点からの分析では、要介護度や認知症高齢者の日常生活自立度といった要介護者の状態別の分析も加え、要介護者の自立度が重くなっても、在宅生活や就労を継続できる支援のあり方を検討しています。

2.2 集計結果と着目すべきポイント

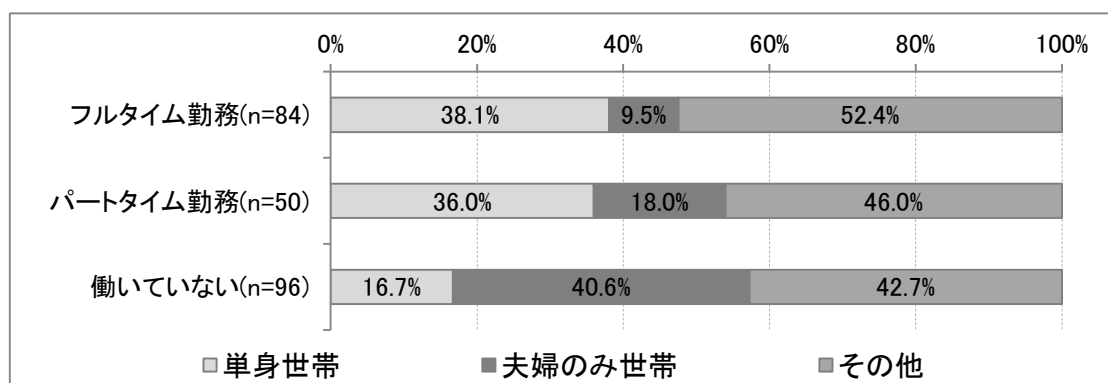
(1) 基本集計

- 主な介護者の就労状況（フルタイム勤務・パートタイム勤務・働いていない）別に、世帯や介護者の特徴などの基礎的な集計を行っています。
- 主な介護者の属性や、要介護者の要介護度・認知症自立度について、就労状況別にその状況を確認してください。

【就労状況別・世帯類型】

世帯類型を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「その他」が52.4%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が38.1%、「夫婦のみ世帯」が9.5%となっている。「パートタイム勤務」では「その他」が46.0%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が36.0%、「夫婦のみ世帯」が18.0%となっている。「働いていない」では「その他」が42.7%と最も割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が40.6%、「単身世帯」が16.7%となっている。

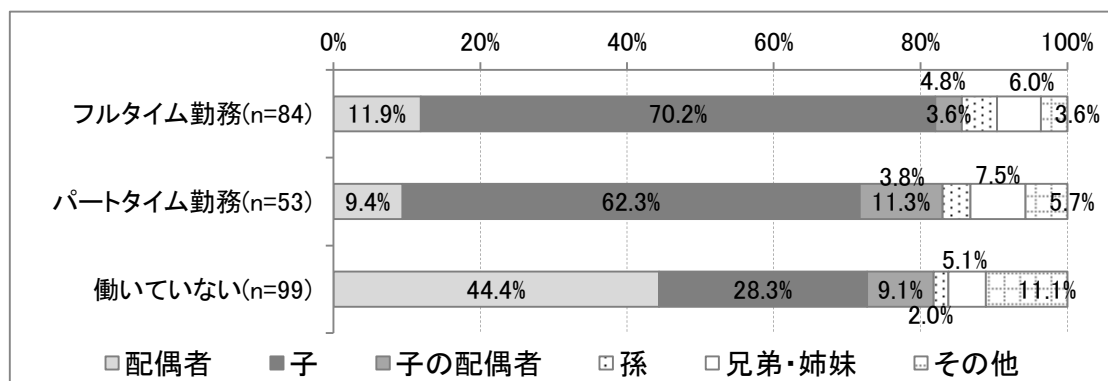
図表 2-1 就労状況別・世帯類型<***>



【就労状況別・★主な介護者の本人との関係】

主な介護者を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「子」が70.2%と最も割合が高く、次いで「配偶者」が11.9%、「兄弟・姉妹」が6.0%となっている。「パートタイム勤務」では「子」が62.3%と最も割合が高く、次いで「子の配偶者」が11.3%、「配偶者」が9.4%となっている。「働いていない」では「配偶者」が44.4%と最も割合が高く、次いで「子」が28.3%、「その他」が11.1%となっている。

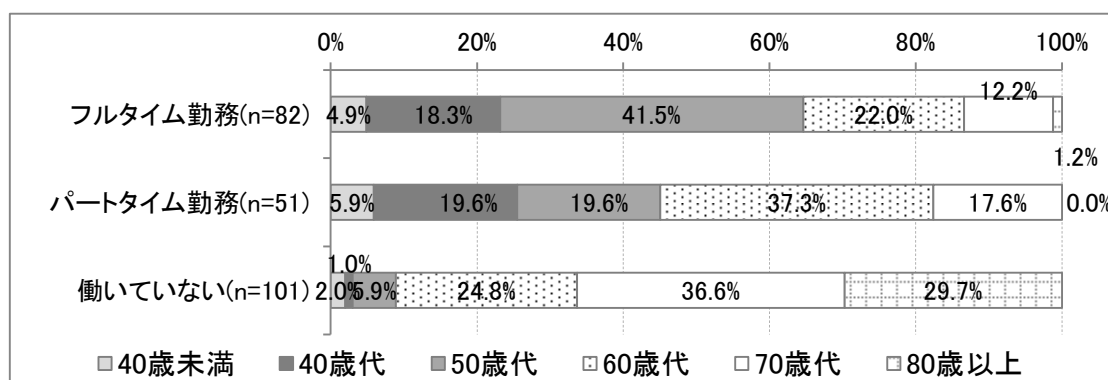
図表 2-2 就労状況別・★主な介護者の本人との関係<***>



【就労状況別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「50 歳代」が41.5%と最も割合が高く、次いで「60 歳代」が22.0%、「40 歳代」が18.3%となっている。「パートタイム勤務」では「60 歳代」が37.3%と最も割合が高く、次いで「40 歳代」が19.6%、「50 歳代」が19.6%となっている。「働いていない」では「70 歳代」が36.6%と最も割合が高く、次いで「80 歳以上」が29.7%、「60 歳代」が24.8%となっている。

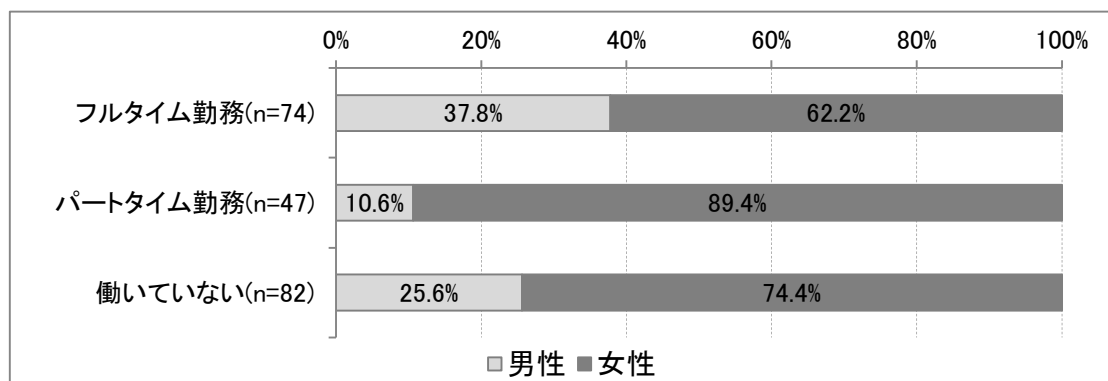
図表 2-3 就労状況別・主な介護者の年齢<***>



【就労状況別・主な介護者の性別】

介護者の性別を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「女性」が62.2%と最も割合が高く、次いで「男性」が37.8%となっている。「パートタイム勤務」では「女性」が89.4%と最も割合が高く、次いで「男性」が10.6%となっている。「働いていない」では「女性」が74.4%と最も割合が高く、次いで「男性」が25.6%となっている。

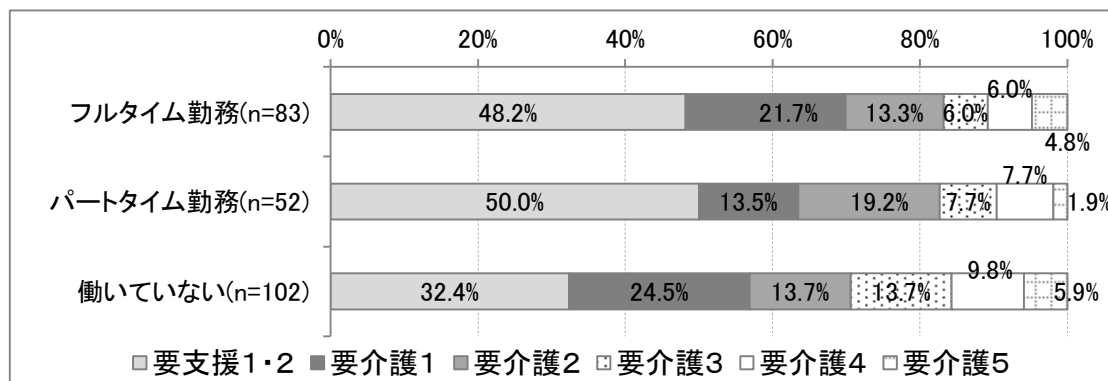
図表 2-4 就労状況別・主な介護者の性別<**>



【就労状況別・要介護度】

二次判定結果を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「要支援1・2」が48.2%と最も割合が高く、次いで「要介護1」が21.7%、「要介護2」が13.3%となっている。「パートタイム勤務」では「要支援1・2」が50.0%と最も割合が高く、次いで「要介護2」が19.2%、「要介護1」が13.5%となっている。「働いていない」では「要支援1・2」が32.4%と最も割合が高く、次いで「要介護1」が24.5%、「要介護2」、「要介護3」が13.7%となっている。

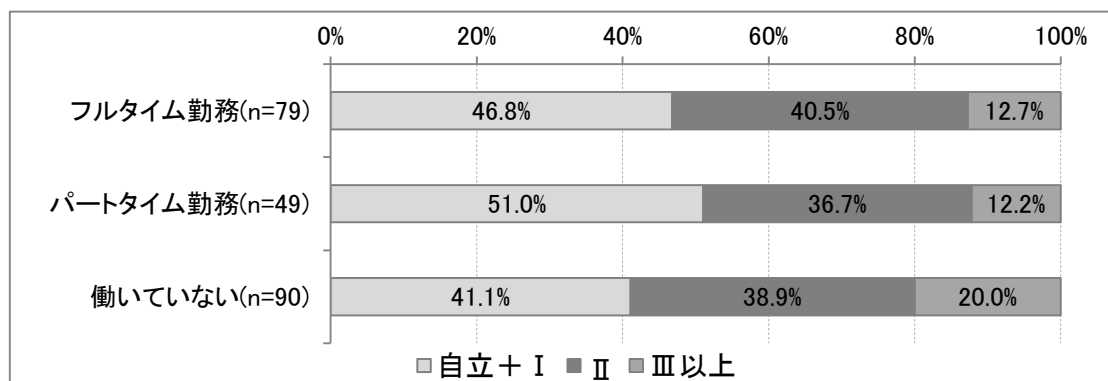
図表 2-5 就労状況別・要介護度



【就労状況別・認知症自立度】

認知症高齢者自立度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「自立＋Ⅰ」が46.8%ともっとも割合が高く、次いで「Ⅱ」が40.5%、「Ⅲ以上」が12.7%となっている。「パートタイム勤務」では「自立＋Ⅰ」が51.0%ともっとも割合が高く、次いで「Ⅱ」が36.7%、「Ⅲ以上」が12.2%となっている。「働いていない」では「自立＋Ⅰ」が41.1%ともっとも割合が高く、次いで「Ⅱ」が38.9%、「Ⅲ以上」が20.0%となっている。

図表 2-6 就労状況別・認知症自立度



(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

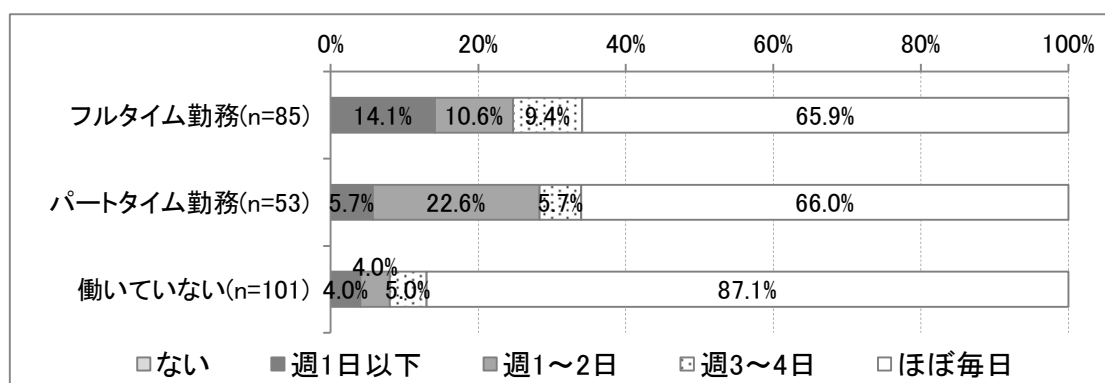
【着目すべきポイント】

- ここでは、「主な介護者が行っている介護」と「今後の就労継続見込み」について、主な介護者の就労状況別に集計分析をしています（図表 2-8、図表 2-9）。
- 「主な介護者が行っている介護」について、例えば、「働いていない」人と比較して、「フルタイム勤務」や「パートタイム勤務」で少ない介護は、働いている介護者が、他の介護者や介護サービスの支援を必要としているものと考えられます。
- 「今後の就労継続見込み」については、「就労状況」との関係に加え、「要介護度」や「認知症自立度」別についても、集計分析を行っています。これにより、要介護者の重度化に伴って就労継続見込みを困難と考える人が増加するかどうかを把握することができます。
- なお、就労継続見込みの分析においては、「問題なく、続けていける」の割合と、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」をあわせた「続けていける」と考えている人の割合の2つの指標に着目しています（図表 2-10、図表 2-11）。

【就労状況別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「ほぼ毎日」が 65.9%と最も割合が高く、次いで「週 1 日以下」が 14.1%、「週 1～2 日」が 10.6%となっている。「パートタイム勤務」では「ほぼ毎日」が 66.0%と最も割合が高く、次いで「週 1～2 日」が 22.6%、「週 1 日以下」、「週 3～4 日」が 5.7%となっている。「働いていない」では「ほぼ毎日」が 87.1%と最も割合が高く、次いで「週 3～4 日」が 5.0%、「週 1 日以下」、「週 1～2 日」が 4.0%となっている。

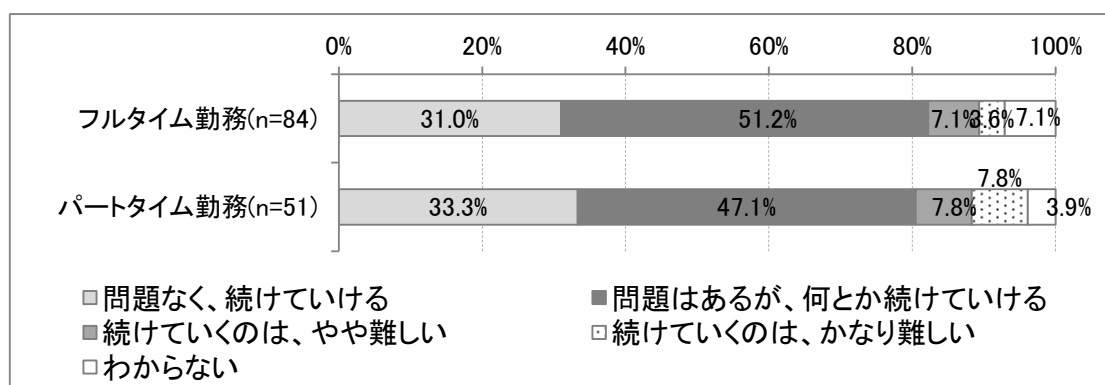
図表 2-7 就労状況別・家族等による介護の頻度<***>



【就労状況別・就労継続見込み】

介護者の就労継続の可否に係る意識を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が51.2%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が31.0%、「続けていくのは、やや難しい」、「わからない」が7.1%となっている。「パートタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が47.1%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が33.3%、「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」が7.8%となっている。

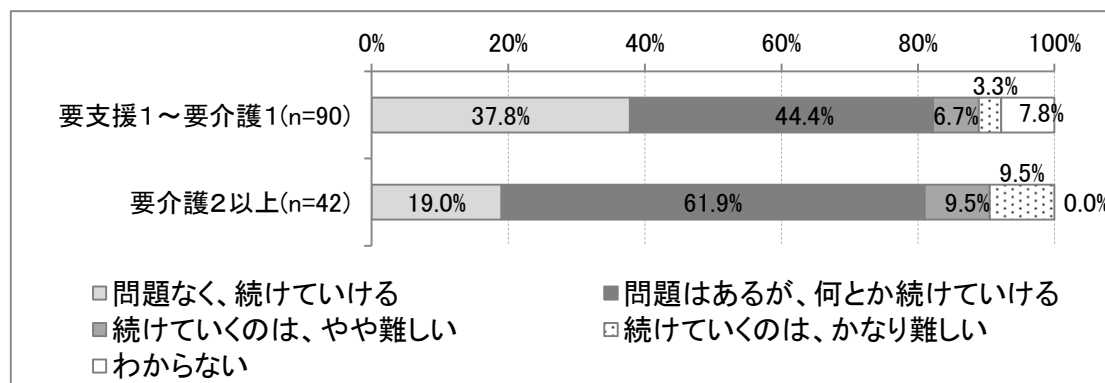
図表 2-9 就労状況別・就労継続見込み



【要介護度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を二次判定結果別にみると、「要支援1～要介護1」では「問題はあるが、何とか続けていける」が44.4%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が37.8%、「わからない」が7.8%となっている。「要介護2以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が61.9%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が19.0%、「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」が9.5%となっている。

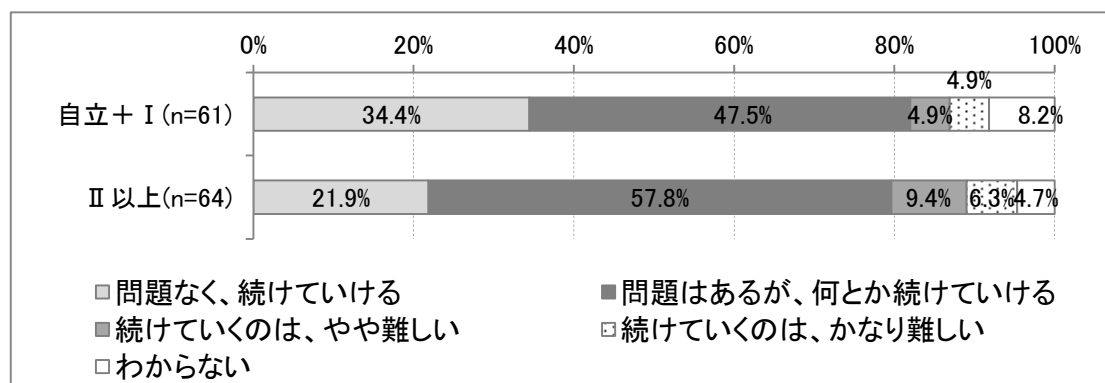
図表 2-10 要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）＜＊＞



【認知症自立度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「問題はあるが、何とか続けていける」が47.5%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が34.4%、「わからない」が8.2%となっている。「Ⅱ以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が57.8%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が21.9%、「続けていくのは、やや難しい」が9.4%となっている。

図表 2-11 認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係

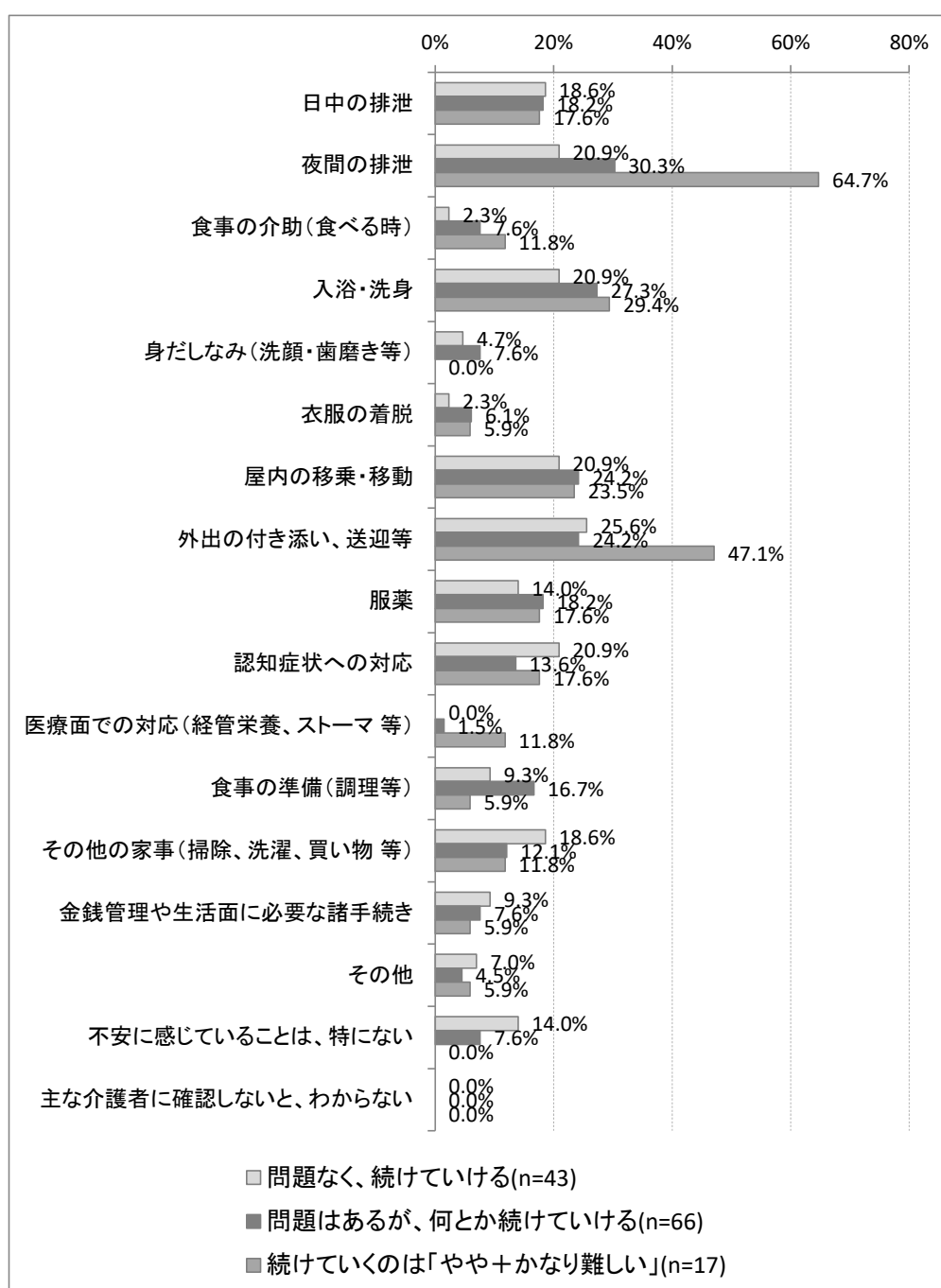
【着目すべきポイント】

- ここでは、「介護保険サービスの利用状況」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-12～図表 2-15）。
- 「介護保険サービスの利用状況」と「就労継続見込み」の関係についての集計分析から、サービス利用による就労継続見込みへの影響を把握することができます。さらに、サービスを利用していない人の「サービス未利用の理由」について、就労継続が困難と考える人が、そうでない人と比較して特徴がみられる理由に着目することで、必要なサービス利用がなされているかどうかを推測することができます。
- 例えば、就労継続が困難と考える人において、サービスを「利用していない」割合が高く、かつサービスを利用していない理由として、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が低い割合にとどまっている場合には、サービス利用の必要性が低くないにも関わらず、サービスの利用がなされていないことになります（図表 2-13、図表 2-14）。
- 「主な介護者が不安に感じる介護」については、就労継続見込みの困難化に伴い、どのような介護等で不安が増加しているかに着目することで、在宅生活を継続しながらの就労継続について、介護者がその可否を判断するポイントとなる可能性がある介護等を把握することができます。

【就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者が不安に感じる介護を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「外出の付き添い、送迎等」が25.6%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「屋内の移乗・移動」、「認知症状への対応」が20.9%、「日中の排泄」、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が18.6%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「夜間の排泄」が30.3%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が27.3%、「屋内の移乗・移動」、「外出の付き添い、送迎等」が24.2%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「夜間の排泄」が64.7%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が47.1%、「入浴・洗身」が29.4%となっている。

図表 2-15 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

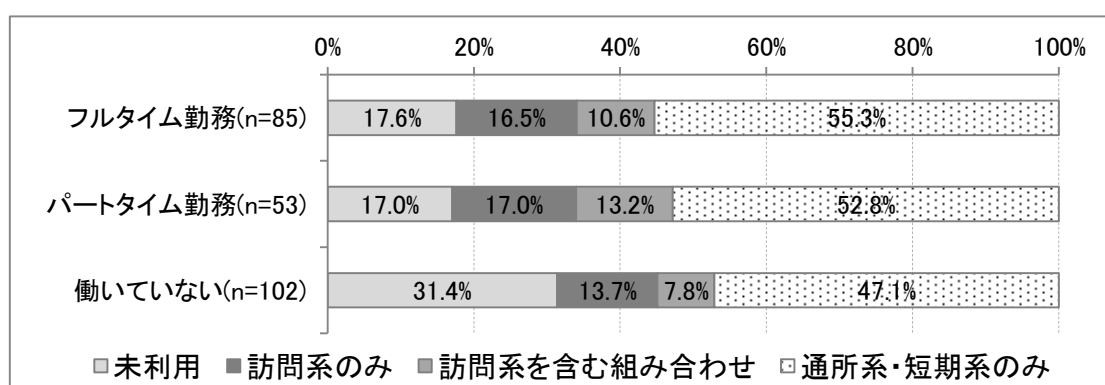
【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化し、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています。さらに、訪問系サービスについては、要介護2以上、認知症自立度Ⅱ以上に分けて集計分析を行っています（図表2-16～図表2-18）。
- ここから、主な介護者の就労状況によって、「サービス利用の組み合わせ」に差がみられるかどうかを把握することができます。
- また、「訪問系サービスの利用の有無」と「就労継続見込み」の関係を集計分析することで、訪問系サービスの利用が、就労継続見込みの「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」の割合に影響を与えているかどうかを推測することが可能です。

【就労状況別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」が55.3%と最も割合が高く、次いで「未利用」が17.6%、「訪問系のみ」が16.5%となっている。「パートタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」が52.8%と最も割合が高く、次いで「未利用」、 「訪問系のみ」が17.0%、「訪問系を含む組み合わせ」が13.2%となっている。「働いていない」では「通所系・短期系のみ」が47.1%と最も割合が高く、次いで「未利用」が31.4%、「訪問系のみ」が13.7%となっている。

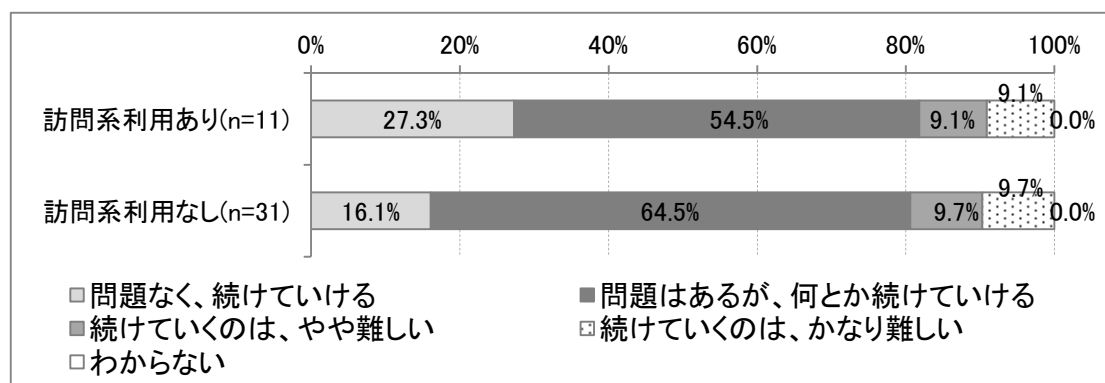
図表 2-16 就労状況別・サービス利用の組み合わせ



【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（要介護2以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が54.5%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が27.3%、「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」が9.1%となっている。「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が64.5%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が16.1%、「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」が9.7%となっている。

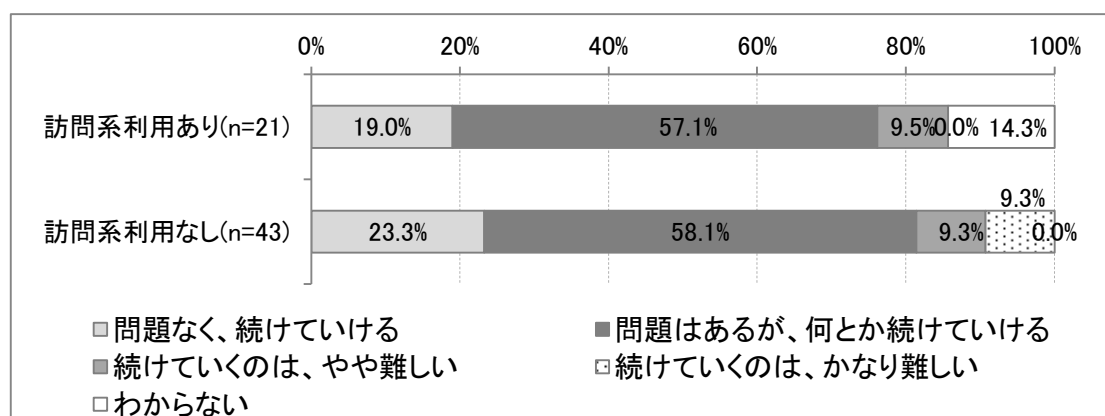
図表 2-17 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（要介護2以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が57.1%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が19.0%、「わからない」が14.3%となっている。「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が58.1%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が23.3%、「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」が9.3%となっている。

図表 2-18 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）＜＋＞



(5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況

【着目すべきポイント】

- ここでは、「保険外の支援・サービスの利用状況」、「訪問診療の利用の有無」、「施設等検討の状況」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-19～図表 2-22）。
- 「利用している保険外の支援・サービス」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」の差をみることにより、働いている介護者が必要と感じているが、実際には利用されていない生活支援サービスを把握することができます。
- また、「訪問診療の利用の有無」と就労状況との関係を集計分析することで、訪問診療の利用が就労状況により異なるかどうかを把握することができます。
- 「施設等検討の状況」については、働いていない介護者に比べて、働いている介護者では、施設入所を必要と感じているかどうか分析することを目的としています。
- さらに、要介護2以上の中重度者については、就労継続見込みについて「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」と考える人のうち、どの程度の人が施設を検討しているかに着目しています。これにより、在宅での仕事と介護の両立が困難となった場合の対応として、施設対応の必要性和、在宅サービスや働き方の調整による対応の必要性のそれぞれについて、把握することができます。

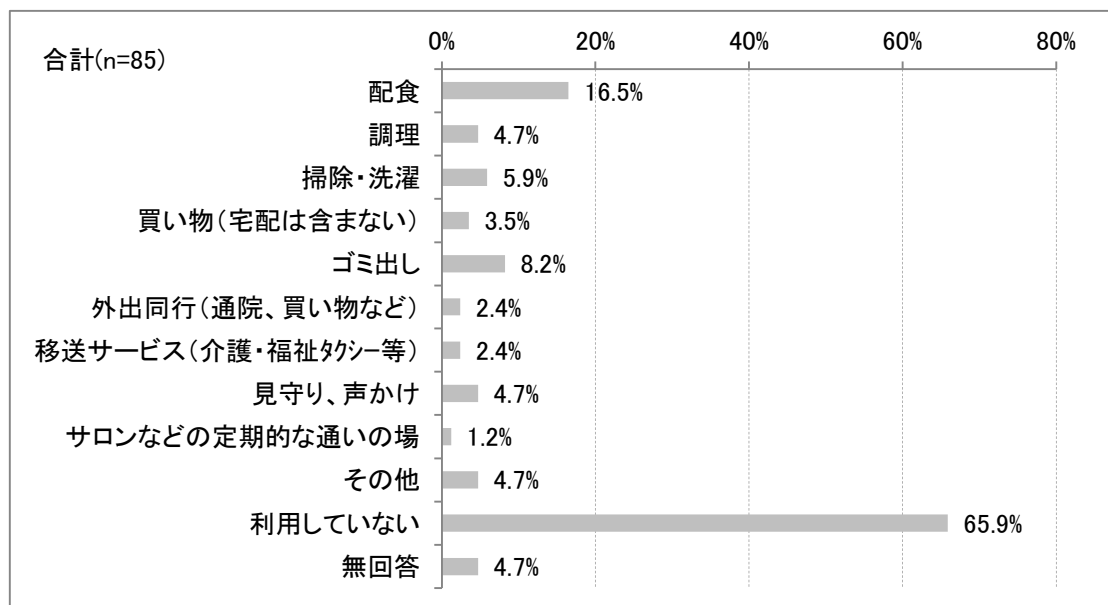
【留意事項】

- ここでの「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」とは、保険外の支援・サービスに限定されるものではありません。必要となる支援・サービスの整備方法については、必ずしも保険外のサービスに限定せず、幅広い視点から検討を進めることが重要です。
- アンケート調査の中で「必要な支援・サービス」を回答して頂くと、「無くても大丈夫であるが、無いよりはあった方が良い」といった回答も含まれることが想定されることから、回答結果は実際のニーズよりもやや過大となる可能性があります。

【利用している保険外の支援・サービス(フルタイム勤務)】

「利用していない」の割合が最も高く 65.9%となっている。次いで、「配食（16.5%）」、「ゴミ出し（8.2%）」となっている。

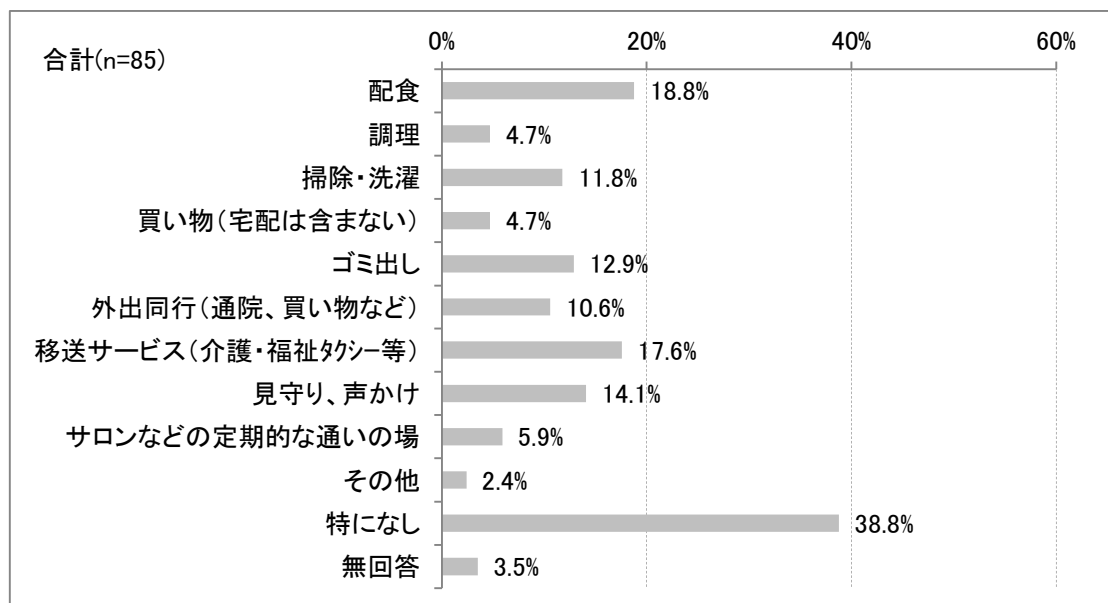
図表 2-19_1 利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）



【在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(フルタイム勤務)】

「特になし」の割合が最も高く 38.8%となっている。次いで、「配食（18.8%）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（17.6%）」となっている。

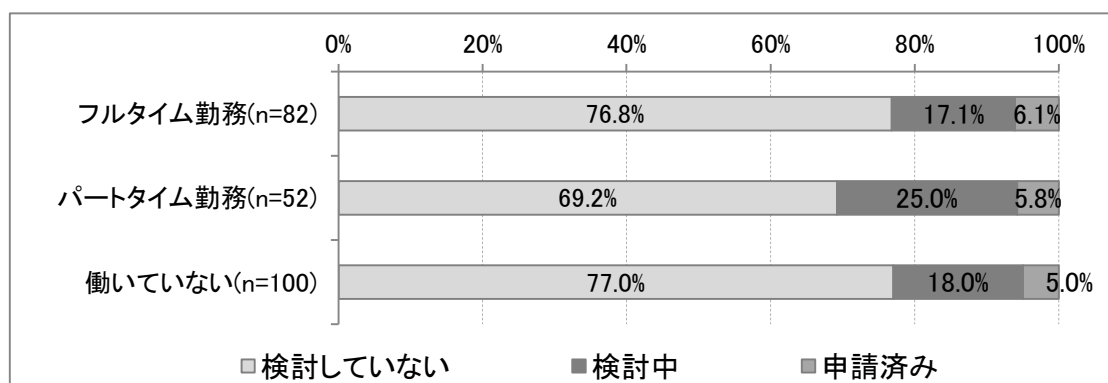
図表 2-19_2 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）



【就労状況別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「検討していない」が76.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が17.1%、「申請済み」が6.1%となっている。「パートタイム勤務」では「検討していない」が69.2%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.0%、「申請済み」が5.8%となっている。「働いていない」では「検討していない」が77.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が18.0%、「申請済み」が5.0%となっている。

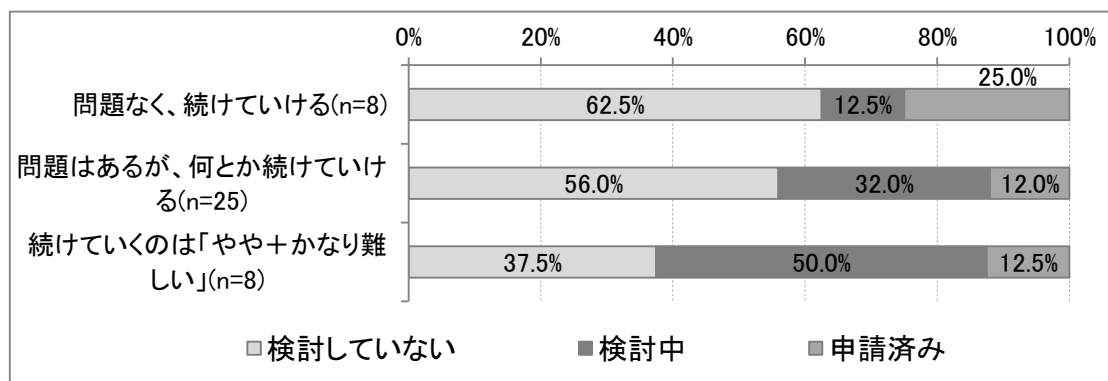
図表 2-21 就労状況別・施設等検討の状況



【就労継続見込み別・施設等検討の状況(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

施設等の検討状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「検討していない」が62.5%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が25.0%、「検討中」が12.5%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「検討していない」が56.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が32.0%、「申請済み」が12.0%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」では「検討中」が50.0%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が37.5%、「申請済み」が12.5%となっている。

図表 2-22 就労継続見込み別・施設等検討の状況（要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）



(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援

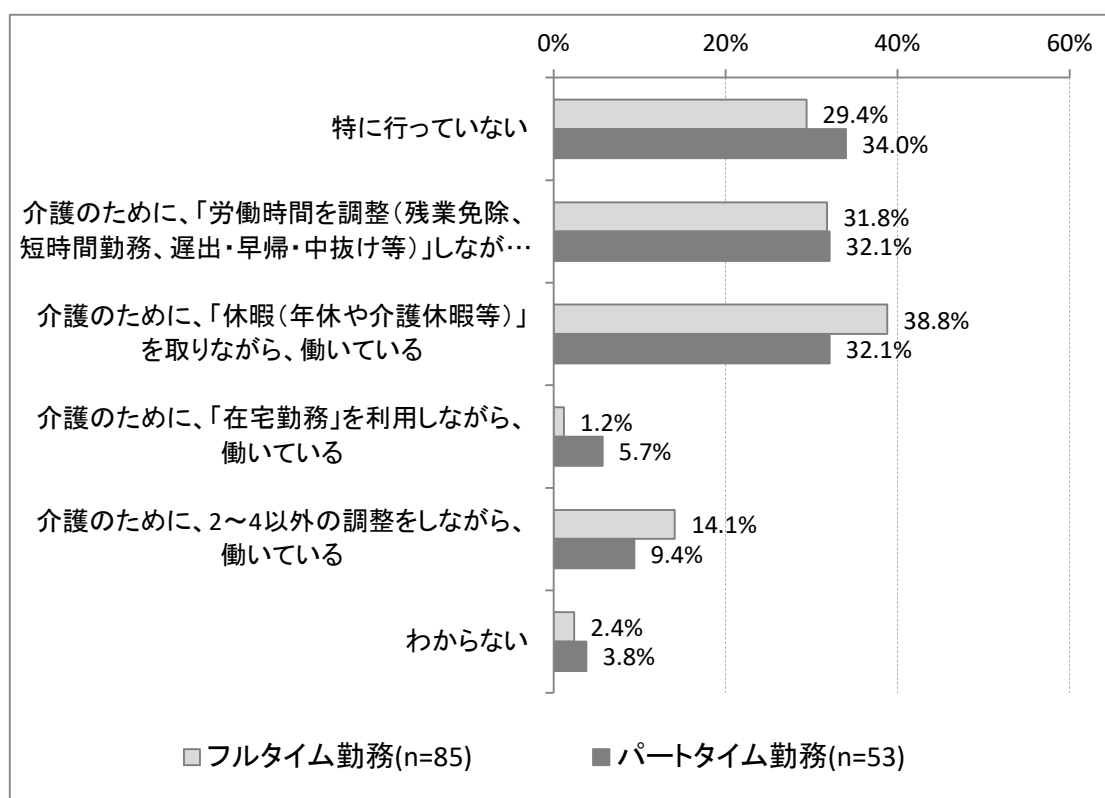
【着目すべきポイント】

- ここでは、「介護のための働き方の調整」と、「効果的な勤め先からの支援」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-23～図表 2-26）。
- 就労継続見込みによって、介護のために働き方を調整している割合や、効果的と考える勤め先の支援内容がどのように変化するかに着目して集計分析をしています。
- ただし、「問題なく、続けていける」とする人において、働き方の調整を「特に行っていない」割合、もしくは効果的な勤め先の支援として「特にない」が高いケースは、職場が恒常的な長時間労働や、休暇取得が困難といった状況ではなく、介護のために特段働き方の調整や勤め先からの支援を行わなくても、両立可能な職場であることが考えられます。
- このように、職場の状況や業務の内容によっても、必要な調整や支援の内容が異なることに留意することが必要です。

【就労状況別・介護のための働き方の調整】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が38.8%ともっとも割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が31.8%、「特に行っていない」が29.4%となっている。「パートタイム勤務」では「特に行っていない」が34.0%ともっとも割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が32.1%、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が9.4%となっている。

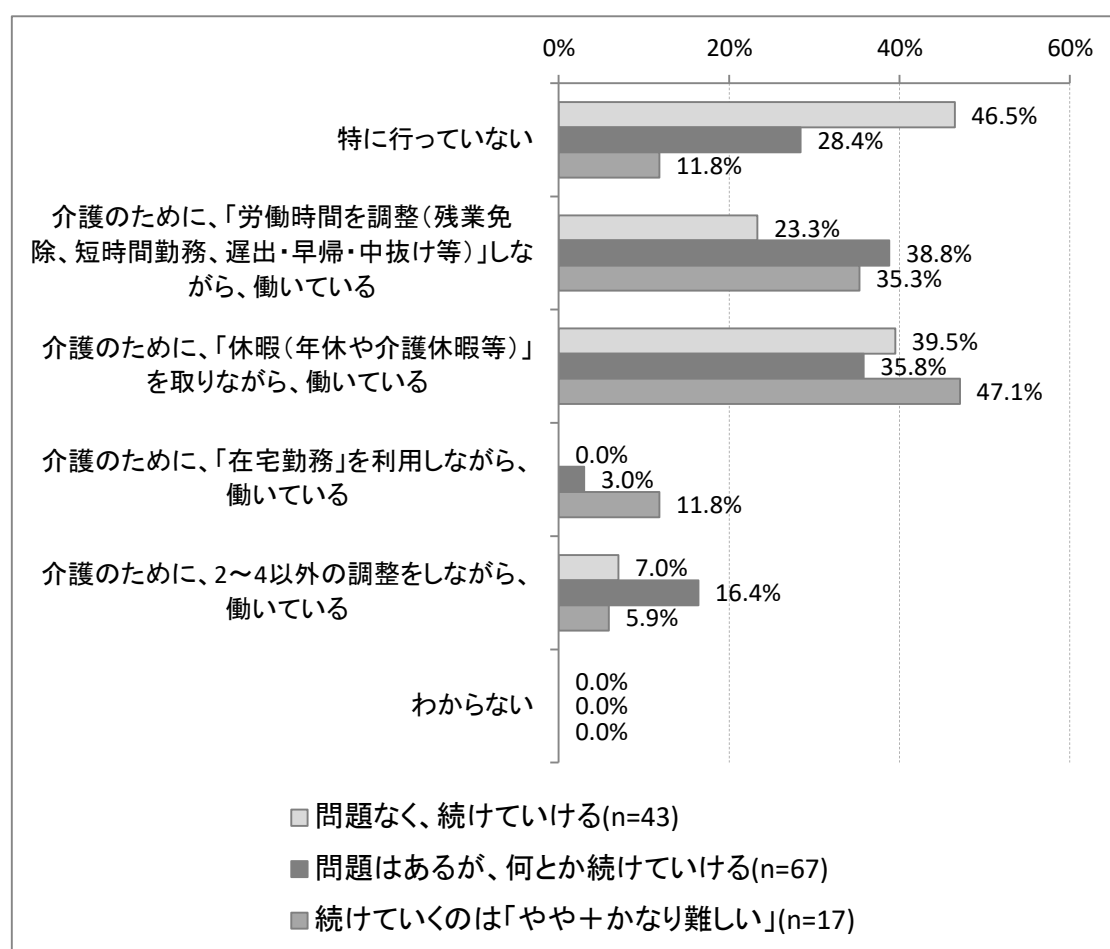
図表 2-23 就労状況別・介護のための働き方の調整



【就労継続見込み別・介護のための働き方の調整(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特に行っていない」が46.5%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が39.5%、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が23.3%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が38.8%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が35.8%、「特に行っていない」が28.4%となっている。「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が47.1%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が35.3%、「特に行っていない」、
「介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている」が11.8%となっている。

図表 2-24 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



2.3 考察（仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制）

要介護2以上や認知症の高齢者の日常生活を支える在宅サービスの充実

- 介護者の勤務形態別に要介護度をみると、フルタイム勤務及びパートタイム勤務ともに要支援から要介護2までで8割強となっている。介護者が働いていないと回答している場合では、要介護3以上の割合（29.4%）が高くなっており、要介護3以上を自宅で介護する場合、仕事との両立が難しくなることが伺える。
- 介護者の勤務形態別に家族等による介護の頻度をみると、フルタイム勤務及びパートタイム勤務ともに「ほぼ毎日」という割合（約66%）に違いがない一方で、働いていないでは「ほぼ毎日」が87.1%と多く上昇します。介護者が働いている場合には、毎日という割合が低下する分、介護サービス等で活用していると考えられる。
- 介護者の働きながら介護を続けていけるかについて、フルタイム勤務かパートタイム勤務かという形態による違いはみられず、「問題なく、続けていける」という割合は、要介護2以上または認知症自立度Ⅱ以上から大きく低下しており、要介護者の介護度や認知症自立度の影響が大きくなっている。
- 仕事を続けることが難しいと回答している方が不安に感じている介護は、「夜間の排泄」（64.7%）、「外出の付き添い、送迎等」（47.1%）、「入浴・洗身」（29.4%）が高くなっている。
- 介護者がフルタイムで勤務している場合に介護保険以外の支援・サービスを利用しているかについて、「利用していない」（65.9%）が最も高く、次いで「配食」（16.5%）、その他の支援・サービスは10%以下となる。一方で在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスは、現状を上回る意向が示され、特に「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（17.6%）、「見守り、声かけ」（14.1%）のニーズが高くなっている。
- 介護保険以外の支援を含め、介護度や認知症自立度の重い方の在宅生活を支えるサービスの充実が求められる。

情報提供の充実及び相談対応等を通じた適切なサービス利用の促進

- 介護者の就労形態別にサービス利用の組み合わせをみると、仕事をしている（フルタイム及パートタイム）状況でも約17%がサービス未利用と回答している。また仕事をしながら要介護2以上の方を介護している状況で、仕事を「問題なく、続けていける」という割合は、訪問系サービス利用ありが27.3%、利用なしが16.1%と11.2ポイントの差がみられる。
- 介護者の勤務形態別に働き方の調整状況をみると、フルタイム勤務では『介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている』（38.8%）が最も高く、パートタイム勤務では「特に行っていない」（34.0%）が最も高くなっている。
- 介護者の働き方の調整状況を就労継続できるかの意識別にみると、「問題なく、続けている」では「特に行っていない」（46.5%）が最も高くなっている。「問題はあるが、何とか続けていけている」では『介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている』（38.8%）が最も高く、「続けていくのは難しい」では『介

護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている』（47.1%）が最も高くなっており、働き方の調整を行っていても厳しい状況にあることが伺える。

- 仕事と介護を両立するためには、訪問系を含む介護保険サービスの適切な利用が必要であり、適切なサービス利用を促すための情報提供や相談支援が求められる。

3 介護保険外の支援・サービスの検討

3.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、特に「保険外の支援・サービス」に焦点を当てた集計を行っています。ここで把握された現状やニーズは、生活支援体制整備事業の推進のために活用していくことなどが考えられます。
- 具体的には、「現在利用している保険外の支援・サービス」と「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）」について、要介護度別や世帯類型別のクロス集計を行い、現在の利用状況の把握と今後さらに充実が必要となる支援・サービスについての分析を行います。
- なお、調査の中では、総合事業に基づく支援・サービスは介護保険サービスに含めるとともに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、介護保険サービスか保険外の支援・サービスであるかは区別していません。

3.2 集計結果と着目すべきポイント

(1) 基礎集計

【着目すべきポイント】

- 「保険外の支援・サービスの利用状況」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-1、図表 3-2）。
- 例えば、「保険外の支援・サービスの利用状況」については、現状の把握のみでなく、保険外の支援・サービスの利用促進の取組に係るアウトプットとして、その「利用割合」を設定することで、経年的にその成果をモニタリングしていくことも可能になると考えられます。
- さらに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」からは、在宅限界点の向上という地域目標の達成に向けて、その地域において特に重要となる支援・サービスの種類を把握することができます。

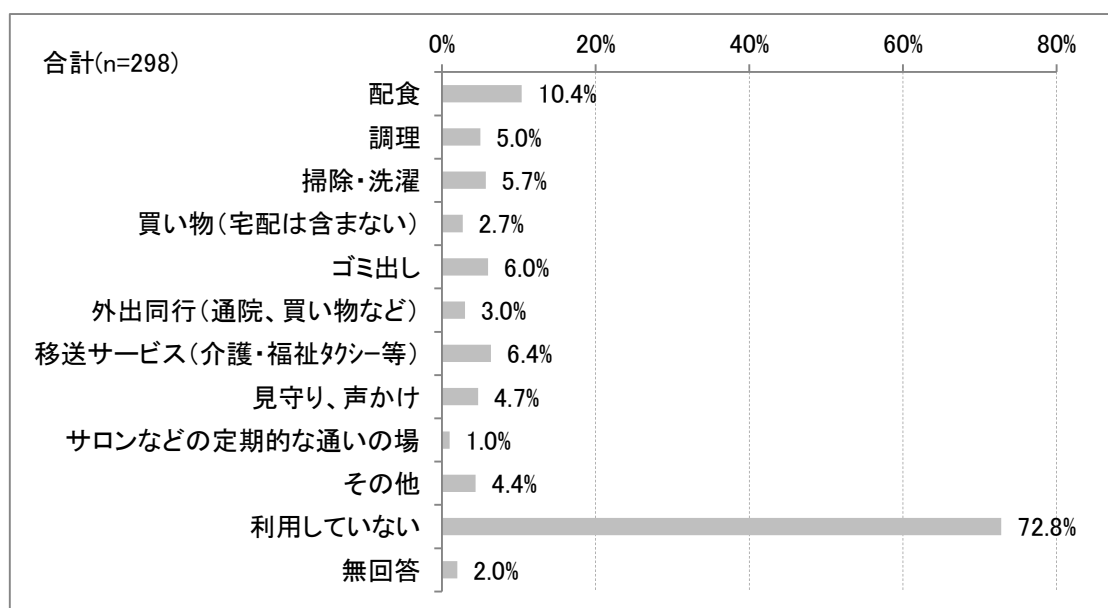
【留意事項】

- ここでの「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」とは、保険外の支援・サービスに限定されるものではありません。必要となる支援・サービスの整備方法については、必ずしも保険外のサービスに限定せず、幅広い視点から検討を進めることが重要です。

【★保険外の支援・サービスの利用状況】

「利用していない」の割合が最も高く 72.8%となっている。次いで、「配食（10.4%）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（6.4%）」となっている。

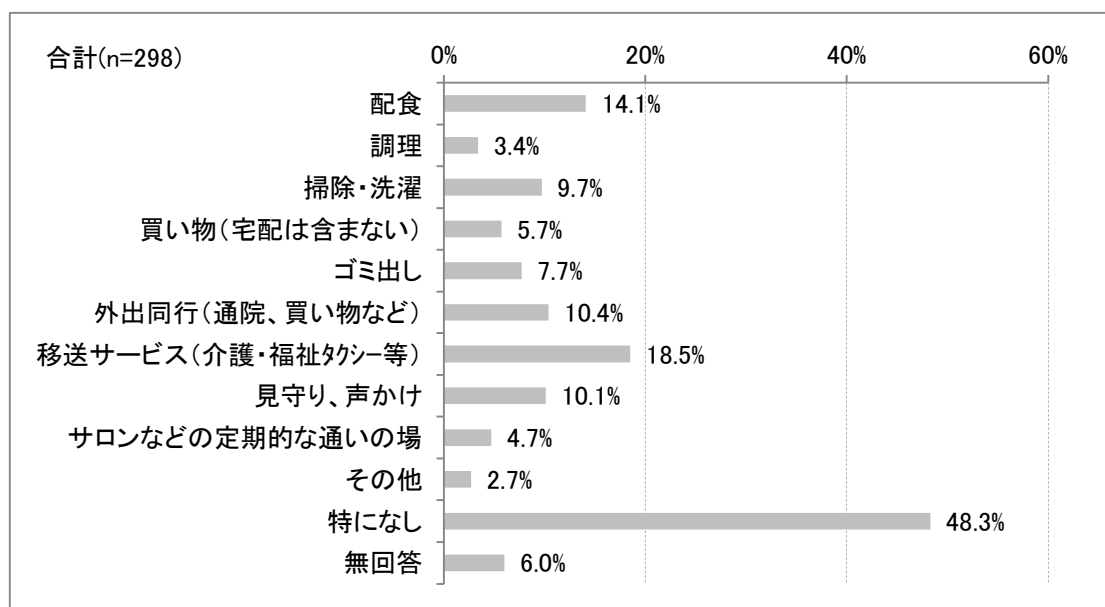
図表 3-1 ★保険外の支援・サービスの利用状況



【在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

「特になし」の割合が最も高く 48.3%となっている。次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（18.5%）」、「配食（14.1%）」となっている。

図表 3-2 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



(2) 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

【着目すべきポイント】

- 世帯類型別に「保険外の支援・サービスの利用状況」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-3、図表 3-4）。
- 「保険外の支援・サービスの利用割合」については、世帯類型別の割合をアウトプット指標としてモニタリングしていくも考えられます。
- また、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、世帯類型別に異なる傾向がみられた場合は、世帯類型に応じたアプローチを検討していくことが重要になると考えられます。

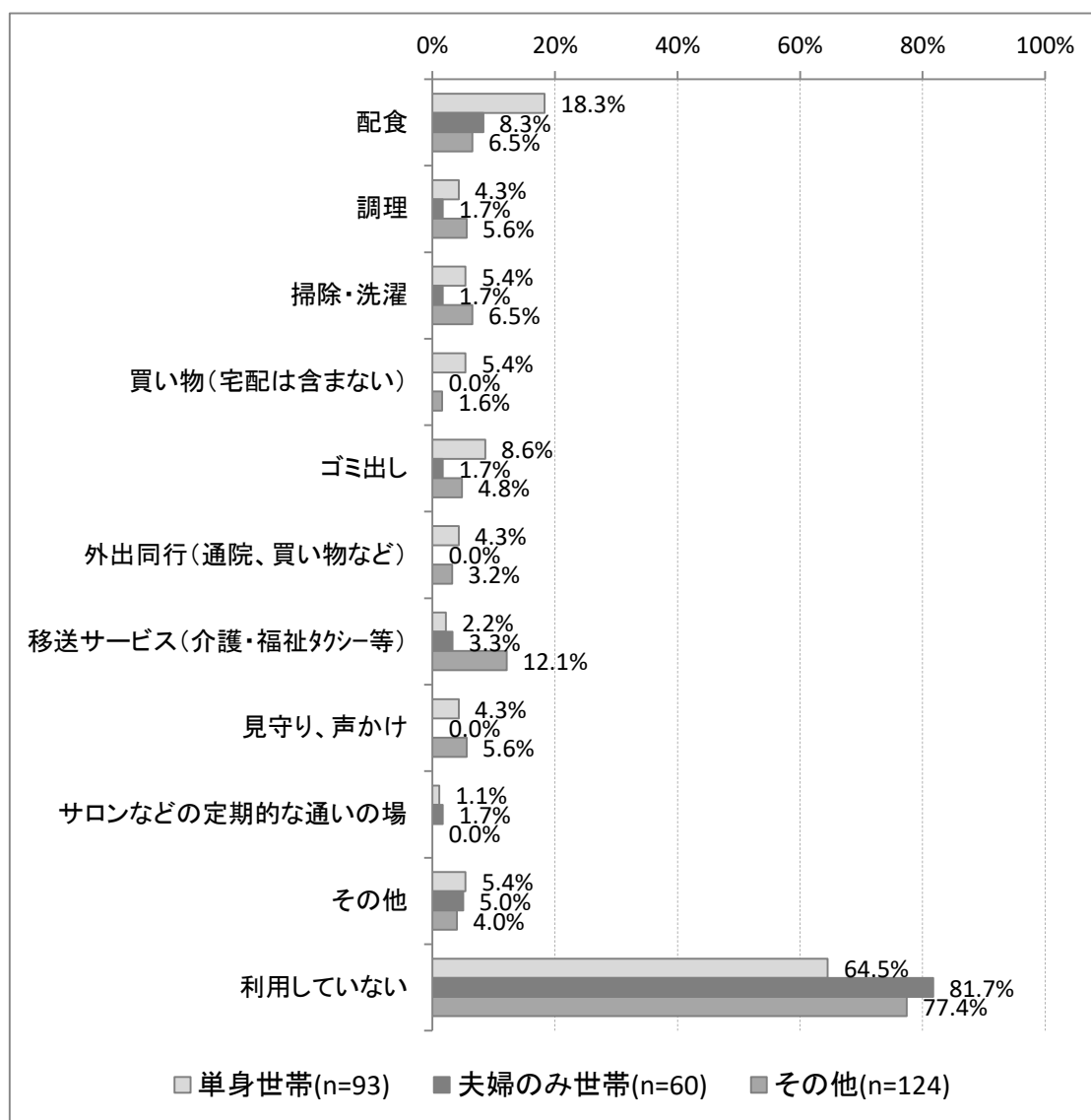
【留意事項】

- アンケート調査の中で「必要な支援・サービス」を回答して頂くと、「無くても大丈夫であるが、無いよりはあった方がよい」といった回答も含まれることが想定されることから、回答結果は実際のニーズよりもやや過大となる可能性があります。
- 「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、特に「複数の支援・サービスを比較して、より優先順位の高い支援・サービスを明らかにする」といった視点でみることが重要です。

【世帯類型別・保険外の支援・サービスの利用状況】

保険外の支援・サービスの利用状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が64.5%と最も割合が高く、次いで「配食」が18.3%、「ゴミ出し」が8.6%となっている。「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が81.7%と最も割合が高く、次いで「配食」が8.3%、「その他」が5.0%となっている。「その他」では「利用していない」が77.4%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が12.1%、「配食」、「掃除・洗濯」が6.5%となっている。

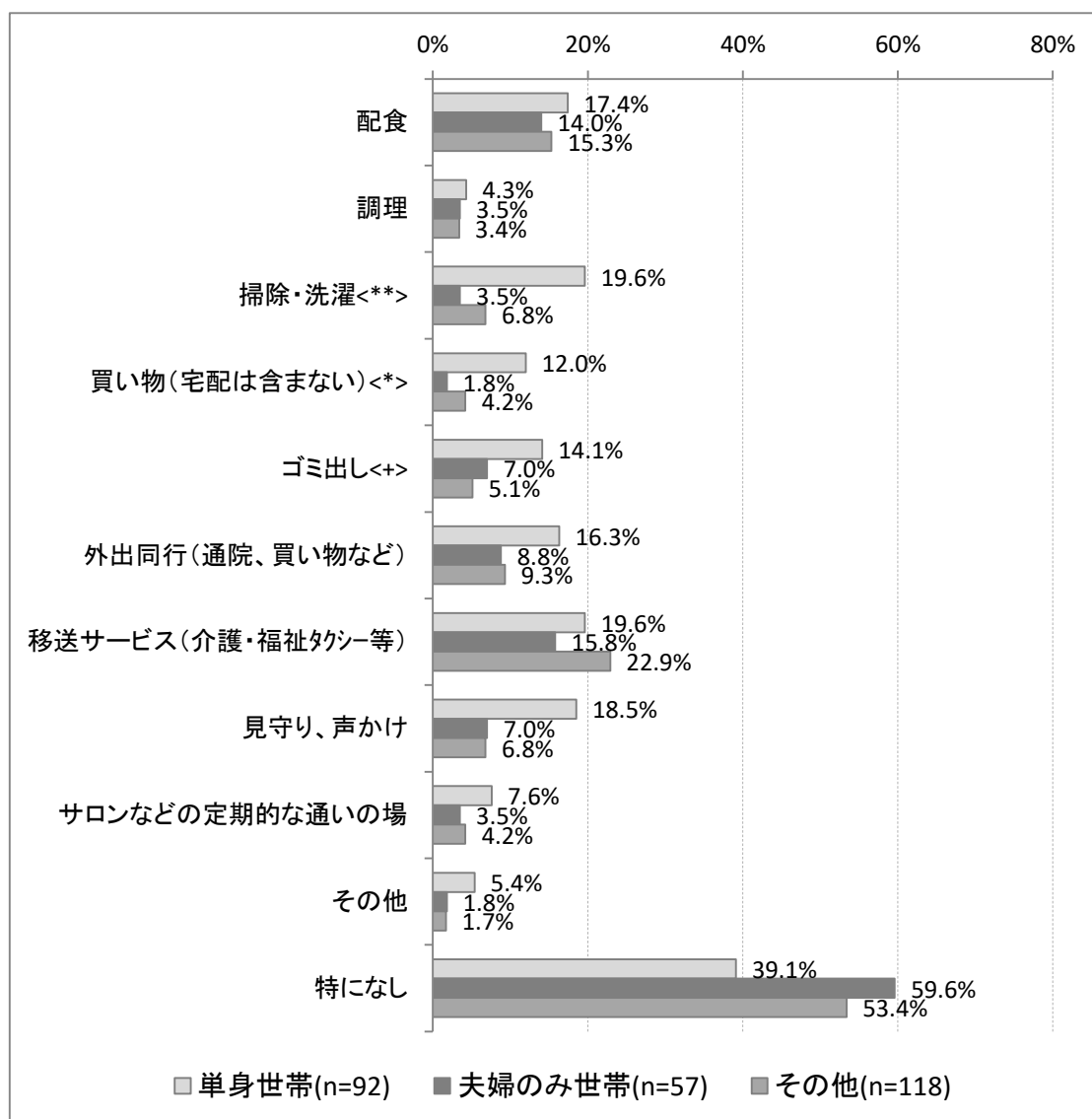
図表 3-3 世帯類型別・保険外の支援・サービスの利用状況



【世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「特になし」が39.1%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が19.6%、「見守り、声かけ」が18.5%となっている。「夫婦のみ世帯」では「特になし」が59.6%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が15.8%、「配食」が14.0%となっている。「その他」では「特になし」が53.4%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が22.9%、「配食」が15.3%となっている。

図表 3-4 世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



(3) 「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」

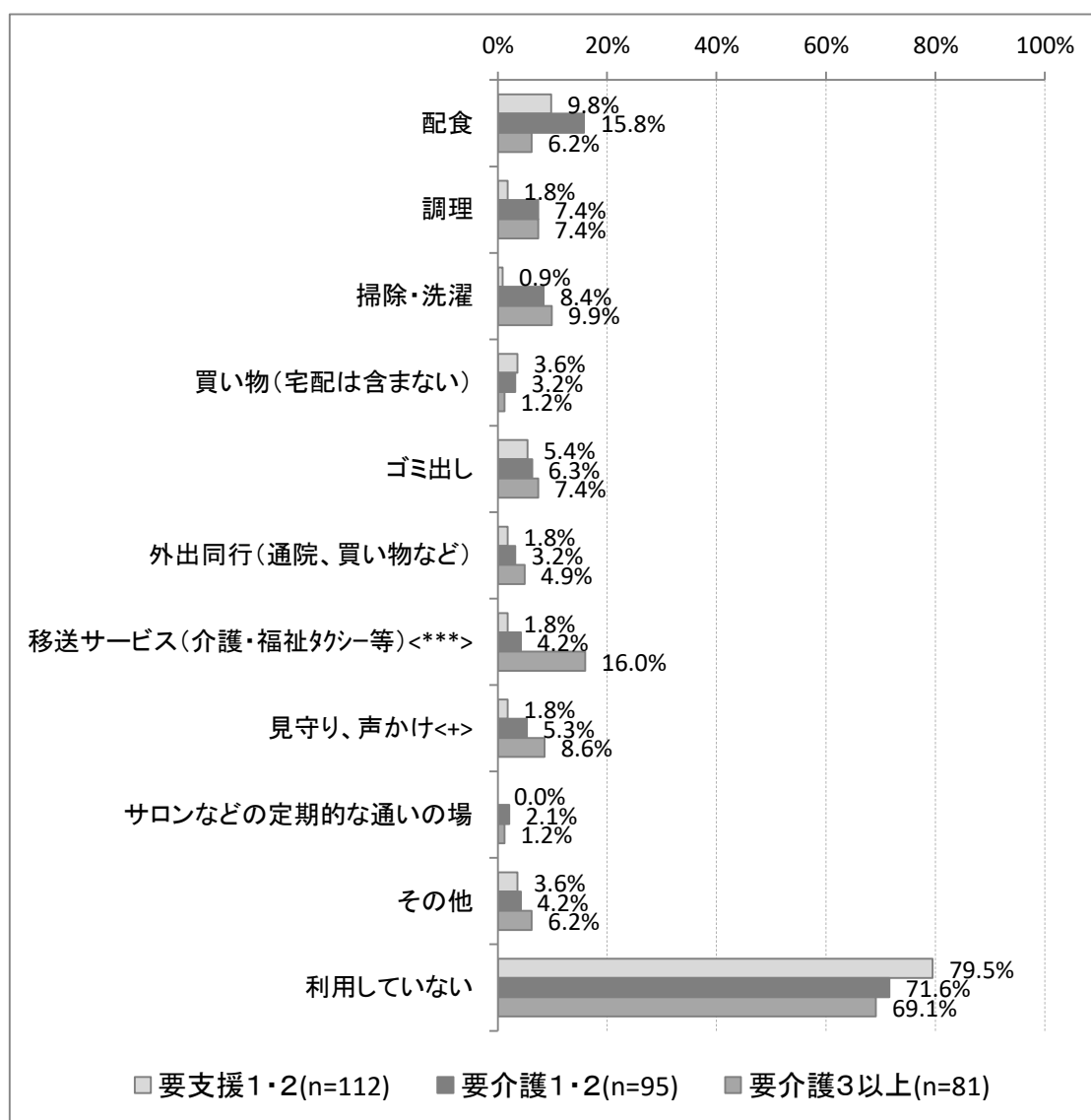
【着目すべきポイント】

- 世帯類型別・要介護度別に「保険外の支援・サービスの利用状況」について、集計分析をしています（図表 3-5～図表 3-8）。
- 利用割合の低い世帯類型であっても、要介護度の重度化に伴い利用割合が増加している支援・サービスがあることも考えられます。
- 介護保険サービスと同様、重度化に伴い、どのような支援・サービスの利用割合が増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような支援・サービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。

【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「利用していない」が79.5%と最も割合が高く、次いで「配食」が9.8%、「ゴミ出し」が5.4%となっている。「要介護１・２」では「利用していない」が71.6%と最も割合が高く、次いで「配食」が15.8%、「掃除・洗濯」が8.4%となっている。「要介護３以上」では「利用していない」が69.1%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が16.0%、「掃除・洗濯」が9.9%となっている。

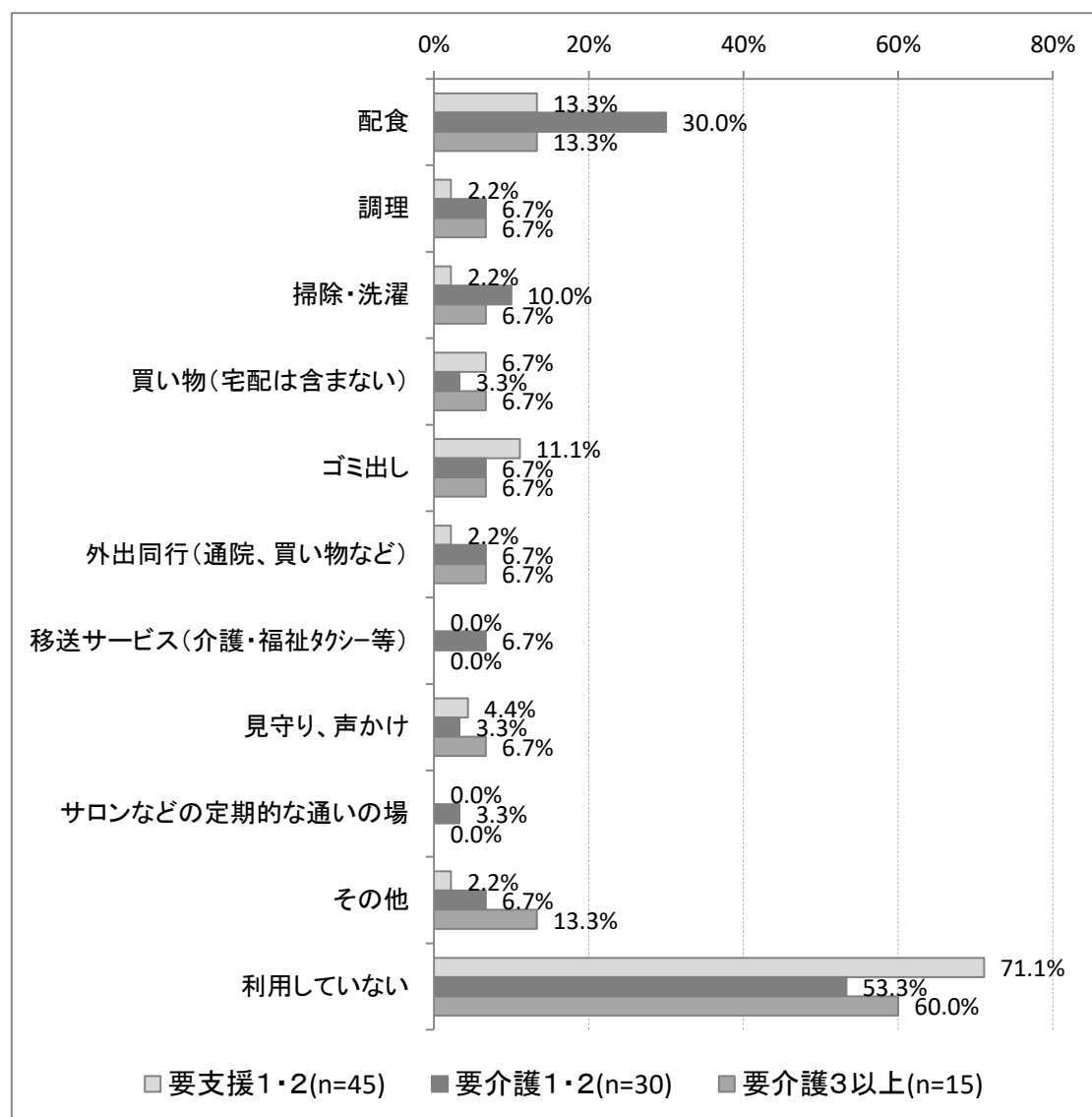
図表 3-5 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況



【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況(単身世帯)】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が71.1%と最も割合が高く、次いで「配食」が13.3%、「ゴミ出し」が11.1%となっている。「要介護1・2」では「利用していない」が53.3%と最も割合が高く、次いで「配食」が30.0%、「掃除・洗濯」が10.0%となっている。「要介護3以上」では「利用していない」が60.0%と最も割合が高く、次いで「配食」、
「調理」、
「掃除・洗濯」、「買い物(宅配は含まない)」、「ゴミ出し」、「外出同行(通院、買い物など)」、「見守り、声かけ」が6.7%となっている。

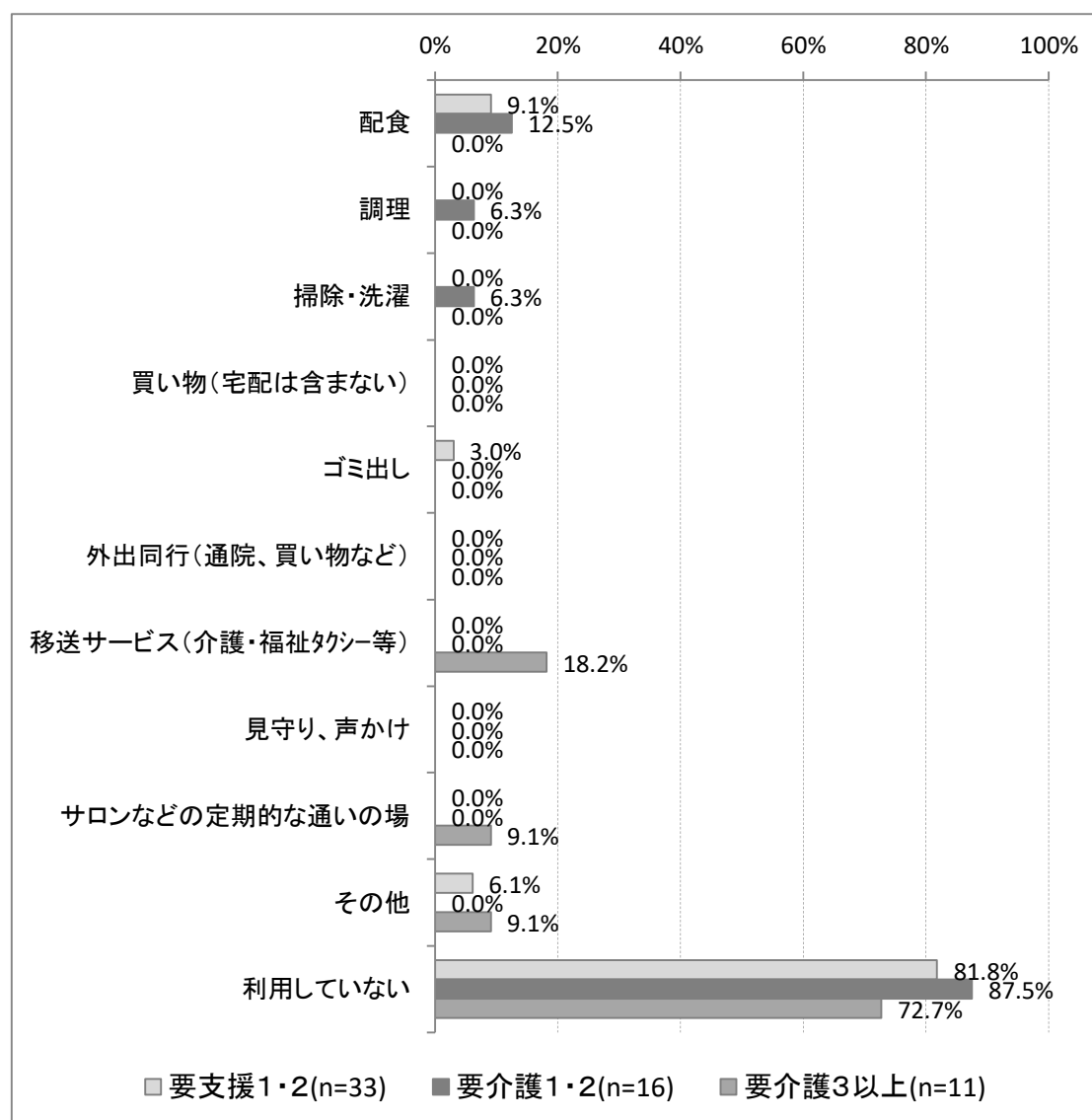
図表 3-6 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況(単身世帯)



【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況(夫婦のみ世帯)】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が81.8%と最も割合が高く、次いで「配食」が9.1%、「その他」が6.1%となっている。「要介護1・2」では「利用していない」が87.5%と最も割合が高く、次いで「配食」が12.5%、「調理」、「掃除・洗濯」が6.3%となっている。「要介護3以上」では「利用していない」が72.7%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が18.2%、「サロンなどの定期的な通いの場」、「その他」が9.1%となっている。

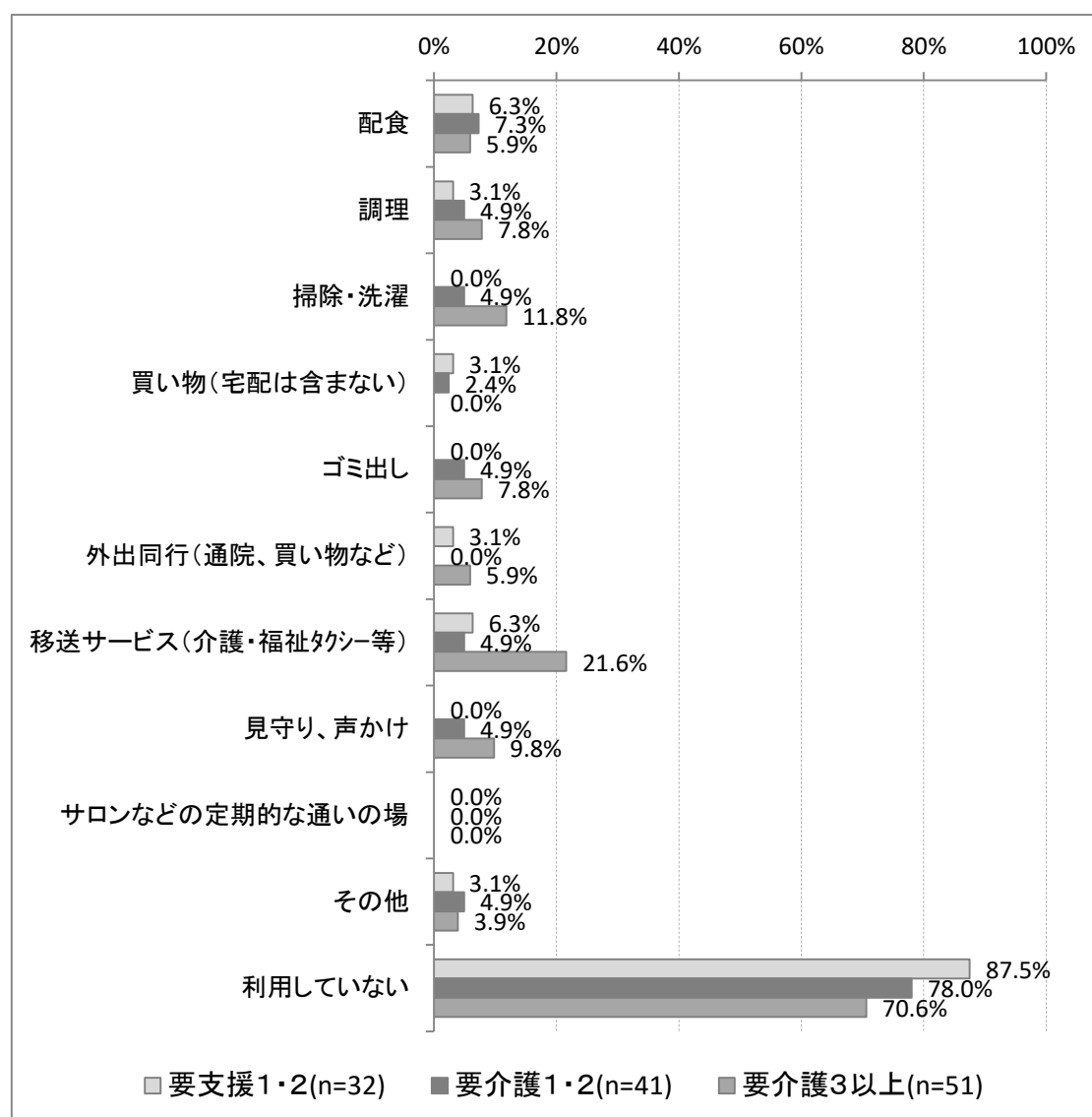
図表 3-7 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況(夫婦のみ世帯)



【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況(その他世帯)】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「利用していない」が87.5%と最も割合が高く、次いで「配食」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が6.3%、「調理」、「買い物（宅配は含まない）」、「外出同行（通院、買い物など）」、「その他」が3.1%となっている。「要介護１・２」では「利用していない」が78.0%と最も割合が高く、次いで「配食」が7.3%、「調理」、「掃除・洗濯」、「ゴミ出し」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り、声かけ」、「その他」が4.9%となっている。「要介護３以上」では「利用していない」が70.6%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が21.6%、「掃除・洗濯」が11.8%となっている。

図表 3-8 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（その他世帯）



(4) 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」

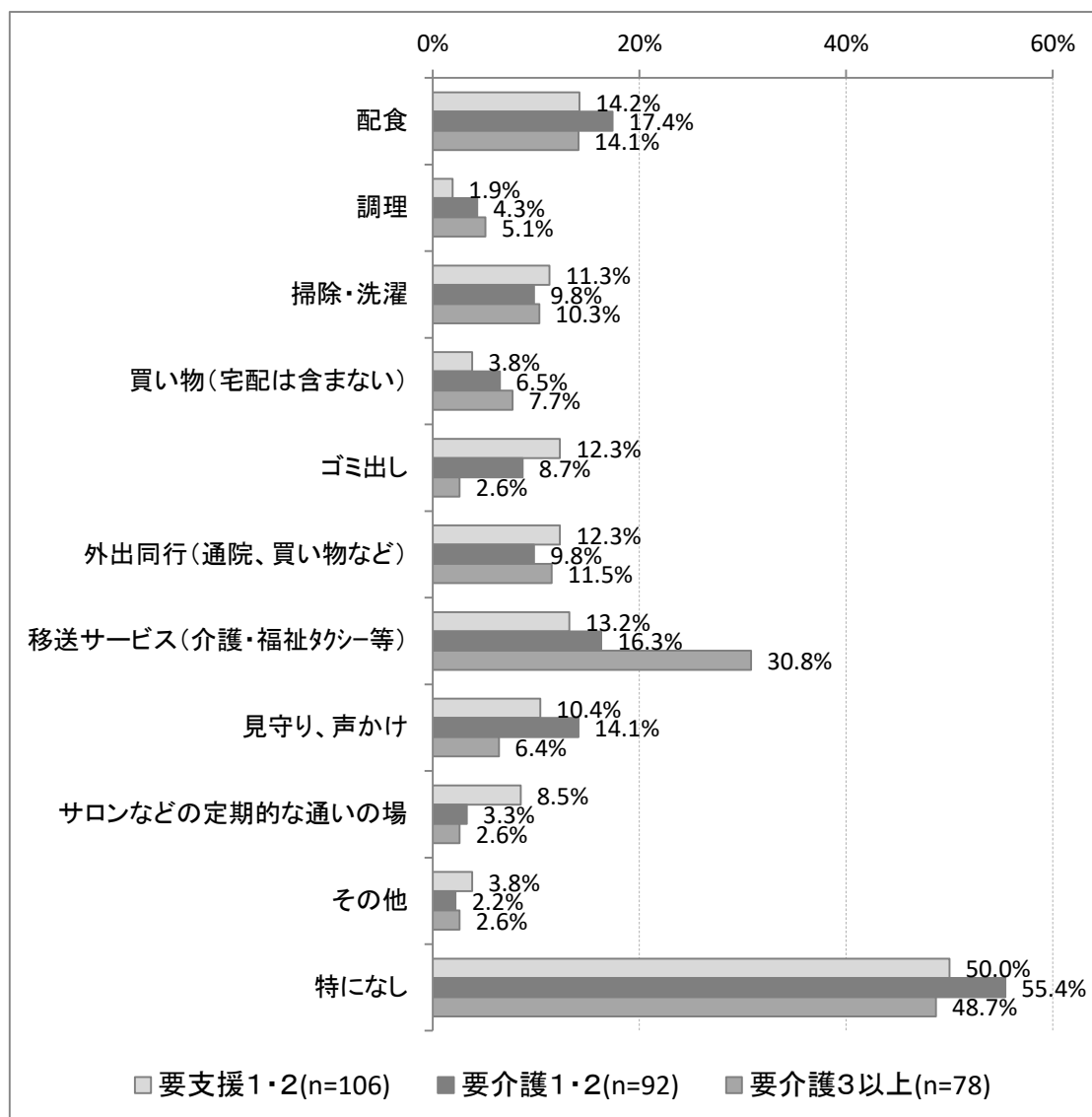
【着目すべきポイント】

- 世帯類型別・要介護度別に「必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-9～図表 3-12）。
- 特に、各世帯類型の要介護度別のニーズに着目しながら、各地域の実情に応じた取組を推進していく必要があります。

【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援 1・2」では「特になし」が 50.0%と最も割合が高く、次いで「配食」が 14.2%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 13.2%となっている。「要介護 1・2」では「特になし」が 55.4%と最も割合が高く、次いで「配食」が 17.4%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 16.3%となっている。「要介護 3 以上」では「特になし」が 48.7%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 30.8%、「配食」が 14.1%となっている。

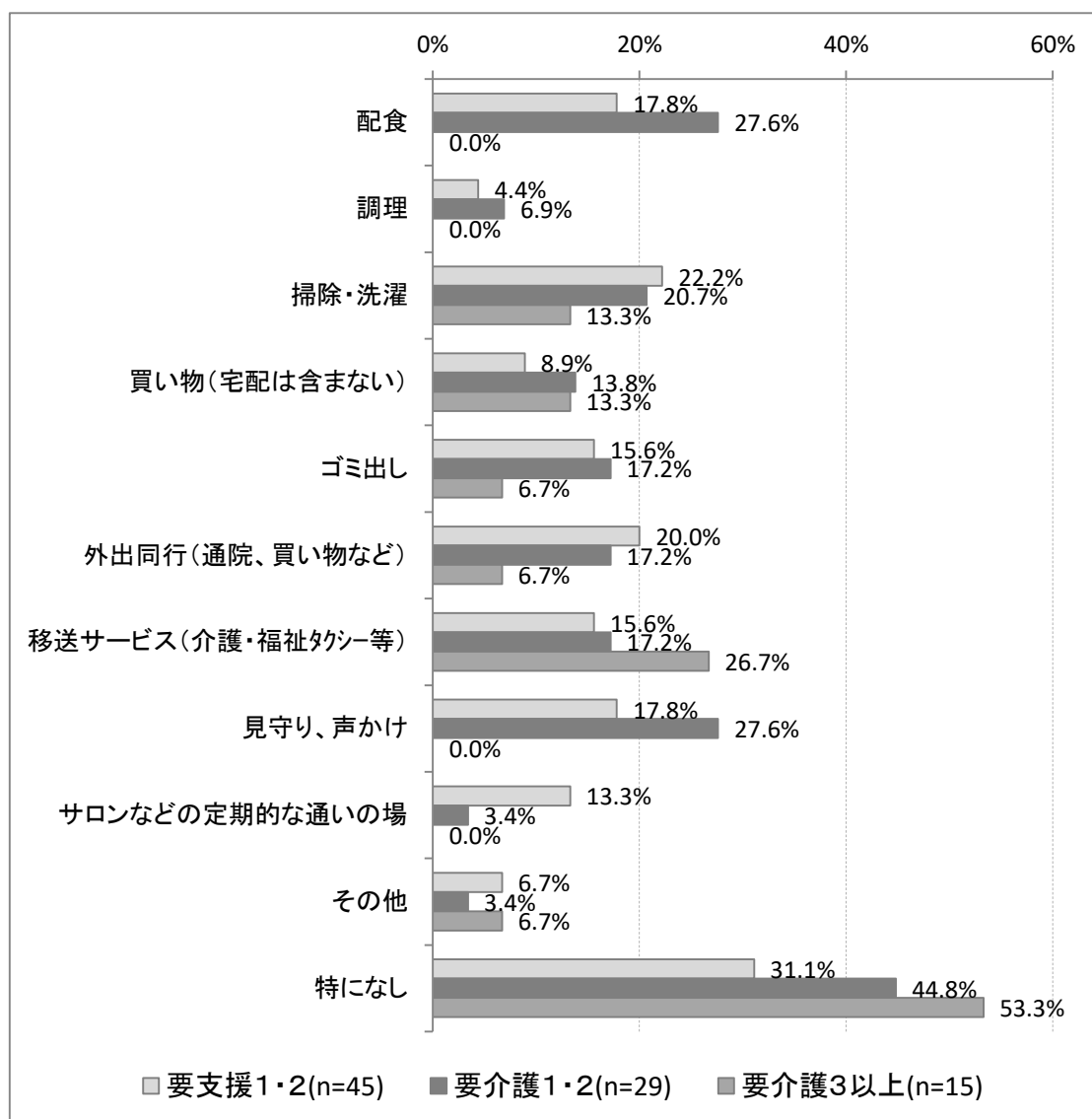
図表 3-9 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が31.1%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が22.2%、「外出同行（通院、買い物など）」が20.0%となっている。「要介護1・2」では「特になし」が44.8%と最も割合が高く、次いで「配食」、「見守り、声かけ」が27.6%、「掃除・洗濯」が20.7%となっている。「要介護3以上」では「特になし」が53.3%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が26.7%、「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」が13.3%となっている。

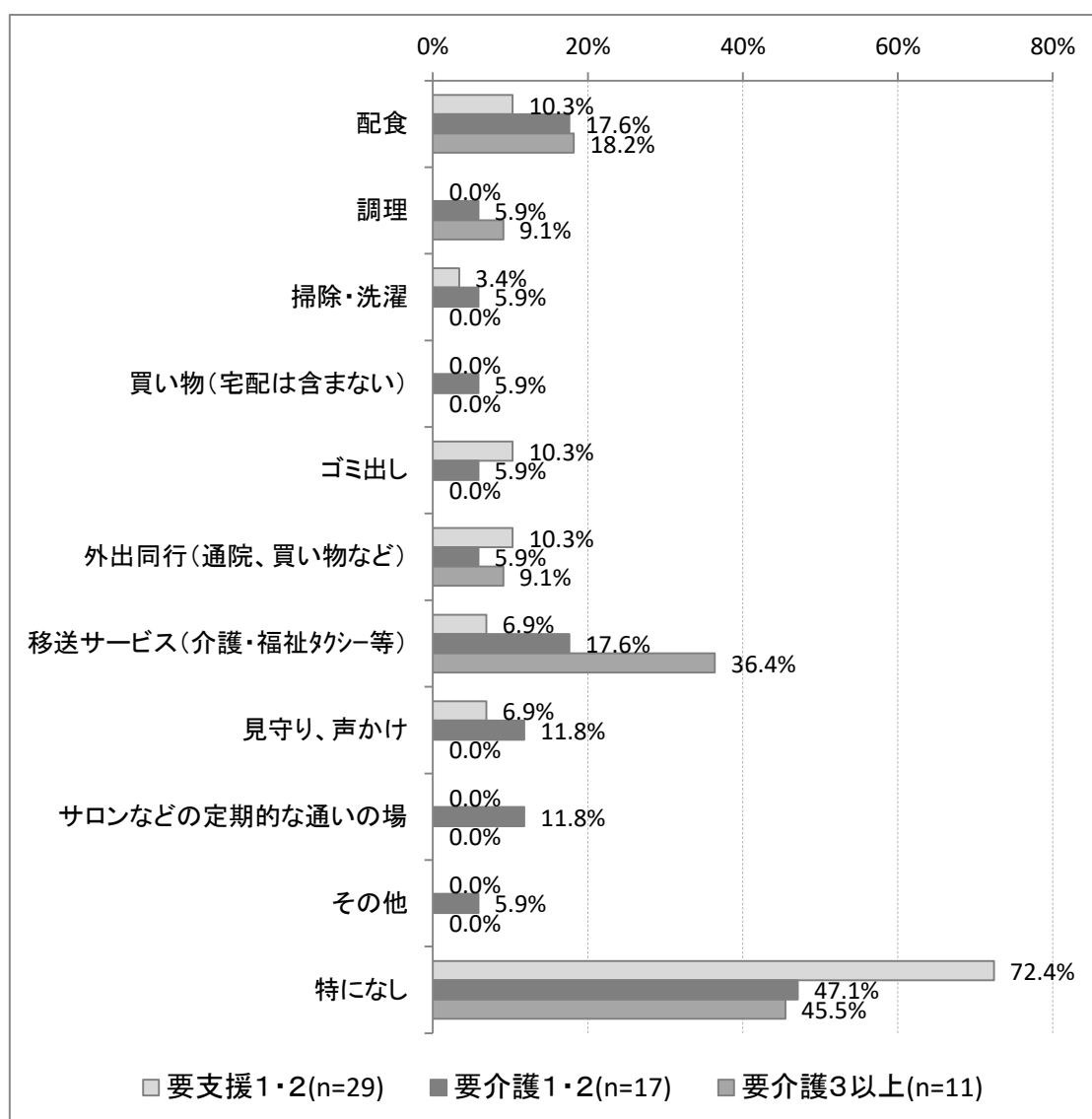
図表 3-10 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が72.4%と最も割合が高く、次いで「配食」、「ゴミ出し」、「外出同行（通院、買い物など）」が10.3%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り、声かけ」が6.9%となっている。「要介護1・2」では「特になし」が47.1%と最も割合が高く、次いで「配食」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が17.6%、「見守り、声かけ」、「サロンなどの定期的な通いの場」が11.8%となっている。「要介護3以上」では「特になし」が45.5%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が36.4%、「配食」が18.2%となっている。

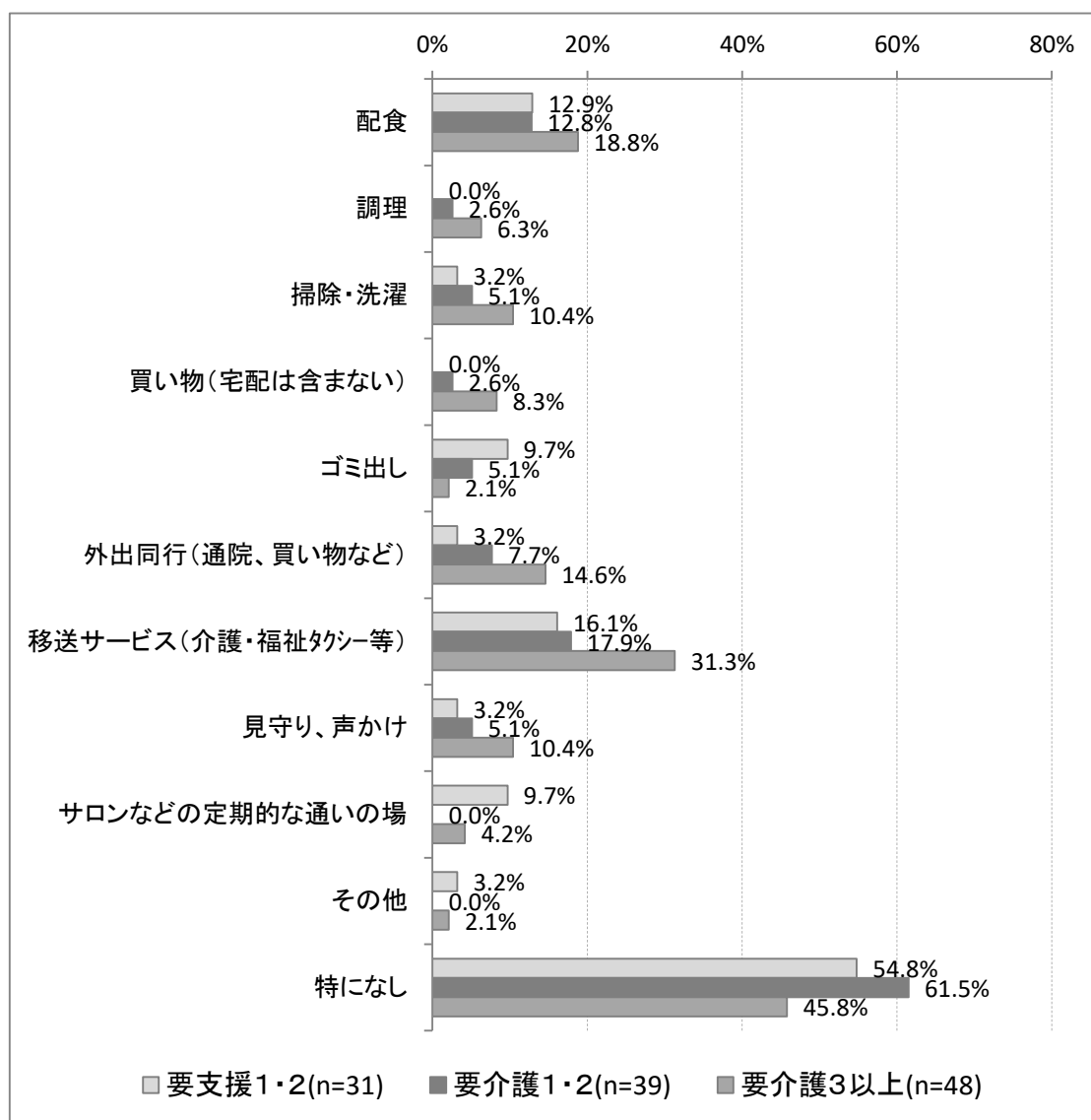
図表 3-11 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）



【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が54.8%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が16.1%、「配食」が12.9%となっている。「要介護1・2」では「特になし」が61.5%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が17.9%、「配食」が12.8%となっている。「要介護3以上」では「特になし」が45.8%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が31.3%、「配食」が18.8%となっている。

図表 3-12 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)



3.3 考察（介護保険外の支援・サービスの検討）

要支援要介護者の外出、生活援助等にかかる支援・サービスの検討

- 介護保険以外の支援・サービスの利用状況は、「利用していない」（72.8％）で最も高くなっている。「配食」（10.4％）以外の項目は全て10％以下の利用となっている。
- 介護保険以外で在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスは、「特になし」が48.3％と最も高くなるものの、現状で「利用していない」よりも24.5ポイント低く、現状を上回る支援ニーズが示されている。「配食」、「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」、「ゴミ出し」、「外出同行（通院、買い物）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り、声かけ」、「サロンなどの定期的な通いの場」で現状より高いニーズが示されている。
- 介護保険以外の支援・サービスの利用状況を世帯類型別でみると、単身世帯及び夫婦のみ世帯では「配食」の利用が最も高く、その他では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の利用が最も高い。
- 介護保険以外で在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスを世帯類型別でみると、全世帯累計で「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」のニーズが最も高くなっている（単身世帯では「掃除・洗濯」も同率一位）。
- 介護保険以外の支援・サービスの利用状況を要介護度別でみると、要支援1・2及び要介護1・2では「配食」、要介護3以上では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が最も利用が高い。特に単身世帯の場合、全て要介護度で「配食」が最もニーズが高くなっている。
- 介護保険以外で在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスを要介護度別にみると、要支援1・2及び要介護1・2では「配食」、要介護3以上では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」のニーズが高く示されている。
- 利用の現状よりも高いニーズが示されており、生活支援コーディネーター、地域ケア会議等を通じてニーズの把握と地域資源を活用した支援・サービスの創出等について検討することがもめられる。

4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの検討

4.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上のための、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討につなげるため、特に世帯類型別の「サービス利用の特徴」や「施設等検討の状況」に焦点を当てた集計を行っています。
- 具体的には、世帯類型別の「家族等による介護の頻度」、「サービス利用の組み合わせ」、「施設等検討の状況」などの分析を行います。
- 将来の高齢世帯の世帯類型の構成は、地域ごとに異なりますので、それぞれ地域の実情に応じた支援・サービスの検討につなげていくことが重要となります。

4.2 集計結果と着目すべきポイント

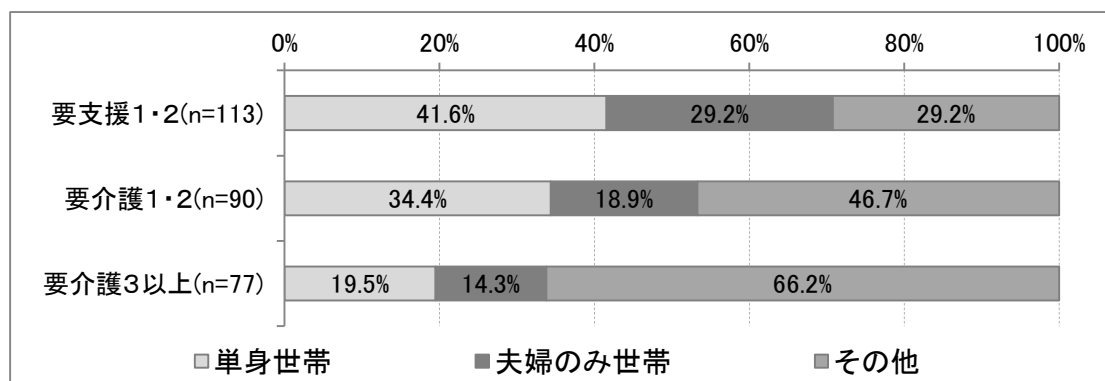
(1) 基礎集計

- 「要介護度別の世帯類型の割合」および「世帯類型別の要介護度の割合」を集計しています（図表 4-1、図表 4-2）。
- 要介護度の重度化に伴う、世帯類型の変化などを確認してください。

【要介護度別・世帯類型】

世帯類型を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「単身世帯」が41.6%と最も割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」、「その他」が29.2%となっている。「要介護1・2」では「その他」が46.7%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が34.4%、「夫婦のみ世帯」が18.9%となっている。「要介護3以上」では「その他」が66.2%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が19.5%、「夫婦のみ世帯」が14.3%となっている。

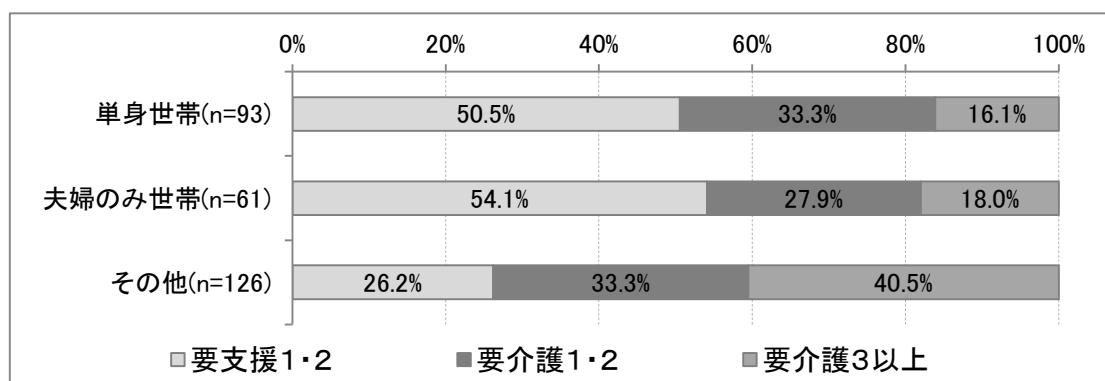
図表 4-1 要介護度別・世帯類型<***>



【世帯類型別・要介護度】

二次判定結果を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「要支援１・２」が 50.5%ともっとも割合が高く、次いで「要介護１・２」が 33.3%、「要介護３以上」が 16.1%となっている。「夫婦のみ世帯」では「要支援１・２」が 54.1%ともっとも割合が高く、次いで「要介護１・２」が 27.9%、「要介護３以上」が 18.0%となっている。「その他」では「要介護３以上」が 40.5%ともっとも割合が高く、次いで「要介護１・２」が 33.3%、「要支援１・２」が 26.2%となっている。

図表 4-2 世帯類型別・要介護度<***>



(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

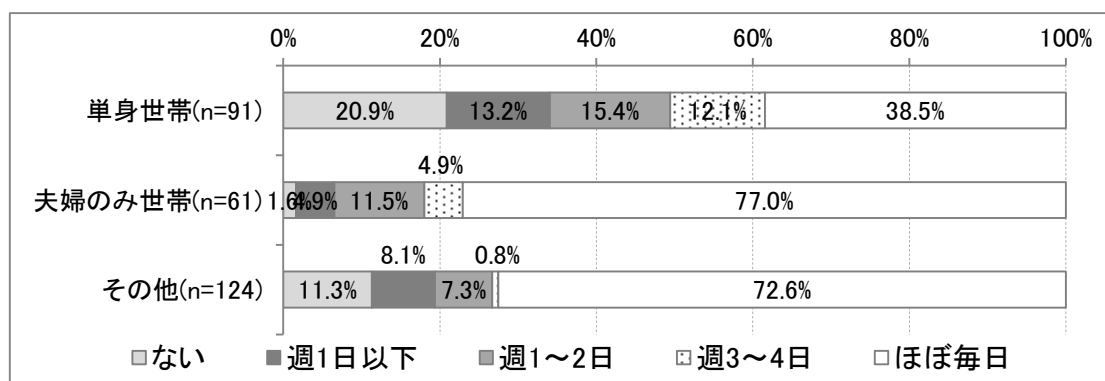
【着目すべきポイント】

- 図表 4-3 では、「世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」の割合を集計しています。また、図表 4-4～図表 4-6 では、世帯類型別に「要介護度別」の「家族等による介護の頻度」を集計しています。
- 「単身世帯」については、同居の家族等はいなくても、近居の家族等による介護が行われているケースも多いと考えられます。中重度の単身世帯のうち、家族等の介護がない中で在宅生活を送っているケースがどの程度あるかなど、現状についてご確認ください。

【世帯類型別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「ほぼ毎日」が 38.5% ともっとも割合が高く、次いで「ない」が 20.9%、「週 1～2 日」が 15.4% となっている。「夫婦のみ世帯」では「ほぼ毎日」が 77.0% ともっとも割合が高く、次いで「週 1～2 日」が 11.5%、「週 1 日以下」が 4.9% となっている。「その他」では「ほぼ毎日」が 72.6% ともっとも割合が高く、次いで「ない」が 11.3%、「週 1 日以下」が 8.1% となっている。

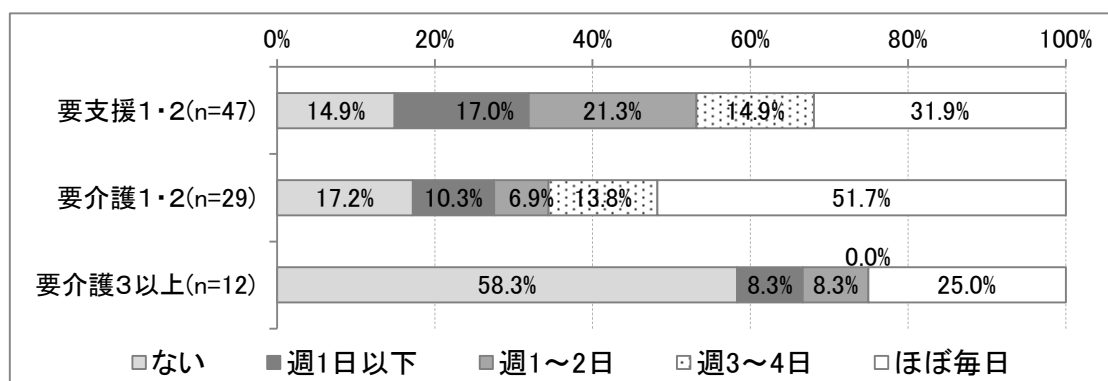
図表 4-3 世帯類型別・家族等による介護の頻度<***>



【要介護度別・家族等による介護の頻度(単身世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ほぼ毎日」が31.9%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が21.3%、「週1日以下」が17.0%となっている。「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が51.7%と最も割合が高く、次いで「ない」が17.2%、「週3～4日」が13.8%となっている。「要介護3以上」では「ない」が58.3%と最も割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が25.0%、「週1日以下」が8.3%、「週1～2日」が8.3%となっている。

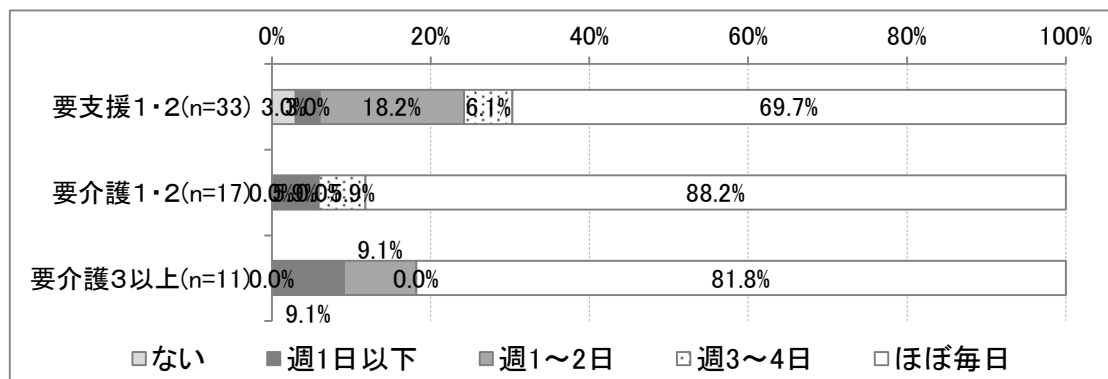
図表 4-4 要介護度別・家族等による介護の頻度(単身世帯) <*>



【要介護度別・家族等による介護の頻度(夫婦のみ世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ほぼ毎日」が69.7%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が18.2%、「週3～4日」が6.1%となっている。「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が88.2%と最も割合が高く、次いで「週1日以下」が5.9%、「ない」が0.9%、「週3～4日」が0.0%となっている。「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が81.8%と最も割合が高く、次いで「週1日以下」が9.1%、「ない」が0.0%、「週3～4日」が0.0%となっている。

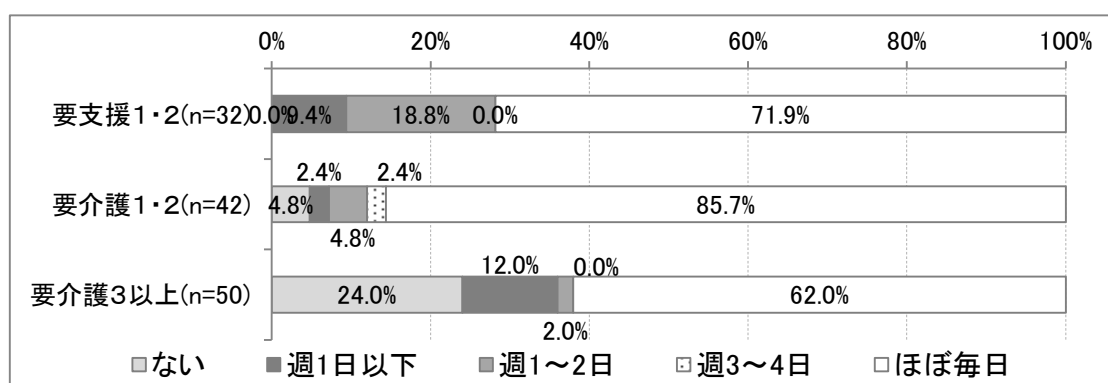
図表 4-5 要介護度別・家族等による介護の頻度(夫婦のみ世帯)



【要介護度別・家族等による介護の頻度(その他世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ほぼ毎日」が71.9%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が18.8%、「週1日以下」が9.4%となっている。「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が85.7%と最も割合が高く、次いで「ない」、
「週1～2日」が4.8%、「週1日以下」、「週3～4日」が2.4%となっている。「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が62.0%と最も割合が高く、次いで「ない」が24.0%、「週1日以下」が12.0%となっている。

図表 4-6 要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）〈***〉



(3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

【着目すべきポイント】

- 要介護度別・認知症自立度別の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています（図表 4-7～図表 4-12）。
- サービス利用の組み合わせは、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類（未利用除く）に簡略化したものを使用しています。
- 重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを、世帯類型別に把握することができます。
- また、世帯類型別の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。
- 例えば、特に今後「要介護度が中重度の単身世帯」が増加すると見込まれる場合は、単身世帯の要介護者が要介護度の重度化に伴いどのようなサービス利用の組み合わせを増加させているかに着目し、推測することなどが考えられます。

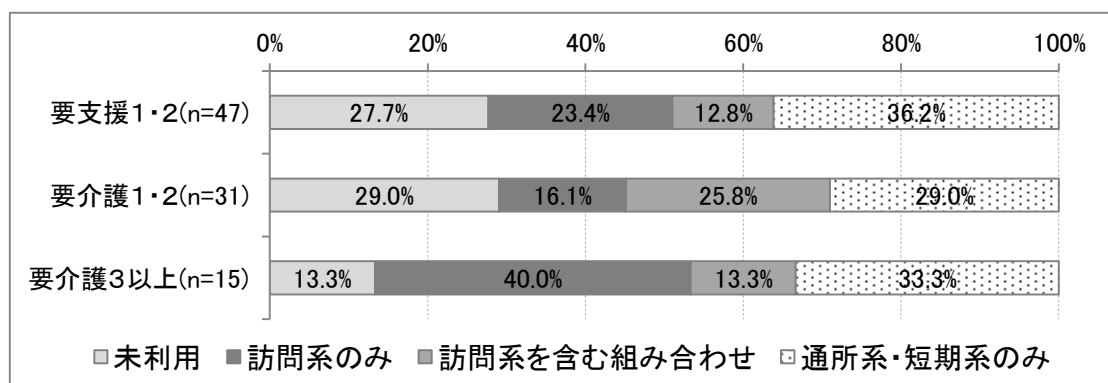
【留意事項】

- ただし、現在利用しているサービスが「地域目標を達成するためのサービス」であるとは限らない点には注意が必要です。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「通所系・短期系のみ」が 36.2% ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が 27.7%、「訪問系のみ」が 23.4% となっている。「要介護１・２」では「未利用」、「通所系・短期系のみ」が 29.0% ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が 25.8%、「訪問系のみ」が 16.1% となっている。「要介護３以上」では「訪問系のみ」が 40.0% ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が 33.3%、「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」が 13.3% となっている。

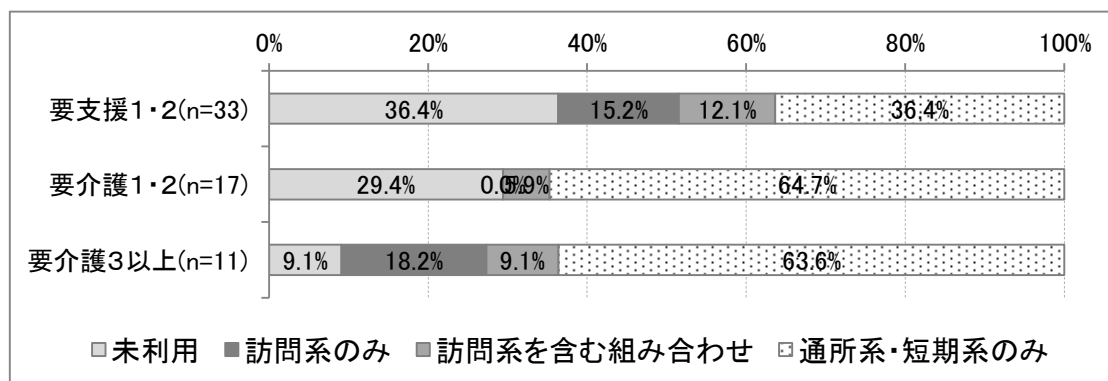
図表 4-7 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「未利用」、「通所系・短期系のみ」が 36.4% ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が 15.2%、「訪問系を含む組み合わせ」が 12.1% となっている。「要介護１・２」では「通所系・短期系のみ」が 64.7% ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が 29.4%、「訪問系を含む組み合わせ」が 5.9% となっている。「要介護３以上」では「通所系・短期系のみ」が 63.6% ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が 18.2%、「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」が 9.1% となっている。

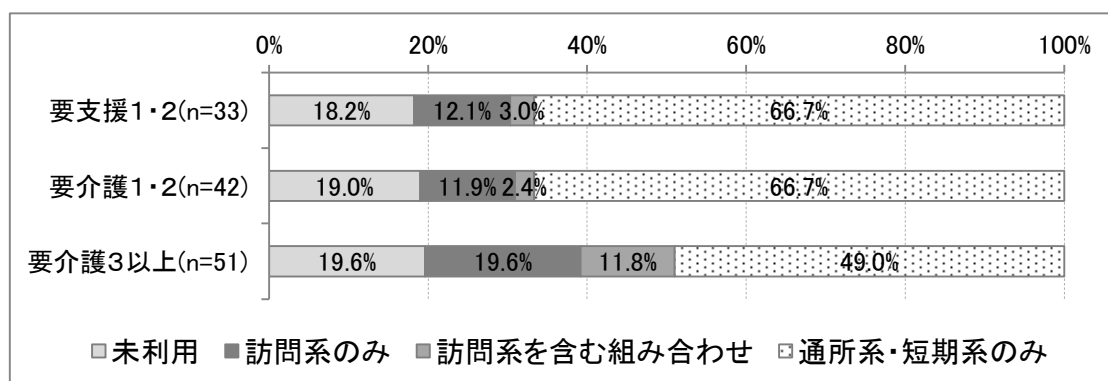
図表 4-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「通所系・短期系のみ」が 66.7% ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が 18.2%、「訪問系のみ」が 12.1% となっている。「要介護１・２」では「通所系・短期系のみ」が 66.7% ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が 19.0%、「訪問系のみ」が 11.9% となっている。「要介護３以上」では「通所系・短期系のみ」が 49.0% ともっとも割合が高く、次いで「未利用」、「訪問系のみ」が 19.6%、「訪問系を含む組み合わせ」が 11.8% となっている。

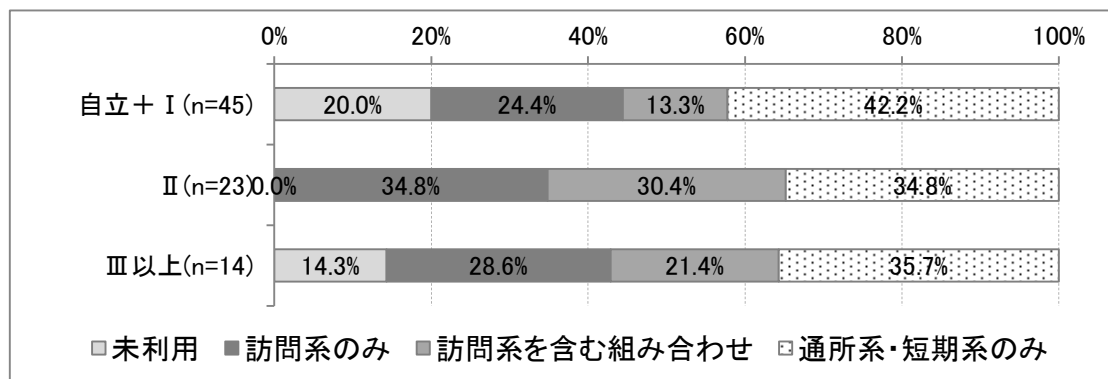
図表 4-9 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「通所系・短期系のみ」が 42.2% ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が 24.4%、「未利用」が 20.0% となっている。「Ⅱ」では「訪問系のみ」、「通所系・短期系のみ」が 34.8% ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が 30.4%、「未利用」が 0.0% となっている。「Ⅲ以上」では「通所系・短期系のみ」が 35.7% ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が 28.6%、「訪問系を含む組み合わせ」が 21.4% となっている。

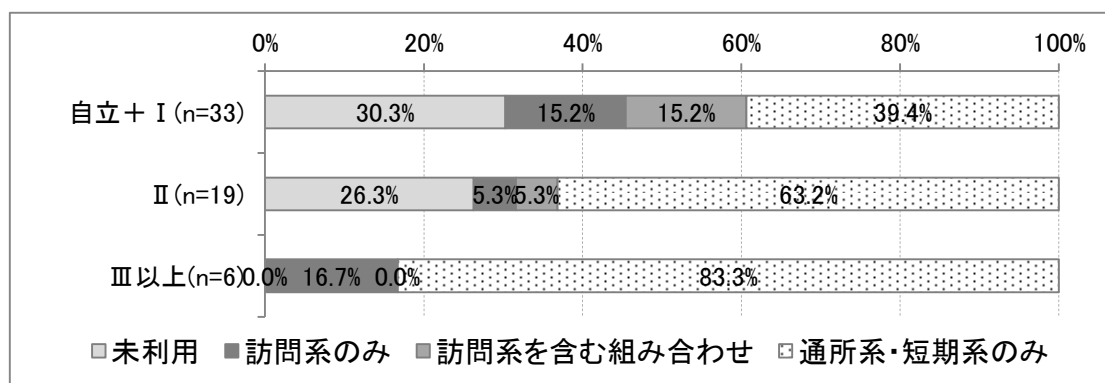
図表 4-10 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「通所系・短期系のみ」が39.4%と最も割合が高く、次いで「未利用」が30.3%、「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」が15.2%となっている。「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が63.2%と最も割合が高く、次いで「未利用」が26.3%、「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」が5.3%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系・短期系のみ」が83.3%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が16.7%、「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」が0.0%となっている。

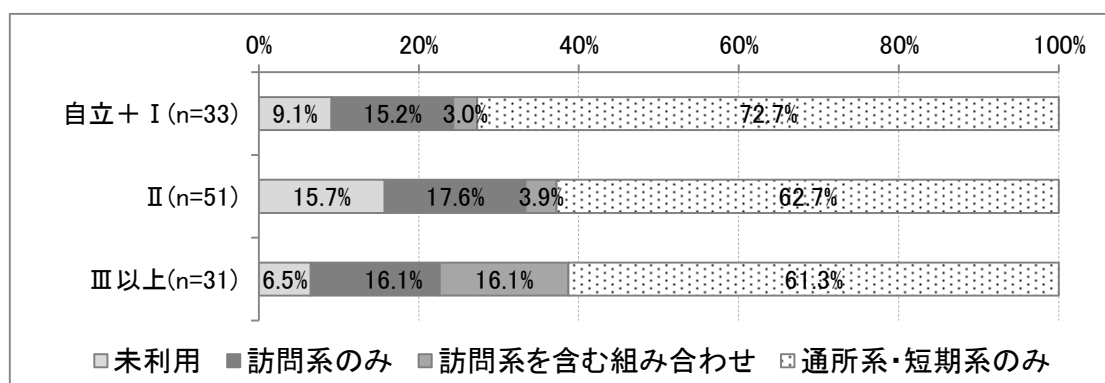
図表 4-11 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「通所系・短期系のみ」が72.7%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が15.2%、「未利用」が9.1%となっている。「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が62.7%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が17.6%、「未利用」が15.7%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系・短期系のみ」が61.3%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」が16.1%、「未利用」が6.5%となっている。

図表 4-12 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



(4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」

【着目すべきポイント】

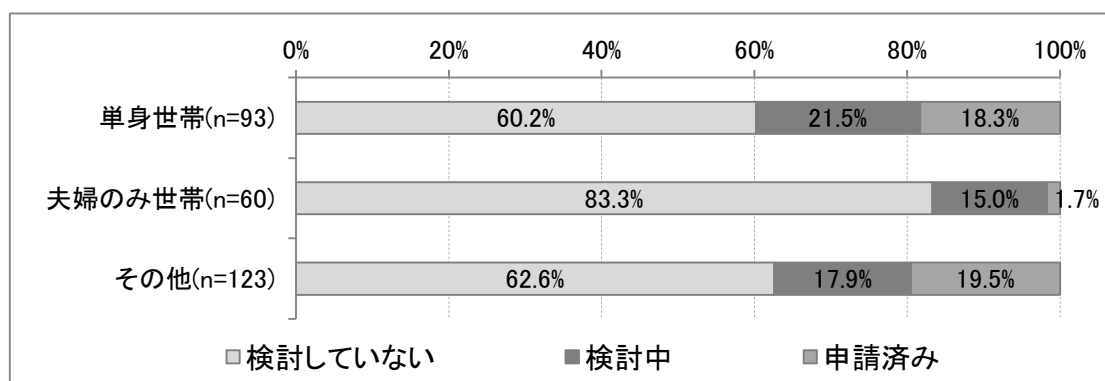
- ここでは、「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」について、集計分析をしています（図表 4-13～図表 4-19）。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「世帯類型」ごとの特徴を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。

【世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が60.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が21.5%、「申請済み」が18.3%となっている。

「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が83.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が15.0%、「申請済み」が1.7%となっている。「その他」では「検討していない」が62.6%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が19.5%、「検討中」が17.9%となっている。

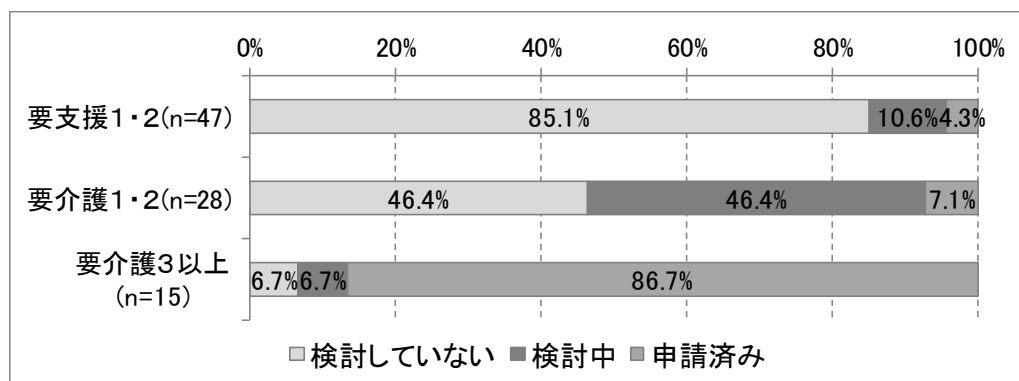
図表 4-13 世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）＜**＞



【要介護度別・施設等検討の状況(単身世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「検討していない」が85.1%と最も割合が高く、次いで「検討中」が10.6%、「申請済み」が4.3%となっている。「要介護１・２」では「検討していない」、「検討中」が46.4%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が7.1%となっている。「要介護３以上」では「申請済み」が86.7%と最も割合が高く、次いで「検討していない」、「検討中」が6.7%となっている。

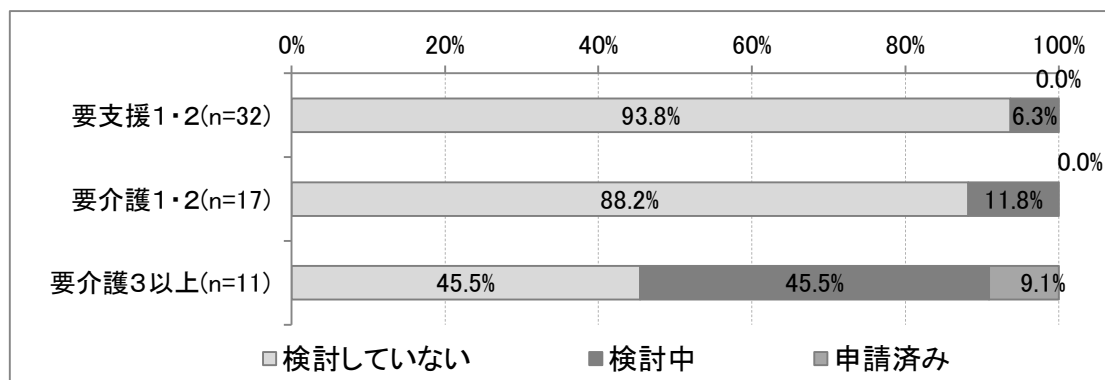
図表 4-14 要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）＜***＞



【要介護度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「検討していない」が93.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が6.3%、「申請済み」が0.0%となっている。「要介護１・２」では「検討していない」が88.2%と最も割合が高く、次いで「検討中」が11.8%、「申請済み」が0.0%となっている。「要介護３以上」では「検討していない」、「検討中」が45.5%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が9.1%となっている。

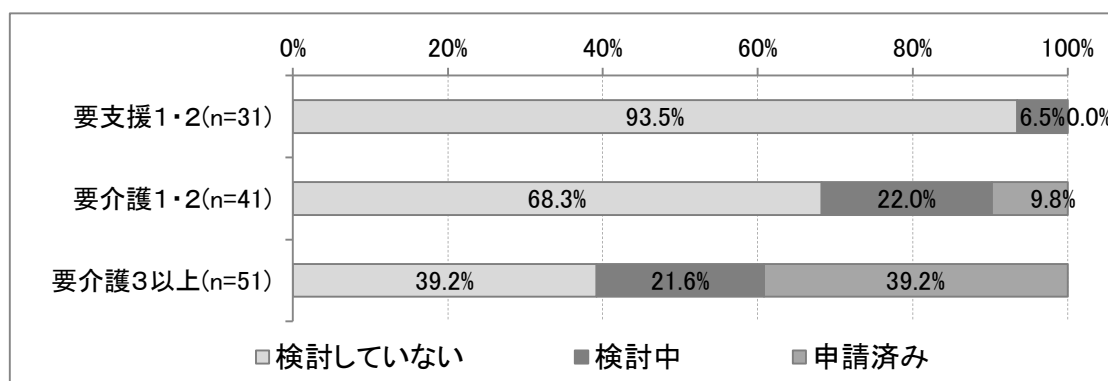
図表 4-15 要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）＜**＞



【要介護度別・施設等検討の状況(その他世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「検討していない」が93.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が6.5%、「申請済み」が0.0%となっている。「要介護１・２」では「検討していない」が68.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が22.0%、「申請済み」が9.8%となっている。「要介護３以上」では「検討していない」、 「申請済み」が39.2%と最も割合が高く、次いで「検討中」が21.6%となっている。

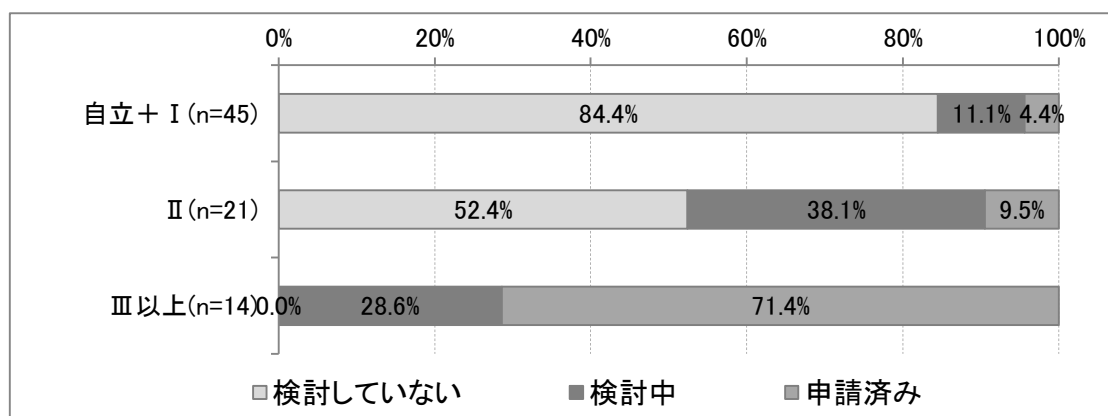
図表 4-16 要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）〈***〉



【認知症自立度別・施設等検討の状況(単身世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「検討していない」が84.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が11.1%、「申請済み」が4.4%となっている。「Ⅱ」では「検討していない」が52.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が38.1%、「申請済み」が9.5%となっている。「Ⅲ以上」では「申請済み」が71.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が28.6%、「検討していない」が0.0%となっている。

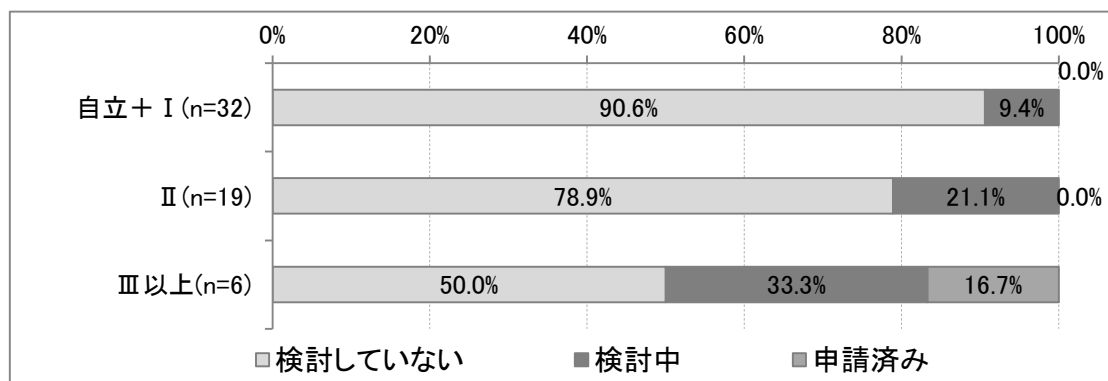
図表 4-17 認知症自立度別・施設等検討の状況（単身世帯）〈***〉



【認知症自立度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「検討していない」が90.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が9.4%、「申請済み」が0.0%となっている。「Ⅱ」では「検討していない」が78.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が21.1%、「申請済み」が0.0%となっている。「Ⅲ以上」では「検討していない」が50.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が33.3%、「申請済み」が16.7%となっている。

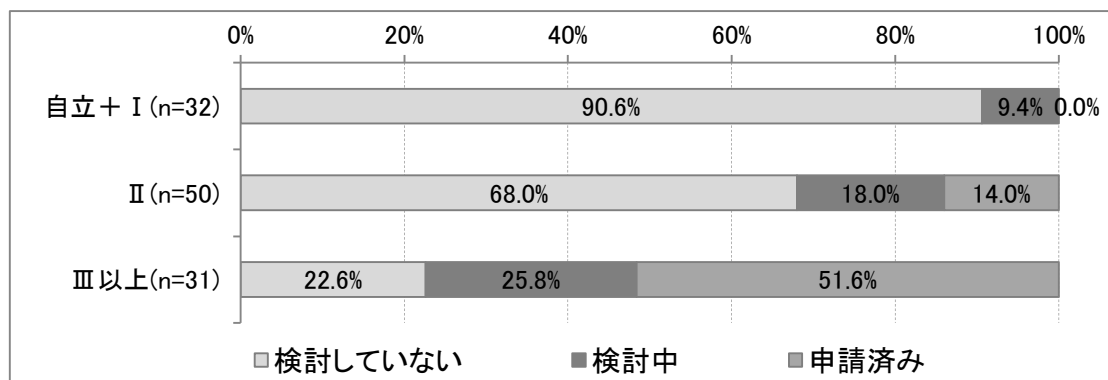
図表 4-18 認知症自立度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）<*>



【認知症自立度別・施設等検討の状況(その他の世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「検討していない」が90.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が9.4%、「申請済み」が0.0%となっている。「Ⅱ」では「検討していない」が68.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が18.0%、「申請済み」が14.0%となっている。「Ⅲ以上」では「申請済み」が51.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.8%、「検討していない」が22.6%となっている。

図表 4-19 認知症自立度別・施設等検討の状況（その他の世帯）<***>



4.3 考察（将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの検討）

単身世帯や夫婦のみ世帯の増加を見据え重度化対策及び認知症予防等の充実

- 世帯類型を要介護度別にみると、介護度が上がるにつれ「単身世帯」及び「夫婦のみ世帯」の割合は低下する傾向にある。
- 介護度別に世帯類型をみると、単身世帯及び夫婦のみ世帯では「要支援１・２」の割合が半数以上を占める。その他では「要介護３以上」が40.5%となっており、単身世帯及び夫婦のみ世帯と比べると倍以上高くなっている。
- 家族等の介護の頻度を世帯類型別にみると、「ほぼ毎日」の割合が単身世帯では38.5%と夫婦のみ世帯（77.0%）よりも2分の1となっている。
- サービス利用の組み合わせを要介護度別にみると、単身世帯では要支援１・２と要介護１・２では「未利用」が約3割弱となるが、要介護３以上では13.3%と大きく低下し、8割以上が何かしらサービスを利用している。夫婦のみ世帯では要介護度が上がるにつれ、「未利用」の割合が低下する傾向（特に要介護３以上では大きく低下）にあり、「通所系・短期系のみ」の利用は要支援１・２の36.4%に対して、要介護１・２では64.7%と大きく上昇している。
- サービス利用の組み合わせを認知症自立度でみると、夫婦のみ世帯では「未利用」の割合が認知症自立度レベルがあがるにつれ低下（Ⅲ以上では「未利用」はゼロ）する一方で、「通所系・短期系のみ」の割合が大きく上昇している。
- 施設等への入所・入居の検討状況を要介護度別にみると、単身世帯では要介護度があがるにつれ「申請済み」の割合が高まる傾向にあり、特に要介護３以上（86.7）では、要介護１・２（7.1）より急激に上昇している。夫婦のみ世帯では要介護１・２までは「申請済み」はみられず、要介護３以上（9.1%）からみられ、「検討中」（45.5%）も大きく上昇します。
- 施設等への入所・入居の検討状況を認知症自立度でみると、単身世帯では認知症自立度レベルがあがるにつれ「検討中」及び「申請済み」の割合が上昇している。Ⅲ以上では「検討していない」との回答はみられない。夫婦のみ世帯及びその他について認知症事例都度レベルがあがるにつれ、「検討中」及び「申請済み」の割合が高まる傾向にある。

5 サービス未利用の理由など

5.1 集計・分析の狙い

- ここでは、各地域において支援・サービスの提供体制の構築を含む各種の取組を検討する際に、参考になると考えられるいくつかの集計結果を整理しています。
- 主要なデータは、テーマ1～テーマ5において整理をしていますが、ここで整理する集計結果も必要に応じてご活用ください。

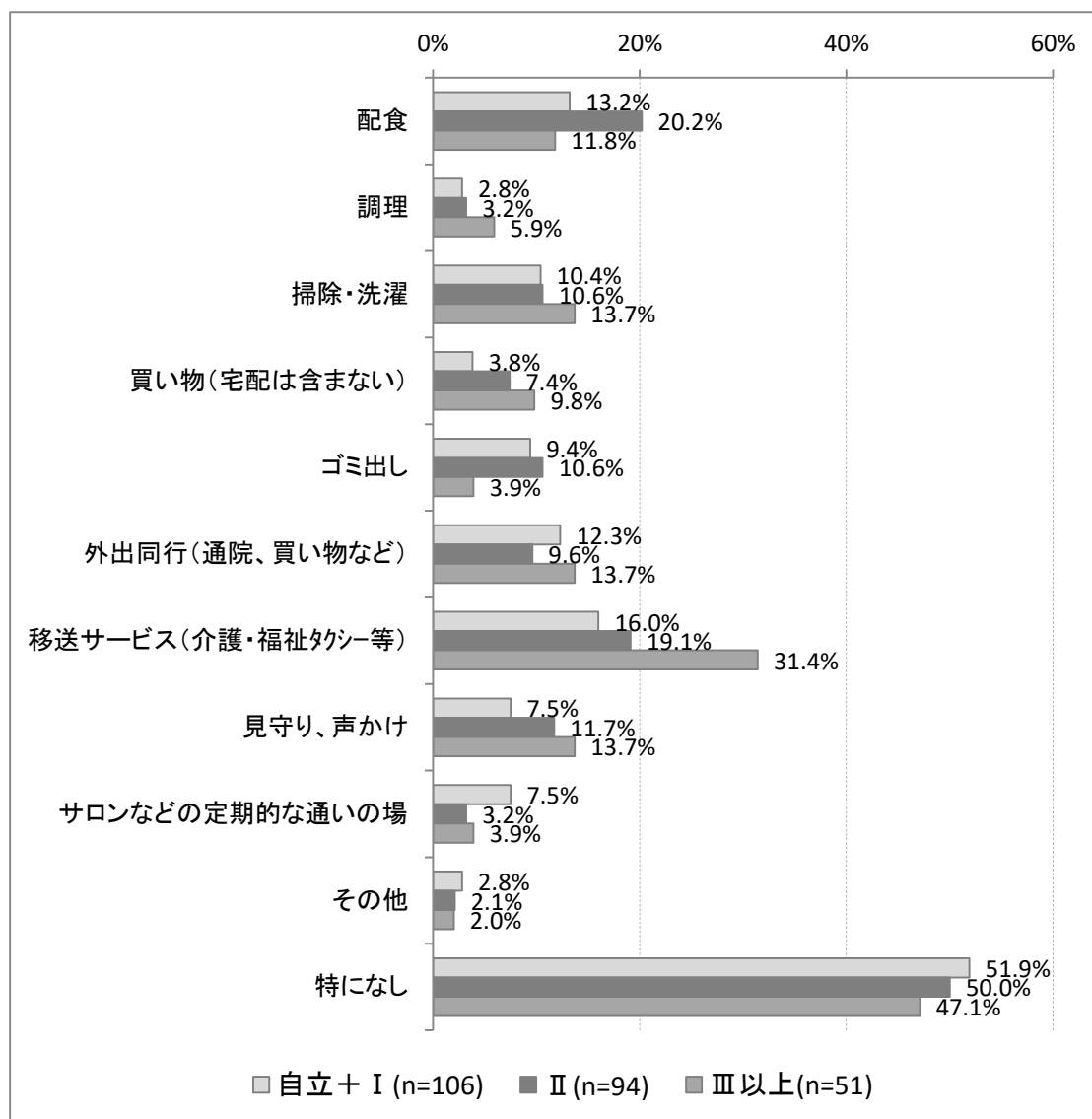
5.2 集計結果

(1) 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービス

【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「特になし」が51.9%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が16.0%、「配食」が13.2%となっている。「Ⅱ」では「特になし」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「配食」が20.2%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が19.1%となっている。「Ⅲ以上」では「特になし」が47.1%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が31.4%、「掃除・洗濯」、「外出同行（通院、買い物など）」、「見守り、声かけ」が13.7%となっている。

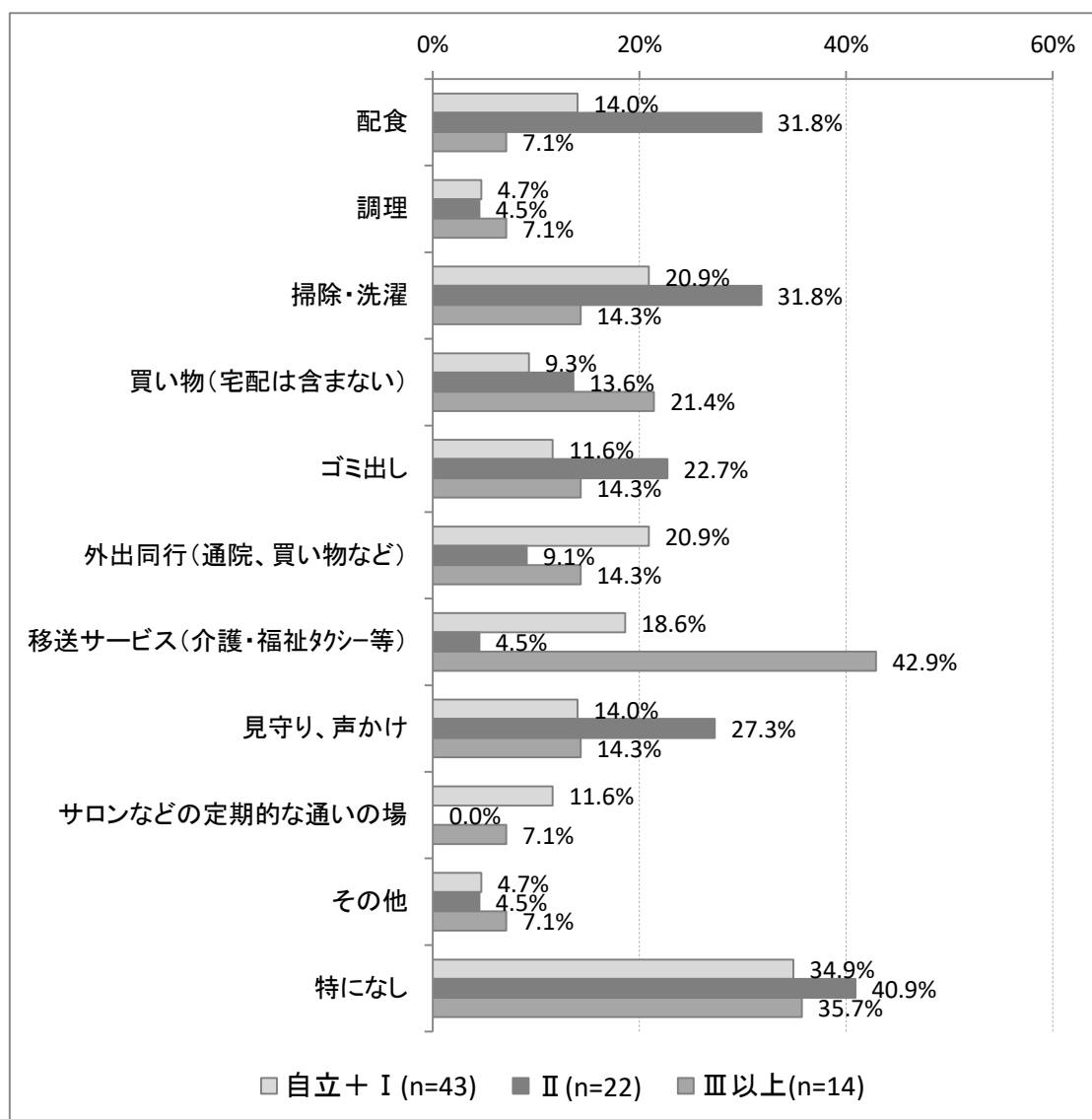
図表 6-9 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「特になし」が34.9%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」、「外出同行（通院、買い物など）」が20.9%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が18.6%となっている。「Ⅱ」では「特になし」が40.9%と最も割合が高く、次いで「配食」、「掃除・洗濯」が31.8%、「見守り、声かけ」が27.3%となっている。「Ⅲ以上」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が42.9%と最も割合が高く、次いで「特になし」が35.7%、「買い物（宅配は含まない）」が21.4%となっている。

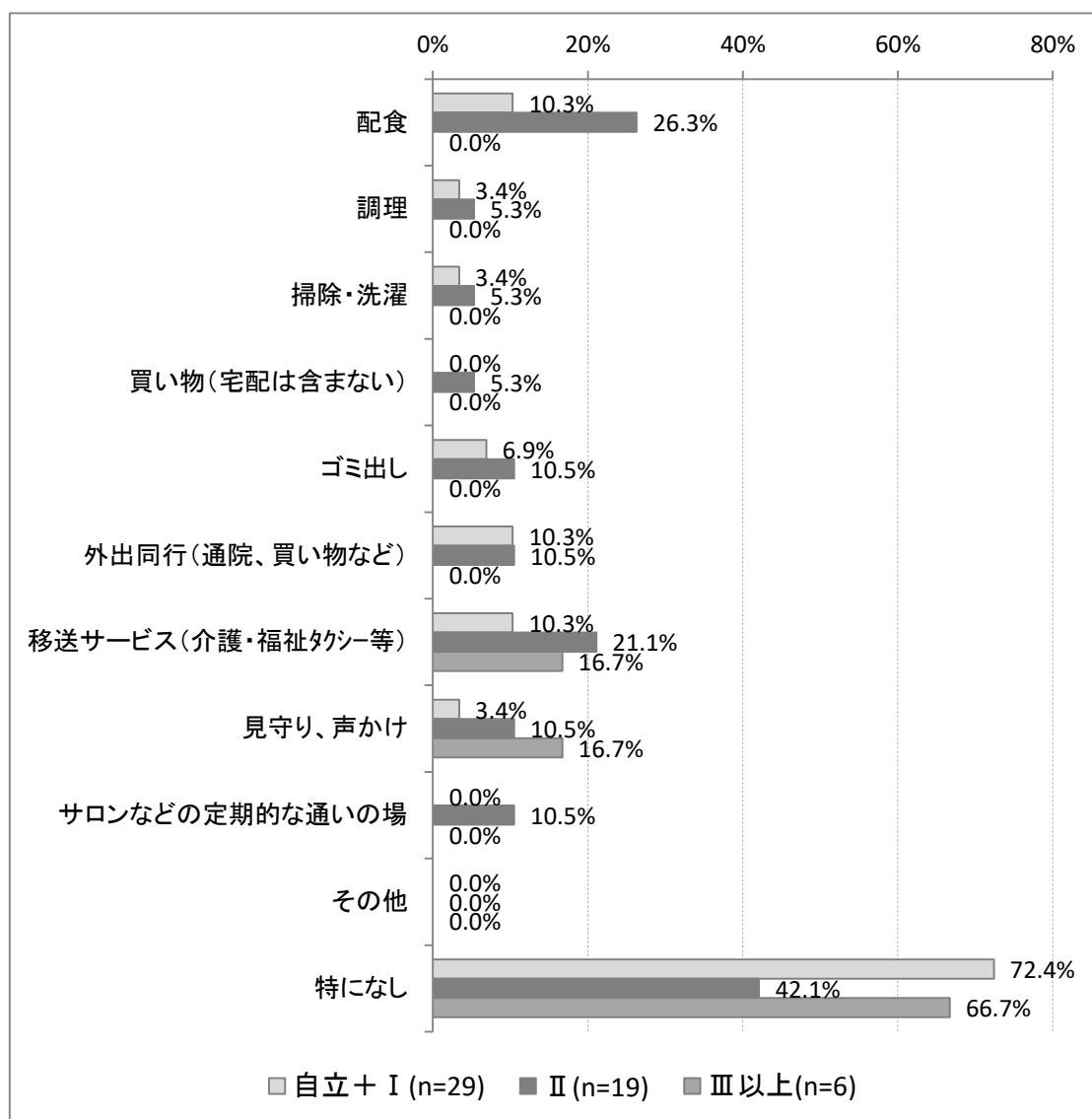
図表 6-10 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「特になし」が72.4%と最も割合が高く、次いで「配食」、「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が10.3%、「ゴミ出し」が6.9%となっている。「Ⅱ」では「特になし」が42.1%と最も割合が高く、次いで「配食」が26.3%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が21.1%となっている。「Ⅲ以上」では「特になし」が66.7%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り、声かけ」が16.7%、「配食」、「調理」、「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」、「ゴミ出し」、「外出同行（通院、買い物など）」、「サロンなどの定期的な通いの場」、「その他」が0.0%となっている。

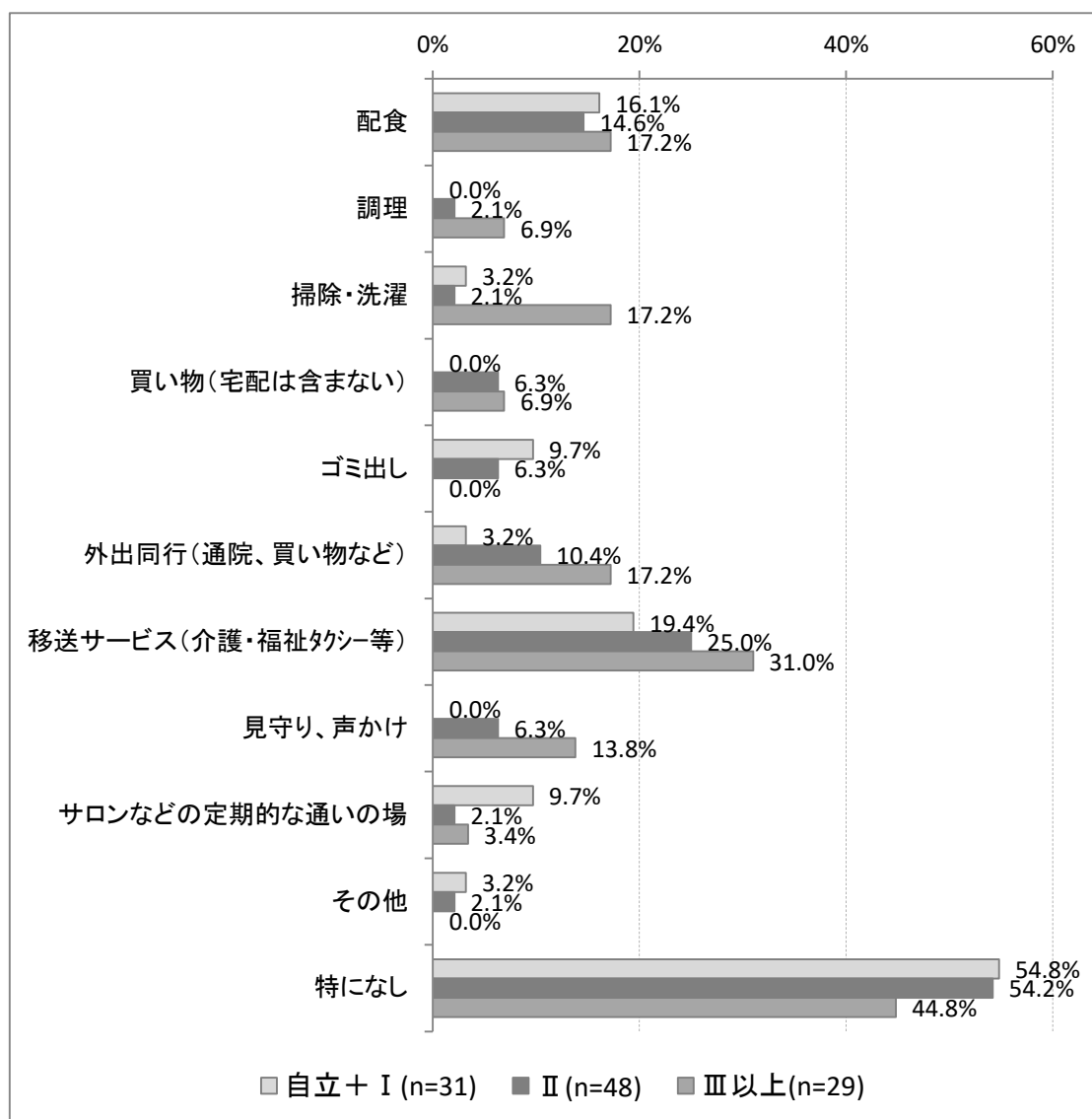
図表 6-11 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）



【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「特になし」が54.8%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が19.4%、「配食」が16.1%となっている。「Ⅱ」では「特になし」が54.2%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が25.0%、「配食」が14.6%となっている。「Ⅲ以上」では「特になし」が44.8%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が31.0%、「配食」、「掃除・洗濯」、「外出同行(通院、買い物など)」が17.2%となっている。

図表 6-12 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)



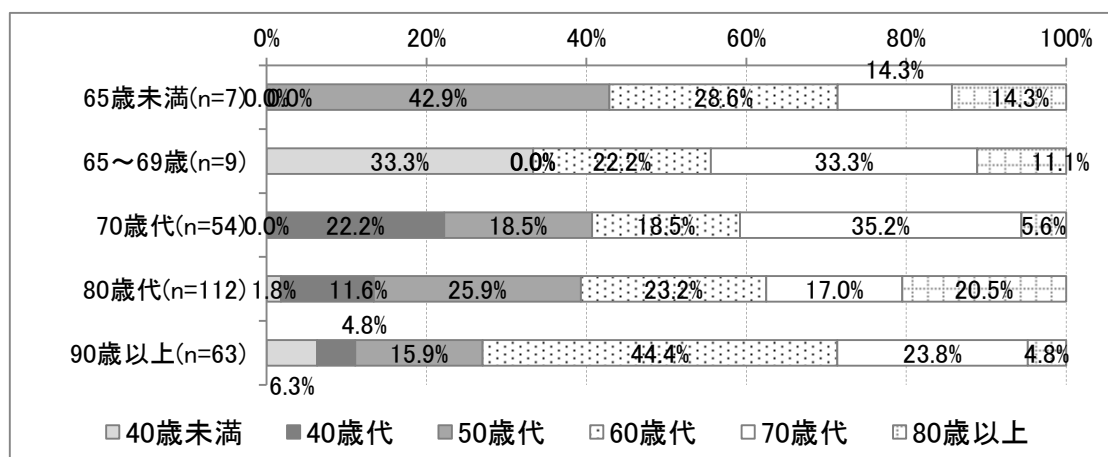
(2) 本人の年齢別・主な介護者の年齢

【本人の年齢別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を本人年齢別にみると、「65歳未満」では「50歳代」が42.9%と最も割合が高く、次いで「60歳代」が28.6%、「70歳代」、「80歳以上」が14.3%となっている。

「65～69歳」では「40歳未満」、「70歳代」が33.3%と最も割合が高く、次いで「60歳代」が22.2%、「80歳以上」が11.1%となっている。「70歳代」では「70歳代」が35.2%と最も割合が高く、次いで「40歳代」が22.2%、「50歳代」、「60歳代」が18.5%となっている。「80歳代」では「50歳代」が25.9%と最も割合が高く、次いで「60歳代」が23.2%、「80歳以上」が20.5%となっている。「90歳以上」では「60歳代」が44.4%と最も割合が高く、次いで「70歳代」が23.8%、「50歳代」が15.9%となっている。

図表 6-13 本人の年齢別・主な介護者の年齢<***>

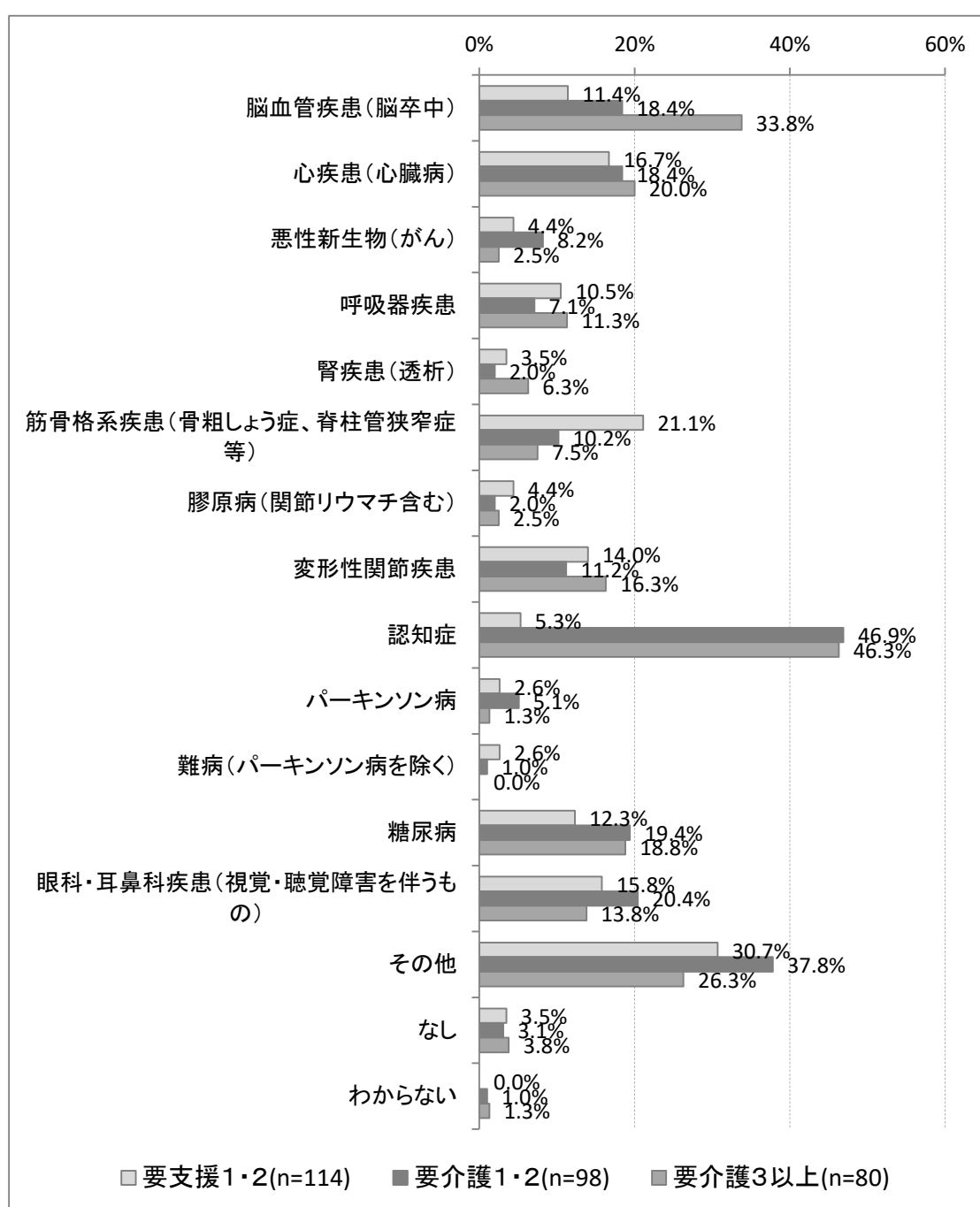


(3) 要介護度別の抱えている傷病

【要介護度別・★抱えている傷病】

抱えている傷病を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「その他」が 30.7% ともっとも割合が高く、次いで「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が 21.1%、「心疾患（心臓病）」が 16.7% となっている。「要介護１・２」では「認知症」が 46.9% ともっとも割合が高く、次いで「その他」が 37.8%、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が 20.4% となっている。「要介護３以上」では「認知症」が 46.3% ともっとも割合が高く、次いで「脳血管疾患（脳卒中）」が 33.8%、「その他」が 26.3% となっている。

図表 6-14 要介護度別・★抱えている傷病



(単純集計版)

在宅介護実態調査の集計結果

～第9期介護保険事業計画の策定に向けて～

令和5年3月

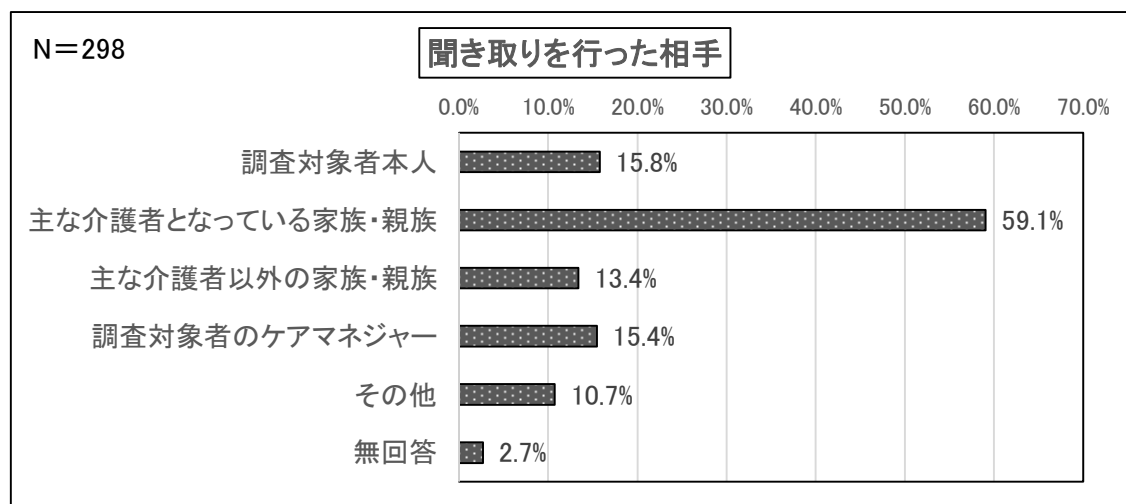
名護市

目次

1	基本調査項目（A票）	1
(1)	世帯類型	1
(2)	家族等による介護の頻度	2
(3)	主な介護者の本人との関係	2
(4)	主な介護者の性別	3
(5)	主な介護者の年齢	3
(7)	介護のための離職の有無	4
(8)	保険外の支援・サービスの利用状況	5
(9)	在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス	6
(10)	施設等検討の状況	6
(11)	本人が抱えている傷病	7
2	主な介護者様用の調査項目（B票）	8
(1)	主な介護者の勤務形態	8
(2)	主な介護者の方の働き方の調整の状況	9
(3)	就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援	10
(4)	主な介護者の就労継続の可否に係る意識	11
(5)	今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護	12
3	要介護認定データ	13
(1)	年齢	13
(2)	性別	13
(3)	二次判定結果（要介護度）	14
(4)	サービス利用の組み合わせ	14
(5)	訪問系サービスの合計利用回数	15
(6)	通所系サービスの合計利用回数	16
(7)	短期系サービスの合計利用回数	17
(8)	障害高齢者の日常生活自立度	17
(9)	認知症高齢者の日常生活自立度	18

1 基本調査項目（A票）

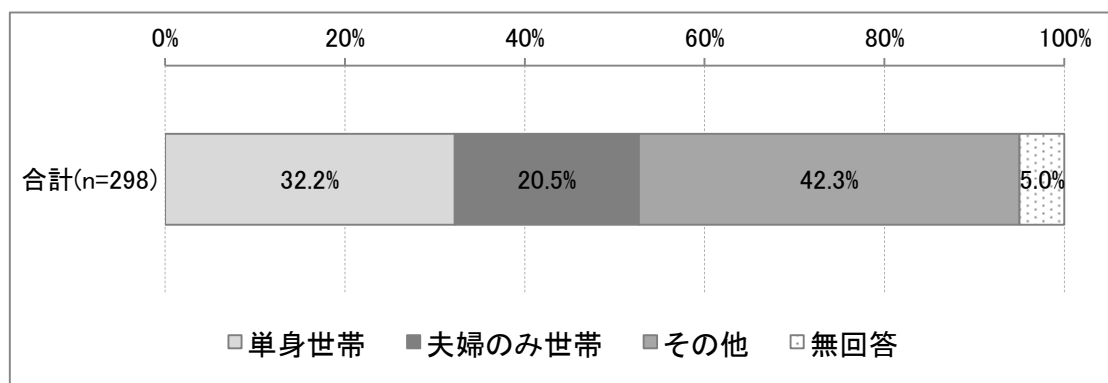
聞き取りを行った相手は、「主な介護者となっている家族・親族」の割合が最も高く 59.1%、次いで「調査対象者本人」の 15.8%、「調査対象者のケアマネジャー」の 15.4%、「主な介護者以外の家族・親族」の 13.4%、「その他」の 10.7%となっている。



(1) 世帯類型

「その他」の割合が最も高く 42.3%となっている。次いで、「単身世帯（32.2%）」、「夫婦のみ世帯（20.5%）」となっている。

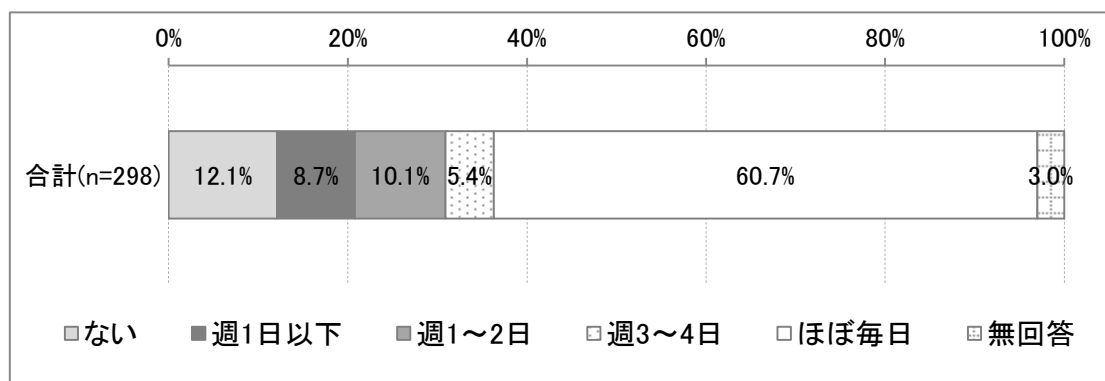
図表 1-1 世帯類型（単数回答）



(2) 家族等による介護の頻度

「ほぼ毎日」の割合が最も高く 60.7%となっている。次いで、「ない (12.1%)」、「週 1～2 日 (10.1%)」となっている。

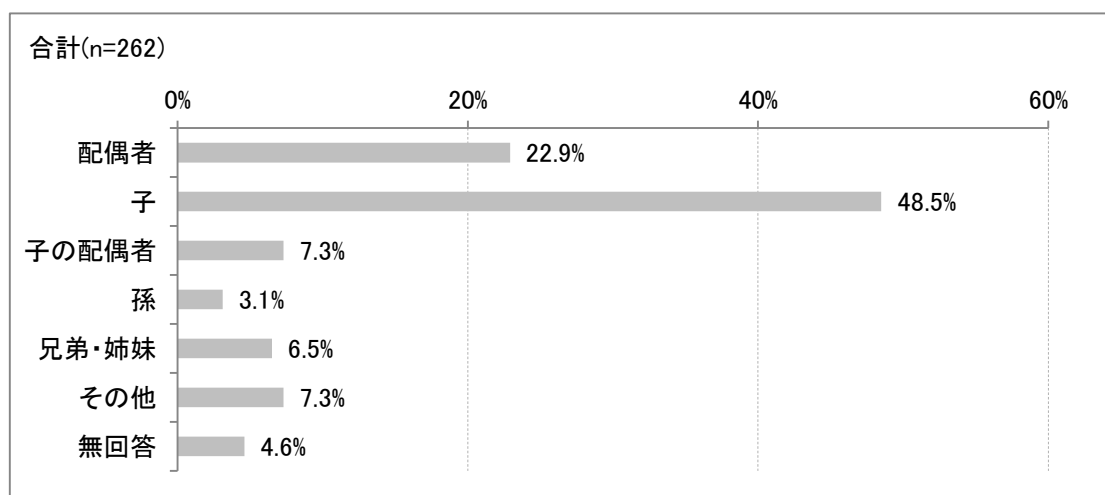
図表 1-2 家族等による介護の頻度（単数回答）



(3) 主な介護者の本人との関係

「子」の割合が最も高く 48.5%となっている。次いで、「配偶者 (22.9%)」、「子の配偶者 (7.3%)」、「その他 (7.3%)」となっている。

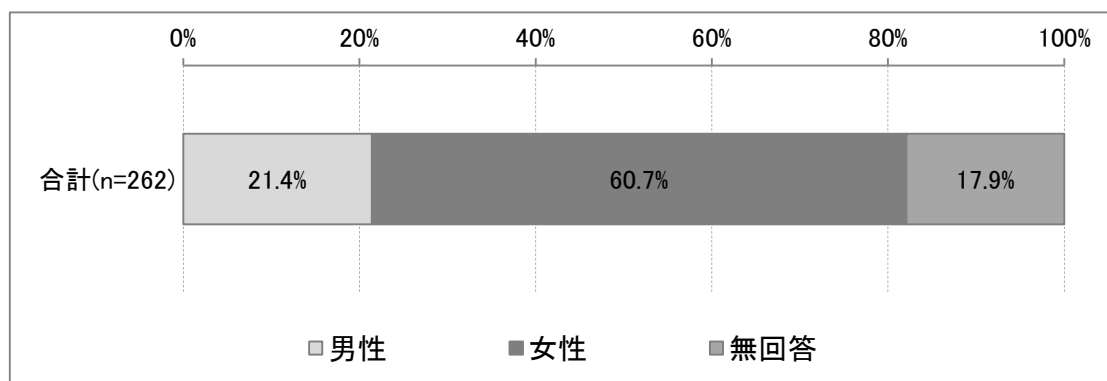
図表 1-3 ★主な介護者の本人との関係（単数回答）



(4) 主な介護者の性別

「女性」の割合が最も高く 60.7%となっている。次いで、「男性（21.4%）」となっている。

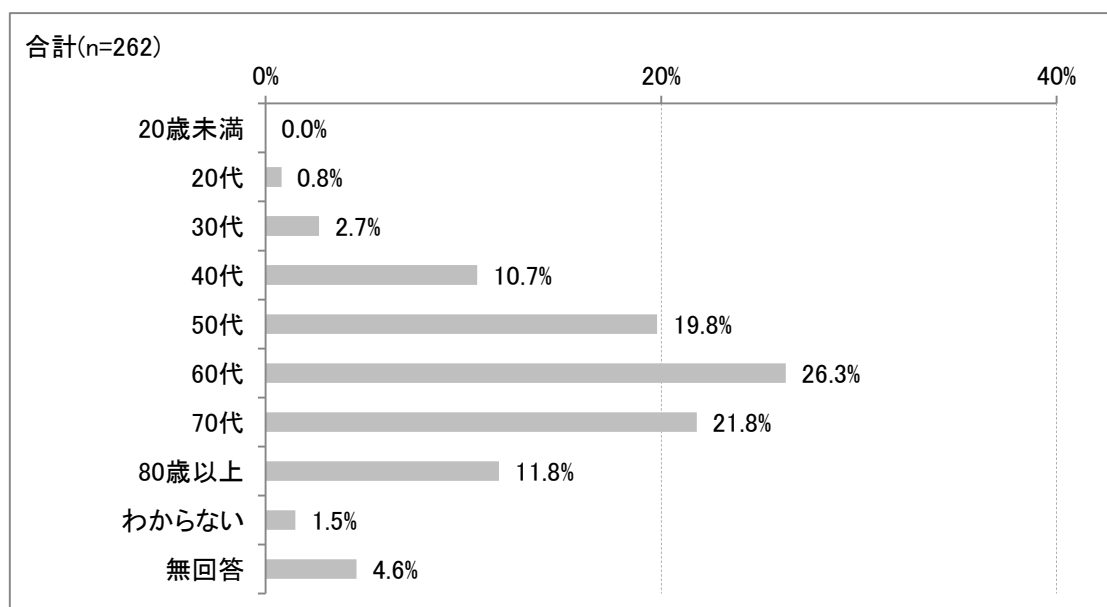
図表 1-4 ★主な介護者の性別（単数回答）



(5) 主な介護者の年齢

「60代」の割合が最も高く 26.3%となっている。次いで、「70代（21.8%）」、「50代（19.8%）」となっている。

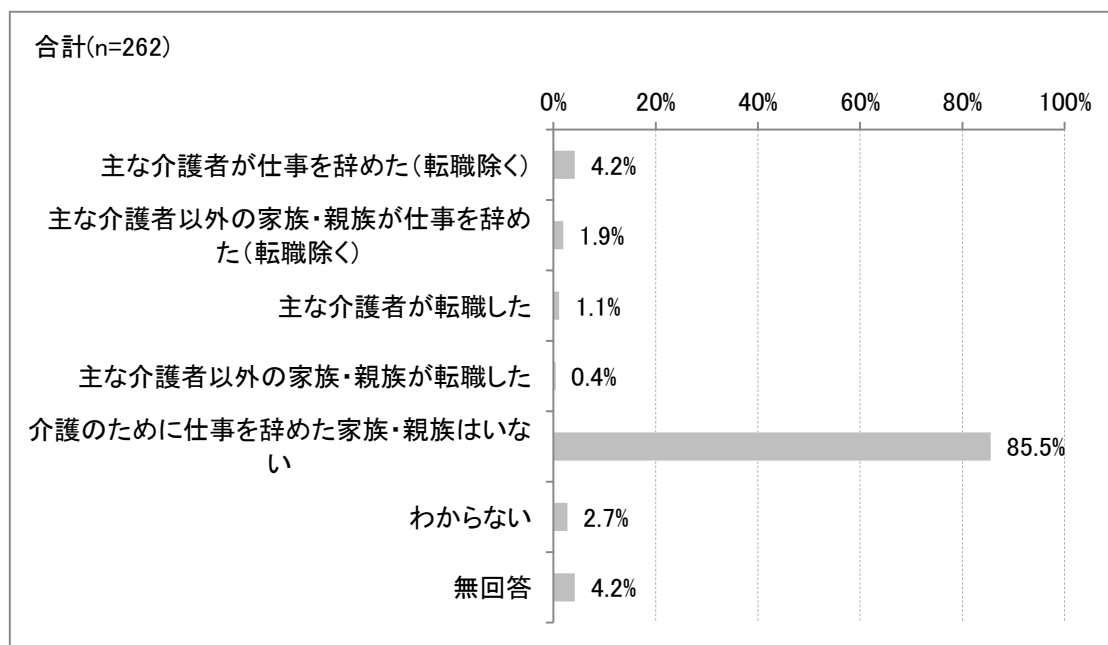
図表 1-5 主な介護者の年齢（単数回答）



(7) 介護のための離職の有無

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く 85.5%となっている。次いで、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）（4.2%）」、「わからない（2.7%）」となっている。

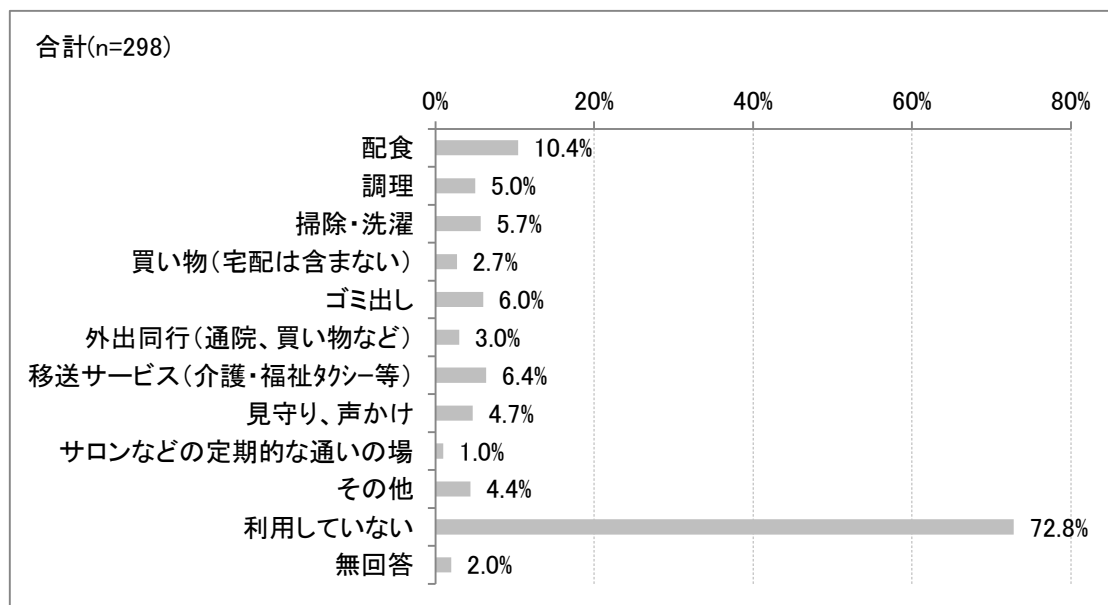
図表 1-7 介護のための離職の有無（複数回答）



(8) 保険外の支援・サービスの利用状況

「利用していない」の割合が最も高く 72.8%となっている。次いで、「配食（10.4%）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（6.4%）」となっている。

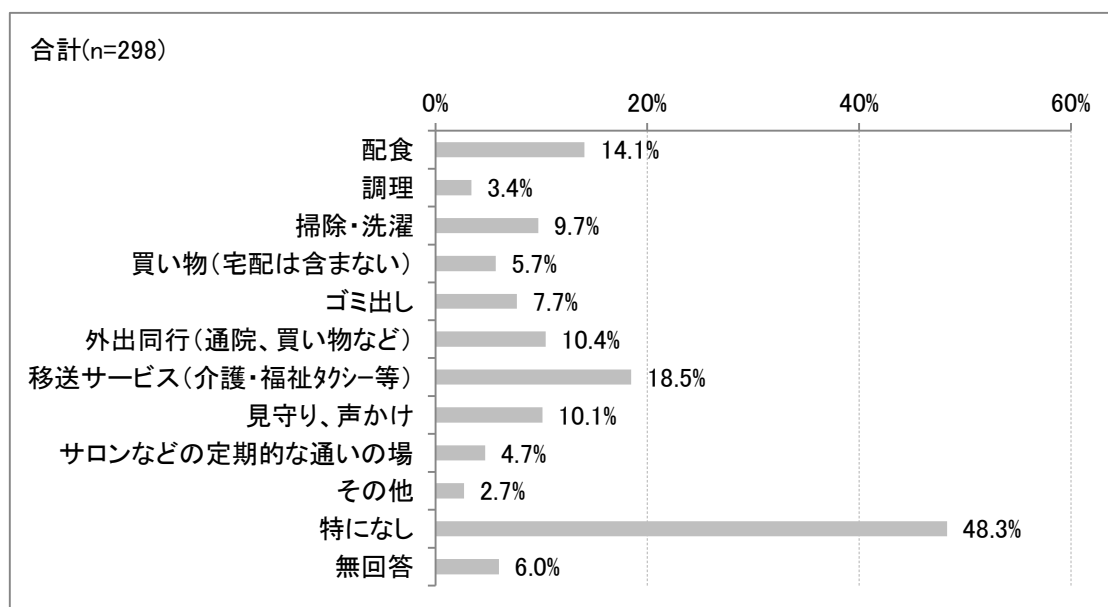
図表 1-8 ★保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）



(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

「特になし」の割合が最も高く 48.3%となっている。次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（18.5%）」、「配食（14.1%）」となっている。

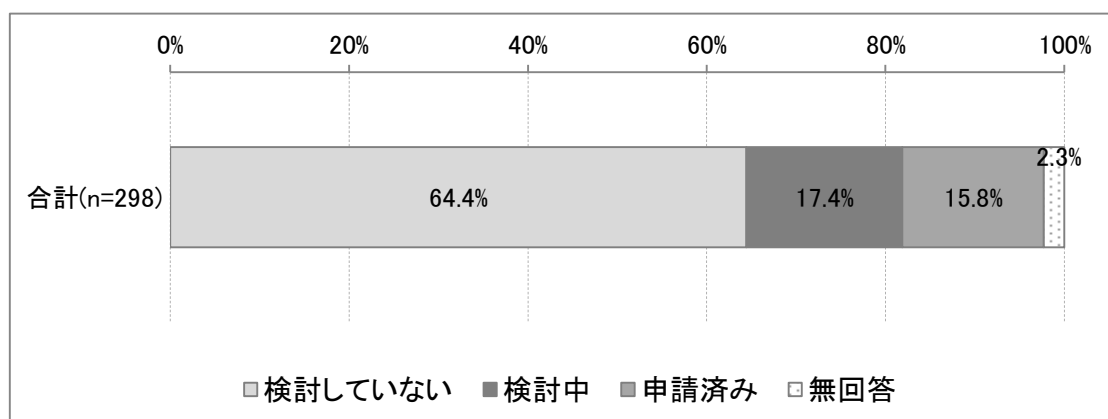
図表 1-9 ★在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）



(10) 施設等検討の状況

「検討していない」の割合が最も高く 64.4%となっている。次いで、「検討中（17.4%）」、「申請済み（15.8%）」となっている。

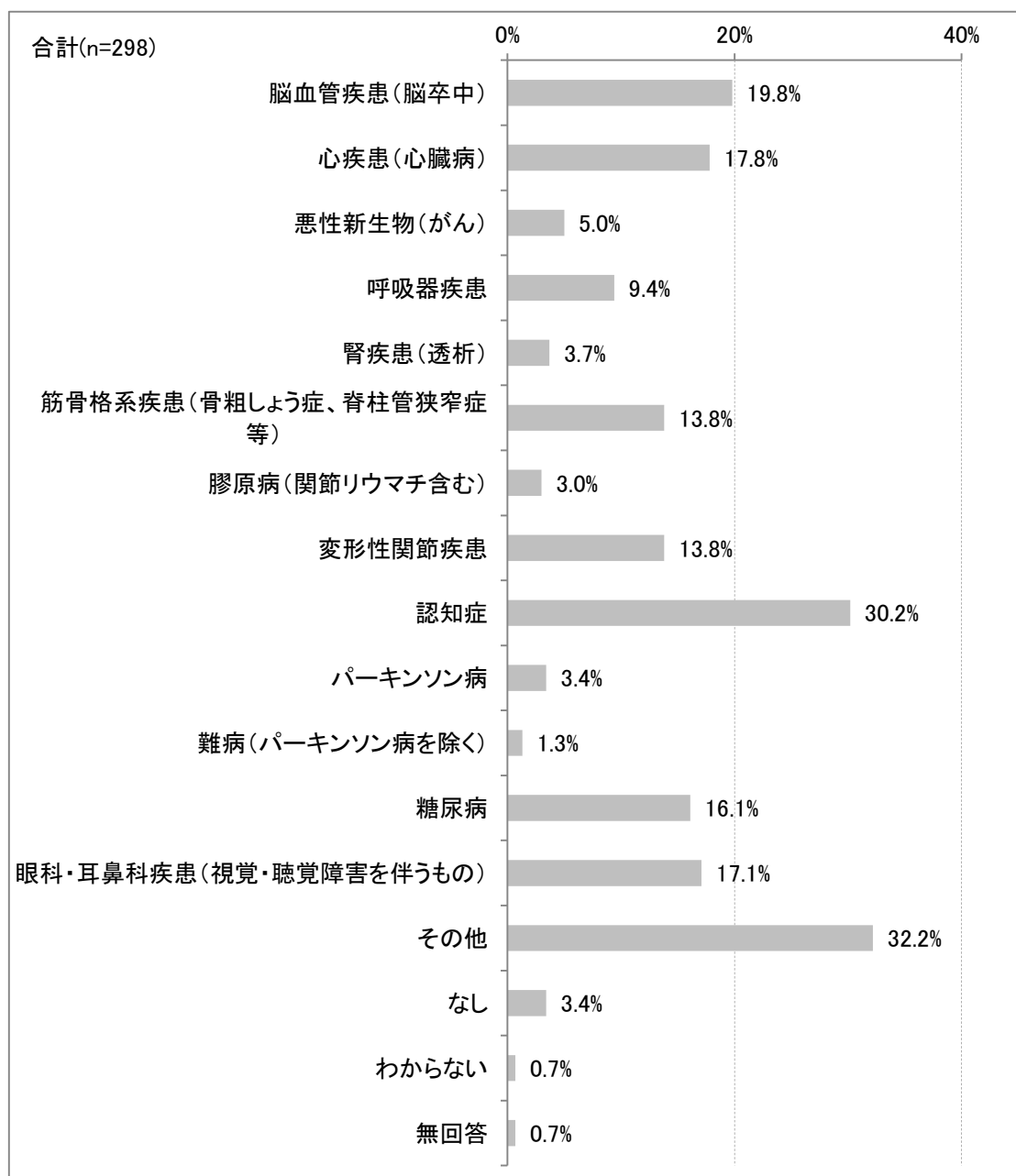
図表 1-10 施設等検討の状況（単数回答）



(11) 本人が抱えている傷病

「その他」の割合が最も高く 32.2%となっている。次いで、「認知症（30.2%）」、「脳血管疾患（脳卒中）（19.8%）」となっている。

図表 1-11 ★本人が抱えている傷病（複数回答）

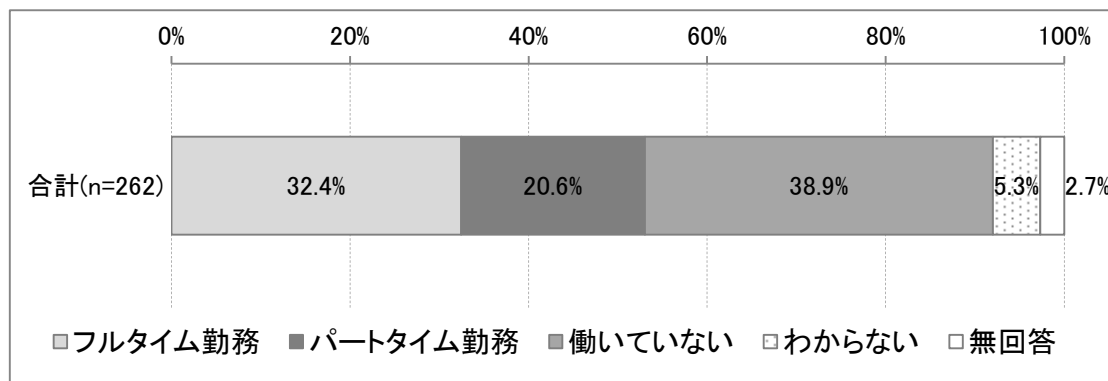


2 主な介護者様用の調査項目（B票）

(1) 主な介護者の勤務形態

「働いていない」の割合が最も高く 38.9%となっている。次いで、「フルタイム勤務（32.4%）」、「パートタイム勤務（20.6%）」となっている。

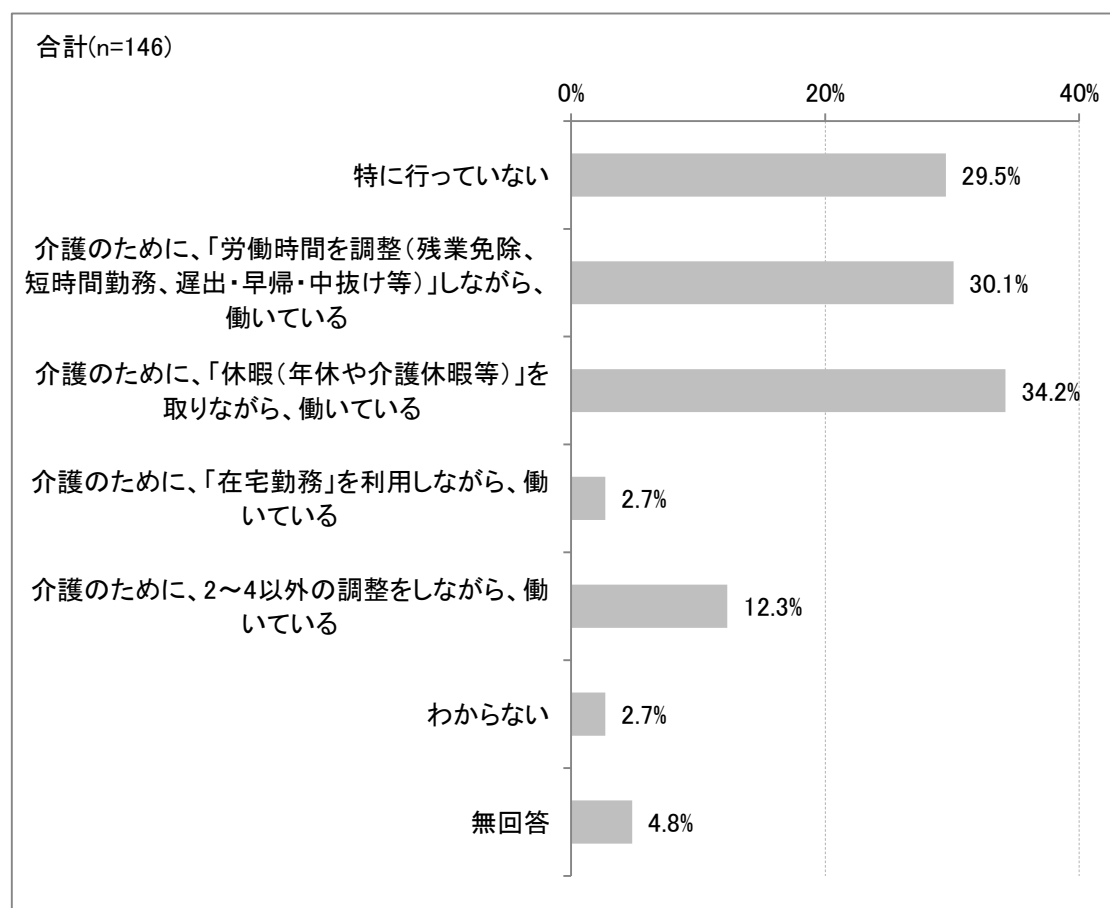
図表 2-1 主な介護者の勤務形態（単数回答）



(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」の割合が最も高く 34.2%となっている。次いで、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている（30.1%）」、「特に行っていない（29.5%）」となっている。

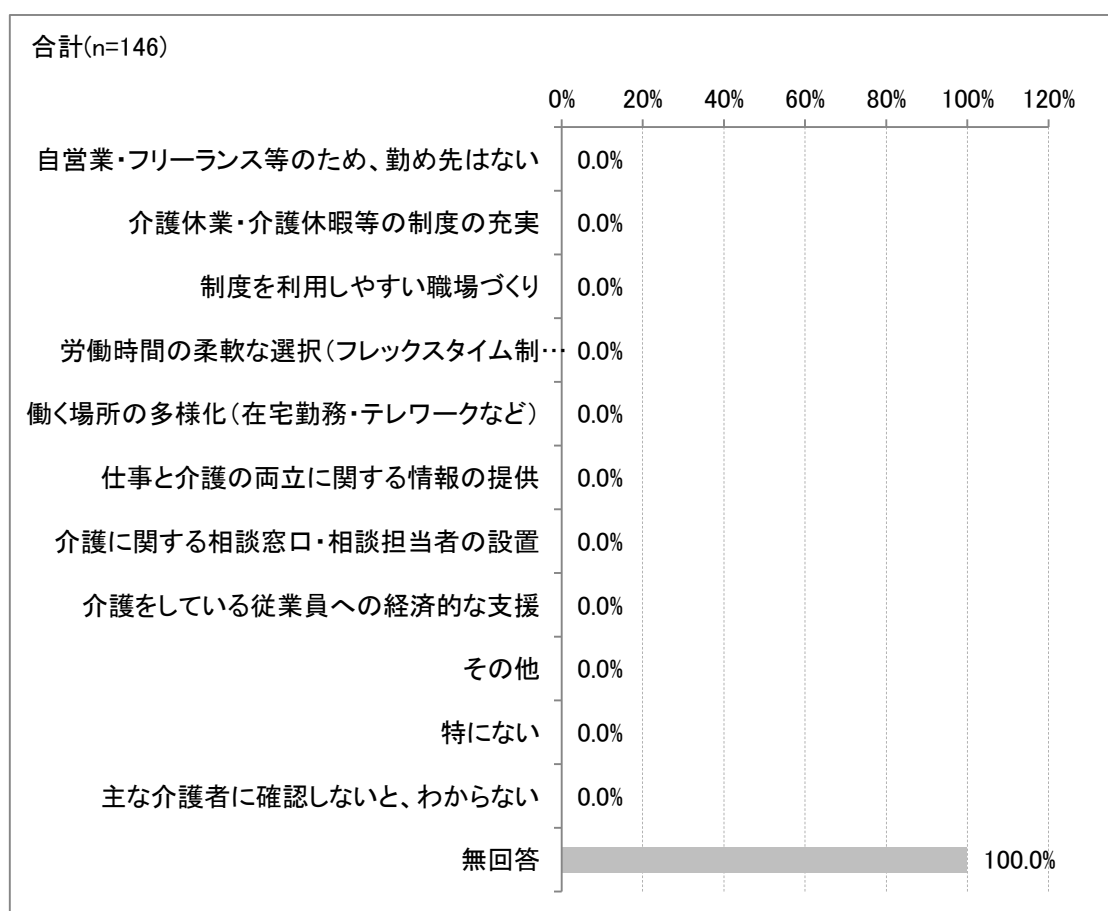
図表 2-2 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）



(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「制度を利用しやすい職場づくり」、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」、「働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）」、「仕事と介護の両立に関する情報の提供」、「介護に関する相談窓口・相談担当者の設置」、「介護をしている従業員への経済的な支援」、「その他」、「特にない」、「主な介護者に確認しないと、わからない」の割合が高く、それぞれ0.0%となっている。

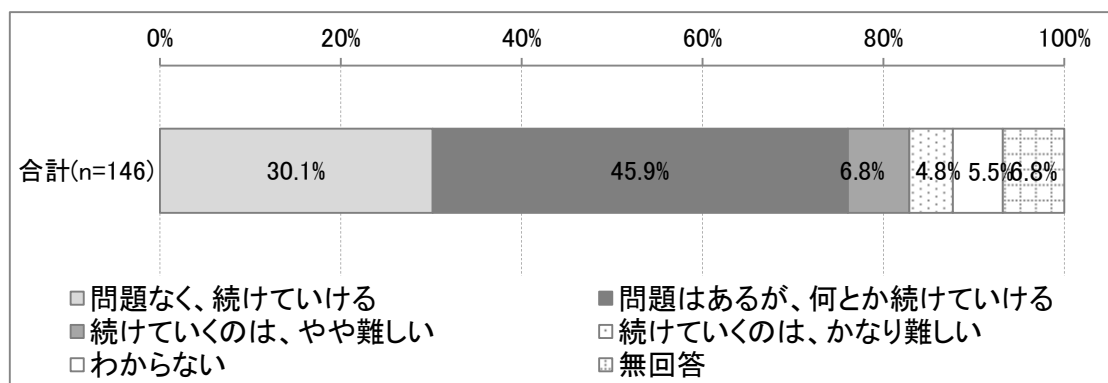
図表 2-3 ★就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）



(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高く 45.9%となっている。次いで、「問題なく、続けていける (30.1%)」、「続けていくのは、やや難しい (6.8%)」となっている。

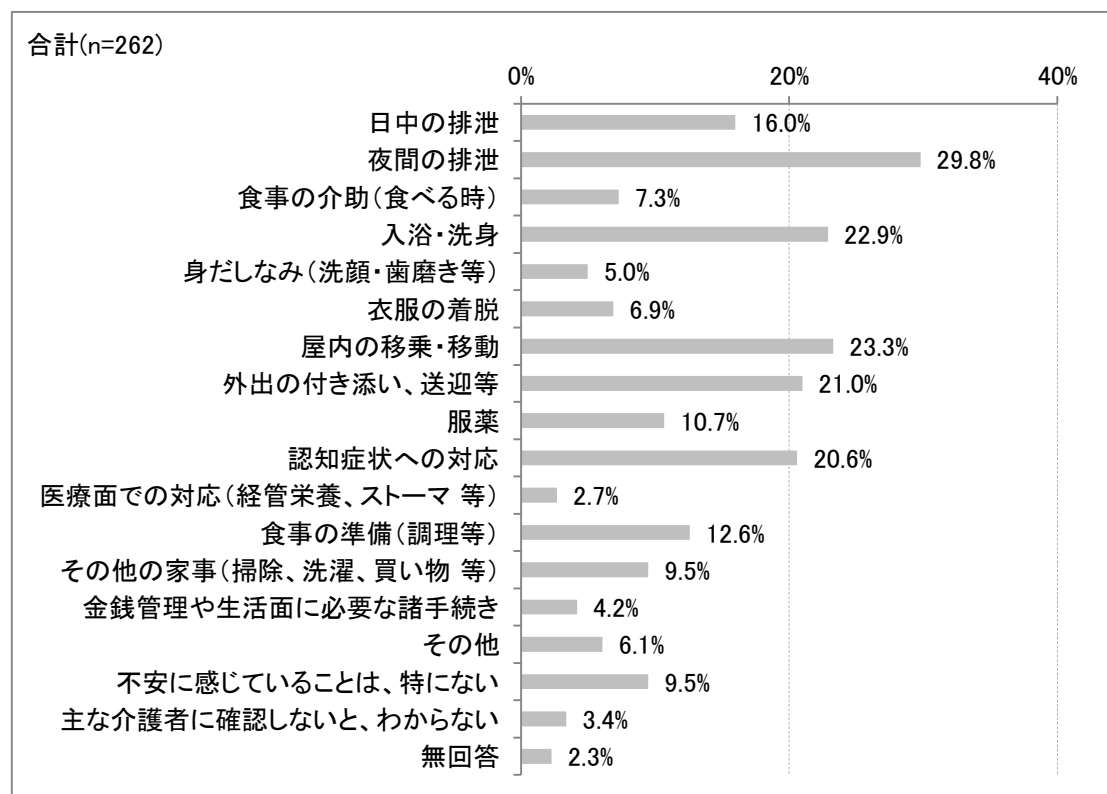
図表 2-4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）



(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

「夜間の排泄」の割合が最も高く 29.8%となっている。次いで、「屋内の移乗・移動 (23.3%)」、「入浴・洗身 (22.9%)」となっている。

図表 2-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）

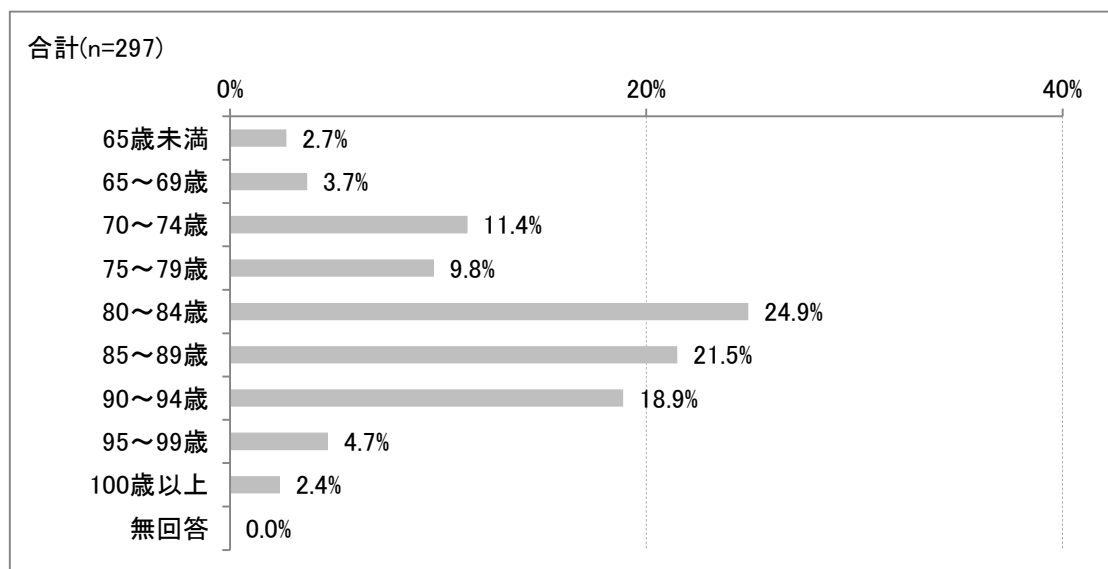


3 要介護認定データ

(1) 年齢

「80～84 歳」の割合が最も高く 24.9%となっている。次いで、「85～89 歳（21.5%)」、「90～94 歳（18.9%)」となっている。

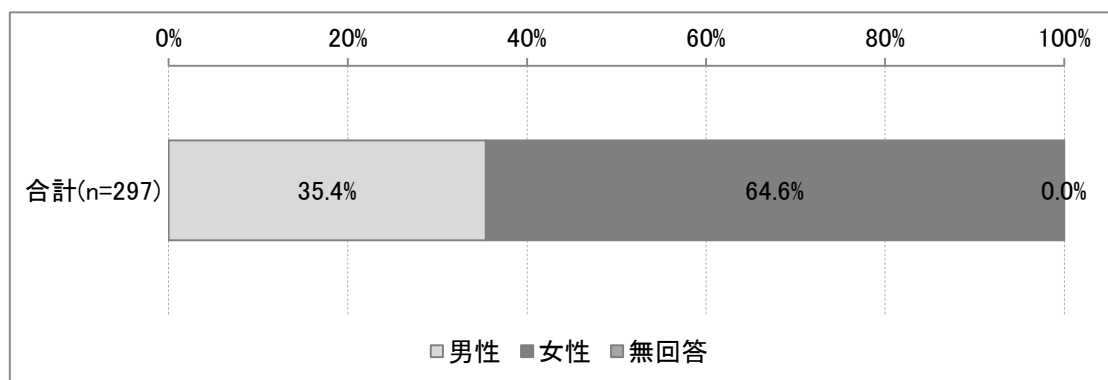
図表 3-1 年齢



(2) 性別

「女性」の割合が最も高く 64.6%となっている。次いで、「男性（35.4%)」となっている。

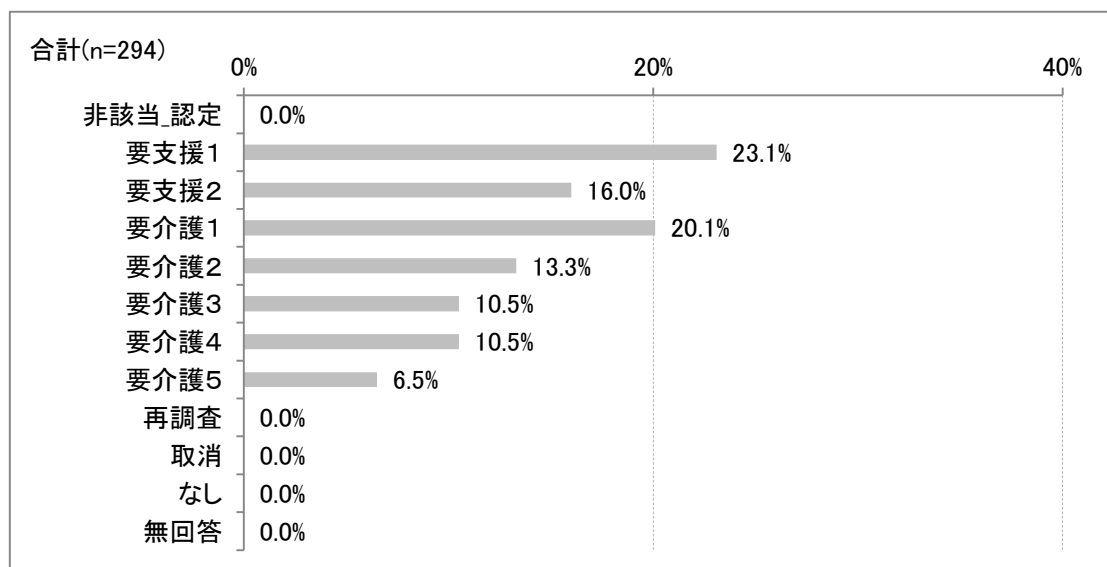
図表 3-2 性別



(3) 二次判定結果（要介護度）

「要支援1」の割合が最も高く 23.1%となっている。次いで、「要介護1（20.1%）」、「要支援2（16.0%）」となっている。

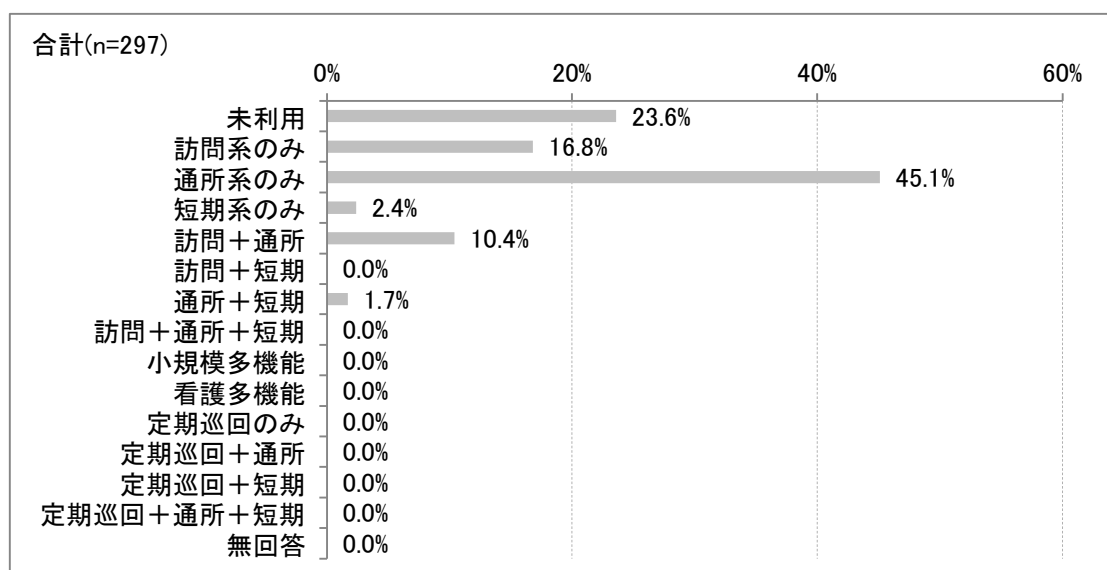
図表 3-3 二次判定結果



(4) サービス利用の組み合わせ

「通所系のみ」の割合が最も高く 45.1%となっている。次いで、「未利用（23.6%）」、「訪問系のみ（16.8%）」となっている。

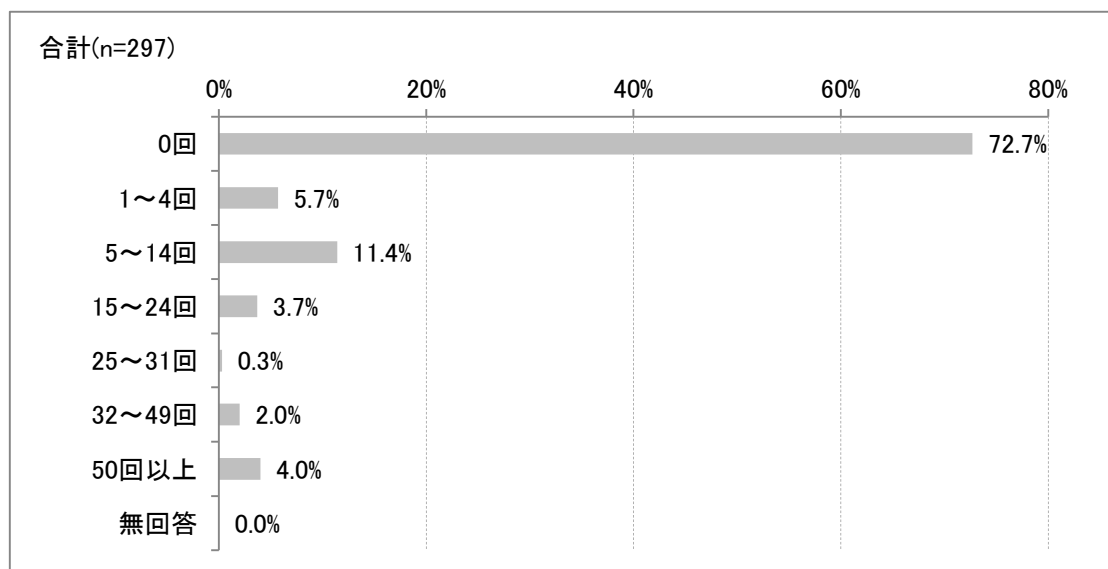
図表 3-4 サービス利用の組み合わせ



(5) 訪問系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く72.7%となっている。次いで、「5～14回（11.4%）」、「1～4回（5.7%）」となっている。

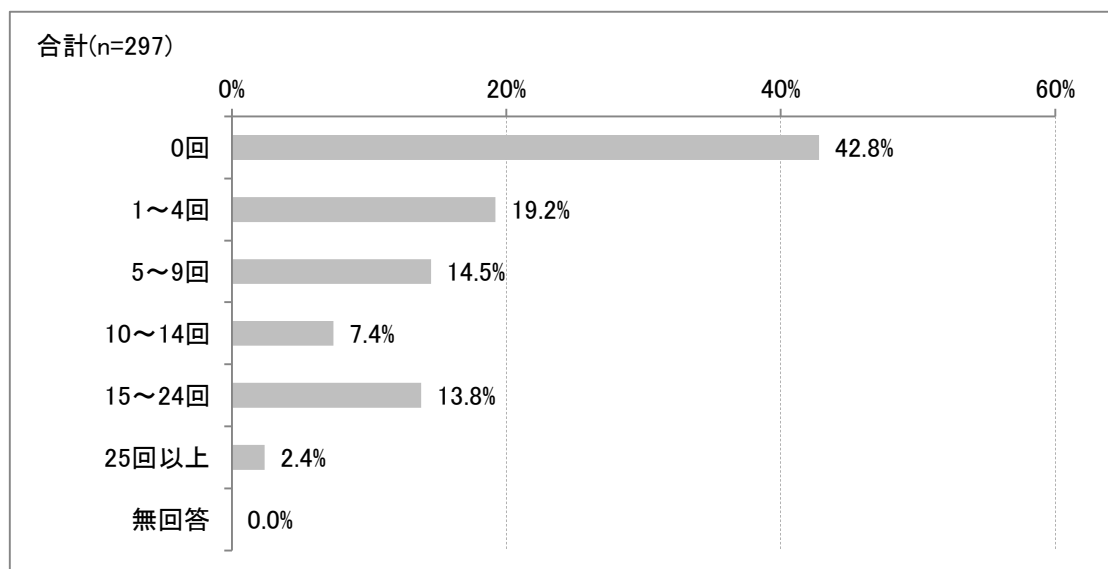
図表 3-5 サービスの利用回数（訪問系）



(6) 通所系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く 42.8%となっている。次いで、「1～4回（19.2%）」、「5～9回（14.5%）」となっている。

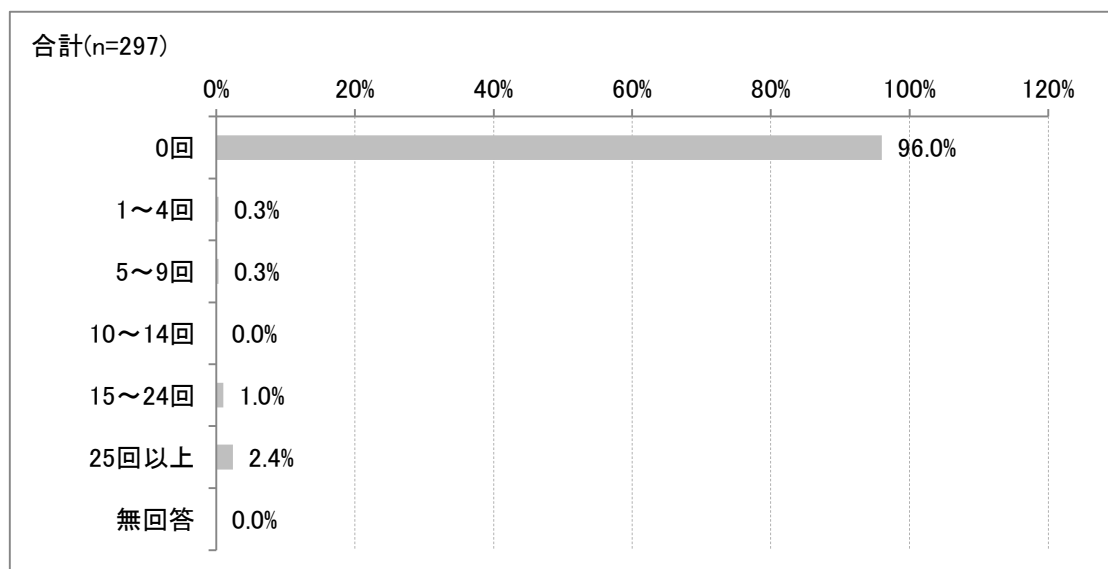
図表 3-6 サービスの利用回数（通所系）



(7) 短期系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く 96.0%となっている。次いで、「25回以上（2.4%）」、「15～24回（1.0%）」となっている。

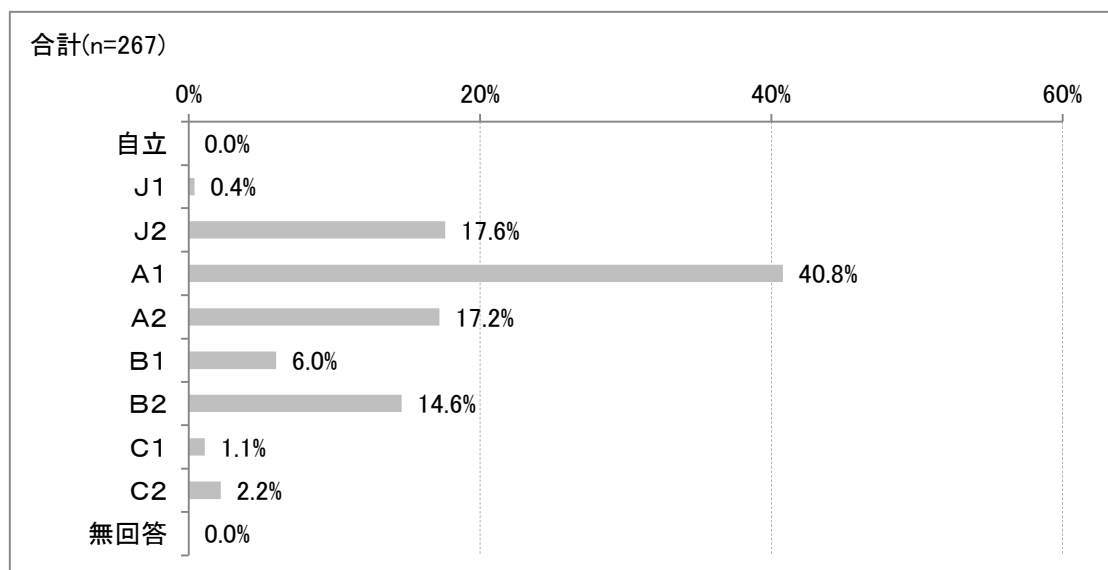
図表 3-7 サービスの利用回数（短期系）



(8) 障害高齢者の日常生活自立度

「A 1」の割合が最も高く 40.8%となっている。次いで、「J 2（17.6%）」、「A 2（17.2%）」となっている。

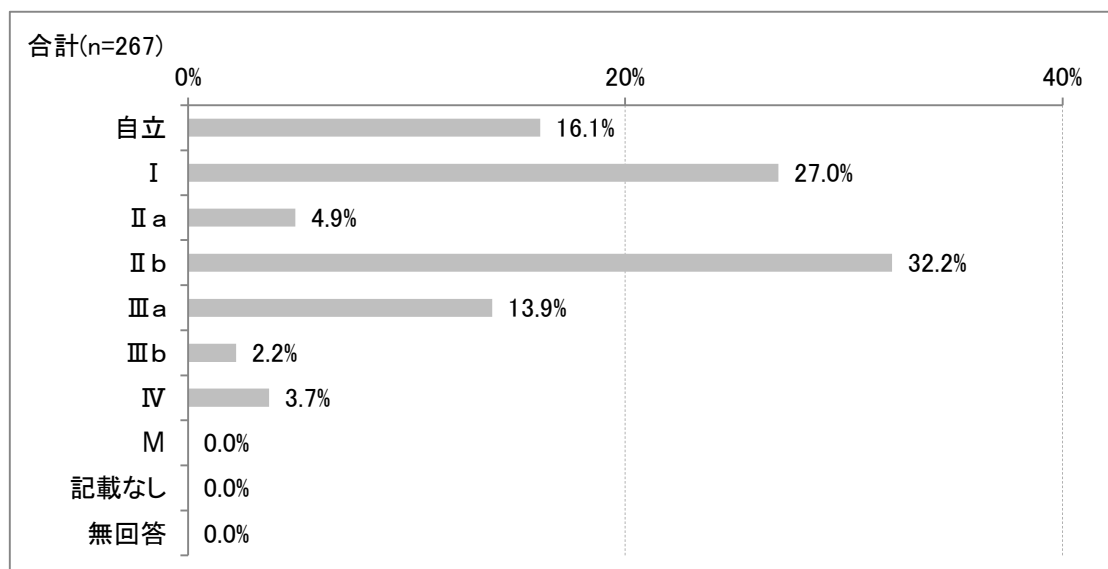
図表 3-8 障害高齢者の日常生活自立度



(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

「Ⅱ b」の割合が最も高く 32.2%となっている。次いで、「Ⅰ」（27.0%）、「自立（16.1%）」となっている。

図表 3-9 認知症高齢者の日常生活自立度



名護市 在宅介護実態調査 調査票 A

被保険者番号[]

【A 票の聞き取りを行った相手の方は、どなたですか】（複数選択可）

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 調査対象者本人 | 2. 主な介護者となっている家族・親族 |
| 3. 主な介護者以外の家族・親族 | 4. 調査対象者のケアマネジャー |
| 5. その他 | |

A票

認定調査員が、概況調査等と並行して記載する項目

問1 世帯類型について、ご回答ください（1つを選択）

- | | | |
|---------|-----------|--------|
| 1. 単身世帯 | 2. 夫婦のみ世帯 | 3. その他 |
|---------|-----------|--------|

問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）（1つを選択）

1. ない ⇒

問7～10（裏面）へ

2. 家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない
3. 週に1～2日ある
4. 週に3～4日ある
5. ほぼ毎日ある

問3～問10を回答しB票へ

問3 主な介護者の方は、どなたですか（1つを選択）

- | | | |
|--------|----------|----------|
| 1. 配偶者 | 2. 子 | 3. 子の配偶者 |
| 4. 孫 | 5. 兄弟・姉妹 | 6. その他 |

問4 主な介護者の方の性別について、ご回答ください（1つを選択）

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問5 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください（1つを選択）

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 20歳未満 | 2. 20代 | 3. 30代 |
| 4. 40代 | 5. 50代 | 6. 60代 |
| 7. 70代 | 8. 80歳以上 | 9. わからない |

問6 ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）（複数選択可）

1. 主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）
2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）
3. 主な介護者が転職した
4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した
5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない
6. わからない

※ 自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

● **ここから再び、全員に調査してください。**

問7 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください(複数選択可)

- | | | |
|-----------------------|-------------|-------------------|
| 1. 配食 | 2. 調理 | 3. 掃除・洗濯 |
| 4. 買い物(宅配は含まない) | 5. ゴミ出し | 6. 外出同行(通院、買い物など) |
| 7. 移送サービス(介護・福祉タクシー等) | 8. 見守り、声かけ | 9. サロンなどの定期的な通いの場 |
| 10. その他 | 11. 利用していない | |

※総合事業に基づく支援・サービスは、「介護保険サービス」に含めます。

問8 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む)について、ご回答ください(複数選択可)

- | | | |
|-----------------------|------------|-------------------|
| 1. 配食 | 2. 調理 | 3. 掃除・洗濯 |
| 4. 買い物(宅配は含まない) | 5. ゴミ出し | 6. 外出同行(通院、買い物など) |
| 7. 移送サービス(介護・福祉タクシー等) | 8. 見守り、声かけ | 9. サロンなどの定期的な通いの場 |
| 10. その他 | 11. 特になし | |

※介護保険サービス、介護保険以外の支援・サービスともに含みます。

問9 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください(1つを選択)

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1. 入所・入居は検討していない | 2. 入所・入居を検討している |
| 3. すでに入所・入居申し込みをしている | |

※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設(有料老人ホーム等)、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

問10 ご本人(認定調査対象者)が、現在抱えている傷病について、ご回答ください(複数選択可)

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1. 脳血管疾患(脳卒中) | 2. 心疾患(心臓病) |
| 3. 悪性新生物(がん) | 4. 呼吸器疾患 |
| 5. 腎疾患(透析) | 6. 筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等) |
| 7. 膠原病(関節リウマチ含む) | 8. 変形性関節疾患 |
| 9. 認知症 | 10. パーキンソン病 |
| 11. 難病(パーキンソン病を除く) | 12. 糖尿病 |
| 13. 眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの) | 14. その他 |
| 15. なし | 16. わからない |

● **問2で「2.」～「6.」を回答し、さらに「主な介護者」が調査に同席している場合は、「主な介護者」の方にB票へのご回答・ご記入をお願いしてください。**

● **「主な介護者」の方が同席されていない場合は、ご本人(調査対象者の方)にご回答・ご記入をお願いしてください(ご本人にご回答・ご記入をお願いすることが困難な場合は、無回答で結構です)。**

名護市 在宅介護実態調査 調査票 B

B票

主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入頂く項目

※主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入(調査票の該当する番号に○)をお願い致します。

問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください(1つを選択)

- | | | |
|-----------------------|---|----------|
| 1. フルタイムで働いている | } | 問2～問5へ |
| 2. パートタイムで働いている | | |
| 3. 働いていない | } | 問4、5(裏面) |
| 4. 主な介護者に確認しないと、わからない | | |

※「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。

問2 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか(複数選択可)

1. 特に行っていない
2. 介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている
3. 介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている
4. 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
5. 介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている
6. 主な介護者に確認しないと、わからない

問3 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけるそうですか(1つを選択)

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 問題なく、続けていける | 2. 問題はあるが、何とか続けていける |
| 3. 続けていくのは、やや難しい | 4. 続けていくのは、かなり難しい |
| 5. 主な介護者に確認しないと、わからない | |

⇒裏面へお進みください

● ここから再び、全員の方にお伺いします。

問4 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください
(現状で行っているか否かは問いません)(3つまで選択可)

〔身体介護〕

- | | |
|--------------------------|----------------|
| 1. 日中の排泄 | 2. 夜間の排泄 |
| 3. 食事の介助(食べる時) | 4. 入浴・洗身 |
| 5. 身だしなみ(洗顔・歯磨き等) | 6. 衣服の着脱 |
| 7. 屋内の移乗・移動 | 8. 外出の付き添い、送迎等 |
| 9. 服薬 | 10. 認知症状への対応 |
| 11. 医療面での対応(経管栄養、ストーマ 等) | |

〔生活援助〕

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 12. 食事の準備(調理等) | 13. その他の家事(掃除、洗濯、買い物 等) |
| 14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き | |

〔その他〕

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 15. その他 | 16. 不安に感じていることは、特にない |
| 17. 主な介護者に確認しないと、わからない | |

問5 今後、名護市で認知症に対する取り組みを進める中で、特に優先的に取り組むべきだと思う事を、以下の
中から3つ以内でお選びください。(3つまで選択可)

1. 認知症の専門医療機関がすみやかに受診・相談できる環境づくり(病院の紹介など)
2. 認知症の予防や認知症の早期発見
3. 家族介護者の不安や負担を軽減する支援
4. 認知症の方や家族を地域で見守るボランティアの育成
5. 徘徊や緊急時への対応
6. 認知症(若年性認知症含む)に関する正しい知識の普及(講座等の開催)
7. 認知症の人が活動する場づくり、社会参加の支援
8. 虐待防止及び権利擁護に関する取り組み
9. わからない

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

調査員が記入します【B票を回答して下さった方はどなたですか】 (複数選択可)

- | | | |
|--------|----------|----------|
| 1. 配偶者 | 2. 子 | 3. 子の配偶者 |
| 4. 孫 | 5. 兄弟・姉妹 | 6. その他 |

名護市介護保険事業所等アンケート調査 結果報告書

令和5年3月

名護市

目次

1. 調査の概要.....	1
(1) 調査の目的.....	1
(2) 調査の対象等.....	1
(3) 調査対象数及び回収状況.....	1
2. 事業所票の調査結果.....	2
(1) サービス種別.....	2
(2)-1 介護職員の数.....	2
(2)-1 雇用形態.....	2
(2)-2 事業所の開設時期.....	3
(2)-3 過去1年間の介護職の採用と離職の状況.....	3
(3) 確保に苦慮する人材.....	4
(4) 離職が多い職種.....	4
(5) 離職防止や人材定着のための対策.....	4
(6) 職員の離職防止等に向け行政に求める支援.....	6
(7) 人材不足を理由に利用を断ったケース.....	7
(8) 第9期以降に名護市で新規に実施予定の事業.....	7
(9) 新規事業実施の予定等がない理由.....	8
(10) 特定施設への転換希望（住宅有料老人ホーム事業所）.....	8
3. 職員票の調査結果.....	9
(1) 介護職員の施策取得等の状況.....	9
(2) 雇用形態.....	10
(3) 勤務時間.....	13
1) 1週間の勤務時間.....	13
2) 平日・土日別の職員1人・1日あたりの訪問介護サービス提供時間.....	14
3) 介護職員数の変化.....	14
4) 訪問介護のサービス提供時間の内訳.....	15
5) 訪問介護の年齢別サービス提供時間の内訳.....	16
6) 職員の年齢別訪問介護提供時間（身体介護）.....	17
7) 職員の年齢別訪問介護提供時間（生活援助）.....	18

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査では、介護人材の①性別・年齢構成、②資格保有状況、③過去1年間の採用・離職の状況、④訪問介護サービスにおけるサービス提供の実態などを把握し、調査結果に基づいた関係者間での議論を通じて、地域内の介護人材の確保・サービス提供方法の改善などにつなげていくことを目的としています。

(2) 調査の対象等

本調査は、市内の介護保険サービス事業所のうち、施設・居住系サービス及び訪問系サービスの事業所を対象としています。

- ・調査では、各事業所等に所属する介護職員の数や、採用・離職の状況に加え、各介護職員の属性を個別にご回答いただくことで、多様なクロス集計を可能にしています。
- ・また、訪問介護事業所については、別途に職員が回答する「職員票」を用意しています。これは、特に訪問介護について、個々の職員の身体介護・生活援助の提供状況を把握することで、サービス提供に見直しの余地がないか検討することを想定しています。(例えば、買い物や調理・配膳などの提供を、地域のボランティア等が担うことはできないか検討するなど)

(3) 調査対象数及び回収状況

調査対象数は、施設居住系・通所系サービスが88か所、訪問系サービスが30か所、合計で118か所となっています。

本調査は、次の2つの方法で実施しました。

①Eメールによる入力シート配布及び回収

メールアドレスが明らかな事業所に対してはメールを通じて入力用エクセルシートを配布し、事業所のデータを入力して返信してもらいました。

②郵送による配布及び回収

メールアドレスが不明な事業所に対しては、調査票の郵送による配布回収を行いました。

■回収状況

サービス種別	対象数	郵送	メール	回収数	回収率
施設居住系・通所系サービス	88 か所	16	72	41	46.6%
訪問系サービス	30 か所	8	22	4	13.3%
合計	118 か所	24	94	45	38.1%

2. 事業所票の調査結果

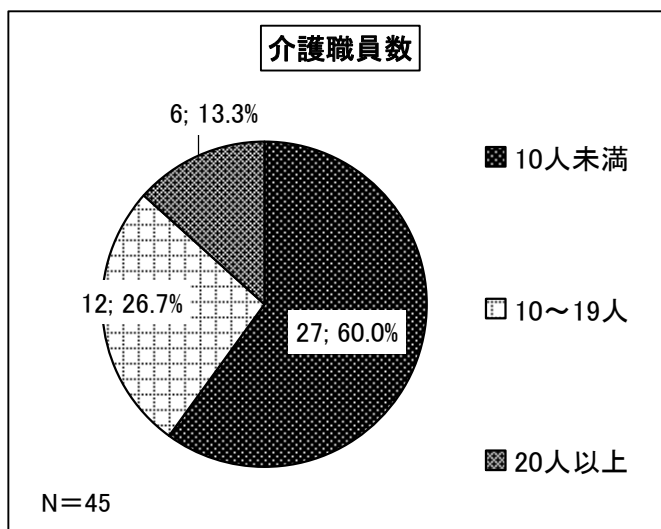
(1) サービス種別

回答事業所のサービス種別は、施設居住系サービスが19件で42.2%、通所系サービスが22件で48.9%、訪問系サービスが4件で8.9%となっており、施設居住系及び通所系の事業者が回答者全体の9割以上となっています。

		件数	構成比
施設居住系	特別養護老人ホーム(地域密着型含む)	3	6.7%
	介護老人保健施設	2	4.4%
	ショートステイ	3	6.7%
	グループホーム	1	2.2%
	住宅型有料老人ホーム	8	17.8%
	サービス付き高齢者向け住宅	2	4.4%
	計	19	42.2%
通所系	通所介護(地域密着型含む)	16	35.6%
	通所リハビリテーション	5	11.1%
	通所型サービス(総合事業)	1	2.2%
	計	22	48.9%
訪問系	訪問系サービス(訪問介護、入浴等)	3	6.7%
	小規模多機能型居宅介護	1	2.2%
	計	4	8.9%
総計		45	100.0%

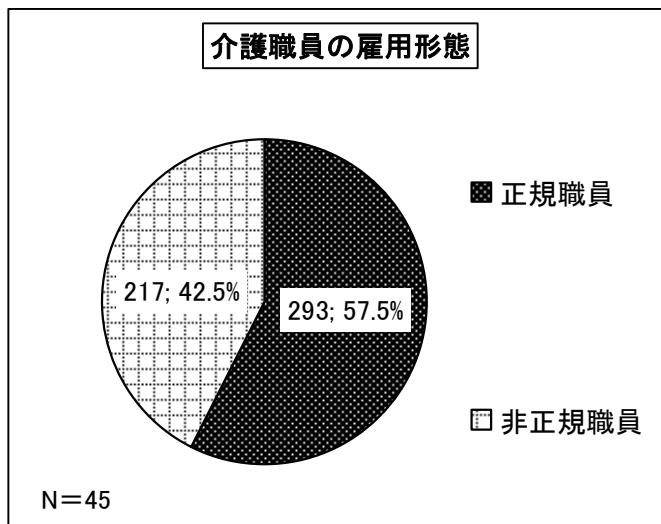
(2) - 1 介護職員の数

事業所に所属する介護職員の数は、「10人未満」が最も多く60.0% (27件)、次いで「10～19人」の26.7% (12件)、「20人以上」の13.3% (6件) となっています。



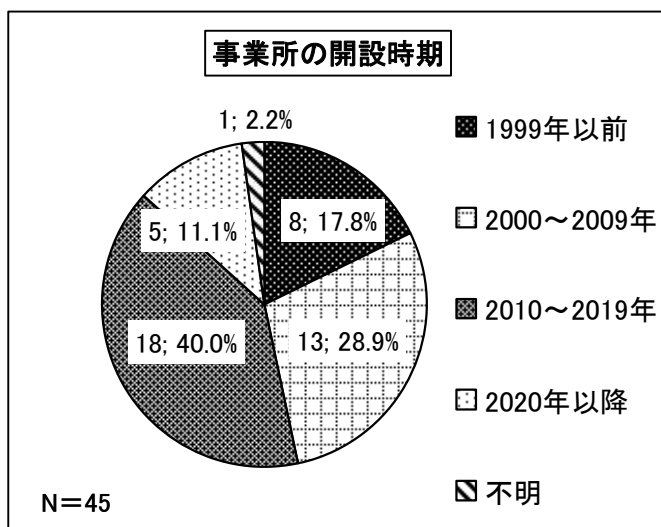
(2) - 1 雇用形態

事業所に所属する介護職員の雇用形態は、「正規職員」が57.5% (293人)、「非正規職員」が42.5% (217人) となっています。



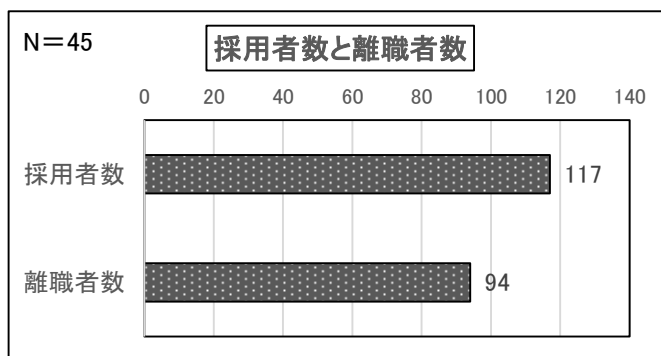
（２）－２ 事業所の開設時期

事業所に開設時期は、「1999 年以前」が 17.8% (8 件)、「2000～2009 年」の 28.9% (13 件)、「2010～2019 年」の 40.0% (18 件)、「2020 年以降」の 11.1% (5 件) となっています。



（２）－３ 過去１年間の介護職の採用と離職の状況

過去１年間の介護職の採用と離職の状況は、採用者数が 117 人、離職者数が 94 人となり、採用者数が 23 人上回っています。



採用者の雇用形態は、正規職員が 55.6%、非正規職員が 44.4% となっています。離職者では正規職員が 57.0%、非正規職員が 43.0% となっています。

年齢別にみると、採用者の正規職員では 20～29 歳 (23.1%)、30～39 歳 (21.5%)、40～49 歳 (24.6%) の割合が高く、非正規職員では 40～49 歳 (28.8%)、30～39 歳 (19.2%)、50～59 歳 (15.4%) の割合が高く、正規職員よりも年層が高くなっています。

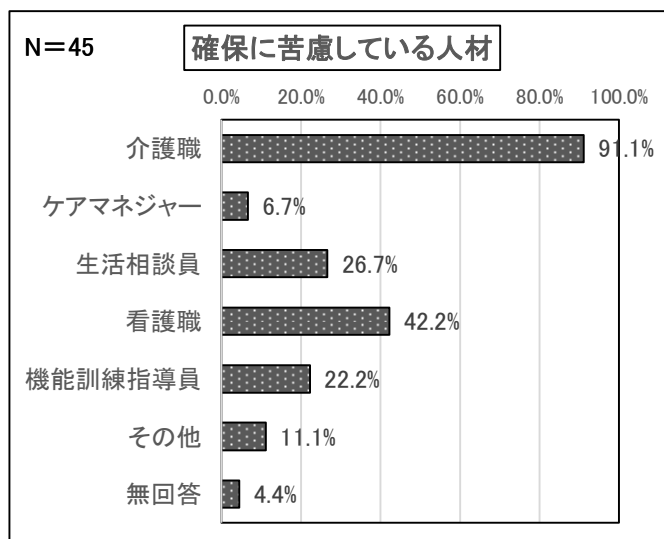
離職者の正規職員では、30～39 歳 (28.3%)、40～49 歳 (26.4%) の割合が高く、非正規職員では 60～69 歳 (37.5%) の割合が高くなっています。

年齢 (採用、離職当時)	採用者数		離職者数	
	正規職員	非正規職員	正規職員	非正規職員
20歳未満	4 6.2%	3 5.8%	1 1.9%	1 2.5%
20～29歳	15 23.1%	6 11.5%	6 11.3%	3 7.5%
30～39歳	14 21.5%	10 19.2%	15 28.3%	7 17.5%
40～49歳	16 24.6%	15 28.8%	14 26.4%	8 20.0%
50～59歳	8 12.3%	9 17.3%	9 17.0%	6 15.0%
60～69歳	6 9.2%	8 15.4%	6 11.3%	15 37.5%
70～79歳	2 3.1%	1 1.9%	2 3.8%	0.0%
合計	65	52	53	40

(3) 確保に苦慮する人材

確保に苦慮している人材の第1位は「介護職」で91.1%、第2位は「看護職」で42.2%、第3位は「生活相談員」で26.7%、第4位は「機能訓練指導員」で22.2%、第5位は「その他」で11.1%となっています。

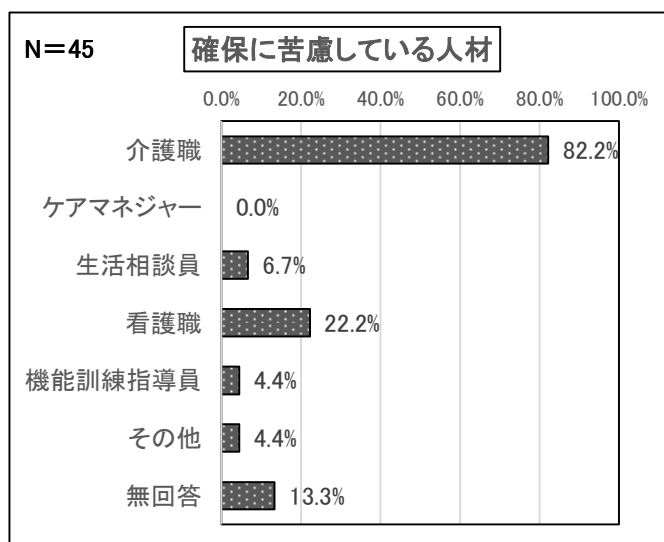
アンケートに回答した9割以上の事業所が「介護職」の確保に苦慮している状況が伺えます。



(4) 離職が多い職種

離職が多い職種の第1位は「介護職」で82.2%、第2位は「看護職」で22.2%、第3位は「生活相談員」で6.7%、第4位は「機能訓練指導員」及び「その他」で4.4%となっています。

「介護職」の離職の多さが人材の確保に苦慮している状況につながっていると考えられます。



(5) 離職防止や人材定着のための対策

事業所が行なっている離職防止や人材定着のための対策としては、勤務時間や勤務日など職員の希望等に沿った就業形態、事業所内のコミュニケーションの充実、賃金の向上、相談等を通じた負担の軽減、研修の実施や資格取得の支援などが挙げられています。

休暇の取りやすい環境や学童保育の設置など、子育て世代が働きやすい環境整備についての意見もみられます。

業務終了時間には、帰宅を促し人員不足による残業は同意を得、残業手当を支給する。また、従業者から勤務負担がないか、随時聞き取りを行い介護負担軽減の提案を聞き取り、可能な限り実現を心掛けている。

- ・ 2年以上定着しない人＝指導にあたり事業所との目的等との相違があった人がほとんどであり、そのような職員に対する離職防止策は講じていない。
- ・ 優秀な人材については定着してもらえよう希望の就業形態や休日のとり方に極力添えるよう企業努力している。また、評価を手厚くし賞与額に反映させている。

育休や有給の取得・社内研修、社外研修の活用等。
各リーダーを配置し相談・問題点などの報告・連絡・相談がしやすい体制を取っている。
希望時間の確保、残業なし、利用者に合わせたサービス提供
希望時間の調整、産業時間ゼロ
勤務時間、勤務日を相談に応じています。
勤務時間の調整、年休消化の促進等
勤務条件や事業所の特性に合わせた職員配置（希望部署での勤務）
研修会の実施や福利厚生の充実。
現場での困り感の早急なコミュニケーション
個人面談を行い、仕事状況把握、職員とのコミュニケーションを密に図る
子育て世代の職員に対して、休暇をとりやすい環境を整えている。
施設内に学童保育を開設し、職員が安心して働ける様な環境づくりを行っている。
資格取得の為の受講費の援助や賃上げ。
資格取得奨学金制度、腰痛対策ベルト購入費補助
資格取得等に要する費用支援。非正規職員への資格手当拡充
時間短縮、賃金値上げ
実務者研修受講を施設内開催（資格取得）、各ユニットにリーダーを配置し相談・問題点などの報告・連絡・相談がしやすい体制を取っている。各ユニットに夜勤者を1名配置し、負担の軽減を図っている。
処遇改善手当の取得、職員の増員、研修や資格取得のための勤務調整
積極的な新型コロナウイルス PCR 検査、PCR 検査時は特別休暇
賃金の調整
賃金改善、職場環境整備
定期的な懇親会や研修後の食事会等で、コミュニケーションを強化している。 職員専用ジムを確保予定。職員の医療保険会社負担。
働きやすい環境づくりに務めている。知識と技術の向上に互いに協力し合い努めるようにしている。
日々のミーティングや必要時の話し合いを通して業務で困難さを感じた際の対処法などアドバイスを行い問題解決に取り組むと共に情報の共有を行い風通し良い事業所を目指すことで定着に繋がればと思っています
年休、使用等での休みの取りやすさ。個別面談での個々の要望を聞き取り。給与、賞与のベースアップ。
福利厚生の充実、正規職員登用、定期的な面談を行い状況の把握。

（６） 職員の離職防止等に向け行政に求める支援

職員の離職防止や人材定着に向け行政に求める支援として、介護職の処遇改善に関する支援、資格取得に関する支援、介護職の魅力アップのための取り組み、事業所との意見交換の場や機会の確保、外国人の人材派遣に関する支援等が挙げられています。

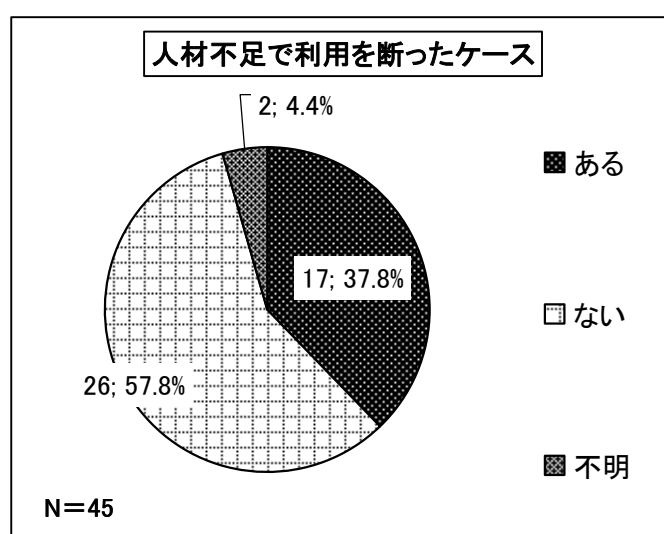
ここ数年、利用者の入居費や自己負担額が払えないケースが増えている為、昨今の物価高騰を利用料の増額で回収する事が困難である。出来るだけ支える家族の負担を軽減し、悔いのない介護を継続するために、物価高騰に反比例する形で利用料を減らしたいがそのような企業努力に対する介護報酬以外の手当を支援いただきたい。
運営のもととなる介護報酬の引き上げ、人件費補助、人員配置基準の見直し。
介護職の魅力イメージアップ作戦、資格取得資金補助制度
介護職へのさらなる収入増政策
介護職員および施設で働く職員に対しての手当（補助等）を拡充して欲しい。
介護職員だけでなく、全ての職種に於いての人材難は深刻で、もはや一施設、一法人だけで解決できる課題ではないと思われる。行政が担当窓口を設置し施設側と緊密な連携が図れないか、行政の新たな取り組みを望みます。
介護報酬の引き上げや名護市独自の支援を検討して欲しい。 民間事業所との意見交換の場を持ち、生の声を聞いて欲しい。
外国からの人材派遣を考えて欲しいです名護市で考えて受け入れできるように、個人でやると負担が大きいです。
外国人の派遣を至急名護市で要望します
企業で介護の仕事の魅力を伝えるには厳しい状況です。行政から社会へもっと介護職の魅力をアピールしてほしい。
研修
研修を減らす
広報誌を活用し、介護職への魅力発信や求人内容の掲載
行政に何ができるのかわかりませんし、あまり期待もしておりません。だが企業努力として、職員の離職防止には、介護従事者独自の組織力で、介護職の社会的評価を高める工夫が必要と考えています。
子育て世代の職員のワークライフバランスを充実させるために子ども支援の制度充実を図るとともに、名護市独自の介護施設への給付等を検討して頂けたら（制度）介護職への定着や離職防止に向けて働き方模索できると考えています。（ICT化も含めて）
市内の保育園の充実、子育て世代への経済的援助、60歳以上の職員雇用時の助成金 未就学児がいる職員を採用している事業所への助成金
資格取得のための費用の援助
職員の賃金アップ
定着することでもらえる支援金や補助金の充実

売り手市場であり誰でも入りやすいし出やすい現状ですが各々事業所でも定着に向けて心血注いでいると思います。他方で勉強（キャリアアップ）あつての定着だと考えているのでサービスの質の向上のため合同勉強会の開催やアナウンスがあれば助かると思います。

名護市が独自に、介護職員及び看護職員への処遇を改善する制度があればとても助かる。当法人でも職員の賃金改善を行いたいですが、物価高騰により経営自体が危機的である。

（７） 人材不足を理由に利用を断ったケース

事業所の定員内であるものの人材不足を理由に利用を断ったケースがあるかについては、「ない」が 57.8%と半数を超える一方で、「ある」が 37.8%となっています。



（８） 第 9 期以降に名護市で新規に実施予定の事業

第 9 期以降（令和 6 年以降）に名護市で新規に実施予定又は検討中の事業については、「小規模特別養護老人ホーム（29 人以下）」で検討中が 1 件、「認知症対応型共同生活介護」で実施予定が 3 件、検討中が 1 件、その他として「介護付き有料老人ホーム」で検討中が 1 件となっています。

	実施予定	検討中
地域密着型通所介護		
小規模特別養護老人ホーム(29人以下)		1
認知症対応型共同生活介護	3	1
認知症対応型通所介護		
小規模多機能型居宅介護		
看護小規模多機能型居宅介護		
夜間対応型訪問介護		
定期巡回・随時対応型訪問介護看護		
その他（介護付き有料老人ホーム）		1

開設予定（希望）の時期は、「小規模特別養護老人ホーム（29人以下）」と「介護付き有料老人ホーム」は不明、「認知症対応型共同生活介護」は4件とも令和6年10月予定となっています。

予定（希望）の地区は、「小規模特別養護老人ホーム（29人以下）」は屋部地区、「認知症対応型共同生活介護」では屋部地区が1か所、久志地区が3か所、「介護付き有料老人ホーム」は名護地区となっています。

	開設予定(希望)時期		予定(希望)地区
小規模特別養護老人ホーム(29人以下)	不明		屋部地区
認知症対応型共同生活介護（検討中）	令和6年	10月	屋部地区
認知症対応型共同生活介護	令和6年	10月	久志地区
認知症対応型共同生活介護	令和6年	10月	久志地区
認知症対応型共同生活介護	令和6年	10月	久志地区
その他（介護付き有料老人ホーム）	不明		名護地区

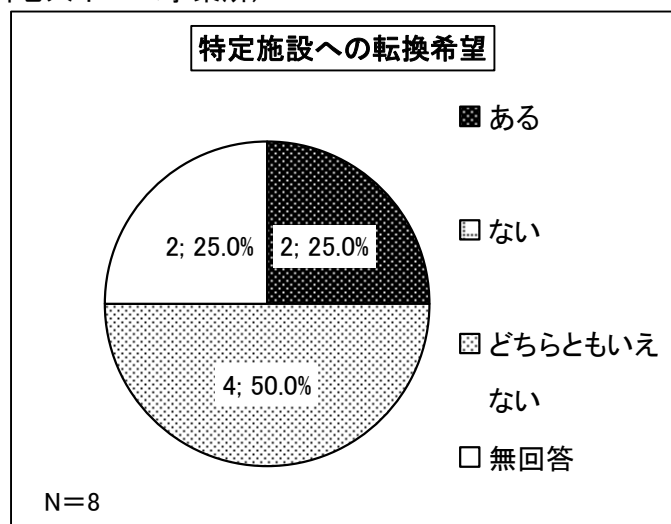
（9）新規事業実施の予定等がない理由

新規で実施予定がない、または検討していない理由として、第1位は「人材不足が懸念されるから」の32.4%、第2位は「事業自体に収益が見込めないから」の17.6%、第3位は「建築費が高騰しているから」の11.8%、第4位は「新たに施設を建築する土地がないから」と「実施したいサービスが公募されていないから」の5.9%となっています。

	件数	構成比
事業自体に収益が見込めないから	6	17.6%
新たに施設を建築する土地がないから	2	5.9%
（土地があっても）地代が高いから	0	0.0%
実施したいサービスが公募されていないから	2	5.9%
実施したいサービスはあるが、公募している圏域にはないから	0	0.0%
建築費が高騰しているから	4	11.8%
人材不足が懸念されるから	11	32.4%
その他	0	0.0%
対象事業所数	34	

（10） 特定施設への転換希望（住宅有料老人ホーム事業所）

住宅型有料老人ホーム事業者（8件）のうち特定施設の転換希望を聞いたところ、「どちらともいえない」が50.0%（4件）、「ある」が25.0%（2件）となっています。

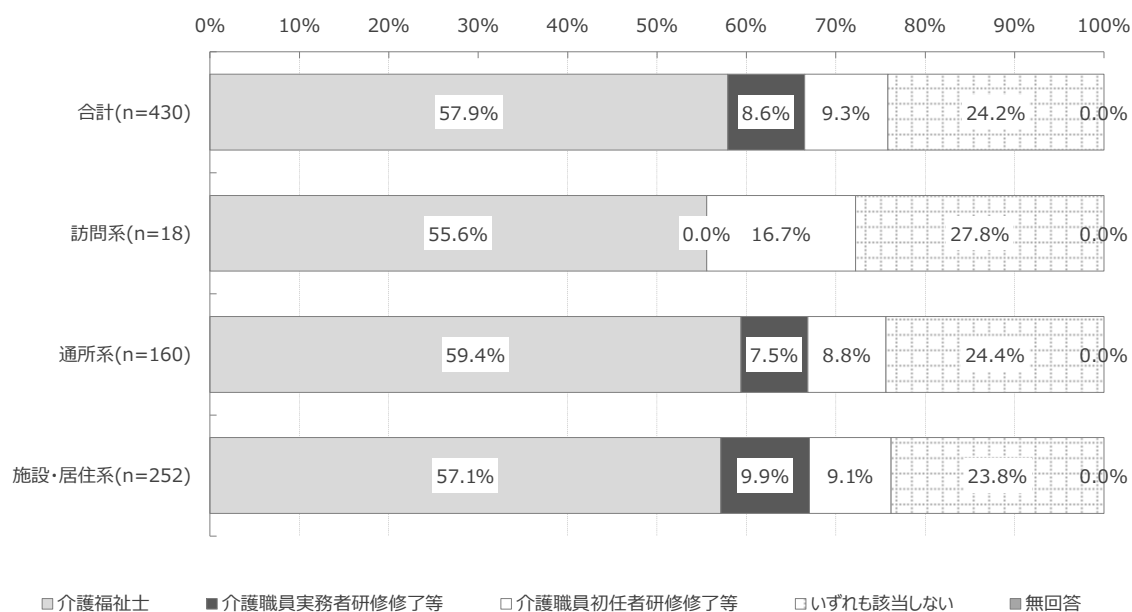


3. 職員票の調査結果

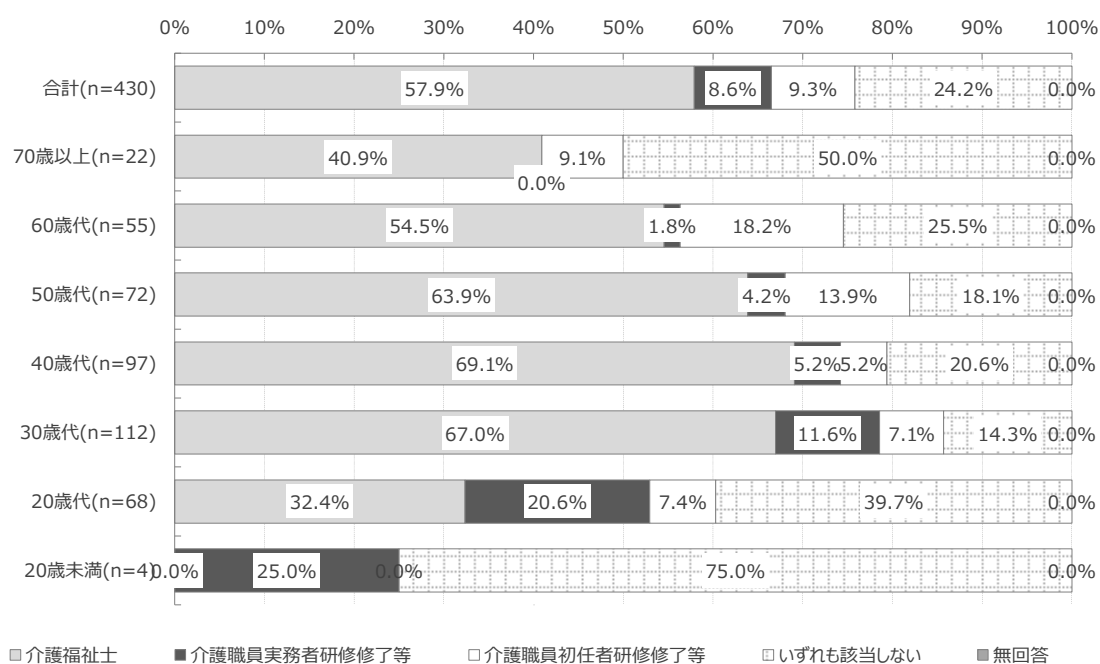
(1) 介護職員の施策取得等の状況

介護職員の資格の取得状況は、回答者全体で「介護福祉士」が最も多く 57.9%、次いで「いずれも該当しない」が 24.2%、「介護職員初任者研修修了者」が 9.3%、「介護職員実務者研修修了者等」が 8.6%となっています。

この割合は、サービス種別にみても大きな違いはありません。



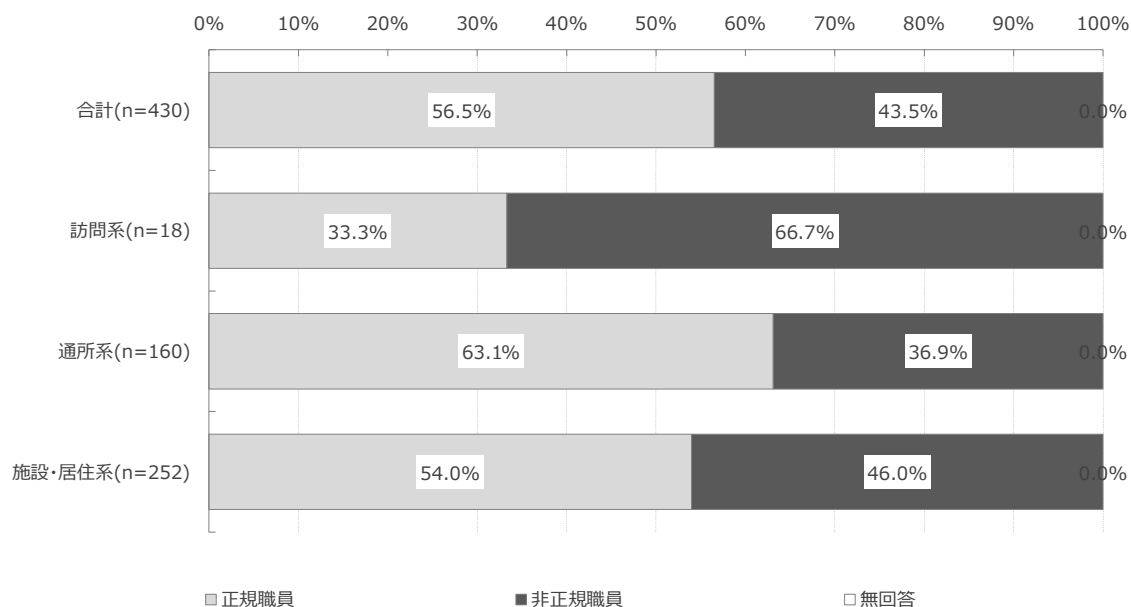
「介護福祉士」の資格所有者は、40歳代で 69.1%と最も高く、次いで 30歳代 (67.0%)、50歳代 (63.9%) となっています。



(2) 雇用形態

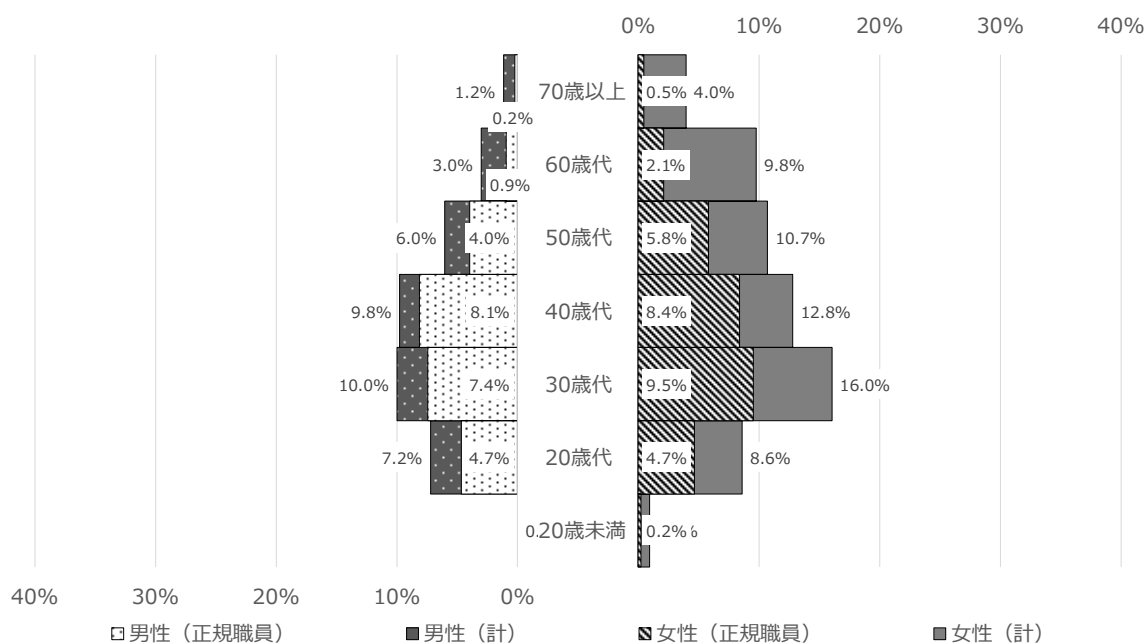
介護職員の雇用形態は、回答者全体で「正規職員」が 56.5%、「非正規職員」が 43.5%となっており、「正規職員」の割合が半数を超えています。

これをサービス種別に正規職員の割合みると、「通所系サービス」が最も高く 63.1%、「施設・居住系サービス」が 54.0%、「訪問系サービス」が 33.3%となっており、「訪問系サービス」では非正規職員が正規職員の 2 倍となっています。



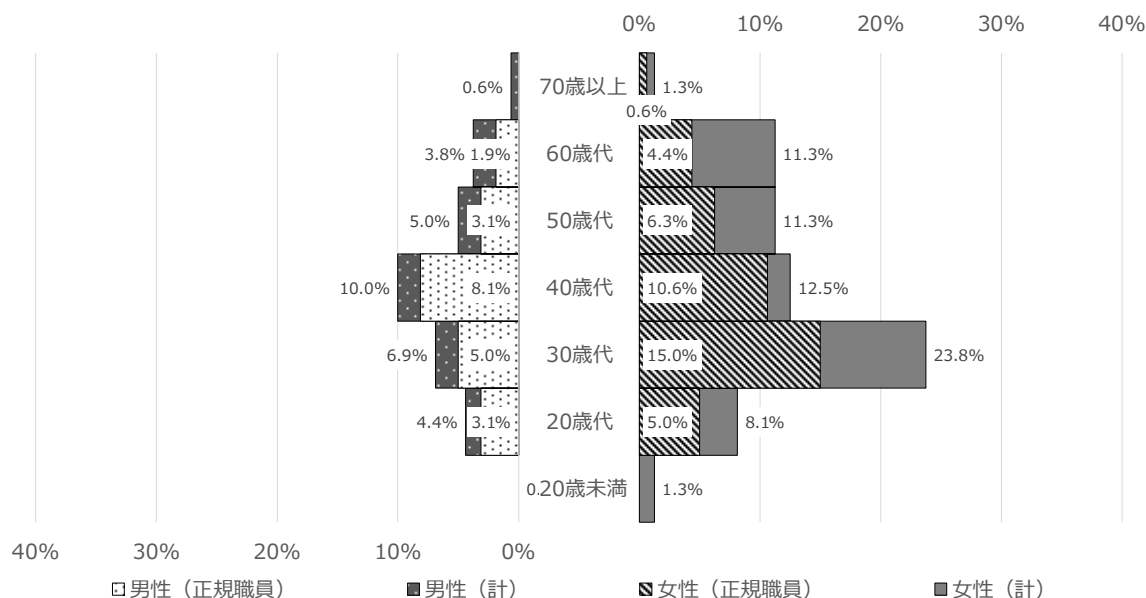
介護職員の男女比は、男性 37.2%、女性 62.8%となっています。

男女とも 30 歳代が最も多く、正規職員の占める割合は、20 歳未満を除いた全ての年代で女性より男性が高くなっています。



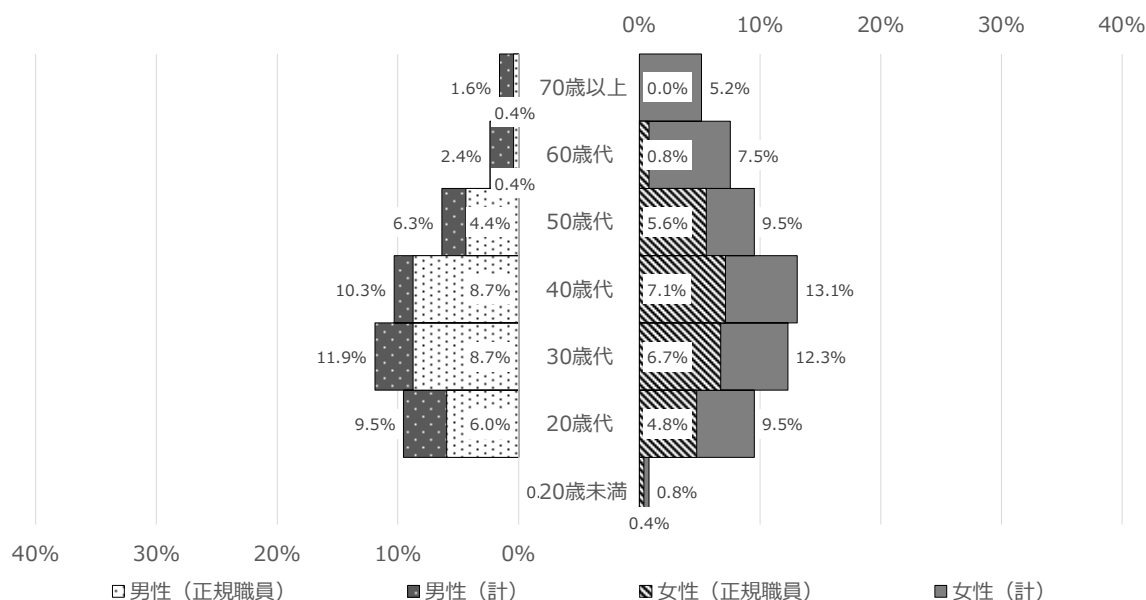
通所系サービス事業所の職員の状況をみると、男性が30.6%、女性が69.4%となっており、男性では40歳代、女性では30歳代が最も多くなっています。正規職員の占める割合は、女性の40歳代でのみ女性が高く、その他では男性の正規職員比率が高くなっています。

性別・年齢別の雇用形態の構成比（通所系）



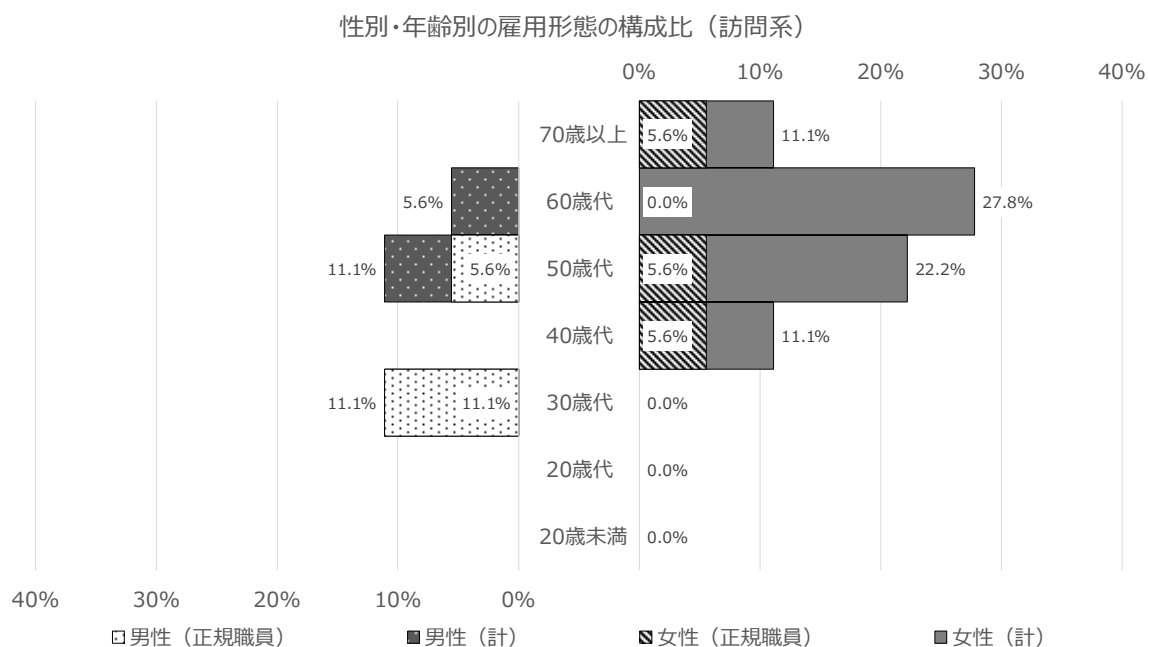
施設・居住系サービス事業所の職員の状況をみると、男性が42.1%、女性が57.9%となっており、男性では30歳代、女性では40歳代が最も多くなっています。正規職員の占める割合は、20歳未満を除いた全ての年代で、女性より男性が高くなっています。

性別・年齢別の雇用形態の構成比（施設・居住系）



【サンプル数が少ないため参考値】

訪問系サービス事業所の職員の状況をみると、男性が27.8%、女性が72.2%となっており、男性では30歳代と50歳代、女性では60歳代が最も多くなっています。



(3) 勤務時間

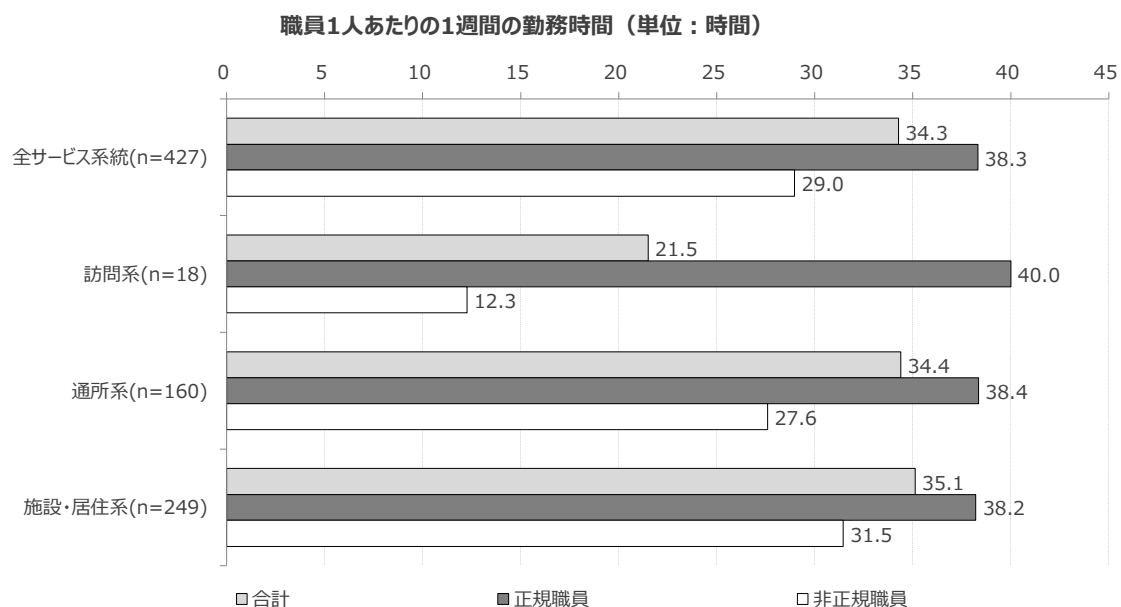
1) 1週間の勤務時間

職員1人当たりの1週間の勤務時間は、全サービス系統の合計で34.3時間、正規職員が38.3時間、非正規職員が29.0時間となっています。

訪問系では合計で21.5時間、正規職員が40時間、非正規職員が12.3時間となっており、正規と非正規で勤務時間の差が大きくなっています。

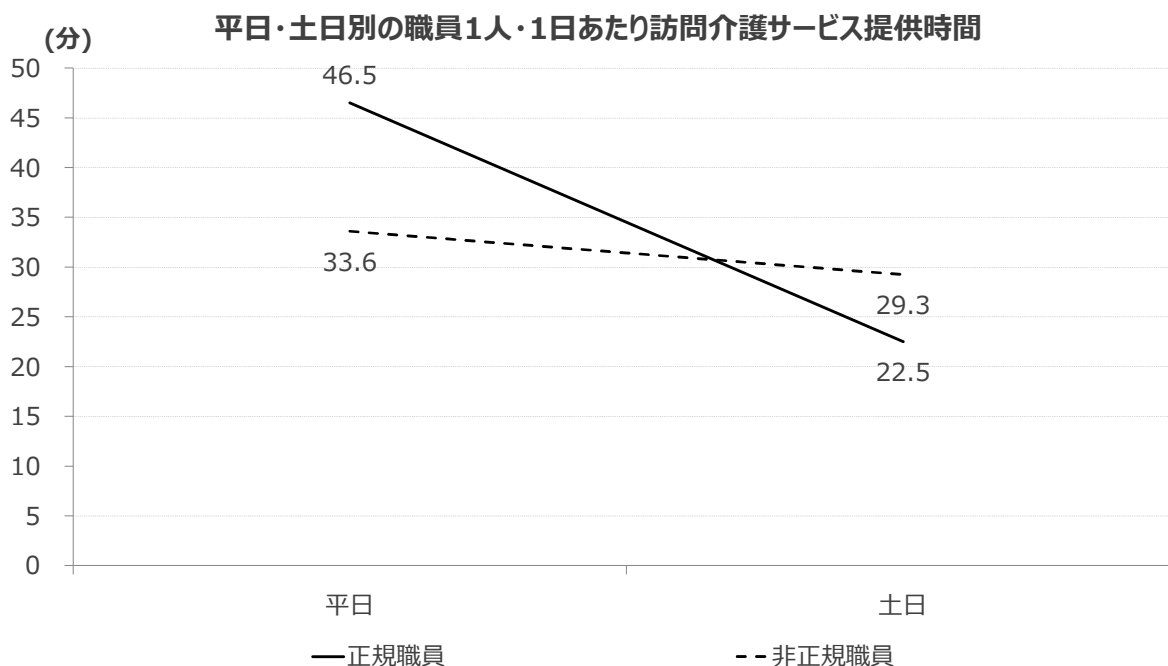
通所系では合計34.4時間、正規職員が38.4時間、非正規職員が27.6時間となっています。

施設・居住系では合計で35.1時間、正規職員で38.2時間、非正規職員で31.5時間となっており、合計での勤務時間及び非正規職員の勤務時間が系統の中で最も長くなっています。



2) 平日・土日別の職員1人・1日あたりの訪問介護サービス提供時間

平日の職員1人・1日あたりの訪問介護サービス提供時間は、正規職員で46.5時間、非正規職員で33.6時間となっています。土日の職員1人・1日あたりの訪問介護サービス提供時間は、非正規職員が29.3時間、正規職員が22.5時間となり、平日の勤務時間は正規職員が長く、逆に土日では非正規職員の勤務時間が長くなっています。



3) 介護職員数の変化

介護職員数を昨年比でみると、正規職員では離職数よりも採用者数が上回ることによって、全てのサービス系統で100%を超えています。非正規職員の場合、訪問系で離職者数が上回っており、昨年比で88.4%となっており、人材確保の厳しさが伺えます。

介護職員数の変化

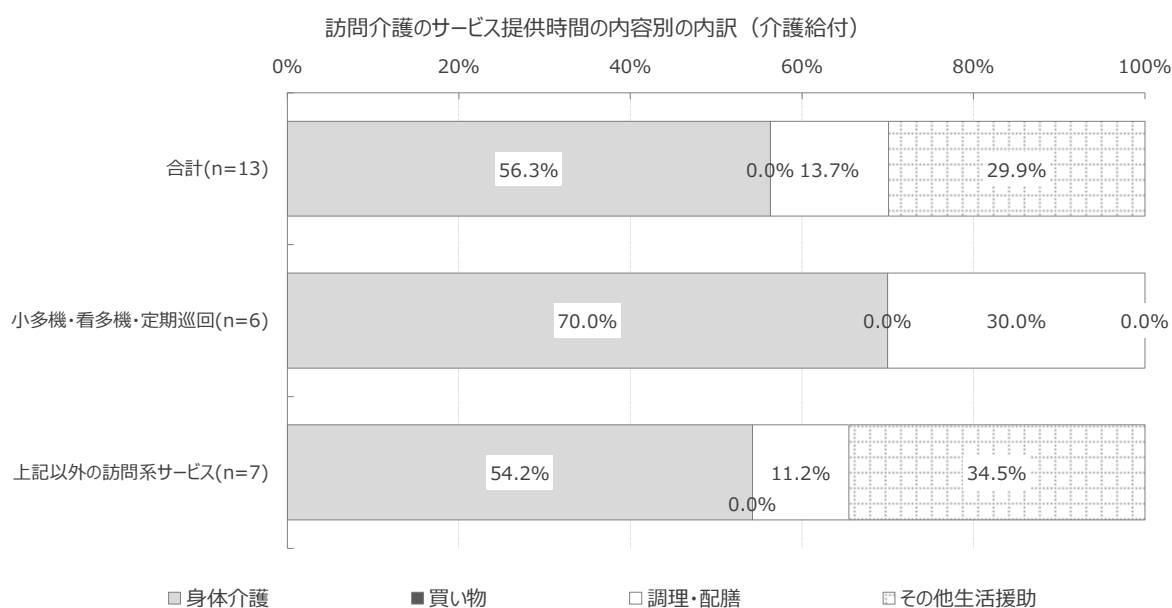
サービス系統 (該当事業所数)	職員総数			採用者数			離職者数			昨年比		
	正規職員	非正規職員	小計	正規職員	非正規職員	小計	正規職員	非正規職員	小計	正規職員	非正規職員	小計
全サービス系統(n=45)	293人	217人	510人	65人	52人	117人	53人	40人	94人	104.3%	105.9%	104.7%
訪問系(n=4)	23人	38人	61人	1人	2人	3人	0人	7人	7人	104.5%	88.4%	93.8%
通所系(n=22)	110人	58人	168人	37人	17人	54人	29人	14人	43人	107.8%	105.5%	107.0%
施設・居住系(n=19)	160人	121人	281人	27人	33人	60人	24人	19人	44人	101.9%	113.1%	106.0%

前の職場が介護事業所である職員の前の職場の場所	現在の職場							
	全サービス系統		訪問系		通所系		施設・居住系	
合計	56人	100.0%	0人	0.0%	33人	100.0%	23人	100.0%
同一市区町村	28人	50.0%	0人	0.0%	20人	60.6%	8人	34.8%
他の市区町村	29人	51.8%	0人	0.0%	14人	42.4%	15人	65.2%

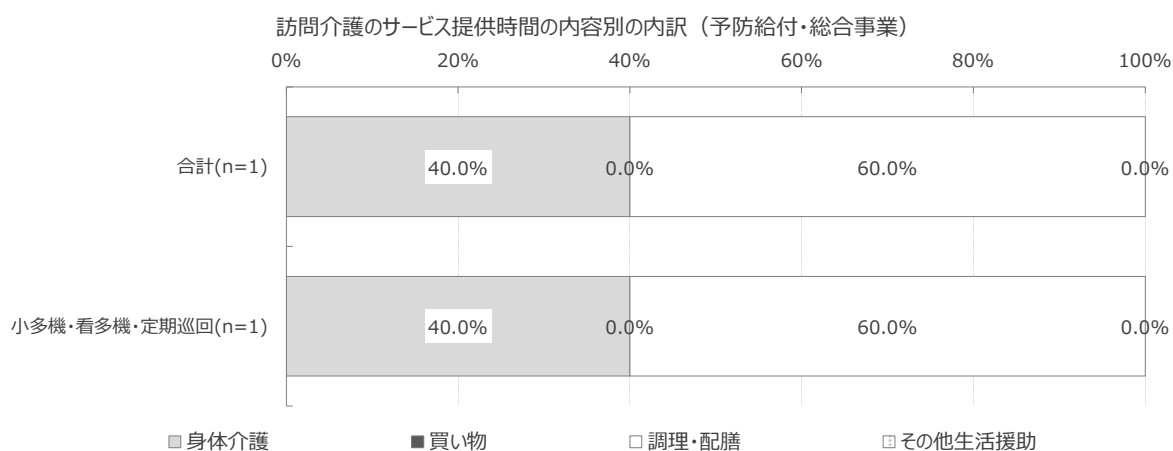
4) 訪問介護のサービス提供時間の内訳

訪問介護（介護給付）のサービスの内容別内訳は、訪問系サービス合計で「身体介護」が最も高く 56.3%、次いで「その他生活援助」の 29.9%、「調理・配膳」の 13.7%となっています。

小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護・定期巡回・随時対応型訪問介護看護では、「身体介護」が 70.0%、「調理・配膳」の 30.0%となっています。それ以外の訪問系サービスでは、「身体介護」が 54.2%、「その他生活援助」の 34.5%、「調理・配膳」の 11.2%となっています。

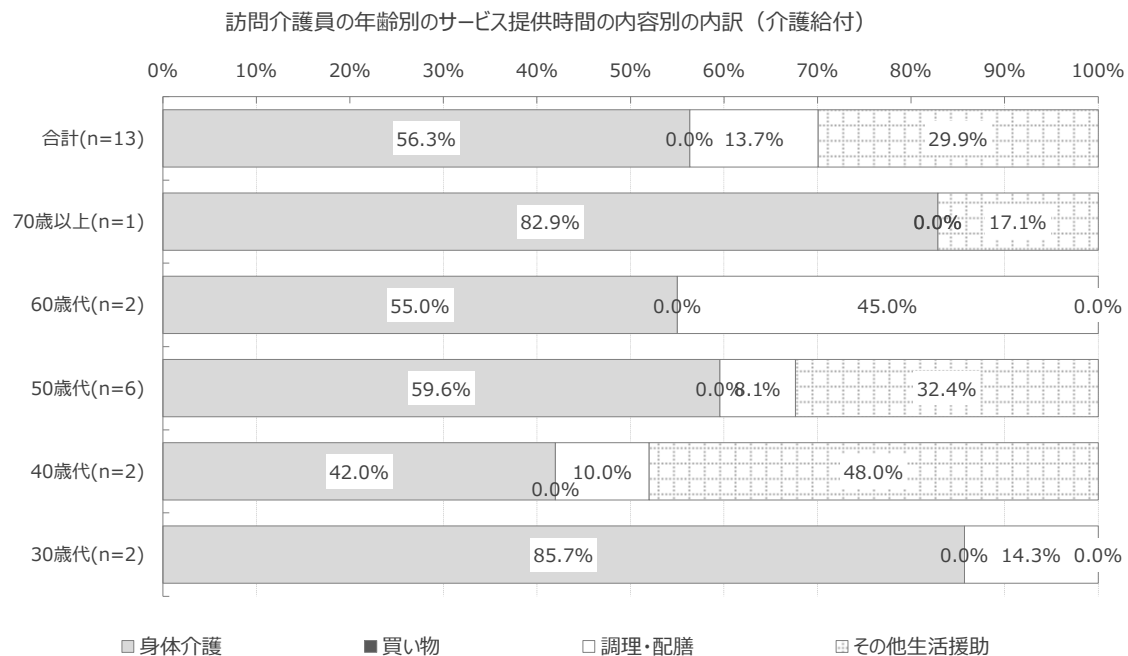


【参考】

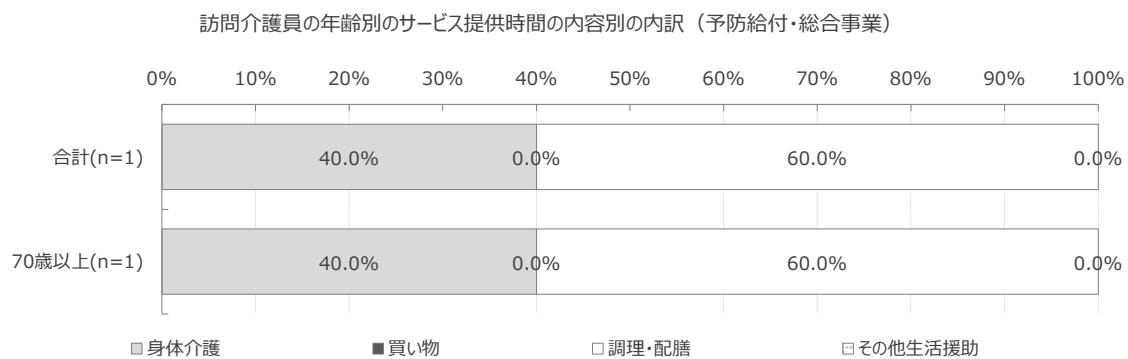


5) 訪問介護の年齢別サービス提供時間の内訳

訪問介護員（介護給付）の年齢別サービス提供時間の内訳は、「身体介護」では30歳代が最も高く85.7%、「調理・配膳」では60歳代が最も高く45.0%、「その他生活援助」では40歳代が最も高く48.0%となっています。

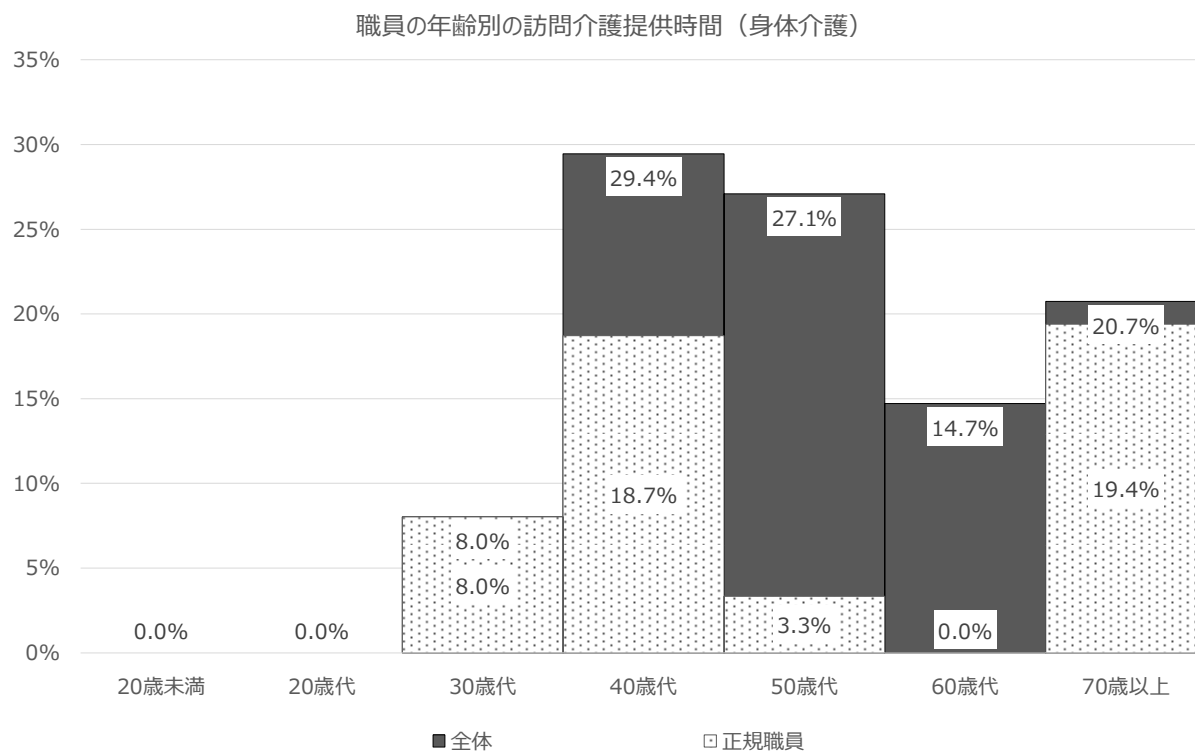


【参考】



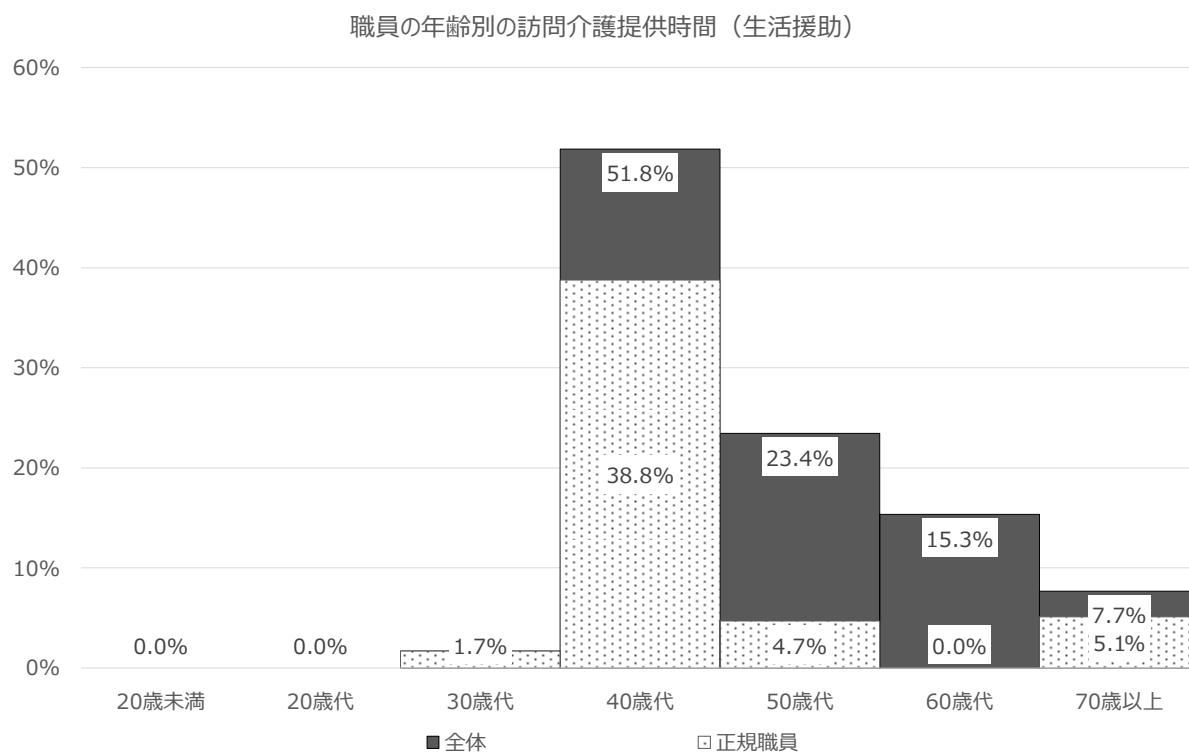
6) 職員の年齢別訪問介護提供時間（身体介護）

職員の年齢別訪問介護提供時間（身体介護）は、40歳代が最も高く29.4%、次いで50歳代の27.1%、70歳以上の20.7%、60歳代の14.7%、30歳代の8.0%となっています。そのうち正規職員の割合をみると、30歳代は全てが正規職員となっています。70歳以上（19.4%）と40歳代（18.7%）で正規職員の占める割合が高くなっています。



7) 職員の年齢別訪問介護提供時間（生活援助）

職員の年齢別訪問介護提供時間（生活援助）は、40歳代が最も高く51.8%、次いで50歳代の23.4%、60歳代の15.3%、70歳以上の7.7%、30歳代の1.7%となっています。そのうち正規職員の割合をみると、30歳代は全てが正規職員、逆に60歳代では全てが非正規職員となっています。40歳代（38.8%）と70歳以上（5.1%）で正規職員の占める割合が高くなっています。



介護人材実態調査 事業所票

※令和4年12月1日現在の状況について、ご回答ください。
※水色のセルに数字、施設等の名称を入力してください。

問1 該当するサービス種別を、ご回答ください。（**該当するサービスの番号を入力してください**）

【施設・居住系サービス】
1. 特別養護老人ホーム（地域密着型含む）
2. 介護老人保健施設
3. 療養型・介護医療院
4. ショートステイ
5. グループホーム
6. 特定施設（地域密着型含む）
7. 住宅型有料老人ホーム
8. サービス付き高齢者向け住宅
9. 経費老人ホーム
【通所系サービス】
10. 通所介護（地域密着型を含む）
11. 通所リハビリテーション
12. 認知症対応型通所介護
13. 通所型サービス（総合事業）

該当するサービス番号を選択

※グループホームの場合「5」を選択

問2 貴施設等（問1で入力したサービス種別の施設等）に所属する介護職員について、お伺いします。

※ここでの「介護職員」は、賃金の支払いを受けている方に限ります。（ボランティアの方は含みません。）

※また、「正規職員」とは、期限の定めのない雇用契約による職員、「非正規職員」とは期限の定めのある有期雇用契約による職員を指します。

問2-1 介護職員の総数を、ご記入ください。（数値を記入）

正規職員		非正規職員	
------	--	-------	--

問2-2 貴施設等の開設時期について、ご記入ください。（数値を記入）

開設時期	西暦	年	月
------	----	---	---

問2-3 令和4年12月1日時点で、開設から1年以上を経過している施設等にお伺いします。
過去1年間（令和3年12月1日～令和4年12月1日）の介護職員の採用者数と離職者数を記入ください。

採用者数		離職者数	
------	--	------	--

問2-4 問2-3の採用者・離職者について、正規・非正規の別・年齢別をご記入ください。（数値を入力）

年齢 (採用・離職当時)	採用者数	離職者数
	正規職員	非正規職員
20歳未満		
20～29歳		
30～39歳		
40～49歳		
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
年齢不明		
合計	0人	0人

問3 どのような人材の確保に苦慮していますか。（該当する人材の番号を青のセルに入力して下さい。）

※対象が複数いる場合は入力にカンマ（,）で区切って入力してください。

例：介護職、生活相談員、看護職の場合【1,3,4】と入力

①介護職	②ケアマネジャー	③生活相談員
④看護職	⑤機能訓練指導員	⑥その他（ ）

苦慮している人材		⑥その他の記述	
----------	--	---------	--

問4 離職が多い職種をお答えください。（該当する人材の番号を青のセルに入力して下さい。）

※対象が複数いる場合はセルにカンマ（,）で区切って入力してください。

例：介護職、生活相談員、看護職の場合【1,3,4】と入力

①介護職	②ケアマネジャー	③生活相談員
④看護職	⑤機能訓練指導員	⑥その他（ ）

苦慮している人材		⑥その他の記述	
----------	--	---------	--

問5 貴事業所で職員の離職防止や人材定着のためにしている対策をお書きください。

問6 職員の離職防止や人材定着に向け行政に求める支援はありますか。ご自由にお書きください。

問7 事業所の定員内であるものの人材不足で利用を断ったケースはありますか。（1か2を選択）

①ある	②ない
-----	-----

問8 物価の高騰による影響で一番大きかった負担はですか。自由にお書きください。

問9 第9期以降（令和6年～）に、名護市で新規に実施予定又は検討中の事業がありますか。実施予定又は検討中である場合は
予定時期と予定場所をご記入下さい。

名称	実施希望	開設予定（希望）時期		開設予定（希望）地区
		年	月	
地域密着型通所介護	①実施予定 ②検討中	令和		①名護地区、②豊原地区 ③羽地・豊茂地区、④久志地区
小規模特別養護老人ホーム（29人以下）	①実施予定 ②検討中	令和		①名護地区、②豊原地区 ③羽地・豊茂地区、④久志地区
認知症対応型共同生活介護	①実施予定 ②検討中	令和		①名護地区、②豊原地区 ③羽地・豊茂地区、④久志地区
認知症対応型通所介護	①実施予定 ②検討中	令和		①名護地区、②豊原地区 ③羽地・豊茂地区、④久志地区
小規模多機能型居宅介護	①実施予定 ②検討中	令和		①名護地区、②豊原地区 ③羽地・豊茂地区、④久志地区
看護小規模多機能型居宅介護	①実施予定 ②検討中	令和		①名護地区、②豊原地区 ③羽地・豊茂地区、④久志地区
夜間対応型訪問介護	①実施予定 ②検討中	令和		①名護地区、②豊原地区 ③羽地・豊茂地区、④久志地区
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	①実施予定 ②検討中	令和		①名護地区、②豊原地区 ③羽地・豊茂地区、④久志地区

問10 【問9で、「新規実施予定」「新規検討中」と回答した事業所にお伺いします。】地域密着型サービスの新規実施予定がない、
若しくは新規検討をしていない理由についてお聞きます。

※理由が複数の場合は入力に、セルにカンマ（,）で区切って入力してください。

例：①、⑤、⑦の場合【1,5,7】と入力

①事業自体に収益が見込めないから ②新たに施設を建築する土地がないから ③（土地があっても）地代が高いから ④実施したいサービスが公募されていないから ⑤実施したいサービスはあるが、公募している圏域にはないから ⑥建築費が高騰しているから ⑦人材不足が懸念されるから ⑧その他（ ）
--

苦慮している人材		⑧その他の記述	
----------	--	---------	--

問11 【問1で、「⑦住宅型有料老人ホーム」と回答した事業所にお伺いします。】特定施設への転換希望はありますか。
（1、2、3いずれかを選択）

①ある	②ない	③どちらともいえない
-----	-----	------------

問12 【問11で、「②ない」と回答した事業所にお伺いします。】特定施設への転換希望がない理由をお聞かせください。

問13 貴施設等に所属している介護職員**全員**（非常勤含む。ボランティアの方を

回答方法	※ 番号1つ記載			
設問	(1) 資格の取得、研修の修了の状況	(2) 雇用形態	(3) 性別	(4) 年齢
選択肢	1. 介護福祉士（認定介護福祉士含む） 2. 介護職員実務者研修修了 または(旧)介護職員基礎研修修了 または(旧)ヘルパー1級 3. 介護職員初任者研修修了、 または(旧)ヘルパー2級 4. 上記のいずれも該当しない	1. 正規職員（※期限の定めのない契約） 2. 非正規職員（※期限の定めのある契約）	1. 男性 2. 女性	1. 20歳未満 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70代以上 8. 不明
記入例	1	1	1	3
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
31				
32				
33				
34				
35				
36				
37				

38				
39				
40				
41				
42				
43				
44				
45				
46				
47				
48				
49				
50				

除く) について、お答えください。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

介護人材実態調査（訪問系） 事業所票

※令和4年12月1日現在の状況について、ご回答ください。
※水色のセルに数字等を入力してください。

問1 該当するサービス種別（介護予防を含む）を入力してください。
※ 本調査票の送付先（郵便の宛名となっている事業所）で行うサービスについて、ご回答ください。（1つに○）

1. 訪問系サービス（訪問介護、訪問入浴、夜間対応型訪問介護、訪問型サービス（総合事業））
2. 小規模多機能型居宅介護
3. 看護小規模多機能型居宅介護
4. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

該当するサービス番号を選択

※小規模多機能型居宅介護の場合「2」を選択

問2 貴事業所（問1で○をつけたサービス種別の事業所）に所属する介護職員について、お伺いします。
※ここでの「介護職員」は、賃金の支払いを受けている方に限ります。（ボランティアの方は含みません。）
※また、「正規職員」とは、期限の定めのない雇用契約による職員、「非正規職員」とは期限の定めのある有期雇用契約による職員を指します。

問2-1 介護職員の総数を入力してください。（数値を記入）

正規職員		非正規職員	
------	--	-------	--

問2-2 貴施設等の開設時期について入力してください。（数値を記入）

開設時期	西暦	年	月
------	----	---	---

問2-3 令和4年12月1日時点で、開設から1年以上を経過している施設等にお伺いします。
過去1年間（令和3年12月1日～令和4年12月1日）の介護職員の採用者数と離職者数を入力してください。

採用者数		離職者数	
------	--	------	--

問2-4 問2-3の採用者・離職者について、正規・非正規の別・年齢別で入力ください。（数値を入力）

年齢 （採用、離職当時）	採用者数		離職者数	
	正規職員	非正規職員	正規職員	非正規職員
20歳未満				
20～29歳				
30～39歳				
40～49歳				
50～59歳				
60～69歳				
70～79歳				
年齢不明				
合計	0人	0人	0人	0人

問3 どのような人材の確保に苦慮していますか。（該当する人材の番号を青のセルに入力して下さい。）
※対象が複数いる場合の入力はセルにカンマ（,）で区切って入力してください。

例：介護職、生活相談員、看護職の場合 【 1,3,4 】 と入力

①介護職	②ケアマネジャー	③生活相談員
④看護職	⑤機能訓練指導員	⑥その他（ ）

苦慮している人材		⑥その他の記述	
----------	--	---------	--

問4 離職が多い職種をお答えください。（該当する人材の番号を青のセルに入力して下さい。）
※対象が複数いる場合の入力はセルにカンマ（,）で区切って入力してください。

例：介護職、生活相談員、看護職の場合 【 1,3,4 】 と入力

①介護職	②ケアマネジャー	③生活相談員
④看護職	⑤機能訓練指導員	⑥その他（ ）

苦慮している人材		⑥その他の記述	
----------	--	---------	--

問5 貴事業所で職員の離職防止や人材定着のためにに行っている対策をお書きください。

問6 職員の離職防止や人材定着に向け行政に求める支援はありますか。ご自由にお書きください。

問7 事業所の定員内であるものの人材不足で利用を断ったケースはありますか。（1か2を選択）

①ある	②ない
-----	-----

問8 物価の高騰による影響で一番大きかった負担は何ですか。自由にお書きください。

問9 第9期以降（令和6年～）に、名護市で新規に実施予定又は検討中の事業がありますか。実施予定又は検討中である場合は
予定時期と予定場所をご記入下さい。

名称	実施希望	開設予定（希望）時期			開設予定（希望）地区		
		令和	年	月			
地域密着型通所介護	①実施予定 ②検討中	令和			①名護地区、②屋部地区 ③羽地・屋我地地区 ④久志地区		
小規模特別養護老人ホーム（29人以下）	①実施予定 ②検討中	令和			①名護地区、②屋部地区 ③羽地・屋我地地区 ④久志地区		
認知症対応型共同生活介護	①実施予定 ②検討中	令和			①名護地区、②屋部地区 ③羽地・屋我地地区 ④久志地区		
認知症対応型通所介護	①実施予定 ②検討中	令和			①名護地区、②屋部地区 ③羽地・屋我地地区 ④久志地区		
小規模多機能型居宅介護	①実施予定 ②検討中	令和			①名護地区、②屋部地区 ③羽地・屋我地地区 ④久志地区		
看護小規模多機能型居宅介護	①実施予定 ②検討中	令和			①名護地区、②屋部地区 ③羽地・屋我地地区 ④久志地区		
夜間対応型訪問介護	①実施予定 ②検討中	令和			①名護地区、②屋部地区 ③羽地・屋我地地区 ④久志地区		
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	①実施予定 ②検討中	令和			①名護地区、②屋部地区 ③羽地・屋我地地区 ④久志地区		

介護人材実態調査（訪問系） 職員票

※この調査票は、訪問サービス・訪問介護を行う介護職員の方（非常勤含む。ボランティア除く）が対象です。
※令和4年12月1日現在の状況について、ご回答ください。
※水色のセルに数字等を入力してください。

問1 該当するサービス種別を、ご回答ください。（**該当するサービスの番号を入力してください**）

1. 訪問系サービス（訪問介護、訪問入浴、夜間対応型訪問介護、訪問型サービス（総合事業））
2. 小規模多機能型居宅介護
3. 看護小規模多機能型居宅介護
4. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

該当する番号を入力

※小規模多機能型居宅介護の場合「2」を入力

問2 あなたの資格の取得、研修の修了の状況について、ご回答ください（1つに○）。

1. 介護福祉士（認定介護福祉士含む）
2. 介護職員実務者研修修了、または(旧)介護職員基礎研修修了、または(旧)ヘルパー1級
3. 介護職員初任者研修修了、または(旧)ヘルパー2級
4. 「1.」～「3.」のいずれにも該当しない

該当する番号を入力

問3 あなたの雇用形態、性別、年齢、過去1週間の勤務時間等について、ご回答ください。

1) 雇用形態（1つに○）	1. 正規職員（※期限の定めのない契約） 2. 非正規職員（※期限の定めのある契約）	
2) 性別（1つに○）	1. 男性 2. 女性	
3) 年齢（数値を記入）	[] 歳	
4) 過去1週間の勤務時間（数値を入力） ※問1で回答した勤務先における時間	※残業時間を含む。休憩時間は除く。	1 時間
5) 現在の事業所での勤務年数（数値を記入）	1. 1年以上 ⇒ 裏面に回答 2. 1年未満 ⇒ 問4と裏面に回答	

問4 問3の5)で「2.」と回答された方に、お伺いします。現在の事業所に勤務する直前の職場について、以下にご回答ください（1つに○）。

1. 現在の職場が初めての勤務先⇒【裏面に回答】
2. 介護以外の職場 ⇒【裏面に回答】
3. 特養、老健、療養型・介護医療院、ショートステイ、グループホーム、特定施設
4. 訪問介護・入浴、夜間対応型
5. 小多機、看多機、定期巡回サービス
6. 通所介護、通所リハ、認知症デイ
7. 住宅型有料、サ高住（特定施設以外）
8. その他の介護サービス
⇒【「3.」～「8.」の場合は問5へ】

該当する番号を入力

問5 問4で「3.」～「8.」と回答された方に、お伺いします。ご回答いただいた直前の職場について、以下にご回答ください。

1) 場所（1つに○）	1. 現在の事業所と、同一の市区町村内 2. 現在の事業所と、別の市区町村内	
2) 法人（1つに○）	1. 現在の事業所と、同一の法人・グループ 2. 現在の事業所と、別の法人・グループ	

問6 訪問介護員向けの質問

この問いは、「訪問介護」、「訪問入浴」、「夜間対応型訪問介護」、「訪問がサービス（総合事業）」、「定期巡回サービス」、「小規模多機能型居宅介護」、「看護小規模多機能型居宅介護」に従事されている方にお聞きします。

※問3「4」過去1週間の勤務時間で回答した7日間の勤務時間について、身体介護・生活援助を提供した時間（分）を入力してください。

（例：水曜日を開始日とする場合、水曜日（開始日）から次週の火曜日までの7日間の情報を入力してください。
※移動時間、待機時間は含みません。「買い物」は、店舗での買い物に要する標準的な時間及び利用者の居宅における訪問介護に要する標準的な時間の合算となります（移動時間は含みません）。
※障がい者サービスの提供は除いてください。
※介護給付による提供、介護予防給付・総合事業による提供は分けて記入してください。
※記入する時間は「15分単位」とします。（例：32分 ⇒ 30分と記入）

問3「4」過去1週間の勤務時間で回答した7日間の勤務時間（A）

1 時間

問6-1 介護給付による訪問について

曜日	身体介護※	生活援助			総合計
		買い物 (移動時間を含まない)	調理・配膳	その他生活援助	
記入例	30 分	20 分	45 分	20 分	
月					
火					
水					
木					
金					
土					
日					
週合計(分)	0 分	0 分	0 分	0 分	0 分
週合計(時間)	0 時間	0 時間	0 時間	0 時間	0 時間

週合計(時間)が上記(A)より小さくように入力してください。

問6-2 介護予防給付・総合事業による訪問について

曜日	身体介護※	生活援助			総合計
		買い物 (移動時間を含まない)	調理・配膳	その他生活援助	
記入例	30 分	20 分	45 分	20 分	
月					
火					
水					
木					
金					
土					
日					
週合計(分)	0 分	0 分	0 分	0 分	0 分
週合計(時間)	0 時間	0 時間	0 時間	0 時間	0 時間

週合計(時間)が上記(A)より小さくように入力してください。

※自立生活支援・重度化防止のための見守りの援助（自立支援、ADL・IADL・QOL工場の観点から安全を確保しつつ常時解除できる状態で行う見守り等）は、身体介護に含む